

し じっ こく
四十石遺跡 第2次調査

— (仮称) 新赤塚埋立処分地整備工事に伴う四十石遺跡第2次発掘調査報告書 —



2012

新潟市教育委員会

例　　言

- 1 本書は新潟県新潟市西区東山字四十石 123 番地 1 他に所在する四十石遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、(仮称)新赤塚埋立処分地整備工事に伴い、新潟市教育委員会(補助執行:新潟市文化スポーツ部歴史文化課埋蔵文化財センター)が新潟市長(担当:施設物施設課)から依頼を受けて行った。
- 3 発掘調査は、平成 21 年 2 月 16 日から 12 月 14 日までの 2か年度にわたり継続して実施したが、平成 20 年度は主に調査のための準備工事および工事立会を行い、平成 21 年度に発掘調査の本格的な作業を行った。発掘調査面積は、5540.1m²である。
- 4 平成 21・22 年度に整理作業、平成 23 年度に報告書刊行を行った。
- 5 発掘調査と整理作業の体制は第Ⅲ章に記した。
- 6 調査記録及び出土遺物、整理作業に係る記録類は、一括して新潟市文化財センターが保管・管理している。
- 7 本書の執筆は、第 1～V 章及び第Ⅷ章第 1・2・4 節を渡邊ますみ(新潟市歴史文化課主査)が、第Ⅷ章第 3 節を奈良貴史(日本歴史大学准教授)が執筆した。第VI章の自然科学分析については株式会社火山灰考古学研究所から提出された業務成果を編集して掲載している。また、第V 章の金属製品(腰帶金具・刀子金具)の理化学分析は、財團法人元興寺文化財研究所が保存処理に伴って行ったものであり、提出された結果報告書の一部である。本書の編集は、渡邊ますみが行った。
- 8 本書で用いた写真は、遺跡写真は渡邊・相田泰臣(市埋蔵文化財センター副主査)・池田ひろ子(同専門臨時職員)が、遺物写真は佐藤俊英(ビッグヘッド)が撮影した。ただし写真図版 1 は国土地理院が、写真図版 2 は株式会社オリスが撮影したものを使用した。
- 9 各種図版作成・編集に際しては、株式会社セビアス、有限会社不二出版に委託してデジタルトレースと DTP ソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 10 調査から本書の作成に至るまで下記の方々・機関よりご指導・ご協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げる。
　穴澤義功・甘粕 健・石川日出志・小笠原好彦・岡本郁栄・春日真実・河合英夫・小林誠雄・小林昌二・坂井秀弥・
　笠澤正史・闇 雅之・滝沢規朗・田嶋明人・田中耕作・田村浩司・林 大智・細野高的・松島悦子・三ツ井朋子・
　南 恵一・水澤幸一・吉村武彦・渡邊美穂子・新潟県教育庁文化行政課・財團法人石川県埋蔵文化財センター・
　財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団・奈良県立橿原考古学研究所付属博物館(所属・敬称略。五十音順)

凡　　例

- 1 本書は本文・別表と巻末図版（図面図版・写真図版）からなる。
- 2 本書で示す方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約7度である。
- 3 掲載図面のうち、既存の地形図等を使用したものについては、原図の作成者・作成年を示した。
- 4 引用文献は著者と発行年(西暦)を〔 〕中に示し巻末に一括して掲載したが、第VI章・第VII章第3節に伴うものについては、分けて明記した。
- 5 本文の事実記載（第IV・V章）や図面・写真掲載（図版）において造構あるいは造構に関わるものについては、上層・下層を分け、上層→下層を基本とした。
- 6 造構番号は現場で付したものを使いたい。番号は種別関係なく通し番号とした。但し、ピットで構成される掘立柱建物・樋列については新たに番号を付し、掘立柱建物はSB2001～SB2009、樋列はSA3001とした。
- 7 造構実測図中のトーンについて、凡例のないものについては、以下のとおりである。

燒土痕跡	■
8 土器実測図で全周の1/9以下のような遺存率の低いものについては、誤差があるため中軸線の両側に空白を設けた。	
土器実測図の断面は、須恵器を黒塗り、須恵器以外を白抜きとした。トーンについては以下のとおりである。	
- 土　器…… 黒色処理 ■ 赤彩 ■ 墨痕 ■ 炭化物・スス ■
- 石　製　品…… 使用部分 ■
- 金属製品…… 膜状物質（金成分が含まれる） ■ 付着物 ■
- 木　製　品…… 黒漆 ■ 赤漆 ■
- 9 土層観察及び土器観察の色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局 1967）を用い、その記号を本書に掲載した。
- 10 遺物の注記は、四十石遺跡の略記号「四十石」とし、出土地点を統けて記した。出土地点計測をした遺物については、取り上げNo.と小グリッドを併記した。
- 11 遺物番号は種別関係なく通し番号とし、本文および観察表・写真図版の番号は同一番号とした。
- 12 造構計測表及び遺物観察表は、本文の最後に別表として掲載し、その凡例については各表の巻頭に示した。

目 次

第Ⅰ章 序 章

第1節 遺跡概観	1
第2節 発掘調査に至る経緯	1

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境	2
第2節 周辺の遺跡	3
第3節 歴史的環境	4

第Ⅲ章 調査の概要

第1節 試掘調査	10
A 調査方法と経過	10
B 調査体制	10
第2節 本発掘調査	10
A 調査方法	10
B 調査経過	12
C 調査体制	13
第3節 整理作業	13
A 作業方法	13
B 作業経過	14
C 作業体制	14

第Ⅳ章 遺 跡

第1節 概 要	15
第2節 層 序	15
第3節 遺 構	16
A 上層遺構（奈良・平安時代の遺構）	16
B 下層遺構（純文・弥生・古墳時代の遺構）	30

第Ⅴ章 遺 物

第1節 土 器	35
A 概 要	35
B 記 述	36
C 分 類	36
D 出土土器等各説	44
第2節 土 製 品	59
第3節 石 器	59

第4節 石 製 品	59
第5節 金 屬 製 品	60
A 腰 带 金 具	60
B 刀 子 金 具	62
第6節 鍛 治 関 連 遺 物	62
第7節 木 製 品	62
第VI章 自然科学分析	
第1節 土 層 と テ フ ラ	64
A は じ め に	64
B 微 高 地 A 地 点 の 土 層 層 序	64
C テ フ ラ 検 出 分 析	64
D 層 折 率 測 定	65
E 考 察	65
F ま と め	65
第2節 植 物 硅 酸 体 分 析	66
A は じ め に	66
B 試 料	66
C 分 析 方 法	66
D 分 析 結 果	66
第3節 プ ラ ン ト ・ オ パ ル 分 析	69
A は じ め に	69
B 試 料	69
C 分 析 方 法	69
D 分 析 結 果	69
E 考 察	70
F ま と め	71
第4節 花 粉 分 析	71
A は じ め に	71
B 試 料	71
C 分 析 方 法	71
D 分 析 結 果	71
第5節 珪 藻 分 析	76
A は じ め に	76
B 試 料	76
C 分 析 方 法	76
D 分 析 結 果	76
第6節 種 実 同 定	80
A は じ め に	80
B 試 料	80
C 分 析 方 法	80
D 分 析 結 果	80

第7節 放射性炭素年代測定	83
A 測定試料と測定方法	83
B 測定値の見かた	83
C 測定結果	83
第VII章 総 括	
第1節 遺 構	86
A 奈良・平安時代の掘立柱建物について	86
B 奈良・平安時代の埋葬関連遺構について	89
第2節 遺 物	90
A 古墳時代の土器について	90
B 奈良・平安時代の土器について	91
C 古代の帶金具について	95
第3節 四十石遺跡の出土骨片の人類学的検討	102
A はじめに	102
B 肉眼観察	104
C 骨組織形態学的検討	106
D 考 察	108
E ま と め	110
第4節 遺跡の変遷と位置付け	110
A 繩文・弥生・古墳時代	110
B 奈良・平安時代	111
引用・参考文献	116
別 表	120
報告書抄録・奥付	卷末

挿図目次

第1図 四十石遺跡周辺の地形	2	第11図 奈良・平安時代の須恵器器種・胎土分類	37
第2図 四十石遺跡周辺の遺跡分布図1 （旧石器・縄文・弥生時代）	5	第12図 奈良・平安時代の土師器・黒色土器器種分類	38
第3図 四十石遺跡周辺の遺跡分布図2（古墳時代）	6	第13図 古墳時代の土師器器種分類（1）	41
第4図 四十石遺跡周辺の遺跡分布図3 （飛鳥・奈良・平安時代）	7	第14図 古墳時代の土師器器種分類（2）	42
第5図 四十石遺跡周辺の遺跡分布図4 （鎌倉・南北朝・室町時代・時代不明）	8	第15図 鍛冶関連遺物出土状況	63
第6図 試掘調査の成果と本発掘調査範囲	11	第16図 微高地A地点の土層柱状図	65
第7図 SI307 遺物出土状況	17	第17図 植物珪酸体分析結果	68
第8図 SX71 遺物出土状況	27	第18図 植物珪酸体の顕微鏡写真	68
第9図 SX100 遺物出土状況	28	第19図 プラント・オバール分析結果	70
第10図 SX97 遺物出土状況	34	第20図 プラント・オバールの顕微鏡写真	70
		第21図 花粉ダイアグラム① (SD984, SD868)	72
		第22図 花粉ダイアグラム② (微高地A地点)	73
		第23図 花粉ダイアグラム③ (SK923)	73

第 24 図 花粉ダイアグラム④(P309、低地部 B 地点)	73
第 25 図 花粉・胞子の顕微鏡写真①(微高地 A 地点)	74
第 26 図 花粉・胞子の顕微鏡写真② (低地部 B 地点 造構)	74
第 27 図 珪藻の顕微鏡写真①(微高地 A 地点)	77
第 28 図 珪藻の顕微鏡写真②(低地部 B 地点)	78
第 29 図 主要珪藻ダイアグラム①(微高地 A 地点)	79
第 30 図 主要珪藻ダイアグラム②(低地部 B 地点)	79
第 31 図 種実の顕微鏡写真	81
第 32 図 穫穴住居 (SI246・SI307)	84
第 33 図 挖立柱建物 (SB2005・SB2006)	85
第 34 図 埋葬関係造構 (SX71・SK159)	85
第 35 図 2 間×2 間続柱建物 (四十石道跡・篠山前遺跡)	87
第 36 図 四十石道跡出土の刻書き土器	93
第 37 図 四十石道跡出土の墨書き土器	94
第 38 図 腰帶金具出土の遺跡	97
第 39 図 県内出土の腰帶具 (金属製品 1)	98
第 40 図 県内出土の腰帶具 (金属製品 2)	99
第 41 図 県内出土の腰帶具 (石製品)	100
第 42 図 腰帶金具タイプ別出土状況	103
第 43 図 四十石道跡出土焼骨片写真①	105
第 44 図 四十石道跡出土焼骨片写真②	105
第 45 図 出土骨試料 No.3701 および比較標本における H-On 示数平均値の分布範囲	107
第 46 図 試料骨片および比較標本の骨組織像 (写真)	108
第 47 図 比較標本の骨組織像 (写真)	108
第 48 図 下層における主要溝状造構検出状況	112
第 49 図 古代集落の変遷	113
第 50 図 周辺の遺跡	115

表 目 次

第 1 表 周辺の遺跡	9
第 2 表 古代土器編年対照表	35
第 3 表 古墳時代土器編年対照表	35
第 4 表 須恵器無台杯体部斜度	36
第 5 表 須恵器有台杯径高指数	39
第 6 表 土師器碗徑高指数	39
第 7 表 テフラ検出分析結果	65
第 8 表 屈折測定結果	65
第 9 表 植物且穀体分析結果	68
第 10 表 プラント・オーバー分析結果	70
第 11 表 花粉分析結果	72
第 12 表 珪藻分析結果①(微高地 A 地点)	77
第 13 表 珪藻分析結果②(低地部 B 地点)	77
第 14 表 種実同定結果	81
第 15 表 穫穴住居 (SI246・SI307) 放射性炭素年代測定 の試料と方法	83
第 16 表 穫穴住居 (SI246・SI307) 放射性炭素年代測定 結果	83
第 17 表 挖立柱建物 (SB2005・SB2006) 放射性炭素年代 測定の試料と方法	84
第 18 表 挖立柱建物 (SB2005・SB2006) 放射性炭素年代 測定結果	84
第 19 表 埋葬関係造構 (SX71・SK159) 放射性炭素年代 測定の試料と方法	85
第 20 表 埋葬関係造構 (SX71・SK159) 放射性炭素年代 測定結果	85
第 21 表 県内の 2 間×2 間続柱建物	86
第 22 表 篠山前遺跡 SB2・SB3 出土の土器	86
第 23 表 主要造構の器種 (分類) 構成	91
第 24 表 県内出土の腰帶具 (1)	101
第 25 表 県内出土の腰帶具 (2)	102
第 26 表 四十石道跡出土骨試料の骨組織形態計測値	107
第 27 表 比較動物四肢骨標本における骨組織形態計測 平均値の範囲	107
第 28 表 周辺遺跡の様相	114

別 表 目 次

別表 1 造構一覧表	120
別表 2 土器觀察表	131
別表 3 土製品・石器・石製品・金属製品・鍛冶関連 造物觀察表	145
別表 4 木製品觀察表	146

図版目次

- 図版 1 周辺の旧地形図 (1/50,000)
図版 2 明治 44 (1911) 年の市域の地形
図版 3 四十石道跡と周辺の道路 (1/10,000)
図版 4 グリッド設定図 (1/2,500)
図版 5 造構全体図 上層
図版 6 造構全体図 下層
図版 7 小グリッド別古代須恵器 土師器出土重量分布図
図版 8 小グリッド別古墳土師器 縄文・弥生土器出土重量分布図
図版 9 基本刷序
図版 10 上層造構平面割付図 (1/700)
図版 11 上層造構配置図 1
図版 12 上層造構配置図 2
図版 13 上層造構配置図 3
図版 14 上層造構配置図 4
図版 15 上層造構配置図 5
図版 16 上層造構個別図 1 (1/40)
図版 17 上層造構個別図 2 (1/40)
図版 18 上層造構個別図 3 (1/40・1/80)
図版 19 上層造構個別図 4 (1/40・1/80)
図版 20 上層造構個別図 5 (1/40・1/80)
図版 21 上層造構個別図 6 (1/40・1/80)
図版 22 上層造構個別図 7 (1/40・1/80)
図版 23 上層造構個別図 8 (1/40・1/80)
図版 24 上層造構個別図 9 (1/40・1/80)
図版 25 上層造構個別図 10 (1/40・1/80)
図版 26 上層造構個別図 11 (1/40)
図版 27 上層造構個別図 12 (1/40)
図版 28 上層造構個別図 13 (1/40)
図版 29 上層造構個別図 14 (1/40)
図版 30 上層造構個別図 15 (1/40・1/80)
図版 31 上層造構個別図 16 (1/40)
図版 32 上層造構個別図 17 (1/40)
図版 33 下層造構平面割付図 (1/700)
図版 34 下層造構配置図 1
図版 35 下層造構配置図 2
図版 36 下層造構個別図 1 (1/40)
図版 37 下層造構配置図 3
図版 38 下層造構個別図 2 (1/40)
図版 39 下層造構配置図 4
図版 40 下層造構個別図 3 (1/40)
図版 41 下層造構個別図 4 (1/40)
図版 42 下層造構配置図 5
図版 43 下層造構個別図 5 (1/40)
図版 44 遺物実測図 1 上層造構出土土器 (SI246・
SI307・SB2001・SB2003・SB2004)
図版 45 遺物実測図 2 上層造構出土土器 (SB2004・
SB2005・SB2006・SB2009・SK183・SK185)
図版 46 遺物実測図 3 上層造構出土土器 (SK243・
SK650・SK825・SK923・SX71)
図版 47 遺物実測図 4 上層造構出土土器 (SX71・
SX100・SX573・SX605・SX867)
図版 48 遺物実測図 5 上層造構出土土器 (SX867・
P21・P104・P153・P200・P332・P402・
P440・P725・P908)
図版 49 遺物実測図 6 下層造構出土土器 (SK20・
SK689・SK936)
図版 50 遺物実測図 7 下層造構出土土器 (SK942・
SD108・SD109)
図版 51 遺物実測図 8 下層造構出土土器 (SD110・
SD111・SD868・SD925・SD984・SX97)
図版 52 遺物実測図 9 下層造構出土土器 (SX97・
SX870・SX946・P933・P1050) 包含層出土
土器 (奈良・平安時代 1)
図版 53 遺物実測図 10 包含層出土土器 (奈良・平安時代 2)
図版 54 遺物実測図 11 包含層出土土器 (奈良・平安時代 3)
図版 55 遺物実測図 12 包含層出土土器 (奈良・平安時代 4)
図版 56 遺物実測図 13 包含層出土土器 (奈良・平安時代 5)
図版 57 遺物実測図 14 包含層出土土器 (奈良・平安時代 6)
図版 58 遺物実測図 15 包含層出土土器 (奈良・平安時代 7)
図版 59 遺物実測図 16 包含層出土土器 (奈良・平安時代 8)
図版 60 遺物実測図 17 包含層出土土器 (古墳時代 1)
図版 61 遺物実測図 18 包含層出土土器 (古墳時代 2)
図版 62 遺物実測図 19 包含層出土土器 (古墳時代 3)
図版 63 遺物実測図 20 包含層出土土器 (古墳時代 4)
図版 64 遺物実測図 21 包含層出土土器 (古墳時代 5)
図版 65 遺物実測図 22 包含層出土土器 (古墳時代 6)
図版 66 遺物実測図 23 包含層出土土器 (古墳時代 7) 縄
文・弥生時代 1)
図版 67 遺物実測図 24 包含層出土土器 (縄文・弥生時代
2) 土製品 石器 1
図版 68 遺物実測図 25 石器 2 石製品 1
図版 69 遺物実測図 26 石製品 2 鍛冶関連遺物 木製品
図版 70 遺物実測図 27 金属製品

写真図版目次

写真図版 1	四十石遺跡周辺空中写真 1	米軍撮影1948年	SB2007-P583 土層断面	SB2007-P583 完 掘状況	
写真図版 2	四十石遺跡周辺空中写真 2	四十石遺跡周辺 空中写真 3	写真図版 17	SB2007-P651 土層断面	SB2007-P651 完掘状況
写真図版 3	調査区全景	上層削構造出状況		SB2007-P652 土層断面	
写真図版 4	SI246 完掘状況	SI307 完掘状況		SB2007-P652 完掘状況	SB2008-P95 上層
写真図版 5	SB2004・SB2005 完掘状況	SB2006 完掘 状況		SB2008-P95 土層断面	SB2008-P96 完掘状況
写真図版 6	SX71 完掘状況	SX71 出土遺物	写真図版 18	SB2009-P163 土層断面	SB2009-P163 完掘状況
写真図版 7	SB2001 完掘状況	下層削構空中写真		SB2009-P202 土層断面	
写真図版 8	下層削構完掘状況 1	下層削構完掘状況 2		SB2009-P202 完掘状況	SB2009-P232
写真図版 9	基本序層調査区南壁	基本序層 (A・B・C・D・ E・F・G)		土層断面	SB2009-P232 完掘状況
写真図版 10	SI246 プラン検出状況	SI246 完掘状況		SB2009-P323 土層断面	SB2009-P323 完 掘状況
	SI246 土層断面 (C'・D'')	SI246 カマ 下層削構面 (A'・B'')	写真図版 19	SB2009-P392 土層断面	SB2009-P392 完掘状況
	SI246-P499 完掘状況	SI246-P499 完掘状況		SB2009-P528 土層断面	SB2009-P528 完掘状況
写真図版 11	SI246-P548 土層断面	SI246-P548 完掘状 況		SK203 完掘状況	SK203 土層断面
	SI246-SK561 土層断面	SI246-SK561 完掘状況		SK336 土層断面	SK336 完掘状況
	SI307・SB2002・SB2003 完 掘状況	SI307 土層断面 (C'・D'')	写真図版 20	SK399 土層断面	SK399 完掘状況
	SI307-P828 土層断面			SK441 土層断面	SK441 完掘状況
写真図版 12	SI307 カマド A-A' 周辺遺物出土状況			SK481 土層断面	SK481 完掘状況
	SI307 カマド A-A' SB2001 完掘状況			SK564 土層断面	SK564 完掘状況
	SB2001-P43 土層断面	SB2001-P44 土層 断面	写真図版 21	SK596・SK597 土層断面	SK596・SK597 完掘状況
	SB2001-P46 土層断面	SB2001-P49 土層 断面		SK641 土層断面	SK641 完掘状況
写真図版 13	SB2001-P52 土層断面	SB2001-P53 土層 断面		SK650 土層断面	SK650 完掘状況
	SB2001-P54 土層断面	SB2001-P57 土層断面		SK815 土層断面	SK815 完掘状況
	SB2002-P146 土層断面	SB2002-P147 土層断面	写真図版 22	SK825 土層断面 (A-A'・B-B')	SK825 完 掘状況
写真図版 14	SB2002-P155 土層断面	SB2002-P245 土層断面		SK919 土層断面	SK919 土層断面
	SB2002-P301 土層断面	SB2002-P921 土層断面		SK912 完掘状況	SK923 土層断面
	SB2002-P529 土層断面	SB2002-P922 土層断面	写真図版 23	SK935 土層断面	SK935 完掘状況
	SB2003-P99 土層断面	SB2003-P113 土層 断面		SK947 土層断面	SK947 完掘状況
写真図版 15	SB2003-P119 土層断面	SB2003-P123 土層断面		SK948 土層断面	SK948 完掘状況
	SB2003-P128 完掘状況		写真図版 24	SK950 土層断面	SK950 完掘状況
	SB2003-P130 土層断面	SB2003-P310 土 層断面		SK1006 土層断面	SK1006 完掘状況
	SB2003-P524 土層断面	SB2004・ SB2005・SB2006 完掘状況		SK1023 土層断面	SK1023 完掘状況
	SB2006 完掘状況			SD61・SD62・SD63・SD70・SD106 完 掘状況	
写真図版 16	SB2004-P309 土層断面	SB2005-P834 土層断面		SD62 土層断面 (C-C')	SD63・P81 土層断面
	SB2005-P835 土層断面			(E-E')	SD70 土層断面 (A-A')
	SB2006-P833 土層断面	SB2007-P574 土層断面		SD64 土層断面	SD64 完 掘状況
	SB2007-P574 完掘状況			SD493 土層断面 (A-A')	SD493 土層断面 (B-B')
写真図版 26	SD493 完掘状況	SD1009 完掘状況			
	SD538 土層断面	SD538 完掘状況			
	SD539 土層断面	SD539 完掘状況			
	SD747 土層断面				

- 面 SD747 完掘状況
- 写真図版 27 SD962 土層断面 SD962 完掘状況
SA3001 完掘状況 SA3001-P388 完掘状況
SA3001-P516 土層断面 SA3001-P516 完
掘状況 SX59 土層断面 SX59 完掘状況
- 写真図版 28 SX71 完掘状況 SX71 土層断面 (A-A' ·
C-C' · D-D') SX71 · P643 土層断面 (B-B')
SX71 遺物出土状況
- 写真図版 29 SX100 土層断面 SX100 遺物出土状況
SX478 土層断面 SX478 完掘状況
SX541 · P560 土層断面 SX541 · P560 完
掘状況 SX573 土層断面 SX573 完掘状況
- 写真図版 30 SX605 土層断面 SX605 完掘状況 SX867
土層断面 SX867 完掘状況 SX926 土層断
面 SX926 完掘状況
- 写真図版 31 SX961 土層断面 SX961 完掘状況 SX71 ·
P643 土層断面 (B-B') P643 完掘状況
P826 土層断面 P826 完掘状況 P905 土層
断面 P905 完掘状況
- 写真図版 32 SK19 土層断面 SK19 完掘状況 SK20 土
層断面 SK20 完掘状況 SK689 土層断面
SK689 完掘状況 SK936 土層断面 SK936
完掘状況
- 写真図版 33 SK942 土層断面 SK942 完掘状況 SD 全
景完掘状況 SD109 土層断面 (A-A' · B-B')
- 写真図版 34 SD109 土層断面 (C-C' · D-D' · E-E' · F-F')
SD110 土層断面 (A-A' · B-B' · C-C' · D-D')
- 写真図版 35 SD110 土層断面 (E-E' · F-F') SD111 土層
断面 (B-B') SD111 完掘状況 SD868 土層
断面 (A-A') SD871 完掘状況 SD871 土
層断面 (A-A' · B-B')
- 写真図版 36 SD925 土層断面 (A-A' · B-B' · C-C' · D-D')
SD984 土層断面 (A-A' · B-B' · C-C' · D-D')
- 写真図版 37 SD984 土層断面 (E-E') SD1000 土層断
面 (A-A') SD1021 土層断面 (A-A' · B-B' ·
C-C' · D-D') SD1051 土層断面 SD1052
土層断面
- 写真図版 38 SX97 遺物出土状況 SX870 土層断面
SX870 完掘状況 SX953 · P977 土層断面
SX953 · P977 完掘状況 SX960 土層断面
SX960 完掘状況
- 写真図版 39 調査の経過 1 (2009.2.13) 調査経過 2
(2009.3.10) 調査経過 3 (2009.5.13)
調査経過 4 (2009.6.23) 調査経過 5
(2009.9.2) 調査経過 6 (2009.12.2) 調査
経過 7 (2009.12.8) 調査経過 8 (2010.2.16)
- 写真図版 40 土器 1 (上層遺構 - SI246 · SI307 ·
SB2001 · SB2003 · SB2004)
- 写真図版 41 土器 2 (上層遺構 - SB2005 · SB2006 ·
SB2009 · SK183 · SK185 · SK243)
- 写真図版 42 土器 3 (上層遺構 - SK650 · SK825 ·
SK923 · SX71 · SX100)
- 写真図版 43 土器 4 (上層遺構 - SX100 · SX573 ·
SX605 · SX867 · P21 · P104 · P126)
- 写真図版 44 土器 5 (上層遺構 - P153 · P200 · P332 ·
P402 · P440 · P725 · P908
下層遺構 - SK20 · SK689 · SK936)
- 写真図版 45 土器 6 (下層遺構 - SK936 · SK942 ·
SD108 · SD109 · SD110 · SD111 ·
SD868 · SD925)
- 写真図版 46 土器 7 (下層遺構 - SD984 · SX97 ·
SX870 · SX946 · P933 · P1050. 包含層 -
奈良 · 平安時代)
- 写真図版 47 土器 8 (包含層 - 奈良 · 平安時代)
- 写真図版 48 土器 9 (包含層 - 奈良 · 平安時代)
- 写真図版 49 土器 10 (包含層 - 奈良 · 平安時代)
- 写真図版 50 土器 11 (包含層 - 奈良 · 平安時代)
- 写真図版 51 土器 12 (包含層 - 奈良 · 平安時代)
- 写真図版 52 土器 13 (包含層 - 奈良 · 平安時代 古墳時代)
- 写真図版 53 土器 14 (包含層 - 古墳時代)
- 写真図版 54 土器 15 (包含層 - 古墳時代)
- 写真図版 55 土器 16 (包含層 - 古墳時代)
- 写真図版 56 土器 17 (包含層 - 古墳時代)
- 写真図版 57 土器 18 (包含層 - 古墳時代 弥生土器 繩文土
器)
- 写真図版 58 土製品 · 石器 · 石製品 1
- 写真図版 59 石製品 2 · 鍛冶関連遺物 · 木製品
- 写真図版 60 金属製品

第Ⅰ章 序 説

第1節 遺跡概観

四十石遺跡は新潟市西区東山字四十石 123 番地 1 ほかに所在する。このあたりは赤塚地区とよばれ、かつては砂丘地と水田を風景とした農村部であった。砂丘や河川沿いに細長く形成された集落は、標高 1m に満たない低湿な土地での土地利用の様子を示しており、古代以来変らない。平成になり、遺跡の南方、約 1.4km にある越後赤塚駅周辺で住宅開発が急速に進むと、市内中心部のベッドタウンとしての顔をもつようになるが、周辺の田園風景はそのままである。

遺跡は西側に存在する砂丘と東側を流れる西川に挟まれた平坦な水田地にあり、南西に角田山・弥彦山を望む。平成 19(2007) 年 11 月の試掘調査で発見され、広大な後背湿地に埋没した砂丘に立地することが確認された。同時に、これまで何人かの研究者によって指摘してきた未発見の砂丘の存在も証明されることになった〔ト部・高瀬 2002、岡本都 2007〕。そして平成 20・21 年度の本発掘調査により、縄文時代後期～中世（鎌倉時代）の遺跡であり、古墳時代と奈良・平安時代においては一定規模の集落が成立していたことが明らかになった。

第2節 発掘調査に至る経緯

今回の発掘調査の原因である新埋立処分地整備事業の計画が歴史文化課に知らされたのは、平成 16 年度における開発事業の照会においてであった。当時は事業内容が漠然としており着手時期も確定していないことから、遺跡の有無を確認する試掘調査が必要であるという共通認識をもとにとどまつたが、その後計画が具体化する中で廃棄物施設課と歴史文化課との間で協議を行い、同年 11 月 2 日付け新廃第 446 号で新潟市教育委員会教育長（以下、市教育長）あてに試掘調査の依頼書が提出された。

歴史文化課（市教育長）は、試掘調査の着手報告（平成 19 年 11 月 13 日付け新歴第 5205 号の 2）を新潟県教育委員会教育長（以下、県教育長）あてに提出し、同年 11 月 13 日～19 日の 5 日間試掘調査を行った（第 1 次調査）。その調査では古墳時代と古代の遺物が確認され、終了報告（県教育長あて、平成 19 年 11 月 30 日付け新歴第 5205 号の 3）・埋蔵文化財発見通知（県教育長あて、平成 19 年 11 月 30 日付け新歴第 5205 号の 5）・埋蔵文化財保管証（新潟西警察署長あて、平成 19 年 11 月 30 日付け新歴第 5205 号の 6）とともに、新遺跡の発見届（県教育長あて、平成 19 年 11 月 30 日付け新歴第 5205 号の 7）を提出した。新たに発見された遺跡は「四十石遺跡」と名づけられ、周知化された。

この調査結果を踏まえて、廃棄物施設課と歴史文化課の間で協議が行われた。遺跡は工事範囲の南隅に存在していたが、そこには貯留構造物が設置され地盤改良も行われることから、工事が遺跡にかかる約 5,800m² を対象として本発掘調査が実施されることになった。本体工事の工期に余裕がないため、協議では調査期間が問題になったが、調査は平成 21 年中の終了を目標とし、調査対象地以外は調査と並行して本体工事を行うことで合意した。

廃棄物施設課から本発掘調査依頼書（歴史文化課長あて、平成 20 年 7 月 28 日付け新廃施第 280 号）が提出されたが、基盤層が砂という中での鋼矢板打設や暗渠設置はその仕様に多くの課題があり、検討に時間を要した。準備工事発注の見通しがたった翌年 2 月、歴史文化課（市教育長）は、本発掘調査の着手報告（県教育長あて、平成 21 年 2 月 13 日付け新歴第 5113 号の 9）を行い、2 月 16 日から準備工事である鋼矢板打設を開始した。鋼矢板打設・暗渠設置は遺跡内の工事であり、一部遺物包含層を掘り抜くため、職員による立会い調査を行った。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

新潟市が所在する越後平野は、信濃川・阿賀野川などの河川が土砂を運んでつくり出した沖積平野であり、南西→北東方向に細長く広がっている。その面積は約2,030km²で、日本屈指の広さをもつ。東は越後丘陵、南は魚沼丘陵、西は弥彦山地・東頸城丘陵がひかえ、三方を丘陵・山脈が取り囲む。また、北側には新潟砂丘と呼ばれる砂丘列が何本も存在し、排水条件を極めて悪くしている。この平野にみられる地形は上流から扇状地・氾濫原・三角州・海岸低地であるが、市域は海岸低地がほとんどで、河川の洪水が原因でつくられる自然堤防が非常に多く発達している。市内を流れる信濃川や中之口川の流域では自然堤防の分布が連続してみられ、それらのあり方から信濃川が西から東へ徐々に移動した可能性が考えられている。これに対し、阿賀野川の下流域では、乱流・蛇行の痕跡を留める自然堤防が多くみられ、複雑に発達している様子が窺われる。これらの自然堤防は後背湿地を取り囲んで湖沼群を多く残し、渦が散在する広大な低湿地帯となった。

越後平野の海岸側に発達している新潟砂丘は、10列もの砂丘が海岸線にほぼ平行していることを特徴としており、沖積世（約1万年前以降）に形成された新砂丘からなっているという点で、日本海側でみられる他の砂丘とは構造を異にする。これらの砂丘は内陸側から順次形成されたことが指摘されており、大きく3群に分けられ、古いほうから新砂丘Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと呼ばれている。さらに細別されるが、阿賀野川・信濃川で分断される砂丘の細かい対比がされていないため、阿賀野川以北では数字、阿賀野川・信濃川間では地名の砂丘列名、信濃川以西ではアルファベットで記されることが多い。新砂丘Ⅰは最も内側に分布する砂丘列で、阿賀野川以北および阿



第1図 四十石遺跡周辺の地形『アーバンボタ No.17』1979 (p13) を一部改変

賀野川一信濃川間で 4 列（市域では 3 列）、信濃川以西で 6 列ある。新砂丘Ⅲは新砂丘Ⅰより海側にあり、4 列ある。海岸に近い砂丘は、新砂丘Ⅲの下に埋もれているものもある。新砂丘Ⅲは海岸に沿ってみられる規模の大きな砂丘で、現在の海岸砂丘にあたる。形成年代は、新砂丘Ⅰが約 6,000 年前以降、新砂丘Ⅱが約 4,000 年前以降、新砂丘Ⅲが約 1,700 年前以降といわれている。

四十石遺跡は越後平野のほぼ中央の海岸寄りに位置する。南西に角田山・弥彦山を望み、東には西川が流れる。西には規模の大きな新砂丘Ⅲと部分的に新砂丘Ⅲの下に埋もれた新砂丘Ⅱがあり、さらにその南側に新砂丘Ⅰが存在する。また、北東の低地部には、新砂丘Ⅰの残丘とも推定される緒立・的場や六地山の砂丘がある。このあたりは広大な低地帯となっており、近くには六字潟・早潟・乳潟などの潟があった。本遺跡は埋没砂丘に立地するが、遺跡のすぐ西側に小規模な帶状の砂丘も確認されており、ともに新砂丘Ⅰに属すると考えられる。

第2節 周辺の遺跡

四十石遺跡が存在する越後平野は約 12,000 年前以降に形成された平野であり、そこに旧石器時代の遺跡は存在しない。角田山南麓の台地にあるケカチ堂遺跡〔小野 1994a〕で旧石器時代末期の石器が出土したといわれているが、詳細は不明である。

縄文時代の草創期・早期の遺跡は角田山山麓の台地でわずかにみられるが、痕跡は石器を中心とした遺物のみである。御手洗山遺跡や福井遺跡〔小野 1994b〕などがある。前期になると海岸部への進出が本格化し、新砂丘Ⅰ-a（布目砂丘）に存在する布目遺跡〔小野・小熊 1987〕のような集落がみられる。しかし、集落の立地は台地が中心で、角田山山麓においては前期から後期にかけて、低い台地から高い台地へという変化がみられる。低位台地の豊原遺跡〔小野・前山 1988〕・重稻場遺跡〔前山 1994b〕や同標高の扇状地にある新谷遺跡〔前山 1994a〕、高位台地の大沢遺跡〔甘粕・古川 1981、小野 1982〕・上原遺跡〔上原 1971〕は、その代表的な集落遺跡である。そして、周辺の砂丘はキャンプ地や短期間の居住地として利用されるようになる。砂丘に存在する大蔵遺跡〔新潟市史編さん原始古代中世史部会 1994〕・北浦原 A 遺跡〔同〕では、石鏃などの狩猟具が一定量出土するがほとんどなく、その性格を表している。後期に入つて減少する遺跡数は晩期になるとさらに減少し、低地に立地する集落遺跡がみられる。木柱群や貯木場が検出された御井戸 A 遺跡〔前山 1994c〕や祭祀行為の痕跡が確認された緒立遺跡〔金子 1983〕などがある。

弥生時代の遺跡は市域でも少ないが、四十石遺跡近辺では、北東 8km に前期の緒立遺跡、同 3km に後期の六地山遺跡〔寺村 1960、中村 1960〕がある。どちらも砂丘に立地する遺跡である。緒立遺跡は縄文晩期から続く遺跡であるが、弥生時代には再葬墓がつくられたと考えられている。加工人骨・抜歯痕の残る顎骨や人面付土器などが出土している。六地山遺跡では東北系土器と北陸系土器が共存し、この時期の越後平野の特徴を表している。

古墳時代の遺跡は多く、古墳とそれに関係した集落遺跡がみられる。四十石遺跡周辺では、角田山山麓に山谷古墳〔甘粕・小野 1993〕・菖蒲塚古墳〔相田・前山 2003・2005〕と御井戸 B 遺跡〔前山・相田 2003・2004〕・南赤坂遺跡〔前山・相田 2002〕、信濃川河口付近に緒立八幡宮古墳〔緒立 A 遺跡〕〔吉田 1982〕と緒立 B〔金子 1983〕・緒立 C〔渡邊 1994〕遺跡がある。南赤坂遺跡では続縄文土器が出土しており、海を介して北陸地方と東北地方を結ぶ交流が行われていたことが窺われる。市内の集落遺跡の多くは中期あるいは中期後半以降衰え、四十石遺跡を含む周辺の遺跡でも同様の様相がみられる。

飛鳥・奈良・平安時代は、遺跡が沖積地の微高地に多くみられる。飛鳥時代に大鳥橋遺跡〔春日 2000、新潟市国際文化部歴史文化課 2007〕や奈良時代の初めころに茶院遺跡〔家田 1976、新潟市国際文化部歴史文化課 2007〕が出現する。どちらも内陸の微高地に存在しており、四十石遺跡を含めて低地の利用が早くから行われていたことがわかる。やや遅れて出現する緒立 C 遺跡〔渡邊 1994〕・的場遺跡〔小池 1993〕は官衙関連遺跡とされ

るが、やはり信濃川河口に近い低地の微高地（砂丘）にあり、律令国家の意図がみえる。9世紀以降低地の遺跡はさらに増えるが、開墾を目的とした地方有力者の動きが活発になったためであろう。四十石遺跡周辺では、低地の遺跡は発見されていないが、すぐ近くの砂丘上に遺跡が集中しており、前田遺跡（旗野2000）や坂田遺跡（新潟市史編さん原稿古代中世史部会1994）、製塙を行っていた大蔵遺跡のような大規模な遺跡が並ぶ。また、角田山麓の東側には、須恵窯である重畠場窯跡（山口1994・春日2000）・前平野窯跡（同）などの生産遺跡もあり、律令体制におかれた地方の様子が窺える。

10世紀半ば以降人々の動きは遺跡にみられなくなるが、鎌倉時代になると再び現れる。四十石遺跡の周辺では、やはり赤堀地区の砂丘上に集中しているが、四十石遺跡のすぐ近くに古銭を出土したとされる伝念野毛遺跡や木山水田中古錢出土地があり、周辺に未発見の集落遺跡が存在する可能性がある。

第3節 歴史的環境

日本は後期旧石器時代（約30,000年前）大陸と陸続きであった可能性が高い。後期旧石器時代以前の遺跡が発見される例は全国的に増えてきているが、県内においてはまだ知られていない。市域では20,000～15,000年前にナイフ形石器や尖頭器（槍）を使う人々が、新津丘陵や角田山麓の台地で狩猟と採集の生活をしていたと思われる。

縄文時代が始まる約12,000年前ころ、氷河期が終わって気候が温暖になると、徐々に解けた氷河の水が海水面を100m以上も上昇させた。日本は大陸から完全に離れた列島となり、越後平野あたりは角田山・弥彦山が半島のように突き出た湾となった。四十石遺跡周辺における縄文時代草創期・早期の人々の動きは不明であるが、前期前葉には角田山麓で定住集落が成立する。市域における縄文時代の遺跡は日本海側の特徴をもっており、海岸部の人々は日本海・内水面を舞台とした交流を行っていたと考えられる。

弥生時代の幕開けは、縄文時代晩期に北九州で成立した稻作と金属器の使用に始まるが、新潟市では稻作特有の農具が前期ではまだ使用されておらず、土器にも弥生文化を示す急激な変化はみられない。しかし、後期の六地山遺跡出土の弥生土器に粗穢痕がみられることからこのころには周辺でも稻作が行われていた可能性がある。弥生時代後期になると西日本で高地性集落が盛んにつくられるが、それは中国の史書『魏志』倭人伝にある2世紀後半の「倭国大乱」と結びつく様相と言われている。この戦乱との関わりは不明であるが、越後平野周辺では後期末になると丘陵に多くの高地性集落が出現し、最終末に一斉に消える。そして、前期古墳はその高地性集落と同じ分布を示すことから、この地域に大きな歴史的変化があったことが窺われる。

越後平野につくられた前期古墳の主（首長）は一定の領域を支配していたと考えられ、市域ではその領域が角田・弥彦山麓、新津丘陵北部、信濃川河口付近の海岸平野部と捉えられる。これらの地域は北進する古墳文化の前線拠点でもあり、また南下する北方文化受け入れの地でもあった。ヤマト王権にとって勢力拡大のための重要な役割を担っていたと考えられる。しかし、5世紀の倭の五王の時代になると、王権支配が各地に広がっていく中で前線は東に移り、前期でみられた日本海ルートは衰えていったと思われる。

『先代旧事本紀』（年代不詳）収録の「国造本紀」に高志深江国造の名があり、彼は6世紀半ばから7世紀後にかけて実在した国造のひとりであると考えられている。後の古志郡・蒲原郡・沼垂郡・磐船郡の広い地域を支配していたと推測される。この越（高志）が越前・越中・越後に分割されるのは7世紀末とされる（『日本書紀』）。このとき越後国は沼垂郡・磐船郡と北の出羽地方を含む範囲であり、阿賀野川以西の現新潟市域を含む蒲原郡は越中国に属していたが、その後、2回（702年・708年）の再編成により、頸城郡・古志郡・魚沼郡・蒲原郡・沼垂郡・磐船郡が越後国として確定した。当時の地方組織は、国一郡一里（郷）で構成されており、郡司や里（郷）長は地方の豪族や氏族が任命された。四十石遺跡が存在する蒲原郡の豪族・氏族に関係する史料は少ない。長岡市（旧和島村）八幡林遺跡の木簡にみる「高志君」や『後日本紀』にみられる「三宅連」などわずかである。現

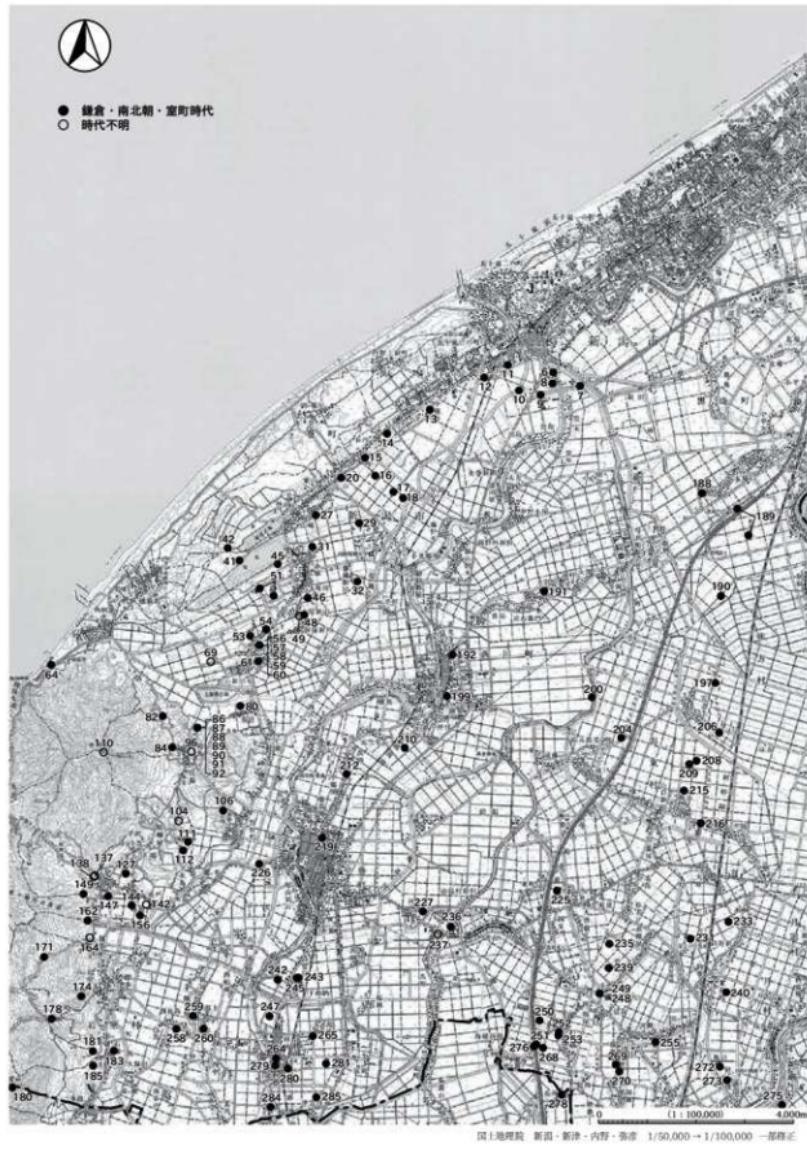




第3図 四十石道跡周辺の遺跡分布図2（古墳時代）



第4図 四十石道周辺の道路分布図3（飛鳥・奈良・平安時代）



第5図 四十石道跡周辺の遺跡分布図4（鎌倉・南北朝・室町時代・時代不明）

第1表 周辺の遺跡

%	遺跡名	%	遺跡名	%	遺跡名	%	遺跡名	%	遺跡名
1	的場	49	山田河原塚	97	久保	143	船井	191	西川人形跡
2	結穴(A)	50	藤村	98	下町	144	下町	192	太田
3	結穴(C)	51	南原	99	下田	145	中島	193	中寺
4	結穴削跡	52	流水上	100	上原B	146	舟山神社A・B	194	二町歩
5	結穴(B)	53	兵庫	101	上人原	147	御井戸B	195	五之上曾根上
6	高山	54	興野古墳	102	上人原C	148	御井戸A	196	林方曾根下
7	高山西	55	下原	103	中田原	149	山古古墳	197	アリヤリ
8	高山西	56	酒藏塚1号塚	104	武道道下	150	山谷	198	翁之門
9	近田	57	酒藏塚2号塚	105	舟山坂	151	神明社	199	船崎城跡
10	六地山	58	酒藏塚3号塚	106	馬岸(鶴山原)	152	新舟	200	長園
11	内野古墳A	59	酒藏塚4号塚	107	青木野鹿原跡	153	平田	201	土手原
12	内野古墳B	60	酒藏塚5号塚	108	青木原古墳	154	無場A	202	清上り
13	道下	61	放水	109	隼人原古墳	155	クリヤ高	203	酒田
14	尼池	62	舟山	110	舟山古墳跡	156	舟山188B	204	一丁下
15	洪音坂	63	刈谷原	110	藏王	157	高島	205	神安
16	伝金毛	64	跳原	110	兵庫	158	船山	206	今原
17	四十石	65	定田	111	下坂原	159	水瀬	207	曾田
18	木山神社中古墳出土地	66	長坂	112	上坂原	160	干納	208	与平路
19	木山原	67	イタチラ	113	天神B	161	鷹原古墳	209	八人手下
20	木山	68	操作	114	天神C	162	ハザマ	210	元賀
21	ツル子C	69	新落原江	115	天神A	163	船場	211	えびしき橋
22	神山	70	一の戻	116	久保原	164	酒造道下	212	天神
23	庚塚	71	二の戻	117	半船場	165	星川山宮	213	人鳥塚
24	ヤマサキ	72	山の奥	118	半船場跡	166	船山	214	西ノ瀬
25	茶畠	73	蓬山	119	並の内	167	船山	215	二種田
26	星敷	74	上原A	120	船原	168	七土原	216	長園
27	岡田	75	上原因幡原	121	世場	169	無場B	217	西田原
28	星敷道	76	上原B	122	上田	170	雪原	218	沼下
29	山崎町立中古墳出土地	77	向日原	123	御前原神社境内	171	御前原城跡	219	台鉢
30	觀音原	78	タナ	124	山の土	172	御手原	220	日引
31	大森	79	さかしの	125	御手原山	173	ヶ谷ヶ	221	鳥居原
32	達磨新田	80	舟手古墳	126	神岡上町	174	和田城跡	222	本川
33	ツル子B	81	舟付	127	ヤチ	175	吉室町神社	223	酒(ア)
34	吹吹石	82	大元	128	大原面	176	越見	224	神村
35	ツル子A	83	山王	129	兵平	177	一本松	225	家津
36	荒町	84	上の原	130	芋ガ宇坐	178	天神城跡	226	山崎島
37	赤堀町明打	85	酒造原B	131	赤本	179	ヶ谷ヶ	227	岡田原
38	荒町 A	86	赤坂1年	132	赤原	180	千代原	228	酒(田)
39	朝日塚	87	赤坂2年	133	里A	181	石綱原川東	229	坂
40	舟手内舟	88	赤坂3年	134	山中	182	浮舟	230	下坂原
41	舟手内舟	89	赤坂4年	135	山中B	183	石綱原跡	231	兵頭
42	石手子山	90	赤坂5年	136	人原	184	八戸山A	232	八戸原
43	沼	91	赤坂6年	137	聖日	185	田ノ平	233	長田
44	北原町 A	92	赤坂7年	138	船井津原	186	石綱原	234	西原場
45	北原町 B	93	赤坂	139	赤原	187	舟坂	235	舟坂
46	船原	94	赤原	140	赤原	188	木場城跡	236	船(原)
47	人原	95	赤坂	141	舟山下田	189	新池原	237	舟兵塚
48	山川原野	96	赤原	142	舟山188A	190	辻ノ原	238	高原

存する地名と10世紀に成立した『延喜式』や『和名類聚抄』に記された神社名や郷名との比定により、郷の位置が推定されているが、それによれば、桜井郷は弥彦村付近、勇介郷は三条市付近、青海郷は加茂市付近、となるが、小伏郷・日置郷は不明である。しかし、『和名類聚抄』において頸城郡の郷名の記載順が逆時計回りの地域順に列挙されていることから、どちらも阿賀野川以西の新潟市域に存在する可能性がある。古墳分布を参考に小伏郷は旧新津市付近、日置郷は角田山麓北端か旧黒崎町付近という説もある。

天平15(743)年の垂田永年私財法の制定後、有力寺社・貴族による田地の開発が初期莊園を生み地方へ及んだが、越後平野では山寄りにあったことが鶴橋丘・梶田丘の比定地から推測される。そして初期莊園は10世紀以降廃絶し、平安末期になると中世に引き継がれる本格的な莊園が多く成立するとともに、国衙領である保も生れた。蒲原郡の低湿地帯の開墾が困難であったことは想像に難くないが、平成22年に調査された旧潟東村の林付遺跡で「川合庄」と書かれた墨書き土器が出土しており、当時の低地への進出の様子を垣間みることができる。

第III章 調査の概要

第1節 試掘調査

A 調査方法と経過

試掘調査（第1次調査）は、（仮称）新赤塚埋立処分地整備工事の予定地約 142,000m²を対象に平成19年11月13日～19日の5日間実施された。対象地は休耕地となっており、92か所に試掘坑をいた。試掘調査総面積は441.6m²である。

調査はバックホウで少しづつ掘り下げながら遺物・遺構の有無を確認する予定であったが、掘削がVI層（黒色砂質土）～VII層（暗黄灰色砂）に及ぶところでは湧水による試掘坑壁の崩落が著しく、遺構検出面の精查作業が困難となった。そのため、作業は土層堆積状況および遺物包含層の確認のみとなり、新発見となった遺跡と砂丘の範囲の把握を重点的に行った。土層記録は、各試掘坑の地表面の標高を調査対象地東側の道路標高から算出し、それを基準とした。

砂丘と認定する「黒砂」層（VI・VII層）は27か所で確認され、2つの砂丘があることがわかった。調査範囲が狭いため確定的なことはいえないが、砂丘は概ね北東～南西方向に帯状に延び、海岸線にほぼ平行する。このうち東側の砂丘で、7か所の試掘坑（69T・70T・71T・74T・82T・83T・84T）から奈良・平安時代と古墳時代の遺物が出土した。これらのほとんどがVI層から出土しており遺物包含層と認識されたが、V層で遺物が確認された試掘坑が1か所（70T）あったことから、遺構確認面が2面ある可能性が残った。以上の結果を踏まえ、遺物が確認された東側の砂丘とそれが続くと思われる隣接地を範囲として「四十石」遺跡と名付け周知化をした。

B 調査体制

調査主体	新潟市教育委員会（佐藤満夫）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則 課長補佐 山田一雄 埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行 埋蔵文化財係長兼主任 渡邊朋和）
調査員	調査担当 相田泰臣（新潟市埋蔵文化財センター副主査） 調査員 今井さやか（同副主査）

第2節 本発掘調査

A 調査方法

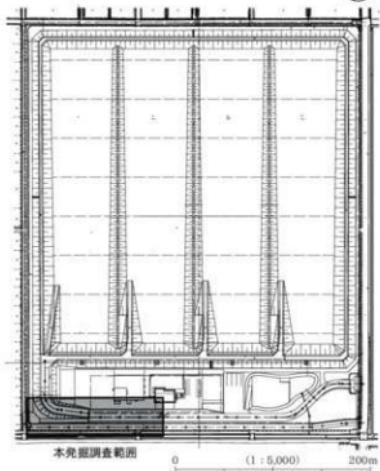
1) グリッドの設定

グリッドは、X座標 +203,070.000m・Y座標 +35,630.000m（世界測地系平面直角座標第Ⅷ区）、緯度37度49分45.6秒・経度138度54分17.1秒とする原点を設定し、それを下に10m方眼の大グリッドを組んだ。大グリッドの名称は、北西隅（原点）を「1A」杭として、南北方向をアラビア数字、東西方向をアルファベットで表した。さらに、その中を2m方眼で区切って25分割する小グリッドを設定し、「11H9」のように呼称した。基準杭の打設は測量業者に委託した。任意の隣り合う2つのグリッド杭、9J杭・10J杭の座標は、9J杭がX座標 +202,990.000m・Y座標 +35,720.000m、10J杭がX座標 +202,980.000m・Y座標 +35,720.000mであり、10J杭の座標北は真北に対し14分56秒東偏、同磁北は真北に対し7度47分西偏する。

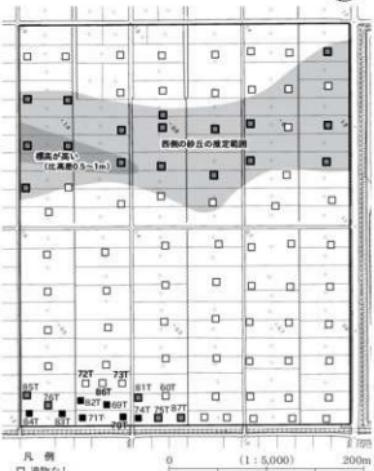
6-1 試験調査位置図



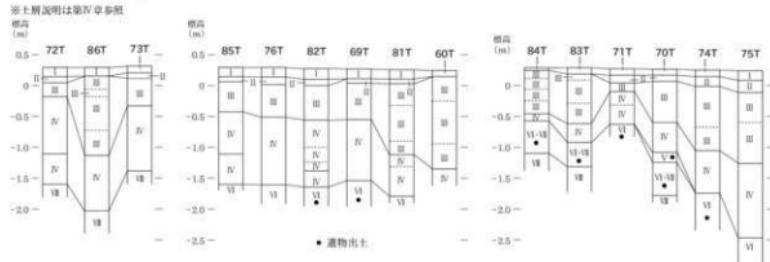
6-2 埋立処分地平面図



6-3 試験調査状況



6-4 主要トレンチ柱状図



第6図 試験調査の成果と本発掘調査範囲

2) 調査の手順と方法

鋼矢板打設・暗渠設置 試掘調査結果から掘削が深くなることや涌水が想定されたため、鋼矢板の打設・暗渠の設置工事を行った。調査区の周囲を長さ7.5～8mの鋼矢板で囲み、そのすぐ内側に暗渠を巡らした。暗渠は上面が基盤層（V層）より低くなるようにしている。南辺については、観察用に通しの基本土層を残すことにして1.5m内側に暗渠を設置した。掘削が伴う暗渠設置工事では職員が立会う中で作業が進められたが、涌水による壁の崩落が著しく、遺物が出土しても正確な地点を確認することが不可能であった。遺物が出土した東辺の暗渠では調査区東角から3mごとに区切った区画で遺物包含層土をあげ、その中から遺物を探すという作業を行った。

表土剥ぎ 調査で生じた排土は調査後の埋め戻しに使われることになっていたため、暗渠工事の前に地表から15cmほどの表土を0.7m³のバックホウで剥ぎ取り、雑草の除去を行った。暗渠工事終了後、バックホウによる本格的な表土剥ぎを行ったが、I～IV層掘削は、バックホウのアームの届く範囲ごとに地表面から30～40cmの厚さで掘り下げていき、遺物包含層が近づくIV層下方ではその単位を数cmに切り替えた。また、遺物が包含層上面に存在することも多く粘性の強いIV層に引っ張られる可能性もあるため、IV層を少し残したところもある。遺物包含層が深くなる北側については、鋼矢板の支持能力の問題や道構検出面の崩壊に繋がる遺物包含層（砂質土）・地山（砂）の流出があるため、遺物の出土がみられず、傾斜が急激に落ち込んでいくあたりから西側では、IV層の途中で掘削を止めた。

包含層掘削・道構検出・発掘 人力で行った。包含層は連続した2層（V・VI層）であり、平面的には非常に区別の付きにくい土質であった。場所によって厚さが大きく異なり、地震による乱れもあることから、調査区の短辺に平行したトレッチを5か所に入れた。なおも識別が困難なところについては、道構検出面の標高に注意しながら、5cm単位で掘り下げていき、道構プランが確認できた段階で掘削を留めた。道構確認面の精査で検出された道構プランは、1/200の略図に記録し、道構番号を付けた。道構の発掘においては、半裁して覆土の観察・記録してから完掘を行った。SB2004～2006の大きな柱穴については、一部柱の痕跡を探すために面的に掘り下げたものもある。排土はベルトコンベアを用いて調査区域外に排出した。

実測・写真撮影 調査に係る実測・測量はすべて、測量業者に委託した。断面実測は手取り、平面実測はトータルステーションを用いて作業を行った。道構断面・平面の写真撮影は、調査員が内容によって、デジタル・35mm版・6×7版のカメラおよび白黒フィルム・カラーポジフィルムを適宜選択しながら行った。道構の全体写真は、測量業者がラジコンヘリコプターにより行った。

遺物取り上げ 包含層出土遺物については、小グリッド単位あるいはトータルステーションによる地点測量での取り上げを行った。地点測量での取り上げ番号は、道構出土遺物は道構ごとに包含層出土遺物はグリッド関係なく通しにしている。

自然科学分析 古環境復元のために植物珪酸体・プランツ・オパール・花粉・珪藻・種実の各分析を、また自然堆積層・道構の年代推定の参考するためにテフラ検出分析や放射性炭素(¹⁴C)年代測定を行った。分析は専門業者に委託した。

B 調査経過

平成21年2月6日から諸準備に入り、2月17日に鋼矢板の打設を開始した。その作業がほぼ終了するすぐに雑草の除去を行ったが、その作業においてII層下部から、漆器碗1点が出土している（3月10日）。暗渠工事は3月11日に着手した。調査区東角から始め、時計回りに進めたが、溝壁の崩れのために難航し、4月中旬までかかった。包含層の標高が高い地点では水はけが良くなつたため、暗渠工事と並行して4月8日からバックホウによるI～IV層の表土剥ぎを行った。4月6日・7日に調査区南側壁の基本土層の記録をとつたが、このころから暗渠に流れ込む水に砂層が引っ張られ、基本土層のあちらこちらで壁の崩落が起つた。また、調査区

西側の地形が落ちていて斜面部分で、地下の砂が流れ、たびたび遺構検出面が陥没した。包含層の掘削作業は4月15日に開始した。作業は調査区南側から始めて、遺構検出面の精査を合わせて行った。この段階で、遺構検出面が2面あることが確定したが、調査区南側では上層遺構の検出面が確認できないところもあった。上層遺構の掘削作業は4月20日から行った。規模は小さいながらも官衙的な掘立柱建物やほぼ一条分の腰帶金具を伴う周溝（墓）が検出され、10月1日、奈良大学教授の坂井秀弥氏を現地に招請し、指導をしていただいた。上層遺構の調査がほぼ終了した9月上旬にラジコンヘリコプターによる空中写真撮影（9月5日）・高所作業車やローリングタワーによる撮影（9月10日・11日）を行った。9月19日には現地説明会を開催し、150人を超える参加があった。その後、下層遺構の掘削作業を開始したが、下層遺構は長大な溝状遺構が多く、掘削に時間を要した。12月4日にラジコンヘリコプターによる空中写真撮影と高所作業車・ローリングタワーによる撮影を行った。遺構の実測も並行してほぼ終了し、これにて下層の調査は終了となったが、12月7日～14日に基盤層の流出を防ぐために掘削を断念した低地部の北東部分の調査を行った。12月14日に測量の最終確認と行うとともに、機材などの撤収を行った。本発掘調査の最終面積は5,540.1m²である。12月15日に開発者側に引渡すと、すぐに埋め戻しが始まった。

この調査では、平成23年の夏にオープンした新潟市文化財センターの展示に活用するために、調査着手から開発側による埋め戻しまでの現場の様子を撮影する「定点撮影」や遺構調査風景のビデオ撮影を行っている。

C 調査体制

平成20年度

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 佐藤満夫）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則 課長補佐 山田一雄 埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行 埋蔵文化財係長兼主任 渡邊朋和）
調査員	調査担当 渡邊ますみ（新潟市埋蔵文化財センター主査） 調査員 相田泰臣（新潟市埋蔵文化財センター副主査）・池田ひろ子（同専門臨時職員）

平成21年度

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則 課長補佐 額所洋一 埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行 埋蔵文化財係長兼主任 渡邊朋和）
調査員	調査担当 渡邊ますみ（新潟市埋蔵文化財センター主査） 調査員 相田泰臣（新潟市埋蔵文化財センター副主査）・池田ひろ子（同専門臨時職員）

第3節 整理作業

A 作業方法

1) 遺物

試掘調査でコンテナ（内寸54.5×33.6×10.0cm）2箱分、本発掘調査で約125箱分の遺物が出土している。土器を中心であり、他に石器・石製品・土製品・金製品・鍛冶関連遺物などが出土している。

遺物の整理作業は、①洗浄→②注記→③グリッド別・種別の重量・点数計測→④接合→⑤報告書掲載遺物の抽出→⑥実測図・觀察表作成→⑦写真撮影の順を基本とし作業を行った。進捗状況によって、作業の順番が逆になったり、並行して行ったりしたものもある。

2) 遺構

現場の測量図はすべて測量業者作成のものであり、トータルステーションで測量した遺構平面図は1/20で出

力したものを校正した。また、手取りの断面図についてはデジタル化し出力したものを校正した。さらに、平面図・断面図の整合については、それぞれ確認した図面を用いて作業を行い、原図と校了図データを残した。現場で撮影した記録写真については、フィルム写真是フィルムの現像・ベタ焼き（ネガフィルムのみ）を行い、アルバムに収めた。デジタル写真是日ごとに整理しハードディスクに保存した。フィルム写真是、画像ごとに露出が適正なコマをデジタル化している。

B 作業経過

出土遺物の水洗・注記は発掘作業と並行して行い、現場ではほぼ終了した。その後の作業については、新潟市埋蔵文化財センターに場所を移して行ったが、現地説明会のために現場で接合までの作業を行ったものもある。また、腰帶金具などの十数点の銅製品については、保存処理を急いだため、発掘作業期間中に実測・写真撮影も行っている。遺構実測図などの測量図は、デジタルデータの出力紙による平面図・断面図の整合の後、掲載遺構の抽出を行い、図面図版・写真図版のレイアウトを行った。遺物は、掲載遺物を抽出後、実測（図化）・写真撮影し、図面図版・写真図版のレイアウトを行った。遺物実測図のトレース・各図版の版下作成はデジタル図化編集業者に委託した。

C 作業体制

平成21年度

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則 課長補佐 頼所洋一 埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務担当	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行 埋蔵文化財係長兼主任 渡邊朋和）
調査員	調査担当 渡邊ますみ（新潟市埋蔵文化財センター主査） 調査員 相田泰臣（新潟市埋蔵文化財センター副主査）・池田ひろ子（同専門臨時職員）

平成22年度

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則 課長補佐 頼所洋一 埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務担当	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行 埋蔵文化財係長兼主任 渡邊朋和）
調査員	調査担当 渡邊ますみ（新潟市埋蔵文化財センター主査） 調査員 牧野耕作（新潟市埋蔵文化財センター嘱託）

平成23年度

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）
所管課	新潟市文化財センター（所長 高橋保 所長補佐 丸山徳幸 主任 渡邊朋和）
事務担当	同上
調査員	調査担当 渡邊ますみ（新潟市歴史文化課兼文化財センター主査）

第IV章 遺 跡

第1節 概 要

四十石遺跡は北東－南西方向に走る埋没砂丘上に立地しており、調査区はその北西に位置する。遺構は標高-1.8m以上の大まわりに集中しており、南西側の調査区外に続く。砂の流出による陥没等で検出作業ができなかつたことを考慮してもこれより低い地点に遺構が集中する可能性は低いと思われるが、水辺の構築物があった可能性は否定できない。

遺物包含層は連続した上下の2層であり、それぞれの下面で遺構が検出される。上層では竪穴住居2棟・掘立柱建物9棟・土坑44基・溝状遺構16条・柵列1列・不明遺構10基・小穴・柱穴(竪穴住居・掘立柱建物の柱穴含む)876基、下層では土坑5基・溝状遺構13条・不明遺構6基・小穴・柱穴9基が確認された。

今回の調査では土器・土製品・石器・石製品・金属製品・木製品・鍛冶関連遺物が出土している。その量はコントナ(内径54.5×33.6×10cm)にして約125箱であり、土器が114箱を占めるが、時代別でみると縄文土器・弥生土器が3箱、古墳時代の土器が54箱、奈良・平安時代の土器が57箱である。

第2節 層 序

四十石遺跡の基本層序(図版9)は、基盤層まで大きく7層に分けられるが、高低差があるため、表土が厚く堆積する低地部では层数が多くなっている。また、地震の影響もあり、堆積に乱れもみられる。

包含層はV層とVI層である。V層からは縄文時代～奈良・平安時代の遺物、VI層からは縄文時代～古墳時代の遺物が出土しているが、V層にみられる遺物には下層から表出した遺物が含まれている。また、V層はごく小範囲であるが、地震などによる土壤の流出がみられ、その分層を示した。最下層が基本土層である。遺構確認面はVI層上面とVII層上面である。ただしVII層上面は旧地表面(遺構の掘り込み面)と考えるもので、作業においてはVII層を削りこんだところで遺構の検出作業を行っている。VI層上面で検出される遺構(以下、上層遺構という)は奈良・平安時代の遺構、VII層上面で検出される遺構(以下、下層遺構という)は縄文時代～古墳時代の遺構と考える。V層下面是場所によって削平されているため、上層遺構と下層遺構が同一面で検出されることもある。

- I 層 褐色粘質土(10YR4/4) 粘性やや強い。しまり弱い。表土・床土。
- II 層 黒褐色粘質土(10YR2/2) 未分解有機物多量含む。粘性やや強い。しまり弱い。
- III a 層 オリーブ黒色粘質土(5Y3/2) 未分解有機物含む。粘性強い。しまり弱い。
- III b 層 灰オリーブ粘質土(5Y4/2) 未分解有機物含む。粘性強い。しまり弱い。
- III c 層 オリーブ黒色粘質土(5Y3/2)～灰オリーブ粘質土(5Y4/2) 黄色粘土ブロック多量含む。未分解有機物含む。粘性強い。しまり弱い。
- IV a 層 灰色粘質土(5Y4/1) 未分解有機物含む。粘性強い。しまり弱い。
- IV b 層 灰色粘質土(7.5Y4/1) 未分解有機物含む。粘性強い。しまり弱い。
- V c 層 灰色粘質土(7.5Y4/1)・黒色砂質土(10YR2/1)の混合 未分解有機物含む。粘性弱い。しまりあり。
- V a 層 黒色砂質土(10YR3/1) 灰色粘質土(7.5Y4/1) 少量～中量混入。炭化物を含む。粘性弱い。しまりやや強い。包含層(上層)。

- V b 層 黒色砂質土 (10YR2/1) 灰色粘質土 (7.5Y4/1) 少量混入。炭化物を含む。粘性弱い。しまりあり。
包含層（上層）。
- V c 層 黒色砂質土 (10Y2/1) 灰色粘質土 (7.5Y4/1) ごく少量混入。炭化物を含む。粘性弱い。しまりあり。
包含層（上層基本土層）。
- VI 層 黒色砂質土 (10YR2/1) ~ (7.5Y2/1) 粘性弱い。炭化物を含む。しまりやや強い。包含層（下層、上面—遺構確認面）。
- VII 層 黒色砂質土～砂 (10YR2/1)・暗黄灰色砂 (2.5Y4/2) の混合 粘性弱い。しまりやや強い。漸移層（上面—遺構確認面）。
- VIII 層 暗黄灰色砂 (2.5Y4/2) 粘性弱い。しまりあり。地山。

第3節 遺構

遺構名は、遺構の性格を示す（種別）記号と数字によって付けている。種別記号は竪穴住居－SI、掘立柱建物－SB、土坑－SK、溝状遺構－SD、不明遺構－SX、柱穴・ピット－Pとし、遺構番号は検出順に通しで付けている。本来、切り合い関係にある複数の遺構については小さい番号の遺構が新しい遺構となり、下層遺構は大きい番号になるところであるが、プランで新旧関係が不明だった場合や上層・下層遺構が同一面で検出された場合、また誤認があった場合にはその関係が逆になることもある。掘立柱建物や柵列のように複数の遺構によって構成されるものについては、それを表す番号を各遺構番号の頭に付して表記した。本文では、主要遺構について、まず上層遺構を竪穴住居・掘立柱建物・土坑・溝状遺構・柵列・性格不明の順に、次に下層遺構を土坑・溝状遺構・不明遺構の順に記述を行った。各遺構の属性等の情報は別表1に示したが、主軸方位の計測については、竪穴住居・掘立柱建物・溝状遺構・柵列のみにし、それ以外の遺構で長軸が捉えやすいものについては本文中に北・南・西・東・北西・南東・北東・南西の範囲で示した。また、遺構の形状は、平面形が円形・梢円形・方形・隅丸方形・不定形の4種類を、断面形が箱形・台形・皿形・U字形・不定形の5種類を基本として表中に記載したが、判断が難しいものも多い。切り合い関係については、同一検出面における新旧関係を示しており、上層・下層間の関係は省略している。主要遺構以外の遺構についての情報は、項目を絞って表を作成した。なお、本文中の出土遺物の記述においては、図版掲載遺物に報告No.を付した。

A 上層 遺構（奈良・平安時代の遺構）

1) 竪穴住居(SI)

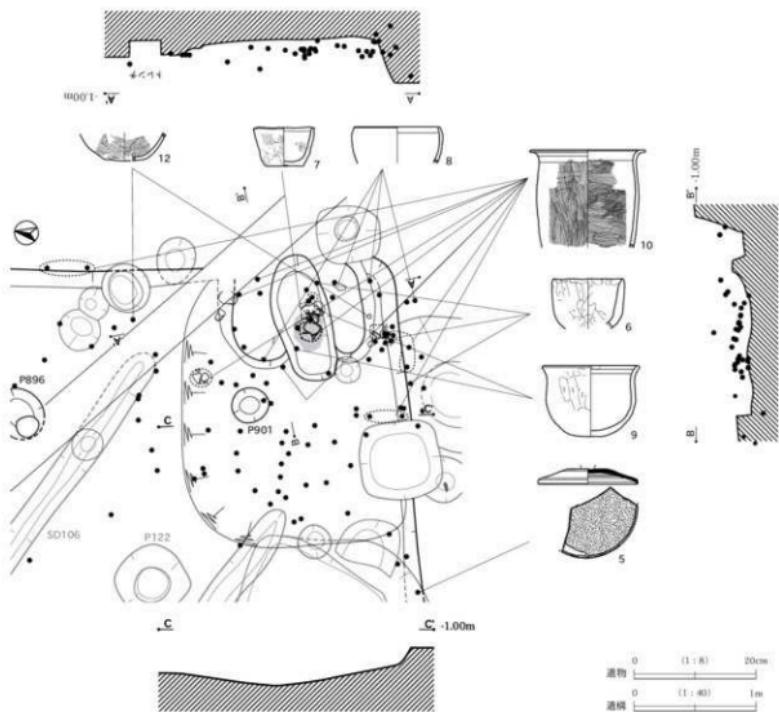
SI246 (図版13・16、写真図版4・10・11)

12H グリッドに存在する方形の竪穴住居である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。試掘坑で壊された南西コーナーとP551に切られている東辺の北寄りの壁付近を除けば、遺存状態は良好である。主軸はN-33°-Wを指し、長軸 4.6m・短軸 4.0m を測る。南辺の東寄りにカマドをもつ。床面はところどころ小さい凹凸があるもののほぼ平坦で、確認面からの深さは最大で0.28mほどである。壁は急ではないが、しっかりした立ち上がりをみせる。覆土は14層に分層され、上半は水平堆積に近い緩やかなレンズ状堆積、下半はカマド袖付近を中心に細かい堆積がみられる。カマドは両袖が比較的良好に残っているが、床面に火床を示す焼土範囲は確認されていない。カマド付近の覆土に焼土がみられるだけである。住居内には主柱穴と思われるP499・P500・P548と性格不明であるが、本遺構に付帯すると思われるSK561が検出されている。主柱穴は大きさが異なる梢円形か不整梢円形をしているが、最も小さいP499（長軸0.40m・短軸0.33m）が柱材に近い大きさなのである。少し変形するが方形に配される4本柱と考えられ、確認されなかった1基は試掘坑に破壊された可能性もある。3基は深さが約0.30~0.45mで、ばらつきがある。SK561は隅丸方形に

近い平面形を呈しており、長軸 0.69m・短軸 0.67m を測る。床面からの深さは 0.17m で、丸底面である。浅い掘り込みで壁際にあることから、何かを据え付けるためのものか貯蔵穴であろう。遺物は床面から浮いているものがほとんどで、1・2 層など上部層から出土しているものが多い。土器約 90 点と土錘 (457)・砥石 (478)・銅系の可能性があるガラス質滓、小型のタイや種別不明の魚骨 (第VII章第3節) が出土している。土器は須恵器有台杯 (1)・甕・杯蓋 (2)、土師器長甕 (3) 類がみられる。

SI307 (図版 13・17、写真図版 4・11・12)

10I・J グリッドに存在する方形の竪穴住居である。遺構確認面はVI層上面であるが、覆土がわかりにくく、同じような覆土をもつ遺構と重なっていたため、確認面精査においてプランを確認することができたのはトレチの北側で検出された住居北東コーナーだけである。切り合っている遺構が多く、主要遺構でみると、SB2002・SB2003・SB2004・SD61・SD62・SD106 に切られている。主軸は N-78°-E を指し、長軸 4.4m・短軸 4.2m を測る。東辺の南寄りにカマドをもつ。床面は平坦で、確認面からの深さは最大で 0.24m ほどである。カマド焚口の手前あたりがわずかに窪んでおり、カマド使用に関わる痕跡と思われる。覆土は 11 層に分層され、東西方向ではレンズ状堆積、南北方向では緩い斜め方向の堆積がみられる。床面上には炭化物を含む薄い層がカマド周辺から北西側へ広がっており、これらが切れるあたりで住居の壁を捉えることができた。この層がカマド使用によるものか、意図的にまかれたものかは不明である。カマドは袖の基盤と崩落土 (ともに



第 7 図 SI307 遺物出土状況

粘土・粘質土)を区別するのが難しく、トレンチを入れて確認した。SI246のカマドより小さいもので、その内側が窪んでいる(第7図C-C')。ほぼ中央に火床と思われる焼土痕跡が確認された。住居内にはいくつかのビットが検出されたが、このうちP828・P896・P901が主柱穴と思われ、4本の柱が方形に配されていたと考えられる。いずれも浅くて小さい柱穴である。遺物は、カマド周辺からまとめて出土しており、それらは床面に近い位置で出土しているが、それ以外の遺物は覆土1層の上半から出土しているものがほとんどである。100点以上の土器の他に鉄滓(495)・古墳時代の白玉(469)が出土している。土器は須恵器無台杯(4)・杯蓋(5)、土師器無台杯(6・7)類・鉢(8・9)類・長甕(10~12)類、古墳時代の土師器甕(13)類がみられる。古墳時代の遺物は、本遺構が下層のSD109・SD110を掘り込んでいることから、それらに伴う土器の可能性もある。

2) 挖立柱建物(SB)

SB2001 (図版12・18、写真図版7・12・13)

9Kグリッドに存在する掘立柱建物である。9基のビット(P43・P44・P46・P49・P50・P52・P53・P54・P57)が検出されているが、南東の暗渠・調査区外へ延びている可能性があり、それを想定した記述をする。桁行は不明であるが、梁間は2間(3.18m)であり、長軸はN-45°-Wである。おそらく梁間間に扉をもつ総柱建物であろう。柱筋は直交しないが、柱穴は整然と並ぶ。柱間寸法は身舎では桁行方向がP50・P43間で2.42m、P52・P46間で2.46m、梁行方向がP52-P49間で1.54m、P49-P50間で1.64mで、扉は桁行方向が1.44mである。柱掘形は一辺0.40~0.50mの隅丸方形で、底面に柱痕がみられる。柱痕はほぼ円形をしており、径は20cm前後である。SB2009と重複関係にあることになるが、新旧関係は不明である。また、この建物の内側に同じような形態の柱穴が3基(P45・P48・P55)存在するが、東柱として機能していたものがあるかもしれない。7基の柱穴(P43・P44・P46・P49・P50・P52・P54)から合わせて約40点の土器が出土しているが、時代不明の土師器細・小片が多い。

SB2002 (図版13・19、写真図版11・13・14)

10I-Jグリッドに存在する掘立柱建物である。遺構確認面はVI層上面で、P410・P921・P922はプランが不明瞭であったが、それ以外はほぼプランを確認することができた。11基の柱穴(SB2002-P98・P122・P147・P155・P168・P245・P301・P529・P531・P921・P922)が検出されており、桁行4間・梁行2間の側柱建物としたが、P531・P921・P922は東柱の可能性もある。建物の平面形はほぼ長方形を呈しており、主軸方位はN-28°-Wを指す。梁行は4.30mを測るが、桁行の寸法は東辺(P98-P921-P147-P922-P155)と西辺(P301-P531・P122-P245)で異なり、東辺は5.14m、西辺は5.36mである。柱間寸法は桁行方向が0.61~0.76mで各柱穴間に大きな差はないが、梁行方向の南辺は0.73m(P155-P119間)・0.92m(P119-P301間)で差がある。南側の異なる間隔は出入り口に関係しているとも考えられる。面積は約22.6m²。柱掘方は隅丸方形・円形・楕円形の歪んだものも多く規模も異なるが、底面が壊されているP529を除いては、確認面からの深さは0.31m~0.56m、底面標高は-1.217~-1.786mである。覆土断面に柱痕が認められるものもあり、径0.25~0.30mの丸材で先端が少し細くなった材が推定できる。また、6基の柱穴に柱根が残るが遺存状態は極めて悪く、柱材の形状がわかるものがない。南西コーナーにあるP301がSB2003を構成するP113に切られていることから、本遺構はSB2003より古いと捉えられた。6基の柱穴(P98・P122・P147・P155・P531・P828)から合わせて約30点の土器が出土しているが、土師器細・小片が多い。

SB2003 (図版13・20、写真図版11・14・15)

10I-Jグリッドに存在する掘立柱建物である。遺構確認面はVI層上面で、P524はプランが不明瞭であったが、それ以外はほぼプランを確認することができた。8基の柱穴(SB2003-P99・P113・P119・P123・P128・P130・P310・P524)が検出されており、桁行2間・梁行2間の側柱建物と捉えた。建物の平面形はほぼ正方形を呈し、わずかに長い東西方向の軸方位はN-66°-Eを指す。桁行(東西方向)4.04m、梁行(南北方向)3.86m、柱間寸法は1.80~2.06mである。面積は約15.59m²。柱掘方はP128のように長方形もあるが、隅丸方形が基本と

と思われ、それらは一辺が0.50~0.67mほどである。他には円形もあり径0.40m前後である。遺構面からの深さは0.4~0.7m、底面標高は-1.53~-1.71mとややバラつきがある。覆土断面に柱痕が認められるものもあり、径0.2m前後の柱材が推定できる。柱根が遺存しているものはない。ベルトの下で検出されたP524以外は、いずれも早い時期の確認面精査でプランが検出されており、周辺の遺構を切っていることが多い。位置がSI307と重複しており、ほとんどの柱穴がSI307を切っている。またP130はSB2004-P244やSB2004より新しいSD61に切られていることから、4者の関係は古いほうからSI307→本遺構→SB2004→SD61と捉えられる。また、位置関係や検出状況からSD61と同時期と考えられるSD62・SD106も同様の新旧関係である。6基の柱穴(P99・P113・P119・P123・P128・P130)から合わせて約30点の土器が出土しており、時代不明の土師器細・小片が多いが、須恵器杯蓋(15)がみられる。

SB2004 (図版13・21、写真図版5・15・16)

10・11Iグリッドに存在する掘立柱建物である。遺構確認面はVI層上面で各柱穴のプランは不明瞭なものが多く、規模から井戸と誤認してしまったものもある。そのため層序の確認も不十分であったことを記しておく。軸方位・形状がSB2005とほぼ同じであり、2棟の東辺軸筋は一直線上にのる。9基の柱穴(SB2004-P244・P302・P309・P393・P406・P410・P511・P514・P837)が検出され、正方形を呈する総柱建物と捉えた。南北方向の軸方位はN-19°・Eを指す。桁行・梁行の規模は4.40mで、面積は約19.36m²である。柱間寸法は2.20m前後で、ほぼ等間隔である。柱掘方の平面形は方形を基本としているが不整のものも多く、また廃絶時あるいはそれ以降に受けた破壊のため、形状をとどめていないものもある。一辺1m以上の柱穴がほとんどである。確認面からの深さは0.54~0.71m、底面標高は-1.68~-1.85mである。柱穴内に柱材は残っておらず、覆土断面にもその痕跡が認められない。抜き取りを行っていたと考えられ、いくつかの柱穴にみられる上端付近の窪みは、抜き取りの際にいた作業痕跡の可能性もある。またP406・P511間のSD318やP514・P393間のSD489は「布掘り」あるいは「地中梁」の痕跡と捉えられるもので、2か所にしかみられないことが何に起因するのかが注意される。すべての柱穴から合わせて約240点の土器と、P302から石鐵(463)が出土している。土器は時代不明の土師器細・小片も多いが、須恵器無台杯(17)・杯蓋(18・19)、土師器高杯(16)・小壺(20)・長壺(21)類、古墳時代の土師器壺(22)類・壺類がみられる。時代不明の土師器細・小片も多い。

SB2005 (図版13・22、写真図版5・15・16)

11・12H・Iグリッドに存在する掘立柱建物である。遺構確認面はVI層上面で、各柱穴のプランは不明瞭なものが多く、規模から井戸と誤認してしまったものもある。そのため層序の確認も不十分であったことを記しておく。軸方位・形状がSB2004とほぼ同じであり、2棟の東辺軸筋は一直線上にのる。9基の柱穴(SB2005-P118・P234・P394・P522・P532・P638・P834・P835・P836)が検出され、正方形を呈する総柱建物と捉えた。南北方向の軸方位はN-19°・Eを指す。桁行・梁行の規模は4.60mで、面積は約21.16m²である。柱間寸法は2.30m前後で、ほぼ等間隔である。柱掘方の平面形は方形を基本としているが不整のもの多く、また廃絶時あるいはそれ以降に受けた破壊のため、形状をとどめていないものもある。一辺1m以上の柱穴がほとんどである。確認面からの深さは0.67~0.84m、底面標高は-1.70~-1.86mである。柱穴内に柱材は残っておらず、覆土断面にもその痕跡が認められるものが少ない。SB2005-P835の底面に柱設置痕を示していると思われる円形の窪みがあるが、削れやすい地山砂であることから、柱の規模を表しているかどうかは不明。柱は抜き取りを行っていたと考えられ、いくつかの柱穴にみられる上端付近の窪みは、抜き取りの際にいた作業痕跡の可能性もある。すべての柱穴から合わせて約230点の土器とP522・P638から古墳時代の白玉3点(470~472)が出土している。土器は時代不明のものも多いが、須恵器有台杯(27)、土師器小壺(25)類・長壺(23・24・26)類、古墳時代土師器器台(28)・壺・壺類がみられる。

SB2006 (図版13・23、写真図版5・15・16)

11・12G・Hグリッドに存在する掘立柱建物である。遺構確認面はVI層上面で、各柱穴のプランは不明瞭

なものが多く、規模から井戸と誤認してしまったものもある。そのため順序の確認も不十分であったことを記しておく。軸方位・形状がSB2004・SB2005とほぼ同じである。9基の柱穴 (SB2006-P236・P265・P422・P434・P465・P644・P649・P832・P833) が検出され、正方形を呈する総柱建物と捉えた。南北方向の軸方位はN-19°-Eを指すとしたが、芯の捉え方によって、わずかに東に振れる可能性もある。桁行・梁行の規模は4.60mで、面積は約21.6m²である。柱間寸法は2.30m前後で、ほぼ等間隔である。柱掘方の平面形は方形を基本としているが不整のものも多く、また廃絶時あるいはそれ以前に受けた破壊のため、形状をとどめていないものもある。一辻1m以上の柱穴がほとんどである。確認面からの深さ・底面標高とともに極端に異なるものはなく、深さは0.52～0.68m、底面標高は-0.53～-0.68mである。柱穴内に柱材は残っておらず、覆土断面にもその痕跡が認められない。抜き取りを行っていたと考えられ、いくつかの柱穴にみられる上端付近の窪みは、抜き取りの際についた作業痕跡の可能性もある。またP649・P644間のSD827やP833・P832間のSD762は「布掘り」あるいは「地中梁」の痕跡と捉えたが、溝の中央が柱穴の中央から外れていることに注意する必要がある。7基の柱穴から合わせて約50点の土師器が出土しており、時代不明の土師器細・小片が多いが、古代の土師器瓶(29)がみられる。他にP465からフイゴの羽口(486)が出土している。

SB2007 (図版14・24、写真図版16・17)

14Gグリッドに存在する掘立柱建物である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼプランを確認することができた。4基の柱穴 (SB2007-P574・P583・P651・P652) が検出されているが、東側を暗渠に壊されていることから建物の形態を捉えることができない。さらに調査区外へ広がると思われる。南北方向の軸方位はN-6°-Eを指す(東西方向の場合はN-84°-Wとなる)。南北方向の柱間寸法はP652・P651間は1.76m、P651・P574間は2.26m、東西方向の柱間寸法はP574・P583間は2.26mである。柱掘方の平面形はやや歪んだ円形か楕円形であり、P574がやや大きいが径0.60m前後を測る。遺構面からの深さは0.45～0.63m、底面標高は-1.53～-1.70mである。P651には柱根が残るが遺存状態は極めて悪く、柱材の形状は不明である。土器は確認されていないが、鉄系の楕円形泡(492)が出土している。

SB2008 (図版12・24、写真図版17)

9Kグリッドに存在する掘立柱建物である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼプランを確認することができた。2基の柱穴 (SB2008-P95・P96) が検出されているが、東側を暗渠に壊されていることから建物の形態を捉えることができない。さらに調査区外へ広がるものと思われる。確認できる南北方向の軸方位はN-25°-Eを指す。2基間の寸法は3.28mである。柱掘方の平面形は方形を基本とし、一辻0.9m前後である。遺構面からの深さは0.57～0.69m、底面標高は-1.808～-1.947mである。覆土断面に柱痕が認められ、径0.50m前後の材が推定できる。この2基の柱穴の北側にほぼ規模の同じP21が存在する。やや軸筋からはずれ、覆土のあり方も異なる(柱痕が認められず、覆土も比較的混入の少ない黑色砂質土である)ことから本遺構に含めていないが、可能性はある。ただし、P21からはVI期の遺物が一定量出土しており、時期的な考察も注意する必要がある。合わせて約36点の土器が出土しており、時代不明や古墳時代の土師器細・小片が多いが、古代の土師器長甌A2類がみられる。

SB2009 (図版13・25、写真図版18・19)

11Hグリッドに存在する掘立柱建物である。遺構確認面はVI層上面で、各柱穴のプランを確認することができた。8基のビット (SB2009-P163・P202・P232・P323・P392・P512・P528・P1012) が検出されており、桁行2間(1.94m)・梁行2間(1.94m)の総柱建物と捉えられる。面積は、約3.78m²である。遺構面精査では各ビットとも比較的明瞭なプランが検出されたが、底面・壁は下層包含層や下層遺構覆土となるため不明瞭なもののが多かった。これらは、SX71の周溝と同じ面での完掘となつたが、SX71に伴うと思われる遺物がこれらの上部で出土していることやP1012がSX71にきかれていることから、本遺構はSX71より古いと考えられる。建物の平面形はほぼ正方形を呈すると思われ、主軸はN-40°-E(あるいはN-50°-W)である。柱間寸法は、南辺(P202-P232-P392)と西辺(P392-P512-P232)で0.97m前後を測るが、東辺はP1012・P163が0.92m、

P163・P202 間が 1.03m である。柱掘方の平面形は円形に近いものがあるが基本的には隅丸方形である。方形のものは一邊が 0.47~0.75m、円形に近いものは径が 0.4m 前後でバラつきがある。確認面からの深さは 0.21~0.58m、底面標高は -1.29~ -1.74m である。覆土断面に柱痕が認められるものは少なく、柱材の形状は不明である。2 基 (P323・P528) の柱穴から合わせて 4 点の土器が出土しており、時代不明の土師器細片が多いが、古代の土師器小甕 (30) がみられる。

3) 土 坑 (SK)

SK203 (図版 13・25、写真図版 19)

11H1・6・7 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面は VI 層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。上端の平面形は円形で、長軸 1.48m・短軸 1.43m を測る。下端の平面形は径 0.55m 前後の円形で、壁はその緩い丸底面から擂鉢状に立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.47m である。覆土は黒色・黒褐色砂質土が主体で、4 層に分層される。水平堆積に近い緩やかなレンズ状堆積がみられ、上部を中心とした広範囲に炭化物が少量含まれる (1・2 層)。須恵器杯類 1 点とハケメがみられる長甕の細片 2 点が出土している。

SK336 (図版 13・25、写真図版 19)

11G8・9・13・14 グリッドに存在する土坑である。SB2006 の北辺の西方延長上に位置する。遺構確認面は VI 層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。P239・P348 を先行してプランを確認しており、P239・P348 が新しいと捉えた。上端の平面形は円形に近い形で、長軸 1.82m・短軸 1.69m を測る。下端の平面形は長軸 1.60m・短軸 1.45m の緩い丸底面で、壁は急な角度で内湾気味に立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.43m である。覆土は黒褐色砂質土が主体で、5 层に分層される。レンズ状堆積がみられ、上半の黒褐色砂質土 (1 層) に炭化物が多量に含まれる。遺物は出土していない。

SK399 (図版 13・26、写真図版 20)

10J16・21 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面は VI 層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができたが、SX926 と重複する南側ではそれがやや不明瞭であった。平面的には形状・規模が掘立柱建物の大形の掘り方によく似ている。上端の平面形は北西-南東方向にやや長い楕丸形で、長軸 0.97m、短軸 0.82m を測る。南側がやや深く、確認面からの深さは最大 0.24m である。下端の平面形は長軸 0.75m、短軸 0.63m の隅丸方形で、平坦な底面から立ち上がる壁は直線的な所とカーブを描く所がある。覆土は黒色・黒褐色砂質土が主体で、3 层に分層される。レンズ状堆積がみられ、上半の黒褐色砂質土 (1 層) に炭化物が含まれる。古墳時代を中心とした土師器が 10 点以上出土している。

SK441 (図版 14・27、写真図版 20)

12G24、13G4・5 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面は VI 層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができたが、SK564 のプランは明瞭でなく、切り合いは認識できるものの正確な位置関係を捉えることができなかった。西側が SK564 を切っている。上端の平面形は北東-南西方向に長い楕円形であり、長軸 1.59m、短軸 1.25m を測る。断面はほぼ水平の底面から壁がやや急な角度で立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.49m である。覆土は下半に基盤層砂の多量の流入がみられるが、上半は黒褐色砂質土が主体で、4 层に分層される。緩いレンズ状堆積がみられ、最上層 (1 層) に炭化物が一定量含まれる。古墳時代を中心とする土師器細片が 10 点近く出土している。

SK481 (図版 13・27、写真図版 20)

11G18・19・23 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面は VI 層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。上端の平面形は北東-南西方向に長い楕円形であり、長軸 1.60m、短軸 1.15m を測る。断面は平坦な底面から急な角度で立ち上がる。壁がやや急な角度で立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.49m である。覆土黒色・黒褐色砂質土が主体で、3 层に分層される。緩いレンズ状堆積がみられ、最上層 (1 層) のみ炭化物が一定量含まれる。遺物は出土していない。

SK564 (図版 14・27、写真図版 20)

13G4 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVI層上面で、SK441 に切られていることが確認されていたが、プランは不明瞭であった。南北方向に長い方形で、長軸 1.54m、短軸遺存部分で 0.82m を測る。下端の平面形は上端のような角がほとんどなく梢円形に近いものである。断面は丸底面から弱いカーブを描きながら緩く立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.40m である。覆土は黒色・黒褐色砂質土が主体で、3 層に分層される。緩いレンズ状堆積がみられるが、いずれの層も炭化物は含まれない。時代不明の土師器細片が 4 点出土している。

SK596 (図版 14・26、写真図版 21)

13G3・4・8・9 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVI層上面である。切り合が不明な状態で SK597 とともにプランが検出され、断面観察により SK597 を切っていることが捉えられた。東西方向に長い梢円形で、長軸 1.65m、短軸 1.12m を測る。断面形は弧状を描く丸底であり、確認面からの深さは最大 0.29m である。覆土は下部に基盤刷砂の多量な流入がみられるが、上半は黒褐色砂質土が主体で、3 層に分層される。レンズ状堆積がみられ、最上層（1 層）に炭化物が多量に含まれる。時代不明の土師器小片が 1 点出土している。

SK597 (図版 14・26、写真図版 21)

13G8・9 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVI層上面で、SK596 とともにプランが検出された。南側では SX573・P683 を切り、北西側では SK596 に切られている。上端の平面形は SK596 とほぼ同じく東西方向に主軸方向がある梢円形であり、長軸 1.32m、短軸遺存部分で 0.71m を測る。断面形はやや歪んだ皿状で、確認面からの深さは最大 0.19m である。覆土は粘質シルトの単層であり、炭化物が多量に含まれる。遺物は出土していない。

SK641 (図版 14・27、写真図版 21)

13H16・21 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVI層上面で、確認面精査では SD493・SD539 のプランが本遺構のプランを切る状態で確認されている。SD493・SD539・P642 に切られるが、P642 は本遺構掘削直前にかろうじてプランを確認したものである。上端の平面形は北東—南西方向に長い梢円形であり、長軸 2.00m、短軸 0.85m を測る。断面は平坦な底面から壁がやや急な角度で立ち上がる。北東側がやや深く、確認面からの深さは最大 0.23m である。覆土は黒色・黒褐色砂質土が主体で、3 層に分層される。レンズ状堆積がみられ、上半（1・2 層）に炭化物が少量含まれる。古墳時代の土師器小片が 1 点出土している。

SK650 (図版 13・26、写真図版 21)

10J21・11J1 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができ、P826 と並んで検出された。SX926 を切っている。上端の平面形は南西—北東方向に長い梢円形であり、長軸 1.28m、短軸 0.97m を測る。南西側がやや深く確認面からの深さは最大 0.31m である。下端の平面形も同じ方向に長い梢円形であり、平坦な底面からカーブを描きながら立ち上がる。覆土は黒色砂質土を主体で、4 層に分層される。南西に寄ったレンズ状堆積がみられ、上部を中心とした広範囲に炭化物が一定量含まれる（1～3 層）。古代の土師器小甕（47）が出土している。

SK815 (図版 15・28、写真図版 21)

15F17・18 グリッドに存在する土坑である。暗渠によって大部分を壊されており、暗渠溝の壁に現れていたものである。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。規模は不明であるが、円形か梢円形を描くものであろう。断面は底面と壁の境が明瞭ではなく、平坦な底面から緩やかに立ち上がる。遺存部分での深さは確認面から 0.22m である。覆土は黒色・黒褐色砂質土で、2 層に分層される。レンズ状堆積がみられるが、いずれの層も炭化物は含まれない。遺物は出土していない。

SK825 (図版 14・28、写真図版 22)

15F4・5・9・10・14・15、15G1・6 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。SK1023 を切り、P741・P796・P814 に切られている。P831・P1035・P1036 は完掘後に底面で確認されたもので、本遺構より古い。上端の平面形は東西方向がやや長い楕円形であり、長軸 3.96m、短軸 3.40m を測る。断面は凸凹がある広い底面から壁が緩やかに立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.20m である。覆土は黒色砂質土で、3 層に分層される。南北方向では水平堆積、東西方向で緩やかなレンズ状堆積がみられ、上半（1 層）に炭化物が一定量含まれる。土器が 30 点以上出土しており、古代の須恵器有台杯（39・40）、杯蓋（41）、土師器無台杯（42～46）、時代不明の土師器細・小片がみられる。

SK912 (図版 13・27、写真図版 22)

10I20、10J16 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVI層上面であるが、プランが検出できなかった。SI307 の壁に現れている覆土によって認識されたものである。下層遺構の中に本遺構があるため、下遺構の覆土が壁となる上半の検出は困難であった。北側を SI307・SB2003-P113 に切られている。上端の平面形は南北方向にやや長い楕円形であり、長軸 1.10m、短軸遺存部分で 1.03m を測る。断面は変形した擂鉢状で、確認面からの深さは最大 0.42m である。覆土は黒色砂質土が主体で、6 层に分層される。細かい堆積がみられ、上部の広範囲（1～3・5 層）に炭化物がわずかに含まれる。遺物は出土していない。

SK919 (図版 13・28、写真図版 22)

11I23・24、12I3・4 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。南西側で P843 に切られている。上端の平面形は東西方向に楕円形としたが、歪んでいる。長軸 1.68m、短軸 1.55m を測る。断面は平坦な底面から壁が緩やかに立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.17m である。覆土は黒色砂質土の単層で、炭化物がわずかに含まれる。古代の土師器長甕 A2 類を含む小片が 5 点と土製の紡錘車（453）が出土している。

SK923 (図版 12・28、写真図版 22)

9J18・19・23・24 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVI層上面であるが、プランが不明瞭であり、何回も査定作業を行う中でからうじて検出したものである。上端の平面形は北東～南西方向に長い卵型をした楕円形であり、長軸 2.40m、短軸 1.86m を測る。断面は壁の中腹に段があり、底面は平坦で上端に比べてかなり小さく、長軸 0.70m、短軸 0.62m の北西～南東方向にやや長い楕円形である。確認面からの深さは 0.55m である。覆土は黒色砂質土が主体で、7 层に分層される。レンズ状堆積がみられ、上半のいくつかの層（1・2・4 層）に炭化物が少量含まれる。土師器が 20 点近く出土しており、古墳時代の土師器壺（38）・甕がみられる。

SK935 (図版 12・29、写真図版 23)

9K3・8 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面である VI 層上面が削平されており、下層の確認面（VII 層上面）での検出であった。プランは比較的明瞭であるが、下層遺構（SK936）を切っている西側は壁の検出が困難であった。上端の平面形は楕円が一部飛び出たような不定形で、北東～南西方向を長軸とした。長軸 1.46m、短軸 1.42m を測る。断面は緩い段をもつ底面から延びた壁が、急な角度で立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.48m である。覆土は下部に基盤層砂が多量に流入した層がみられるが、黒色砂質土が主体で、7 層に分層される。細かいレンズ状堆積がみられるが、いずれの層も炭化物を含まない。遺物は出土していない。

SK939 (図版 13・29、写真図版 23)

10J10・15 グリッドに存在する土坑である。南東側 1/3 を暗渠によって壊されている。暗渠溝の壁に現れており、遺構確認面はVI層上面でプランが検出された。上端の平面形は円形に近い楕円形であろう。北東～南西方向を長軸として、1.06m、短軸遺存部分で 0.73m を測る。断面は丸みをもった平底から壁が緩やかに立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.20m である。覆土は黒色砂質土で、2 層に分層される。レンズ状堆積がみられ、最上層（1 层）に炭化物が含まれる。遺物は出土していない。

SK947 (図版 12・29、写真図版 23)

8K19・20・24・25 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVI層上面で、SX961 に先行してほぼ全体のプランを確認することができた。SX961 の南側の一部を切っている。上端の平面形は径 1.5m 前後の正円形に近い円形である。広い平坦な底面から緩やかに立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.17m である。覆土は黒褐色砂質土が主体で、3 層に分層される。レンズ状堆積がみられるが、いずれの層も炭化物を含まない。遺物は出土していない。

SK948 (図版 12・29、写真図版 23)

8K18・23 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面であるVI層上面が削平されており、下層の確認面（VII層上面）での検出であった。確認面精査では比較的明瞭にプランが検出された。上端の平面形は変形した円形で、長軸 1.30m、短軸 1.16m を測る。断面は平坦な底から壁が緩やかに立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.24m である。覆土は黒色砂質土が主体であり、3 层に分層される。レンズ状堆積がみられるが、いずれの層も炭化物を含まない。古墳時代の土師器小片が 1 点出土している。

SK950 (図版 12・29、写真図版 24)

8K21・22、9K1・2 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面であるVI層上面が削平されており、下層の確認面（VII層上面）での検出であった。プランは不明瞭で、半蔵の段階で拡大したものである。上端の平面形は北西—南東方向にやや長い楕円形であり、長軸 2.30m、短軸 1.77m を測る。断面は底面と壁との境が不明瞭で、凸凹がある広い底面から壁が緩やかに立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.27m である。覆土は黒色砂質土が主体で、4 层に分層される。緩やかなレンズ状堆積がみられるが、いずれの層も炭化物を含まない。時代不明の土師器細・小片が 3 点出土している。

SK1023 (図版 14・28、写真図版 24)

15G6 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVI層上面であるが、プランの検出ができず、SK825 の壁に現れている覆土によって認識されたものである。西側を SK825 に切られている。上端の平面形は径 1.7m 前後の円形と思われる。長軸 1.69m、短軸遺存部分で 1.85m を測る。断面はやや凸凹した底面から壁が斜め方向に立ち上がるが、底面との境が明瞭ではない。確認面からの深さは最大 0.22m である。覆土は黒色砂質土が主体で、3 层に分層される。西側を半分欠落しているが、レンズ状と思われる堆積状況があり、広範囲に炭化物を一定量含む。古墳時代・古代の土師器が 3 点出土している。

4) 溝状遺構 (SD)**SD61** (図版 13・30、写真図版 24)

10I18～20 グリッドに存在する溝状遺構である。遺構確認面はVI層上面で、他の遺構に先行してほぼ全体のプランを確認することができた。SI307、SB2003-P130、SB2004-P410、P65 を切っている。長さ 3.60m、幅 0.27～0.30m で、北西—南東方向 (N-68°-W) に走る。同じような形状の SD62・SD106 と同方向・等間隔で並ぶ。断面は場所によって U 字形あるいは V 字形を呈し、確認面からの深さは最大 0.12m である。覆土は黒色・黒褐色砂質土が主体で、2 层に分層される。レンズ状堆積がみられ、上層 (1 層) に炭化物が多量に含まれる。古代長甕 A2 類を含む土師器が 7 点出土している。

SD62 (図版 13・30、写真図版 24・25)

10I14・15 グリッドに存在する溝状遺構である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。SI307、SB2004-P393・P410、P894 を切っている。長さ 2.54m、幅 0.25～0.30m で、北西—南東方向 (N-69°-W) に走る。同じような形状の SD61・SD106 と同方向・等間隔で並ぶ。断面は場所によって U 字形あるいは V 字形を呈し、確認面からの深さは最大 0.16m である。覆土は黒褐色砂質土の単層で、炭化物が少量含まれる。時代不明の土師器小片が 1 点出土している。

SD63 (図版 13・30、写真図版 24・25)

10I17~19・24・25 グリッドに存在する溝状遺構である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。SB2004-P244・P302・P511 を切り、P81・P87 に切られている。長さは遺存部分で 6.95m、幅 0.15~0.26m で、北西~南東方向 (N-68°-W) に走る。北東側に並ぶ SD61・SD62・SD106 と同方向である。断面は場所によって U 字形あるいは V 字形を呈し、確認面からの深さは最大 0.10m である。覆土は黒褐色砂質土の単層あるが、炭化物を含まない。古代長甕 A2 類を含む土師器が 4 点出土している。

SD64 (図版 13・30、写真図版 25)

10I25、11I5・9・10・14・19 グリッドに存在する溝状遺構である。遺構確認面はVI層上面で、他の遺構に先行してほぼ全体のプランを確認することができた。切り合い関係がある遺構については、本遺構がすべて切っている。長さ 7.70m、幅 0.23~0.26m で、北東~南西方向 (N-22°-E) に走る。断面は場所によって U 字形あるいは V 字形を呈し、確認面からの深さは最大 0.18m である。覆土は黒褐色砂質土の単層で、炭化物が少量含まれる。胎土 A 群と思われる須恵器杯類が 1 点出土している。

SD70 (図版 13・30、写真図版 24・25)

10I8・9・12・13・17 グリッドに存在する溝状遺構である。遺構確認面はVI層上面で、他の遺構に先行して、ほぼ全体のプランを確認することができた。SI307、SB2002-P245、SB2004-P511・P514 を切っている。長さ 5.25m、幅 0.20~0.22m で、北東~南西方向 (N-41°-E) に走る。断面は場所によって U 字形あるいは V 字形を呈し、確認面からの深さは最大 0.11m である。覆土は黒褐色砂質土が主体で、2 層に分層される。レンズ状堆積物がみられ、炭化物が少量含まれる。遺物は出土していない。

SD106 (図版 13・30、写真図版 24・25)

10I9・10・15 グリッドに存在する溝状遺構である。遺構確認面はVI層上面で、他の遺構に先行してほぼ全体のプランを確認することができた。SI307 を切っている。トレンチによって南東側が壊されており、長さは遺存部分で 3.17m、幅 0.22~0.25m で、北西~南東方向 (N-66°-W) に走る。同じような形状の SD61・SD62 と同方向、等間隔で並ぶ。断面は場所によって U 字形あるいは V 字形を呈し、確認面からの深さは最大 0.25m である。覆土は黒色・黒褐色砂質土が主体で、2 層に分層される。レンズ状堆積物がみられ、上層に炭化物が多量に含まれる。古墳時代や時期不明の細・小片が 7 点出土している。

SD493 (図版 14・27、写真図版 25・26)

13G20、13H16・17 グリッドに存在する溝状遺構である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。東側を暗渠によって埋められているが、調査区外へ続いている可能性がある。SK641 を切っている。長さは遺存部分で 4.95m、幅は 0.23~0.28m で東西方向 (N-89°-W) に走る。断面は U 字形を呈し、確認面からの深さは最大 0.25m である。覆土は黒色砂質土が主体で、3 層に分層される。U 字形・レンズ状堆積物がみられ、広範囲に炭化物を少量含む。土師器が 6 点と胎土 C 群と思われる須恵器杯類が 1 点出土している。

SD538 (図版 13・31、写真図版 26)

11H8・9 グリッドに存在する溝状遺構である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。SX71 に切られている。長さは 0.73m、幅は遺存部分で 0.15~0.23m で、南北方向 (N-20°-W) に走る。断面は浅い U 字形で、確認面からの深さは最大 0.13m である。覆土は黒色砂質土が主体で、2 層に分層される。斜め方向に堆積しており、上層 (1 層) を中心に炭化物が多量に含まれる。遺物は出土していない。

SD539 (図版 14・27、写真図版 26)

13H11・12・16 グリッドに存在する溝状遺構である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。SK641 を切っている。長さ 1.85m、幅 0.15~0.17m で、北東~南西方向 (N-29°-E) に走る。断面は U 字形を呈し、確認面からの深さは最大 0.13m である。覆土は黒色砂質土が主体で、2 層に分層される。レンズ状堆積物がみられ、覆土の大部分を占める 1 层にわずかに炭化物が含まれる。古墳時代の土師

器細・小片が2点出土している。

SD747 (図版14・30、写真図版26)

14F25、14G21グリッドに存在する溝状遺構である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。長さ2.00m、幅0.18~0.23mで、ほぼ東西方向(N-85°-W)に走る。断面はU字形あるいはV字形を呈し、確認面からの深さは最大0.14mである。覆土は黒褐色砂質土が主体で、2層に分層される。レンズ状堆積がみられるが、いずれの層も炭化物を含まない。遺物は出土していない。

SD962 (図版12・32、写真図版27)

8K13・14グリッドに存在する溝状遺構である。SX867の底面で検出されており、ほぼ全体のプランを確認することができた。SX867に切られるとしたが、同じ遺構の可能性も否定できない。長さ1.72m、幅0.31~0.38mで、東西方向(N-86°-E)に走る。断面はU字形で、中央部分に浅い窪みがみられる。確認面からの深さは最大0.22mである。覆土は黒褐色砂質土が主体で、2層に分層される。レンズ状堆積がみられるが、いずれの層も炭化物を含まない。SX867との覆土とは異なる。古墳時代の土師器小片が1点出土している。

SD1009 (図版14・30、写真図版26)

12H24・25グリッドに存在する溝状遺構である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。長さ2.42m、幅0.20~0.25mで、北東-南西方向(N-66°-E)に走る。断面はU字形あるいはV字形で、確認面からの深さは最大0.15mである。覆土は黒色砂質土の単層で、炭化物を少量含む。古代の土師器と思われる小片が1点出土している。

5) 檻 列 (SA)

SA3001 (図版13・30、写真図版27)

10・11I・Jグリッドに存在する柵列である。9基のビット(東からP321・P940・P385・P386・P388・P505・P502・P515・P516)で構成されるものとした。遺構確認面はVI層上面で、各ビットともほぼ全体のプランを確認することができた。P388を中心にして南西と北西でそれぞれ4基のビットがほぼ等間隔で並ぶ。柵列の長さは7.44mで、向きは北東-南西方向(N-54°-E)である。各ビットは径0.21~0.40mの円形・楕円形で歪んだものもある。これらの確認面からの深さは0.19~0.25mである。断面は半円状あるいはU字形を呈す。覆土は黒色砂質土が主体で、2層か3層に分層される。炭化物を少量含むものが多い。2基のビット(P321・P940)から合わせて10点前後の古墳時代や時代不明の土師器が出土している。

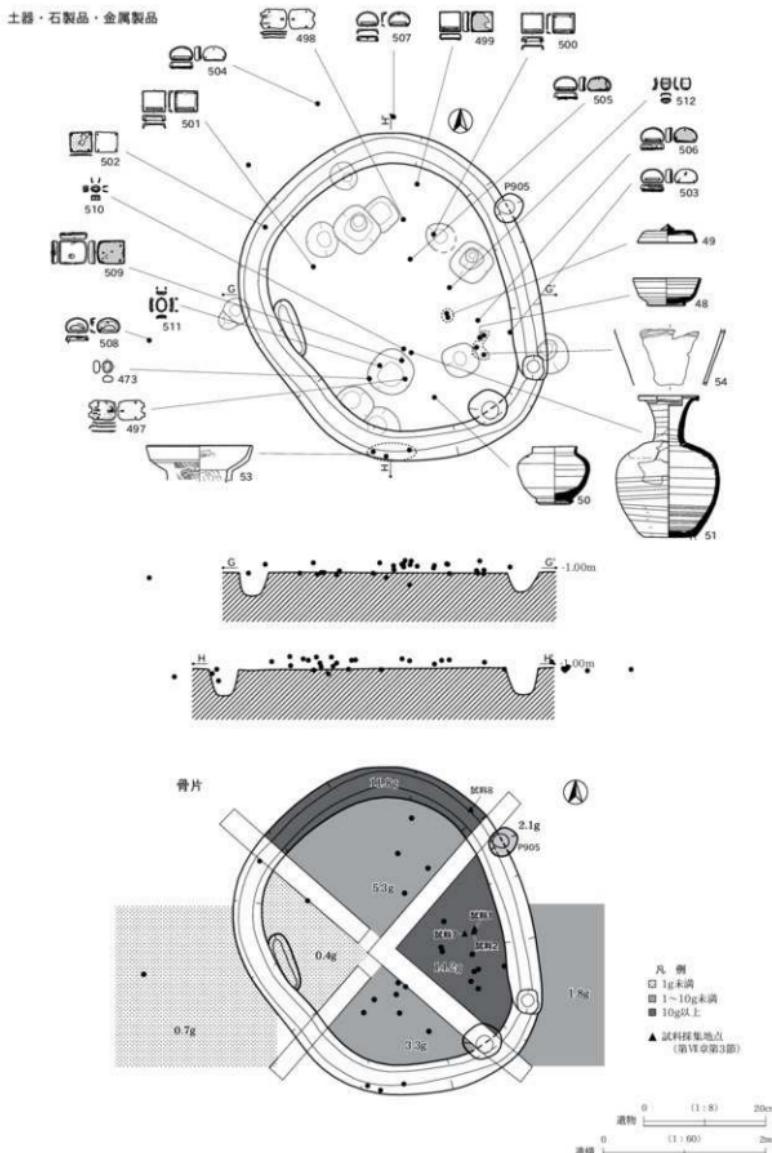
6) 不 明 遺 構 (SX)

SX59 (図版12・31、写真図版27)

9J4・5・9・10グリッドに存在する不明遺構である。遺構確認面であるVI層上面が削平されており、下層の確認面(VII層上面)での検出であった。確認面精査では東側はプランが検出されたが、西側は不明瞭であった。上端の平面形は北東-南西方向に長い楕円形であり、長軸3.51m、短軸2.08mを測る。断面は広い平坦な底面から壁が緩やかに延びながら立ち上げる。確認面からの深さは最大0.19mである。覆土は黒色砂質土が主体で3層に分層される。水平堆積に近いレンズ状堆積がみられ、上半の1・2層に炭化物が含まれる。古代土師器長甕A2類や時代不明の土師器細・小片が出土している。

SX71 (図版13・31、写真図版6・28・31)

11Hグリッドに存在する遺構である。遺構確認面はVI層上面で、周溝のプランが部分的にしか検出されず、断面でも不明瞭な部分が多くあった。上層包含層(V層)を掘削している段階で、副葬品と思われる遺物が周溝の内側とその周辺から出土している。本来は周溝とその内側の盛土(埴丘)によって構成される墓と思われるが、溝のみの遺存のため「SX」を付与した。P643・P905が本遺構を切っており、P905の覆土には多量の焼人骨が混入している。また、SD538を切るとしたが、覆土が炭化物を多量に含んでいることから、本遺構にかかるもの(同時期)とも考えられる。SB1009-P1012が周溝に切られているが、この他に周溝の内側で検出された

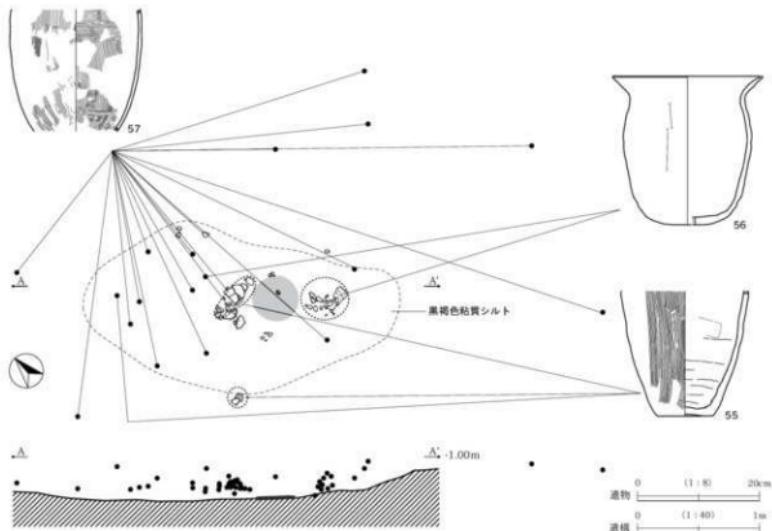


第8図 SX71 遺物出土状況

遺構もすべて本遺構より古いと考える。周溝は梢円形に巡り、その規模は長軸4.08m、短軸3.51mである。長軸の方向は、北西-南東(N-32°W)と捉えた。副葬品と思われる遺物が周溝の内側とその周辺から出土している(第8図)。副葬品が安置されていたと思われる盛土部分が破壊を受けて周間に散らばったものと思われる。また、骨も細片であるが出土しており、分析により「焼人骨」であることが確認されている(第V章第3節)。周溝は上端の幅は0.34~0.40m、深さは0.42mである。南東部分がやや浅い。溝の断面形はU字形を呈しており、概ね2~3層のレンズ状堆積が捉えられるが、細かい堆積がみられるところもある。溝の覆土は黒色砂質土が主体で炭化物が含まれる。須恵器有台杯(48)・壺蓋(49)、短頸壺(50)・長頸壺(51)、土師器長甕(52)、弥生土器壺(53)、繩文土器深鉢(54)、腰帶金具(497~509、513・514)、刀子金具(510~512)、玉類(473)、焼人骨の他に、土師器細・小片が約60点出土している。土師器細・小片は周溝出土のものが多く、古墳時代の土師器壺・古代の土師器長甕A2類等や時代・器種不明のものがみられる。

SX100(図版13・32、写真図版29)

10H21~23・11H1~3グリッドに存在する遺構である。遺構確認面はVI層上面で、地面の被熱(焼土)、カマド材と思われる粘質シルト、被熱した土器などが確認された。住居に伴うカマドの可能性がある。P312・P313は完掘後にプランが検出されたもので、本遺構より古い。0.4×0.3mの梢円形に広がる焼土があり、その両脇に多くはないが被熱が著しい土器がまとまって出土している。それを完全に覆って黒褐色の粘質シルトが北西-南東方向で広がっており、その範囲は長さ2.6m、幅1.3mである。断面ではそれが部分的に地面まで達しているのがみられ、カマドの袖部分と捉えられるかもしれない。黒褐色粘質シルトはしまっているが、硬化は強くない。炭化物はほとんどの層でみられ、焼土直上の8層に最も多く含まれる。掘り込みは、黒褐色粘質シルトがあるあたりで深いものがみられたが、その底面は周辺の低い地面とほぼ同じレベルであるため、壁を捉えることができなかった。土器が70点近く出土しており、古代の土師器長甕(55~57)や古代の土師器長甕A2類などがみられる。



第9図 SX100 遺物出土状況

SX478 (図版 13・32、写真図版 29)

12G8・9・13・14 グリッドに存在する性格不明の遺構である。遺構確認面はVI層上面である。本遺構を切るピットが集中しており東側のプランは不明瞭であったが、SX541 に先行してかうじてプランを確認することができた。SX541 を切り、P372・P373・P374・P377・P378・P379・P429・P442・P447・P479 に切られている。上端の平面形は北東～南西方向に長い歪んだ梢円形で、長軸 2.10m、短軸 1.86m を測る。底面は凸凹があり、確認面からの深さは最大 0.30m である。覆土は黒褐色砂質土が主体で 3 層に分層され、レンズ状堆積がみられる。薄く堆積している最上層（1 層）のみ炭化物が一定量含まれる。遺物は出土していない。

SX541 (図版 13・32、写真図版 29)

12G9・10・14・15 グリッドに存在する性格不明の遺構である。遺構確認面はVI層上面で、プランが不明瞭であった。P563 を切り、SX478・P423・P442・P447・P450・P462・P560 に切られている。上端の平面形は南北方向に長い歪んだ梢円形であり、長軸 2.95m、短軸 遺存部分で 1.59m を測る。底面と壁の境は不明瞭で、凸をもちらながら弧状に立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.19m である。覆土は黒褐色砂質土が主体で、2 層に分層される。レンズ状堆積がみられ、上半（1 層）に炭化物が多量に含まれる。古墳時代の土師器細・小片が 4 点出土している。

SX573 (図版 14・26、写真図版 29)

13G7～9・12～14 グリッドに存在する性格不明の遺構である。遺構確認面はVI層上面で、プランが不明瞭であった。セクションラインあたりで不整円形のプランを確認したが、掘削している段階で西側に広がることがわかった。SK597・SX605 に切られている。P683・P690 は完掘後に底面で検出されたもので、本遺構より古い。上端の平面形は東西に長い不定形で、長軸 遺存部分で 3.38m、短軸 2.34m を測る。断面はほぼ水平な底面から壁が緩やかに立ち上がる。確認面に高低差があるため確認面からの深さは場所によって異なるが、底面はほぼ水平である。確認面からの深さは最大 0.26m である。覆土は黒褐色砂質土が主体で、2 层に分層される。緩いレンズ状堆積がみられ、東側に片寄る 1 層に炭化物が多量に含まれる。須恵器無台杯(58)、土師器小甕(59)・鍋(60)・短胴壺(61)、古墳時代の土師器(62)の他に、古代の土師器長甕 A2 類を含む土師器細・小片が 30 点近く出土している。土師器細・小片には、古代の土師器長甕 A2 類や時代・器種不明の土師器がみられる。

SX605 (図版 14・26、写真図版 30)

13G6・7・11・12 グリッドに存在する性格不明の遺構である。遺構確認面はVI層上面で、プランが不明瞭であり、トレンチでの土層確認により捉えたものである。SX573 を切り、P559 に切られている。P745・P746 は完掘後に底面で検出されたもので、本遺構より古い。上端の平面形は南北に長い不定形で、長軸 3.40m、短軸 2.43m を測る。断面形は西側がやや深い平坦な底面で、底面と壁との境はやや不明瞭である。確認面からの深さは最大 0.35m である。覆土は黒～黒褐色砂質土が主体で、4 层に分層される。下半が水平堆積、上半が緩いレンズ状堆積をみせる。西側に片寄る 1 层に炭化物がわずかに含まれる。土師器長甕(63)の他に、30 点以上の土師器小片が出土しているが、ほとんどが古代の土師器長甕 A2 類の体部片である。

SX867 (図版 12・32、写真図版 30)

8K12～14・17～19 グリッドに存在する性格不明の遺構である。遺構確認面であるVI層上面が削平されており、下層の確認面（VII層上面）での検出であった。プランは不明瞭である。底面で SD962・P956 が検出されており、本遺構が切っていると捉えた。上端の平面形は東西方向に長いやや歪んだ梢円形で、長軸 3.20m、短軸 2.23m を測る。底面と壁の境は不明瞭で、広い平坦な底面から緩やかに立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.16m である。覆土は黒色砂質土が主体で、2 层に分層される。緩やかなレンズ状堆積がみられ、上半に炭化物が多量に含まれる。須恵器杯蓋(64～66)、古墳時代甕(67)の他に、30 点以上の土師器細・小片が出土している。ほとんどが古墳時代の土師器細・小片である。

SX926 (図版 13・26、写真図版 30)

10J16・17・21・22 グリッドに存在する性格不明遺構である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。SK399・SK650・P645・P826 に切られている。上端の平面形は歪んだ形で、南西—北東方向に長軸がある。長軸 2.10m、短軸 1.97m を測る。断面形は浅い皿状であり、確認面からの深さは最大 0.10m である。覆土は黒褐色砂質土の単層で炭化物等はみられず自然の産みともれるが、上部が削平されている可能性もあるため、ここでは遺構として扱った。遺物は出土していない。

SK961 (図版 12・29、写真図版 31)

8K14・15・19・20 グリッドに存在する性格不明遺構である。遺構確認面はVI層上面で、プランが不明瞭であった。南側を一部 SK947 に切られている。上端の平面形は台形に近い楕円形で、長軸 2.21m、短軸 1.85m を測る。広い平坦な底面から緩やかに立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.17m である。覆土は黒褐色砂質土が主体で、2 層に分層される。緩やかなレンズ状堆積がみられるが、いずれの層も炭化物を含まない。古墳時代の土師器小片が 1 点出土している。

B 下層 遺構 (縄文・弥生・古墳時代の遺構)

1) 土 坑 (SK)

SK19 (図版 42・43、写真図版 32)

13E4・5・9・10 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVII層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。上端の平面形は南北方向に長いやや歪んだ楕円形で、長軸 2.67m、短軸 2.43m を測る。断面は底面と壁との境が不明瞭で、凹凸がある丸底面から壁が緩やかに立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.41m である。覆土は黒褐色砂質土と基盤層砂が混入した砂質土が主体で、5 層に分層される。乱れたレンズ状堆積がみられる。上層を中心に未分解有機物を含むが、炭化物は認められない。遺物は出土していない。

SK20 (図版 39・43、写真図版 32)

12F17・18・22・23 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVII層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。上端の平面形はやや歪んだ円形で、長軸 2.13m、短軸 2.08m を測る。凹凸がある平底から壁が緩やかに立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.27m である。覆土は黒褐色砂質土の単層で、炭化物をわずかに含む。約 110 点の古墳時代土師器片が出土しており、壺 (84・85) 類・甕 (86) 類がみられる。

SK689 (図版 39・43、写真図版 32)

12F23 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVII層上面で、プランがわかりにくく、部分的な確認しかできなかった。上端の平面形は南北方向に長い楕円形で、長軸 0.94m、短軸 0.86m を測る。断面はほぼ平坦な底面から斜め方向に立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.27m である。覆土は黒色砂質土が主体で 3 層に分層され、レンズ状堆積がみられる。上層 (1・2) に炭化物がみられるが、特に上面近くに多量に含まれる。古墳時代の土師器甕 (87) が 1 点出土している。

SK936 (図版 35・43、写真図版 32)

9K2・3・7・8 グリッドに存在する土坑である。東側を上層遺構に壊されている。遺構確認面はVII層上面で、不明瞭ながらほぼ全体のプランを確認することができた。上端の平面形はやや歪んだ円形で、直径 1.55m 前後を測る。平坦な底面から壁がやや急角度で立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.57m である。覆土は黒色砂質土が主体で 8 層に分層され、細かいレンズ状堆積がみられる。炭化物は含まれない。約 130 点の古墳時代の土師器片が出土しており、器台 (88・89) 類・鉢 (90) 類・壺 (91~95) 類・甕 (96~101) 類がみられる。

SK942 (図版 35・43、写真図版 33)

9K13・14・18・19 グリッドに存在する土坑である。豎穴住居の可能性もあったが、ここでは土坑として扱った。東側を暗渠に壊されている。遺構確認面はVII層上面で、不明瞭ながらほぼ全体のプランを確認することができた。

SD868・SX960を切っている。平面形は方形と思われ、そのコーナー部分が遺存している。平坦な底面から壁が比較的急角度で立ち上がる。確認面からの深さは最大0.32mである。覆土は黒色・黒褐色砂質土で2層に分層され、緩やかなレンズ状堆積がみられる。上半を占める1層に炭化物が少量含まれる。約60点の古墳時代の土師器片が出土しており、壺(102)類・甕(103~105)類がみられるが、この他に弥生土器片が1点出土している。

2) 溝状遺構(SD)

SD108 (図版35・38)

10・11J・Kグリッドを北東-南西方向に走る溝状遺構である。東側を暗渠に埋されているが、調査区外へ延びると思われる。遺構確認面はVII層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。P1050が底面で確認されており、P1050を切っていると思われる。幅が計測できるのは南端近くであり1.57mを測るが、北側はこの幅より大きいことが想像できる。西壁際の底面に壁に沿った浅い溝が検出されている。全長3.84m・幅0.81~1.10m・深さ0.10m前後を測る。断面は比較的平坦な底面から壁がやや急角度で立ち上がる。確認面からの深さは最大0.37mである。覆土は黒色・黒褐色砂質土が主体で、3層に分層される。水平に近いレンズ状堆積がみられ、上半に炭化物が一定量みられる。約210点の古墳時代の土師器片が出土しており、鉢(106)類・甕(107・108)類・手捏ね土器(109)類がみられる。

SD109 (図版34~42、写真図版33・34)

8~15F-Lグリッドを概ね北東-南西方向に走る溝状遺構である。北東端部側を暗渠に埋されているが、調査区内で収まる可能性もある。南西側は調査区外へ延びる。10・11Iグリッドで上層遺構に切られている。遺構確認面はVII層上面で、11グリッドライン以北では全体の平面プランが不明瞭ながら確認できたが、それ以南ではところどころしか確認することができなかった。10JグリッドでSD1018を、13・14GグリッドでSD1051・SD1052を切っており、また、10・11IグリッドでSD110に、11I・12H・15FグリッドでSD925に切られている。SX946・SX960との切り合い関係は不明である。方位は10Iグリッドあたりで変化しており、北東側はN-50°-E、南西側はN-38°-Eを指す。全体でみると地形(標高)に合わせたように走っている。また、方位の変換点あたりを境にして溝の幅が異なり、北東側は1.77~2.95m、南西側0.77~1.42mを測る。幅の広い方には、底面に低い段や西壁に沿った浅い溝がみられる。断面は、北東側は段や溝があるものの概ね平坦な底面で、壁はやや急角度で立ち上がるところが多い。確認面からの深さは最大で0.77mである。底面標高は相対的に南西側が高く、北東側との比高差は0.30~0.40mである。覆土は、上半は黒色・黒褐色砂質土、下半は黒褐色砂質土・オリーブ黒色砂(基盤層)の混合が主体で、最大で7層に分層される。水平堆積に近いレンズ状堆積がみられ、北東側で上半に炭化物がわずかに含まれるところもあるが、南西側はほとんど含まれない。約560点の古墳時代の土師器片が出土しており、器台(110~112)類・高杯(113)類・甕(114~116・122)類・甕(117~121・123)類がみられるが、この他に弥生土器(124)・繩文土器(125)が出土している。

SD110 (図版36~42、写真図版34~35)

9~15E-Jグリッドを概ね北東-南西方向に走る溝状遺構である。南西側は調査区外へ延びる。10・11H・Iグリッドで上層遺構に切られている。遺構確認面はVII層上面で、平面プランがわかりにくく、確認できたのは10グリッドライン以北で、それ以南では部分的な確認しかできなかった。11IグリッドでSD109をわずかに切る。方位はところどころわざわざに異なるようであるが、全体でN-39°-Eを指す。幅は場所によって大きく異なるが、その状況に規則性や周辺遺構との対応関係はみられない。10Iグリッドでは0.70~1.64m、13Gグリッドでは5.09mである。11~12Hグリッドでは東壁際の底面に壁に沿った浅い溝(全長6.70m・幅0.76m・深さ0.1m)がみられる。北側が二股に分かれている。ところどころ段や崖みがみられるが、概ね平坦な底面から壁がやや急角度で立ち上がるところが多い。確認面からの深さは最大で0.35mである。底面標高は12Gグリッド付近がもっとも深い(-1.57m)が、そこ以外はほぼ同じ(-1.40m前後)である。覆土は、上半は黒色・黒褐色砂質土、下半は黒褐色砂質土・オリーブ黒色砂(基盤層)の混合が主体で、最大で5層に分層される。水平堆積に

近いレンズ状堆積がみられ、上半に炭化物がわずかに含まれるところもある。約120点の古墳時代の土師器片が出土しており、高杯（126・127）類・器台（128）類・鉢（129）類・壺（130～132）類がみられる。

SD111（図版35・36、写真図版35）

8・9J・Kグリッドを北東一南西方向に走る溝状遺構である。確認面はVII層上面で、不明瞭ながらほぼ全体のプランを確認することができた。溝状遺構の中では最も低い位置にある。P965を切っている。方位はN-31°-Eを指す。全長16.97m、幅1.53～2.52mを測る。断面形は緩やかな弧状を描き、壁がやや急角度で立ち上がる。確認面からの深さは最大で0.28mである。底面標高は北東側がわずかに高いが、その差は0.10m前後である。覆土は黒色・黒褐色砂質土が主体で、3層に分層される。緩いレンズ状堆積がみられ、上層（1層）に炭化物がわずかに含まれる。約90点の古墳時代の土師器片が出土しており、壺（133・134）類・壺がみられる。

SD868（図版35・36、写真図版35）

9・10J・Kグリッドを概ね北東一南西方向に走る溝状遺構である。北東端部側を暗渠に埋されているが、調査区外へ続くと思われる。遺構確認面はVII層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。SK942に切られているがSX946・SX960との切り合い関係は不明である。方位はN-48°-Eを指す。本遺構に近いSD109の北東部に近い方位である。幅は0.43～1.21mで一樣でなく南西端近くは細い。西壁際の底面に壁に沿った浅い溝（全長13.68m・幅1.65m・深0.14m）がみられる。壁の立ち上がりは比較的急角度である。確認面からの深さは最大で0.65mである。覆土は黒色・黒褐色砂質土主体で、5層に分層される。斜め方向の堆積がみられ、上部の一部（1層）に炭化物をわずかに含む。約20点古墳時代の土師器片が出土しており、壺（135）類や壺がみられる。

SD871（図版34・36、写真図版35）

7L・Mグリッドを南北方向に走る溝状遺構である。南側を暗渠に埋されているが、調査区外へ続くと思われる。遺構確認面はVII層上面で、不明瞭ながらほぼ全体のプランを確認することができた。南側でカーブを描くようであるが、その北側の方位はN-15°-Wを指す。幅は0.82～1.16mで大きく変わることはない。断面形は緩やかな弧状を描き壁はやや急角度で立ち上がる。確認面からの深さは最大で0.33mである。覆土は黒色砂質土で、2層に分層される。緩いレンズ状堆積がみられ、広範囲に炭化物が少量含まれる。古墳時代の土師器と思われる細片が2点出土している。

SD925（図版37～42、写真図版36）

10～15E～Jグリッドを概ね北東一南西方向に走る溝状遺構である。南西側は調査区外へ延びる。11I・12Hグリッドで上層遺構に切られている。遺構確認面はVII層上面で、平面プランがわかりにくく、確認できたのは12グリッドライン以北で、それ以南では部分的な確認しかできなかった。SD109・SD1000・SD1018・SD1052・P1004・P1005を切る。方位は15Fグリッドあたりで大きく変化し、北東側はN-37°-E、南西側はN-67°-Eを指している。幅は一定せず、1.17～4.95mである。北東側では西壁際の底面に壁に沿った溝（全長13.68m・幅1.65m・深さ0.10m）や同じ同方位の細い溝（全長8.39m・幅1.11m・深さ0.10m）がみられる。12・13Hグリッドの底面にみられる溝は本遺構内で収まっていることから一部としたが、方位がN-16°-Eを指し、本遺構に対して斜めとなるものである。断面では削れた線ではあるが分層され、また同じような方位のSD1051・SD1052がみられることから、別遺構の可能性もある。ところどころ段や崖みがみられるが、概ね平坦な底面から壁がやや急角度で立ち上がるところが多い。確認面からの深さは最大で0.73mである。底面標高は13Hグリッド付近がもっとも深く（-1.50～-1.60m）、その北東側が-1.40～-1.45m、南西側が-1.30～-1.35mである。覆土は、上半は黒色・黒褐色砂質土、下半は黒褐色砂質土・灰オリーブ砂（基礎層）の混合が主体で、最大で7層に分層される。水平堆積に近いレンズ状堆積がみられ、上部の一部に炭化物が少量含まれるところがある。約70点の古墳時代の土師器片と石鐵（459）が出土している。土器は土師器高杯（136）類・鉢（137）類・壺・壺がみられる。

SD984 (図版 37~42、写真図版 36・37)

10~15E~I グリッドを概ね北東~南西方向に走る溝状遺構である。南西側は調査区外へ延びる。10H・10I・11H・11G グリッドで上層遺構に切られている。遺構確認面はⅦ層上面で、平面プランがわかりにくく、確認できたのは 12 グリッドライン以北で、それ以南では部分的な確認しかできなかつた。13F グリッドで P1053 を切っている。方位は N-41°-E を指すが、14F グリッドあたりで部分的に変化する (N-25°-E)。幅は北東端側と南西側はやや細い (1.62~2.08m 前後) が、その間の幅は広く 2.25~3.81m である。北東側で西壁に沿った細い溝 (全長 18.61m・幅 0.77m・深さ 0.10~0.20m) や方位がほぼ同じ細い溝 (全長 5.68m・幅 0.50m・深さ 0.15 前後) がみられる。概ね平坦な底面から壁が斜め方向に立ち上がるが、急角度のところも少なくない。確認面からの深さは最大で 0.57m である。底面標高は南西側がわずかに高く、北東側との比高差は 0.10m 前後である。覆土は、上半は黒褐色砂質土、下半は黒褐色砂質土・オリーブ黒色砂 (基盤層) の混合が主体で、最大で 5 層に分層される。水平堆積やレンズ状堆積がみられ、上部の一部に炭化物が少量含まれるところがある。約 30 点の古墳時代の土師器片が出土しており、鉢 (138) 類・壺 (139~141) 類・甕 (142) 類がみられる。この他に時代は不明であるが繩文 (目) がついた土器小片 1 点が出土している。

SD1000 (図版 37・38、写真図版 37)

12H・I グリッドを北東~南西方向に走る溝状遺構である。両端部付近で上層遺構に切られている。遺構確認面はⅦ層上面で、不明瞭ながらほぼ全体のプランを確認することができた。P1031 を切るが、SD925 に西側のごく一部を切られている。方位は N-41°-E を指す。全長 8.20m、幅 1.24~1.78m を測る。円凸がある丸底から壁が斜め方向にそのまま立ち上がる。確認面からの深さは最大で 0.48m である。覆土は黒褐色砂質土が主体で、3 層に分層される。レンズ状堆積がみられるが、いずれの層も炭化物を含まない。遺物は出土していない。

SD1018 (図版 37・38)

10J グリッドに概ね東西方向に走る溝状遺構である。SD109・SD925 に切られており、両者の底面で確認されている。緩いカーブを描いているが、中心部での方位は N-48°-E を指す。全長 3.30m、幅 0.24~0.40m を測る。断面形は浅い U 字形で、遺存部分の深さは最大で 0.20m である。覆土は黒褐色砂質土を主体とする。レンズ状堆積がみられるが、炭化物を含まない。遺物は出土していない。

SD1021 (図版 39~42、写真図版 37)

11~14E~H グリッドに概ね北東~南西方向に走る溝状遺構である。南西側は調査区外へ延びる。11G グリッドで上層遺構に切られている。遺構確認面はⅦ層上面で、平面プランがわかりにくく、部分的な確認しかできなかつた。方位は緩い蛇行が何か所でみられるため場所によって異なるが、全体では N-25°-E を指す。幅は 14E グリッドラインあたりを境にして以北が 0.50~0.88m、以南が 1.35~1.79m である。やや丸みをもった平坦な底から壁が急角度で立ち上がる。確認面からの深さは最大で 0.40m であり、底面標高は概ね -1.55m 前後である。覆土は黒色・黒褐色砂質土が主体で、3 層に分層される。緩やかなレンズ状堆積がみられ、上部に炭化物を少量含むところもある。古墳時代の土師器壺の小片 1 点と器種不明の細片 1 点が出土している。

SD1051・SD1052 (図版 41・42、写真図版 37)

14G グリッドに南北方向に走る溝状遺構で、両者はほぼ平行である。遺構確認面はⅦ層上面で、不明瞭ながらほぼ全体のプランを確認することができた。SD109・SD925 に切られている。方位は SD1051 が N-9°-E、SD1052 が N-8°-E である。全長は不明であるが、両端が SD109・SD925 の中に収まっていると考えられ、比較的短い溝であろう。幅はほぼ一定で 0.65m 前後である。断面形は、SD1051 は半円形に近い U 字形であるが、SD1052 は平坦な底面から壁が急角度で立ち上がる。確認面からの深さは最大で SD1051 が 0.36m、SD1052 が 0.27m である。覆土はどちらも黒褐色砂質土が主体で、3 層に分層される。レンズ状堆積がみられるが、炭化物を含まない。SD1051 から古墳時代の土師器壺の小片 1 点が出土している。

3) 不明遺構(SX)

SX97(図版34、写真図版38)

8L11 グリッドに存在する土器集中か所である。下層包含層(VI層)掘削時に検出された。1.35m × 0.60m の範囲で土器が集中しており、2つのまとまりがみられるものの、その間に同一個体と思われるものが存在していたため一括とした。出土状況を第10図で示した。約70点の古墳時代の土師器片が出土しており、原形に近い形をとどめているものもある。土師器高杯(143)・甕(144~147)がみられるが、土師器甕の体部片が多い。

SX870(図版34・36、写真図版38)

7L24・25、8L3・4・5・8・9 グリッドに存在する性格不明遺構である。東側を暗渠に埋されている。遺構確認面はVII層上面で、不明瞭ながらほぼ全体のプランを確認することができた。ものである。平面形は不定形である。遺存部の北東-南西方向の規模は4.20mである。断面形は緩やかな弧状であり、確認面からの深さは最大0.23mである。覆土は3層に分層され、緩やかなレンズ状堆積がみられる。量は多くないが、すべての層に炭化物が含まれる。

5点の古墳時代の土師器片が出土しており、器台(148)・壺類・甕類がみられる。

SX946(図版35)

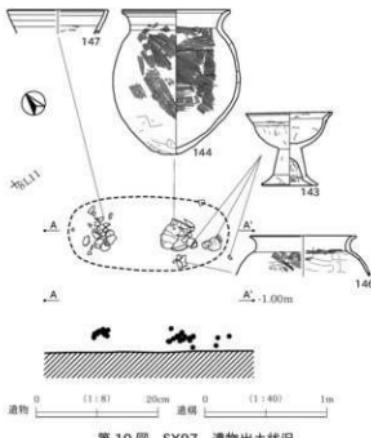
9J25、9K21、10J4・5・9・10、10K1 グリッドに存在する性格不明遺構である。遺構確認面はVII層上面であるが、全体のプランを確認できなかったものである。SD109を完掘後その壁で確認されたため、新旧関係は不明である。SD868・P933についても同じ。平面形はほぼ東西方向に長い歪んだ梢円形であると思われる。遺存部の長軸は5.90m、短軸は1.85mである。断面形は比較的平坦な底面からやや急角度で立ち上がる。確認面からの深さは最大0.40mである。覆土は2層に分層され、緩やかなレンズ状堆積がみられる。上半を占める1層に炭化物が少量含まれる。約130点の古墳時代の土師器片が出土しており、壺(149・150)類・甕(151・152)類がみられる。

SX953(図版35・36、写真図版38)

9J2・3・8・9・13 グリッドに存在する性格不明遺構である。遺構確認面はVII層上面で、不明瞭ながらほぼ全体のプランを確認することができた。上端の平面形は北西-南東方向に長いいやや歪んだ梢円形で、長軸4.68m、短軸1.14~1.37mを測る。断面はほぼ広い平坦な底面から斜め方向に立ち上がる。確認面からの深さは最大0.41mである。覆土は2層に分層され、緩やかなレンズ状堆積がみられる。上半を占める1層に炭化物が少量含まれる。約20点の古墳時代の土師片が出土している。

SX960(図版35・43、写真図版38)

9K9-10-14 グリッドに存在する性格不明遺構である。東側を暗渠に埋されている。遺構確認面はVII層上面で、不明瞭ながらほぼ全体のプランを確認することができた。SX942に切られているが、SD109・SD868との切り合いは不明である。平面形は不定形である。遺存部の確認面からの深さは最大0.17mである。覆土は3層で、緩やかなレンズ状堆積がみられる。量は多くないが、すべての層に炭化物が含まれる。遺物は出土していない。



第10図 SX97 遺物出土状況

第V章 遺物

今回の調査では土器・土製品・石器・石製品・金属製品・木製品・鍛冶関連遺物が出土している。その量はコンテナ（内径 54.5 × 33.6 × 10cm）にして約 125 箱であり、内訳は土器 114 箱、土製品 0.5 箱、石器・石製品・撒入罐 10 箱、金属製品 0.5 箱、柱根を含む木製品 1 箱である。II 層から出土している鎌倉時代後期と思われる漆器 1 点以外は、包含層（V・VI 層）と各層下面で検出される遺構から出土したものであり、縄文時代後期～平安時代の遺物がある。遺構出土遺物は少なく、上器でみると 1/3 ほどの 39 箱である。包含層掘削において出土した遺物は可能な限りトータルステーションによる記録を行ったが、分布状況が遺構の範囲内でまとまっているものは少ない。接合資料についてはその帰属の判断が難しいところであるが、遺構資料が含まれる場合には遺構出土遺物として扱い、複数の遺構資料が含まれる場合には、遺構の切り合い関係や破片数・破片の大きさで帰属を決めている。したがって、遺構出土となっている遺存率の高い遺物でも遺構からまとめて出土したとは限らない。接合関係は観察表に記載した。

掲載遺物のうち、土器については造出上資料を優先し、第IV章の造構順に準じて記載している。その他の遺物については量が少ないため器種ごとに掲載した。上層造構には、下層からの遺物の混入が認められ、それについても掲載している。各遺物の属性・情報については観察表(別表2)にまとめたが、特に注意される点や補足が必要なものは本文に記した。各項目の注意点は、別表2の最初に示している。

第1節 土 器

A 概 要

縄文土器（後期）、弥生土器（前・中・後期）、古墳時代の土師器（前・中期）、奈良・平安時代の須恵器・土師器、黒色土器が出土している。遺構が帰属する奈良・平安時代と古墳時代の土器が9割以上を占める。各時代の出土状況は図版7・8に示したとお

りである。土器は標高の高い範囲にみられるが、集中の仕方は時代で異なり、上層は遺構の集中しているところで土器が多く出土するが、下層は遺構のないところでも土器が多く出土している。

出土量の多い古墳時代と奈良・平安時代の土器は、その時代の一般的な器種が揃っているが、細かい時期区分でみた場合、偏りがみられる。在地あるいは近隣で製作されたものが主体と思われるが、古代の土器では東北の影響を持つ土師器が、古墳時代の土器では畿内の影響を持つ土器が一定量みられ、遺跡の性格に間

第2表 古代土器編年對照表

		京宮資料			
		春日 (1999)	坂井 (1984)	田嶋 (1998・88)	
700	古代前期	Ⅳ 1 期	I 期	Ⅲ 3 期	下小中山宮跡
		Ⅳ 2 期	Ⅱ 期		本郷新宿宮跡
		Ⅳ 1 期	Ⅱ 期	Ⅳ 1 期	山崎宮跡 桜橋宮跡
800	古代後期	Ⅳ 2 期	Ⅳ 2 期 (古)	貝塚宮跡	浅寺 1 号宮跡
		Ⅳ 3 期	Ⅳ 2 期 (新)		神田長町 1 号宮跡
		V 1 期	V 1 期	馬上室跡	
900	古代後期	V 2 期	V 2 期	猪尻室跡	今熊 1 号宮跡
		V 1 期	V 1 期		カメ畠室跡
		VI 2・3 期	VII 期	VII 2 期 VII 3 期	江の下宮跡
		VII 1 期	VIII 期	VII 1 期	高野

第3表 古墳時代十翼續年對照表

第3章 各時代別の主な古墳群		第4章 古墳の特徴とその変遷	
時代	名前	年	内訳
弥生時代	新潟シンボル坂井・川村(1993)	(坂井) 1993 (川村) 2000	(坂町編年) (田島) 1986
	3期		越内 (米内) 1993
	4期	I期最後	塙町 3群
	5期	II-1 期	塙町 4群 庄内 I
	6期	II-2 期	塙町 5群 庄内 II
	7期	II-3 期	塙町 6群 庄内 III
古墳時代 前期	8期	Ⅲ期	塙町 7群 庄内 IV
	9期	Ⅳ期	塙町 8群 志留 I
	10期		塙町 9群 志留 II
			塙町 10群 志留 III
古墳時代 中期		7段階	塙町 11群 志留 IV
		8段階	塙町 12群
		9段階	
		10段階	塙町 13群
		11段階	

係して注目される。

時期区分については、古代では春日真実氏による編年〔春日1999〕、古墳時代では「新潟シンポ編年」〔新潟県考古学会2000〕・「漆町編年」〔田嶋1986注〕を用いたが、各時代の研究者による成果も援用している（編年対照表参照）。

B 記 述

記述にあたって、『山三賀Ⅱ遺跡』〔坂井ほか1989〕を参考にして以下のように用語の整理をした。古代・古墳時代共通とする。

①ナデ・ケズリ・ハケメ・ミガキ・ヨコナデーロクロの回転を利用しない調整。

→圓化においてはケズリ・ミガキを模式化し、ケズリは移動した砂粒の終点を短線で区切った「—」（右から左へ）、ミガキは「↔」（横方向）とした。ただし、ミガキの痕跡が特徴的で明瞭に残るものについてはそれを実測している。また、ヨコナデはその範囲を実線で表した。

②ロクロナデ・ロクロケズリ・カキメーロクロの回転を利用した調整。

→圓化においてはカキメを定規線で表すことを原則としたが、回転が弱く一定しないカキメ（土師器長甕B1類）については、フリーハンドで表した。

③タタキメ・あて具痕—タタキ調整で外面と内面にみられる工具痕。観察表では技法名称として使用。

④底部のヘラ切り・糸切りーロクロの回転を利用したヘラや糸による切り離し。

また、部位名称がわかりにくいものや分類のために計測を行った部位については、器種分類図（第11図）の中で示した。

C 分 類

時代ごとに、製作技術や形態の特徴による器種分類を行った。分類表記は、器種内の大別をA・B・C…、細別を1・2・3…としたが、量が少ないものについては器種名のみ表記した。ローマ数字は法量による分類を表す。須恵器については、胎土にみられるいくつかの特徴が生産地を反映していると思われるため、その分類も行った（第11図中）。

1) 奈良・平安時代

8世紀初め～9世紀末（Ⅲ～Ⅵ期）の遺物がみられるが、施釉陶器は出土していない。須恵器・土師器・黒色土器が出土しており、土師器には赤彩が施されるものも少量みられる。また、墨書・刻書が施される食膳具がある。

須 恵 器

器種は、無台杯・有台杯・杯蓋・高杯・鉢・長頸壺・短頸壺・壺蓋・甕がみられる。胎土も生産地を想定した違いがみられ、5種に分けられる（第11図中の表）。

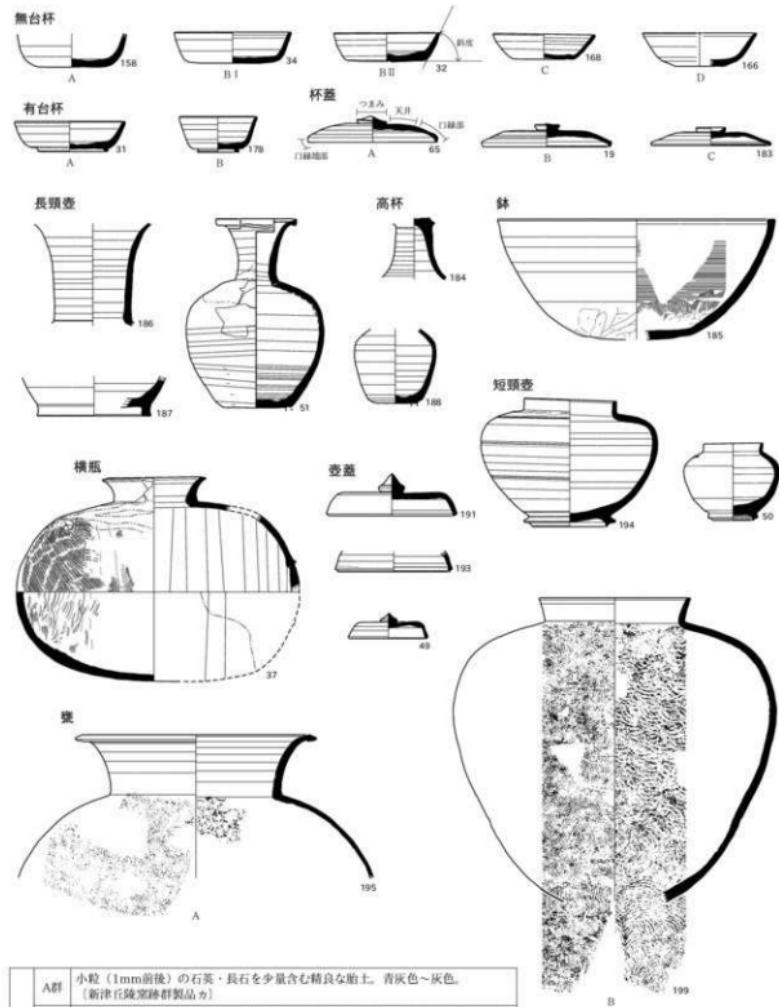
無 台 杯 体部の立ち上がりの角度（以下、斜度という）により3種に分けた。本遺跡では、斜度が急なものと緩やかなもので、胎土の違いをみることができる。底部の切り離しは、ロクロ回転を利用した「ヘラ切り」と「糸切り」があるが、「ヘラ切り」はその後にナデ調整がされ、痕跡がみられないものも多い。

A類：体部の斜度が70°以上のもの。

B類：体部の斜度が60～70°のもの。口径の大きさでI（口径13.5cm以上）とII（口径13.5cm未満）に分けられる。

第4表 須恵器無台杯体部斜度

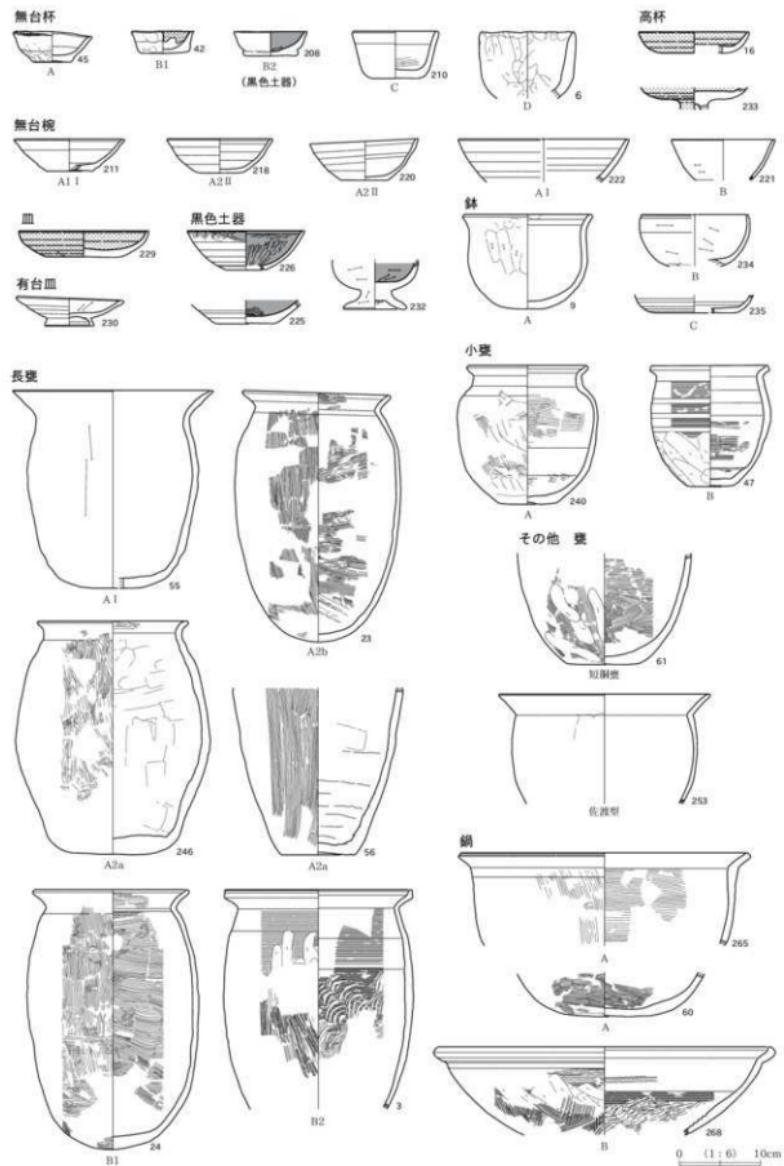
図版No.	報告No.	出土地点 (遺構名)	斜度 (°)	胎土 (群)
44	4	SI307	69°	B
44	17	SB2004-P393	59°	A
45	32	SK185	60°	A
45	33	SK185	65°	B
45	34	SK185	65°	A
46	36	SK243	62°	B
47	58	SK273	63°	A
52	158	10116他	71°	B
52	159	10117他	67°	A
52	160	10544他	60°	B
52	161	15F12	65°	A
52	162	13G10	65°	A
52	163	13H12他	61°	A
52	164	8K2	63°	B
52	165	13H17	55°	D
52	166	12G25他	55°	E
53	167	10J17	52°	C
53	168	12H24	50°	C
53	169	13G20他	52°	C
53	170	10H8他	53°	C
53	171	7L23	53°	C
53	172	9J18他	49°	C
59	271	14G8他	50°	C
59	272	11H15	50°	C
59	273	10J18	50°	C
59	274	13G17他	45°	C



須恵器の 胎土	A群	小粒（1mm前後）の石英・長石を少量含む精良な胎土。青灰色～灰色。 〔新津丘陵窯群製品か〕
	B群	大粒（2mm～5mm）の石英・長石を多量に含む相対的に粗い胎土。灰色～灰白色。 〔阿賀北地方窯群製品か〕
	C群	白色小粒子を多量に含むやや砂質感がある胎土。器面は滑らかで黒色の吹出しがみられる。青灰色～灰白色。 〔佐渡小泊窯群製品か〕
	D群	石英・長石を少量含む砂質の強い胎土。暗灰色～灰色。 〔西古志窯群製品か〕
	E群	白色小粒子を含む砂質感がある精良な胎土。暗灰色～灰色。 〔庵寺・大賀窯群製品か〕

195・199 (1 : 8) 10cm
0 (1 : 6) 10cm
その他

第11図 奈良・平安時代の須恵器器種・胎土分類



第12図 奈良・平安時代の土師器・黒色土器器種分類

C類：体部の斜度が 60° 未満のもの。

D類：底部から体部への立ち上がりがA～Cのような直線的ではなく、下部で丸みをみせながら立ち上がる。椀に近い器形である。

有台杯 高台の高さを除いた身の深さ(径高指数)により2種に分けたが、口径の大きさでの分類も同じになる。

A類：径高指数(器高-高台分/口径×100)が30未満の浅いもの。(口径は13cm以上)

B類：径高指数(器高-高台分/口径×100)が35以上の深いもの。(口径は12cm未満)

杯蓋 口縁端部の形態により3種に分けた。

A類：口縁端部が長く垂下するもの。

B類：口縁端部が短く垂下するもの。口縁端部の断面が逆三角形になるものが多い。

C類：口縁端部が短く収まるもの。口縁端部の断面が玉縁状である。

高杯 脚部だけが出土している。杯蓋を逆さまにした形態の杯部をもつと思われる。

長頸壺 長い頸部をもつ壺で、体部は球形のもの・やや長めのものがある。法量的には大形・中形・小形がみられる。

短頸壺 短い口縁部をもつ壺で、体部には張るものと張らないものがあり、法量的には大形・小形がみられる。小形はロクロ水挽きによる成形と思われるが、大形はタタキメが体部下部の外面にみられることから、製作技法の違いで分類できる可能性もある。

壺蓋 短頸壺等の蓋である。身に被せて焼成しており、双方にその接着痕がみられる。

横瓶 俵形の体部をもつ。体部の成形は、ロクロ長巻の成形技法によるものである。

鉢 1点のみ出土している。体部が逆ハの字状に開く大振りの鉢である。

甌 大型の甌が数点みられ、頸部の径(体部に開けられた孔の径)と体部の最大径との関係で分けた。

A類：体部最大径に対する頸部の径が大きい。口縁部の長さは長い。

B類：体部最大径に対する頸部の径が小さい。口縁部の長さは短い。

土師器

器種は、無台杯・無台椀・皿・有台皿・鉢・小甌・長甌・鍋・製塩土器がみられる。

無台杯・無台椀については黒色土器で同じ分類を使っている。

無台杯 いずれもロクロ未使用のものであり、形態から大きく3種に分け、さらに細分したものもある。

A類：小型で体部がハの字状に開き、身がやや深い。

B類：小型で体部が直立気味に立ち上がり、身が浅い。

B1類：体部の立ち上がりが直立気味で、底部でのつばりがない。

B2類：体部の立ち上がりが直立気味で、底部でのつばりがある。

C類：コップ形で、身が深いものを括した。形態にバラエティがみられる。

無台椀 調整技法によって大きく2種に分け、さらに細分したものがある。

また、同形で法量の違いがみられることから、I(口径20cm前後以上)・II(口径12～13cm前後)も設定した。

A類：体部ロクロナデが行われているもの。底部はほとんどが糸切りである。

A1類：体部が直線的に立ち上るものの。A2類に比べ径高指数が小さい(浅い)。

A2類：体部が内湾気味に立ち上るものの。径高指数(深い・浅い)でさらに分けることができるようであるが、ここでは分類基準として扱わなかった。

第5表 積惠器有台杯径高指数

開版No.	報告No.	出土地点 (通稱名)	径高 比数	頭数 (件)
44	1	SI246	27	D
45	31	SK183他	24	A
46	39	SK825	24	A
46	40	SK825	28	B
46	48	SX71	36	A
48	78	P402	35	A
48	79	P440	24	B
53	173	13F16他	27	B
53	175	14G4	25	B
53	176	14F14他	28	A
53	178	11H15他	43	A

(器高-高台分)/口径×100

第6表 土師器椀径高指数

開版No.	報告No.	出土地点 (通稱名)	径高 比数	頭数 (件)
48	68	P21	38	
48	69	P21	33	
66	211	10H13他	29	
56	212	8K23他	34	
66	214	8K10	35	
56	215	8L8他	33	
56	216	8L9	37	
66	217	8L3	33	
66	218	8L12他	33	
66	219	11H18他	35	
56	220	15F5他	39	
56	226	13H17他	34	
59	280	11H20他	34	

(器高/口径)×100

B類：丁寧なナデやミガキが施されるもの。器壁が薄く、上質のものであろう。

皿 内外面赤彩されたものが出土している。口径をみると、いくつかの規格を想定できるが、量が少ないため細分していない。

有台皿 直線的に開く体部に径が小さい（口径の1/2以下）高台が付くものが1点出土している。他に赤彩された高台のみが出土しているが、有台椀かもしだれない。

高杯 杯部が皿形で長い脚をもつと思われる。赤彩が施され、装飾効果をもたらした丁寧なつくりである。

鉢 口縁部が外反するものと内湾するものがある。内湾するものには器面調整の違いがあり、機能の違いが想定できる。

長甕 製作におけるロクロ使用の有無で大きく分け、さらに調整技法・形態により細分した。

A類：ロクロを使用していないもの（カキメがみられないもの）。

A1類：体部外面にミガキが施されるもの。

A2類：体部外面にハケメが施されるもの。

A2a：底部平底 A2b：底部丸底

B類：ロクロを使用しているもの（カキメがみられるもの）。

B1類：体部内外面にハケメが施されるもの。ロクロの回転による調整は積極的ではないためか、カキメの痕跡はわずかにみられる程度である。くの字状に外反する口縁部の端部が丸く取まる。

B2類：体部にカキメ・タタキメ（当て具痕）がみられるもの。くの字状に外反する口縁部の端部が面をもち、上方につまみ上げられている。

小甕 製作におけるロクロ使用の有無で分けた。

A類：ロクロを使用していないもの。体部は外面に縱方向のハケメ、内面は横方向のハケメが施され、口縁部はヨコナデされるものが多い。

B類：ロクロを使用しているもの。体部にカキメやロクロメがみられる。

鍋 製作におけるロクロ使用の有無で分けた。

A類：ロクロを使用していないもの。体部の立ち上げりは急で、身が深い。丸底であるが接地面は平である。体部にはハケメが施され、口縁部はヨコナデされる。

B類：ロクロを使用しているもの。体部にカキメやロクロメがみられる。

その他の甕

佐渡型甕：口縁部がくの字状に外反し、体部は長甕に比べて短めである。器壁は薄い。

短胴甕：全体形が不明であるが、長甕とは明らかに異なる器形であり、短胴甕とした。1点のみ出土している。

黒色土器

器種は限られ、本遺跡からは無台杯・無台椀・高杯が出土している。

無台杯 分類は土師器無台杯と同じ。

無台椀 体部が内湾気味に立ち上がる。内面が黒色処理されている。大形と小形がみられる。

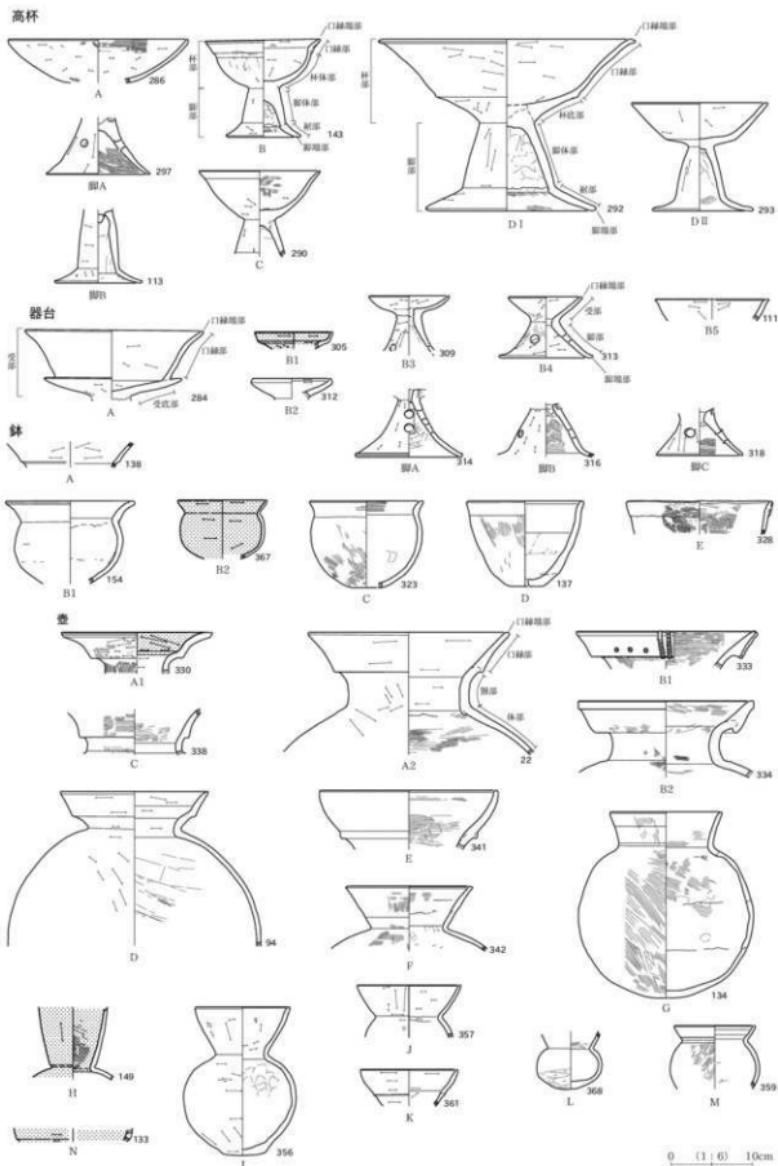
高杯 椭形の杯部と短い脚を持つ。杯部の内面に黒色処理が施されている、装飾効果をもたらした丁寧なつくりである。

2) 古 墳 時 代

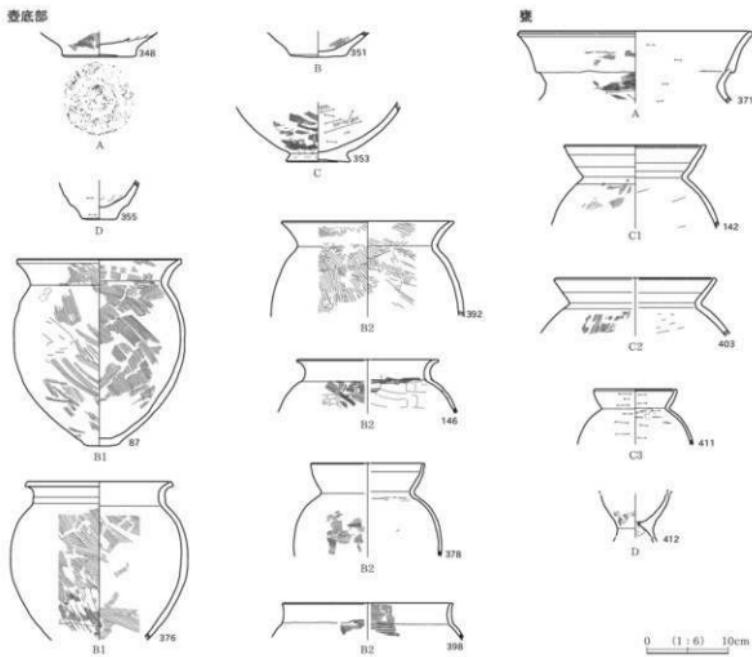
前期（6期）～中期（13群）の遺物がみられる。形態上の系譜を意識したが、器種によってはそれが考慮されていないものもある。高杯・器台・鉢・壺・甕が出土している。

高杯 脚部のみの遺存もあり、分類可能なため脚部の分類も行った。

A類：内湾する口縁部をもつもの。いわゆる東海系の高杯である。



第13図 古墳時代の土師器器種分類(1)



第14図 古墳時代の土師器器種分類(2)

B類：杯体部が楕円の丸みを帯びた杯体部をもつもの。脚は棒状脚。

C類：口縁部が逆ハの字状に開いて立ち上がるるもの。

D類：杯部下半に稜をもつもの。脚は畿内系柱状屈折脚。大形(I)と小形(II)のものがある。

脚A類：脚部が外反するもの

脚B類：畿内系柱状屈折脚をもつもの。細いものと太いものがある。

器台 受部のみの遺存もあり、分類可能なため脚部の分類も行った。

A類：北陸系の流れをくむと思われる装飾器台。1点のみ出土している。

B類：小型の器台を細分した。

B1類：口縁部が上方につまみあげるもの。

B2類：口縁端部が面をもつもの。

B3類：受部が内湾するもの。

B4類：受部は直線的に開き、端部は丸く収まるもの。

B5類：受部は内湾し、口縁端部を外方へつまみだすもの。1点のみ出土している。

脚A類：大きく外反するもの。

脚B類：やや内湾気味に広がる脚が裾部で外反するもの。

脚C類：脚の広がりが大きくなないもの。短めのものが多いようである。

鉢 形態や調整に大きな差がみられ、用途の差とも考えられる。

A類：口縁部と体部の間に段をもつもの。ミガキや赤彩が施されるものが多い。

B類：口縁部が「く」の字状のもの。

B1類：口縁部が外反するもの。口縁部はB2類よりやりや長い。

B2類：口縁部が内湾気味のもの。

C類：短い口縁部が外反するもの。

D類：体部が内湾気味に立ち上がり、底部に孔をもつもの。

E類：鉢と思われるが、A～D類との共通点がほとんどない。1点のみ出土している。

壺 系統の異なる土器がいくか認められる。いわゆる小型壺を含めて分類した。

A類：筒状に延びる頸部に長い口縁部が外反する二重口縁壺。畿内系の流れをくむものと考える。

A1類：口縁部の外反が強いもの。

A2類：口縁部の外反が弱いもの。畿内系の在地があるとしたものの可能性がある。

B類：短い口縁部が外反する二重口縁壺。口縁部外面下端が肥厚している。東海系の流れをくむものと考える。

B1類：口縁部に装飾を施すもの。1点のみ出土している。

B2類：口縁部に装飾を施さないもの。

C類：細口の有段口縁部をもつもの。口縁部内面の段の有無で分類される可能性がある。

D類：外反する頸部に短めの口縁部が外傾するもの。

E類：内湾する口縁部の外面下端の肥厚により段を有するもの。山陰地方の影響を受けたものの可能性がある。1点のみ出土している。

F類：大きく開く口縁部をもつもの。体部径に対する頸部（径）は小さい。

G類：直立気味に立ち上がる口縁部をもつもの。体部径に対する頸部（径）は大きい。

H類：細長い口縁部をもつ小型壺で段をもつもの。体部は扁平な球形と思われる。1点のみ出土している。

I類：球形の体部に内湾気味の長い口縁部がつく壺。畿内系の流れをくむいわゆる長頸壺。

J類：球形の体部に内湾気味の短い口縁部がつく小型壺。

K類：半球形の体部に内湾気味の比較的長い口縁部がつく小型壺。

L類：扁平な球形の体部に比較的長い口縁部がつく小型壺。

M類：球形の体部に短いくの字状の口縁部がつく小型壺。

甕 主に口縁部形態による分類を行った。

A類：有段口縁の甕。1点のみ出土している。

B類：「く」の字または「コ」の字状口縁の甕。口縁端部の形状により細分した。

B1類：口縁端部が面をもつもの。

B2類：口縁端部が丸く收まるもの。

C類：くの字状を呈す口縁部の端部が肥厚するもの。体部内面はケズリが施されている。布留系の甕。

C1類：肥厚する口縁端部が水平なもの。

C2類：肥厚する口縁端部が外傾するもの。

C3類：精製の甕。口縁端部は肥厚せず丸く收まる。1点のみ出土している。

D類：台付き甕。2点出土しているが、全体の形は不明である。

D 出土土器等各説

1) 上層遺構出土土器

SI246 出土土器 (図版 44、写真図版 40)

図示した須恵器有台杯 (1)・杯蓋 (2)、土師器長甕 (3) の他に、須恵器甕の体部小片 1 点、土師器細・小片約 90 点出土している。土師器細・小片には時代・器種不明のものも多いが、古代の土師器長甕 A2 類・B2 類、小甕 B 類と思われる破片や古墳時代の土師器甕類等もみられる。須恵器甕体部片は、内面が彫り込みに木目が直交するタタキメ、外面が木目のみられない當て具痕が残るものである。

1 は須恵器有台杯 A 類で、胎土はやや砂質感の強い D 群である。口縁部から体部にかけて一部炭化物・ススが付着している。2 は天井がやや高い須恵器杯蓋 B 類。厚みのない扁平なつまみが付く。胎土に 5mm 前後の長石粒がごく少量みられるものの胎土は緻密であり A 群とした。3 はロクロ使用の土師器長甕 B2 類である。体部から口縁部への屈曲は明瞭なく字状で、口縁端部は上方につまみあげられている。体部外面上半にカキメ、下半にタタキメを施し、外面中位にタテ方向のケズリ、内面の下部にハケメのやや粗い調整がみられる。外面のスス付着が激しい。時期は、1・2 が IV 期、3 が V 期と思われる。

SI307 出土土器 (図版 44、写真図版 40)

図示した須恵器無台杯 (4)・杯蓋 (5)、土師器無台杯 (6・7)・鉢 (8・9)・長甕 (10~12)、古墳時代の土師器甕 (13) の他に、土師器細・小片約 100 点が出土している。土師器細・小片には古墳時代のものや時代不明のものも多いが、掲載した古代の土師器無台杯 C 類、鉢 A 類・B 類、長甕 A2 類 B1 類と同類の破片がみられる。掲載遺物のうち、6~10 はカマドおよびその周辺から出土しており (第 7 図)、変色や器面剥落等の被熱の痕跡が著しいものもある。土師器小片はハケメのみられる奈良時代の土師器を中心だが、混入したと思われる古墳時代の土師器も若干みられる。

4 は須恵器無台杯 B 1 類で、胎土は 1mm 前後の長石粒が含まれた B 群。5 は口縁端部の垂下が長い杯蓋 A 類で、口縁部径が 16cm 強と大きいものである。胎土は比較的精良な A 群。内面はやや摩耗しており、墨痕がほぼ全面に及ぶ。観に転用されたのであろう。6・7 はロクロ未使用・中形・深い身という点で一括にした土師器無台杯 C 類である。両者はまた、口縁部の内側を指の調整によって先細りにする等の共通点もあるが、全体の形状や器壁の厚さ等はかなり異なっており、機能の違いがあるのかもしれない。8 は口縁部が内湾する土師器鉢 B 類、9 は口縁部が外反する土師器鉢 A 類である。どちらも被熱によると思われる変色がみられ、9 は外面に激しい崩落の痕がみられる。10・11 はロクロ未使用 (A 類)、12 はロクロ使用 (B 類) の土師器長甕である。10 は体部にハケメ調整が施された長甕 A2 類で、ハケメの方向は外面がタテ方向、内面がヨコ方向である。口縁部が水平に長く延び、丁寧なヨコナデがされる。体部は膨らまず、器壁は比較的薄い。胎土は比較的精良であり軟質感がある。11 は、ロクロ未使用の長甕 A 類の底部。調整が粗いが、焼き上がりは堅緻である。12 は体部全面にハケメが施される長甕 B1 類の底部と思われるもの。ハケメ調整により底を押し出し丸底にしている。須恵器に近い胎土で焼成は良好である。13 は古墳時代の布留型甕で土師器甕 D2 類。口縁端部の肥厚はほとんど認められず、内側の先端をつまみ上げることによって端面が外傾している。古代の土器 4~12 の時期は、5 が III 期か IV 期、10 が III 期、その他のが III 期で捉えられる。13 は古墳時代前期 (9 期か 10 期) の土器であろう。

SB2001 出土土器 - P46 (図版 44、写真図版 40)

本遺構を構成する柱穴は 9 基あるが、遺物の出土量は極めて少ない。図示した P46 出土遺物 (14) の他に、7 基の柱穴から合わせて約 40 点の土師器細・小片が出土している。古墳時代・古代の識別ができるものもあるが、時代・器種不明のものが多い。

14 は古墳時代の土師器甕。ぐの字状の口縁部で、外側の先端がつまみ出されて明瞭な面をもつ。甕 B1 類。

SB2003 出土土器 - P113 (図版 44, 写真図版 40)

本遺構を構成する柱穴は 8 基あるが、遺物の出土量は極めて少ない。図示した P113 出土遺物 (15) の他に、6 基の柱穴から合わせて約 30 点の土師器細・小片が出土している。古墳時代・古代の識別ができるものもあるが、時代・器種不明のものが多い。

15 は天井がやや高い須恵器杯蓋 B 類で、外面全体にロクロナデが施されるが粗く、ヘラ切り痕の凹凸が少し残る。外面の一部に自然釉が掛かる。胎土に 1~3mm の長石粒が混じるが、素地は精良で胎土 A 群。時期はⅢ 2~Ⅳ 1 期と思われる。

SB2004 出土土器 - P244・P393・P406・P514 (図版 44・45, 写真図版 40)

本遺構を構成する柱穴は 9 基あり、すべての柱穴に遺物がみられる。合わせて約 240 点の土師器細・小片が出土しているが、時代・器種不明のものが多い。4 基から出土した須恵器無台杯 (17)・杯蓋 (18・19)、土師器高杯 (16)・小甕 (20)・長甕 (21)、古墳時代の土師器壺 (22) の 7 点を図示した。これらは遺存率が高いが遺構単独出土はほとんどなく、周辺の包含層出土破片と接合したものが多い。

16 は P244 から出土した土師器高杯と思われる。杯部が皿状 (高杯 A 類) で、内外面赤彩が施される。器面は滑らかであるが、ミガキは認められない。17~19 は P393 から出土したもの。17 は須恵器の無台杯 B 1 類。同類の中では体部の立ち上がりがやや緩やかである。焼成が不完全なため焼き上がりは土師器のようであるが、胎土は比較的精良で A 群。18・19 は須恵器杯蓋 B 類で、端部が逆三角形を呈する。18 は口縁部径が 17.2cm と本遺跡で最大である。天井から口縁部の張りが強く高さもある。どちらも胎土 A 群で、19 は断面の中央部分の色調がその両脇の色調と異なるサンドカラーがみられる。20 は P406 出土の土師器小甕 A 類。口縁端部は丸く收まり、口縁部のヨコナデがしっかりとされている。外面のススと口縁部内面の炭化物が顕著である。21・22 は P514 から出土している。21 は土師器長甕の底部で、体部外表面は縱方向のケズリの後にナデがされており、ケズリの痕が残るもの器面は比較的滑らかである。底部外表面も丁寧なナデが施されている。長甕 A2a 類に属するものと思われる。胎土に金雲母がみられる。22 は古墳時代前期の土師器壺 A2 類。大形で口径が 24.4cm ある。直立した頸部から口縁部が外反するが、反りは小さい。外面と内面の口縁部・頸部にミガキが施されている。時期は、20 がⅢ期、16・19 がⅣ 1 期、17・18 がⅣ 2 期、22 が古墳前期 9・10 期と考えられる。

SB2005 出土土器 - P118・P234・P522・P836 (図版 46, 写真図版 41)

本遺構を構成する柱穴は 9 基あり、すべての柱穴に遺物がみられる。合わせて約 230 点の弥生土器・土師器の細・小片が出土しているが、時代・器種不明のものが多い。弥生土器は下層遺構出土土器と同一個体である。4 基から出土した須恵器有台杯 (27)、土師器小甕 (25)・長甕 (23・24・26)、古墳時代器台 (28) の 6 点を図示した。

23・24 は P118 から出土している。23 は土師器長甕 A2b 類、24 は土師器長甕 B1 類。どちらも遺存率が高いが、他の遺構や周辺の包含層出土破片と接合するものである。ハケメ調整を主体としており、外面は縱方向、内面は横方向のハケメがみられる。底部は丸底で、工具により押し出したものと思われる。24 の体部外表面に弱いカキメが部分的に残る。23 はカキメがみられないが、それ以外は 24 とまったく同じであり同類とした。焼成は良好で、焼き上がりは堅緻である。25・26 は P522 から出土している。25 は土師器小甕 A 類。体部外表面は縱方向のハケメ調整であり、口縁部のヨコナデがしっかりとされる。口縁端部は丸く收まる。スス・炭化物はほとんど認められないが、被熱によるとと思われる変色がみられる。26 は土師器長甕 A2 類で、口縁部が短く外反する。外面にススが付着している。27 は P234 から出土した須恵器有台杯 A 類。底部外表面に硯に転用したと思われる墨痕がみられるが、摩耗は顕著ではない。胎土は A 群でサンドカラーがみられる。28 は P836 から出土した古墳時代の土師器器台 B1 類。受部内面に放射状のミガキ痕が認められる。時期は、23・24・26・27 がⅢ期、25 がⅣ期、28 が古墳時代 6・7 期と思われる。

SB2006 出土土器 - P649 (図版 45, 写真図版 41)

本遺構を構成する柱穴は 9 基あるが、遺物の出土量は少ない。7 基の柱穴から合わせて約 50 点の土師器が出

土しているが、時代・器種不明のものも多い。P649 出土の遺物（29）を図示した。

29は土師器瓶の把手である。内外面とも細かい目のハケメ調整であるが、外面の把手や内面の一部にナデもされている。時期は8世紀の中葉あたりであろう。

SB2009 出土土器 - P392 (図版 45、写真図版 41)

本遺構を構成する柱穴は7基あるが、遺物の出土量は極めて少ない。2基の柱穴から合わせて4点の土器が出土しているが、図示したP392出土遺物（30）の他は、時代・器種不明の土師器細片である。

30は土師器小甕A類で、25によく似る。体部外面は縱方向のハケメ調整であり、口縁部のヨコナデがしつかりされる。口縁端部は丸く収まる。口縁端部から外面にススが付着しており、被熱によると思われる変色もみられる。時期はⅢ期と思われる。

SK183 出土土器 (図版 45、写真図版 41)

図示した須恵器有台杯（31）の他に、時代・器種不明の細片が1点出土している。

31は有台杯A類で、包含層出土破片が接合している。高台が歪んで貼り付けられており、片側に少し寄っている。底部はヘラ切りの後ナデを行っているが難である。胎土はA群で、1mm前後の長石粒を含む。時期はIV1期と考えられる。

SK185 出土土器 (図版 45、写真図版 41)

図示した須恵器無台杯（32～34）・杯蓋（35）の他に、古墳時代土師器1点と時代・器種不明土師器小片1点出土している。

32～34はいずれも須恵器無台杯B類で、口径により32が須恵器無台杯BII類、33・34が須恵器無台杯BI類とした。いずれも底部外面はヘラ切りの後ナデを行なっているが、34には板状圧痕がみられる。胎土は32・34がA群、33がB群で、後者は前者に比べ長石が多く、白っぽい灰色をしている。35は須恵器杯蓋B類で、口縁端部断面が逆三角形をしている。胎土はA群。時期は、34がⅢ2～Ⅳ1期、32・33・35がⅣ1期と思われる。

SK243 出土土器 (図版 46、写真図版 41)

図示した須恵器無台杯（36）・横瓶（37）の他に、時代・器種不明の土師器が1点出土している。

36は須恵器無台杯B I類で、底部外面に「+」のヘラ書きがみられる。また、その中央部分に墨痕が認められ、全面が摩耗していることから硯に転用されたと思われる。胎土はB群。37は両面閉塞の須恵器横瓶。SK825出土の破片も接合している。片側の外面にタタキメ・内面に当て具痕がみられる。自然釉が口縁部外面と体部外面上部に掛かる。胎土はB群。時期はどちらもIV1期と考えられる。

SK650 出土土器 (図版 46、写真図版 42)

図示した土師器小甕（47）のみの出土である。

ロクロ使用の土師器小甕B類。体部外面はロクロナデの後上半にカキメ調整が施されるが、ロクロナデの凹凸が太い沈線状に残る。下半は縱方向のケズリがみられる。時期はIV1～IV2期と考えられる。

SK825 出土土器 (図版 46、写真図版 42)

図示した須恵器有台杯（39・40）・杯蓋（41）、土師器無台杯（42～46）の他に、約30点の土師器細・小片が出土している。古代土師器無台杯B類の細・小片や時代・器種不明の土師器細片がみられる。

39・40は須恵器有台杯。39は高台内に墨痕が認められ硯として二次使用されたと考えられるが、摩耗はほとんどみられない。40は高台内にナデ調整時の擦痕と「一」のヘラ書きがみられる。胎土は39がA群、40がB群。41は須恵器杯蓋B類。胎土はA群。口径に対して天井が高く、口縁端部は断面三角形を呈す。42～46は土師器無台杯A類。42～44は身が浅く底部の張り出しがないもの（B1類）、45は身が深くハの字形に聞くもの（A類）、46は身が浅く底部の張り出しがあるもの（B2類）。いずれも内面が丁寧なナデかミガキ調整が施される。46は内面黒色処理をされている。口縁部にタール状の炭化物やススが付着しており、灯明具として使

用された可能性がある。時期は、39~41はⅢ2期と考えるが、法量の点において39が新しく捉えられる可能性がある。42~46は類例を知らないが、しいて言えば燕市（旧吉田町）三角田遺跡でロクロ未使用の小形土師器杯があり、それを参考にⅢ2期と捉えたい。

SK923 出土土器（図版46、写真図版42）

図示した古墳時代土師器壺（38）の他に、古墳時代の土師器壺D類・壺や時期・器種不明の細・小片が20点近く出土している。

38は台をもつ土師器壺底C類。体部が球形になるものであろう。外面はミガキ・赤彩が施されている。時期は不明。

SX71 出土土器（図版46・47、写真図版42）

出土状況（第8図）により原位置を保っていないことがわかるが、包含層（V層）を掘削する過程において周溝の内側でまとめて出土した遺物と周溝内出土遺物を本遺構に伴う遺物として扱った。図示した須恵器有台杯（48）、壺蓋（49）、短頸壺（50）、長頸壺（51）、土師器長甕（52）、弥生土器壺（53）、繩文土器深鉢（54）の他に、土師器細・小片が57点出土している。土師器細・小片は周溝出土のものが多く、古墳時代の土師器壺・古代の長甕A2類等や時代・器種不明のものがみられる。土師器図示遺物のうち、52・53は周溝から、それ以外は周溝の内側から出土している。

48は須恵器有台杯B類で、胎土はA群。49・50はセットである須恵器短頸壺の蓋と身。淡渋はみられるものの自然釉がほぼ全面に掛かり、蓋と身が接着した痕がみられる。胎土はA群。51は中形の須恵器長頸壺。自然釉が上半を中心に掛かる。口縁部の一部が欠損した状態で焼成している。底部は高台貼付け痕が残るが、縁をきれいに整形して平らにしている。胎土A群。52は土師器長甕B1類。目の幅がやや大きいカキメがみられる。焼き上がりは堅緻である。53は弥生土器の有段の壺。外面は口縁部が横方向のナデ、頸部がハケメ、内面は丁寧なナデが施される。54は繩文土器。内外面ミガキが施され、平行沈線がみられる。時期は、48~51がIV2期か3期、52がⅢ期、53が法仏並行期（弥生時代）、54が加曾利B期と考えられる。

SX100 出土土器（図版47、写真図版42・43）

焼土周辺でまとめて出土しており（第9図）、カマドの芯部材やそこで使用した土器の可能性がある。図示した土師器長甕（55~57）の他に、70点近くの土師器小片が出土している。同一個体と思われる破片を含むが、古代の土師器長甕A2類や同器種破片を含む。

55は土師器長甕A1類。製作技法が特異であり、外面はミガキ、内面は丁寧なナデを施す。口縁部は長く外反し、先端にむかって細くなる。被熱による変色と外面の剥落が著しく、内面には炭化しきれていない付着物が底部から体部上部までみられる。口縁部にはススが付着している。56は土師器長甕A2a類。器壁は厚く重量感がある。内面はナデが施されるが、輪積み痕がところどころ残る。外面のハケメは目が細かい。57は土師器長甕B1類。器壁は薄いが、焼き上がりは堅緻である。内面に目が粗いカキメがみられる。時期は概ねⅢ期と思われる。

SX573 出土土器（図版47、写真図版43）

図示した須恵器無台杯（58）、土師器小甕（59）、鍋（60）、短胴甕（61）、古墳時代の土師器甕（62）の他に、30点近くの土師器細・小片が出土している。土師器細・小片には、古代の土師器長甕A2類や時代・器種不明の土師器がみられる。

58は須恵器無台杯BII類である。胎土はA群で、1mm未満の長石粒が比較的多い。底部外面はヘラ切り後ナデがされており、「×」がヘラ書きされている。59は土師器小甕としたが、調整等は不明。底部の外面は比較的丁寧なナデであるが、内面は工具痕が残る難な仕上がりである。60は土師器鍋A類と思われるもの。内外面とも細かい日のハケメが施されるが、底部外面は軽いナデが行なわれている。胎土は混入物の少なく比較的精良である。内面に炭化物、外面にススや器面の変色もみられる。61は土師器短胴甕としたもので、底部の厚みに重量感がある。内外面に目の細かいハケメが施されるが、外面下半にはところどころケズリの痕が残る。内面に

炭化物、外面にススがみられ、器面は変色し剥落している。62は古墳時代の長甕B2類。口縁端部が丸く收まり、ヨコナデされている。時期は、58がⅢ～Ⅳ1期と考えられるが、他は不明である。

SX605 出土土器 (図版47、写真図版43)

図示した土師器長甕(63)の他に、30点以上の土師器小片が出土している。ほとんどが古代の長甕A2類の体部片である。

ロクロ未使用の土師器長甕A類の底部と思われる。内面はナデ、外面はナデに近いケズリが施されている。内面に炭化物、外面にわずかなススがみられる。時期は不明である。

SX867 出土土器 (図版47・48、写真図版43)

図示した須恵器杯蓋(64～66)、古墳時代甕(67)の他に、30点以上の土師器細・小片が出土している。ほとんどが古墳時代の土師器細・小片である。

64は須恵器杯蓋の一部で、天井部外面に製作時のものと思われる擦痕がみられる。66は須恵器杯蓋A類で、65は内面に「×」のヘラ書き、66は外面に「秋」の墨書きがみられる。66は硯に転用している。胎土は、64・65がA群、66がD群。67は古墳時代の土師器甕B1類。口縁端部が面取りをされており、ヨコナデされている。時期は、65がⅢ2期、66がⅢ1(新)期かⅢ2期と思われるが、他は不明である。

P21 出土土器 (図版48、写真図版43)

図示した土師器無台碗(68・69)、古墳時代土師器壺(70・71)の他に、60点以上の土師器片・2点の須恵器片が出土している。土師器片は細・小片が多く、そのほとんどが古墳時代の土師器である。須恵器片は横瓶か甕と思われるものある。

68・69は土師器無台碗A2 II類である。68は69より身が深めで、径高指数が大きい。68の体部外面には判読不明文字が墨書きされている。どちらも底部は糸切りで、回転方向は右である。70は古墳時代の土師器壺Iで、内外面ミガキ・赤彩が施されている。71は古墳時代の土師器壺G類。口縁端部が外方につまみ出されたように丸く收まる。時期は、68・69がVI2・3期、70が古墳時代9期と思われるが、71は不明である。

P104 出土土器 (図版48、写真図版43)

図示した土師器長甕(72・73)の他に、下層から遺構から出土した土器と同一固体と思われる弥生土器片や時代・器種不明の土師器細・小片が4点出土している。

72・73は同一個体である。ロクロ未使用の長甕A2類で器壁が厚い。口縁部は短く外反し、体部は張らずに下方にむかってややすぼまっていく。内外面とも細かい目のハケメが施されるが、外面はその後ケズリも行われている。時期はⅢ期と思われる。

P126 出土土器 (図版48、写真図版43)

図示した縄文土器(74)のみの出土である。

体部上部が内側に屈曲する深鉢で、平行する沈線の間に斜縄文が施される。内外面ともにミガキが施される。加曾利B2式。

P153 出土土器 (図版48、写真図版44)

図示した土師器長甕(75)の他に、古墳時代の土師器や時代・器種不明の土師器細・小片が6点出土している。本資料にみられる調整はハケメのみであるが、カキメをもつ52や57とよく似ていることから、長甕B1類とした。器壁は薄く、焼き上がりは堅緻である。時期はⅢ期と思われる。

P200 出土土器 (図版48、写真図版44)

図示した須恵器杯蓋(76)のみの出土で、包含層出土破片と接合している。

杯蓋B類で、天井が低く扁平である。外面全体に自然釉が掛かっている。胎土はA群。時期はIV1期と思われる。

P332 出土土器 (図版48、写真図版44)

図示した古墳時代の土師器甕(77)の他に、時代・器種不明の土師器細・小片が3点出土している。

77 は、甕 C1 類、口縁端部が水平で、内端がわずかに肥厚する布留系甕である。口縁部はヨコナデで、下部に膨らみをもつ。体部は外面に縱方向のハケメ、内面にケズリを行っている。摩耗した鉄石・岩石を多量に含む。時期は古墳時代 9 期か 10 期と思われる。

P402 出土土器 (図版 48、写真図版 44)

図示した須恵器有台杯 (78) のみ出土している。

78 は有台杯 B 類で、胎土は A 群。内面全体に自然釉が掛かる。時期は IV 2~3 期か V 期と思われる。

P440 出土土器 (図版 48、写真図版 44)

図示した須恵器有台杯 (79) のみ出土している。

79 は有台杯 A 類で、胎土は B 群。1~5mm 前後の長石粒を多量に含み、器面がザラついている。時期は IV 1~IV 2 期と思われる。

P725 出土土器 (図版 48、写真図版 44)

図示した縄文土器 (81~83) のみ出土している。

81~83 は、4 単位の波状口縁部をもつ深鉢である。斜め方向に縄文原体 (LR) を転がし、平行沈線・蛇行沈線を引いている。沈線の引き方は雑である。内外面は丁寧なミガキが施されている。加曾利 B2 式と思われる。

P908 出土土器 (図版 48、写真図版 44)

図示した古墳時代の土師器小甕 (80) のみの出土である。

80 は大振りの土師器小甕 B 類。器壁は厚めで、内面にクロナデの凹凸がみられる。底部外面はナデがされているもののヘラ切りの痕跡が残る。また「×」がヘラ書きされている。内面にスス・外面に炭化物がわずかにみられる。時期は IV 1 期か IV 2 期と思われる。

2) 下層遺構出土土器

SK20 出土土器 (図版 49、写真図版 44)

約 110 点の古墳時代土師器片が出土している。その多くが甕や甌の体部片の細・小片である。土師器壺 (84・85)・甕 (86) を図示した。

84・85 は土師器壺。84 は体部上部に焼成後開けた孔がみられる。補修孔であろう。内面は器面が荒れており、実測図では実線で表したが、器面が剥落している可能性がある。外面はミガキが施されている。85 は土師器壺底 A 類で、底部外面縁部がわずかに盛り上がりしている。内面は丁寧なナデ、外面はケズリやナデの後ミガキが施されている。内面下方に炭化物がみられる。86 は甕 B2 類。口縁端部は丸く取まり、体部があまり張らない。器面が荒れているため不明な部分もあるが、内外面にハケメやナデが施されている。口縁部のヨコナデは認められない。時期はいずれも中期と思われる。

SK689 出土土器 (図版 49、写真図版 44)

図示した古墳時代土師器甕 (87) のみの出土である。

87 は遺構単独出土で、遺存率が高い。甕 B1 類で、口縁端部の面取りはしっかりされており、体部の最大径がやや上部にくる。内外面ハケメが施され、口縁部はヨコナデされるが、弱いためハケメが残る。時期は 7 期か 8 期と思われる。

SK936 出土土器 (図版 49、写真図版 44・45)

約 130 点の古墳時代土師器片が出土している。その多くが甕や甌の体部片の細・小片である。土師器器台 (88・89)・鉢 (90)・壺 (91~95)・甕 (96~101) を図示した。

88・89 は外面にミガキ・赤彩が施されている器台であるが、89 はその痕跡がわずかである。88 が土師器器台脚 B 類、89 が土師器器台脚 A 類。90 が甕の可能性もあるが、土師器鉢 B1 類とした。器壁が薄く、内外面にミガキが行われているが、方向ははつきりしない。91 が土師器壺 J 類、92 が土師器壺 L 類、93 が土師器甕 J 類に伴うと思われる身で、器壁が薄く外面にミガキが施されるものが多い。94・95 は同一個体の土師器壺。

94は外反した短い頸部に口縁部が付く土師器壺D類で、95は土師器壺底A類である。内面はヘラ状工具によるナデの痕がみられる。外面と口縁部内面はミガキが施されている。96~101は土師器壺。97~100は土師器壺B1類、101は土師器壺B2類。内面に炭化物(97)、外面にスス(97~99)が付着しているものがある。焼成は概ね良好であるが、特に97の焼き上がりは堅緻である。時期は、99の壺は口縁端部をやや上方につまみ上げていることから6期か7期と考えるが、他は概ね7・8期で捉えられよう。

SK942 出土土器 (図版50、写真図版45)

約60点の古墳時代土師器片が出土している。その多くが壺や甕の体部の細・小片であるが、図版67~445と同一個体の可能性がある条痕がみられる弥生土器片が1点含まれる。土師器壺(102)・甕(103~105)を図示した。

102は土師器壺L類で、内外面にミガキが施され器壁は薄い。103は土師器甕の底部。内面と底部外面はナデ、体部外面はケズリがみられる。104・105は小破片であるが、104は土師器甕B1類、105は土師器甕B2類。時期は、いずれも古墳時代前期で、104は7期か8期と思われる。

SD108 出土土器 (図版50、写真図版45)

約210点の古墳時代土師器片が出土している。その多くが壺や甕の体部の細・小片である。図示した土師器鉢(106)・甕(107・108)・手捏ね土器(109)を図示した。

106は内外面にミガキ、赤彩が施されている鉢B1類。体部の赤彩は部分的に消えている。107は土師器甕B2類、口縁部はヨコナデされ、先端に向かって細くなる。外面下半にススが付着している。108は土師器甕D1類。口縁端部に貼り付けがみられ、肥厚が顕著である。強いヨコナデがされる。外面にススが付着している。109は軽いナデが行われているが器面の凸凹がみられる手捏ね土器。外面に一部ススが付着している。時期は、109が不明であるが、その他は9期と思われる。

SD109 出土土器 (図版50、写真図版45)

約560点の古墳時代土師器片が出土している。その多くが壺や甕の体部の細・小片である。土師器台(110~112)・高杯(113)・壺(114~116・122)・甕(117~121・123)・弥生土器(124)・縄文土器(125)を図示した。

110・111は土師器台の受部としたが、111は口縁端部が外へつまみ出されており、他器種の可能性もある。110は体部が直線的に立ち上がる土師器台B4類、111は土師器台B5類。どちらも内外面にミガキが施されている。112は器台で、裾の広がりが大きい。113は高杯脚B類で、脚部がやや細めである。112・113ともに外面にミガキが施される。112は粒子が1~3mmの混和材がやや多い。114は土師器壺D類。内外面とも荒れているが、ミガキが施されている。115は頸部が垂直に立ち上がる二重口縁壺(土師器壺A1類)。外面にミガキがされているが、体部の内面は器面の剥落がみられる。117は甕B2類で、口縁端部が細くなり、下半が肥厚している。118・119は土師器甕B1類で、口縁端部は118が内方向、119が外方向にわずかにつまみ出されている。120・121は土師器甕B2類で、ヨコナデが施されている。焼き上がりは堅緻である。122は土師器壺Lに伴うと思われる底部。123は土師器甕の底部で、どちらも外面にケズリがみられるが、122は丁寧なケズリである。124は弥生時代の甕形土器。口縁・頸部は無文帶で、横方向のミガキを施している。体部は条痕を地文とし、肩部に羽状沈線文を描く。口縁部に突起をもつ。125は縄文時代の深鉢。口縁部の4つの突起をもつと思われるが、対角上には位置しない。入り組み状に沈線を施し、区画内を縄文(LR)で充填している。時期は、古墳時代の土器(110~123)は概ね前期と思われ、119の8期を前後とする時期であろう。弥生土器の124は前期緒立式、縄文土器の125は加曾利B2式と思われる。

SD110 出土土器 (図版51、写真図版45)

約120点の古墳時代土師器片が出土している。その多くが壺や甕の体部の細・小片である。土師器高杯(126・127)・器台(128)・鉢(129)・甕(130~132)を図示した。

126は土師器高杯A類としたが、径が小さいことから他器種の可能性もある。弱いミガキが施されている。

127は土師器高杯脚B類。脚部は中空と思われるもので、外面のミガキはしっかりしている。128は透かし孔が1か所残る土師器器台脚B類。外面を丁寧なミガキが施されるが、ケズリ痕もわずかに残る。129は土師器鉢A類。口縁部の肥厚と直下に凹線により、段をつくっている。外面と口縁部内面に赤彩がされているが、ところどころ薄くなっている。胎土は、混和材を一定量含むが、生地は精良で白っぽい。やや軟質感がある焼き上りとなっている。130は土師器甕B1類、131・132は土師器甕B2類。130・132は口縁部にヨコナデがみられるが、131はみられず一部歪みがある。時期は、129が5・6期、126・128・130は古墳時代前期、127・131・132は古墳時代中期と思われる。

SD911 出土土器（図版51、写真図版45）

約90点の古墳時代土師器片が出土している。その多くが壺や甕の体部の細・小片であるが、ミガキ・赤彩が施された小片も2点出土している。土師器壺（133・134）を図示した。

133はごく小さい破片で壺N類としたが、丸底壺の可能性もある。口縁部にあたると思われ、内外面赤彩されている。134は壺G類。球形の体部で、底部は丸底に近いがわずかな面をもつ（平底）。内部のナデはやや難であり、輪積み痕が残る。外面はハケメで口縁部はヨコナデがされている。時期は、133が8期以降、134が下限7期とするものと思われる。

SD868 出土土器（図版51、写真図版45）

約20点古墳時代土師器片が出土している。その多くが壺や甕の体部の細・小片である。土師器壺（135）を図示した。

I類で外面が赤彩されている。時期は9期と思われる。

SD925 出土土器（図版51、写真図版45）

約70点の古墳時代土師器片が出土している。その多くが壺や甕の体部の細・小片である。土師器高杯（136）・鉢（137）を図示した。

136は高杯脚A類。杯部内面は調整が粗く、器面が凸凹している。137は鉢D類。平らな底部に外側から孔が開けられている。内面は工具によるナデ、外面はハケメ・ケズリがみられ、口縁部はヨコナデの痕が顕著に残る。時期は、どちらも前期であろう。

SD984 出土土器（図版51、写真図版46）

約30点の古墳時代土師器片と縄文（日）がついた時代不明の土器小片1点が出土している。土師器片の多くが壺や甕の体部の細・小片である。土師器鉢（138）・壺（139～141）・甕（142）を図示した。

138は鉢A類。器壁は薄く、内外面にミガキが施されている。やや砂質感のある胎土である。139・141は直立した口縁部の壺G類で、140はその可能性のあるもの。球形の体部をもつ。口縁部はミガキに近い丁寧なヨコナデ、体部外面はミガキが施される。142は布留系土器で甕C1類。口縁部が肥厚し、端部はほぼ水平で内側がわずかに突出する。体部外面に縱方向のハケメが残るが口縁部から体部に欠けて丁寧なヨコナデが施され、体部内面はケズリがされている。口縁部外面と体部外面中位にススが付着している。粒子が1～2mmの混和材を多量に含む。時期は、138～141が7期、142が9期か。

SX97 出土土器（図版51・52、写真図版46）

約70点の古墳時代土師器片が出土している。土師器甕の体部片が多い。土師器高杯（143）・甕（144～147）を図示した。

143は土師器高杯B類。杯体部が鉢形で、口縁部がわずかな段をもって短く外反する。脚部は屈折脚であるが短い。脚内部以外ミガキが施される。144は土師器甕B1類、145・146は土師器甕B2類、147は土師器甕C1類。144は口縁端部を強くヨコナデし、面をつくる。体部外面はハケメが施されるが下部はケズリの痕がみられる。体部内面もハケメが施され、比較的滑らかであるが、輪積み痕が残る。体部は外面に上半にスス、内面ほぼ全体に炭化物が付着している。145は大形の土師器甕。口縁端部は面にしてはあまい調整のため土師器甕

B2類とした。146は口縁部が強く外反する。147は布留系壺で口縁部が肥厚し、端部はほぼ水平で内側がわずかに突出する。外面にススが付着している。時期は、143～146は8期、147は9期前後と思われる。

SX870 出土土器 (図版 52、写真図版 46)

5点の古墳時代土師器片出土している。その多くが壺や甕の体部の細・小片である。土師器器台 (148) を図示した。

148は口縁部が上方へ屈曲して立ち上がる口縁部をもつと思われる器台B1類。内外面ミガキが施されている。時期は下限が7期と考える。

SX946 出土土器 (図版 52、写真図版 46)

約130の古墳時代土師器片が出土している。その多くが壺や甕の体部の細・小片である。土師器壺 (149・150)・甕 (151・152) を図示した。

149は土師器壺H類で、細長い口縁部の下端に段がみられる。赤彩がされるが、内面は口縁部のみである。

150は土師器壺L類。やや内湾気味の口縁部で、先端が細くなっている。内外面ミガキが施されている。151は土師器甕B2類。口縁部はヨコナデされている。152は土師器甕の底部。内面全面に炭化物が付着しており、外面は一部にススがみられる。時期はすべて9期と思われる

P933 出土土器 (図版 52、写真図版 46)

約40点の古墳時代土師器片が出土した。その多くが壺や甕の体部の細・小片である。図示した土師器器台 (153)・鉢 (154)・壺 (155)・甕 (156) を図示した。

153は土師器器台としたが、小片であり他器種の可能性もある。脚がハの字形に聞くと思われる。内外面ミガキが施されている。154は土師器鉢B1類。口縁部が大きく外反し、体部径は口径よりも小さい。口縁部はヨコナデ、体部はナデが施される。外面全体にススが付着する。155は土師器壺G類。ヨコナデされた先細りの口縁部である。156は土師器甕B2類。口縁部は丁寧なヨコナデを行っており、上半が内湾気味に立ち上がる。外面にススが付着している。時期は154が8・9期と思われ、他は不明。

P1050 出土土器 (図版 52、写真図版 46)

図示した古墳時代土師器壺 (157) のみ出土している。

壺L類と思われるもの。口縁部はヨコナデが行われているが、外面はハケメが残る。時期は8期以降と思われる。

3) 包含層出土土器

奈良・平安時代 (図版 52~59、写真図版 46~52)

須恵器無台杯 (158~172・271~275)・有台杯 (173~178)・杯蓋 (179~183)・高杯 (184)・鉢 (185)・長頸壺 (186~190)・壺蓋 (191~193)・短頸壺 (192~194)・甕 (195~199)、土師器無台杯 (200・202・205・209・210)・無台碗 (211~224・276~283)・皿 (228・229)・有台皿 (230・231)・高杯 (233)・鉢 (234・235)・小甕 (236~244)・長甕 (245~251・254~264)・その他の甕 (252・253)・鍋 (265~268)、製塙土器 (269・270)、黒色土器の無台杯 (201・203・204・206・207・208)・無台碗 (225~227)・高杯 (232) を図示した。

須恵器無台杯 158は無台杯A類、159~162は無台杯B I類、163~165は無台杯B II類、167~172・271~275は無台杯C類、166は無台杯D類。底部は、166が糸切りで、その他はほとんどヘラ切りである。ヘラ切りのものはその後ナデを行っているものが多いが、ヘラ切り痕が残るもの (160・165・168・169・171) も少なくなく、まったくナデが行われていないもの (158) もある。また、刻書 (158) や墨書き (271~275) がみられるものもある。172には外面ほぼ全体にススが付いているが、底部は部分的に薄く残る程度である。胎土は、A類の158はB群、B類はA群 (159・161~163)・B群 (160・164)・D類 (165)、C類 (167~172・271~275) はすべてC群、D類の166はE群で、形態的特徴が生産地によって異なることがわかる。時期は、158・163はIII期 (158~III 2期)、159~162・164・166はIV期 (159・160~IV 1期、164~IV 1~2期、161・166~IV 2~3期)、165はIV 3~V期、170はV 2~VI 1期、168・169・171・172・271~275はVI期、と捉えられる。

須恵器有台杯 173～176は有台杯A類、178是有台杯B類で、177是有台杯B類の可能性があるもの。176は焼成が不良で、生焼けである。胎土は、176・178がA群、173・175・177がB群、174がD群。時期は、173・174・179はⅢ期（173～Ⅲ1期、174～Ⅲ2期）、175～177はⅣ期（175～Ⅳ1～2期、176・177～Ⅳ2～3期）、178はⅤ期と思われる。

須恵器杯蓋 179は杯蓋A類、180・182は杯蓋B類、183は杯蓋C類。硯に転用しているもの（182・183）があり、内面に墨痕が残る。器面はやや摩耗している。180～182は外面に焼成時の降灰の痕がみられる。胎土は179がD群、180・182がA群、181はB群、183はC群である。時期は、181はⅢ2～Ⅳ1期、180・182はⅣ1期、183はⅥ2～3期と思われる。

須恵器高杯 杯部の口縁部と裾部を欠損しているもの（184）が出土している。意図的な打ちかきの可能性がある。胎土はC類。時期はV～VI期。

須恵器鉢 185は大形のもの。口縁端部が平らな面をもち、底部は丸底に近い平底で、外面はケズリが行なわれている。ロクロを使用しており、内面はカキメ、外面はロクロナデがみられる。胎土はB群で、1未満～5mmの長石粒を多量に含む。時期はⅣ期以前と思われる。

須恵器長頸壺 186・187は大形の長頸壺で同一個体の可能性もある。186は口縁部がラッパ状に開くと思われる。187は底部内面にわずかに自然釉がみられる。胎土はどちらもC群で、時期はVI期か。188～190は小形の長頸壺と思われるもので、内面のロクロメの凹凸が顕著である。188は高台が欠損しているが、貼付け部分を整形している。底部内面に自然釉が付着している。189は体部で、188に比べると体部最大径に対する深さがやや浅めである。190は底部で、底部内面に自然釉が掛かっている。胎土は、188・190がC群、189がA群。時期は、188・190がV～VI期と思われるが、189は不明である。

須恵器短頸壺 191・193は蓋、192・194は嘴状の高台をもつ身。191は他器種の壺蓋の可能性もある。外面に自然釉が付着している。192は外面にタタキメの痕が残るが、内面はロクロナデの凸凹がみられる。外面と底部内面に自然釉が付着している。193・194はセットであり、くついた状態で出土した。194の口縁部直下に、193をかぶせて焼成した時の接着痕が残る。胎土は、191・192がB群、193・194がA群である。

須恵器壺 195・196・198は壺A類、197・199は壺B類。195は口縁部上部が大きく外反している。内面の荒れが激しく、器面の剥落が口縁部～体部まで及ぶ。外面は白濁した自然釉が体部のタタキメに入り込んでいるため、タタキメの平行文に木目があるかどうか不明である。内面の当て具痕は木目のない同心円文である。196は口縁部のみであるが体部の開口部が最も大きいものである。口縁端部は外方へ延びる。197は比較的短い口縁部が付くもので、器壁は薄い。外面のタタキメは中の木目が不明の平行文、内面の当て具痕は柾目状の木目がみられる同心円文である。198は肩部の張りがやや小さいもの。外面のタタキメは格子目文、内面の当て具痕は柾目状の木目がみられるもの。199が口縁部の立ち上がりが直立気味のもの。外面のタタキメは格子目文、内面の当て具痕は木目の有無が不明な同心円文である。195・197は混和材が少なく、胎土A群と思われる。196・199は、1～5mmの長石粒が多く含まれ、胎土B群。198は胎土C群。時期は、195がⅢかⅣ期、196がV期より古い可能性がある。197はほぼV期、198はV期以降と思われるが、199は不明。

土師器無台杯 200～202は無台杯A類、203～209は無台杯B2類で、210は無台杯C類。いずれも手捏ねのつくりで指頭の残るものもあるが、外面は底部も含めてナデ調整を行なっている。内面は非常に丁寧なナデかミガキを施している。また内面を黒色処理しているもの（201・203・204・206～208）がある。200・202は黒色処理のような炭化物の付着であるが、濃淡があることや、付着が内面上半に限られることから黒色処理とは区別した。210はやや器壁が厚いが整っているもので、鉢に近い器形である。200～209の焼き上がりが堅歛であるが、210はやや軟質感がある。時期は、200～209はⅢ期～Ⅳ期、210はⅢ期と思われる。

土師器無台椀 211は無台椀A1 II類、212・214～220・280は無台椀A2 II類、213・221は無台椀B類、222～224は無台椀A1類、276～279・281～283は無台椀A II類である。213・221を除いて、いずれも

ロクロナデによる調整で、底部は糸切りがされる。糸切りの回転方向は214が左回転、それ以外が右回転である。体部や底部の外面に刻書(219)や墨書(276~283)がみられるものもある。また、219の口縁部と体部外面にかけて炭化物・ススが付着している。213・221は、ミガキや丁寧なナデを行っており、器壁が薄く、焼き上がりがやや堅緻である。時期は、211・223がV期、それ以外がVI期と思われる。

黒色土器無台椀 226・227は無台椀A II類、225はA I類である。内面はミガキ・黒色処理を施しており、底部は丁寧なナデやミガキを行っている。225は底部外面に刻書がみられる。いずれもVI期と考えられる。

土師器鉢 234は鉢B類。口縁部は内湾気味であり外面に1条の沈線が巡らされる。外面に一部ケズリが残るものとの外面ミガキが施され、いわゆる仏鉢と思われるもの。235は鉢としたが、全体形状が不明で、杯の可能性もある。外面に赤色顔料が部分的にみられる。時期はIII~IV 1期と考えられる。

土師器皿 228・229は体部が外へ開き口縁部が内湾気味に立ち上がる皿である。どちらも内外面にミガキ・赤彩が施され、丁寧なつくりである。器壁は、228が薄手であるが、229は厚手である。時期は、III期と思われる。

土師器有台皿 230は高台径が口径の約1/2で、体部が外へ直線的に延びる。器面はミガキや丁寧なナデが行われている。口縁部にスス・炭化物が付着している。231は有台皿としたが、有台椀の可能性もある。赤彩の痕跡がわずかに残る。時期は、230がVI期と思われる、231が不明である。

土師器高杯 232は杯部の口縁部~杯底部、233は杯体部である。脚部は出土していない。ミガキ・赤彩が施される。時期はIII期あたりであろう。

土師器小甕 236~240が小甕A類、241~244が小甕B類である。236・237は口縁部のヨコナデが行われていないが、238・240はヨコナデがしっかりと行われている。小甕B類はカキメを特徴とするが、243・244は内面に残ったロクロメで判断した。243の底部外面は丁寧なナデが行われている。244は底部切り離しが糸切りで、縁辺部に短い棒状の痕が放射状にみられる。小甕の器形全体がわかるものが少ないが、口縁部の屈曲(くの字)が明瞭なものは体部が球胴型(237・239・240・242)、緩いものは体部がやや長くなる(236・238・241)ものであろう。口縁部内面に炭化物・外面広範囲にススの付着がみられるものが多い。時期は、III~IV期のものがほとんどで、236・237・246がIII期、239・240・243がIII~IV 1期、242がIV期、238がIV~V期、244はIV 2以降と思われる。

土師器長甕 245・247・248は長甕A2類、246は長甕A2a類・262は長甕A2b類、249・250は長甕B1類、251・263・264は長甕B2類である。底部の254・258・261は、長甕A2aの可能性もあるが、遺存が少ないため、ここでは長甕A類とした。

長甕A2類は形態や調整にバラエティがある。245・246は短い口縁部が外反し、口縁部のヨコナデがしっかりとされている。245は体部外面に縦方向の非常に丁寧なナデを施しており、その痕跡がわずかに残る。内面は横方向を中心としたハケメであるが、下半は縦方向も行われていることがわかる。246は器壁が厚く、底部は丸みを帯びた平底である。247は口縁部が水平に延び、あまり膨らまない体部をもつ。248は口縁端部がつまみだされ先細りのもの。外面にススが付着している。249・250は体部外面に縦方向のハケメが施され、目の粗く弱い線のカキメが部分的にみられる。口縁部はロクロナデされ、端部は丸く整えられている。焼き上がりは堅緻である。251はしっかりしたカキメがみられる。体部の一部しか遺存していないが、体部下半にタタキが施されると思われる。長甕B2類とした。口縁部は広い面をもち、内端が嘴状に少し飛び出している。焼き上がりは堅緻である。長甕A類の底部である254~258は器壁も厚く、つくりが雑な感じをうけるが、底部外面に葉脈痕等の東北系の技法がみられる。底部の形態からすると、体部はあまり張らない細身のものと思われる。259・260は底部が明確な平底であり、外面の調整は259がハケメ、260が丁寧なナデである。外面にハケメがみられることから長甕A2a類の可能性が大きい。261は内外面に比較的丁寧なナデが行われるが、やや丸みを帯びた平底で、器壁が厚めである。262は内面に横方向のハケメ、外面に縦方向のハケメとケズリがみられるもの。胎土はやや白っぽく、焼き上がりはわずかであるが軟質感がある。263・264は長甕B2の体部下半である。

が、どちらもタタキ調整の後に内面を中心としてハケメが施され、特に264は当て具痕が残っていない。時期は、246・248~250・254~259・261・262がⅢ期、245・260がⅢかⅣ期、251がⅤかⅥ期、263・264がⅣ期以降と考えられる。

その他の土師器甕は、佐渡型と思われるものが252・253である。どちらも器壁が薄く、胎土は粒子の細かい砂質感のある点で共通するが、口縁端部の形態が252の面を持つに対し253が丸く取まり、調整も252のハケメに対し253が丁寧なナデ、と異なる点がある。異なる器種の可能性もある。

土師器鍋 265が鍋A類、266~268が鍋B類。265は、体部の立ち上がりが急で、鍋B類に比べて身が深い。内面は横方向のハケメ、外表面は縦方向のハケメが施されている。胎土は砂質感があり、西古志製品の胎土に似る。色調はやや白っぽい。266~268は体部が大きく開くもので、カキメやロクロメがみられる。266・268はスズ・炭化物の付着が頗著である。時期は265がⅣ2かⅣ3期、266~268がⅥ期と考えられる。

製塩土器 大形の269と小形の270である。どちらも外面と断面に輪積み痕がみられる。被熱による変色もみられる。9世紀後半~10世紀後半の年代が与えられている大蔵遺跡出土の製塩土器とは形態が明らかに異なり、体部上部があり開かない形態に古い要素がみられることから、この年代を8世紀代と考える。

墨書き土器 271~275は墨書がみられる須恵器無台杯、276~283は墨書きがみられる土師器無台碗である。細かい器種分類や時期については、既に記述しているので、ここでは墨書きに絞って述べる。271は底部外面に細いながら大きく文字が書かれている。「津」の可能性がある。272も同じく「津」であるが、無台杯の体部外面に頭を右にして横位に書かれている。273は2つの文字が異なる場所に書かれている。体部外面には正位で「大」、底部にはバランスの悪い「×」がみられる。274は底部外面に墨書きがはっきり認められるが、判読は不明。275は底部外面に「寺」の可能性のある文字が書かれている。276~280は土師器碗の糸切り痕が残る底部外面に書かれた墨書き土器である。277は「津」で、278は「寺」、280は「万」の可能性がある。その他は判読不明である。281~283は体部外面に書かれた墨書きであるが、判読不明である。

古墳時代（図版60~66、写真図版52~57）

土師器高杯 (285~304)・器台 (284・305~320)・鉢 (321~328・366・367)・蓋 (329)・壺 (330~365・368~370)・甕 (371~418)・ミニチュア土器 (419・420)を図示した。

土師器高杯 285~288は高杯A類、289は高杯B類、290・291は高杯C類、292は高杯D I類、293~296は高杯D II類、297・298は高杯脚A類、299~304は高杯脚B類である。

285・286は口縁部が残るもので、内湾気味に立ち上がる。286の外面下部には緩やかな稜がわずかに認められる。内外面ミガキが施され、285は赤彩もみられる。どちらも器壁は薄い。287・288は杯部下半が残るものであり、外面の下部に稜がみられる。287は脚部内部以外にミガキ・赤彩が施されるが、消えかかっているところも多い。脚部に2か所の透かしが残っており、その位置から3か所か4か所開けられていたと思われる。288は内外面ミガキが施されている。289は杯部が楕円を呈するものと思われる。外面はミガキが施されているが、内面は器壁が荒れて調整は不明である。290・291は身が深い鉢形で、口縁部は緩やかに反る。脚部内部以外はミガキが施されている。脚は細身の柱状屈折脚であろう。290は杯部内面に黒斑がみられ、291は杯部内面のミガキの痕が頗著に残る。292は大型の高杯で、下部に稜があり、外反気味立ち上がった口縁部は端部付近で外へ引き出される。脚は杯部に対して短い。器壁は厚く、重量感がある。脚部内面以外はミガキ。脚部内面は粗いナデ。裾部内面はハケメが少し残るところがあるが丁寧なナデが行われている。293~296は下部に稜がみられ、杯体部の立ち上がりはやや内湾気味である。293~295は細身で長めの柱状屈折脚、296は太めで短い柱状屈折脚である。いずれも脚部内面以外はミガキが行なわれている。293は胎土が比較的精良で、全体の調整も丁寧である。295の脚部内面は調整がほとんどされておらず、輪積み痕が頗著に残る。296の脚部内面は横方向のケズリがきれいにされている。297・298はハの字状に開く脚で、小型高杯と思われるもの。どちらも透かしが3か所あり、外面はミガキが施されている。298は裾部が大きく広がる可能性がある。299

~304は柱状屈折脚で、300は脚部が長いが、それ以外は短い。いずれも外面にミガキが施されるが、内面は調整が粗く輪積み痕が残るもの(303・304)もある。時期は、前期と中期のものがあり、285・287・297が7期か8期、286が8期以前、289・298が8期、291が9~12期、299が9期か10期、292・295・296・300~304は12・13群と考えられる。

土師器器台 284は器台A類、305・306は器台B1類、307・312は器台B2類、308~310は器台B3類で、311はその可能性があるもの、313は器台B4類、314・315は器台脚A類、316・317は器台脚B類、318・319は器台脚C類である。

284は大形で、受部が突出して鉗状を呈している。口縁部外面はヨコナデであるが、それ以外はミガキが施されている。305・306は受部の屈曲が明瞭であるが、306は浅い。どちらも脚部内面以外ミガキが施されており、305は赤彩されている。306は透かしが3か所あるもので、1か所はかろうじて認識できる程度である。307・308口縁端部の面が明瞭であるが、307はほぼ垂直、308は外傾している。どちらも他と同じ調整がみられるが、307は脚部内面のミガキも行われている。308~311は受部の深さが異なるが、内湾しながら立ち上がる。脚部内面以外ミガキが施されており、310は赤彩されている。透かしが残るものもあり、308が1か所、309が3か所、311が2か所確認できる。313は遺存度がよく、脚はすべて残る。ミガキが杯部・脚部の内外面全体に及ぶ。透かしが3か所みられる。314~319は受部の形態が不明な脚部で、外面はミガキ、内面はナデがされるものである。314・315は脚上部が細身で裾に向かって大きく広がるものである。外面のミガキ、内面のナデが丁寧である。314は透かしが縱方向に2つ並んでおり、他にわずかに残る痕跡から4か所に配されるものと考えられる。315は透かしが3か所に配されている。316・317は脚の中位に影らみをもつ。どちらも2か所に透かしが残っており、その位置から透かしが3か所配されるものであろう。318は短めの脚をもつもので、透かしが3か所開けられている。1~3mmの長石・石英粒等が多量に含まれておらず、器面に粒子が現れている。内面はハケメが残るナデ、外面はミガキが施されている。319は脚裾部が広がらず直線的である。内面はケズリによって動いた1~3mmの長石・石英粒がみられる。時期はすべて前期に属すると思われる。305~307は6・7期、308・310・311・315・317が7~8期、309・312は7期かそれ前後、313が8~9期、314が6~8期、318が7~9期、319が8期以降であろう。320は脚と思われるが、全体形が不明なもの。指でつまみ出したような裾部である。時期も不明。

土師器鉢 321は鉢A類、322は鉢B1類、366・367は鉢B2類、323・324は鉢C類、325~327は鉢D類、328は鉢E類である。

321は、外面にわずかであるが段をもち、全面にミガキが施されている。器壁が薄く、焼き上がりは堅緻である。322は、口縁部はヨコナデされ、体部は内面がやや粗いナデ、外面が非常に丁寧なナデを行っている。やや厚手である。323は口縁部がヨコナデ、体部は内面がやや粗いナデ、外面が縱方向のハケメである。調整は全体に粗い。324は内外面にミガキが施されており、器壁が薄く、焼き上がりは堅緻である。325~327は底部から体部にかけてハの字状に開き、底部に穿孔がみられるものである。いずれも穿孔は焼成前である。325・326は、底部外面に面をもつ。体部内外面にハケメが施されるが、326は内面にナデもみられる。327は、内面ナデ、外面ミガキが施されているが、孔付近の調整は難である。胎土は混和材を多量に含み、ガサガサしている。326の外面にはススの付着、327の外面には黒斑がみられる。328は全体の器形がわからないが、底部に向かってぼまるものと思われる鉢とした。口縁部は外側に折り返され、肥厚している。内外面に細かい目のハケメがみられる。器壁は薄く、焼き上がりは硬質感がある。366は体部外面ハケメ・内面ケズリで畿内系の調整がみられる。外面にススが付着している。367は器壁が薄いものである。内外面ミガキ・赤彩されているが、内面の下部は消えかかっている。時期は、概ね前期と捉えられるが、326は中期の可能性もある。321・367は8期、324は8~9期、328は8期以降、366は9期前後と考えられる。

土師器蓋 329は逆台形のつまみをもつ蓋。内外面にミガキが施されている。時期は6期か7期と思われる。

土師器壺 330・331は壺A1類、332は壺A2類、333は壺B1類、334～336は壺B2類、337・338は壺C類、339・340は壺D類、341は壺E類、342は壺F類、343～345は壺G類、346は壺N類、356は壺I類、357は壺J類、368は壺L類、359・360・362は壺M類、363～365は壺I類の体・底部の可能性があるもの、369・370は壺L類の体・底部の可能性があるものである。

330・331は口縁部が大きく外反し、端部は330が面をもち、331が丸く収まる。口縁部内外面にミガキが施され、赤彩が口縁部内面のみ（330は口縁端部も）されている。332は口縁部がやや短めで口縁部外面下端に粘土貼付による段がみられる。333は口縁部外面には刻みのはいった2本1単位の棒状浮線文が1か所残る。棒状浮線文間は横位1列に円形竹管文が刺突されている。口縁部はヨコナデされているが内面にはハケメが残り、頸部外面には縱方向のハケメがみられる。334は口縁部外面下端の肥厚が大きく、全体の器壁も厚い。口縁部・頸部はヨコナデ、体部外面はハケメを行っているが、頸部下半から体部にかけての内面は器面の剥落があり、調整不明。335・336は短い口縁部外面下端が肥厚して断面三角形になっており、335は外反、336は内面気味に立ち上がっている。口縁部はヨコナデであるが、336は丁寧である。337・338は細口の有段口縁部をもつもので、337は内面にも段がみられる。ハケメが残るところもあるがヨコナデしている。338の口縁部内面の上半には炭化物の付着がみられる。339・340の口縁部外面にみられる段のつくり出しは小さく雑である。339はヨコナデ、340はミガキが施されている。341の口縁部の段は粘土を貼り付けたもので断面が小さな三角形になっている。口縁部はヨコナデ。粒子が1～5mmの混和材を多量に含み、器面にも現れている。342は口縁部が直線的に開き、体部が張るものである。口縁部はヨコナデ、体部内外面はナデを行っているが、体部内面にはケズリの痕も残る。器壁の厚さは均一で薄い。胎土は精良であり、大きな粒子の混和材はみられない。343～345は小さく外傾した口縁部で、端部は丸く収まるが、343が先細りになっている。343・344は内外面ミガキが施されているが、345は口縁部内面・外面上端ヨコナデ、外面ハケメである。細かい目のハケメや薄い器壁、胎土から352と同一個体の可能性もある。346は壺の装飾部分であると思われるが、器壁が薄く、推測される体部径も大きいことから、異器種の可能性もある。内外面ミガキ・赤彩が施されている。347は球形の体部で、外面はミガキ、内面は横方向のハケメがみられる。壺の底部（348～355）のうち、348～350・353は体部が張る球形で、やや突き出た底部をもつ。348～350は底部外面の縁部がドーナツ状にわずかに盛り上がる。353は底部の下端が張り出しており、外面は内側にやや反っている。これらの外面はハケメ（348・353）やミガキ（349）、丁寧なナデ（348・350）が行われている。348には一部黒斑がみられる。351・352は、体部の張りが強くなく、底部はほぼ平らである。351は胎土に1～3mmの粒子の混和材を多量に含む。352は器壁が薄い。354・355は体部が張らない小形の壺と思われるものである。354は底部が棒筒底状であり、縁部の接地部分がわずかに擦れている。355は外面に凸凹がみられるが、丁寧なナデを行っている。356は遺存率が高く、長い口縁部が内湾気味に立ち上がる。体部は球形で、底部は丸みを帯びており安定しない。口縁部内外面・体部外面はミガキがされている。357・358は、壺II類に比べ口縁部が短く、頸部が太い。口縁部内外面・体部外面はミガキが施されており、358は内外面赤彩されている。359は口縁部ヨコナデで、体部は外面がハケメの後に丁寧なナデ、内面がケズリの後に丁寧なナデを行っている。1～3mmの粒子の混和材を多量に含む。362と同一個体の可能性がある。361は内外面ミガキが施されている。363～365は球形の体部で、外面ミガキ、内面は363がナデ、364・365が弱いミガキが施されている。368～370のうち、369は底部外面に明瞭な面をみると、368・370は体部との接ぎがみられない。368は内外面に丁寧なナデを行うが、外面下半はケズリがみられる。369は、内面がナデ、外面が細かい目のハケメである。370は内面がやや粗いナデ、外面が丁寧なナデである。時期は、前期・中期のものと考えられるが、330が8期、331～333・343・344が7・8期、334・358・359・362は8・9期、335は7期、337・342・356・357・361・363・370は9期あるいはその前後、338は6・7期、339は9・10期、345は9期以降、346は下限が7期、361・369は10・11期、368は12期と捉えられる。

土師器甕 371は壺A類、372～376は壺B1類、377～398は壺B2類、399はD1類、400～410はC2類、

411はC3類、412・413は甕D類である。

371は内面はミガキ、外面ハケメ・ナデが行われているが、甕としたものである。内面は黒斑が広がる。372～376は口縁部のヨコナデにより意識して面取りを行っており、内端がつまみ上げられたようになっているもの(372・374)や外端がつまみ出されたようになったもの(376)がある。375・376は外面にススが付着しているが、口縁部から体部上半に顕著である。377は口縁部ヨコナデ、体部外面ハケメ、体部内面ケズリで畿内系の調整技法がみられる。378～380は口縁部が内湾気味に立ち上がるるものである。いずれも器壁は薄めで、口縁部はヨコナデ、体部(378のみ遺存)は外面ハケメ、内面ケズリで畿内系の調整技法がみられる。外面にススが付着しているが、口縁部付近が顕著である。381・382は口縁部のヨコナデが内面には施されるが、外面はほとんどみられない。口縁部のつくりもやや歪んでいる。外面のススの付着が顕著である。383は口縁部が直線的に立ち上げるもので、ヨコナデが丁寧である。外面にススが薄く付着している。384は口縁部が厚く先が細るものである。外面のススの付着が顕著である。385は口縁部内面がヨコナデ、それ以外ケズリである。焼き上がりは堅緻である。386・387は口縁部が外反するものであるが、口縁部の調整が雑で厚さが不均等であるが、体部のナデは丁寧で器壁は薄くほぼ均等である。外面に薄くススが付着している。388は、口縁部が直立して端部付近で開くものである。口縁部上半はヨコナデを行っているが、下半はやや雑なハケメである。389は口縁部のヨコナデが雑である。器壁は薄いが、均等ではない。体部の内面はナデ・ケズリ、外面は縱方向のケズリが施される。外面のススの付着は顕著である。390～397は口縁部がくの字状に外反するものであるが、相対的に390～393は長く、394～397は短い。また、体部の最大径も前者の方が上部にある。口縁部はハケメが残るがヨコナデされ、体部は内外面ハケメである。391～394は外面にススが付着しており、394は外面、396は内面に剥落がみられる。397は小形の甕であるが、口縁部はヨコナデ、体部は内外面ハケメが施されており、焼き上がりが堅緻である。398は口縁部外面に未調整の粘土の後が残るが器壁が薄い。外面にススが付着している。399～411は布留系甕で、411は精製品である。399～410は口縁部の肥厚の仕方にバラエティがあるが、口縁部はヨコナデ、体部は外面にハケメ、内面にケズリが施される。粒子が1～3mmの混和材を多量に含むもの(403・404・407・409)も少なくない。403の体部外面には黒斑がみられる。399～402・404～406・408・409の外面にススが付着している。411は内外面ミガキが施される。412・413は器厚が異なるが、膨らまない体部であろう。内面はナデ、外面はハケメがみられる。414・418は内面にケズリ、外面にハケメが施されており、布留系甕の一部であろう。粒子が1～3mmの混和材を多量に含む。414の外面下部にもわずかにススがみられる。415は甕の口縁部と思われるが、口縁部が直立に立ち上がり、上部で外反するものである。416・417は体部の最大径が中位より上にくる形態のものと思われる。416は体部内面ハケメ・ナデ、外面ケズリがされている。417は底部外面がナデで、それ以外はハケメである。どちらも内面に輪積み痕がみられ、程度の差はあるが内面に炭化物、外面にススが付着している。時期は前期・中期のものと考えられるが、371が6・7期、372～374・378は7・8期、375は8期、376は7期、377・381・383～387・393・399は9期あるいはその前後、379・388～392は9・10期、382は8・9期、398・416・417は前期、394・395・397は中期と捉えられる。その他は時期不明。

ミニチュア土器 419は口縁部が平縁であるが、雑な調整である。420は甕を模倣したと思われるミニチュア土器。比較的雑な内外面ナデが行われている。

縄文・弥生時代 (図版 66・67、写真図版 57)

縄文土器 421～433・446～449は深鉢、434～441は鉢とした。421は口縁部に付く把手と思われるもの。422・423は粗製の深鉢で、口縁端部が肥厚している。424～427・437～439は太めの沈線で区画し、その中を単節縄文(425～426・437・439)や無節(438)等で充填している。また、429～434・440は細めの沈線で区画し、その中を羽状縄文で充填したり(429～434)、沈線文を描いたり(440・441)している。鉢は平縁が多いが、441は緩やかな山形の突起を3か所配するようである。446～449は燃系文(446)や斜縄文(447～449)

を施すものである。時期は、421 が加曾利 B1 式、その他が加曾利 B2 式と考えられる。446~449 は詳細時期不明であるが、おそらく後期か晚期であろう。

弥生土器 442 は壺で、弥生土器としたが、類例を知らない。胎土も金雲母を多量に含み異質である。443・444 は粗製の大形深鉢で、443 の口縁部外面には波状沈線文が施されている。445 は内外面に条痕文が施される壺。450 は壺で、上部で大きく外反する口縁部内面にハケ状工具による施文がみられる。時期は、442 は不明であるが、443~445 は前期の緒立式、450 は中期の小松式である。

時代不明 451 は外面に網代痕がみられる底部である。時代不明。

第2節 土 製 品 (図版 67・68、写真図版 58)

図示した遺物のみ出土している。支脚 (452)・紡錘車 (453・454)・土鍤 (455~458) の 7 点があり、453・457 は遺構出土、それ以外は V・VI 層出土である。

支 脚 V 層から出土した 1 点である。SI246 が位置する 12H グリッドの西隣の 12G (12G15) グリッドから出土している。一部欠損しているが、指で調整した痕が残る。両端の調整は異なっており、片端はやや粗い調整で窪んでいる (実測図上端) が、もう一方の片端は丁寧なナデを行って平らである (実測図下端)。被熱のための変色がみられ、下にわずかであるがススが付着している。焼き上がりは堅緻である。

紡錘車 453 は上層遺構の SK919 から出土している。おそらく小甕底部を転用したもので、穿孔や破片縁部の調整がみられる。454 は V 層出土のもので、断面台形の紡錘車である。半分を欠損している。全面丁寧なナデが行われている。時期はどちらも古代であろう。

土 鍤 455・456 は VI 層から出土している。どちらも半分以上欠損しているが、全体形は俵形と思われる。断面円形で、直径は 2 cm に満たない小さなものであり、紐かけ用と思われる溝がみられるが、かなり細いものである。漁撈用と思われ、御井戸 A 遺跡 [前山・相田 2003] で報告されていることから縄文時代の遺物と考える。457・458 は筒形の土鍤である。457 は SI246、458 は V 層から出土している。全体に丁寧なナデが施されるが、一部ハケメが残っている。内水面漁撈用と思われる。

第3節 石 器 (図版 67・68、写真図版 58)

図示した石器のみ出土している。

石 器 製品 (459~467) 9 点と未製品と思われるもの (468) 1 点がある。遺構出土のもの (459・463) は流入したもので、包含層出土のものは、ほとんどが VI 層からの出土である。平基有茎 (459・460)・凹基有茎 (465)・凸基有茎 (461~464)・凹基無茎 (466・467) がみられる。比較的遺存度は良好であるが、先端と茎を欠損しているものが多い。石材は珪質頁岩が多い (462~465) が、他に蛇紋岩 (459・467)・鉄石英 (460)・メノウ (461)・黒曜石 (466) がみられる。時代は、465 が弥生時代、それ以外は縄文時代と考えられる。

第4節 石 製 品 (図版 68・69、写真図版 58・59)

石製品と認識されるものは、図示した白玉 (469~472)・玉状製品 (473)・砾石 (474~477)・磨石状製品 (479~482)・石鍤 (483・484) である。

白 玉 いずれも遺構 (SI307・SB2005-P522・SB2005-P638) 出土であるが、覆土を洗浄して採集されている。直径が 0.5cm 前後、厚さ 0.2~0.3cm の非常に小さなもので、石材は灰色頁岩 (469・471)・黒色頁岩 (470・472) であろう。時代は古墳時代と考えられる。

玉状製品 特に加工の痕跡はみられないが、埋葬施設と思われるSX71から出土していることと石材が玉髓であり比較的整った円錐であるということから、そのまま使用された可能性のあるものとして図示した。水底でつく衝撃痕のような傷がわざかに認められる。

砥 石 477はSI246、それ以外はV層から出土している。自然縞の形が残るものや完全に整形して利用しているものがある。使用痕である擦痕がみられる。474は磨石状製品の480と並んで出土している。片端に打痕のような傷があり、細長い梢円状の素材を削って面を作り出している可能性がある。3面を使用しており、非常に使い込んでいる。475は切断面を除いて全面が磨耗しており、欠損は使用後と考えられる。片面の中央に小さなへこみがあり擦痕や傷がみられることから、場所によって使い分けをしていた可能性もある。被熱している。476・477は方形に形を整えられたものであろう。よく使い込んでいる。478は元の形状を加工せず使用しているもので、磨耗は弱いが擦痕がみられる。砥石とは別の用途で使用された可能性もある。石材は474・475が凝灰岩、476が泥岩、477・478は安山岩である。時代は、出土遺構・層位から、すべて奈良・平安時代と考えられる。

磨石状製品 いずれもV層から出土している。磨耗が全面に及ぶものではなく、痕跡も弱いことから、短期間の使用であろう。480は474と並んで出土している。481・482は被熱している。石材は479・480が安山岩、481・482が花崗岩である。時代は、奈良・平安時代であろう。

石 鐘 どちらもV層から出土している。483は切断した面を加工して平らにしているが、元は484と同じく砲弾形であったと思われる。どちらも紐を通す孔と紐を掛ける溝がある。石材は、483が凝灰岩、484が石英安山岩である。時代は、奈良・平安時代と考えられる。

第5節 金 屬 製 品 (図版70、写真図版60)

図示した銅製品のみ出土している。埋葬施設と思われるSX71とその周辺から出土した銅製の腰帶金具と刀子の飾り金具で、出土状況(第8図)から副葬品と捉えられる。鉄製品は1点も出土していない。

今回出土した金属製品については、財團法人元興寺文化財研究所(以下、元興寺文化財研究所という)に委託して保存処理を行なっているが、それに伴う理化学的分析の中で「鍍金」の可能性がある「金」成分が確認されている。この「金」成分が検出されたのは元興寺文化財研究所が分析の中で「腰状物質」とするものからであり、肉眼で確認される付着物の痕跡と一致する。実測図においてトーンで示したものである。元興寺文化財研究所の分析結果は本章の最後に掲載したが、紙面の都合上、分析箇所の写真や成分抽出グラフ等は割愛した。

A 腰 帯 金 具

鉢板(鉢具の板金具)、蛇尾、巡方、丸柄が出土している。鉢具の刺金や弓金具が欠けているが、ほぼ一条分の金具と思われる。表金具と裏金具が接着した状態のものも多い。

鉢 板 497・498は縁部がやや欠けているが、ほぼ全体の形状をとどめている。2か所の突出部分で繋がっていたもので、帯革を挟んで表・裏となる。498に開け損じと思われる鉢孔がみられることから、497が表、498が裏である可能性がある。理化学分析によればどちらも外側に「金」成分が検出されており、497ではそれが含まれる極薄い腰状物質が肉眼で確認できる。また、表・裏金具の外側には、使用時にいたと考えられる横方向の擦痕が認められる。

蛇 尾 509は表・裏金具が接着しているものである。横方向がやや長い長方形で、帯の尻側の角は丸みをもっている。内側を観察することはできないが、裏金具の外側に鉢痕が表れており、4本の鉢で留められていることがわかる。分析では裏金具の外側に金が検出され、それを含んでいると思われる腰状物質が肉眼で確認できる。

帯金具・刀子金具の分析について

(財団法人 元興寺文化財研究所 研究部 保存科学研究室による)

1) 分析対象: 新潟市四十石遺跡出土

帯金具(鉸具) 図版 70-497・498、遙方 図版 70-499・501・502、丸鞘 図版 70-506、蛇尾 図版 70-509)

刀子金具(柄金具) 図版 70-510、鞘金具 図版 70-511)

2) 分析内容: 銀金、漆、皮革等で構成されていると思われる帯金具の構造を調査する。

3) 使用機器

- エネルギー分散型蛍光X線分析装置(XRF) [SII ナノテクノロジー SEA5230]

測定条件: 大気中、管電圧 45kV、Mo 管球

- 全反射フーリエ変換赤外分光光度計(ATR-FTIR) [SensIR Technologies TravelIR]

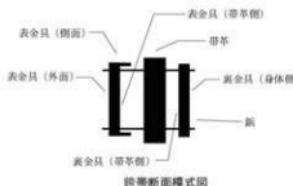
- 実体顕微鏡 [Leica MZ16・KEYENCE VHX200]

4) 結 果

新潟市四十石遺跡出土の帯金具を観察すると、真金具の身体側に金色箇所や膜状物質があったため、XRF 分析と ATR-FTIR 分析を行った。下表にその結果をまとめた。なお、帯金具の各部位は下図に示すように表記した。

XRF 分析により金が検出できたのは、表金具・真金具の別が不明の鉸具(図版 70-497,498)を除き、すべて真金具(図版 70-502 遙方、図版 70-499 遙方、図版 70-506 丸鞘、図版 70-509 蛇尾)の身体側であり、他の部分からは検出できなかった。

さらに、図版 70-502 遙方(真金具)を観察したところ、身体側の箇所に膜状物質がめぐれ上がった部分があり、銅地板の身体側に赤色層と暗色層が順に重なっていることが確認できた。そこで、2か所から膜状物質を採取し樹脂包埋のうえ、断面観察と XRF 分析を行ったところ、銅を多く含む厚み約 50 μm の赤色層と金を多く含む(水銀は未検出)厚み約 20 μm の暗色層があり、暗色層内には厚さ数 μm の金色層がみえた。また、暗色層を ATR-FTIR により分析したところ、劣化が著しく、漆や皮革の可能性はあるが判定困難な有機物という結果であった。



分析結果のまとめ

図版No.	削り青%	部位	測定部位	下記の検出元素			備考
				鉄(Fe)	銅(Cu)	鉛(Pb)	
70-497	帯金具	鉸具	外側または身体側 上か所	鉄, 銅, 鉛			膜状物質あり
			外側 中か所	鉄, 銅, 鉛			膜状物質なし
			外側または身体側 下か所	鉄, 銅, 鉛, 金			膜状物質あり
70-498	帯金具	鉸具	外側 上か所	鉄, 銅, 鉛			膜状物質なし
			外側 中か所	鉄, 銅, 鉛			膜状物質なし
			外側 下か所	鉄, 銅, 鉛			膜状物質なし
70-501	帯金具	遙方	表金具	鉄, 銅, 鉛			部分
			帶革側 上か所	鉄, 銅, 鉛			樹脂
			帶革側 中か所	鉄, 銅, 鉛			樹脂
70-502	帯金具	遙方	真金具 身体側 上か所	鉄, 銅, 鉛, 金			膜状物質あり
			真金具 身体側 中か所	鉄, 銅, 鉛, 金			膜状物質なし
			真金具 身体側 下か所	鉄, 銅, 鉛, 金			樹脂物質(樹脂の金属)
70-499	帯金具	遙方	外側 上か所	鉄, 銅, 鉛			ATR-FTIR: 漆・漆の可燃性はあるが判定困難な有機物
			外側 中か所	鉄, 銅, 鉛			
			外側 下か所	鉄, 銅, 鉛			
70-506	帯金具	丸鞘	真金具 身体側 上か所	鉄, 銅, 鉛, 金			膜状物質あり
			真金具 身体側 中か所	鉄, 銅, 鉛, 金			膜状物質なし
			真金具 身体側 下か所	鉄, 銅, 鉛, 金			膜状物質あり
70-509	帯金具	蛇尾	外側 上か所	鉄, 銅, 鉛			膜状物質なし
			外側 中か所	鉄, 銅, 鉛			膜状物質なし
			外側 下か所	鉄, 銅, 鉛			膜状物質なし
70-511	刀子金具	鞘金具	—	—	—	—	全色層
70-510	刀子金具	鞘金具?	—	—	—	—	全色層

※細かい分析箇所については別表した。

巡 方 499~502はやや横幅が長い方形の金具である。表金具には長辺寄りに細長い長方形の垂孔が付く、内側に金具を装着するための鉢がコーナー寄りに4か所鋤出されている。表・裏金具が接着しているもの1点(499)、表金具2点(500・501)、裏金具1点(502)がある。表金具の鉢足と裏金具の鉢孔の位置が一致することから501と502がセットであることがわかる。表金具3点の人さを比較すると縦幅と横幅に0.2cmほどの幅がみられる。厚さは0.1cmほどの差であるが、やはり平面形(縦幅・横幅)が大きいものが厚い。499の裏金具の外側は分析により金が確認されており、肉眼でもその痕跡を認めることができる。501の裏金具である502は外側に膜状の物質が付着しており、特定困難な有機物とされるが金も認められる。

丸 級 503~508・513・514は薄鉢形をした金具である。表金具には細長い長方形の垂孔が付く。鋤出した鉢が内側3ヶ所に付いている。表・裏金具が接着しているもの4点(503~506)、表金具2点(507・508)、裏金具2点(494)である。遺存状況は概ね良好であるが、表金具だけのもの・裏金具だけのものは損傷がみられる。506の裏金具の外側に「金」成分が確認されている。

B 刀子金具

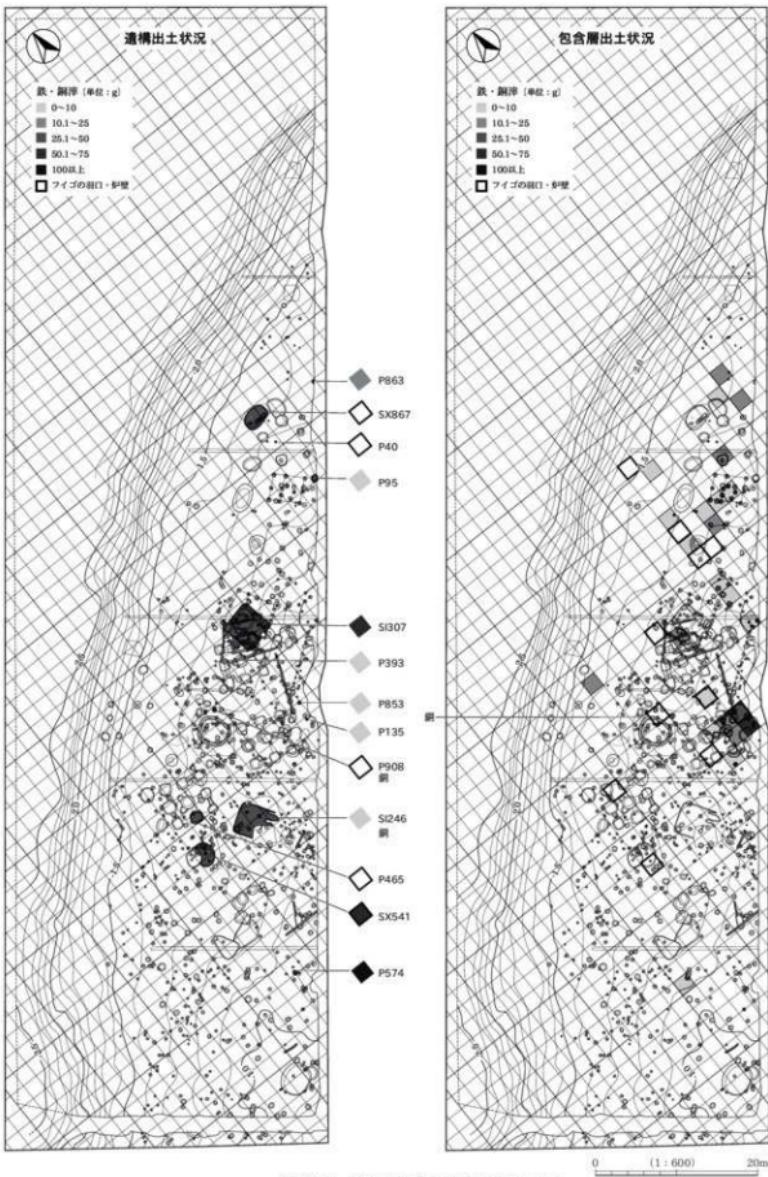
類例をあまり知らないが、510は柄につける金具、511・512は鞘につける金具で、一振り分の刀子の金具と思われる。510は刃を柄にはめるときに押さえる鍔のようなもの、511は鞘の脇部にはめる飾り、512は同じく鞘の先端(尻)に装着する飾りと考える。いずれも外側に何かの付着痕がみられ、そのうち、510・511は「金」成分が検出されている。

第6節 鍛冶関連遺物 (図版69、写真図版59)

フイゴの羽口・鉄滓・銅滓・金床石が出土しており、そのうち形状が描ける大きめのものを図示した。フイゴの羽口と金属滓の出土状況は第15図のとおりである。金属滓には鍛治滓や炉壁に付着した滓が含まれる。ほとんどが上層遺構やV層から出土しており、奈良・平安時代のものと考えられる。485~489はフイゴの羽口である。全体の大きさが推定できるものは485のみで、径は6.4cmである。492~495は椀形滓で、492・493・495は中形、494はそれよりも小さい鍛治滓である。490・491は炉壁に銅滓がみられるもの。赤色系の滓であり、肉眼で認められる。第15図に示すことのできなかった金床石は、SK336と11118グリッドで極小片が出土している。

第7節 木製品 (図版69、写真図版59)

漆椀が1点出土している。15G6グリッドのII層直下で出土している。体部下半～底部の一部しか遺存していないが、木胎の状態は比較的良好である。器壁は比較的薄く、削り出されたわずかな高台をもつ。全面に黒漆が施され、見込みには赤漆で描かれた絵がみられる。鎌倉時代後期のものと思われる。



第15図 錬冶関連遺物出土状況 [縮尺1/600]

第VI章 自然科学分析

第1節 土層とテフラ

A はじめに

新潟平野とその周辺に分布する後期更新世以降に形成された地層や土壤には、妙高・沼沢・浅間など新潟県域とその周辺に分布する火山のほか、御岳・十和田・始良・鬼界など遠方の火山から噴出したテフラ（火山碎屑物、いわゆる火山灰）が数多く降灰している。これらのテフラの多くについてはすでに噴出年代が明らかにされており、過去の時空指標として有効に利用できる。このようにテフラを利用して編年を行う火山灰編年学は、わが国において考古学や地形地質学の分野で盛んに利用されている。

四十石遺跡でも、層位や年代が不明な土層が認められたことから、微高地 A 地点で認められた基本土層断面について地質調査を行って土層の層序を記載するとともに、高純度の試料採取を実施して、すでに層位や年代が知られていて各種編年に有効な指標テフラの検出同定を行った。

B 微高地 A 地点の土層層序

微高地 A 地点（採取地点は図版 9 参照）では、下位より黄色砂層（層厚 5cm 以上、VII 層）、灰褐色砂質土（層厚 13cm、VII 層）、黒色砂質土（層厚 13cm、VI b 層）、黄灰色シルトブロックや炭化物を含む暗灰褐色砂質土（層厚 5cm、V 層）、青灰色シルト層（層厚 12cm、IV b 層）、わずかに青みがかった灰褐色シルト層（層厚 15cm）、若干色調が暗い灰褐色シルト層（層厚 4cm、以上 IV a 層）、緑色がかった暗灰色腐植質泥層（層厚 2cm）、緑色がかった灰褐色泥層（層厚 2cm）、緑色がかった暗灰色腐植質泥層（層厚 7cm、以上 III b 層）、灰褐色シルト層（層厚 2cm）、成層した灰褐色シルト層（層厚 5cm）、灰白色シルト層（層厚 2cm）、灰色シルト層（層厚 5cm）、灰白色シルト層（層厚 4cm、以上 III a 層）、暗灰色腐植質泥層（層厚 1cm）、灰白色シルト層（層厚 0.3cm）、暗灰褐色腐植質泥層（層厚 7cm、以上 II 層）、角礫混じり灰褐色土（層厚 27cm、礫の最大径 23mm、1 層）が認められる（第 16 図）。

C テフラ検出分析

1) 分析試料と分析方法

土層断面において、土層の層界をまたがないように基本的に 5cm ごとに設定採取された試料のうち、12 試料を対象にテフラ粒子の相対的な特徴を把握するテフラ検出分析を実施した。分析の手順は次の通りである。

- ① 試料ごとに 9g を秤量。
- ② 超音波洗浄装置を用いながら、ていねいに泥分を除去。
- ③ 80°C で恒温乾燥。
- ④ 実体顕微鏡下で、テフラ粒子の量や色調などを観察。

2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を第 7 表に示す。比較的粗粒の軽石やスコリアは検出されなかったものの、試料 2、試料 4、試料 6、試料 14、試料 17、試料 18 から火山ガラスが検出された。全体的な火山ガラスはごくわずかではあるが、試料 14 にはより多くの透明の火山ガラスが含まれている。この試料では、繊維束状に発泡した軽石型や、平板状のいわゆるバブル型の火山ガラスが認められる。

D 屈折率測定

1) 測定試料と測定方法

テフラ検出分析によりテフラの降灰層準の可能性が考えられた微高地 A 地点の試料 14 に含まれる火山ガラスについて、温度変化型屈折率測定装置（古澤地質社製 MAIOT）をもじいて、1/8-1/16mm の火山ガラスの屈折率（n）の測定を実施した。

2) 測定結果

火山ガラスの屈折率測定の結果を第 8 表に示す。火山ガラス（38 粒子）の屈折率（n）は、1.498-1.502 である。

E 考察

試料 14 (IVa 層) に含まれる火山ガラスについては、火山ガラスの色調や形態などから、約 2.8 ~ 3.0 万年前に南九州の姶良カルデラから噴出した姶良 Tn 火山灰 [AT, 町田・新井 1976, 2003, 村山ほか 1993, 池田ほか 1995, 町田私信] や、約 1.5 ~ 1.65 万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石 [As-YP, 新井 1962, 古環境研究所 1999, 町田・新井 2003] の一部と考えられる浅間草津テフラ [As-K, 新井 1962, 町田・新井 2003 など] に由来する可能性が指摘される。火山ガラスの具体的な起源の解明には、信頼度の高い EPMA を利用した火山ガラスの主成分化学組成分析が有効となろう。

ただ、新潟県域に降灰する完新世テフラについては、妙高地域を除けばまだ分析例が多くなく、たとえば 915 年に十和田火山から噴出し、福島市域でも検出されている十和田 a 火山灰 [To-a, 大池 1972, 町田ほか 1981, Hayakawa 1985, 早田 未公表資料] など重要なテフラが検出される可能性も十分考えられる。テフラに関する調査分析の継続が期待される。

F まとめ

四十石遺跡微高地 A 地点において、地質調査を実施して土層の層序を記載するとともに、テフラ分析や微化石分析に供する高純度の試料の採取を実施した。室内においてテフラ検出分析を行った結果、指標テフラに由来する可能性が高い火山ガラスを検出することができた。

第 7 表 テフラ検出分析結果

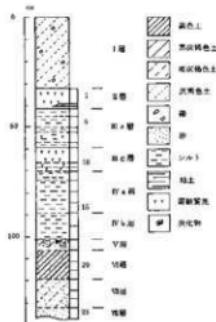
地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
微高地 A 地点	1						
	2			(*) pm		透明	
	4			(*) bw, md		透明	
	6			(*) bw		淡褐色, 透明	
	8						
	10						
	12						
	14	*	pm, bw			透明	
	17			(*) bw		透明	
	18			(*) pm		透明	
	20						
	23						

**** : とくに多い, *** : 多い, ** : 中程度, * : 少ない, (*) : とくに少ない,
bw : バブル型, md : 中間型, pm : 軽石型。

第 8 表 屈折率測定結果

地点	試料	火山ガラスの屈折率	測定粒子
微高地 A 地点	14	1.498-1.502	38

屈折率の測定は、温度変化型屈折率測定装置 (MAIOT) による。



第 16 図 微高地 A 地点の土層柱状図

第2節 植物珪酸体分析

A はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸 (SiO_2) が蓄積したもので、植物が枯れたあとも微化石となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壤などから検出して同定・定量する方法で、古植生を含む古環境復元分析などに応用されている [杉山 2000]。

B 試 料

分析試料は、SD984 の 3 層～6 層、SD868 の 5 層、SK923 の 1 層～6 層、P309 の 4 層、および低地部 B 地点（採取地点は図版 9 参照）から採取された計 15 点である。

C 分析方法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスピーズ法 [藤原 1976] を用いて、次の手順で行った。

- ①試料を 105°C で 24 時間乾燥（絶乾）。
- ②試料約 1g に対し直徑約 40 μm のガラスピーズを約 0.02g 添加（0.1mg の精度で秤量）。
- ③電気炉灰化法（550°C・6 時間）による脱有機物処理。
- ④超音波水中照射（300W・42kHz・10 分間）による分散。
- ⑤沈底法による 20 μm 以下の微粒子除去。
- ⑥封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成。
- ⑦検鏡・計数。

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスピーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1gあたりのガラスピーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスピーズ個数の比率をかけて、試料 1g 中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群については、この値に試料の仮比重（1.0 と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重、単位： 10^{-5}g ）を乗じて、単位面積で層厚 1cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる [杉山 2000]。

D 分析結果

1) 分類群

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その分析結果を第 9 表および第 17 図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真（第 18 図）を示す。

[イネ科]

イネ、ヨシ属、キビ族型、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族 A（チガヤ属など）

[イネ科-タケア科]

ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、未分類等

[イネ科-その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

〔樹木〕

その他

2) 植物珪酸体の検出状況

a 低地部 B 地点 (M層)

試料4、試料1、試料2では、部分的にヨシ属、ウシクサ族A、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。試料5では植物珪酸体が検出されなかった。

b 上層 SK923

1層と2層ではイネが検出されたが、密度はいずれも700個/gと低い値である。その他の分類群では、上位層を中心としてキビ族型、ススキ属型、ウシクサ族A、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型、および樹木(その他)などが検出されたが、いずれも少量である。樹木は一般に植物珪酸体の生産量が低いことから、少量が検出された場合でもかなり積極的に評価する必要がある(杉山1999)。なお、すべての樹種で植物珪酸体が形成されるわけではなく、落葉樹では形成されないものも多い[近藤・佐瀬1986]。下位の5層と6層では、ウシクサ族Aなどが検出されたが、いずれも少量である。

c 下層 SD868

5層では、キビ族型やミヤコザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。

d 下層 SD984

3層ではイネが検出された。密度は500個/gと低い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている5,000個/gを下回っている。その他の層では、部分的にウシクサ族Aなどが検出されたが、いずれも少量である。

e 上層 SB2004-P309

4層(試料9)ではイネが検出されたが、密度は2,300個/gと比較的低い値である。その他の分類群では、キビ族型・ウシクサ族A・チマキザサ節型・ミヤコザサ節型・樹木(その他)などが検出されたが、いずれも少量である。

3) 推定される植生と環境

a 低地部 B 地点 (M層)

植物珪酸体があまり検出されないことから植生や環境の推定は困難であるが、部分的にササ属(チマキザサ節やミヤコザサ節)などのイネ科植物が生育し、ヨシ属が生育するような湿地的なところも見られたと考えられる。植物珪酸体が検出されない原因としては、前述のようなことが考えられる。

b 上層 SK923

1層と2層の堆積当時は、遺構周辺で稲作が行われており、そこから何らかの形で遺構内にイネの植物珪酸体もしくは稻藁が混入したと考えられる。当時の遺構周辺にはススキ属やチガヤ属、キビ族、ササ属(チマキザサ節やミヤコザサ節)などのイネ科植物が生育し、跡遺跡周辺には何らかの樹木(落葉樹)が生育していたと推定される。ササ属については、落葉樹の林床植生として分布していた可能性も考えられる。

なお、下位の5層と6層では植物珪酸体があまり検出されないことから、植生や環境の推定は困難である。植物珪酸体が検出されない原因としては、前述のようなことが考えられる。

c 下層 SD868

5層では、植物珪酸体があまり検出されないことから、植生や環境の推定は困難である。植物珪酸体が検出されない原因としては、前述のようなことが考えられる。

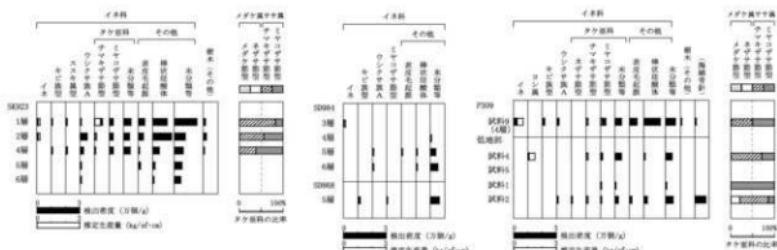
d 下層 SD984

3層の堆積当時は、遺構周辺で稲作が行われており、そこから何らかの形で遺構内にイネの植物珪酸体もしくは稻藁が混入したと考えられる。稻藁の利用としては、屋根材や敷物、藁製品など多様な用途が想定される。

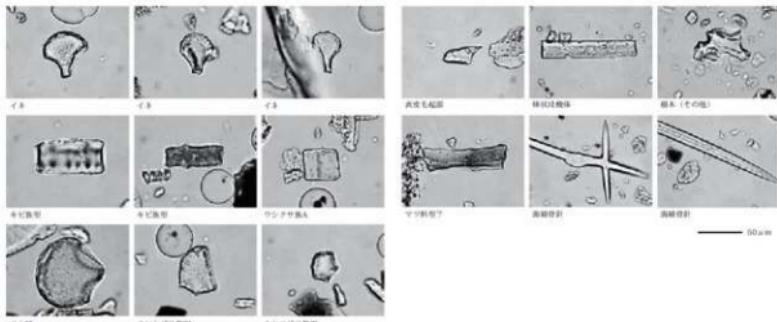
その他の層では植物珪酸体があまり検出されないことから、植生や環境の推定は困難である。植物珪酸体が検

第9表 植物珪酸体分析結果

分類群	学名	高地・試料			低地・B地点			SK923			SD968			SD964			P309		
		4	5	1	2	1	2	4	5	6	5	6	3	4	5	6	9		
イネ科	Oryzopsis					7	7					5					23		
ヨシ属	Phragmites	8															15		
キビ属型	Pennisetum type					7		8				15							
ススキ属型	Miscanthus type					7		8											
ウツクサ属 A	Anchastreptus A type					8	7	48	23	8	8			7	7		15		
タケ属科	Bambusoideae																		
チマキザ属型	Pleioblastus sect. Neriifolia					8													
チマキザ属型	Sasa sect. Sasa etc.	15				15	57	14	8								15		
ミヤコザ属型	Sasa sect. Crassimilli	15		7	8	29	28	30				8					38		
未分類等	Others	45		7	23	50	41	45									46		
その他のイネ科	Others																		
夷友子属型	Hokkaido origin					15	43	34	8	15				7		53			
棒状形體	Rod-shaped	8		23	106	131	45	15	8					7	7	114			
未分類等	Others	45		7	53	157	76	61	53	45	61		8	37	52	68			
稻本起原	Abooreal																		
その他の	Others																8		
(測定合計)	Spp. species					76											8		
植物珪酸体粗量	Total	135	0	22	151	479	400	242	90	60	83	5	8	60	67	395			
おもな分類群の推定生産量(単位: kg/m ² ・cm) : 試料の仮比率を1.0と仮定して算出																			
イネ	Oryza sativa					0.21	0.20					0.15					0.67		
ヨシ属	Phragmites	0.47																	
ススキ属型	Miscanthus type					0.04													
ミヤコザ属型	Pleioblastus sect. Neriifolia					0.11	0.11	0.10	0.06							0.11			
チマキザ属型	Sasa sect. Sasa etc.	0.11				0.11	0.11	0.10	0.06			0.02				0.11			
ミヤコザ属型	Sasa sect. Crassimilli	0.05				0.02	0.02	0.09	0.08	0.09									
タケ属科の比率(%)																			
ミヤコザ属型	Pleioblastus sect. Neriifolia					21													
チマキザ属型	Sasa sect. Sasa etc.	71				66	83	56	38							50			
ミヤコザ属型	Sasa sect. Crassimilli	29				100	13	17	44	62		100				50			
メダカ草	Medicago sativa	0				0	21	0	0	0		0				0			



第17図 植物珪酸体分析結果



第18図 植物珪酸体の顕微鏡写真

出されない原因としては、河川の影響など何らかの原因でイネ科植物の生育には適さない環境であったこと、土層の堆積速度が速かったこと、水流などによる淘汰・選別を受けたこと、さらに風化作用によって植物珪酸体が分解消失したことなどが考えられるが、ここでの具体的な原因は不明である。

e 上層 SB2004-P309

4 層の堆積当時は、遺構周辺で稲作が行われており、そこから何らかの形で遺構内にイネの植物珪酸体もしくは稻藁が混入したと考えられる。当時の遺構周辺にはササ属（チマキザサ節やミヤコザサ節）などのイネ科植物が生育し、遺跡周辺には何らかの樹木（落葉樹）が生育していたと推定される。

第3節 プラント・オパール分析

A はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壤などから検出して同定・定量する分析方法であり、特にイネの消長を検討することで水田跡（稲作跡）の検証や探査が可能である（藤原・杉山 1984、杉山 2000）。

B 試 料

分析試料は、微高地 A 地点から採取された 9 点である。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す。

C 分析方法

プラント・オパール分析は、ガラスピース法（藤原 1976）を用いて、次の手順で行った。

- ①試料を 105°C で 24 時間乾燥（絶乾）。
- ②試料約 1g に対し直径約 40 μm のガラスピースを約 0.02g 添加（電子分析天秤により 0.1mg の精度で秤量）。
- ③電気炉灰化法（550°C・6 時間）による脱有機物処理。
- ④超音波水中照射（300W・42KHz・10 分間）による分散。
- ⑤沈底法による 20 μm 以下の微粒子除去。
- ⑥封入剤（オキット）中に分散してプレパラート作成。
- ⑦検鏡・計数。

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスピース個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1gあたりのガラスピース個数に、計数されたプラント・オパールとガラスピース個数の比率をかけて、試料 1g 中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体重、単位： 10^{-5}g ）をかけて、単位面積で層厚 1cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる（杉山 2000）。

D 分析結果

プラント・オパール分析では、イネ、ムギ類（穂の表皮細胞）、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケア科の主要な 6 分類群について同定・定量を行っている。分析結果を第 10 表および第 19 図に示し、主要な分類群の顕微鏡写真（第 20 図）を示す。

E 考 察

1) 水田跡（稲作跡）の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稻作が行われていた可能性が高いと判断している（杉山2000）。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

微高地A地点では、II層（試料2）からV層（試料13）までの層準を対象に分析を行った。その結果、IIIa層（試料4）、IIIb層（試料5）、IVa層（試料8）、V層（試料10）からイネが検出された。このうち、IVa層（試料8）では密度が9,700個/gと高い値であり、V層（試料10）でも3,000個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稻作が行われていた可能性が高いと考えられる。

IIIa層（試料4）とIIIb層（試料5）では、密度が700個/gおよび2,200個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稻作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、稻藁の大半が耕作地以外に持ち出されていたこと、さらに上層や他所からの混入などが考えられる。

2) イネ科栽培植物の検討

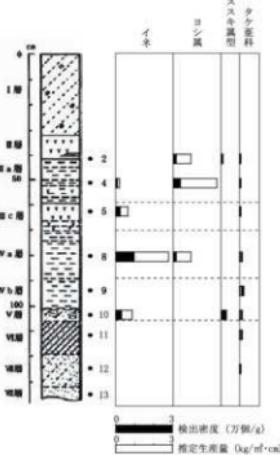
プラント・オパール分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）などがあるが、これらの分類群はいずれの試料からも検出されなかった。

第10表 プラント・オパール分析結果

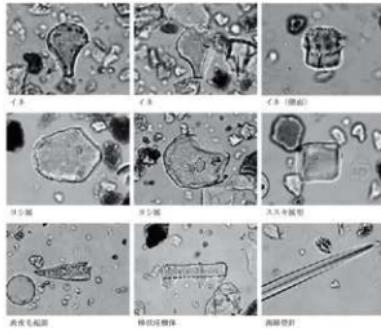
		地点・試料	微高地A地点									
分類群	学名		2	4	5	8	9	10	11	12	13	
イネ	Oryza sativa	—	—	7	22	97	—	—	30	—	—	—
コシ穀	Phragmites	15	37	—	—	15	—	—	—	—	—	—
ススキ属型	Miscanthus type	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
タケ亜科	Bambusoideae	7	7	7	15	23	15	15	15	7	—	—

推定生産量（単位：kg/m²·cm）：試料の恢徳率を1.0と仮定して算出

イネ	Oryza sativa	0.22	0.66	2.85	0.98
コシ穀	Phragmites	0.94	2.35	0.94	—
ススキ属型	Miscanthus type	0.09	—	—	—
タケ亜科	Bambusoideae	0.04	0.04	0.04	0.07



第19図 プラント・オパール分析結果



第20図 プラント・オパールの顕微鏡写真

F ま と め

プランツ・オパール分析の結果、IV a 層およびV 層ではイネが多量に検出され、稻作が行われていた可能性が高いと判断された。また、III a 層と III b 層でも稻作が行われていた可能性が認められた。

第4節 花 粉 分 析

A は じ め に

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

B 試 料

分析試料は、SD984 の 3 層～6 層、SD868 の 5 層、SK923 の 1 層～6 層、P309 の 4 層、および低地部から採取された計 15 点である。これらは、植物珪酸体分析に用いられたものと同一試料である。

C 分 析 方 法

花粉の分離抽出は、中村（1967）の分析方法をもとに以下の手順で行った。

- ①試料から 1cm³ を秤量。
- ②0.5% リン酸三ナトリウム（12 水）溶液を加えて 15 分間湯煎。
- ③水洗処理の後、0.5mm の篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈殿法で砂粒を除去。
- ④25% フッ化水素酸溶液を加えて 30 分放置。
- ⑤水洗処理の後、水酢酸によって脱水し、アセトトリシス処理（無水酢酸 9 : 濃硫酸 1 のエルドマン氏液を加え 1 分間湯煎）を施す。
- ⑥再び水酢酸を加えて水洗処理。
- ⑦沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成。
- ⑧検鏡・計数。

検鏡は、生物顕微鏡によって 300 ～ 1000 倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比を行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。イネ属については、中村（1974・1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

D 分 析 結 果

1) 分 類 群

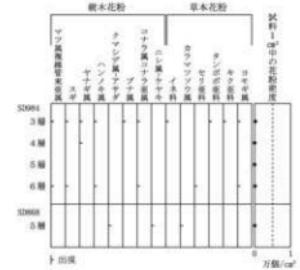
出現した分類群は、樹木花粉 32、樹木花粉と草本花粉を含むもの 7、草本花粉 25、シダ植物胞子 2 形態の計 64 である。また、寄生虫卵 1 分類群が検出された。分析結果を第 11 表に示し、花粉数が 100 個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラム（第 21 ～ 24 図）を示した。主要な分類群について顕微鏡写真（第 25 ～ 26 図）を示す。以下に出現した分類群を記載する。

第11表 花粉分析結果

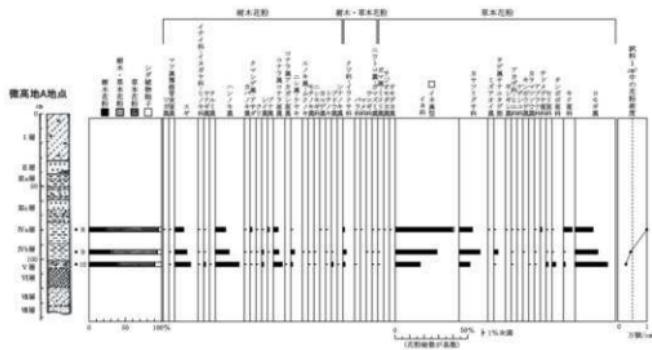
(樹木花粉)

ツガ属、マツ属複管束亞属、マツ属單管束亞属、スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシテ属-アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亞属、コナラ属アカガシ亞属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、アカメガシワ、ウルシ属、モチノキ属、ニシキギ科、カエデ属、トチノキ、ムクロジ属、ブドウ属、シナノキ属、ツツジ科、ハイノキ属、エゴノキ属、トネリコ属(樹木花粉と草本花粉を含むもの)

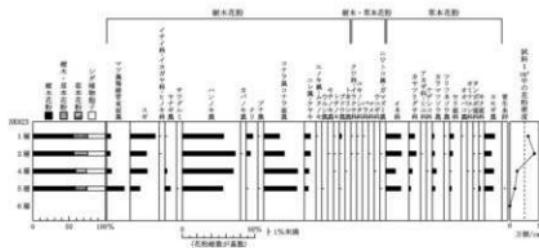
クワ科—イラクサ科、ユキノシタ科、バラ科、マメ科、ウコギ科、ゴマノハグサ科、ニワトコ属—ガマズミ属



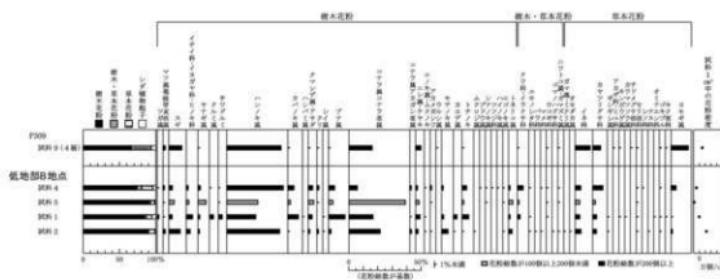
第21図 花粉ダイアグラム① (SD984, SD868)



第22図 花粉ダイアグラム②(山高地A地点)



第23図 花粉ダイアグラム③(SK923)



第24図 花粉ダイアグラム④(P309, 低地部B地点)

〔草本花粉〕

ガマ属—ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属、カヤツリグサ科、ミズアオイ属、タデ属サナエタデ節、ギンギン属、アカザ科—ヒユ科、ナデシコ科、キンボウゲ属、カラマツソウ属、アブラナ科、ツリフネソウ属、チドメグサ亞科、セリ亞科、シソ科、ナス科、オオバコ属、オミナエシ科、ゴキヅル、タンボボア科、キクア科、ヨモギ属〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

〔寄生虫卵〕

鞭虫

2) 花粉群集の特徴

a 微高地 A 地点

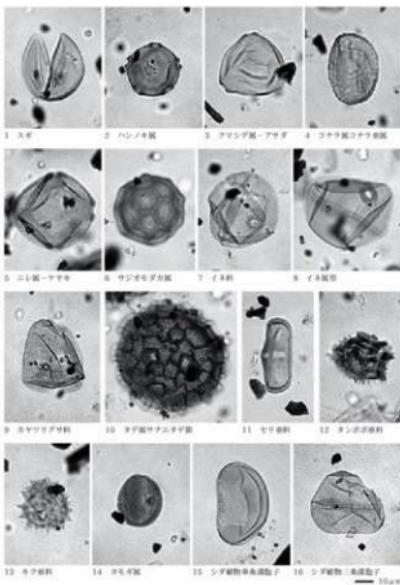
V層（試料10）では、樹木花粉よりも草本花粉の占める割合が高い。草本花粉ではイネ科・ヨモギ属が優勢で、カヤツリグサ科・タンボボア科・セリ亞科などが伴われる。樹木花粉ではスギ・ハンノキ属が優勢で、コナラ属コナラ亜属などが伴われる。IVb層（試料9）からIVa層（試料8）にかけては、イネ科が増加し、ヨモギ属および樹木花粉は減少している。IVa層ではイネ属型が伴われ、ミズアオイ属・オモダカ属なども認められた。

b 低地部 B 地点

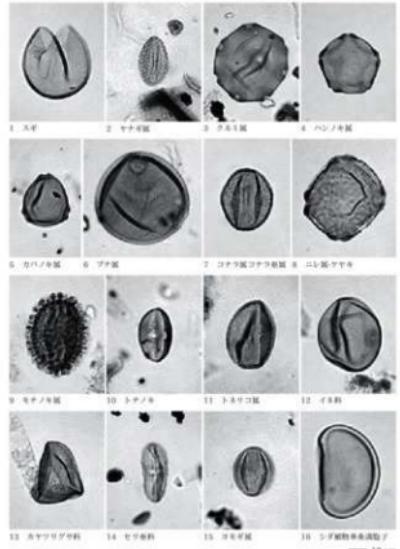
試料4・試料5・試料1・試料2では、樹木花粉の占める割合が約75～90%である。樹木花粉では、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属が優勢で、カバノキ属・ブナ属・クマシデ属—アサダ・トチノキ・トネリコ属・スギ・イチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科などが伴われる。草本花粉では、カヤツリグサ科・イネ科・ヨモギ属などが認められた。

c 上層 SK923

下位の6層では花粉が検出されなかった。5層では樹木花粉の占める割合が約55%、シダ植物胞子が約25%である。樹木花粉ではハンノキ属・コナラ属コナラ亜属が優勢で、マツ属複維管束亞属・スギ・ヤナギ属・ニレ属—ケヤキなどが伴われる。草本花粉ではイネ科・ヨモギ属が優勢で、カヤツリグサ科・カラマツソウ属などが伴われる。また、寄生虫卵の鞭虫卵がわずかに検出された。4層から1層にかけては、スギが増加し、マツ属複維管束亞属、



第25図 花粉・胞子の顕微鏡写真①(微高地 A 地点)



第26図 花粉・胞子の顕微鏡写真②(低地部 B 地点 一構造)

コナラ属コナラ亜属は減少している。また、2層から1層にかけては、クリがやや増加している。

d 下層 SD868

5層では、樹木花粉のクマシデ属-アサダ・ニレ属-ケヤキ、草本花粉のカラマツソウ属が検出されたが、いずれも少量である。

e 下層 SD984

3層では、部分的に樹木花粉のハンノキ属・マツ属複雜管束亞属・コナラ属コナラ亜属・スギ・ヤナギ属・ブナ属・草本花粉のヨモギ属・イネ科・タンボボ亜科・キク亜科が検出されたが、いずれも少量である。

f 上層 SB2004-P309

試料9(4層)では、樹木花粉の占める割合が約65%である。樹木花粉ではハンノキ属・コナラ属コナラ亜属が優勢で、スギ・ニレ属-ケヤキなどが伴なわれる。草本花粉ではヨモギ属・イネ科・カヤツリグサ科などが認められた。

3) 推定される植生と環境

a 微高地 A 地点

V層からIVa層にかけては、イネ科やカヤツリグサ科などが生育する湿地的な環境だったと考えられ、周辺の比較的乾燥したところにはヨモギ属などが生育していたと考えられる。また、周囲にはハンノキ属の湿地林が分布し、周囲にはスギやコナラ属コナラ亜属などが分布していたと推定される。IVa層ではイネ属型が検出され、水田雜草のミズアオイ属・オモダカ属も認められることから、周囲に水田が分布していたと考えられる。IVb層は平安海進堆植物の可能性も考えられていたが、塩分等による植生への影響はとくに認められなかった。

b 低地部 B 地点

調査区周辺は、湿地林を形成するハンノキ属、およびナラ類・カバノキ属・ブナ属・クマシデ属-アサダ・トチノキなどの落葉広葉樹林を主体として、スギなども生育する森林植生が分布しており、草本類はあまり見られなかつたと考えられる。

c 上層 SK923

下位の6層では花粉が検出されなかつた。花粉が検出されない原因としては、前述のようなことが考えられる。5層から1層にかけては、湿地林を形成するハンノキ属、およびナラ類・ニレ属-ケヤキなどの落葉広葉樹林を主体として、スギ・マツ属なども生育する森林植生が分布していたと考えられ、上位層ではスギが増加し、マツ属やナラ類は減少したと推定される。また、遺構付近にはイネ科・ヨモギ属・カヤツリグサ科・カラマツソウ属・シダ類などの草本類が生育していたと考えられる。

5層では、寄生虫卵の鞭虫卵が検出されたが、低密度であることから、集落周辺などでの通常の生活汚染に由来するものと考えられる。鞭虫は中間宿主を必要とせず、虫卵の付着した野菜・野草の摂取や水系により経口感染する。寄生虫に起因する鞭虫症は、腹痛を主とする消化器病状がおこり、多数寄生の場合は症状が重い。

d 下層 SD868

5層では、花粉がほとんど検出されないことから植生や環境の推定は困難である。花粉が検出されない原因としては、前述のようなことが考えられる。

e 下層 SD984

3層では、花粉があまり検出されないことから植生や環境の推定は困難であるが、遺構付近にイネ科やヨモギ属が生育し、周辺にハンノキ属やナラ類(コナラ属コナラ亜属)などの樹木が分布していたことが示唆される。花粉が検出されない原因としては、一般に乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたこと、土層の堆積速度が速かったこと、および水流や粒径による淘汰・選別を受けたことなどが考えられるが、ここでの詳細な原因は不明である。

f 上層 SB2004-P309

4層の堆積当時は、湿地林を形成するハンノキ属、およびナラ類・ニレ属・ケヤキなどの落葉広葉樹林を主体として、スギなども生育する森林植生が分布していたと考えられ、遺構付近にはイネ科、ヨモギ属、カヤツリグサ科などの草本類が生育していたと推定される。

第5節 珪藻分析

A はじめに

珪藻は、珪酸質の被殻を有する单細胞植物で、海水域や淡水域などの水域をはじめ、湿った土壌、岩石、コケの表面にまで生息している。珪藻の各分類群は、塩分濃度、酸性度、流水性などの環境要因に応じて、それぞれ特定の生息場所を持っています。珪藻化石群集の組成は、当時の堆積環境を反映しており、水域を主とする古環境復原の指標として利用されている。

B 試 料

分析試料は、微高地 A 地点の IV b 層から採取された 1 点と低地部 B 地点から採取された 4 点である。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す。

C 分析方法

珪藻の抽出と同定は以下の手順で行った。

- ① 試料から 1cm³ を秤量。
- ② 10%過酸化水素水を加え、加温反応させながら 1 晚放置。
- ③ 上澄みを捨て、細粒のコロイドと薬品を水洗（5～6 回）。
- ④ 残渣をマイクロビペットでカバーグラスに滴下して乾燥。
- ⑤ マウントメディアによって封入し、プレパラート作成。
- ⑥ 検鏡・計数。

検鏡は、生物顕微鏡によって 600～1500 倍で行った。計数は珪藻被殻が 100 個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。

D 分析結果

1) 分類群

試料から出現した珪藻は、微高地 A 地点が中一貧塩性種(汽-淡水生種)2 分類群、貧塩性種(淡水生種)64 分類群、低地部 B 地点が破片の計数は基本的に中心城を有するものと、中心城がない種については両端 2 個につき 1 個と数えた。分析結果を第 12・13 表に示し、珪藻総数を基数とする百分率を算定したダイアグラムを第 29・30 図に示す。珪藻ダイアグラムにおける珪藻の生態性については Lowe (1974) や渡辺 (2005)、陸生珪藻については小杉 (1986)、環境指標種群の海水生種から汽水生種については小杉 (1988)、淡水生種については安藤 (1990) の記載を参照した。以下にダイアグラムで表記した主要な分類群を記し、主要な分類群について顕微鏡写真（第 27・28 図）を示す。

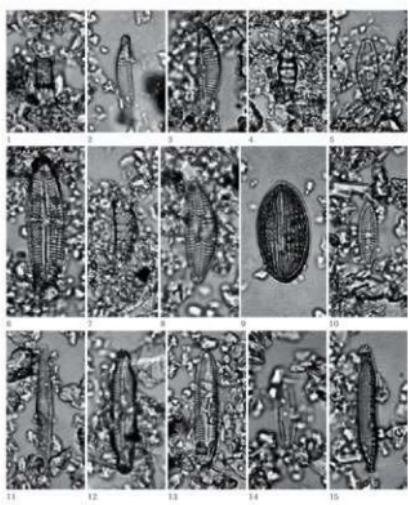
a 微高地 A 地点

[中一貧塩性種]

Achnanthes brevipes, *Rhopalodia gibberula*

第 12 表 珪藻分析結果①（微高地 A 地点）

分類群	熱帶雨林 A 地區		分類群	熱帶雨林 B 地區		
	試驗 A	試驗 B		試驗 A	試驗 B	
灌木林 (低木生層)						
<i>Achatocarpus litoralis</i>	1		<i>Hamelia amplexicaulis</i>	38		
<i>Achatocarpus sericea</i>	1		<i>Melastoma ciliolatum</i>	5		
<i>Anthonome capitata</i>	2		<i>Myrsinella americana</i>	2		
<i>Anisognathus antidiopsis</i>	0		<i>Nasaceia hispida</i>	1		
<i>Anisognathus canadensis</i>	2		<i>Nasaceia confusa</i>	1		
<i>Anisognathus granulosus</i>	1		<i>Nasaceia constricta</i>	4		
<i>Catolae ovalis</i>	1		<i>Nasaceia cyathiformis</i>	1		
<i>Coccoloba phoenicea</i>	20		<i>Nasaceia elatior</i>	2		
<i>Cordyline spicata</i>	2		<i>Nasaceia pallidiflora</i>	1		
<i>Cordyline strictissima</i>	11		<i>Nasaceia matris</i>	24		
<i>Cordyline strictissima</i>	0		<i>Nasaceia spp.</i>	2		
<i>Cordyline spp.</i>	4		<i>Nastus amplifolius</i>	3		
<i>Cordyline undata</i>	2		<i>Nastus amplifolius</i>	1		
<i>Cordyline septentrionalis</i>	12		<i>Nastus brevirostris</i>	1		
<i>Dioscorea spp.</i>	1		<i>Pandanus hornei</i>	6		
<i>Diplomia elliptica</i>	1		<i>Pandanus glauca</i>	9		
<i>Diplomia spp.</i>	2		<i>Pandanus heterocarpus</i>	10		
<i>Diplomia paradoxica</i>	1		<i>Pandanus macrocarpus</i>	9		
<i>Ephedra adonis</i>	2		<i>Pandanus schiederi</i>	5		
<i>Ephedra caeca</i>	1		<i>Pandanus tectorius</i>	5		
<i>Ephedra foemina</i>	1		<i>Pandanus veitchii</i>	11		
<i>Euphorbia mesembryanthemifolia</i>	0		<i>Psychotria affinis</i>	3		
<i>Euphorbia mesembryanthemifolia</i>	3		<i>Psychotria glabra</i>	2		
<i>Fragaria capulinifolia</i>	26		<i>Sennarum spp.</i>	2		
<i>Fragaria cornuta</i> v. <i>walteri</i>	3		<i>Sorindeia villosa</i>	2		
<i>Fragaria cuneata</i>	3		<i>Sorindeia villosa</i>	2		
<i>Fragaria valdiviana</i>	1		<i>Sophora secundiflora</i>	1		
<i>Gymnopeltis acuminata</i>	2		中-高木帶 (喬木-灌木生層)			
<i>Gymnopeltis affinis</i>	1		<i>Adenanthera pavonina</i>	11		
<i>Gymnopeltis myrsinoides</i>	2		<i>Begonia gibberiflora</i>	16		
<i>Gymnopeltis major</i>	2		苔 藓	303		
<i>Gymnopeltis ovalis</i>	2		未定名	15		
<i>Gymnopeltis gracilis</i>	3		被子	265		
<i>Gymnopeltis ovata</i>	17		KRP 1cm ⁻² 4-6 數度密度	3.2		
<i>Gymnopeltis parvula</i>	9		百分率 (%)	$\times 10^3$		
<i>Gymnopeltis spp.</i>	10		百分率 (%)	58.8		



1:15. — 10 μ m

第27図 珪藻の顕微鏡写真①（微高地入地点）

第 13 表 珪藻分析結果②（低地部 B 地点）

第27図 珪藻の頭微鏡写真①(微高地八地川)

(貧塩性種)

Aulacoseira ambigua, *Cocconeis placentula*, *Cymbella silesiaca*, *Cymbella sinuata*, *Cymbella* spp., *Cymbella turgidula*, *Eunotia minor*, *Eunotia praerupta*, *Fragilaria capucina*, *Fragilaria construens* v. *venter*, *Fragilaria pinnata*, *Gomphonema gracile*, *Gomphonema minutum*, *Gomphonema parvulum*, *Gomphonema* spp., *Hantzschia amphioxys*, *Meridion circulare* v. *constrictum*, *Navicula contenta*, *Navicula mutica*, *Neidium ampliatum*, *Pinnularia borealis*, *Pinnularia gibba*, *Pinnularia interrupta*, *Pinnularia microstauron*, *Pinnularia schroederii*, *Pinnularia subcapitata*, *Pinnularia viridis*, *Rhoicosphenia abbreviata*

b 低地部B地点(M層)

〔中-貧塩性種〕

Rhopalodia gibberula, *Rhopalodia musculus*

(貧塩性種)

Achnanthes lanceolata, *Aulacoseira ambigua*, *Cocconeis placentula*, *Cymbella minuta*, *Cymbella silesiaca*, *Cymbella sinuata*, *Cymbella tumida*, *Cymbella turgidula*, *Eunotia minor*, *Fragilaria brevistriata*, *Fragilaria capucina*, *Fragilaria construens*, *Fragilaria construens* v. *venter*, *Fragilaria parasitica*, *Frustulia vulgaris*, *Gomphonema minutum*, *Gomphonema parvulum*, *Gomphonema* spp., *Navicula contenta*, *Navicula cryptotenella*, *Navicula goeppertiana*, *Navicula mutica*, *Navicula pupula*, *Navicula radiosa*, *Nitzschia brevissima*, *Nitzschia palea*, *Pinnularia subcapitata*, *Tabellaria fenestrata-flocculosa*

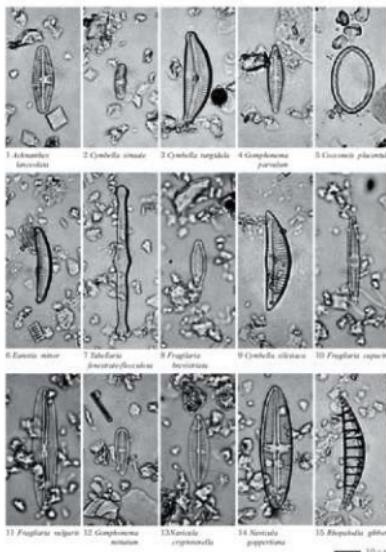
2) 珪藻群集の特徴

a 微高地A地点

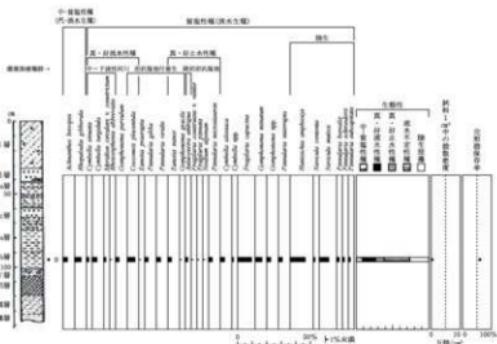
IV b 層(試料9)では貧塩性種(淡水生種)が約90%を占め、残りが中-貧塩性種(汽-淡水生種)である。貧塩性種(淡水生種)では流水不定性種の占める割合がやや高く、次いで陸生珪藻、真・好流水性種、真・好止水性種が占める。流水不定性種では*Fragilaria capucina*がやや多く、*Gomphonema minutum*, *Gomphonema* spp., *Cymbella silesiaca*, *Pinnularia interrupta*、沼澤湿地付着生環境指標種群の*Pinnularia gibba*, *Pinnularia viridis*など多様な分類群が低率に認められた。陸生珪藻では*Hantzschia amphioxys*を主に、*Navicula mutica*などが認められた。真・好流水性種では沼澤湿地付着生環境指標種群の*Cocconeis placentula*、中～下流性河川環境指標種群の*Cymbella turgidula*、好流水性種の*Gomphonema parvulum*などが低率に認められた。真・好止水性種では沼澤湿地付着生環境指標種群の*Eunotia minor*、湖沼沼澤湿地付着生環境指標種群の*Aulacoseira ambigua*、好止水性種の*Pinnularia microstauron*などが低率に認められた。中-貧塩性種(汽-淡水生種)では*Achnanthes brevipes*, *Rhopalodia gibberula*が認められた。

b 低地部B地点(M層)

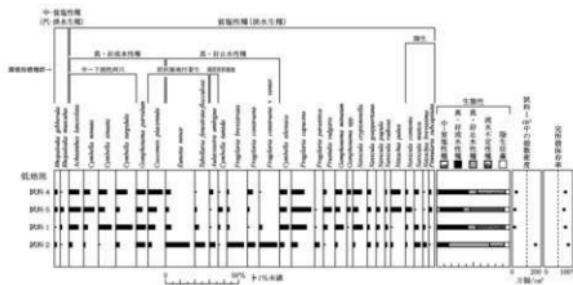
試料4、試料5、試料1では類似した出現傾向を示し、真・好流水性種と流水不定性種の占める割合がそれぞれ約40%である。真・好流水性種では中～下流性河川環境指標種群の*Cymbella turgidula*, *Cymbella sinuata*,



第28図 珪藻の顕微鏡写真②(低地部B地点)



第29図 主要珪藻ダイアグラム①(微高地A地点)



第30図 主要珪藻ダイアグラム②(低地部B地点)

Achnanthes lanceolata, *Cymbella minuta*などが優占し、沼澤湿地付着生環境指標種群の *Cocconeis placenta*、好流水性種の *Gomphonema parvulum*などが伴なわれる。流水不定性種では *Fragilaria capucina* を主に、*Cymbella silesiaca*, *Navicula cryptotella*, *Gomphonema minutum*, *Nitzschia palea*, *Frustulia vulgaris* などが出現する。中-貧塩性種(汽-淡水生種)の *Rhopalodia gibberula*, *Rhopalodia musculus* が低率に出現する。

試料2では真・好止水性種の占める割合が約55%、流水不定性種が約20%、真・好流水性種が約15%である。真・好止水性種では沼澤湿地付着生環境指標種群の *Eunotia minor*、好止水性種の *Fragilaria construens* v. *venter*、真正止水性種の *Fragilaria brevistriata* などが優占し、沼澤湿地付着生環境指標種群の *Tabellaria fenestrat flocculosa*、好止水性種の *Fragilaria construens*、湖沼沼澤湿地付着生環境指標種群の *Aulacoseira ambigua* などが伴なわれる。流水不定性種では *Fragilaria capucina*, *Cymbella silesiaca*, *Fragilaria parasitica* などが低率に出現する。真・好流水性種では好流水性種の *Gomphonema parvulum*、沼澤湿地付着生環境指標種群の *Cocconeis placenta* などが低率に出現する。

3) 推定される植生と環境

a 微高地A地点

IV b 層の堆積当時は、流水の影響のある沼澤湿地、水草の生育する不安定な滞水域、湿潤な陸域など、多様な環境が共存もしくは繰り返されていたと推定される。なお、中-貧塩性種(汽-淡水生種)が低率に認められ

たが、真塩性種（海水生種）は検出されないことから、直接的な海の影響はなかった可能性が考えられる。

b 低地部 B 地点 (M層)

試料4、試料5、試料1では、河川の影響を受ける流水域、不安定な滞水域、水草の生育する沼沢地、湿潤な陸域など、多様な環境が共存もしくは繰り返されていたと推定される。試料2では、流水域の影響が少なく、水草の生育する停滞した沼沢地の環境が示唆される。

第6節 種 実 同 定

A はじめに

植物の種子や果実は比較的強靭なものが多く、堆積物や遺構内に残存している場合がある。堆積物などから種実を検出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や栽培植物を明らかにすることができる。

B 試 料

試料は、低地部B地点から採取された堆積物3点である。

C 分析方法

以下の手順で、種実の抽出と同定を行った。

- ①試料500cm³に水を加えて泥化。
- ②攪拌した後に0.25mmの篩で水洗選別。
- ③双眼実体顕微鏡下で検鏡・計数。

同定は種実の形態的特徴および現生標本との対比を行い、結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

D 分析結果

1) 分類群

樹木、樹木・草本を含むもの1、草本12分類群が同定される。学名、和名および粒数を第14表に示し、主要な分類群を顕微鏡写真（第31図）に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を記載する。

[樹木]

ハンノキ属 *Alnus* 種子 カバノキ科：長さ4.25mm×幅3.31mm、長さ3.51mm×幅2.04mm

種子は広卵形や卵形、倒卵形を呈し、扁平である。暗褐色で平滑となる。

ヤマグワ *Morus australis* Poir. 種子 クワ科

茶褐色で広倒卵形を呈し、基部に突起がある。表面はやや粗い。

マメ科 Leguminosae 種子：長さ7.72mm×幅4.79mm×厚さ3.82mm

淡褐色で梢円形を呈し、縦に一本の溝状の筋が走る。

モチノキ属 *Ilex* 核 モチノキ科：長さ4.25mm×幅2.26mm

浅赤黄色で梢円形を呈し、V字状の溝があり、縁は鋸く、光沢はない。鋸い隆条や凹凸が多く、粗面。

マタタビ属 *Actinidia* 種子 マタタビ科：長さ1.07mm×幅0.68mm

暗褐色ないしやや紫色を帯びる茶褐色で、梢円形を呈す。断面は両凸レンズ形、表面には穴が規則的に分布する。

エゴノキ *Styrax japonica* S. et Z. 核（完形・破片）エゴノキ科：長さ10.27mm×幅7.44mm

黒褐色で梢円形を呈し、下端にへそがある。表面に3本の溝が走る。

[樹木・草本を含むもの]

ウコギ科 Araliaceae 種子：長さ2.00mm×幅1.17mm

第14表 種実同定結果

学名	分類群	部位	低地部 B 地点		
			4	5	2
Arbor	樹木				
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	果実 (破片)	28	18	9
<i>Morus australis</i> Poir.	ヤマグワ	種子		2	
	マメ科	種子		1	
<i>Bet</i>	モチノキ属	種子		1	
<i>Acridia Lindley</i>	マタタビ属	種子	10		
<i>Syosu japonica</i> S. et Z.	エゴノキ	核 (破片)		1	
				2	
Arbo + Herb	樹木・草本				
Anhaeace	ウコギ科	種子 (破片)	2		
Herb	草本				
<i>Sagittaria trifolia</i> L.	オモダカ	果実		2	
<i>Sagittaria</i>	オモダカ属	果実		4	
Gramineae	イネ科	穎		2	
		(破片)	4		
Carex	スゲ属	果実 (破片)		2	
Cyperaceae	カヤツリグサ科	果実 (破片)	26	8	14
				2	
Juncaceae	イグサ科	種子		4	
Polygonum Thunbergii S. et Z.	ミゾソバ	果実		2	
Urticaceae	イラクサ科	種子		4	
Hypericum	オトギリソウ属	種子		2	
Apoideae	セリ酢酸科	果実			2
Labiatae	シソ科	果実		2	
Asteraeidae	キク酢酸科	果実			38
Total		合計	86	52	56
			(500cm ² 中 0.25mm 粒)		



第31図 種実の顕微鏡写真

淡褐色ないし茶褐色で、半月状を呈する。断面は扁平、向軸側はほぼ直線状になり、肺軸側には浅い溝が2~3本走る。表面はざらつく。

[草本]

オモダカ *Sagittaria trifolia* L. 果実 オモダカ科 : 長さ 2.96mm × 幅 2.53mm

淡褐色~黄褐色で歪んだ倒卵形を呈す。周囲は翼状となり、上部は針状にとがる。

オモダカ属 *Sagittaria* 果実 オモダカ科

淡褐色~黄褐色で歪んだ倒卵形を呈す。周囲は翼状部が傷んでおり、その概形が判別できないため、属レベルの同定にとどめる。

イネ科 Gramineae 穎 (完形・破片)

穎は灰褐色~茶褐色で梢円形を呈す。腹面はやや平らで、背面は丸い。表面は滑らかである。

スゲ属 *Carex* 果実(破片) カヤツリグサ科

茶褐色で倒卵形、扁平である。果皮は柔らかい。

カヤツリグサ科 Cyperaceae 果実(完形・破片): 長さ 1.52mm × 幅 0.88mm、長さ 1.33mm × 幅 0.79mm

茶褐色でやや狭い倒卵形を呈す。断面は両凸レンズ形である。また、茶褐色で倒卵形を呈し、断面が三角形のものも認められる。

イグサ科 Juncaceae 種子

半透明の黄褐色ないし茶褐色、ゆがんだ卵形を呈す。両端は尖り、黒褐色。表面には網目模様がある。

ミゾソバ *Polygonum thunbergii* S. et Z. 果実 タデ科: 長さ 4.53mm × 幅 2.17mm

黄褐色で三角状広卵形を呈し、基部に小突起がある。表面には微細な網目模様がある。

イラクサ科 Urticaceae 種子

黄褐色を呈し、ゆがんだ卵形で両端は尖る。表面はざらつき、種皮は厚くやや堅い。

オトギリソウ属 *Hypericum* 種子 オトギリソウ科: 長さ 1.18mm × 幅 0.58mm

暗褐色で円柱状長楕円形を呈す。表面に不明瞭な網目模様が発達。

セリ亞科 Apioideae 果実: 長さ 1.89mm × 幅 1.37mm

淡褐色～黄褐色で楕円形を呈す。果皮はコルク質で厚く弾力があり、片面に 3 本の肥厚した隆起が見られる。

断面は半円形である。

シソ科 Lamiaceae 果実

倒卵状 3稜形を呈し、先端は切形で扁形。着点は扁形で斜切形である。

キク科 Compositae 果実 キク科: 長さ 1.84mm × 幅 1.12mm

茶褐色で楕円形を呈し、両端は切形となる。表面には縱方向に 8 本程度の筋が走る。

2) 種実群集の特徴

a 試 料 4

樹木種実のハンノキ属・マタタビ属、草本種実のカヤツリグサ科が多く、樹木・草本を含むウコギ科、草本種のイネ科・イグサ科・イラクサ科・ミゾソバ・オトギリソウ属・シソ科も検出された。

b 試 料 5

草本種実のキク科が多く、カヤツリグサ科・イネ科・スゲ属、および樹木種実のヤマグワも検出された。

c 試 料 2

樹木種実のハンノキ属、草本種実のカヤツリグサ科が多く、樹木種実のエゴノキ・マメ科・モチノキ属、草本種実のオモダカ属・オモダカ・セリ亞科も検出された。

3) 推定される植生と農耕

低地部 B 地点では、試料により差異はあるが、沼澤地に生育するハンノキ属やカヤツリグサ科が多く、スゲ属、ミゾソバ、オトギリソウ属、オモダカなどの水生植物も見られることから、湿地から浅水域の環境が示唆される。なお、試料 5 ではキク亞科が多いことから、比較的乾燥していた可能性も考えられる。

試料 4 で検出されたマタタビ属は、食用になる有用植物で山地に生育する。試料 5 で検出されたヤマグワは、食用ないし有用植物で流路沿いなど水辺に生育する。

第7節 放射性炭素年代測定

A 測定試料と測定方法

豎穴住居 (SI246・SI307)・掘立柱建物 (SB2005・SB2006)・埋葬関係遺構 (SX71・SK159) から検出された炭化物 6 試料について、酸-アルカリ-酸洗浄のちに加速器質量分析 (AMS) 法により放射性炭素 (^{14}C) 年代測定を行った。試料の詳細を表 1 に示す。年代測定は米国の Beta Analytic Inc. (ベータ社) で実施され、測定には 3MV HVEE タンデムトロン加速器が使用された (第 15・17・19 表)。

B 測定値の見かた

各用語の意味は次の通りである。

1) 未補正 ^{14}C 年代値 (measured radiocarbon age)

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在 (AD1950 年) から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は、国際的慣例によりリビー (Libby) の 5,568 年を用いた。

2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。

3) 補正 ^{14}C 年代値 (conventional radiocarbon age)

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正值を加えた上で算出した年代。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を -25 (‰) に標準化することによって得られる年代値である。

4) 曆年年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を補正することにより算出した年代 (西暦)。補正には、年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値、およびサンゴの U-Th 年代と ^{14}C 年代の比較により作成された較正曲線を使用した。

使用したデータセットは、INTCAL04 : Calibration Issue of Radiocarbon, 46 (3), 2004 (海洋性試料については、Marine04) である。また、較正曲線のスムーズ化には下記の理論を用いた。

なお、曆年代の交点とは、補正 ^{14}C 年代値と曆年代較正曲線との交点の曆年代値を意味する。 1σ (68%確率)・ 2σ (95%確率) は、補正 ^{14}C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した曆年代の幅を示す。

C 測 定 結 果

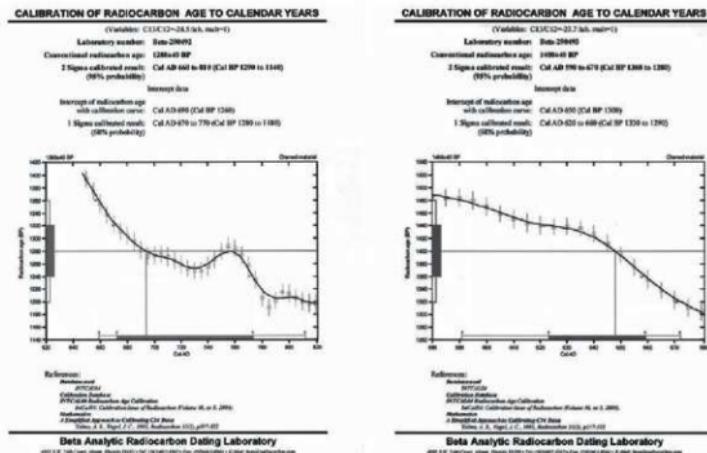
測定結果および曆年較正年代を第 16・18・20 表と第 32~34 図に示す。

第 15 表 豊穴住居 (SI246・SI307) 放射性炭素年代測定の試料と方法

試料	地点	種類	重量	前処理	測定方法
TNH-01455	SI246・カミド周辺	炭化物	1.07g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法
TNH-01465	SI307・カミド周辺	炭化物	0.56g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法

第 16 表 豊穴住居 (SI246・SI307) 放射性炭素年代測定結果

試料	未補正 ^{14}C 年代 (yrBP)	$\delta^{13}\text{C}$	補正 ^{14}C 年代 (yrBP)	曆年較正年代 (CalAD)	測定番号
TNH-01455	1270 ± 40	-24.5	1280 ± 40	$2 \pm 1 : \text{AD}660 \sim \text{AD}810$ $1 \pm 1 : \text{AD}670 \sim \text{AD}770$ 交点: AD690	Beta-290492
TNH-01465	1440 ± 40	-27.7	1400 ± 40	$2 \pm 1 : \text{AD}590 \sim \text{AD}670$ $1 \pm 1 : \text{AD}620 \sim \text{AD}660$ 交点: AD650	Beta-290493



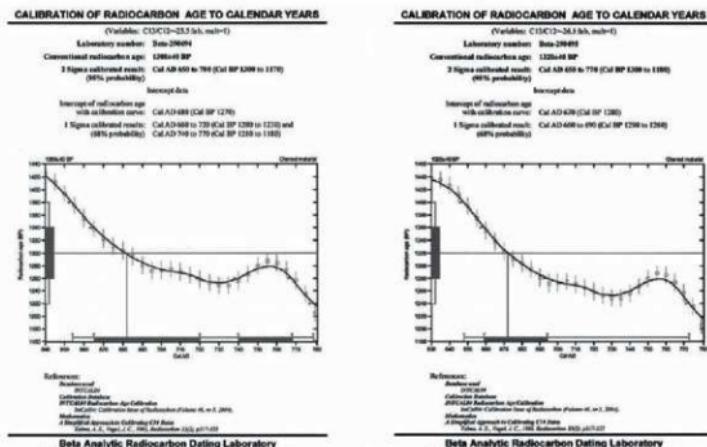
第32図 壁穴住居（SI246・SI307）

第17表 掘立柱建物(SB2005・SB2006)放射性炭素年代測定の試料と方法

試料	地点	種類	重量	前処理	測定方法
TNH-01475	P118	炭化物	0.98g	酸・アルカリ・酸洗浄	加速器質量分析(AMS)法
TNH-01485	PS32	炭化物	0.50g	酸・アルカリ・酸洗浄	加速器質量分析(AMS)法

第 18 表 掘立柱建物 (SB2005 - SB2006) 放射性炭素年代測定結果

試料	未補正 ¹⁴ C年代(yBP)	$\delta^{13}\text{C}$	補正 ¹⁴ C年代(yBP)	樹年較正年代(CalAD)	測定番号
TNH-0147S	1280 ± 40	-23.5	1300 ± 40	2 σ : AD650 ~ AD780 1 σ : AD660 ~ AD720, AD740 ~ AD770 零点 : AD680	Beta-290494
TNH-0148S	1340 ± 40	-26.1	1320 ± 40	2 σ : AD650 ~ AD770 1 σ : AD660 ~ AD690 零点 : AD670	Beta-290495



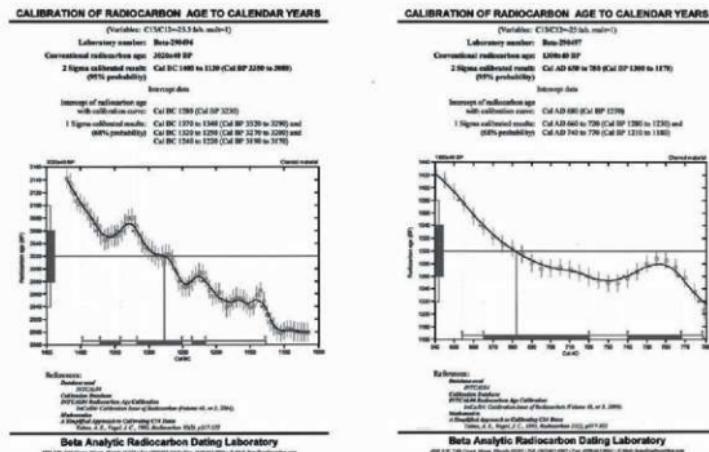
第33圖 機立柱建物(SB2005・SB2006)

第19表 墓葬関係遺構(SX71・SK159)放射性炭素年代測定の試料と方法

試料	地点	種類	重量	前処理	測定方法
TNH-0149S	SK71	炭化物	1.07g	酸・アルカリ・洗浄	加速器質量分析(AMS)法
TNH-0150S	SK159	炭化物	1.31g	酸・アルカリ・洗浄	加速器質量分析(AMS)法

第20表 埋蔵関係遺構(SX71・SK159)放射性炭素年代測定結果

試料	未補正 ¹⁴ C年代(yBP)	δ ¹³ C	補正 ¹⁴ C年代(yBP)	測年較正年代(CalAD)	測定番号
TNH-01495	3020 ± 40	-25.3	3020 ± 40	2 σ : AD660 ~ AD810 1 σ : AD670 ~ AD770 点交: AD690	Beta-290496
TNH-01505	1300 ± 40	-25.0	1300 ± 40	2 σ : AD590 ~ AD670 1 σ : AD620 ~ AD660 点交: AD650	Beta-290497



第34図 埋葬関係遺構（SX71・SK159）

第VII章 総括

第1節 遺構

A 奈良・平安時代の掘立柱建物について

県内の古代の掘立柱建物については、個々の報告書で考察を行っているものも多いが、1989年に川村浩司氏(川村 1989)が、2009年に春日真実氏(春日 2009)が各報告書の成果を踏まえた集成と論考を行っている。ここではこれらの成果を参考にしながら、四十石遺跡で検出された掘立柱建物にみられる特徴を検討してみたい。

四十石遺跡ではVI層上面で9棟の掘立柱建物が検出されている。ほとんどが奈良時代(IV期)を中心とした建物であると思われるが、平安時代に下る可能性をもつものもある。これらの時期認定については後述するとおり、出土遺物・遺構間の切り合い・建物の軸筋の類似性を考慮して行っているが、今後検討の余地がある。

掘立柱建物は柱の配置から側柱建物・総柱建物・東柱建物に大別されるが、本遺跡では建物全体の形状が捉えられたのは6棟であり、柱が外回りに配置される側柱建物と並盤目状に配置される総柱建物がみられる。総柱建物としたものの中には東柱建物との区別がつきにくいもの(SB2009)があるが、建物内部の柱穴が外回りの柱穴と同じかや大きいため、ここでは総柱建物とする。

側柱建物は、SB2002・SB2003が該当する。間数は、梁行がどちらも2間で、桁行は4間(SB2002)と2間(SB2003)である。梁行2間は、県内のこの時代に多くみられるものである。面積はSB2002が23.16m²、SB2003が15.59m²である。総柱建物はSB2004・SB2005・SB2006・SB2009が該当する。また、梁行側に廻をもつが、SB2001もその可能性がある。SB2004・SB2005・SB2006・SB2009は、ほぼ正方形を呈する2間×2間の建物である。SB2009は規模が小さいものであり、柱掘方も小さい。SB2004・SB2005・SB2006は規模・方位ともにほぼ同じである。面積はSB2004が19.36m²、SB2005・SB2006が21.16m²、

第21表 県内の2間×2間総柱建物

遺跡名	市町村名	遺構名	軒行	梁行	面積 (m ²)	方位	時期	備考
蘿ノ坪	前内市	SB1A	4.3	3.0	12.9	N-52°E	IV期	
大坪	阿賀野市	SB21	4.8	3.9	18.8	N-80°E	II～III期	
		SB252	4.2	3.5	14.3	N-52°W	不明	
		SB262	3.5	3.4	11.9	N-55°W	不明	
		SB355	3.7	3.5	12.8	N-52°W	不明	
山三賀田	聖籠町	SB162	3.5	3.5	11.9	N-35°W	不明	
		SB165	3.3	3.3	10.7	N-35°W	不明	
		SB1241	3.8	3.5	13.3	N-49°W	不明	
		SB1370	3.6	3.5	12.4	N-27°W	不明	
		SB1535	3.9	3.7	14.0	N-22°E	不明	
笠山前	新潟市	SB2	4.8	4.0	19.2	N-30°W	V期	
		SB3	4.8	4.4	21.1	N-30°W	V期	
		SB2004	4.4	4.4	19.4	N-19°E	II～II期	(出土遺物から)
四十石	新潟市	SB2005	4.6	4.6	21.2	N-19°E	II～II期	(出土遺物から)
		SB2006	4.6	4.6	21.2	N-19°E	II～II期	(出土遺物から)
		SB2009	3.9	3.9	14.9	N-40°E	III期	(出土遺物から)
岩田	長岡市	SB1	4.1	4.0	16.4	N-45°W	IV～V期	
土用木西	長岡市	SB6	4.2	3.6	15.1	N-6°E	10世紀末	
		SB165	3.4	3.2	10.9	N-21°W	II期	
津岱田	上越市	SB260	2.6	2.6	6.8	N-15°E	II期	
		SB354	3.2	3.0	9.6	N-34°E	II期	
五反田	上越市	SB16	2.1	2.8	12.8	N-11°E	IV～V期	
岩ノ原	上越市	SB2003	5.5	5.5	30.2	N-83°E	IV～V期	
下新町	上越市	SB7	5.0	4.8	24.0	N-25°E	IV期	
孤宮	上越市	SB12	5.9	4.0	23.8	N-3°E	IV～V期	

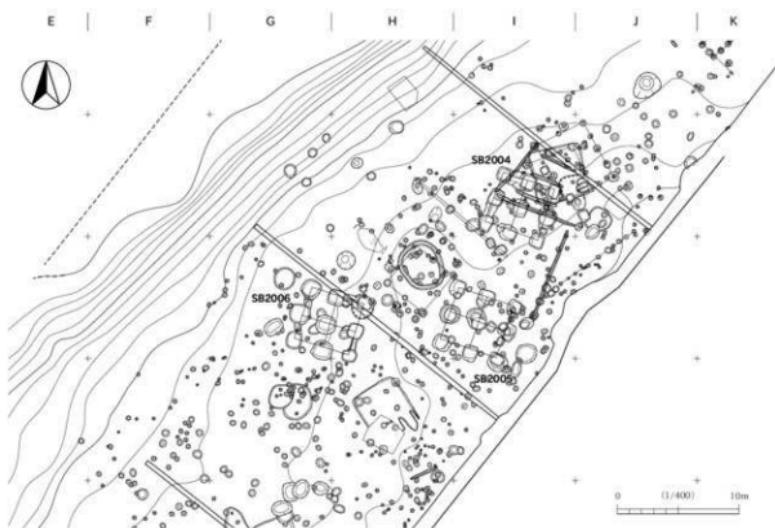
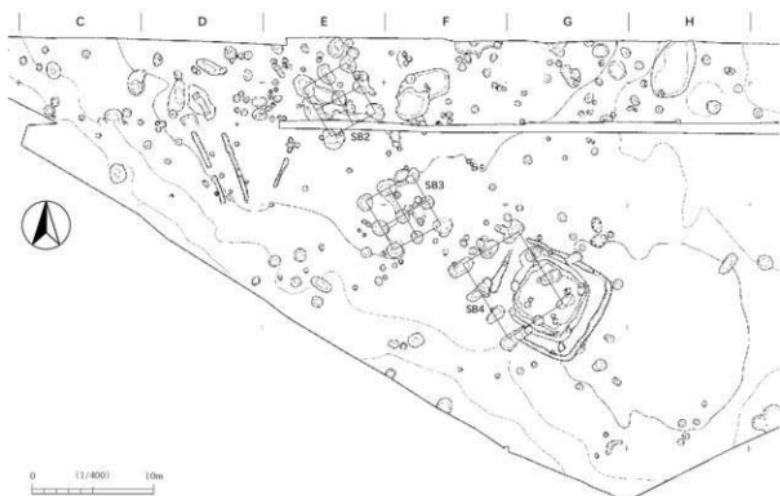
※時期は春日編年(春日 1999)による

第22表 笠山前遺跡 SB2・SB3出土の土器

遺構名	出土量(点)	古代の土器(点)
SK18	1 亂形器 (8C前半～中葉)	1 杯盤 (8C前半～中葉)
SK19	47 亂形器 (9C前半)	2 杯盤 (8C前半～中葉) 1 杯蓋
SK22	10 亂形器	2 杯盤?
SK24	2 亂形器	58 諸?
SK26	1 亂形器	19 小甕 (古代) 1
SK28	1 亂形器	1 杯盤?
SK29	3 亂形器	3 杯盤?
SK38	1 亂形器	17 杯盤 1 長甕?
P159	1 亂形器	1 豆?
SK199	16 亂形器	6
SK200	24 亂形器	
SK203	54 亂形器	
SK205	38 亂形器	
SB3	31 亂形器 (古代?) 1	
SK211	50 亂形器	
SK212	31 亂形器	
SK213	5 亂形器	
SK223	5 亂形器	
SK224	26 亂形器	

土器は古墳時代・古代の土器

四十石遺跡（西区） 上層遺構

箕山前遺跡（江南区） 下層遺構^④

※2面あるうちの下の面 (VI層上面)

第35図 2間×2間矩形建物（四十石遺跡・箕山前遺跡）

SB2009 が 14.9m^2 である。

方位については、短軸・長軸の規模がほとんど変わらず主軸がどちらであるか不明のものもあるため、北から東西両方位への角度も合わせて記標した。これによると、本遺跡では 2 つの方位のまとまりがみられる。一つは N-40° 前後～70°W (N-20°～50°E)、もう一つは N-5°～30°W (N-60°～85°E) である。前者は後者に比べて、相対的に柱穴が小規模で、平面積が狭い。これらのまとまりで配置をみると前者は地形に合わせた形であるが、後者はそれとは関係なく、真北を意識しているようにも思える。また、SB2004・SB2005 は東側の柱筋を描えしており、正倉院の倉庫群が広場（空闊地）側を直線的に描えている傾向があることから、本遺跡もこれらの東側に広場があったことが想像される。

遺構の時期は、層位・出土遺物・遺構間の切り合いなどによって推定されるが、ここではそれらを踏まえて各掘立柱建物の時期を考えてみたい。遺構出土遺物は全体を通して少ないが、特に掘立柱建物の柱穴から出土する遺物は、土器細小片がほとんどであり、古墳時代のものも多い。年代がわかる遺物の下限をみると、SB2003 が古代Ⅲ 2～IV 1 期、SB2004 が IV 2 期、SB2005 が IV 期、SB2006 が 8 世紀中葉、SB2009 が III 期と捉えられる。次に、新旧関係をみると、SB2002・SB2003・SB2004 の間で重複が認められる。これらの関係については、これまでの報告の中で、SB2004 (旧) → SB2002 → SB2003 (新) としていたが、その後の検討で、出土遺物や各掘立柱建物の軸方位から切り合いを見直す必要があることを感じた。当初想定した切り合い関係は、SB2003-P130 が SB2004-P244 を切ると判断したことによるが、検出時の標高は SB2003-P130 が SB2004-P244 より低く、上部の擾乱を取り除いた後に検出した可能性があること、また SB2002-P531 は SI307 とともに検出されており、SB2002-P531 と SB2004-P410 の直接的な切り合い関係を確認できなかつた。再度、当時の調査状況や図面を関係者で確認した結果、SB2002 → SB2003 の新旧関係はそのままであるが、SB2002・SB2003 と SB2004 との関係は訂正することにし、この報告書では、3 者の関係を SB2002 → SB2003 → SB2004 とする。また、この他に切り合う SI307 との関係は当初のとおりとすることから、SI307 → SB2002 → SB2003 → SB2004 という変遷を想定する。時期については、各遺構で古い時代の遺物が混入しているのも見受けられるが、現在のところは出土遺物を参考に、SI307 が III 2 期、SB2002・SB2003 が IV 1 期、SB2004 が IV 2 期と捉えている。

今回の調査では、ほぼ同じ規模の建物が 3 棟検出された。それらは、2 間 × 2 間の純柱建物で、柱穴の規模も大きいことから倉庫と考えるものである。柱筋を描えて配置されており、計画的に建てられていることが想像できる。官衙的な建物として捉えられるが、面積は 20m^2 前後と小規模である。いわゆる正倉は 3 間 × 3 間・4 間 × 3 間が多く、官衙の倉は 50m^2 以上が主体であるが、居宅や集落では 2 間 × 2 間の倉が多く、 20m^2 以下の倉庫については穂先だけを収納する穎倉である可能性が指摘されている [山中敏史 2003]。県内の 2 間 × 2 間の純柱建物をみると本遺跡を含めて 26 例ほどある。そのうち、1/3 ほどを山三賀 II 遺跡が占め、検出数には偏りがあるものの県内広く分布している。柱間寸法がほぼ同じため平面形は正方形に近いものが多いが、長方形のものも若干存在する。 15m^2 以下のものが半分以上存在し、他に 20m^2 前後、25 前後～30 前後 m^2 のまとまりがみられる。それぞれの年代は不明のものも多いが、相対的に時代が古いと建物の面積は小さく、新しいと大きいという傾向が窺える。この中で、笠山前遺跡の掘立柱建物は本遺跡の掘立柱建物とよく似た規模・配置をみせる。報告書においては古墳時代の建物とされたものであるが、報告書の基本層序の記述からその検出面は古代の遺構が検出される可能性が十分であること、そして柱穴の中から一定量の古代の土器が出土している (第 22 表) ことから古代の遺構として取り上げた。出土遺物は小片ばかりであるが、土器が SB2 は 9 基の柱穴のうち 8 基から合わせて 17 点出土しており、年代が特定されるものは古代Ⅲ 期 2 点と V 期 2 点であることから、ここでは V 期と捉えることにした。本遺跡との類似点は、建物が 20m^2 前後の規模であること、柱掘方が一定規模をもつこと、2 棟の建物が片側の柱筋を描えて配置されていること、建物間の距離が同じような間隔をもつことなどであり、相違点は、所属時期が異なること、柱掘方が隅丸方形もわずかにみられるものの不定形が多いこと、方位が真北を意識

していないことなどである。相違点は遺構の時期差や地域の特徴、あるいは遺跡の性格に起因すると思われるもので、両遺跡にみられる倉は計画的に建てられた建物と理解される。時期差はあるものの、そこには何らかの基準となるものがあり、両遺跡で検出された倉庫はそれを反映しているとも考えらえる。これらの倉庫が穀倉ということであれば、平面規模に基準があつてもおかしくはないように思われる。倉庫の規模・規格について官が閲与する可能性は十分あることから、今後の事例を待ちたい。

B 奈良・平安時代の埋葬関連遺構について

県内の埋葬関連の事例については、1995年に春日真実氏が東日本埋蔵文化財研究会で県内の集成を行い〔春日1995〕、2000年に江口友子氏が報告書の中で資料の追加を行っている〔江口2000〕。調査事例は少なく、その後土坑墓（木棺痕有り）が検出された加茂市の馬越遺跡〔伊藤2005〕や木棺墓が検出された三条市の安曲遺跡〔田村2009〕を加えても15遺跡に満たない。また、報告された事例は遺構全体の形状が不明であることが多く、またそれに関連した遺物（埋葬行為を示す遺物や副葬品等）も良好な状態で残ることが少ない。こうした中で県内の墓制と捉えられるのは、火葬墓・土坑墓・横穴墓（古墳）の再利用〔春日1995〕であり、9世紀から10世紀初頭において火葬墓と土坑墓が混在することが認識されている。このような様相は北陸地方でもみられる〔柿田1995、岡本一郎1995〕が、やはり調査事例が少ないので、今後の事例待ちである。

四十石遺跡では火葬墓（SX71）が確認されている。梢円形に溝が巡っており、その内側や周辺から副葬品と思われる須恵器壺類・銅製腰帶金具・刀子金具・玉状製品と焼人骨が出土した。調査で検出されたのは溝のみであるが、墓造営当時は内側にマウンド状の盛土があったと想像される。やや歪んだ梢円形で、あえて軸方位を与えるならば、長軸方向でおよそN-32°W（北西-南東方向）である。遺物の分布状況をみると、廃絶後に搅乱を受けたことが読み取られるが、溝の内側にある遺物のまとまりが南東側に偏っており、そのあたりが埋納された場所であった可能性もある。焼人骨については、第3節で記述されているが、削平されていることを考慮しても、出土量は人体1体分には満たないと思われる量であることから、主要骨の埋葬を考える。

県内の火葬墓の事例については江口氏が概観しており〔前掲〕。関連した遺構として認識されたのが、骸骨器と思われる土器の出土や「火葬灰埋納遺構」・「火化遺構」・葬送儀礼にかかる可能性のある集積遺構である。「火葬灰埋納遺構」は茶毬に付し主要骨を取り出した後残った骨を木炭・灰とともに入れた施設（土坑）であり、「火化遺構」は茶毬に付す施設（土坑）である。しかし、これらはいずれも火葬墓の存在を示すが、それ以上の墓に関係する情報はない。

ここで県外の周溝状遺構についてみてみたい。1995年に東日本埋蔵文化財研究会が主催した資料集成〔東日本埋蔵文化財研究会1995〕において、墓に関連した遺構として円形周溝状遺構と方形周溝状遺構が取り上げられている。どちらもいわゆる終末期古墳の流れをくんでいるといわれており、円形周溝状遺構は青森県・岩手県を中心とした東北地方に集中し、他の地域では関東地方に若干みられる程度である。削平されていることが多いが、本来墳丘を伴うとされる遺構である。土葬・火葬の両方がみられるが、土葬の方が多い。外径が10mを超えるものもあり、規模が大きいものは概して土葬墓であり、径が3m前後の規模が小さいものは火葬墓と考えられている。副葬品は、周溝をもつ終末期古墳といわれる8世紀中葉までのものには多様なものが出土しており、土器・刀類（刀子含む）・銭貨・腰帶金具・玉類などがみられるが、それ以降のものは土器くらいで遺物を伴わないものも多い。こうした中で本遺跡のSX71は、形状的には終末期古墳に後続する小規模の円形周溝状遺構（火葬墓）に似ているが、副葬品の多彩さは終末期古墳に似るのが注目される。当時の越後は対蝦夷の最前線であった地域と考えられることから、その影響も考える必要があろう。

さて、被葬者であるが、直接的な情報としては焼人骨から得られるものがあり、理化学的な分析による成果が第3節で述べられている。それによれば、「強い火力を長く受けて火葬された」「ヒト一人から由来する」「壮年程度の男性」である。つまり被葬者は、1人の成人男性ということになり、腰帶の持ち主という点と違和感無

く結びつけられる。また、火葬は上流階級でも一般化しておらず、欲して願い出る場合に許される〔黒崎 1980〕ものであること、そしてそれにはかなりの労力（費用）が必要とされることから、被葬者は財力をもつ有力者と考えられる。役人に任命された在地の有力者を想定できよう。

本遺構は、県内ではこれまでみられなかつた珍しい事例となつたが、集落内に存在する点では他の遺跡と共通する。この特殊性が何を意味するのか、今後の課題である。

第2節 遺物

A 古墳時代の土器について

四十石遺跡では、古墳時代前期・中期の土器が出土している。その時期は、新潟シンボ編年の5期を初現とし、漆町編年の13群並行を下限とする。出土量が少なく一括資料も良好とはいえないが、複数の土器が出土している遺構を中心に本遺跡の土器のあり方を概観する。

本遺跡では7~9期に属する遺構が多い。最も古い様相を示すのはSK936・SK942・SD984で7・8期と捉えられるものである。SK936は口縁端部をわずかに上方へつまみ上げている甕(99)が6・7期のものと思われるが、その他は7・8期で捉えられるものである。器台(88・89)は裾が大きく広がり、甕は口縁端部に面をもつもの(97・98・100)が多い。92はいわゆる小型丸底甕の可能性があるもの。小型丸底甕は、信濃川左岸では9期あたりに盛行する〔相田 2005〕が、本資料は口縁部が内湾気味の長いものと思われ、古い特徴をもつものであろう。SK942も小型丸底甕が出土している。SD984は8期以降出現するとされる〔田嶋 1986〕布留系甕1点が共伴しているが、それ以外は7期と思われる土器でまとまっている。口縁部に段をもつ鉢や直立気味の口縁部をもつ甕が出土している。これらの特徴は、8期には続かない特徴であり、異器種間で同じ様相をもつことから、布留甕は後世の流れ込みの可能性があるとし、遺構は7期と捉える。続く8・9期の中で捉えられるのはSD108・SD109・SX97・SX946である。SD109は繩文土器や弥生土器も出土しているが、古墳時代の遺構である。受部が直線的な小形の器台(110)や畿内系二重口縁の壺(115)はやや古い特徴をもち、細身の柱状屈折脚(113)はやや新しい特徴をもつものと思われるが、主体は8期である。SX97は、甕の口縁部の形態から8期と捉えたものである。口縁端部にしっかり面をもつもの(144)や口縁部から体部の屈曲・外反が比較的明瞭(145・146)である。高杯は口縁部と杯体部の間にわずかな段がみられ棒状脚をもつことから、7期までは主体的に出土するとされる〔淹沢 2005〕有段鉢形の杯部をもった高杯の新しい形態として捉えられるものであろう。布留系甕の口縁部破片も出土している。SD108・SX946は9期を主体とする。甕(107・151)の口縁部は端部に面をもたず、外反は比較的緩い。他に8期以降に認められるとしてある〔淹沢 2005〕口縁部が大きく外反(外傾)する鉢(106)やそれ以降盛行する口縁部がやや短い小型丸底甕(150)が出土している。共伴する布留甕(108)の口縁部は比較的大きく開き、端面は水平である。細長い口縁部をもつ壺(149)は脚をもつと思われ、5・6期と捉えられるものである。これ以降の遺構は少ないが、中期の遺構として捉えられるSK20とSD110がある。壺や甕が出土しており、壺はやや胴長の体部をもち、甕は口縁部の外反が緩い、という新しい特徴がみられる。

以上、時期ごとに主要な遺構をみてきたが、これに包含層遺物を加えて土器の様相をまとめてみたい。本遺跡でみられる古墳時代土器の器種は、高杯・器台・鉢・壺・甕であるが、時期により出土状況に偏りがみられる。高杯は、口縁部が内湾しながら立ち上がる東海系のもの(高杯A類)と畿内系柱状屈折脚をもつもの(高杯D類)が一定量みられる。前者は7・8期、後者は12・13群を主体とする。器台は、1点の装飾器台(284)を除いて、すべて小形の器台である。時期は6~8期と捉えられるものである。鉢は、赤彩された精製のものや有孔鉢などがみられ、用途の違いが想像できる。有孔鉢を除くと、口縁部に段をもつもの(鉢A類)、甕に比べて浅い体部に外反(外傾)する口縁部がつくもの(鉢B・C類)に分けられるが、鉢A類は鉢B類より古く捉えられる。

前者は5~8期、後者は8期以降と考える。有効鉢は全体形がわかるものは少ないが、底部が逆三角形状に細いものとある程度の底面をもつものが一定量みられるが、時期的な差を表すのは不明である。壺は大・中形品と小形品がみられ、他地域の影響がみられるものも少なくない。大・中形品では畿内系（壺A類）、東海系（壺B類）が一定量みられる。他に山陰系と思われるものの（壺E類）があるが1点のみである。在地系では直立気味に立ち上がるいわゆる直口壺（壺G類）が多く出土しており、より直立気味なもの、外反気味のものがある。前者は古い特徴であり7期中心、後者は8期以降と捉えられるものである。体部には新しい特徴と思われる長胴傾向のものがいくらくみられる。小形品では、畿内系の壺（壺I・K・L類）が一定量みられる。このうち、壺L類は本来長い口縁部をもつのが基本形であるが、本遺跡ではやや短い口縁部をもつという特徴がある。甕は、古い特徴の有段口縁の甕は1点のみで、他は、くの字・コの字状口縁をもつ甕である。口縁端部に面をもつもの、もたないもの（丸く取まるもの）があるが、それぞれ量が多い。後者には口縁部の外反が弱く、体部もやや長胴化したものもみられる。新しい特徴として捉えられるものである。また、本遺跡では、口縁端部の肥厚と体部外面のハケメ・内面のケズリを特徴とする布留系甕が20点前後出土している。布留系甕は頸城地域に集中する他、信濃川左岸や魚沼地域に分布することが確認されており（滝沢2007）、本遺跡の周辺では緒立遺跡（波瀬まよか1994）や御井戸遺跡（前山・相田2004）でみられる。

本遺跡では、5・6期には土器が出現し9期ごろまで比較的安定した量で、その後一時衰退するものの、漆町12・13群並行期になると一定量存在することが窺われる。

B 奈良・平安時代の土器について

四十石遺跡では、奈良・平安時代の土器が出土している。その時期は、春日編年（春日1999）のⅢ期を初現とし、Ⅵ期を下限とする。遺構から出土する遺物は少なく、下層遺物の混入もみられることから、必ずしも良好な資料とは言えないが、ここでは出土土器が時期的にまとまりをもつ主要な遺構について概観する。なお、出土遺物には体部破片のみで小・細片という器種も多いことから、口縁部・底部破片による組成比は抽出せず、器種の構成について第23表にまとめた。

本遺跡の遺構はⅢ期からⅥ期までのものがみられる。

Ⅲ期として捉えられるのは、SI307・SK825・SX100・SX867である。竪穴住居のSI307は、一括性の高

第23表 主要遺構の器種（分類）構成

遺構名	時期	壺出沿（類）							土器部（類）							○は資料が存在するもの									
		無台杯	有台杯	杯蓋	高杯	長颈壺	短颈壺	壺蓋	楕瓶	鉢	甕	無台杯	有台杯	皿	有台皿	高杯	鉢	長颈	小甕	漏	他器	無台杯	無台杯	高杯	
SI307	Ⅲ 2	B1	A							C								A A2 B B1							
SK825	Ⅲ 2	A	B							A B1 B2															
SX100	Ⅲ 2																A1 A2a B1								
SX867	Ⅲ 2		A 不明																						
SK185	Ⅳ 1	B I B II	B																						
SX573	Ⅳ 1	B II																A2	A	A	短颈				
SB2004	Ⅳ 2	B I	B												○		A2a	A							
SB2005	Ⅳ 2		A														A A2 A2b B1								
SX71	Ⅳ 3	B			○	○	○										B1								
SE246	V	A	B							○			○		?	赤様	?	赤様	○	A2 B1 B2	B				
P21	VI									○		A2 B1									○				

いカマド周辺の出土資料があり、土師器無台杯（6・7）・鉢（8・9）・長甕A2類（10・11）がみられる。また、これに近いところから土師器長甕B1類の破片（12）や、やや外れたところから須恵器食膳具の無台杯B1類（4）・杯蓋A類（5）が出土している。これらは、Ⅲ2期で捉えられるものである。SK825は須恵器有台杯・杯蓋と土師器無台杯が出土している。これらは、形態的には食膳具とされるものであるが、土師器無台杯は灯明具として使用された痕跡をもつものがある。須恵器有台杯A類（39・40）・杯蓋B類（41）、土師器無台杯A類（45）・無台杯B1類（42～44）・無台杯B2類（46）がみられる。須恵器有台杯・杯蓋は、口径がやや小さいという点が新しさをもつ可能性があるが、概ねⅢ2期で捉えられる。土師器無台杯も同時期と考える。SX100は土師器の長甕のみである。器種の偏りは、SX100がカマドの可能性があることによると思われる。在地の土器ではみられないミガキが施された長甕A1類（55）が出土しており注目される。これとともに長甕A2a類（56）・B1類（57）が出土している。長甕の様相はSI307に近いことから、やはり同じ時期くらいで捉えられよう。SX867は須恵器杯蓋のみの出土である。1点は形態不明なものであるが、他の2点（65・66）は杯蓋A類である。口径の大きい66にやや古さをみると、Ⅲ2期と捉える。

IV期として捉えられるのは、SK185・SX71・SX573の他、各柱穴からの出土量は1・2点であるものの合わせると一定量になるSB2004・SB2005がある。SK185は須恵器食膳具のみで、無台杯・杯蓋が出土している。無台杯は体部の斜度が大きい、いわゆる箱形の無台杯B類（33・34・32）と口縁端部の垂下が短い杯蓋B類（35）がみられる。口径が大きい須恵器無台杯（34）に若干の古さをみると、概ねIV1期と捉えられる。SX71は周溝出土遺物を除いて、副葬品として一括性の高いものである。周溝の内側から出土した副葬品とされるものは、須恵器の有台杯B類（48）・長頸甕（51）・蓋と身がセットの短頸甕（49・50）である。有台杯（48）の体部の立ち上がりは、カーブが曲線的でやや高い位置にある。また、長頸甕の体部も球形を残すことから、本遺構はIV3期あたりと考える。SX573は、須恵器食膳具と土師器煮炊具が出土している。須恵器食膳具では無台杯BII類（58）、土師器煮炊具では長甕A2類・鍋（60）や短胴甕（61）がみられる。無台杯（58）はⅢ～IV1期と捉えられるが、土師器鍋や土師器短胴甕は類例を知らない。ただ、どちらもⅢ～IV期の長甕でみられるハケメと同じように細かい目のハケメで調整されていること、鍋は底部からの立ち上がりが比較的急角度で身が深いと想像されることから、時期については共伴する無台杯と同時期としたい。SB2004は、須恵器食膳具と土師器煮炊具がみられる。いくつかの柱穴から須恵器無台杯B1類（17）・杯蓋B類（18・19）、土師器小甕B類（20）・長甕A2類（21）、赤彩された土師器高杯が出土している。須恵器無台杯は口径が比較的大きくIV1期と思われる。杯蓋は垂下する口縁部が短いものでIV1・IV2期、土師器小甕・長甕はクロ未使用でハケメ調整が主体であることからⅢ～IV期の中で捉えられよう。遺構の時期としてはIV2期と考える。SB2005は、1点須恵器甕の破片がみられる他は土師器煮炊具がほとんどである。土師器煮炊具は小甕A類（25）・長甕A2類（26）・長甕A2b類（23）・長甕A2a類（24）が出土しているが、未掲載遺物には長甕A2類の体部片が多くみられる。時期はⅢ～IV期の中で捉えられるようである。

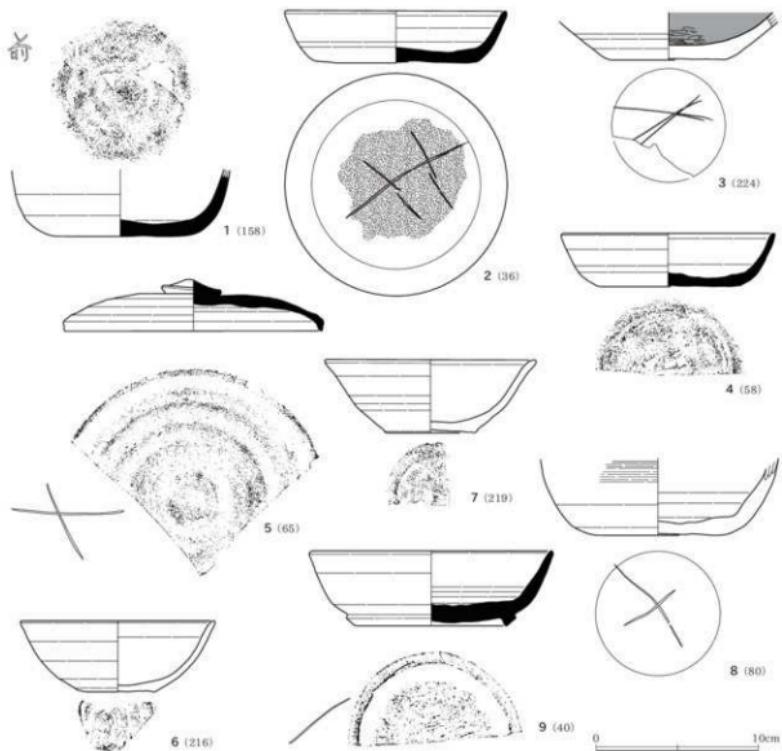
V期として捉えられるのは、SI246である。本遺構は竪穴住居であるが、カマド関連遺物はほとんどみられず、食膳具では須恵器有台杯（1）・杯蓋（2）、赤彩された土師器皿か高杯、煮炊具では土師器長甕A2類・B2類（3）、碎片のため明確ではないが長甕B1類・小甕B類が出土している。食膳具は須恵器有台杯や杯蓋の口径の大きさがIV期の特徴をみせるが、煮炊具の長甕はタタキメをよく残しておりV期の特徴をみせる。

VI期として捉えられるのは、P21である。SB2008との関係ははっきりしないが、今後検討されるものである。須恵器甕と土師器無台椀A2II類（68・69）、黒色土器無台椀と思われるものが出土している。土師器無台椀は内済気味に立ち上がる体部でVI期と捉えられるものである。墨書き器もみられる。

以上、時期ごとに主要な遺構をみてきたが、これに包含層遺物を加えて土器の様相をまとめてみたい。

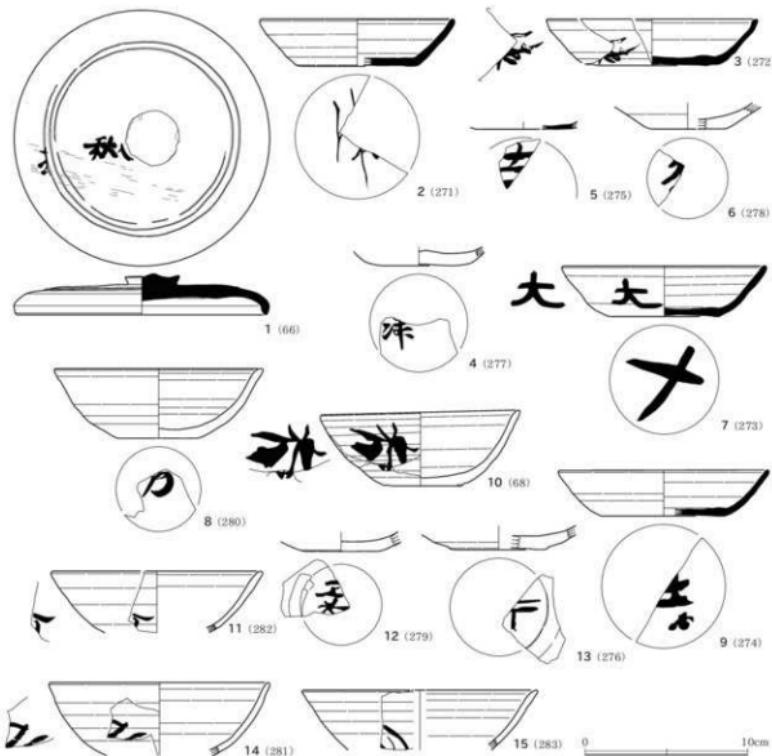
食膳具についてみると、Ⅲ期は須恵器の無台杯A類・B類、有台杯A類（杯蓋A類）が主体で、それに実際の用途は異なるかもしれないが形態的には土師器の無台杯が加わる。須恵器の胎土はA群・B群のものである。

IV期は須恵器の無台杯B類・D類、有台杯A類・B類(杯蓋B類)がみられるが、土師器は確認されていない。須恵器の胎土はA群・B群の他にわずかではあるがC群・D群が加わる。V期は出土量が少ないことがあるが、それまで主流を占めていた須恵器無台杯B類・有台杯A類はみられなくなり、須恵器無台杯C類と土師器椀A類が存在する。須恵器の胎土は、C群のものがほとんどであるが、D群も存在する可能性はある。VI期は引き続き無台杯C類と土師器椀A類が存在するが有台杯は杯蓋がごくわずかみられる程度である。須恵器



刻書No.	報告No.	出土地点	種別	器種	部位/方向	款文	時期	備考
1	158	10116 他	須恵器	無台杯	内面	前カ	III 2	胎土B
2	36	SK243	須恵器	無台杯	底外	一	IV 1	胎土B
3	224	8L12 他	黒色土器	無台椀	底外	2重線の×	VI	
4	58	SX573	須恵器	無台杯	底外	×	III~IV 1	胎土A
5	65	SX867	須恵器	杯蓋	内面	×	III 2	胎土A
6	216	8L3	土師器	無台椀	底外	×	VI	
7	219	11111 他	土師器	無台椀	底外	×	VI	
8	80	P908	土師器	小甕	底外	×	IV 1 か2	
9	40	SK825	須恵器	有台杯	底外	一	III 2	胎土B

第36図 四十石遺跡出土の刻書土器



墨書 No.	報告 No.	出土地點	種別	器種	部位／方向	駄文	時期	備考
1	66	SX867	須恵器	杯蓋	外面	秋／□／□	III 1・2	内面転用鏡
2	271	14G18 他	須恵器	杯	底外	□	VI	「津」の可能性あり
3	272	11H15	須恵器	杯	体外／横位	津	VI	
4	277	13G19	土師器	碗	底外	津	VI	
5	275	14F15	須恵器	杯	底外	□		「寺」の可能性あり
6	278	13G20	土師器	碗	底外	□	VI	「寺」の可能性あり
7	273	10J18	須恵器	杯	底外・体外／正位	十(底外)／大(体外)	VI	
8	280	11H20 他	土師器	碗	底外	□	VI	「万」の可能性あり
9	274	13G17 他	須恵器	杯	底外	□	VI	
10	68	P21	土師器	碗	体外／横位	□	VI 2・3	
11	282	東暗 14	土師器	碗	体外	□	VI	
12	279	11J6	土師器	碗	底外	□	VI	
13	276	14G21	土師器	碗	底外	□	VI	
14	281	9K9 ほか	土師器	碗	体外	□	VI	
15	283	8L17	土師器	碗	体外	□	VI	

第37図 四十石遺跡出土の墨書き土器

の胎土はC群のみである。また食膳具は、刻書や墨書きがみられるものが一定量出土している。刻書土器(第36図)はほぼ全時期にみられるが、土器全体のあり方と同じ様相を示し、III・IV期のものが多い。「×」「-」といった記号がほとんどで、他に文字(「前」)が書かれたものもある。墨書き土器(第37図)はIII期とされる杯蓋と時期不明のもの以外すべてVI期で、県内の墨書き土器が増大する時期と変わらない。判読不明なものもあるが、文字が多い。注目される「津」墨書き土器は、蔵ノ坪遺跡(船内市)でも同時期の土器が出土しているが、そこでは遺跡の性格を国衙支配の中で機能した津施設と捉えている。また、中組遺跡(長岡市)では「池津」の墨書き土器が出土している。

煮炊具については、ロクロ使用の有無という点で技術的系譜の大きく異なるものが存在し、時期によってそのあり方に変化がみられる。III期はロクロ未使用の長甕A類とロクロ使用の長甕B類、小甕A類がみられる。長甕A類は平底(A2a類)が多いが、注目されるのは長甕A2b類と長甕B1類で、口縁端部が丸く体部の調整がハケメで丸底という形態上の共通点が多く、焼き上がりも堅緻である点で近似する。異なる点としてはハケメの目が長甕A類の方が細かいということであるが、これらの製作技法やつくり手、その背景など両者の関係に注意する必要がある。ハケメ調整を主体とする体部にところどころカキメがみられる土器は、周辺の的場遺跡(小池邸ほか1993)で形態がやや異なるものが出土している。また、この時期に、出土量は少ないがミガキや底部の木葉痕など在地ではみられない特徴をもつ土器が存在している。「北方系」あるいは「東北系」といわれる技術的特徴であるが、県内出土の資料についてはこれまで何人かによって述べられている(加藤2004、野水ほか2005、水澤2008)。それによれば、これらの土器は阿賀北地方に多く、分布の時期は7世紀末から8世紀前半とされている。本遺跡周辺では、燕市(旧吉田町)の三角田遺跡(松島2001)でミガキが行われた小甕や底部に木葉痕がみられる鍋が出土しており、同じ西川流域という地理環境が注目される。これより西方では、下ノ西遺跡(田中靖2003)で底部に木葉痕がみられる鉢が出土しているが、それ以南の事例は知らない。IV期は引き続き長甕A類とロクロ使用の長甕B類がみられるが、この時期ではロクロ未使用の鍋や短胴甕が確認されている。また、一括出土資料ではないが、カキメが顕著な小甕も存在する。V期にはロクロ使用でタタキのみられる長甕B2類が存在しVI期に続く。鍋は確認されていないが、ロクロ使用のものが主体であったと思われる。次のVI期にはロクロ使用の煮炊具のみであり、小甕・長甕・鍋がみられるが、鍋の占める割合が大きいことが窺える。

貯蔵具については一括資料が少ないため細かい様相は不明であるが、包含層遺物を含め須恵器甕はIII期からみられ、瓶壺類はIV期あたりから一定量存在するようである。

本遺跡で、土器の出土量が多いのはIII～IV期であり、やはり遺構が集中している時期を中心としている。この時期は、食膳具は口径が大きく体部が急角度の須恵器甕類であり、煮炊具ではハケメ主体の土器甕類である。ハケメ主体の土器はロクロ未使用のものがほとんどであるが、ロクロ使用痕(カキメ)がわずかに認められるものがある。V期は遺構も遺物も少ないので、食膳具では須恵器甕類と土器甕類が共存し、煮炊具にはロクロ使用・タタキのものが主体を占める。VI期では遺構は少ないものの遺物は一定量存在しており、「津」墨書き土器が出土していることから、調査区外に遺構の存在が想像される。

C 古代の帶金具について

四十石遺跡からは15点以上の腰帯金具が出土している。それらは比較的狭い範囲でまとめて出土しており、ほぼ1条分と思われる。腰帯金具については、古くから多くの研究者が取り上げてきた。これらについては、田中氏が詳しく述べている(田中広2003)が、大きく2つの考え方方に分けられる。一つは、佐藤興治氏・阿部義平氏が主張する腰帯は官給品であり、腰帯金具は位階と結びついて寸法が厳密に決められていたとする考え方(佐藤1975・阿部1976)であり、もう一つは亀田博氏・田中広明氏が主張する腰帯は官給ではなく自備が基本であり、腰帯金具の寸法は必ずしも位階を反映しているものではないとする考え方(亀田1983、田中広2002・2003)である。田中氏は、「垂孔」(透孔)を中心とした腰帯金具の形態に型式変化を見い出し、そこに時間差があることを指摘した。

さらに、「在地首長である六位以下无位までの下級官人層は烏油・雑石腰帶を用い、彼らを管理・監督し、外交、国家事業を掌握する一位以下五位以上の通貴層は金銀装腰帶・白玉帶・玳瑁帶等を用い、さらには彼らから超越し、規定外にある天皇は大陸から輸入した玉の帯をしました」(田中2003)とした。つまり、この境界がはつきりしていることが重要であり、腰帶の寸法のわずかな差で階層を表現することはなかった、と主張する。現状では納得できる論とも思われるが、いずれにしろ腰帶(具)が身分を表象するものであるという共通認識は変わらない。

これらを踏まえて、県内で出土した腰帶具について整理してみたい。県内の資料については出越茂和氏(出越2002)がまとめており、ここではそれを参考にしている。なお、「腰帶具」という名称であるが、今回石製品も取り扱っているため、広義で使える用語を用いた。

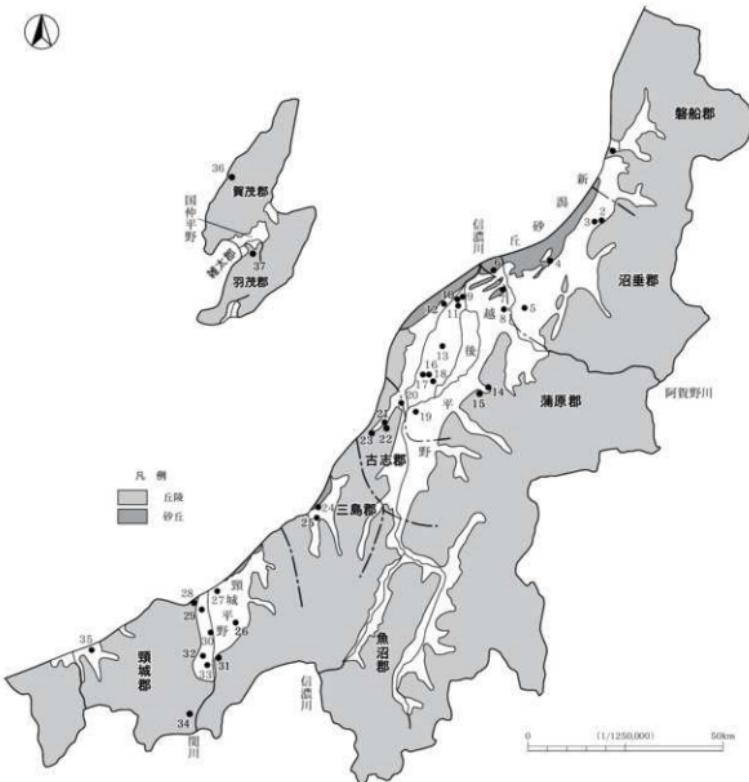
県内で出土した腰帶具は現在のところ81点で、銅製42点、鉄製8点、石製31点である。ただし、金属製の腰帶具については革帶を挟んで表裏に装着するものであるため、出土時にはどちらか一方であることも多く、出土点数がそのまま腰帶具の個体数とはならない場合もある。県内で腰帶具が出土した遺跡数は37か所(第38回)で、銅製品は17か所、鉄製品は1か所、石製品は21か所でみられる。鉄製品は東日本の日本海側で分布がみられるとしている(松村・田中広2002)。馬越遺跡と八幡林遺跡では、金属製品と石製品が両方出土している。

第24・25表は、各遺跡から出土した腰帶具をまとめたものである。材質・部位・形態によって整理した。時期については報告書の中で与えられた遺構や遺跡の時期を記載した。今回、金属製の巡方・丸柄については透孔の形態にも着目し、透孔が腰帶具のどれくらいの割合を占めるかを「透孔の縦幅÷腰帶具の縦幅(c/a)」で算出した。その結果、ある程度の数値のまとまりがみられたことから、その値が0.31以上のものを「大孔」、0.2前後~0.30のものを「小孔」、0.18未満のものを「細長孔」とした。また、大孔・小孔を有する金具(以下、大孔金具・小孔金具という)には裏金具にも透孔がみられることが多いが、細長孔を有する金具(以下、細長孔金具という)には裏金具に透孔がみられない状況が窺われる。裏金具の孔の有無も型式分類では取り上げるべき視点の可能性がある。今回、透孔の大きさでの分類が容易でないものについては、裏金具の透孔(有無)によって判断したものである。石製の透孔については、それを有する製品が少ないので、分類値が算出できなかつたが、少なくとも孔の有無は重要な視点である。

まず、金属製腰帶具について概観する。

大孔金具が出土しているのは、山三賀II遺跡・大橋遺跡・延命寺遺跡である。遺跡数としては少ないが、山三賀II遺跡では鉄製の丸柄(6~8)が、大橋遺跡・延命寺遺跡では銅製の巡方(42~44~延命寺遺跡、48~49~大橋遺跡)が出土している。いずれも表裏金具に孔をもち、横幅の寸法は、2.0~2.5cmの範囲にある。遺構から出土しているもの(山三賀II遺跡)は8世紀前半で捉えられるものであり、また包含層出土のもの(大橋遺跡・延命寺遺跡)も遺跡の消長から8世紀中葉までの中で捉えられるものである。この他に、八幡林遺跡からはこのタイプに伴うと思われる蛇尾(40)が出土している。

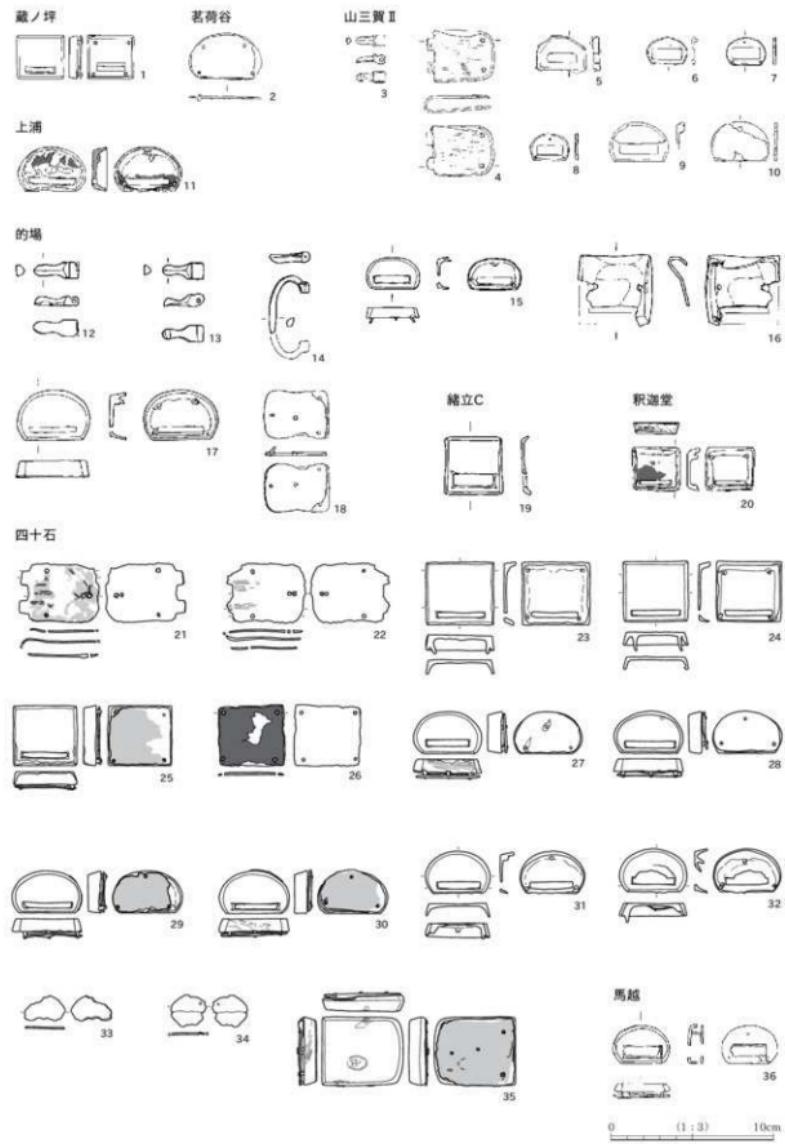
小孔金具が出土しているのは、蔵ノ坪遺跡(1)・的場遺跡(15)・緒立C遺跡(10)・馬越遺跡(15)である。蔵ノ坪遺跡(1)は表金具の透孔は細長孔の数値であるが、裏金具にも透孔があり、c/aの数値が小孔に近い数値であることから小孔とした。また、全体形状が不明な山三賀II遺跡(9・10)も、報告書中の復元図から小孔とした。10は透孔を有しない裏金具であり、報告書では触れられていないものの9のセットと捉えられるものである。大孔金具に比べ遺跡数はやや多いが、いずれも単独個体の出土である。このうち、表裏金具が遺存し裏金具にも透孔がみられるものは2点(1・15)、表金具のみに透孔がみられるのは1点(9・10)である。金具横幅の寸法は、2.6~3.1cm前後の範囲にある。時期が特定できるものが少ないが、山三賀II遺跡で8世紀第4四半期・9世紀前半の遺構から出土していることや、それ以外の遺跡が8世紀中葉以降に出現していることから、8世紀中葉を上限、9世紀前半を下限とする。ただし、下限の9世紀前半と捉えた10は透孔を有しない裏金具で、後出の特徴と捉えられる可能性もあることから、盛行は8世紀後半あたりとも考えられる。この他に、山三賀II遺跡からはこのタイプに伴うと思われる鉸具(3・4)が、的場遺跡からは鉸具(13)と蛇尾(18)が出土している。



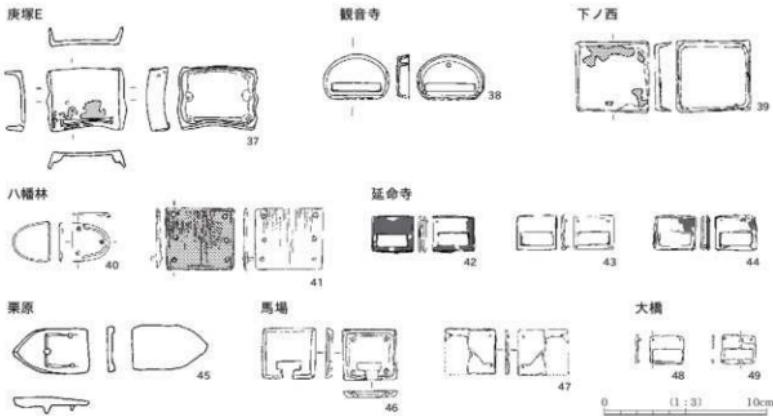
No.	遺跡名	所在地	No.	遺跡名	所在地	No.	遺跡名	所在地	No.	遺跡名	所在地	No.	遺跡名	所在地		
1	西郡	村上市	8	上浦	新潟市	15	馬越	加須市	22	下西	新潟市	29	上越市	36	馬場	佐渡市
2	葛ノ坪	前内市	9	の場	新潟市	16	庚塚E	新潟市	23	寺前	出雲崎	30	延命寺	37	庚塚	佐渡市
3	中倉	胎内市	10	続立C	新潟市	17	江添E	燕市	24	小寺	柏崎市	31	栗原	38	妙高市	
4	山三段日	聖堂町	11	觀音堂	新潟市	18	大木	燕市	25	真輪	柏崎市	32	杉原	39	妙高市	
5	山口	阿賀野市	12	四十石	新潟市	19	觀音寺	長岡市	26	高津	上越市	33	宮ノ本	40	妙高市	
6	山水川	新潟市	13	林村	新潟市	20	京田	長岡市	27	宮野	上越市	34	開川谷内	41	魚沼市	
7	若荷谷	新潟市	14	兔倉	加茂市	21	八幡林	長岡市	28	四ツ屋	上越市	35	田伏山崎	42	魚沼市	

第38図 腰帶金具出土の遺跡

細長孔金具が出土しているのは、上浦遺跡（11）・の場遺跡（9・10）・釈迦堂遺跡（20）・四十石遺跡（23～34）・庚塚E遺跡（37）・観音寺遺跡（38）・馬場遺跡（46・47）であり、大孔・小孔金具より遺跡数は多い。馬場遺跡の46・47はセット（1個体）と捉えられるものであり、やはり単独出土が多いが、四十石遺跡のように一条分に近い点数の出土をみるものもある。裏金具も一定量出土しているが、孔を有するものはない。横幅の寸法は、極端に小さい20（釈迦堂遺跡）を除けば、3.5～4.0cmの範囲にある。46・47（馬場遺跡）はセットであるため表金具の数値を対象にしている。時期が特定できるのは四十石遺跡のみであり、8世紀末から9世紀初頭という年代が与えられている。他の遺跡をみると、釈迦堂遺跡や観音寺遺跡が9世紀代の遺構から出土していること、9世紀後半から始まる遺跡では出土していないことを考えると、細長孔金具は、8世紀後半の遅い時期



第39図 県内出土の腰帶具（金属製品1）



第40図 県内出土の腰帶具（金銅製品2）

に出現し9世紀前半で衰退すると考えられる。言うまでもなく四十石遺跡出土の鉄具(21・22)と蛇尾(35)はこのタイプに伴うものであるが、この他に、的場遺跡からも同タイプに伴うと思われる弓金具(14)・刺金(12)が出土している。

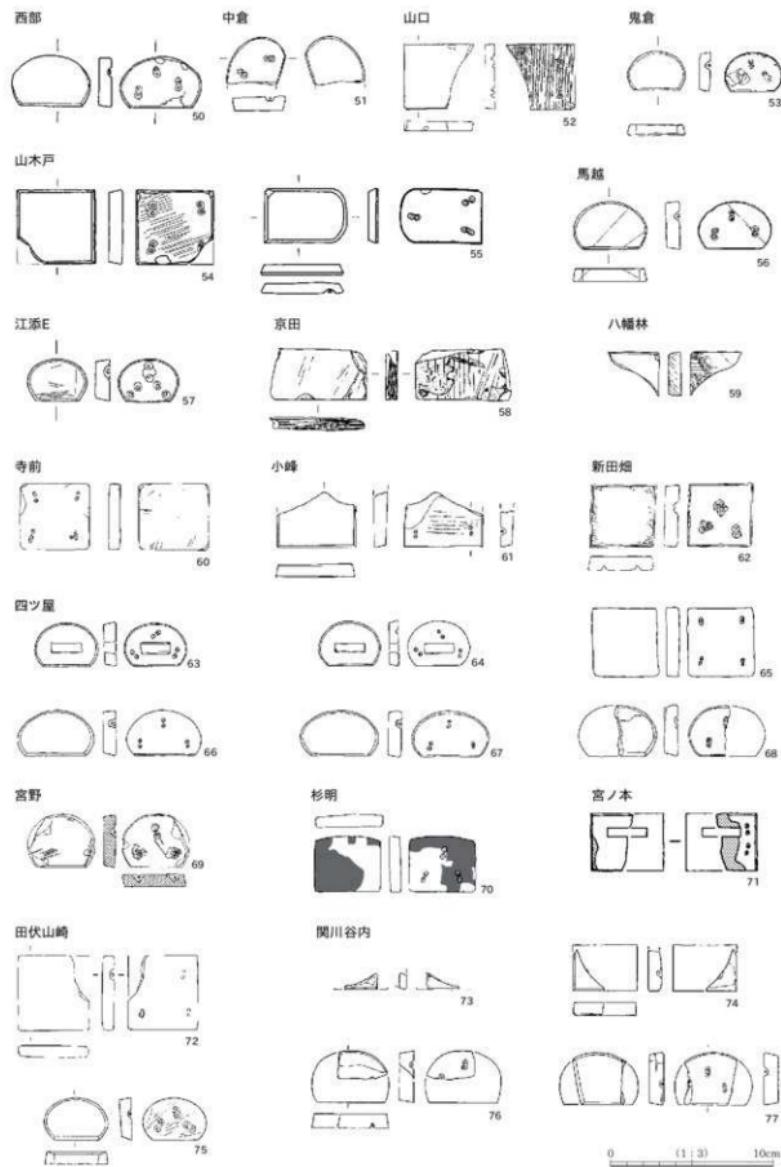
透孔の無い金具(以下、無孔金具という)が出土しているのは、下ノ西遺跡(39)であり、他に八幡林遺跡出土の遙方裏金具と思われるものが、寸法からその可能性をもつものである。時期は透孔有する金具より時代が下るとされるが、実態は不明である。

次に石製腰帶具について概観する。

数量的なものをみると、石製腰帶具の出土数は金属製腰帶具の出土数よりやや少ないが、それらが出土した遺跡数は金属製腰帶具よりも多い。県内では有孔と無孔のものが出土しているが、有孔のものには県外でみられるような細長孔はみられない。時期については、特定できる良好な資料がないため、出土遺跡の消長によって推定すると、金属製腰帶具に比べて新しい様相と思われる。山口遺跡では中世の井戸(SE50)から出土しているが、遺跡の古代の時期が8世紀後葉～9世紀中葉ということから、石製の無孔腰帶具は少なくとも9世紀中葉には存在していたようである。有孔と無孔の前後関係や消長については不明である。

以上、材質・形態別にその特徴を概観したが、気づいた点を述べる。

- ① 金属製腰帶具において、透孔は大孔、小孔、細長孔の3つの形態が捉えられ、それに無孔を加えると4つのタイプがみられる。
- ② 金属製腰帶具において、裏金具にも透孔がみられるのは大孔・小孔金具であるが、小孔金具には透孔がみられないものもある。細長孔金具にはみられず、裏金具の透孔は古い要素と捉えられる可能性がある。
- ③ 金属製腰帶具において、透孔の形態(c/a)と金具の寸法は相対的な関係が捉えられる。孔が大きいものは金具が小さく、孔が小さいものは金具が大きい。無孔のものはさらに大きい可能性がある。
- ④ 金属製腰帶具において、透孔の形態で分類された各タイプは盛行に時期差があり、大孔金具→小孔金具→細長孔金具→無孔金具という流れがみられる。
- ⑤ 石製腰帶具は金属製腰帶具より後出であると思われる。
- ⑥ 出土遺跡数は時代が下る(大孔金具→小孔金具→細長孔金具→無孔金具→石製腰帶具)にしたがって増える。分布状況に偏りがみられるものがあり、細長孔金具が蒲原郡に集中しているのが注目される。



第41図 県内出土の腰帶具（石製品）

第24表 県内出土の腰帯具(1)

○表A・真金具 ○表B・金具 ●表C・真金具

閲覧No.	地図No.	遺跡名	出土地点	時期	材質	部位	腰帯具		透孔		c/a	大孔	小孔	細長孔	無孔	備考	文献
							a 幅幅(cm)	b 横幅(cm)	c 縦幅(cm)	d 横幅(cm)							
1	2	蘿ノ坪	—	BC~9C	銅	遙方	2.4	2.6	0.35	1.7	0.15	◎				真金具孔有 縦幅0.45cm 横幅1.6cm	飯坂ほか 2002
2	7	名後谷	—	8C 中葉~9C 末	銅	丸輪	2.5	(4.0)								真金具 孔形狀不明	新潟市史編さん 原始中史部会 1994
3	4	山三賀II	SI1166	山I~II 期 (8C)	銅	鉢輪	0.6	1.6								表裏 小孔金具セットか	坂井ほか 1989
4	4	山三賀II	SI33A	山里2~N' 期 (9C 前半)	銅	鉢輪 (鉢金)	2.7	3.7								小孔金具セットか	坂井ほか 1989
5	4	山三賀II	SI803	山II 期 (8C 第2四半期)	銅	山形	1.9	2.7	0.5	1.6	0.26	○					坂井ほか 1989
6	4	山三賀II	SI640~ SI660	BC 第2四半期	銅	丸輪	1.5	2.2	0.6	1.5	0.40	○				7の表金具か	坂井ほか 1989
7	4	山三賀II	SI640~ SI660	山II 期 (8C 第2四半期)	銅	丸輪	1.5	2.2	0.6	1.6	0.40	●				6の真金具か	坂井ほか 1989
8	4	山三賀II	SI1166	山I~II 期 (8C 前半)	銅	丸輪	1.45	2.1	0.5	1.4	0.34	●					坂井ほか 1989
9	4	山三賀II	SI4	山里2 期 (8C 第4四半期)	銅	丸輪	—	—				○?					坂井ほか 1989
10	4	山三賀II	SI1100	山里2 期~IV 期 (9C 前半)	銅	丸輪	2.1	3.1				●					坂井ほか 1989
11	8	上浦	包合層	8C 中葉~10C	銅	遙方	(2.5)	3.8	0.4	2.5	0.16		○			渡邊朗吉 1992	
12	9	の場	包合層	8C 中葉~10C	銅	鉢輪 (鉢金)	—	2.4							細長孔金具セットか	小池邦ほか 1993	
13	9	の場	包合層	8C 中葉~10C	銅	鉢輪 (鉢金)	—	2.2							小孔金具セットか	小池邦ほか 1993	
14	9	の場	包合層	8C 中葉~10C	銅	鉢輪 (弓金具)	—	—							細長い内幅 2.6cm 細長孔金具セットか	小池邦ほか 1993	
15	9	の場	包合層	8C 中葉~10C	銅	丸輪	1.7	2.8	0.5	2.0	0.29	○				小池邦ほか 1993	
16	9	の場	包合層	8C 中葉~10C	銅	遙方	(3.7)	4.0	0.4	(2.7)	0.11	○				小池邦ほか 1993	
17	9	の場	包合層	8C 中葉~10C	銅	丸輪	2.8	4.0	0.3	2.6	0.11	○				小池邦ほか 1993	
18	9	の場	包合層	8C 中葉~10C	銅	蛇尾	2.6	(3.6)							小池邦ほか 1993		
19	10	猪立C	包合層	8C 後葉~9C	銅	遙方	3.1	3.1	0.7	2.3	0.23	○				渡邊ほか 1994	
20	11	駒塚堂	SX126	9C	銅	遙方	2.42	2.64	0.2	1.7	0.08		○			江口・小瀬ほか 2000	
21	12	四十石	SX71	8C 末~9C 初頭	銅	鉢輪 (鉢金)	3.3	4.4							片面 細長孔金具セット	本報告書	
22	12	四十石	SX71	8C 末~9C 初頭	銅	鉢輪 (鉢金)	3.3	4.3							片面 細長孔金具セット	本報告書	
23	12	四十石	SX71	8C 末~9C 初頭	銅	遙方	3.5	3.8	0.3	2.6	0.09	○			26の表金具	本報告書	
24	12	四十石	SX71	8C 末~9C 初頭	銅	遙方	3.3	3.6	0.3	2.7	0.09	○			本報告書		
25	12	四十石	SX71	8C 末~9C 初頭	銅	遙方	3.3	3.5	0.3	2.6	0.09	○			細幅・横幅は表金具のみ	本報告書	
26	12	四十石	SX71	8C 末~9C 初頭	銅	遙方	3.4	3.6				●			23の表金具	本報告書	
27	12	四十石	SX71	8C 末~9C 初頭	銅	丸輪	2.3	3.7	0.4	2.4	0.17	○			横幅・横幅は表金具のみ	本報告書	
28	12	四十石	包合層	8C 末~9C 初頭	銅	丸輪	2.3	3.8	0.4	2.8	0.17	○			横幅・横幅は表金具のみ	本報告書	
29	12	四十石	SX71	8C 末~9C 初頭	銅	丸輪	2.3	3.85	0.3	2.7	0.13	○			横幅・横幅は表金具のみ	本報告書	
30	12	四十石	SX71	8C 末~9C 初頭	銅	丸輪	2.4	3.85	0.3	2.7	0.13	○			横幅・横幅は表金具のみ	本報告書	
31	12	四十石	包合層	8C 末~9C 初頭	銅	丸輪	2.3	3.6	0.4	2.45	0.17	○			本報告書		
32	12	四十石	包合層	8C 末~9C 初頭	銅	丸輪	2.45	3.7	(0.4)	2.4	0.16	○			本報告書		
33	12	四十石	包合層	8C 末~9C 初頭	銅	丸輪	—	—				●			本報告書		
34	12	四十石	SX71	8C 末~9C 初頭	銅	丸輪	—	—				●			本報告書		
35	12	四十石	SX71	8C 末~9C 初頭	銅	蛇尾	3.8	4.5							細長金具セット 横幅・横幅は表金具のみ	本報告書	
36	15	馬越	包合層	8C 中葉~10C 前半	銅	丸輪	2.1	3.1	0.6	2.2	0.29	○			真金具孔有 縦幅 0.6cm 横幅 1.9cm	伊藤 2005	
37	16	唐塚E	—	—	銅	遙方	3.3	4.0				○				布施ほか 2005	
38	19	殿寺寺	12号土坑	9C	銅	丸輪	2.5	3.7	0.5	2.7	0.20	○				寒川ほか 1995	
39	22	下ノ西	水路1区 SK1053	—	銅	遙方	3.8	4.0				○				田中靖 2003	
40	21	八幡林	I地区	8C 初頭~9C 末	銅	蛇尾	2.2	2.1							大孔とセットか	田中靖 1993	
41	21	八幡林	1TT	8C 初頭~9C 末	銅	遙方	3.4	3.8							真金具 孔形狀不明	田中靖 1994	
42	30	延命寺	SD3460	8C 前葉~中葉	銅	遙方	2.0	2.3	0.7	1.75	0.35	○			真金具孔有 縦幅 0.7cm 横幅 1.75cm	山崎ほか 2008	
43	30	延命寺	包合層	8C 前葉~中葉	銅	遙方	1.95	2.25	0.75	1.8	0.38	○				山崎ほか 2008	
44	30	延命寺	SD1381	8C 前葉~中葉	銅	遙方	1.95	2.35	0.75	1.75	0.38	○			真金具孔有 縦幅 0.7cm 横幅 1.7cm	山崎ほか 2008	
45	31	栗原	包合層	—	銅	蛇尾	2.5	4.1								高橋範 1984	
46	36	馬場	土坑状跡み	奈良時代前半	銅	遙方	3.2	3.3	0.5	1.5	0.16	○			47の表金具か 調査區 方2	山本仁ほか 1983	
47	36	馬場	土坑状跡み	奈良時代前半	銅	遙方	3.0	3.3				●			46の表金具か	山本仁ほか 1983	

第25表 県内出土の腰帯具(2)

◎表・真金具 ○表金具 ●表金具

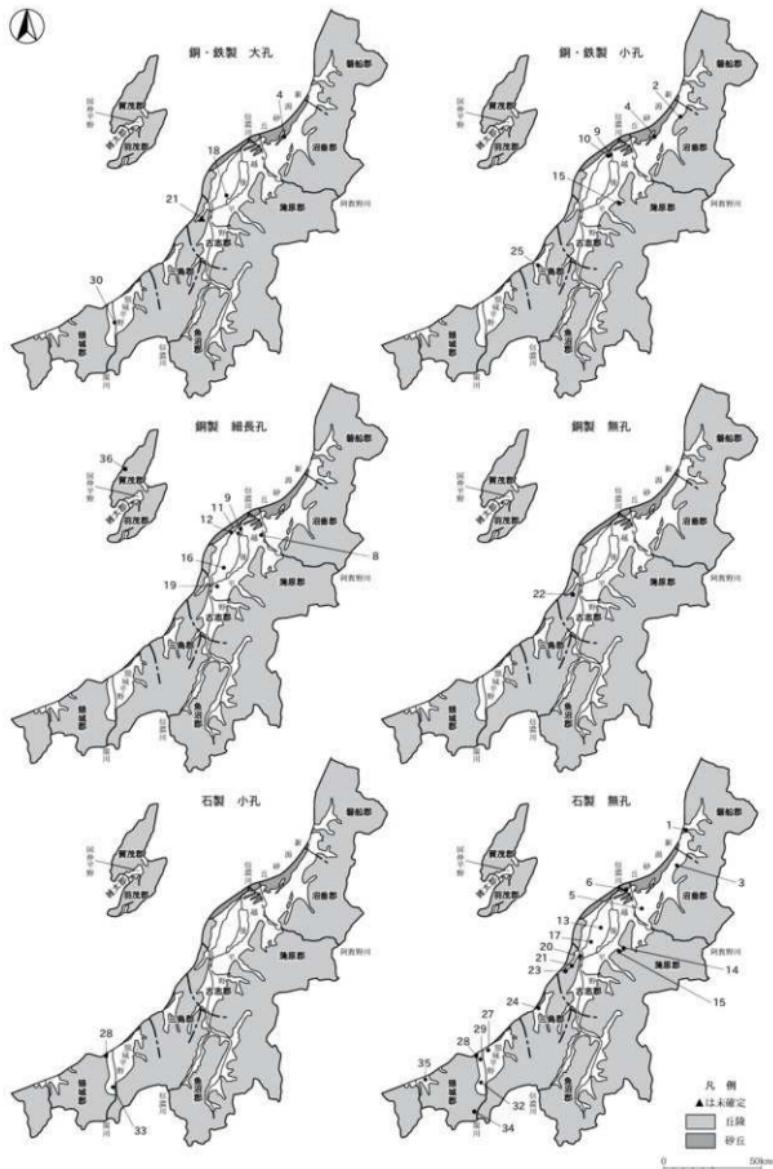
閲示 No.	地図 No.	遺跡名	出土地点	時期	材質	部位	腰帯具		透孔		c/a	大 孔	小 孔	縦長孔	無 孔	備考	文献
							a 幅幅 (cm)	b 横幅 (cm)	c 縱幅 (cm)	d 横幅 (cm)							
48	18	大橋	笠置層	7C末～8C前半	銅	透方	1.6	2.1	0.75	1.85	0.47	○				49の真金具か	布施ほか 2002
49	18	大橋	笠置層	7C末～8C前半	銅	透方	1.7	2.1	0.65	1.75	0.38	●				48の真金具か	布施ほか 2002
50	1	西部	笠置層	9C末～8C中葉	石	丸納	2.7	4.3					○				鈴木ほか 2010
51	3	中倉	笠置層	—	石	丸納	—	—					○				古村 2003
52	5	山口	笠置層	8C後半～9C中葉	石	透方	(3.6)	—					○				高橋保雄 2010
53	14	鬼倉	SK11(11号土坑)	—	石	丸納	2.2	3.2					○				伊藤 2001
54	6	山水井	SK9	—	石	透方	4.05	4.25					○				譲山 2004
55	6	山水井	笠置層	—	石	蛇尾	2.9	4.5					○				譲山 2004
56	15	馬越	笠置層	8C中葉～10C前半	石	丸納	2.6	4.0					○				伊藤 2005
57	17	江添E	P23	平安時代	石	丸納	3.2	2.2					○				布施 2000
58	20	田中	SK002	—	石	透方	(5.2)	(2.7)					○				岡ほか 1987
59	21	八幡林	SX29	—	石	透方	(2.8)	(2.4)					○				田中 端 2005
60	23	寺前	笠置層	—	石	透方	3.9	3.6					○				高橋保雄 2008
61	24	小野	—	—	石	透方	—	4.3					○				渡邊尚紀 1999
62	29	新出畠	SD38	—	石	透方	3.5	3.5					○				上越市 2003
63	28	四ツ屋	SB2	9C後半～12C前葉	石	丸納	2.3	3.4	0.5	1.7	0.22	○					上越市 2003
64	28	四ツ屋	SB2	9C後半～12C前葉	石	丸納	2.4	3.4	0.5	1.6	0.21	○					上越市 2003
65	28	四ツ屋	SB2	9C後半～12C前葉	石	透方	3.8	3.6					○				上越市 2003
66	28	四ツ屋	SK60	9C後半～12C前葉	石	丸納	2.5	4.2					○				上越市 2003
67	28	四ツ屋	SX27	9C後半～12C前葉	石	丸納	2.4	4.3					○				上越市 2003
68	28	四ツ屋	SX27	9C後半～12C前葉	石	丸納	(2.8)	(4.2)					○				上越市 2003
69	27	宮野	2号建物跡	—	石	丸納	2.9	3.7					○				福井ほか 1985
70	32	柳原	笠置層	9C後半～10C前葉	石	透方	3.0	3.7					○				高橋保雄 1989
71	33	官ノ本	SB7	—	石	透方	3.2	(4.0)	0.4	(2.0)	0.13	○					高橋保雄 1995
72	35	田代山崎	笠置層	10C前葉～11C前葉	石	透方	4.1	3.9					○				佐藤ほか 2009
73	34	閑川内	笠置層	平安時代	石	透方	—	—					○?				小池義ほか 1998
74	34	閑川内	笠置層	平安時代	石	透方	—	(5.5)					○				小池義ほか 1998
75	34	閑川内	—	平安時代	石	丸納	2.3	3.6					○				小池義ほか 1998
76	34	閑川内	笠置層	平安時代	石	丸納	(2.8)	(4.2)					○				小池義ほか 1998
77	34	閑川内	笠置層	平安時代	石	丸納	2.8	(4.3)					○				小池義ほか 1998
—	24	箕輪	—	平安時代	銅	丸納	—	3.4				○	未報告				ジャパン通信社 1999
—	13	林付	—	8C末～9C末	石	透方	3.65	3.85					○	未報告			相田 2011
—	26	高津	—	—	石	—								石製把手 1 未報告			上越タイムス 1995
—	37	奥門扉	—	—	石	—								石製把手 1 文章記載のみ			佐渡博物館 1973

本遺跡の事例は年代が付与できる好資料であり、それを加えることによって、県内の様相がある程捉えられたと思う。しかし、腰帯具については、位階と寸法の関係や1遺跡に1・2点の出土が多いこと、本遺跡でみられるような真金具のみの鍍金の問題などまだまだ課題が多い。今後の研究に期待したい。

第3節 四十石遺跡出土骨片の人類学的検討

A はじめに

四十石遺跡では少量ながらも細片化が著しい焼骨片が多数出土した。焼骨片の多くは、古代の帶金具が出土したSX71周溝状遺構、およびその周辺から検出されている。これらの骨片は大きいものでも30mmほどで、ほとんどが10mmに満たない細片で肉眼観察によって部位および動物種の同定が可能なものは極僅かである(写真1)。SX71周溝状遺構の性格を考える上で、これらの焼骨が人か動物のものなのは極めて重要な点であるこ



第42図 腰帶金具タイプ別出土状況

とから、形態学的肉眼観察に加えて骨組織形態学的手法を用いてこれらの焼骨片について検討した。

骨組織形態学的研究法とは、骨の切片から得られた緻密質の組織顕微鏡画像を検討することによって、動物種の同定を試みる手法である。ヒトを含む多くの中・大型哺乳類の緻密質はオステオンと呼ばれる円柱構造を主体とし、1個のオステオンは動静脈が通るハバース管とその周囲に同心円状に形成されたハバース層板から構成される。オステオンやハバース管の大きさと分布は動物種類によって相違しており、これを用いた鑑定法は特に法医学分野において人獸鑑別の一つとして採用されている（山本 1993, Cattaneo et al. 1999）。また、偶蹄目に頗著に発達する葉状骨など特定の動物に形成される組織構造の有無も、動物種類の識別の根拠として有効である（Enlow and Brown 1956-1958, Ricqlès 1975-1978）。この方法は骨の組織構造が保存されていれば適用可能なので、肉眼では種を同定できない微小な骨片についても、人獸鑑別を実施できる。

これまで筆者らは、日本列島の人類遺跡から出土した微小骨片の同定に関して事例報告を蓄積しつつ、研究法の進展に努めてきた（奈良・澤田 2007, 澤田・奈良 2007, 澤田 2010）。今回、四十石遺跡出土骨片の鑑定にあたり、肉眼観察と併せて、緻密質組織形態の観察と計測に基づいて動物種類の推定を試みたので、以下にその結果を報告する。なお、本稿における骨片の番号は、調査担当者の付した資料番号にしたがつた。

B 肉 眼 観 察

焼骨は、SX71 周溝状遺構とこれ以外の遺構にわけて検討する。

1) SX71 周溝状遺構

SX71 周溝状遺構検出の焼骨は、出土地点記録遺物 23 点、重量 11.1g、小グリッド一括取り上げ遺物が重量 28.5g、総重量は、39.6g である。これらの焼骨で、ヒトと同定されるものと、焼成等の状況がうかがえるものを中心に記載する。

a) ヒトと同定された骨片

試料 1 (SX71-No.4767 第 8 図)

細片化が著しい骨片が十数点遺存する。総重量 1.0g である。大きさは骨粉状のものから長径で 15mm 程のものまであるが、ほとんどは 5mm 以下である。そのうちの 4 点が接合し、ヒトの前頭骨の右眼窩上縁部であることが判明した（第 44 図-1）。眼窩上縁の形態は、女性的な鋭角ではなく丸みを帯びるが、頑強な印象を受けない。

試料 2 (SX71-No.4766 第 8 図)

骨片が十点ほど遺存する。総重量 2.0g である。大きさは骨粉状のものと長径で数十ミリ程度のものに別れる。そのうち大きい 3 点が接合し、ヒトの左側頭骨鱗部前縁と思われる（第 44 図-2）。

試料 3 (SX71-11H4)

細片化が著しい骨片が十数点遺存する。総重量 5.4g である。大きさは骨粉状のものから長径で 20mm 程のものまであるが、ほとんどは 5mm 以下である。そのうちヒトの第 3 ないし第 4 頸椎椎体後部と思われる破片が含まれている。（第 44 図-3）

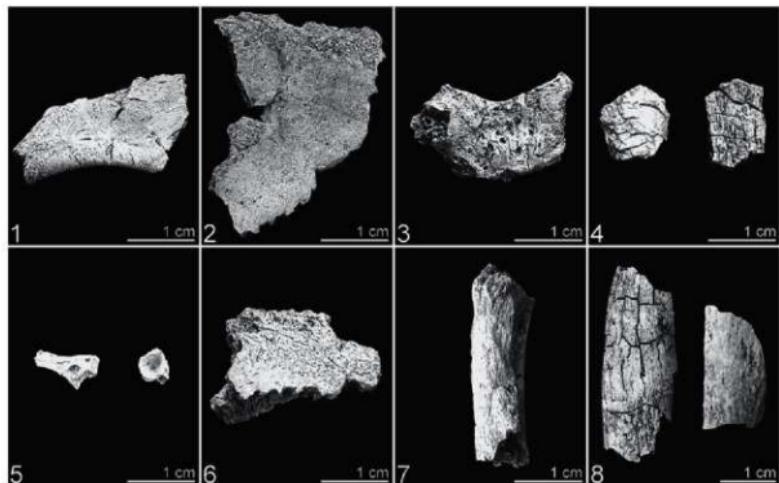
b) 焼成状況について

検出された焼骨は、ほとんどが灰白色から白色の色調を呈している。焼成による骨の色調変化は焼成温度と焼成時間に関係しており、白色の色調は 800°C 以上の高い温度で長時間焼成されたことを示している（Shipman et al. 1984, Nicholson 1993）。一部の四肢長骨片に輪状に走る亀裂がみられる（第 44 図-4・8）。このような四肢長骨の亀裂は、骨が軟部組織に覆われた状態で焼かれた際に生じることが指摘されている（池田 1981）。したがって、出土した焼骨群はまだ軟部組織が付着しているときに、高温で長時間焼かれたことが想定されよう。

肉眼的観察では種を確定するには至らなかったが、ヒト以外の動物を積極的に想起させるものは存在しなかつた。



第43図 四十石遺跡出土焼骨片写真①



第44図 四十石遺跡出土焼骨片写真②

1.ヒト前頭骨の右眼窓上縫部(No.4702)、2.ヒトの左側頭骨縫部前縫部片(No.4766)、3.ヒトの第3ないし第4頭椎椎体後部、4.四枝長骨片、5.小型のタイの左前上顎骨(左)と歯類の歯骨(右)、6.ヒトの右側頭骨後部縫、7.ヒトの左肋骨肋骨縫、8.骨組織形態学的検討の試料とした四枝長骨片
(以上のうち1~4および8はSX71周溝状遺構、5はカマドフクシ ST246、6は11H10Ⅳ層、7は4層 P905から出土した)

2) SX71 周溝状遺構周辺の焼骨

焼骨は、いずれも破片で種の同定できるのも少ない。総重量は 16.1g と少量である。種が同定できるものについて記載する。

試料 4 (11H10 V層)

ヒトの右側頭骨後頭縁の破片である。厚さから成人のもので、縫合の癒合が見られないことから老人段階に達していた可能性は低い（第 44 図-6）。

試料 5 (P905・4 層)

ヒトの左肋骨肋骨頭の破片である（第 44 図-7）。

試料 6 (SI246)

細片化が著しい骨片が 10 片ほど検出されている。その内、小型のタイの左前上顎骨（第 44 図-5 左）と魚類の椎骨（第 44 図-5 右）が確認された。

C 骨組織形態学的検討

骨組織形態学的検討は、SX71 周溝状遺構検出骨片を対象として実施した。

1) 資 料

出土焼骨

先行研究における骨構造の比較解剖学的所見は、特に四肢骨の緻密質に関して蓄積されている [Enlow and Brown 1956-1958, Hillier and Bell 2007, Jowsey 1966, Ricqlès 1975-1978, 深田ほか 2010]。そこで、SX71 周溝状遺構出土焼骨から四肢長骨の緻密質を探査したところ、大型哺乳類のものと思われる四肢骨幹部の小片 2 点（試料 7 と試料 8、第 44 図-8）が認められたので、これらを骨組織形態学的分析の試料とした。

比較標本

分析試料は上述の通り大型哺乳類の四肢長骨とみなされたので、当時の動物相と家畜動物群を参考に、ヒト（現代人骨と遺跡出土人骨）・クマ（本州に生息するクマ科はツキノワグマであるが、収蔵標本の都合によりヒグマで代替した）・ウマ・イノシシ・ニホンジカ・カモシカ・ウシを分析の比較標本として選定した。各動物種はなるべく複数個体を用意し、上腕骨および大腿骨の骨幹中央部前側から、緻密質骨塊をダイヤモンドカッターで摘出した。ニホンジカ大腿骨の骨幹中央部前側は、網状骨が発達し二次オステオンがほとんどみられなかつたため、二次オステオンの発達する骨幹中央部後側から緻密質を採取した。

2) 方 法

薄切標本の作成

骨の組織形態を顕微鏡で観察するためには、材料となる骨片を樹脂に包埋し、これを薄切して切片を作成する必要がある。出土焼骨試料および比較標本から摘出した骨塊は、それぞれ 70% エタノールに浸漬して真空デシケーターで脱気処理を行い、80% エタノールに 1.5 時間、90% エタノールに 1.5 時間、100% エタノールに 1.5 時間、別の 100% エタノールに 1.5 時間浸漬して脱水した。その後、スチレンモノマーに 2 時間、別のスチレンモノマーに 2 時間、スチレンモノマーと樹脂（Rigolac2004 と Rigolac70F (NisshinEM) を 7 対 3 で混合）の等量混合液に 24 時間浸漬した後、樹脂（同上）に 24 時間浸漬して樹脂を骨内部に浸透させた。以上の過程を経た試料を、重合促進剤（Benzoyl Peroxide, 和光純薬工業）を添加した別の樹脂（Rigolac2004 と Rigolac70F を 7 対 3 で混合）に包埋して恒温器内に安置し、30°C から 12 時間に毎に 10°C ずつ 60°C まで温度を上げて樹脂を重合した。試料を包埋した樹脂が十分に硬化したのち、硬組織切断機（SP-1600, Leica）で、四肢長骨の長軸に対して垂直の横断面を得るように厚さ 50 μm に薄切り、非染色非脱灰標本としてプレパラートに封入した。

顕微鏡観察と骨組織形態計測

検鏡には明視野・偏光観察の可能な光学顕微鏡（Imager A1, Zeiss）を用い、骨組織像の観察所見を得た。

さらに、骨組織像を顕微鏡デジタルカメラ (Go-5, QImaging) で撮影し、コンピューター (Mac mini, Apple) に取り込んだ後、画像解析ソフトウェア (ImageJ, US National Institute of Health) を用いて骨組織形態計測を行った。

緻密な骨組織形態計測の項目には、オステオンの密度、ハバース管の密度、オステオンの面積と周囲長、ハバース管の面積と周囲長などが一般に用いられている。これらの計測項目のうち、オステオンの面積 (osteon area : On.Ar) とハバース管の面積 (Haversian canal area : H.Ar) は動物種によってそれぞれ異なっており、種の識別に有効な指標となりうる (Harsányi 1993, 猪井ほか 1994, Jowsey 1966, 澤田ほか 2010)。そこで本分析では、この 2 項目を計測項目として採用し、さらに、オステオンごとに On.Ar に対する H.Ar の比 ((H.Ar/On.Ar) × 100 : H-On 示数) を算出した。

計測方法は澤田ほか (2010) に準拠して、リモデリングによる骨吸収を受けていない完形の二次オステオン (secondary osteon) のみを計測対象とし、原始的オステオン (primary osteon)、形成途中の二次オステオン、新たにリモデリングの骨吸収を受けた古い二次オステオンは除外した。また、長骨長軸に対して斜走するオステオンや不規則な形のオステオンを除くため、最大径が最小径の 2 倍を超えるオステオンや輪郭が不明瞭なオステオンは計測対象外とした。比較動物標本の四肢骨の骨組織形態計測値は、澤田ほか (2010) のデータを利用した。

3) 骨組織形態の観察所見と計測的検討結果

以下、試料別に、観察所見と計測的検討結果を記載する。

試料 7 (No.3701 第 8 図)

試料の骨構造は焼成および埋存過程により劣化していたが、二次オステオンを主体とする様相が認められた (第 46 図-1)。二次オステオンは密に分布しており、ハバース管の径は大きく、比較標本のヒト (第 46 図-3・4) に類似する。幼齢の個体に形成される線維性骨や原始的オステオンなどの一次骨が見当たらないことから、この試料骨片はある程度成長の進んだ個体のものと推察される。偶蹄類 (イノシシ、ニホンジカ、ウシなど) や奇蹄類 (ウマ) などヒト以外の哺乳類では、規則的なオステオンの配列 (第 47 図-1・3) や、葉状骨または網状骨とよばれる構造 (第 47 図-2・4) がしばしばみられるが (Enlow and Brown 1956-1958, Hillier and Bell 2007)、試料の組織像にそうした骨組織形態は認められなかつた。

試料における骨組織形態計測値は、On.Ar が約 22700 μm²、H.Ar が約 1500 μm² であった (第 26 表)。試料の計測値を比較動物標本のデータ (第 27 表) と比較すると、試料骨片の On.Ar は、ヒト (約 30700-49000 μm²) より小さく、シカ (約 16300-28000 μm²) やイノシシ (約 19700-25700 μm²) などに近い値であった。また、試料骨片の H.Ar は、ヒト (約 1600-2500 μm²) よりやや小さいが、ヒト以外のどの動物 (約 500-1300 μm²) よりも大きい値であった。ここで、試料が焼骨であることに留意する必要がある。一般に骨は焼成によって収縮し、その収縮率は Nelson (1992) によれば最大で 17% とされる。仮に試料の骨組織形態が焼成により 17% 縮小していたとするならば、本来の試料の On.Ar は

第 26 表 四十石遺跡出土骨試料の骨組織形態計測値

	On.Ar (μm ²)			H.Ar (μm ²)			H-On 示数		
	N	Mean	SD	N	Mean	SD	N	Mean	SD
試料 3701	21	22651.0	4901.7	21	1459.7	822.5	21	6.67	3.50

On.Ar: 完形の二次オステオンの面積、H.Ar: ハバース管の面積、H-On 示数: (H.Ar/On.Ar) × 100

第 27 表 比較動物四肢骨標本における骨組織形態計測平均値の範囲
((澤田ほか 2010) より)

	On.Ar (μm ²)	H.Ar (μm ²)	H-On 示数
ヒト (標本数 8)	30722.8-49038.7	17343.3-2594.5	5.4-7.3
クマ (標本数 2)	22203.2-26356.1	6373.8-719.5	3.0-3.1
ウマ (標本数 1)	41422.9	1371.1	3.9
イノシシ (標本数 4)	19673.3-25740.1	463.7-827.7	2.0-3.5
ニホンジカ (標本数 6)	16275.5-28138.8	469.4-722.2	2.2-3.4
カモシカ (標本数 1)	26140.1	485.8	2.0
ウシ (標本数 5)	25216.9-43209.7	472.6-338.1	1.5-2.6

On.Ar: 完形の二次オステオンの面積、H.Ar: ハバース管の面積、H-On 示数: (H.Ar/On.Ar) × 100



第 45 図 出土骨試料 No.3701 および比較標本における H-On 示数平均値の分布範囲

約 $27300\mu\text{m}^2$ 、H.Arは約 $1800\mu\text{m}^2$ となり、ヒトの値と大きく違わなくなる。また、H-On示数は、骨組織構造の面積の比であるため、焼成による収縮の影響が小さいと予想され、しかも人獣鑑別の指標としても優れている（澤田ほか2010）。試料のH-On示数(6.7)は、ヒト以外の動物の値(1.5-3.9)より顕著に大きく、ヒトの値の範囲(5.4-7.3)に収まっていた。したがって、骨組織形態の計測的検討結果においても、観察所見と同様に、本試料はヒトに最も近いと判断してよさそうである。

試料8(No.3863第8回)

試料の全体に二次オステオンが認められたが、骨構造の保存状態がきわめて劣悪であり、ほとんどの組織形態においてそれらの輪郭を正確に把握することは不可能であった(第46図-2)。緻密質の中央部には二次オステオンが密に分布するが、二次オステオンの輪郭は判然とせず、骨組織形態計測を実施するには至らなかつた。緻密質の骨膜側と骨内膜側では中央部に比べて二次オステオンの分布が疎であるが、これらの二次オステオンの周囲を充填する骨質が環状層板なのかそれとも原始的オステオンを多く含む一次骨なのかは、判断が困難であった。なお、葉状骨(前述)などヒト以外の動物に特徴的にあらわれれる組織構造は認められなかつた。

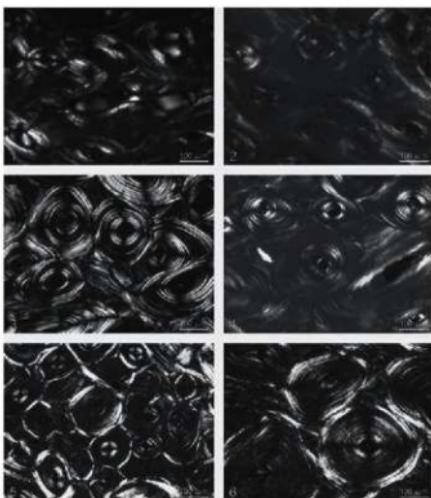
本試料においては、ヒト以外の動物であることを示す特徴を見出すことはできなかつたものの、ヒトと動物を区別しうる所見に乏しく、人獣鑑別は保留にせざるをえない。

D 考 察

本稿の最初で述べたように、焼骨の大半が帶金具の出土したSX71周溝状遺構およびその周辺から検出されていることから、この遺構の性格を考える上でこれらの焼骨の存在が重要であると思われる。そこで、特にSX71周溝状遺構から検出された焼骨について若干の考察を加えてみたい。

1) 出土骨の内容

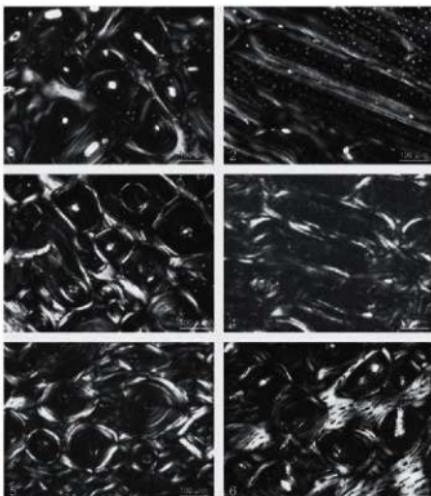
本遺構から出土した焼骨の総重量は、40.1g



第46図 試料骨片および比較標本の骨組織像(写真)

(二次オステオンの偏光顕微鏡写真)

1. 試料 No., 2. 試料 No.3863, 3. ヒト大腿骨, 4. 黒沢貝塚から出土した中世幾人骨の大腿骨, 5. クマ大腿骨, 6. ウマ大腿骨



第47図 比較標本の骨組織像(写真)

(二次オステオンと葉状骨の偏光顕微鏡写真)

1. イノシシ大腿骨の二次オステオン, 2. イノシシ大腿骨の葉状骨, 3. ニホンジカ大腿骨の二次オステオン, 4. ニホンジカ大腿骨の葉状骨, 5. カモシカ大腿骨の二次オステオン, 6. ウシ大腿骨の二次オステオン, 7. クマ大腿骨, 8. ウマ大腿骨

である。肉眼観察では、種が同定できたものは全てヒトであり、種を確定するには至らなかった資料でもヒト以外の動物を積極的に想起させるものは存在していない。さらに2点の四肢骨骨幹部破片について骨組織形態の観察と計測的検討を行った結果、1点はヒトの可能性が高いと考えられ、もう1点については人獣鑑別はなしえなかつたもののヒト以外の動物であることを示す証左は見出せなかつた。したがって、出土焼骨の肉眼観察と骨組織形態学的検討の両方において、識別可能な種はヒトのみということになる。

同定できた部位が限られ、複数個体が存在していたかどうかは不明であるが、出土量は成人一体分の焼骨の重さに遠く及ばない。成人男性の一個体の平均的な焼骨重量は約2kg、成人女性では約1.3kgとされるが(山口1983)、仮に出土焼骨が一体の男性だとするとならば、検出された骨の量は一個体分のわずか2%程度にすぎない。同定できた部位がありにも少ないので個体識別の意義は大きいとは言えないものの、重複する部位が見当たらないことより、最小個体数は1と算定される。

2) 年齢・性別

仮にこれらの焼骨がSX71周溝状遺構に埋葬されたヒト一個体分の被葬者として、年齢と性別に関してできる限りの考察を加えてみよう。

出土焼骨のうち、ある程度の年齢を推定できる部位として、頸椎椎体と頭骨片(試料2)の2点が挙げられる。頸椎椎体(第44図-3)は骨端輪の骨化が終了していることから成人段階には達していた。さらに加齢性の骨縫形成などが見られないことから老人の可能性は低く、壮・熟年段階程度と思われる。また、計測可能な椎体背側垂直径は、12.2mmと日本人成人の平均値(成人男性第3頸椎13.3mm、第4頸椎13.3mm、成人女性第3頸椎11.7mm、第4頸椎11.4mm)とほぼ同じ値を示すことから、焼骨の収縮を考慮に入れなければ体格は平均的な大きさの成人であったと思われる。幼児程度の段階でないことは骨組織の観察とも一致する。次に試料2頭骨片(第44図-2)であるが、観察できる縫合は融合しておらず、老人の可能性は低い。しかし、焼かれた骨は、完全に縫合が融合していなければ、融合がかなり進んでいても、縫合に沿って割れてしまうとされているので(池田1981)、焼骨の年齢を推定する際、頭骨の縫合の癒着の程度は参考程度に留めた方が良いのだが、確認できた特徴に僅かながらでも老人を想起させるものはない。

性別を推定できる部位が遺存するのは以下の1点である。試料1(第44図-1)の前頭骨の右眼窓上縁部の形態が、女性の特徴を示す薄い鋭角ではなく、丸みを帯びている。しかし、眉弓の隆起が発達しているわけではないことから、頑強ではない男性という印象を受ける。また、焼骨の場合、一般的に収縮するとされている。個々の骨の縮小率は一定でなく、収縮率は報告者によりまちまちである。最大で30%縮小するといわれているので、性別推定には注意を要するのだが、池田(1981)は、太安万侖墓出土の焼骨の性別を推定する際に収縮率を3%、10%と仮定して検討を加えている。本遺跡の頸椎もこれにならってもとの高さを推定すると、頸椎が3%縮小していたときのものとの高さは12.6mm、10%縮小していたときのものとの高さは13.5mmとなり、日本人男性の平均(前頭)とほぼ同等であり、女性の平均よりはやや大きい値となる。よって、小柄な可能性は低くなり、性別が推定できる特徴は僅かだが、男性的要素が強い。仮に女性だとしても平均以上の身長だったと思われる。

以上のことから、極めて限定された情報からであり、ヒト一人から由来するものと仮定した上の推定だけれども、本遺跡の焼骨は、壮・熟年程度の男性と思われる。

3) 火葬儀礼と焼骨

この遺構から出土した骨片が全てヒトだとすると、骨体の色調や形状から、死後それほど経たないうちに700~800°C以上の高温で長時間焼成されたものと推察された。こうした焼骨の由来を考えるのに、焼成が偶発的に生じた可能性は低く、強い火力を長く受ける状況として火葬されたものと思われる。また、細胞化が著しいことから、焼いた後に焼骨を碎くという民俗例で知られているような行為が存在していた可能性も指摘できる。成人男性の焼骨重量は約2kg、成人女性は約1.3kgとされるが(山口1983)、本遺構から検出された焼骨の重量は大幅にこの値を下回る。本来あるべき骨量のわずかしか遺存していないことになる。一般に焼成した骨はもちろ

くなるが、遺跡から出土する焼骨は強固な状態であることが多い。この現象の理由ははつきりとわかっていないが、高温により融解した無機質が再結晶化する際に水と反応してより強固な構造に変化したため、あるいは、有機物を含有しないので微生物によって分解されないためと考えられている [Mays 1988]。本遺跡の焼骨は、いずれもよく焼成していることから、ある程度の強度を保っていたと思われるため、埋存過程でのみ消失したと考えよりも、埋納あるいは遺棄された当初から少量しかなかったか、あるいはこの遺構が後世の擾乱を受けたため少量になったと推定するほうが蓋然性が高い。遺構およびその周辺からは、炭化物や焦土の検出がないことから、この遺構で茶毬されて拾骨された後に取り残された可能性は低い。別のところで茶毬に付された焼骨の一部が選択的に拾骨され持ち込まれたものなのかどうかは、骨の分析からは判断できなかったが、検出された焼骨には頭骨の破片は認められるものの、歯は含まれていなかった。

E まとめ

四十石遺跡において、SX71周溝状遺構などから奈良時代の焼骨片が検出された。これらの焼骨片は、カマドから検出された魚骨を除いて、肉眼観察で種が同定できたものは全てヒトであった。肉眼観察では、種を確定するには至らなかった資料でも、ヒト以外の動物を積極的に想起させるものは存在しなかった。さらに、SX71周溝状遺構から出土した四肢長骨片2点について骨組織形態の観察と計測的検討を行った結果、1点は動物種の同定が困難であったが、もう1点はヒトの可能性が高いことが推定された。

SX71周溝状遺構から出土した焼骨についてその由来を検討したところ、遺構出土焼骨がすべてヒトであるとすれば、別の場所で強い火力を長く受けて火葬された後に、本遺構に埋納あるいは遺棄されたと考えられた。出土量がごく少ないとから、当初から少量の骨のみが持ち込まれたか、あるいはこの遺構が後世の擾乱を受けたことにより本来存在していた骨のごく一部のみが残存したものと推定された。

謝 辞

試料の薄切および画像処理に際して佐伯史子氏のご助力を得た。魚骨に関しては慶應義塾大学文学部佐藤孝雄教授にご教示を賜った。記して感謝申し上げる。

第4節 遺跡の変遷と位置付け

A 縄文・弥生・古墳時代

四十石遺跡では縄文時代後期の痕跡がもっとも古い。遺構は明確に認識されるものはなかったが、後期中葉の加曾利B式並行土器が一定量出土している。多くが加曾利B2式並行のものであり、該期の石器と思われるものもみられる。縄文時代晩期の土器は現在のところ確認されていないが、次の弥生時代では前期の「緒立式」土器、中期の「小松式」土器、後期の「法仏式」土器がわずかにみられる。

周辺をみると、縄文時代・弥生時代の遺跡は、本遺跡の西側や南西側で海岸線にほぼ並行して延びる新砂丘IIや新砂丘Iに存在している。しかし、土器はほとんど出土しておらず、石器を中心とした石器しか確認されていない遺跡が多い。自然堤防上の遺跡とされる伝念野毛遺跡では弥生時代中期（「小松式」）の土器が、新砂丘II-a列にある病院脇遺跡では縄文時代後期中葉～後葉初期の土器〔岡本徹ほか2007〕が出土しているが、ごくわずかである。この辺りはキャンプ地的な遺跡が多いと考えられている〔新潟市史編さん原始古代中世史部会1994〕。土器を一定量出土する遺跡は、本遺跡から南西方向約5.8kmにある布目遺跡（縄文時代前期前半）、北東方向約3.5kmにある六地山遺跡（弥生時代後期）、同じく北東方向約7.8～8.6kmにある緒立遺跡・的場遺跡（縄文時代晩期～弥生時代中期）である。各遺跡とも土器が標準資料となっており、遺構も確認されている。特殊な性格をもつものもあるが、いずれも集落遺跡として位置づけられるものである。本遺跡もまた、量は多くないものの複数種類の土器が出土しており、縄文時代後期中葉には短期間の活動の中心となっていた可能性がある。

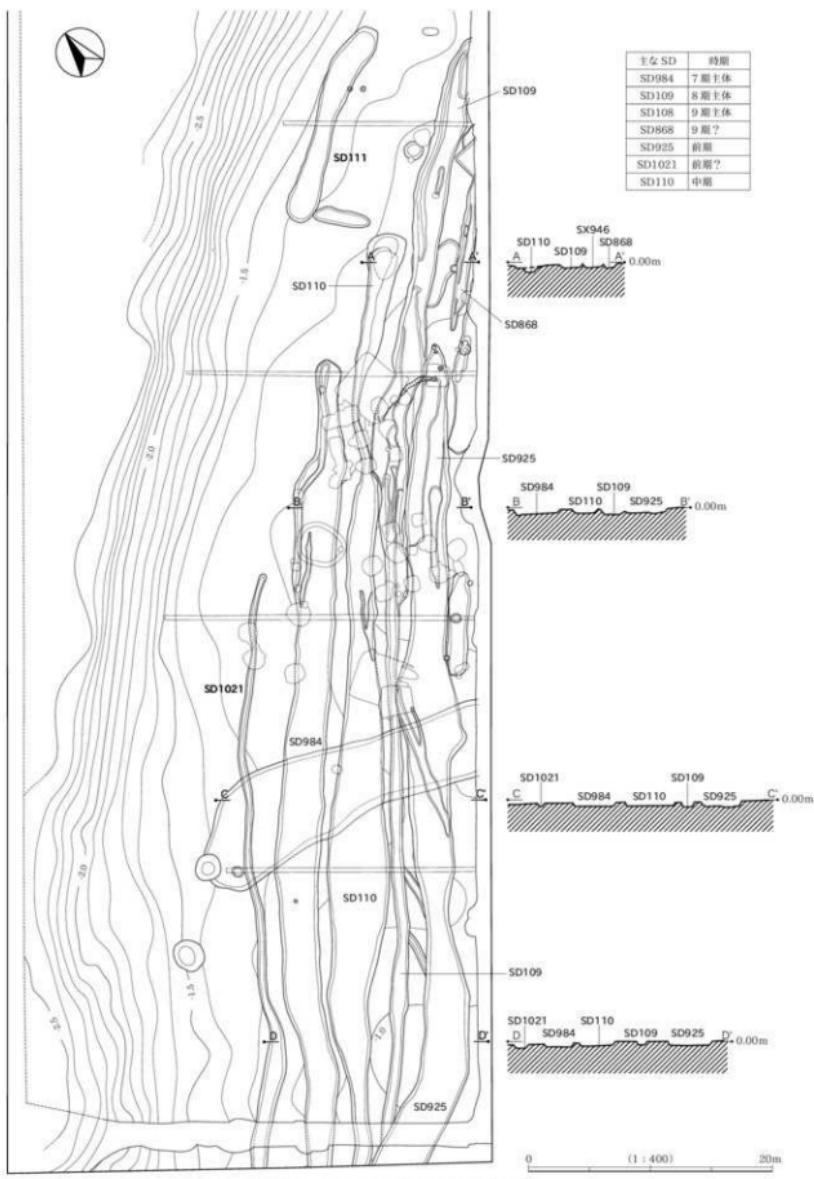
四十石遺跡の古墳時代は、新潟シンボル5期に始まる。遺構は7期以降のものであり、8・9期が中心である。その後一時的にこの空間から痕跡が消えるが、漆町12・13群並行期に再び現れる。竪穴住居の可能性があるSK942が存在するものの、それ以外に建物等は確認されておらず、溝が主体である（第48図）。溝は、地形に沿ってつくられた長大なものであり、何本も走るという特異な様相をみせるが、切りあい関係・時期の違いがあることから、同じ機能をもちながらつくりかえを行なっていたと思われる。この溝の性格は不明であるが、集落本体はこの東側に存在すると思われ、集落と水際との間に存在するところが注目される。

このころの周辺の遺跡は、2つの地域的なまとまりが捉えられている（相田2005）。ひとつは信濃川河口付近の砂丘であり、もうひとつは角田・弥彦山麓を中心とした矢川流域である。それぞれ、一定量の遺物が出土し、そこの首長の墓と思われる古墳が存在する。前者に存在する緒立遺跡・的場遺跡は、新潟シンボル5期に出現し8期あたりで衰退する。緒立遺跡は竪穴住居や墓の可能性がある円形周溝遺構が検出され、遺物の出土量も多いことから、的場遺跡と合わせて拠点的な集落であったことが推測される。古墳は葺き石をもつ円墳で、造営は7・8期とされる。外来系の土器も多様で、北陸・東海・近江・畿内・山陰系の土器がみられる他、ヒスイ製の勾玉も出土している。一方、後者に存在する大沢遺跡B'地区・南赤坂遺跡・御井戸遺跡は、大沢遺跡がB'地区は1～5期、南赤坂遺跡が7期～漆町12群並行期、御井戸遺跡が1期～漆町15群並行期とそれぞれ異なるが、捉えられ（相田2004）。地域としてみた場合、かなり長い消長を示す。前者と異なる様相である。これらの遺跡では竪穴住居（大沢遺跡B'地区・南赤坂遺跡）や平地式住居（御井戸遺跡）が検出されており、一定規模の集落がいくらかの断絶があるもののずっと存在していたことが窺える。外来系の土器も北陸・東海・近江・畿内・山陰系の他、南赤坂遺跡・御井戸遺跡では続縄文土器など北方系の土器も出土しており、この地域の特徴となっている。このような中で、本遺跡は2つの地域の中間的な位置にあり、両地域との共通点も多い。低湿地に囲まれた砂丘上に立地し新潟シンボル5期ころに現れるという点では前者と共に、中期にも一定の活動がみられるという点では後者と共に。さらに、外来系土器の多様さも両者に似ており、両地域で少量出土している布留系甕が、本遺跡は20点前後出土していることは注目される。3者の位置関係が示すように、本遺跡は両地域ともに関係があったと思われるが、その関わり方やこの時期の首長（古墳の運営主）の支配領域における位置づけが今後の課題となろう。

B 奈良・平安時代

ここでは、奈良・平安時代における遺構や遺物の様相を整理し、その位置づけを行いたい。遺跡の変遷を第49図に示した。春日編年VI期はあたる遺構がはっきりしないが、土器の出土量から遺構の存在が推定され、調査区外に期待できる。今回の調査は対象が遺跡の一部であることと事実確認に不備もあると思われるため、本遺跡の変遷について明確な段階設定を行っていない。しかし、遺構が集中する調査区中央部をみると、空間利用の仕方は住居→倉庫群→墓の変遷を認めることができる。以下、遺物の出土状況も合わせてみることにする。

本遺跡の古代における始まりは8世紀の初頭である。このころの遺構はほとんど確認されていないが、「秋」と墨書きされた須恵器杯蓋が出土しており、識字層の存在が想像される。遺構がはっきりした姿を現すのは春日編年III2期である。建物では、その可能性があるSX100を含め竪穴住居が2棟検出されているが、この時期の明確な掘立柱建物は確認されておらず、竪穴住居が主体の段階と考えられる。竪穴住居は正方形に近い。土器は、食膳具・貯蔵具は須恵器、煮炊具はロクロ未使用・ハケメ主体の土師器長甕が中心あり平底が多い。他に東北系の特徴をもつ土器や系譜不明の内面ミガキの土師器杯が出土している。また、わずかではあるがロクロ使用の痕跡（カキメ）をみるハケメ主体の丸底長甕が少量出土している。その後、V期まで調査区内では竪穴住居が確認されないが、竪穴住居がまったく存在しなかったとは考えられにくことから、竪穴住居と掘立柱建物の共存があったと思われる。中央エリアでみると、少なくとも3段階の変遷がみられる。竪穴住居の廃絶後、一般集落でもみられる規模の掘立柱建物の建て替えが2回あり、その後、官衙的な特徴をもつ倉庫群がつくられる。建



春日編年 (1999)	Ⅳ (8c初頭～前葉)		Ⅴ (8c後葉～9c初頭)			Ⅵ (9c前葉～中葉)		Ⅶ (9c後半～10c終末)	
	Ⅳ-1	Ⅳ-2	Ⅴ-1	Ⅴ-2	Ⅴ-3	Ⅵ-1	Ⅵ-2	Ⅵ-3	
空間利用		----- (正方形) ----- ↓ 掘立柱建物			竪穴住居	(長方形) ----- ↓ 草造営			
建物	東		←-- SB2001 --→			←-- SB2008 --→			P21
	中央	SI307 SX100	SB2002 → SB2003 → SB2004 ←-- SB2009 --→ SB2005 ←-- SA3001 --→ SB2006	SX71			SI246		
	南	SK825			SB2007				
ロクロ未使用・ハケメ (平底土器・丸底少)									
土器部		ロクロ使用・ハケメ主体 ↓ 東北系土器 内面ミガキ無台形			ロクロ使用・カキメ			無白糊	
須恵器		胎土A群・B群		(胎土D群・E群)	胎土C群				
その他		「秋」墨書き器			銅製腰帶具 ↓ 銅製品生産?			「津」墨書き器	

第49図 古代集落の変遷

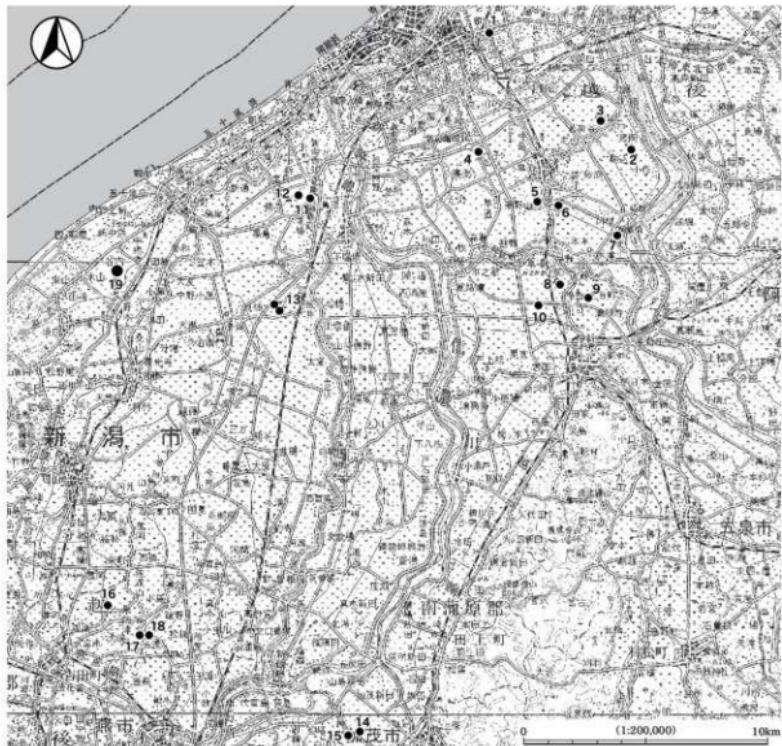
物の軸筋は、地形に合わせたものから、方位を意識したものに変化しているようである。そして、その次の段階は、墓が造られる。この時期の土器は前時期と同じように須恵器の食膳類・貯蔵器、ロクロ未使用ハケメ主体の煮炊具にカキメがしっかりとみられるロクロ使用の壺類も一定量存在する。また鍋や短胴壺が出土しており、土器には、胎土に砂を多量に含んだハケメ調整の西古志タイプの鍋もみられる。土器以外では、銅製の腰帶金具がほぼ一条分出土しており、官人の存在が推測できる。次のV期にかけては遺構・遺物ともに少ないが、これは調査区内に墓が存在し、住空間が少ないためとも考えられる。V期で長方形の竪穴住居がみられ、この時期の確実な掘立柱建物は確認できていないが、引き続き掘立柱建物も存在していたと思われる。注目されるのは、この竪穴住居から銅系のあるガラス質滓が出土していることである。本遺跡では、この他に銅系滓が付着したが壁が2点(図版69-490・491)出土しており、銅製品の生産に関係していたことが考えられる。当時(律令期)の鉄関係手工業は官衙から拠点村落に至る広い範囲で行われていたようであるが、「銅器とガラス器生産は、遺跡の格も操業年代も極めて限られた存在であった」(宇野1996)ことから、遺跡の性格を考える上で重要である。VI期の確実な建物は捉えられていないが、「津」が墨書きされた土器が不確実なものも含めて3点出土していることから、それを示す遺構の存在は十分考えられる。今回、年代付与を避けたSB2008とVI期と捉えられるP21との関係は今後の課題である。遺物は土器が食膳類・煮炊具を中心して一定量出土しているが、墨書き土器以外、特にこの遺跡を特徴づけるものは出土していない。

当時の蒲原郡に属すると思われる周辺の主要な遺跡(第28表)をみると、古代において本遺跡より早い段階で出現しているのは新潟市上浦遺跡や燕市大橋遺跡・三角田遺跡などである。いずれも内陸にあり、現況では地形がまったく読めない微高地に存在している。遺構・遺物とともに一定量あることから拠点集落と捉えられる。大橋遺跡・三角田遺跡は本遺跡と同じ西川流域にあり、8世紀前半にピークがある。遺構は竪穴住居の可能性があるものが検出されているが、掘立柱建物が多い。地面を掘り込む竪穴住居がほとんどみられないのは、低湿な環境であるためかもしれない。また、土器では本遺跡と同じころに東北系の特徴をもつ土器が大橋遺跡・三角田遺跡で出土しているのが注目される。大橋遺跡では8世紀前半と捉えられる銅製腰帶具がみられることから、少なからず律令支配の関わりがあったと考えられる。両遺跡はピーク以降廃絶あるいは衰退に向かい、9世紀にはほとんどその姿をとどめない。これと前後して信濃川河口付近には的場遺跡・緒立遺跡が出現する。両遺跡は一

第28表 周辺遺跡の様相

遺跡名	主な構築物	主要遺物	ト テ	遺跡主張 削除・修復等	生産・生活	特殊遺物 (鉄骨当り)	祭祀・(神社信仰)	備考	文献
1 山内 古墳	BC 前半～10C 前半 集落	獨立社建物 竪穴式住居 井戸 土坑 墓	和輪内器 灰陶器 瓦底器 漆器 鐵器 金銀器 黑色土器	基房主上 「削除」 「付」 131点 「付」 「付」 「付」 「付」	上耕 ツイゴの 日本 御手 有	石製鋤等 石器 灰陶 金銀 漆器	石製鋤等 石器 灰陶 金銀 漆器	基房「寺」	カマド型土製品 渾山 2004
2 芝山古 墳	BC～9C 後半	独立社建物 井戸	—	—	—	—	—	—	円筒状土製品 野川 1997
3 小山 古墳	BC 後半～10C 後半 集落	獨立社建物 井戸 土坑 墓 鐵器 金銀器 黑色土器	和輪内器 灰陶器 瓦底器 漆器 鐵器 金銀器 黑色土器	基房主上 「削除」 「付」 「付」 「付」 「付」 「付」	上耕 ツイゴの 日本 御手 有	石製鋤等 石器 御手	月戸祭祀 (金市・喜・鹿)	—	小堀邦弘 1995
4 箕輪 古墳	BC 全般 集落	獨立社建物 井戸 土坑 墓 鐵器 金銀器 黑色土器	和輪内器 灰陶器 瓦底器 漆器 鐵器 金銀器 黑色土器	基房主上 「削除」 「付」 「付」 「付」 「付」 「付」	上耕 ツイゴの 日本 御手 有	ツイゴの 日本 御手	「足羽田」「農人」 木彫	月戸祭祀 (木彫) 月戸祭祀 (木彫) 月戸祭祀 (木彫)	西山脚に立柱 建物 浅澤まさみ 2009
5 日本 古墳	9C 後半～10C 前半 集落	獨立社建物 竪穴式住居 井戸 土坑 墓 鐵器 金銀器 黑色土器	和輪内器 灰陶器 瓦底器 漆器 鐵器 金銀器 黑色土器	基房主上 「削除」 「付」 「付」 「付」 「付」 「付」	上耕 ツイゴの 日本 御手 有	ツイゴの 日本 御手	—	月戸祭祀 (刀子・灰陶)	圓形土器 今月 2007
6 今庭 古墳	BC 第三四十年 前半 生产・流通 祭祀	獨立社建物 井戸 土坑 墓 鐵器 金銀器 黑色土器	和輪内器 灰陶器 瓦底器 漆器 鐵器 金銀器 黑色土器	基房主上 「削除」 「付」 「付」 「付」 「付」 「付」	—	—	—	月戸祭祀 (刀子・灰陶) 月戸祭祀 (刀子・灰陶) 月戸祭祀 (刀子・灰陶)	月戸から転換 物遺体 上橋 1999
7 今井 古墳	BC 後半～10C 前半 集落	獨立社建物 竪穴式住居 井戸 土坑 墓 鐵器 金銀器 黑色土器	和輪内器 灰陶器 瓦底器 漆器 鐵器 金銀器 黑色土器	基房主上 「削除」 「付」 「付」 「付」 「付」 「付」	上耕 ツイゴの 日本 御手 有	ツイゴの 日本 御手	—	—	上野・今井 1997
8 桂 古墳	BC～10C 鋼 集落	獨立社建物 井戸 土坑 墓 鐵器 金銀器 黑色土器	灰陶器 灰陶器 瓦底器 漆器 鐵器 金銀器 黑色土器	基房主上 「削除」 「付」 「付」 「付」 「付」 「付」	上耕 ツイゴの 日本 御手 有	ツイゴの 日本 御手	月戸祭祀 月戸祭祀 月戸祭祀 月戸祭祀 月戸祭祀 月戸祭祀	仏跡形土器(上耕部) 木製品 竹器(瓶)	大木・野瀬 2003 細田昭一 2003 中村邦志 2004 細田 2006
9 今井 古墳	BC～10C 鋼 集落	獨立社建物 井戸 土坑 墓 鐵器 金銀器 黑色土器	和輪内器 灰陶器 瓦底器 漆器 鐵器 金銀器 黑色土器	基房主上 「削除」 「付」 「付」 「付」 「付」 「付」	上耕 ツイゴの 日本 御手 有	ツイゴの 日本 御手	—	月戸祭祀(赤串) 月戸祭祀 月戸祭祀(土器部) 月戸祭祀(土器部) 月戸祭祀(土器部) 月戸祭祀(花今)	山川田・星野 1994 星野 1996 細田 2002 山川田 2003 大木・野瀬 2005 大木・野瀬 2008
10 今井 古墳	7C 後半～10C 前半 集落	獨立社建物 井戸 土坑 墓 鐵器 金銀器 黑色土器	和輪内器 灰陶器 瓦底器 漆器 鐵器 金銀器 黑色土器	基房主上 「削除」 「付」 「付」 「付」 「付」 「付」	上耕 ツイゴの 日本 御手 有	ツイゴの 日本 御手 有	石製鋤等 丹波陶 木文陶 火焔纹 火焰纹 火炎纹	仏跡形土器(上耕部) 奈良二様小壺	円筒状土製品 川上 1997
11 安政 古墳	9C 前半	獨立社建物 井戸 土坑 墓 河川(麻績糸跡・柱跡)	和輪内器 灰陶器 瓦底器 漆器 鐵器 黑色土器	基房主上 「削除」 「付」 「付」 「付」 「付」 「付」	上耕 ツイゴの 日本 御手 有	ツイゴの 日本 御手 有	石製鋤等 丹波陶 木文陶 火焔纹 火焰纹 火炎纹	奈良 壁状	伊藤 2001
12 越前 古墳	BC 中葉～10C 前半 山手 古面面通鑿跡 木松原 河川	獨立社建物 井戸 土坑 墓 鐵器 金銀器 黑色土器	和輪内器 灰陶器 瓦底器 漆器 鐵器 金銀器 黑色土器	基房主上 「削除」 「付」 「付」 「付」 「付」 「付」	上耕 有石 ツイゴの 日本 御手 有	石製鋤等 石器 灰陶 金銀 漆器	漆器・石製鋤等 漆器・石製鋤等 漆器・石製鋤等 漆器・石製鋤等 漆器・石製鋤等 漆器・石製鋤等	奈良・刀子形・角形 月戸祭祀(刀子)	管状土製品 伊藤 2005
13 朝 神 古墳	BC 前半～10C 前半 集落 古面面通鑿跡	獨立社建物 井戸 土坑 墓 鐵器 金銀器 黑色土器	和輪内器 灰陶器 瓦底器 漆器 鐵器 金銀器 黑色土器	基房主上 「削除」 「付」 「付」 「付」 「付」 「付」	上耕 ツイゴの 日本 御手 有	ツイゴの 日本 御手 有	石製鋤等 石器 金銀 漆器	水辺の祭祀(赤串・ 人頭・舟形・馬形・ 刀子形・火炎形・ 火焰形)・ 仏跡形土器(土耕部)	多島の舟形 多島の舟形 カマド
14 越 神 古墳	BC 前半～9C 前半 古面面通鑿跡	獨立社建物 井戸 土坑 墓 鐵器 金銀器 黑色土器	灰陶器 灰陶器 瓦底器 漆器 鐵器 金銀器 黑色土器	基房主上 「削除」 「付」 「付」 「付」 「付」 「付」	上耕 ツイゴの 日本 御手 有	ツイゴの 日本 御手 有	石製鋤等 石器 木舟 木舟 漆器	水辺の祭祀(赤串・ 人頭・舟形・馬形・ 刀子形・火炎形・ 火焰形)・ 仏跡形土器(土耕部)	カマド 合木山 1983 遠澤まさみ 1994
15 朝 日 古墳	9C 前半 9C 後半～9C 第2 阶段	獨立社建物 井戸 土坑 墓 鐵器 金銀器 黑色土器	和輪内器 灰陶器 瓦底器 漆器 鐵器 金銀器 黑色土器	基房主上 「削除」 「付」 「付」 「付」 「付」 「付」	上耕 有石 ツイゴの 日本 御手 有	ツイゴの 日本 御手 有	石製鋤等 石器 木舟 木舟 漆器	奈良 手づな土器 仏跡形土器(土耕部) 埋状土製品	圓形土器 UCCB 2000
16 佐藤 古墳	9C 後半 9C 前半	獨立社建物 井戸 土坑 墓 鐵器 金銀器 黑色土器	和輪内器 灰陶器 瓦底器 漆器 鐵器 金銀器 黑色土器	基房主上 「削除」 「付」 「付」 「付」 「付」 「付」	有石 ツイゴの 日本 御手 有	刀子 石器	石製鋤等 漆器	—	赤堀 2000
17 大盛 古墳	7C 後半～8C 前半 山手	獨立社建物 井戸 土坑 墓 鐵器 金銀器 黑色土器	和輪内器 灰陶器 瓦底器 漆器 鐵器 金銀器 黑色土器	基房主上 「削除」 「付」 「付」 「付」 「付」 「付」	—	—	石製鋤等 漆器	奈良系土器 土管状土製品	奈良系土器 赤堀 2002
18 佐藤 古墳	— 9C 中心は8C 前半 山手	獨立社建物 井戸 土坑 墓 鐵器 金銀器 黑色土器	和輪内器 灰陶器 瓦底器 漆器 鐵器 金銀器 黑色土器	基房主上 「削除」 「付」 「付」 「付」 「付」 「付」	—	—	石製鋤等 漆器	奈良系土器 赤堀	奈良系土器 赤堀
19 内 古 墳	BC 前半～9C 前半 古面面通鑿跡	獨立社建物 井戸 土坑 墓 鐵器 金銀器 黑色土器	和輪内器 灰陶器 瓦底器 漆器 鐵器 金銀器 黑色土器	基房主上 「削除」 「付」 「付」 「付」 「付」 「付」	上耕 ツイゴの 日本 御手 有	ツイゴの 日本 御手 有	石製鋤等 刀子土器	仏跡形土器(黑底) 奈良系土器 本報告書	奈良系土器 赤堀

遠澤まさみ 2009) に加筆・修正



第50図 周辺の遺跡

体として捉えられ、的場遺跡は官営の漁撈・水産加工基地、隣接する緒立遺跡はその管理・執務を行っていた場所と考えられている（坂井 1996注）。四十石遺跡は、的場遺跡・緒立遺跡と立地が同じで規模も重なるが、成立時期がやや早い。この段階ではまだ律令支配の中で編成された一集落であったと思われるが、その後官衙に関連した機能をもつ集落へと変化する。それは8世紀の後半から9世紀であり、的場遺跡・緒立遺跡が官衙関連の集落として機能している時期でもある。一方、9世紀にはいると越後平野でも新しい有力者の低地への進出が活発になることが、遺跡の増大にみることができる。彼らは水面交通の利便な場所に居住地を定め、自給自足的な生産活動（農業・漁撈・鍛冶など）を基本とする一方で、官や中央の貴族と結びつくことも多かったが、官衙的機能を有することはほとんどない。この点で、四十石遺跡・的場遺跡・緒立遺跡とは異なり、性格の違いが窺われる。

四十石遺跡は官が関与する物資の集積地としてその役割を担っていたと考えられるが、そこには坂井氏のいう（坂井 1996）「北陸道を軸にした陸路と越後平野の水路による国府－八幡林遺跡－越後平野（的場遺跡・緒立遺跡－（蒲原津－）沼垂城－曾根遺跡）という頸城平野と越後平野の交通体系」の「整備」が背景としてあり、本遺跡は、そこに組み込まれた集落と考えられる。的場遺跡・緒立遺跡とともに蒲原低湿地帯における律令政治の要となっていたことは想像に難くない。

引用・参考文献

第Ⅰ～V・VI（第3節除外）

- ア 相田 泰臣 2004 「IV・3 古墳時代土器の編年的位置づけと御井戸遺跡の動向」「御井戸遺跡II」巻町教育委員会
- 相田 泰臣 2005 「趣旨説明・県内発表要旨 信濃川左岸地域の様相」「シンポジウム 新潟県における高地性集落の解体と古墳時代の出現（第1分冊）」新潟県考古学会
- 相田 泰臣・前山耕明 2011 「新潟市林付遺跡の調査」「新潟県考古学会第23回大会 研究発表会発表要旨」新潟県考古学会
- 相田泰臣・前山耕明 2003 「葛塙塚古墳・隼人塚古墳—2002年度確認調査の概要」巻町教育委員会
- 相田泰臣・前山耕明 2005 「葛塙塚古墳・隼人塚古墳II—2003年度確認調査の概要」巻町教育委員会
- 朝岡 政康 2008 「結七島遺跡 第13・15・17次調査—萩原駅東地区画整理事業に伴う結七島遺跡 7～9次発掘調査報告書—」新潟市教育委員会
- 阿部 義平 1976 「鉢帶と官位制について」『東北考古学の諸問題』東出版事業社
- 甘粕 健 1993 「古墳文化形成過程の新潟平野と会津盆地」「磐越地方における古墳文化形成過程の研究」研究者グループ
- 甘粕 健 1994 「古墳時代」「巻町史 通史編上巻」巻町
- 甘粕 健・小野 昭 1993 「越後山谷古墳」巻町教育委員会
- 甘粕 健・古川知明 1981 「大沢遺跡B」「B地区の調査概報」巻町・湯束村教育委員会
- イ 飯坂勝彦 2002 「一般国道7号中条・須川バイパス関係発掘調査報告書 箕郷坪遺跡」新潟県埋蔵文化財調査報告書第115集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 家田朝一郎 1976 「北條高自駆車道 理賀文化財発掘調査報告書 茶院遺跡」新潟県埋蔵文化財調査報告書第5 新潟県教育委員会
- 石川智紀 1994 「磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡I (A地区)」新潟県埋蔵文化財調査報告書第58集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 伊藤 秀和 2001 「鬼倉遺跡—国道403号線改良工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—」加茂市教育委員会
- 伊藤 秀和 2005 「馬越遺跡—国道403号線改良工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—」加茂市教育委員会
- 諫山ひかり 2004 「新潟市山木戸遺跡 マンション等建設予定地内発掘調査報告書」新潟市教育委員会
- 今井さやか 2007 「日水遺跡 第3次調査—鶴田七地区画整理事業に伴う日水遺跡発掘調査報告書—」新潟市教育委員会
- ウ 植田 真也 2003 「結七島遺跡発掘調査報告書目録」新潟市教育委員会
- 上原甲子郎 1971 「上ノ原遺跡緊急調査事業報告書」巻町・湯束村教育委員会
- 宇野 隆夫 1994 「越における律法の生産構造の展開」「とく代の北陸」古代王権と交流3 名著出版
- ト 卜部厚志・高瀬信行 2002 「新潟平野・西蒲原における古文時代中期の古墳群」「新潟考古」第13号 新潟県考古学会
- エ 江口友子 2000 「北條自動車道堀場ハイキングエリア改良工事関係発掘調査報告書「駿遊塚遺跡」」新潟県埋蔵文化財調査報告書第100集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- オ 岡本 郁栄 2007 「人類遺跡から見た佐渡周辺の砂丘形成期と内陸部の砂丘埋没期の上限」「平成17年度新潟市「佐渡学術研究奨励補助金」研究結果報告書」新潟市
- 岡本 一祐 1995 「福井県の奈良・平安時代の墓制について」「東日本における奈良・平安時代の墓制—墓制をめぐる諸問題—」東日本埋蔵文化財研究会
- 小田由美子 2006 「上信越自動車道関係発掘調査報告書XII」南古寺跡群・大賀古跡群「新潟県埋蔵文化財調査報告書第149集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小野 昭 1994 「新潟遺跡」「カチ子塚遺跡」「巻町史」資料編1考 古代・巻町
- 小野 昭 1982 「大沢遺跡、II・III第3次調査概報」新潟大学考古学研究室
- 小野 昭・熊博史 1987 「巻町布日遺跡の調査」「巻町史研究」III巻町
- 小野 昭・前山耕明 1988 「巻町豊原遺跡の調査」巻町
- カ 柿田 祐司 1995 「石川県の奈良・平安時代の墓制について」「東日本における奈良・平安時代の墓制—墓制をめぐる諸問題—」東日本埋蔵文化財研究会
- 春日 真実 1995a 「新潟県の奈良・平安時代の墓制について」「東日本における奈良・平安時代の墓制—墓制をめぐる諸問題—」東日本埋蔵文化財研究会
- 春日 真実 1995b 「古代集落の展開」「研究記要」財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日 真実 1997 「雄雲バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡II」新潟県埋蔵文化財調査報告書第87集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日 真実 1999 「第4章 古代 第2節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』新潟県考古学会
- 春日 真実 2000 「第5章まとめ」「吉田町史」資料編1 考古・古代・中世 吉田町
- 春日真実 2004 「越後阿賀北地域の古代土器様相」新潟古代土器研究会
- 春日 真実 2005 「越後における奈良・平安時代土器編年の対応関係について—「今池編年」・「下ノ西編年」・「山三敷編年」の検討を中心にして—」『新潟考古』第16号 新潟県考古学会
- 春日 真実 2007 「越後における古代の炊煮具について」『新潟考古』第18号 新潟県考古学会
- 春日 真実 2009 「越後における古代立柱建物」「新潟県の考古学史」新潟県考古学会
- 加藤 学 2004 「新潟県域における北方系土器型式—事例紹介と問題提起—」「越後阿賀北地域の古代土器様相」新潟古代土器研究会

- 金子拓男^著 1983 「縄立道跡発掘調査報告書」 黒崎町教育委員会
- 亀田 博 1983 「跨帶と石帶」 関西大学考古学研究室開設30周年記念『考古学論叢』 関西大学考古学研究室
- 川上 貞雄 1997 「上浦A道跡 新津市工業団地第2期工事地内発掘調査報告書」 新津市教育委員会
- 川村 浩司 1989 「越後の古代集落の素描—道跡の類型とその展開—」『新潟考古学講話会会報』 新潟考古学講話会
- タ 黒田 直 1980 「近畿における8・9世紀の墳墓」『研究論叢VI』奈良国立文化財研究所学報(第38冊) 奈良国立文化財研究所
- 熊田亮介・坂井秀弥編 2006 『日本海城歴史体系 第2巻 古代篇II』 清文堂
- 小池邦明^著 1993 『新潟市の場跡—場の土地地区面積理事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 小池邦明・木間圭吉 1995 『新潟市小山丘道跡 直り山頂地建設事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 小池義人^著 1998 『上信越自動車道関係発掘調査報告書IV 涼川谷内道跡1』新潟県埋蔵文化財調査報告書第90集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小林 昌二 1996 「越地域におけるarkan分布の再検討」『越と古代の北陸』古代王権と交流3 名著出版
- 小林昌二・相沢 夷^著 2004 『新潟県内出土古代文字資料集成』 新潟県墨書き器検討会
- 小林 昌二 2010 「古代越後の蒲原、沼垂郡一新潟市内区の四十石道跡にふれて—」『新潟史学』第63号
- サ 佐藤 興治 1975 『新潟市京原町関係発掘調査報告書VII』 奈良国立文化財研究所学報23
- 佐藤 友子 2009 『北陸新幹線関係発掘調査報告書 XIII』一般国道8号線糸魚川東バイパス関係発掘調査報告書 IV 田伏山道跡』新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 坂井秀弥^著 1984 『上新バイパス関係道跡発掘調査報告書 I 今池道跡 下新町道跡 子安道跡』 新潟県埋蔵文化財調査報告書第35集 新潟県教育委員会
- 坂井 秀弥 1989 『第Ⅳ章まとめ 2奈良・平安時代の土器』『新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀日道跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第53集 新潟県教育委員会
- 坂井秀弥^著 1989 『新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀日道跡』 新潟県埋蔵文化財調査報告書第53集 新潟県教育委員会
- 坂井 秀弥 1996 「水辺の古代官道跡—越平野の内水面・舟運・漁業—」『古代王権と交流3 越と古代の北陸』名著出版
- 坂上 有紀 2003 「鶴越自動車道関係発掘調査報告書 上浦道跡」新潟県埋蔵文化財調査報告書第118集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 寒川 旭^著 1995 『鶴音寺道跡 県営広域農地農道整備事業及び宮瀬水防除事業に伴う発掘調査』中之島町埋蔵文化財調査報告書第1集 中之島町教育委員会
- シ 岩田 高志 1996 「新潟における鶴文時代後期中葉の土器群—三仏生式土器とその様相の把握にむけて—」『第9回鶴文セミナー—後期中葉の様相』 鶴文セミナーの会
- 上越市史編さん委員会 2003 『上越市 資料編2 古考』 上越市
- ス 鈴木俊成^著 2010 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XQ03I 西部越跡II』新潟県埋蔵文化財調査報告書第206集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- セ 関 雅之^著 1987 『京田・太星敷・日光羽道跡発掘調査概要—昭和61年度—』寺泊町教育委員会
- タ 高橋 保^著 2008 『一般国道116号 出雲崎バイパス関係発掘調査報告書 VI 寺前道跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第189集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋 勉 1984 「栗原道跡 第7次・第8次発掘調査報告書」 新井市教育委員会
- 高橋 勉 1989 「杉明道跡 発掘調査報告書」 新井市教育委員会
- 高橋 勉 1989 「平成4年度 新井市道跡確認調査報告書 杉明道跡 姫川原地区 猪崎城跡 宮ノ本道跡」 新井市教育委員会
- 高橋 勉 1993 「平成6年度 新井市道跡確認調査報告書 高柳道跡群 岡崎新田道跡群 藤塚新田道跡群 高床山道跡群」 新井市教育委員会
- 高橋保雄^著 2010 『一般国道49号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書 II 山口道跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第215集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 滝沢 規則 2005 「『越壁』—県内発表要旨 土器の分類と変遷』『シンポジウム 新潟県における高地性集落の解体と古墳時代の出現(第1分冊)』 新潟県考古学会
- 滝沢 規則 2007 「新潟県におけるカタキビ・布留式系縄について」『研究紀要』第5号 財团法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 田嶋 明人 1986 「考察—鳥居道跡出土土器の編年考察」『鳥居道跡I』 石川県埋蔵文化財センター
- 田嶋 明人 2008 「古墳確定立派土器の城編年」『石川県埋蔵文化財情報報』第20号 財团法人 石川県埋蔵文化財センター
- 田中 広^著 2004 『新潟県の古代港湾遺跡』『平成16年度 墓日本海交流史研究集会「古代日本海域の港と交流」発表要旨・資料集』 財团法人 石川県埋蔵文化財センター
- 田中 靖 1993 『八幡林道跡』和鳥村埋蔵文化財調査報告書第2集 新潟県和鳥村教育委員会
- 田中 靖 1994 『八幡林道跡』和鳥村埋蔵文化財調査報告書第3集 新潟県和鳥村教育委員会
- 田中 靖 2003 『下ノ西道跡』和鳥村埋蔵文化財調査報告書第14集 新潟県和鳥村教育委員会
- 田中 靖 2005 『八幡林道跡IV』和鳥村埋蔵文化財調査報告書第16集 新潟県和鳥村教育委員会
- 田村浩司^著 2009 『吉津川道跡II・安曲道跡』県営は堤整備事業吉津川地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書V 三条市文化財調査報告書第28号 三条市市民生活基盤学習課
- 田中 広明 2002 「腰帶具の変遷と諸問題」『縄帯をめぐる諸問題』 奈良文化財研究所
- 田中 広明 2003 「地方豪族と古代の宮人—考古学が傳社会の権力構造」KASHIWA学術ライブリー01 柏書房
- タ 立木宏明・澤野慶子^著 2003 『結七島道跡発掘調査報告書I』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子^著 2005 『沖ノ羽道跡発掘調査報告書II』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子^著 2008 『沖ノ羽道跡発掘調査報告書IV第15次調査 在宮園場整備事業(狙い手育成型)満日地区に伴う沖ノ羽道跡第15次発掘調査報告書』 新潟市教育委員会

- チ 出越 茂和 2002 「北陸（新潟・富山・石川・福井）『跨帶をめぐる諸問題』」奈良文化財研究所
寺村 光晴 1960 「越後六地山道跡」『上代文化』30 国学院大学考古学
ト 独立行政法人文化財研究所・奈良文化財研究所・飛鳥藤原宮跡発掘調査部編 2002 「腰帶具の変遷と諸問題』『跨帶をめぐる諸問題』奈良文化財研究所
土橋山理子 1999 「国道 49 号横浜バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ 牛道遺跡」新潟県埋蔵文化財調査報告書第 91 集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
ナ 中村孝三郎 1960 「西蒲原郡中野小屋村曾和弥生式六地山道跡」『日本考古学年報』9 日本考古学協会
ニ 新潟県古砂丘グループ 1979 「アーバックボタ 17」株式会社クボタ
新潟市国際文化部歴史文化課 2007 『新潟市史双書 2 新潟市の遺跡』新潟市
新潟市史編さん原始古代世史部会 1994 『新潟市史 資料編 I 原始古代世』新潟市
ノ 野水晃子ら 2005 「日本海沿岸東北自転車道関係発掘調査報告書X. 西川内北道跡 西川内南道跡」新潟県埋蔵文化財調査報告書第 146 集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
ヒ 東日本埋蔵文化財研究会 1995 「東日本における奈良・平安時代の墓制・埴制をめぐる諸問題ー」
廣野 精造 1997 「越山前道跡・神明社真瀬跡・城山道跡—鶴賀園場整備事業(先進技術導入モデル事業 亀田郷地区)に伴う平成 7 年度・平成 8 年度発掘調査報告書」新潟市教育委員会
廣野 精造 2000 「新潟市前田道跡・鶴賀かんかん排水事業に伴う発掘調査報告書」新潟市教育委員会
東日本埋蔵文化財研究会・南北海道考古学情報交換会 1997 「第 6 回 東日本埋蔵文化財研究会 遺物からみた律令国家と蝦夷—講演・究表要集ー」
フ 藤香 正信 1985 「北陸自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 宮野遺跡」新潟県埋蔵文化財調査報告書第 32 新潟県教育委員会
布施智也はるか 2000 「江添 E 道跡」吉田町文化財調査報告書第 7 集 吉田町教育委員会・山武考古学研究所
布施智也はるか 2002 「古北道跡・天神町城跡・館原敷跡・大橋道跡—吉田町米納津地内官営排水工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ー」吉田町文化財調査報告書第 9 集 吉田町教育委員会
布施智也はるか 2005 「小誠訪前 B 道跡・庚塚 E 道跡・森道跡—吉田町米納津地内鶴賀園場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ー」吉田町文化財調査報告書第 12 集 吉田町教育委員会
ホ 細野 高伯 2002 「沖ノ羽道跡発掘調査報告書」新潟市教育委員会
マ 山手 勅明 1994 「新谷道跡」(重稻荷道跡)「御井」遺跡「市町史」資料編 I 考古 卷町
前山精明・相田泰臣 2002 「南赤坂道跡—绳文時代前期～中期・古墳時代前期を主とする集落跡の調査ー」卷町教育委員会
前山精明・相田泰臣 2003 「御井」遺跡—I-2002 年度確認調査の概要ー」卷町教育委員会
前山精明・相田泰臣 2004 「御井」遺跡-II-2003 年度確認調査の概要ー」卷町教育委員会
松島 悅子 2001 「三角田遺跡—宮崎新荒井川排水路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ー」燕市埋蔵文化財発掘調査報告書第 1 集 燕市教育委員会・吉田町教育委員会
松村恵司・田中広明はるか 2002 「総合討議の記録」『跨帶をめぐる諸問題』奈良文化財研究所
水澤 幸一 2008 「磐舟櫻移修前後の北系石器・貯肉内市遺跡を中心にしてー」『多知波奈の考古学』
山口 栄一 1994 「山口県須原器窯跡」「前原窯跡」「市町史」資料編 I 考古 卷町
山崎忠良はるか 2008 「一般国道 253 号上越三和道路関係発掘調査報告書VI 延命寺道跡」新潟県埋蔵文化財調査報告書第 201 集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
山中敏史はるか 2003 「古代の官道跡」道跡編・独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所
山本 仁はるか 1983 「馬場道跡」新潟県佐渡郡相川町北片迢馬場道跡発掘調査報告書」相川町教育委員会
■ 吉田恵二 1982 「縫立八幡神社道跡」黒磯町教育委員会
吉村 光彦 2003 「中倉道跡 6・8・次・筑地原道跡 2 次 主要地方道中条紫雲寺改築工事に伴う発掘調査報告書Ⅲ」中条町埋蔵文化財報告書第 26 集 中条町教育委員会
ワ 渡邊 利朋 1992 「上浦道跡発掘調査報告書」新潟市教育委員会
渡邊 尚紀 1999 「小峯道跡」『財团法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成 10 年度』財团法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
渡邊ますみはるか 1994 「縫立 C 道跡発掘調査報告書」黒磯町教育委員会
渡邊ますみはるか 2009 「胸首周道跡 第 3・4 次調査—大型小売店舗建設に伴う胸首周道跡第 3・4 次発掘調査報告書ー」新潟市教育委員会
会

第 VI 章

- ア 新井 房夫 (1962) 関東盆地西部の第四紀編年、群馬大学紀要自然科学編、10, p.1-79.
安藤 一男 (1990) 深水産業による環境指標種群の設定と古環境復原への応用、東北地誌、42, p.73-88.
イ 伊藤良水・堀内誠示 (1991) 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用、珪藻学会誌、6, p.23-45.
池田晃子・奥野 光・中村俊夫・筒井正明・小林哲夫 (1995) 南九郷、始良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砂流中の成化樹木の
加速器質量分析法による 14C 年代、第四紀研究、34, p.377-379.
オ 大池 昭二 (1972) 十和田火山東麓における完新世テフラの編年、第四紀研究、11, p.232-233.
カ 金原 正明 (1993) 花粉分析法による古環境復原、新版古代の日本第 10巻古代資料研究の方法、角川書店、p.248-262.
笠原 安夫 (1985) 日本藻類図説、義賀堂、494p.
笠原 安夫 (1988) 作物および田植養殖類、金園・旭・佐原 真編「弥生文化の研究 第 2巻 生業」、雄山閣出版、p.131-139.
コ 小杉 正人 (1986) 陸生珪藻による古環境解釈とその意義—わが国への導入とその展望—、植生史研究、No.1, 植生史研究会,
p.29-44.
小杉 正人 (1988) 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用、第四紀研究、27, p.1-20.
近藤鉢三・佐瀬 隆 (1986) 植物珪酸体、その特性と応用、第四紀研究、25, p.31-63.

- シ 島倉三郎 (1973) 日本国植物の花粉形態。大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集, 60p.
- ス 杉山真二・藤原宏志 (1986) 機動細胞壁形態の形態によるタケアシ植物の同定—古環境推定の基礎資料として—。考古学と自然科学, 19, p.69-84.
- 杉山 真二 (1999) 植物珪酸体分析からみた九州南部の照葉樹林発達史。第四紀研究, 38, p.109-123.
- 杉山 真二 (2000) 植物珪酸体(ブラント・オパール), 订一郎編「考古学と植物学」, 同文社, p.189-213.
- ナ 中村 純 (1967) 「花粉分析」, 古今書院, p.82-110.
- 中村 純 (1974) イネ科花粉について。とくにイネ (*Oryza sativa*)を中心として。第四紀研究, 13, p.187-193.
- 中村 純 (1977) 稲作とイネ花粉。考古学と自然科学, 第10号, p.21-30.
- 中村 純 (1980) 日本産花粉の標微。大阪自然史博物館収蔵目録第13集, 91p.
- フ 藤原 宏志 (1976) ブラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法—。考古学と自然科学, 9, p.15-29.
- 藤原宏志・杉山真二 (1984) ブラント・オパール分析法の基礎的研究(5) —ブラント・オパール分析による水田址の探査—。考古学と自然科学, 17, p.73-85.
- マ 町田 洋・新井房夫 (1976) 広域に分布する火成灰—始良Tn 火成灰の発見とその意義—。科学, 46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広 (1981) 日本海を渡ってきたテフラ。科学, 51, p.562-569.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火成灰アトラス。東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫 (2003) 新編火成灰アトラス。東京大学出版会, 336p.
- 松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史郎 (1987) 始良 Tn 火成灰(AT) の¹⁴C 年代。第四紀研究, 26, p.79-83.
- ム 村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村 真・安田尚登・平 朝彦 (1993) 四国ビストンコア試料を用いた AT 火成灰噴出年代の再検討—ターンデトロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の¹⁴C 年代。地質雑誌, 99, p.787-798.
- ワ 渡辺 仁治 (2005) 群集解析に基づく河川指數 DALPO, pH 耐性等。淡水生藻生態園。内田老鶴園, 666p.
- ヒ Hayakawa,Y. (1985) Pyroclastic geology of Towada volcano. Bull.Earthq.Res.Inst.Univ.Tokyo, 60, p.507-592.
- ル Lowe,R.L. (1974) Environmental Requirements and pollution tolerance of fresh water diatoms. National Environmental Research Center, 333p.
- ### 第VII章 第3節
- イ 池田 次郎 (1981) 出土火葬骨について。奈良県立橿原考古学研究所編, 太安万朝記。pp.79-88.
- 猪井剛・吉野峰生・瀬田季茂 (1994) ヒと各種動物の長骨粗織像の顕微 X 線学的研究とその法科学的応用。科学警察研究所報告科学編, 47: 92-101.
- サ 澤田純明・奈良貴史 (2007) 芝巻市高木中館跡出土骨片の骨組織形態学的検討。岩手考古学, 19: 107-112.
- 澤田純明・奈良貴史・中嶋友文・齊藤慶一・百々幸雄・平田和明 (2010) 骨粗織形態学的方法による骨小片の人獣鑑別: 東北北部の平安時代遺跡から出土した焼骨の分析。Anthropological Science (Japanese Series), 118: 23-36.
- ナ 奈良貴史・澤田純明 (2007) 微小骨片の古組織学的検討による動物種類の同定—岩手縣中館跡出土骨片の分析—。東北大學文獻研究科考古學研究室・須藤隆先生追念記念論文集刊行会編。考古學叢書。六一書房。東京。pp.467-476.
- ヤ 山口 敏 (1983) 出土人骨についての分析。竜ヶ池観音堂塚群発掘調査報告書。小千谷市教育委員会, pp.207-224.
- 日本 勝一 (1993) 法医歯科学(第6版)。医歯薬出版。東京。
- シ Cattaneo C., DiMartino S., Scal S., Craig O.E., Grandi M., and Sokol R.J. (1999) Determining the human origin of fragments of burnt bone: a comparative study of histological, immunological and DNA techniques. Forensic Science International, 102:181-191.
- Currey J.D. (1960) Differences in the blood-supply of bone of different histological types. Quarterly Journal of Microscopical Science, 101, 351-370.
- E Enlow D.H. and Brown S.O. (1956-1958) A comparative histological study of fossil and recent bone tissues, Pt I-III. The Texas Journal of Science, 8:405-443, 9:186-214, 10:187-230.
- H Harsányi L. (1993) Differential diagnosis of human and animal bone. In: Grupa G. and Garland A.N. (eds.) Histology of Ancient Human Bone: Methods and Diagnosis. Springer, pp.79-94.
- Hillier M. and Bell I.S. (2007) Differentiating human bone from animal bone: a review of histological method. Journal of Forensic Sciences, 52:249-263.
- J Jowsey J. (1966) Studies of Haversian systems in man and some animals. Journal of Anatomy, 100:857-864.
- M Mays S. (1998) Cremated bone. The Archaeology of Human Bones. Routledge, London, pp.207-224.
- N Nelson R. (1992) A microscopic comparison of fresh and burned bone. Journal of Forensic Sciences, 37:1055-1060.
- Nicholson R.A. (1993) A morphological investigation of burnt animal bone and an evaluation of its utility in archaeology. Journal of Archaeological Science, 20:411-428.
- R Ricqlès A. (1975-1978) Recherches paléohistologiques sur les os longs des rongeurs. Annales de Paléontologie, 61:51-129, 62:711-126, 63:33-56, 64:85-111.
- S Shipman P., Foster G., Schoeninger M. (1984) Burnt bones and teeth: an experimental study of colour, morphology, crystal structure and shrinkage. Journal of Archaeological Science, 11:307-325.

別表1 進構一覧表

- 凡一 開 開 始 名
記載順は、SI→SE→SW→SD→SA→SX→Pとし、さらにその種別ごとに番号を割り当てる。
2. 時 代
3. 下層方 向
4. 平面形・複雑度
- 開口部の位置を特定する時は大まかに分けて、複雑度の詳細な項目については本文中に示した。
空間方位は、壁立柱建物・溝状通路等、必要と思われるもののみ記載した。
上層・下層について記載した。穴の場合は取り扱いがあり、直前にあらわす柱等は対象としていない。複雑度については、先に複雑度を記載した。(左)は平行、(右)は垂直の複雑度である。
長方形が大きめで、短方形が小さい。

5. 断面形・深度
6. 切り合ひ・復縫
7. その他

断面形はセクション1上の状況を基本とし、深度は上層の最大高さと底面の最小高さの差である。
切り合ひ・復縫を記載し、本通路が右の通路を(左)、本通路を右の通路を(右)で表示した。
表中の()は確定、あるいは既存地である。

主要進構一覧表(上層)

開拓番	通路名	グリッド	複雑度	古代	主導方位	複雑度(m)				複雑度	深度	底面	壁面	切	切り合ひ・復縫	沿工	通路因数	備考		
						上 层		下 层												
5-13-14-16	SI246	1239	V 上層	N-33°-W	平面形	4.60	4.00	平面形	4.27	-	-	0.28	-1.49	1.4		○	44-68			
	SI246-P499	1238	V 上層	-	不規則形	0.53	0.53	楕円内角形	0.53	0.19	台形	0.51	-1.65	1.6	SI246(新)					
	SI246-P500	1237	V 上層	古代	楕円形	0.66	0.56	楕円内角形	0.38	0.33	台形	0.45	-1.78	4						
	SI246-P548	1238-13	V 上層	-	楕円形	0.48	0.40	不規則内角形	0.30	0.34	U字形	0.33	-1.71	3	SI246(新)					
	SI246-SK361	1236-7	V 上層	-	不規則方形	0.69	0.67	方形	(0.42)	(0.37)	直角形	0.24	-1.57	3	SI246(新)					
5-12-13-17-第7回	SI307	108-2	V 上層	N-78°-E	方形	4.44	4.23	方形	4.46	4.25	-	0.24	-1.67	11	SI2002-PS31(既), SI2003-P99-113-119-122-123-128-130-524(既), SI2004-P303-410(既), SD61-62-70-106(既), SK91(既), PS36-829-830-869-885-890-891(既), PM6-171(既)	○	44-68			
	SI307-P628	108-14	V 上層	古代	- 不規則形	0.29	0.27	不規則形	0.13	0.12	U字形	0.34	-1.67	2	SI307(既)					
	SI307-P606	10810	V 上層	-	楕円形	0.43	0.37	楕円内角形	0.20	0.19	-	0.13	-1.49	3	SI307(既)					
	SI307-P601	10815	V 上層	- 不規則形	0.31	0.29	不規則内角形	0.17	0.15	直角形	0.12	-1.55	2	SI307(既)						
5-12-18	SI2001	9%	V 上層	N-45°-W	-	-	(第3.18)	-	-	-	-	-	-	-				第3.18回		
	SI2001-P43	0913	V 上層	-	方形	0.43	0.40	不規則形	0.33	0.31	不規則形	0.40	-1.63	4		○				
	SI2001-P44	0913-18	V 上層	-	方形	0.40	0.39	方形	0.31	0.25	不規則形	0.43	-1.67	5	P664(既)	○				
	SI2001-P47	0917	V 上層	-	方形	0.45	0.41	方形	0.32	0.26	不規則形	0.52	-1.74	3		○		44		
	SI2001-P49	0912	V 上層	-	楕円内角形	0.49	0.43	不規則丸形	0.30	0.25	不規則形	0.56	-1.78	4	P566(既)	○				
5-12-19	SI2001-P7	09-8	V 上層	古代	- 方形	0.50	0.45	不規則丸形	0.35	0.38	不規則形	0.49	-1.72	3		○				
	SI2001-P52	0911	V 上層	-	方形	0.45	0.42	不規則内角形	0.29	0.25	不規則形	0.62	-1.82	3		○				
	SI2001-P53	0916	V 上層	- 不規則形	0.41	0.40	不規則形	0.28	0.26	不規則形	0.31	-1.55	3		○					
	SI2001-P54	0911	V 上層	-	方形	0.50	0.45	方形	0.42	0.30	不規則形	0.63	-1.76	2		○				
	SI2001-P57	0916	V 上層	- 不規則形	0.48	0.45	方形	0.32	0.29	不規則形	0.46	-1.69	3		○					
5-12-13-19	SI2002	10-1	V 上層	N-28°-W	不規則内角形	0.53	0.50	直角形	0.32	0.32	直角形	0.40	-1.79	6	SD70(新)			初期×2回		
	SI2002-P98	1011	V 上層	-	不規則形	0.46	0.45	不規則形	0.24	0.22	直角形	0.44	-1.62	4		○				
	SI2002-P122	10114-15	V 上層	-	楕円内角形	0.57	0.55	楕円内角形	0.25	0.25	U字形	0.60	-1.70	6	SI307(既)					
	SI2002-P147	1016-7	V 上層	-	直角形	0.55	0.52	直角形	0.32	0.30	不規則形	0.59	-1.60	4		○				
	SI2002-P155	10112	V 上層	-	直角形	0.80	0.77	直角形	0.32	0.27	不規則形	0.60	-1.64	6	P908(既)	○				
5-12-13-19	SI2002-P168	1015	V 上層	古代	不規則形	0.40	0.35	不規則内角形	0.10	0.09	不規則形	0.25	-1.43	3		○				
	SI2002-P245	1009	V 上層	- 方形	0.68	0.60	方形	0.50	0.45	不規則形	0.65	-1.79	7	SD70(新)						
	SI2002-P250	10010	V 上層	-	(不規則内角形)	-	0.38	(内角)	-	-	(内角)	0.15	0.13	U字形	0.55	-1.67	5	SI2003-P113(既)		
	SI2002-P259	10111-12	V 上層	-	(方角)	-	-	(内角)	-	-	(内角)	0.28	-1.22	2		○				
	SI2002-P331	10420	V 上層	-	内角形	0.28	0.28	内角形	0.14	0.14	U字形	0.22	-1.41	2	SI307(既), SI2004-P410(既)	○				
5-12-13-19	SI2002-P301	1011	V 上層	- 不定形	0.42	0.36	内角形	0.17	0.15	U字形	0.54	-1.77	5		○					
	SI2002-P322	107-12	V 上層	-	楕円形	0.68	0.53	楕円内角形	0.51	0.34	U字形	0.39	-1.46	3		○				
	SI2003	101-1	V 上層	N-66°-E	-	(W/4.04)	(第3.86)	-	-	-	-	-	-	-				初期×2回		
	SI2003-P59	10110-10106	V 上層	-	不規則形	0.62	0.55	方形	0.34	0.31	U字形	0.40	-1.53	3	SI307(既)	○				
	SI2003-P112	10109	V 上層	-	直角形	0.67	0.62	不規則丸形	0.45	0.40	直角形	0.58	-1.68	6	SI307(既), SI2002-P301(既), SK912(既)	○		44		
5-12-13-20	SI2003-P113	10111-18	V 上層	古代	不規則形	0.51	0.47	不規則丸形	0.35	0.30	直角形	0.70	-1.60	6	SI307(既)	○				
	SI2003-P123	10114-19	V 上層	古代	楕円内角形	0.63	0.63	楕円内角形	0.44	0.27	不規則形	1.71	-1.87	1	SI2004-P293(既)	○				
	SI2003-P128	1018-9-13-14	V 上層	-	直角形	0.72	0.58	楕円内角形	0.57	0.35	不規則形	0.54	-1.60	7	SI307(既)	○				
	SI2003-P130	10111	V 上層	-	楕円内角形	0.50	0.42	直角形	-	-	U字形	0.59	-1.71	5	SI2004-P244(既), SE901(既)	○				
	SI2003-P310	10010-10	V 上層	-	楕円内角形	0.65	(0.55)	楕円内角形	0.48	0.32	U字形	0.45	-1.63	5	SI307(既), SI2003-P103(既)	○				
5-13-21	SI2003-P324	10111	V 上層	-	内角形	0.41	0.37	楕円内角形	0.23	0.18	不規則形	0.51	-1.53	4	SI307(既)	○				
	SI2004	10-111	V 上層	N-19°-E	-	4.40	4.40	-	-	-	-	-	-	-				初期×2回		
	SI2004-P244	10119-20-24-25	V 上層	-	不定形	(1.50)	1.40	不定形	-	-	台形	0.66	-1.77	4	SI2003-1301(既), SD63(新), P75-90(既)	○	44			
	SI2004-P302	10118-19-23	V 上層	古代	- 方形	1.72	1.43	-	-	-	台形	0.69	-1.85	6	SD62(新), P91-172-855(既)	○	68			
	SI2004-P509	10122-23-1112-3	V 上層	-	不定形	1.73	1.27	方形	-	-	台形	0.63	-1.77	7	P1020(既)	○				
5-13-21	SI2004-P293	10113-14-18-19	V 上層	-	不定形	1.40	1.20	方形	1.00	0.97	台形	0.65	-1.80	5	SI307(既), SI2003-P123(既), SD62(既), P124(既)	○	44			

測定番号	測量名	グリッド	標高面	時代	下層方位	測定(m)			断面	深度	直高 最高	分 断面	切り合い面基準	点上 遺物	遺物回数 N	備考			
						上 端	長 軸	短 軸											
5-13-21	S82004-P410	10022	V	上層	-	不動方形	1.28	1.19	不動方形	1.10	0.85	台形	0.61	-1.76	7	SK198(新), P9002(II)	○	44	
	S82004-P511	10014-15-19-20	V	上層	-	不定形	1.16	0.88	方形	1.01	0.78	台形	0.66	-1.80	5	SK307(II), S82002-P531(II), S82021(II)	○		
	S82004-P514	10012-13	V	上層	-	不動方形	1.35	1.16	不動方形	1.07	0.97	台形	0.71	-1.84	10	SD962(新)	○		
	S82004-S019	10017-19	V	上層	-	不動方形	1.20	1.19	不動方形	0.94	0.87	台形	0.64	-1.80	6	SD707(新)	○	44-45	
	S82004-S019	10017-22	V	上層	-	方形	1.19	1.17	方形	0.85	0.81	台形	0.62	-1.70	7	P993(II)	○		
	S82004-Sd469	10013	V	上層	-	-	-	0.82-0.99	-	-	0.54	-1.68	4	-	○				
5-13-22	S82005-P118	11111-12-16-17	V	上層	N=19'-E	-	4.60	4.60	-	-	-	-	-	-	-			2周×2周	
	S82005-P234	11010-15-110-11	V	上層	-	不動圓丸形方	1.85	1.50	不動方形	0.95	1.10	台形	0.82	-1.84	7	P134(新)	○	45	
	S82005-P234	11115-20-1111-16	V	上層	-	不動圓丸形方	1.52	1.30	不動方形	1.35	0.80	台形	0.68	-1.70	6	-	○	45	
	S82005-P222	11122-23-1122-3	V	上層	-	不動圓丸形方	1.68	1.54	不動方形	1.40	1.38	台形	0.71	-1.75	7	-	○		
	S82005-P32	11120	V	上層	-	不動方形	1.27	1.43	方形	0.90	0.72	台形	0.84	-1.86	7	P847-982-987(II)	○	45-48	
	S82005-P32	11120	V	上層	-	方形	1.45	1.38	不動方形	1.07	0.85	台形	0.71	-1.76	8	-	○		
5-13-23	S82005-P38	11021-22-1211	V	上層	-	不動方形	1.32	1.20	不動方形	1.00	0.90	台形	0.67	-1.72	9	-	○	68	
	S82005-P314	11112	V	上層	-	不動方形	1.64	0.90	不動方形	1.36	0.93	台形	0.80	-1.80	6	P138(新)	○		
	S82005-P35	11117-18-22-23	V	上層	-	不動方形	1.50	1.40	方形	-	-	台形	0.73	-1.78	7	P989-1041(新)	○		
	S82005-P36	11117-18	V	上層	-	不動方形	1.10	1.04	不動方形	0.84	0.83	台形	0.81	-1.82	7	P107(新)	○	45	
	S82005-P36	11117-18	V	上層	N=19'-E	-	4.60	4.60	-	-	-	-	-	-	-			2周×2周	
	S82005-P36	11117-18	V	上層	-	不動圓丸形方	1.50	1.30	不動方形	1.23	0.95	台形	0.68	-1.86	5	P58-829(II)	○		
5-13-23	S82006-P75	11010-14-15	V	上層	-	不動方形	1.57	1.53	不動方形	1.35	1.03	台形	0.63	-1.82	6	-	○		
	S82006-P422	11114-15-19-20	V	上層	-	不動方形	1.68	1.55	不動方形	1.40	1.30	台形	0.59	-1.83	7	P438-444(II), P240(II)	○		
	S82006-P434	11119-24	V	上層	-	圓錐孔形	1.47	1.36	不動方形	1.16	1.00	台形	0.53	-1.77	7	P449(新)	○		
	S82006-P465	11120, 11021, 11118	V	上層	-	不動圓丸形方	1.55	1.10	不動方形	1.22	1.10	台形	0.67	-1.86	8	P339(新)	○		
	S82006-P444	11112	V	上層	-	方形	1.20	1.07	方形	1.04	0.86	台形	0.55	-1.69	4	P151(II), P231(II)	○		
	S82006-P469	11110-11111	V	上層	-	方形	1.32	1.25	方形	1.15	1.00	台形	0.52	-1.71	2	-	○	45	
5-13-24	S82006-P32	11162-22-1211	V	上層	-	不動方形	1.17	0.98	不動方形	1.00	0.90	扇形	0.62	-1.78	8	-	○		
	S82006-P33	11116-17-21-22	V	上層	-	不動方形	1.27	1.25	方形	1.12	1.10	扇形	0.64	-1.79	4	P660(II)	○		
	S82006-Sd062	11162-22	V	上層	-	-	0.45-0.55	-	-	-	-	-	-	-	-				
	S82006-Sd062	11161-12	V	上層	-	-	0.49-0.54	-	-	-	-	-	-	-	-				
	S82007	14G	V	上層	N=6'-E	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.59-1.76	4		
	S82007-P574	14G-9	V	上層	-	円形	0.61	0.55	楕円形	0.36	0.23	U字形	0.46	-1.54	3	-	○		
5-14-24	S82007-P583	14G-10	V	上層	古代	-	不動方形	0.46	0.45	楕円形	0.27	0.22	U字形	0.09	-1.69	3	-	○	
	S82007-P561	14G-10-14	V	上層	-	不動方形	0.50	0.46	円形	0.13	0.12	不動U字形	0.45	-1.53	4	P554-655(II)	○		
	S82007-P562	14G-14	V	上層	-	円形	0.48	0.44	円形	0.21	0.19	U字形	0.63	-1.70	5	-	○		
	S82008	OK	V	上層	N=25'-E	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
	S82008-P95	OK-14-19	V	上層	古代	方形	0.90	(0.75)	方形	0.60	0.58	台形	0.69	-1.95	6	-	○		
	S82008-P99	OK-9	V	上層	-	方形	0.88	0.87	不動方形	0.65	0.75	U字形	0.07	-1.81	3	-	○		
5-13-25	S82009	11H	V	上層	N=40'-E	-	3.86	3.86	-	-	-	-	-	-	-	-			
	S82009-P163	11105-10	V	上層	-	方形	0.47	0.45	不動方形	0.25	0.23	U字形	0.56	-1.63	3	-	○		
	S82009-P202	111010-1110-110	V	上層	-	方形	0.57	0.50	調和方	0.36	0.33	不動U字形	0.44	-1.48	4	-	○		
	S82009-P232	11108-13	V	上層	-	方形	0.57	0.52	不動方形	0.37	0.31	台形	0.46	-1.55	3	-	○		
	S82009-P233	111015	V	上層	古代	-	方形	0.50	0.48	不動圓丸形方	0.24	0.22	U字形	0.28	-1.35	2	-	○	
	S82009-P292	11104-19	V	上層	-	不動圓丸形方	0.75	0.64	不動圓丸形方	0.55	0.56	不動U字形	0.59	-1.65	5	P391(新)	○		
5-13-26	S82009-P192	11103-14	V	上層	-	不動方形	0.41	0.39	不動圓形	0.27	0.26	U字形	0.21	-1.29	2	-	○		
	S82009-P28	11109	V	上層	-	不動圓丸形方	0.55	0.53	不動圓丸形方	0.29	0.26	U字形	0.28	-1.35	4	-	○		
	S82009-P1012	11104	V	上層	-	圓錐孔	0.35	0.30	圓錐孔	0.11	0.11	不動U字形	0.37	-1.74	3	SK71(新)	○		
	S8203	11001-6-7	V	上層	古代	-	円形	0.61	0.53	扇形	0.47	0.41	4	-	○				
	S8203	11001-12-14	V	上層	古代	-	円形	1.28	1.20	扇形	1.00	0.45	4	P229-P245(新)	○				
	S8203	11010-21	V	上層	-	圓丸形	0.97	0.82	圓丸形	0.70	0.50	扇形	0.24	-1.29	3	-	○		
5-13-27	SX441	11208-1304-5	V	上層	古E	-	不動圓丸形方	1.59	1.25	圓内形	1.18	0.75	台形	0.49	-1.66	4	SK564(II)	○	
	SX441	11108-19-23	V	上層	古E	-	不動圓丸形方	1.60	1.15	不定形	1.20	0.54	台形	0.49	-1.75	3	P567-620(II)	○	
	SX442	11304	V	上層	古E	-	不動圓丸形方	1.54	(0.82)	不動圓丸形方	1.10	-	台形	0.40	-1.59	3	SK441(新)	○	
	SX443-4-8-辛	11303	V	上層	古E	-	圓内形	1.65	1.12	圓内形	1.20	0.88	扇形	0.29	-1.53	3	SK597(II)	○	
	SX443	11308-9	V	上層	古E	-	圓内形	1.32	(0.71)	圓内形	0.98	-	扇形	0.19	-1.43	1	SK573(II), SK596(II), P683(II)	○	
	SX444	11310-23	V	上層	古E	-	圓内形	2.00	0.85	圓内形	1.79	0.63	台形	0.23	-1.27	3	SD592-5393(新), P642(新)	○	
5-13-28	SX650	10021_11J1	V	上層	古E	-	圓内形	1.28	0.97	圓内形	0.87	0.54	扇形	0.31	-1.37	4	SK920(II)	○	46

測定番号	測量名	グリッド	標高面	時代	下層方位	断面(m)				削面形	深度	直面 最高点	分 類	切り合い基準	計上 位置	運動回数 N	備考
						上 端	中 端	下 端	断面 形状								
5-14-15-28	SX815	15F17-18	V 上層 古代 -	-	不明	-	-	-	直形	(0.22)-1.19 2							
5-14-16-28	SX825	15F4-5-9-10-14-15,15G1-6	V 上層 古代 -	-	横円形	3.96	3.49	3.50	2.83	直形	0.20-1.14	3	SK1023(II), P741-1035-1036(II), P741-796-814-(新)	○	46		
5-12-13-27	SX912	10F20-10H16	V 上層 古代 -	-	横円形	(1.10)	(1.03)	不整円形	0.54 (0.54)	-	0.42-1.52	6	SI307(新), SB2003-P113(新)	○			
5-13-28	SX919	11H22-24, 12H3-4	V 上層 古代 -	-	不整横円形	1.68	1.55	1.40	1.20	直形	0.17-1.23	1	P843(新)	○	67		
5-11-12-29	SX925	10H2-20-24	V 上層 古代 -	-	不整横円形	2.02	1.84	1.67	1.07	直形	0.10-1.07	1	P843(新)	○	49		
5-11-12-29	SX935	9H3-8	(V) 上層 古代 -	-	不定形	1.46	1.42	1.30	1.23	不整直形	0.48-1.76	7					
5-12-13-29	SX939	16H10-15	V 上層 古代 -	-	(横円形)	1.06	(0.73)	(内形)	-	直形	0.20-1.50	2					上解縫造なし
5-11-12-29	SX947	8H19-20-24-25	V 上層 古代 -	-	内形	1.51	1.50	1.27	1.26	直形	0.17-1.67	3	SN961(II)	○			
5-11-12-29	SX948	8H18-23	(V) 上層 古代 -	-	不整内形	1.30	1.16	1.03	0.85	直形	0.24-1.57	3					上解縫造なし
5-12-29	SX956	8S21-22, 9H1-2	(V) 上層 古代 -	-	横円形	2.30	1.77	1.96	1.32	直形	0.27-1.57	4					上解縫造なし
5-13-28	SX1006	12H3	V 上層 古代 -	-	横円形	1.35	0.75	1.00	0.39	-	0.25-1.34	2	P843(新)	○			
5-14-15-28	SX1023	15G6	V 上層 古代 -	(内形)	1.69 (1.85)	内形	-	-	-	-	0.22-1.27	3	SK825(新)	○			
5-12-13-30	SID61	10H18-20	V 上層 古代 N-6H-W	-	-	3.60	0.27-0.30	-	-	直形	0.12-1.29	2	SI307(II), SB2003-130(II), SH2004-P410(II), PG5(II)	○			
5-12-13-30	SID62	10H14-15	V 上層 古代 N-6H-W	-	-	2.54	0.25-0.30	-	-	U字形	0.16-1.30	1	SD6-99(II), SI307(II), SB2004-P393-410(II), PB94(II)	○			
5-12-13-30	SID63	10H17-19-24-25	V 上層 古代 N-6H-W	-	-	(6.65)	0.15-0.26	-	-	直形	0.10-1.26	1	SB2004-P244-303-511(II), P81-87(II)	○			
5-12-13-30	SID64	10H25-11H5-9-10-14-19	V 上層 古代 N-22-E	-	-	7.70	0.23-0.26	-	-	U字形	0.18-1.19	1	SK409(II), P402-404-405-840-845-978-999(II)	○			
5-12-13-30	SID70	10H8-9-12-13-17	V 上層 古代 N-41-E	-	-	5.25	0.20-0.22	-	-	直形	0.11-1.23	1	SI307(II), SB2002-P245(II), SB2004-P511-514(II)	○			
5-12-13-30	SID106	10H19-10-21	V 上層 古代 N-6H-W	-	-	(3.17)	0.20-0.25	-	-	U字形	0.05-1.41	1	SI307(II)	○			
5-14-27	SID499	13G20, 13H16-17	V 上層 古代 N-8H-W	-	-	(4.95)	0.23-0.26	-	-	U字形	0.25-1.29	3	SK841(II)	○			
5-13-31	SID538	11H8-9	V 上層 古代 N-20-W	-	0.73	(0.18- 0.23)	-	-	U字形	0.13-1.18	2	SK71(新)	○				
5-14-27	SID539	13H01-11-12-16	V 上層 古代 N-29-E	-	1.85	0.15-0.17	-	-	U字形	0.13-1.18	2	SK841(II)	○				
5-14-19-30	SD747	14H25-14G21	V 上層 古代 N-8S-W	-	2.00	0.18-0.23	-	-	U字形	0.14-1.08	2						
5-11-12-32	SID662	8S13-14	V 上層 古代 N-8E-E	-	1.72	0.31-0.38	-	-	U字形	0.22-1.68	2	SK867(新)	○				
5-13-14-30	SD1009	11H24-25	V 上層 古代 N-6E-E	-	2.42	0.20-0.25	-	-	直形	0.15-1.45	1						
5-12-13-30	SAJ001	10-11-12	V 上層	N-54-E	-	7.44	-	-	-	-	-	-					
	SAJ001-P221	10L23	V 上層	-	不整内形	0.32	0.28	0.18	0.16	U字形	0.25-1.22	2					
	SAJ001-P283	11L22	V 上層	-	不整内形	0.21	0.19	0.37	0.36	U字形	0.22-1.23	2					
	SAJ001-P286	11L22	V 上層	-	内形	0.30	0.29	0.16	0.15	U字形	0.19-1.20	2					
	SAJ001-P388	11L1-2	V 上層	-	内形	0.35	0.35	0.13	0.13	U字形	0.21-1.25	2					
	SAJ001-P501	11L2	V 上層	-	内形	0.28	0.28	0.12	0.12	U字形	0.20-1.28	2					
	SAJ001-P505	11L6	V 上層	-	内形	0.21	0.21	0.11	0.09	U字形	0.20-1.20	2					
	SAJ001-P515	11L10	V 上層	-	内形	0.22	0.21	0.13	0.12	U字形	0.19-1.21	2					
	SAJ001-P516	11H10-15	V 上層	-	不整内形	0.30	0.27	0.15	0.14	U字形	0.20-1.20	2					
	SAJ001-P940	16L22-23, 11L2-3	V 上層	-	横円形	0.40	0.35	0.15	0.14	U字形	0.19-1.29	3					
5-12-31	SX959	9S4-5-9-30	(V) 上層 古代 -	-	横円形	3.51	2.08	2.50	1.43	直形	0.19-1.47	3					
5-13-13-30	SX71	11H0-4-5-8-9-10-14-15	V 上層 古代 N-3Z-W	不整横円形	4.08	3.51	-	-	U字形	0.42-1.46	5	SD508(II), P907-967-971-1016	○	69-70	直上縫は幅0.34~0.40m 縫度は底の深さ		
5-13-32-40W	SX100	10H21-23, 11H1-3	V 上層 古代 -	-	2.60	1.30	-	-	-	0.27-1.38	8	P312-313(II)	○	47			
5-13-14-32	SX478	12G8-9-13-14	V 上層 古代 -	不整横円形	2.10	1.86	不整横円形	-	直形	0.30-1.51	3	SK841(II), P972-373-374-377-378-379-429-442	○				
5-13-14-32	SX541	13G9-10-14-15	V 上層 古代 -	不整横円形	2.95	(1.59)	不整横円形	-	直形	0.19-1.40	2	SK478(II), P423-442-447-450-462-560(新), P943(II)	○				
5-14-26	SX573	13G7-9-12-14	V 上層 古代 -	不定形	(2.38)	2.34	不定形	-	直形	0.26-1.42	2	SA597(II), SX105(II), P983-690-830(II)	○	47			
5-14-26	SX605	13G6-7-11-12	V 上層 古代 -	不定形	3.49	2.43	不定形	-	直形	0.35-1.52	2	SK573(II), P245-746(II), P559(新)	○	47			
5-11-12-32	SX867	8H12-14-17-19	(V) 上層 古代 -	不整横円形	3.20	2.23	不整横円形	2.97	直形	0.16-1.50	2	SI962(II), P946(II)	○				
5-12-13-26	SX926	10H10-17-21-22	V 上層	-	不定形	2.16	1.97	1.87	1.82	直形	0.01-1.17	1	P645-R26(II), SK399-650(新)	○	47-48	上解縫造なし	
5-11-12-29	SX981	8S14-15-19-20	V 上層 古代 -	横円形	(2.21)	1.85	不定形	2.05	1.61	直形	0.17-1.55	2	SK947(II)	○			
5-12-13-30	P65	10H19	V 上層	-	横円形	0.36	0.27	-	-	U字形	0.23-1.35	2	SI307(II), SD61(新)	○			
5-12-13-30	P81	10H19	V 上層 古代 -	-	横円形	0.22	0.17	不整円形	0.07	0.06	U字形	0.34-1.47	2	SB2004-P302(II), SD63(II)	○		
5-13-14-32	P479	10G8	V 上層 古代 -	-	不整円形	0.17	0.15	不整円形	0.09	0.07	U字形	0.15-1.42	1	SK478(II)	○		
5-13-14-32	P569	10G9	V 上層 古代 -	-	横円形	0.34	0.32	横円形	0.16	0.11	U字形	0.16-1.53	2	SK541(II)	○		
5-13-13	P643	11H10	V 上層 古代 -	-	不整円形	0.45	0.42	円形	0.21	0.20	U字形	0.47-1.55	3				
5-12-13-26	P826	10H21-22	V 上層 古代 -	-	横円形	0.73	0.55	横円形	0.40	0.38	直形	0.22-1.28	3	SK396(II)	○		
5-13-31	P905	11H6	V 上層 古代 -	-	不整円形	0.36	0.31	不整円形	0.20	0.18	U字形	0.40-1.47	4	SK71(II)	○		

主要構造一覧表(下層)

回数%	通路名	グリッド	複道面	時代	主輪方位	規格(cm)						切り合い-側面	出土遺物	遺物回収%	備考		
						上層	中層	下層	上層	長軸	短軸	斯形	深度	底面標高	分野		
6-42-43	SK19	13E4-5-9-10	V	下層	古墳	-	半圓形円形	2.67	2.43	橢円形	1.61	1.27	不定形	0.41	-1.77	5	
6-39-42-43	SK20	12F17-18-22-23	V	下層	古墳	-	不規則形	2.13	2.08	不規則形	1.05	1.03	不定形	0.27	-1.61	1	○ 49
6-39-42-43	SK059	12H22	V	下層	古墳	-	橢円形	0.94	0.86	不規則形	0.61	(0.56)	円形	0.27	-1.60	3	○ 49
6-34-35-43	SK936	9K2-7-8	V	下層	古墳	-	円形	(1.56)	1.50	不規則形	1.49	0.96	直角	0.57	-1.86	8	○ 49
6-34-35-43	SK942	9K13-14-18-19	V	下層	古墳	-	(方角)	-	-	(方角)	-	-	直角	0.32	-1.57	2	SD068(日), SX960(日)
6-35-37-38	SD106	10-11J-K	V	下層	古墳	-	-	(0.81)~(1.87)	-	-	-	-	0.37	-1.36	3	P1050(日)	
6-41-42	SD109	9-15E-L	V	下層	古墳	-	-	0.77~2.95	-	-	-	-	0.77	-1.75	7	S01018-1051-1052(日), SD110-925(新), SX946-960	
6-35-36-37-38-39-40	SD110	9-15E-J	V	下層	古墳	-	-	0.70~5.09	-	-	-	-	0.35	-1.50	5	SD109(日)	
6-34-35-36	SD111	9-9J-K	V	下層	古墳	-	-	16.97	15.3~2.54	-	-	-	0.28	-1.65	3	P965(日)	
6-35-36	SD086	9-10J-K	V	下層	古墳	-	-	0.43~1.21	-	-	-	-	0.65	-1.72	5	SD086(日), SX960-960(不明)	
6-34-36	SD087	7L-M	V	下層	古墳	-	-	0.82~1.16	-	-	-	-	0.33	-1.75	2		
6-35-36-39-40-41-42	SD099	10~15E-J	V	下層	古墳	-	-	1.17~4.95	-	-	-	-	0.73	-1.66	7	S0109-1000-1018-1051-1052(日), P1004-1005-1017	
6-37-38-39-40-41-42	SD0984	10-15J-K	V	下層	古墳	-	-	1.62~3.81	-	-	-	-	0.57	-1.67	5	P1053(日)	
6-37-38-42	SD1000	12H-1	V	下層	古墳	-	-	8.29	1.24~1.78	-	-	-	0.48	-1.57	5	S0025(新), P1031(日)	
6-35-37-38	SD1018	16J	V	下層	古墳	-	-	3.30	0.24~0.49	-	-	-	0.20	-1.45	2	SD109-925(新)	
6-39-40-41-42	SD1021	11~14E-H	V	下層	古墳	-	-	0.50~1.79	-	-	-	-	0.40	-1.63	5		
6-41-42	SD1051	14G	V	下層	古墳	-	-	0.63~0.65	-	-	-	-	0.36	-1.37	3	SD109-925(新)	
6-41-42	SD1062	13-14G	V	下層	古墳	-	-	0.67~0.70	-	-	-	-	0.27	-1.36	3	SD109-925(新)	
6-34-第10周	SX97	8L11	V	下層	古墳	-	-	(1.35) (0.60)	-	-	-	-	-	-	-	○ 51-62	
6-34-36	SX070	7L2-25, 8L3-4-5-8-9	V	下層	古墳	-	不定形	(4.20)	-	-	-	-	0.23	-1.57	3		
6-35-36	SX946	03E-19K, 9K21, 10J4-5-9-10,	V	下層	古墳	-	(崎の隙間)	(0.90) (1.85)	-	-	-	-	0.40	-1.53	2	S0109-868(不明), P933(不明)	
6-35-36	SX953	03J-3-9-9-13	V	下層	古墳	-	不規則形	4.68	1.14~1.37	-	-	-	0.41	-1.74	2		
6-34-35-43	SX560	9K9-10-14	V	下層	古墳	-	不定形	-	-	不定形	-	-	0.17	-1.95	3	SK942(新), SD109-968(日)	

その他の遺構一覧表(上層)

回数%	通路名	グリッド	複道面	時代	深度	底面標高	切り合い-側面	出土	遺物回収%	備考
5-11	SK25	7L19	V	上層	古代	0.10	-1.58			
5-12-13	SK51	9J14-15	V	上層	古代	0.12	-1.38			
5-13	SK06	10G9-10	V	上層	古代	0.36	-2.05			
5-13	SK67	10G10	V	上層	古代	0.35	-2.01	○		
5-13	SK68	10G14-15	V	上層	古代	0.16	-1.59	○		
5-13	SK69	10G14	V	上層	古代	0.21	-1.92			
5-13	SK105	10H3	V	上層	古代	0.38	-1.74	○		
5-13	SK136	11H18-19	V	上層	古代	0.60	-1.60	PB45(日)		
5-13	SK137	11H19-20	V	上層	古代	0.17	-1.26			
5-13	SK183	11J2-3	V	上層	古代	0.19	-1.20	P980(日)	45	
5-13	SK185	11J2	V	上層	古代	0.12	-1.25	○	45	
5-13	SK186	11J2-22	V	上層	古代	0.16	-1.32	P406(日)	○	45
5-13-14	SK43	12H20, 12L16	V	上層	古代	0.33	-1.42	P1002(日), P190(新)	○	46
5-13	SK46	11G17-18-22-23	V	上層	古代	0.39	-1.65			
5-13	SK49	12H1	V	上層	古代	0.21	-1.49			
5-13-14	SK488	12G25	V	上層	古代	0.42	-1.58			
5-13-14-15	SK622	13M9	V	上層	古代	0.33	-1.66	P123(日)		
5-15	SK817	13T11	V	上層	古代	0.30	-1.61			
5-13	SK1008	12H25	V	上層	古代	0.32	-1.46	P158-332-333(新)	○	
5-15	SK1026	14E23, 15E8	V	上層	古代	0.24	-1.48			

回数%	通路名	グリッド	複道面	時代	深度	底面標高	切り合い-側面	出土	遺物回収%	備考
5-13	SK1044	10H20-25	V	上層	古代	0.38	-1.71			
6-39-42	SK1054	12-13F-H	V	-	-	0.44	-1.58	-		自然地形
5-11-12	P21	8K25, 9K5	V	上層	古代	0.74	-1.99	○	46	
5-11	P22	7M6	V	上層	古代	0.11	-1.68	○		
5-11	P23	7M11-12	V	上層	古代	0.09	-1.58	○		
5-11	P24	7M11	V	上層	古代	0.12	-1.54	○		
5-11	P26	7L24	V	上層	古代	0.09	-1.48	○		
5-11	P27	7L24	V	上層	古代	0.09	-1.56	○		
5-11	P28	7L24	V	上層	古代	0.09	-1.52	○		
5-11-12	P29	6-7	V	上層	古代	0.08	-1.43	○		
5-11	P30	7L23, 8L2	V	上層	古代	0.07	-1.44	P21(日)		
5-11	P31	7L23, 8L3	V	上層	古代	0.06	-1.44	P70(新)		
5-11	P32	8L3	V	上層	古代	0.07	-1.42			
5-11	P33	8L3	V	上層	古代	0.12	-1.47			
5-11-12	P34	8L11	V	上層	古代	0.10	-1.45			
5-11-12	P35	7L21	V	上層	古代	0.07	-1.53			
5-11-12	P36	7L21	V	上層	古代	0.09	-1.54			
5-11-12	P37	7L21-22	V	上層	古代	0.06	-1.53			
5-11	P38	7L22	V	上層	古代	0.07	-1.52			
5-11-12	P39	8L19	V	上層	古代	0.09	-1.41	○		

固形物	通称名	グリッド	標識面	時代	深度	底面標高	切り合い・間隔	主な 遺物回収 遺物	遺物回収 率%	備考
5-11-12	P940	SK23	V 上	古代	0.07	-1.35				
5-11-12	P941	SK24	V 上	古代	0.08	-1.37		○		
5-12	P945	SK12	V 上	古代	0.34	-1.56		○		
5-12	P947	SK18-17	V 上	古代	0.09	-1.26	P958(日)			
5-12	P948	SK11-12	V 上	古代	0.37	-1.87		○		
5-12	P955	SK13	V 上	古代	0.42	-1.63		○		
5-12	P956	SK7-12	V 上	古代	0.36	-1.57	P49(日)			
5-11	P958	TM11	V 上	古代	0.09	-1.56				
5-12	P960	SJ22	V 上	古代	0.20	-1.62				
5-13	P972	10H6-7-11-12	V 上	古代	0.48	-1.79		○		
5-13	P973	10H20	V 上	古代	0.25	-1.40	P16(日)			
5-13	P974	10H12	V 上	古代	0.16	-1.44	P103(日)			
5-12-21	P975	10H24	V 上	古代	0.35	-1.44	P244(日)			
5-13	P976	10H4-25	V 上	古代	0.28	-1.39		○		
5-13	P979	10H15, 10H11	V 上	古代	0.29	-1.42	P85(日)			
5-13	P980	10H15-20	V 上	古代	0.35	-1.51				
5-13	P982	10H15-20	V 上	古代	0.36	-1.27	P944(日)			
5-13	P983	11H8	V 上	古代	0.26	-1.26				
5-13	P984	11H8	V 上	古代	0.26	-1.26				
5-13	P984	10H22	V 上	古代	0.38	-1.38	P955(日)			
5-13	P985	10H22, 11H2	V 上	古代	0.34	-1.27	P944(日)			
5-13-30	P987	10H21	V 上	古代	0.52	-1.56	P963(日)			
5-13	P988	11H8	V 上	古代	0.41	-1.41				
5-13	P989	11H22-23	V 上	古代	0.30	-1.28	P835-846(日)			
5-13-21	P990	10H19-20	V 上	古代	0.51	-1.65	P101-244(日)			
5-12	P991	SJ22	V 上	古代	0.20	-1.58				
5-12	P992	09K21, 10K3	V 上	古代	0.16	-1.35				
5-12-18	P993	9K17	V 上	古代	0.11	-1.32				
5-12-18	P994	9K17	V 上	古代	0.07	-1.29				
5-13	P1002	11H12	V 上	古代	0.47	-1.46				
5-13	P1003	10H12	V 上	古代	0.26	-1.54	P74(日)			
5-13	P1004	11H17-18	V 上	古代	0.60	-1.80	P835(日)		○ 48	
5-13	P1005	11H17-18	V 上	古代	0.23	-1.25	P836(日)			
5-13	P1007	12H6-7	V 上	古代	0.29	-1.95	P948(日)			
5-13	P1015	11H10-4	V 上	古代	0.25	-1.31				
5-13	P1116	10H15-20	V 上	古代	0.29	-1.47	P73(日)			
5-13	P1117	10E5	V 上	古代	0.36	-1.50	P244(日)			
5-13	P1200	10H22	V 上	古代	0.21	-1.36				
5-13	P121	10H17	V 上	古代	0.23	-1.36				
5-13	P124	10H13	V 上	古代	0.34	-1.29	P125-339(日)			
5-13	P125	10H13	V 上	古代	0.21	-1.35	P121(日)			
5-13	P126	10H8	V 上	古代	0.43	-1.58			○ 48	
5-13	P127	9H22	V 上	古代	0.18	-1.44				
5-13	P129	9H22	V 上	古代	0.22	-1.50				
5-13	P131	10E23	V 上	古代	0.41	-1.55				
5-13	P132	9H21-22	V 上	古代	0.20	-1.50				
5-13	P133	10H17	V 上	古代	0.24	-1.27				
5-13	P134	11H16-17	V 上	古代	0.29	-1.61	P118(日)			
5-13	P135	11H24	V 上	古代	0.18	-1.93				
5-13	P137	11H19	V 上	古代	0.35	-1.37				
5-13-22	P138	11H17	V 上	古代	0.42	-1.46	P834(日)			
5-13	P139	11H17	V 上	古代	0.31	-1.35				
5-13	P140	11H17-12	V 上	古代	0.54	-1.65				
5-13	P141	10H7-12	V 上	古代	0.34	-1.39				
5-13	P142	10H23	V 上	古代	0.31	-1.34				
5-13	P143	9H25	V 上	古代	0.14	-1.42				
5-13	P144	10H8-9	V 上	古代	0.19	-1.29				
5-13	P145	10H3-4-8-9	V 上	古代	0.26	-1.37				
5-12-13	P146	10H4	V 上	古代	0.34	-1.47				

固形物	通称名	グリッド	標識面	時代	深度	底面標高	切り合い・間隔	主な 遺物回収 遺物	遺物回収 率%	備考
5-12-13	P149	10H4	V 上	古代	0.32	-1.53				
5-12-13	P150	9H23	V 上	古代	0.18	-1.17				
5-12-13	P152	10H5	V 上	古代	0.41	-1.58				
5-12-13	P153	9H24-25, 10H4-5	V 上	古代	0.37	-1.59			○ 48	
5-12-13	P156	9H22-23	V 上	古代	0.12	-1.39				
5-12-13	P157	10H5	V 上	古代	0.09	-1.29				
5-12-13	P158	10H4	V 上	古代	0.11	-1.31				
5-12	P161	9H12	V 上	古代	0.01	-1.52				
5-12	P162	9H12-17	V 上	古代	0.19	-1.53				
5-13-31	P164	11H10	V 上	古代	0.37	-1.44				
5-13-31	P165	11H14	V 上	古代	0.68	-1.72	P166(日)			
5-13-31	P166	11H14	V 上	古代	0.32	-1.36	P165(新)			
5-13	P167	9H16	V 上	古代	0.25	-1.64	P247(日)			
5-13	P170	11H15, 11H11	V 上	古代	0.25	-1.94				
5-13-17	P171	10H14	V 上	古代	0.35	-1.51	SI007(日)		○	
5-12-21	P172	10H18	V 上	古代	0.25	-1.41	P173-302(日)			
5-12-21	P173	10H18	V 上	古代	0.18	-1.43	P172(新)			
5-12	P174	10H16	V 上	古代	0.24	-1.49				
5-12	P175	11H14	V 上	古代	0.19	-1.21			○	
5-12-13	P178	10H17-22	V 上	古代	0.15	-1.28	P992(日)			
5-12-13	P179	10H16	V 上	古代	0.13	-1.29	P979(日)			
5-12-13	P180	10H14-19	V 上	古代	0.45	-1.68	P247(日)		○	
5-13	P181	10H15	V 上	古代	0.25	-1.48				
5-13	P182	10H16	V 上	古代	0.21	-1.39	P879(日)			
5-13	P184	10H14-15	V 上	古代	0.19	-1.42				
5-13	P186	10H19	V 上	古代	0.39	-1.56	P241(日)			
5-13	P187	12H11	V 上	古代	0.30	-1.36				
5-13-14	P188	12H15-20	V 上	古代	0.28	-1.36			○	
5-13	P189	12H23-4	V 上	古代	0.30	-1.38				
5-13	P190	12H16	V 上	古代	0.20	-1.29	SK243(日)			
5-13	P192	10H18-19	V 上	古代	0.23	-1.46				
5-13	P193	10H15-5-20	V 上	古代	0.12	-1.38				
5-13	P194	10H11	V 上	古代	0.12	-1.38				
5-13	P195	10H15	V 上	古代	0.18	-1.39	P986(日)			
5-13-14	P196	13H4	V 上	古代	0.25	-1.33	P249(日), P279(新)			
5-13	P197	10H14	V 上	古代	0.13	-1.41				
5-13	P199	10H20-25, 10H16	V 上	古代	0.23	-1.49				
5-13	P200	10H19-20	V 上	古代	0.27	-1.49			○ 48	
5-13	P201	10H21	V 上	古代	0.49	-1.65				
5-13	P204	9H12-17	V 上	古代	0.13	-1.53	P205(新)			
5-13	P205	9H17	V 上	古代	0.19	-1.55	P204(日)			
5-13	P207	11H13	V 上	古代	0.37	-1.46	P648-913(日)		○	
5-13	P208	11H13-14	V 上	古代	0.14	-1.23				
5-12-13	P209	9H25	V 上	古代	0.24	-1.53	P210(日)		○	
5-12-13-14	P210	9H25	V 上	古代	0.19	-1.44	P209(新)		○	
5-12-13-14	P211	12H4	V 上	古代	0.15	-1.27				
5-12-13-14	P212	12H4	V 上	古代	0.24	-1.81				
5-12-13-14	P213	13H6	V 上	古代	0.38	-1.49	P287(日)			
5-12-13-14	P214	13H4	V 上	古代	0.27	-1.34				
5-12-13-14	P215	13H4	V 上	古代	0.25	-1.32				
5-12-13-14	P216	12H24	V 上	古代	0.35	-1.42	P251(日), P217(新)		○	
5-12-13-14	P217	12H19-24	V 上	古代	0.31	-1.38	P251-216(日)		○	
5-12-13-14	P218	12H24-13H4	V 上	古代	0.31	-1.38			○	
5-12-13-14	P219	13H3-4	V 上	古代	0.33	-1.41	P256(日)			
5-12-13-14	P220	13H4-5	V 上	古代	0.32	-1.41	P264(日)		○	
5-12-13-14	P221	13H4	V 上	古代	0.18	-1.28	P283(日)			
5-12-13-14	P222	13H9	V 上	古代	0.26	-1.32				
5-13-14	P223	12H19	V 上	古代	0.25	-1.33				

固形物名	通称名	グリッド名	構造面	時代	深度	底面標高	切り合い・間隔	出土・回収場所	出土・回収場所	備考
5-13-14	P224	13H4	V 上層	古代	0.28	-1.37				
5-14	P225	13H5	V 上層	古代	0.27	-1.35				
5-14	P226	13H6-9	V 上層	古代	0.22	-1.36				
5-13-12	P227	13H8	V 上層	古代	0.29	-1.37				
5-13-14	P228	13H3	V 上層	古代	0.21	-1.32				
5-14	P229	13H13	V 上層	古代	0.41	-1.46				
5-14	P230	13H13	V 上層	古代	0.21	-1.28				
5-13	P231	11H12	V 上層	古代	0.42	-1.54	P944(II)			
5-12-13	P233	10H4	V 上層	古代	0.15	-1.38				
5-13	P235	11H1-6	V 上層	古代	0.60	-1.67				
5-13	P237	10H22	V 上層	古代	0.12	-1.40				
5-13-25	P238	11G9	V 上層	古代	0.33	-1.54				
5-13-25	P239	11G8	V 上層	古代	0.28	-1.55	SK136(II)			
5-13	P240	11G14	V 上層	古代	0.19	-1.46	P111-42(II)			
5-13	P241	10H19	V 上層	古代	0.24	-1.42	P186(新)			
5-13-14	P242	12H1	V 上層	古代	0.31	-1.36				
5-13-14	P243	10H14	V 上層	古代	0.42	-1.49	P180(新)			
5-14	P248	13H6-9	V 上層	古代	0.24	-1.34				
5-13-14	P249	13H4	V 上層	古代	0.30	-1.40	P196(新)			
5-13-14	P250	13H2	V 上層	古代	0.31	-1.41				
5-13-14	P251	12H24	V 上層	古代	0.41	-1.49	P216-217(新)			
5-13-14	P252	13H2	V 上層	古代	0.23	-1.35				
5-13-14	P253	13H9-8	V 上層	古代	0.21	-1.31				
5-13-14	P254	12H17	V 上層	古代	0.20	-1.32				
5-13-14	P255	12H25	V 上層	古代	0.08	-1.18				
5-13-14	P256	13H4	V 上層	古代	0.29	-1.37	P219(新)			
5-13-14	P257	13H5	V 上層	古代	0.34	-1.44	P213(新)			
5-13-14	P258	12H25, 13H5	V 上層	古代	0.13	-1.34	SK1008(II), P233(II)			
5-14	P259	13H3-14	V 上層	古代	0.47	-1.51				
5-13-14	P260	13H4	V 上層	古代	0.36	-1.44				
5-13-14	P261	12H18-19	V 上層	古代	0.12	-1.20				
5-13-14	P262	12H18	V 上層	古代	0.12	-1.21				
5-13-14	P263	12H19	V 上層	古代	0.24	-1.33				
5-13-14	P264	13H4	V 上層	古代	0.27	-1.36	P220(新)			
5-13-14	P266	13H8	V 上層	古代	0.29	-1.38	P255(II)			
5-13-14	P268	13H2	V 上層	古代	0.18	-1.26				
5-13-14	P269	12H24	V 上層	古代	0.17	-1.25				
5-13-14	P270	12H19-20	V 上層	古代	0.09	-1.17				
5-13-14	P271	12H19	V 上層	古代	0.19	-1.27				
5-13-14	P272	13H2	V 上層	古代	0.17	-1.31				
5-13-14	P273	12H19	V 上層	古代	0.12	-1.22				
5-13-14	P274	13G6	V 上層	古代	0.25	-1.41	SK439(II)			
5-13-14	P275	12H17	V 上層	古代	0.18	-1.28				
5-13-14	P276	12H17	V 上層	古代	0.10	-1.22				
5-13-14	P277	12H17	V 上層	古代	0.23	-1.37				
5-13-14	P278	12H19	V 上層	古代	0.12	-1.23				
5-13-14	P279	13H4	V 上層	古代	0.14	-1.22	P196(新)			
5-13-14	P280	12H16	V 上層	古代	0.15	-1.32	P421(II)			
5-14	P281	12H11	V 上層	古代	0.15	-1.29				
5-13-14	P282	13H9	V 上層	古代	0.21	-1.29				
5-13-14	P283	13H4	V 上層	古代	0.25	-1.33	P221(新)			
5-13	P284	12H2-3	V 上層	古代	0.19	-1.30				
5-13	P285	12H2-3	V 上層	古代	0.10	-1.21				
5-13	P286	12H2	V 上層	古代	0.15	-1.27				
5-13	P287	12H2	V 上層	古代	0.23	-1.35				
5-13	P288	11H22	V 上層	古代	0.21	-1.34				
5-13	P289	12H6	V 上層	古代	0.13	-1.32	P291-410-449-650 (II)			

固形物名	通称名	グリッド名	構造面	時代	深度	底面標高	切り合い・間隔	出土・回収場所	出土・回収場所	備考
5-13-14	P290	12H19	V 上層	古代	0.08	-1.17				○
5-13	P291	12H6	V 上層	古代	0.09	-1.27	P146-550(II) (新)			
5-13	P293	12H5-12H1	V 上層	古代	0.14	-1.32				
5-13	P294	12H1	V 上層	古代	0.11	-1.29	P220(II)			
5-13	P295	12H1	V 上層	古代	0.09	-1.27				
5-13	P296	12G3	V 上層	古代	0.01	-1.29	P181(II)			
5-13	P297	12G10	V 上層	古代	0.07	-1.20				
5-13	P298	12G10	V 上層	古代	0.19	-1.39				
5-13	P299	12G10	V 上層	古代	0.25	-1.44				
5-13	P300	12G5	V 上層	古代	0.28	-1.48				
5-12-13	P301	10J8	V 上層	古代	0.20	-1.27				
5-12-13	P302	10J2	V 上層	古代	0.02	-1.25				
5-13	P303	10J8	V 上層	古代	0.32	-1.45	P149(II)			
5-13	P304	10J8	V 上層	古代	0.21	-1.29				
5-13	P305	10J2-7	V 上層	古代	0.13	-1.25				
5-13	P306	10J8	V 上層	古代	0.28	-1.29	P1049(II)			
5-13	P308	10J8	V 上層	古代	0.33	-1.49				
5-13	P311	10J8	V 上層	古代	0.15	-1.44	SK100(II)			
5-13	P312	10H22	V 上層	古代	0.33	-1.72	SK100(II)			
5-13	P313	10H22	V 上層	古代	0.27	-1.25				
5-13	P314	10J18	V 上層	古代	0.27	-1.27				
5-13	P315	10J4-19	V 上層	古代	0.16	-1.16				
5-13	P316	10J19	V 上層	古代	0.42	-1.38				
5-13	P317	10H23	V 上層	古代	0.14	-1.33				
5-13	P319	10J8	V 上層	古代	0.21	-1.32				
5-13	P320	10J23	V 上層	古代	0.23	-1.18				
5-13	P324	11H7-12	V 上層	古代	0.53	-1.65				
5-13	P325	11J13	V 上層	古代	0.43	-1.45				
5-13	P326	11J13	V 上層	古代	0.35	-1.38				
5-13	P327	11J7-12	V 上層	古代	0.39	-1.65	P228(II)			
5-13	P328	11J4	V 上層	古代	0.21	-1.28	P227-329(II)			
5-13	P329	11J4	V 上層	古代	0.59	-1.65	P228(II)			
5-13-14	P331	12H6-7	V 上層	古代	0.10	-1.22				
5-13-14	P332	12H25	V 上層	古代	0.34	-1.45	SK1008(II)			○
5-13	P334	12G4	V 上層	古代	0.34	-1.56				
5-13	P337	11G13	V 上層	古代	0.25	-1.53				
5-13	P338	11G19	V 上層	古代	0.27	-1.55				
5-13	P339	11G25	V 上層	古代	0.22	-1.42	P465(II)			
5-13	P340	11G23	V 上層	古代	0.19	-1.43				
5-13	P341	11G3	V 上層	古代	0.21	-1.53	P499(II)			
5-13	P342	11G7-8	V 上層	古代	0.20	-1.48				
5-13	P343	11G22	V 上層	古代	0.18	-1.43				
5-13	P344	11G21, 12G1	V 上層	古代	0.12	-1.44	P45(II)			
5-13	P345	11G21	V 上層	古代	0.29	-1.54	P44(II)			
5-13	P346	11G2-13	V 上層	古代	0.20	-1.51	SK30(II)			
5-13	P349	11G1	V 上層	古代	0.30	-1.61	P541(II)			
5-13	P350	11G2	V 上層	古代	0.19	-1.46				
5-13	P351	11G2	V 上層	古代	0.33	-1.69				
5-13	P352	11G7	V 上層	古代	0.19	-1.53				
5-13	P353	11G23	V 上層	古代	0.20	-1.45				
5-13	P354	11G22	V 上層	古代	0.20	-1.48				
5-13-14	P355	12H8	V 上層	古代	0.11	-1.20	P256(II)			
5-13	P356	11G2	V 上層	古代	0.34	-1.74				
5-13	P357	11G6	V 上層	古代	0.22	-1.68				
5-13	P358	11G11	V 上層	古代	0.29	-1.77				
5-13	P359	12G2	V 上層	古代	0.18	-1.42				
5-13	P360	12G2	V 上層	古代	0.13	-1.38				
5-13	P361	12G2	V 上層	古代	0.13	-1.38				
5-13	P362	12G2	V 上層	古代	0.21	-1.47				

固有番号	通称名	グリッド	標高面	時代	深度	底面標高	切り合い・間隔	出土品	遺物回収率	備考
5-13	P963	12G2	V [上]	古代	0.18	-1.43				
5-13	P964	11G14	V [上]	古代	0.17	-1.50				
5-13	P965	12G10	V [上]	古代	0.16	-1.53	P366(新)			
5-13	P966	11G21	V [上]	古代	0.15	-1.52	P565(新)			
5-13	P967	12G5	V [上]	古代	0.27	-1.69				
5-13	P968	12H5	V [上]	古代	0.13	-1.47				
5-13	P970	12F5	V [上]	古代	0.17	-1.56				
5-13	P971	12F10	V [上]	古代	0.16	-1.52				
5-13	P972	12O8	V [上]	古代	0.17	-1.39	SX478(II)			
5-13	P973	12O8	V [上]	古代	0.20	-1.43	SX478(II)			
5-13+14-32	P974	12G13	V [上]	古代	0.27	-1.48	SX478(II)			
5-13+14	P975	12G18	V [上]	古代	0.31	-1.52	P417(II)			
5-13+14	P976	12G15	V [上]	古代	0.22	-1.40				
5-13+14	P977	12O9	V [上]	古代	0.31	-1.52	SX478(II)	○		
5-13	P978	12O9	V [上]	古代	0.14	-1.34	SX478(II)			
5-13	P979	12O9	V [上]	古代	0.20	-1.42	SX478(II)			
5-13	P980	11H8	V [上]	古代	0.14	-1.42	SX478(II)			
5-13	P982	11G10	V [上]	古代	0.15	-1.40				
5-13	P983	11G8	V [上]	古代	0.18	-1.44				
5-13	P984	10G25, 10H21	V [上]	古代	0.14	-1.44				
5-13	P987	11J2	V [上]	古代	0.23	-1.24				
5-13	P989	11H19	V [上]	古代	0.21	-1.26		○		
5-13	P990	11H14-19	V [上]	古代	0.24	-1.92				
5-13-25	P991	11H19	V [上]	古代	0.24	-1.32	P992(II)			
5-13	P996	11H8	V [上]	古代	0.20	-1.41	P407(新)			
5-13	P998	11H12	V [上]	古代	0.27	-1.44	P916(II)			
5-13	P9400	11H9-14	V [上]	古代	0.30	-1.29	SD64(新), P622(II)	○		
5-13	P9401	10H22	V [上]	古代	0.32	-1.49				
5-13+12-18	P9402	10O25	V [上]	古代	0.24	-1.35	SD64(新)	○	48	
5-13	P9403	11I5	V [上]	古代	0.12	-1.17				
5-13	P9404	11I5	V [上]	古代	0.35	-1.40	SD64(新)			
5-13	P9405	11I9	V [上]	古代	0.30	-1.38	SD64(新)			
5-13	P9407	11F6	V [上]	古代	0.53	-1.74	P996(II)			
5-13	P9411	11G14	V [上]	古代	0.16	-1.49	P940(新)	○		
5-13+14	P9412	12G13	V [上]	古代	0.42	-1.63				
5-13+14	P9413	12H11	V [上]	古代	0.28	-1.40	P141(新)			
5-13+14	P9414	12H11	V [上]	古代	0.22	-1.37	P142(II)			
5-13	P9415	12H6	V [上]	古代	0.14	-1.34				
5-13	P9416	12H6	V [上]	古代	0.28	-1.47	P289-291(新)			
5-13+14	P9417	12G13	V [上]	古代	0.38	-1.68	P375(新)			
5-13	P9418	12O6	V [上]	古代	0.25	-1.65	P296(新)			
5-13	P9420	12H11	V [上]	古代	0.34	-1.52	P294(新)			
5-13+14	P9421	12H16	V [上]	古代	0.24	-1.41	P293(新)			
5-13	P9423	12O9	V [上]	古代	0.24	-1.45	SX541(II)			
5-13	P9424	12G10	V [上]	古代	0.22	-1.40				
5-13	P9425	12G2-7	V [上]	古代	0.21	-1.46				
5-13	P9426	12O6	V [上]	古代	0.20	-1.45				
5-13	P9427	12G11	V [上]	古代	0.14	-1.46				
5-13	P9428	12G1-6	V [上]	古代	0.20	-1.49				
5-13	P9429	12O9	V [上]	古代	0.18	-1.40	SX478(II)	○		
5-13	P9430	12G4	V [上]	古代	0.34	-1.56				
5-13	P9431	12G5, 12H1	V [上]	古代	0.45	-1.63				
5-13+14	P9432	12G13	V [上]	古代	0.31	-1.51				
5-13+14	P9433	12G23-24	V [上]	古代	0.36	-1.56		○		
5-13	P9435	12G10	V [上]	古代	0.42	-1.69				
5-13+14	P9436	12G20	V [上]	古代	0.27	-1.44				
5-13	P9437	12H10	V [上]	古代	0.23	-1.31				
5-13+23	P9438	12G15	V [上]	古代	0.55	-1.78	P422(新)			

固有番号	通称名	グリッド	標高面	時代	深度	底面標高	切り合い・間隔	出土品	遺物回収率	備考
5-13+14	P439	13G5	V [上]	古代	0.41	-1.58	P274(新)	○		
5-13+14	P440	12G10	V [上]	古代	0.37	-1.57	P275(新)	○	48	
5-13+23	P442	12G9	V [上]	古代	0.24	-1.48	SX478-541(II)			
5-13+23	P443	12H4-9	V [上]	古代	0.18	-1.28	P422(新)			
5-13	P444	13G19	V [上]	古代	0.30	-1.26	P422(新)			
5-13	P446	12G54	V [上]	古代	0.25	-1.46				
5-13+32	P447	12G8	V [上]	古代	0.26	-1.48	SX478-541(II)			
5-13+14-23	P448	11G19	V [上]	古代	0.39	-1.65	P434(II)			
5-13	P449	12H9	V [上]	古代	0.32	-1.50	P550(II), P289(新)			
5-13	P450	12G9	V [上]	古代	0.31	-1.58	SX541(II)			
5-13	P451	11G24-25	V [上]	古代	0.28	-1.52				
5-13	P452	12G5	V [上]	古代	0.24	-1.44	P494(II)			
5-13	P453	12H4-9	V [上]	古代	0.28	-1.36	P480(新)			
5-13	P454	12H9	V [上]	古代	0.12	-1.24				
5-13	P455	12H6, 12H10	V [上]	古代	0.28	-1.43	P483(II)			
5-13	P456	12H9	V [上]	古代	0.30	-1.47	P499(II)			
5-13	P457	12H10-11	V [上]	古代	0.09	-1.25				
5-13	P458	12G5	V [上]	古代	0.17	-1.38	P494(II)			
5-13+14	P459	12H6-17	V [上]	古代	0.34	-1.47				
5-13+14	P460	12H2-2	V [上]	古代	0.29	-1.34				
5-13+14	P461	12H19	V [上]	古代	0.32	-1.34				
5-13	P462	12G9	V [上]	古代	0.23	-1.53	SX541(II)			
5-13	P463	12G5	V [上]	古代	0.23	-1.45				
5-13+14	P464	12G12	V [上]	古代	0.36	-1.61				
5-13	P466	12G7	V [上]	古代	0.28	-1.54				
5-13	P467	12F5	V [上]	古代	0.18	-1.59				
5-13+14	P468	12G11	V [上]	古代	0.16	-1.44				
5-13+14	P469	12G18	V [上]	古代	0.32	-1.53	P546(新)	○		
5-13	P470	12G7	V [上]	古代	0.16	-1.44				
5-13+14	P471	12G11-12	V [上]	古代	0.32	-1.58				
5-13	P473	11H24	V [上]	古代	0.35	-1.41				
5-13	P474	12G24, 12H4	V [上]	古代	0.29	-1.56				
5-13	P475	12F2	V [上]	古代	0.32	-1.56				
5-13	P476	12G7	V [上]	古代	0.20	-1.49				
5-13+14	P477	12G18-19-23-24	V [上]	古代	0.27	-1.48				
5-13	P483	12G10	V [上]	古代	0.28	-1.47	P455(新)			
5-13	P484	12G5	V [上]	古代	0.31	-1.51	P546(新)			
5-13+14	P485	12H23	V [上]	古代	0.22	-1.34				
5-13+14	P488	12G14	V [上]	古代	0.31	-1.52				
5-13+14	P487	12G14	V [上]	古代	0.26	-1.47				
5-13+14	P491	12G14-15	V [上]	古代	0.33	-1.53				
5-13	P492	12H15	V [上]	古代	0.37	-1.49				
5-13	P494	12G5	V [上]	古代	0.30	-1.51	P452-458(新)			
5-13	P495	12H15	V [上]	古代	0.12	-1.21				
5-13+14	P496	12H1	V [上]	古代	0.30	-1.53	P546(II)			
5-13	P497	12H13	V [上]	古代	0.43	-1.56				
5-13+14	P498	12G1	V [上]	古代	0.40	-1.56				
5-13	P501	11H10	V [上]	古代	0.20	-1.28				
5-13	P503	12H6	V [上]	古代	0.14	-1.25				
5-13	P504	12H6	V [上]	古代	0.15	-1.26				
5-13	P506	12H6	V [上]	古代	0.13	-1.24				
5-13	P507	12H6	V [上]	古代	0.21	-1.31				
5-13	P508	12H6	V [上]	古代	0.18	-1.27				
5-13	P509	12H6	V [上]	古代	0.14	-1.23				
5-13	P510	12H6-7	V [上]	古代	0.15	-1.22				
5-13	P512	11H18	V [上]	古代	0.34	-1.42				
5-13	P517	11H15	V [上]	古代	0.19	-1.19				
5-13	P518	11H10-15	V [上]	古代	0.30	-1.29	P442(II)			

固形物%	通称名	グリッド	構造面	時代	深度	底面標高	切り合い・間隔	出土・遺物	遺物回収率%	備考
5-13	P519	1110.5	V	上層	古代	0.17	-1.17			
5-13	P520	1110.5, 1102.1	V	上層	古代	0.23	-1.08			
5-13	P521	1112.1	V	上層	古代	0.22	-1.26			
5-14	P523	13H16	V	上層	古代	0.15	-1.29			
5-13	P525	12H1	V	上層	古代	0.15	-1.20			
5-14	P526	13G20	V	上層	古代	0.24	-1.30	P547(新)		
5-13	P527	12H1	V	上層	古代	0.20	-1.25			
5-13	P530	11H18	V	上層	古代	0.22	-1.29			
5-13	P533	11H15	V	上層	古代	0.38	-1.38			
5-14	P534	13H21	V	上層	古代	0.26	-1.29			
5-14	P535	13H17	V	上層	古代	0.38	-1.44			
5-14	P536	13H17	V	上層	古代	0.38	-1.42			
5-14	P537	13H22	V	上層	古代	0.32	-1.35			
5-13	P540	11H24	V	上層	古代	0.29	-1.34	PB80(II)		
5-13-14	P542	12G19-24	V	上層	古代	0.41	-1.61			
5-13-14	P543	12G19	V	上層	古代	0.40	-1.50			
5-13-14	P544	12G19	V	上層	古代	0.22	-1.22			
5-13-16	P545	12H12	V	上層	古代	0.35	-1.68	SI245(新)		
5-13-14	P546	13H1	V	上層	古代	0.34	-1.53	SI419(新), P484(II)		
5-14	P547	13G20	V	上層	古代	0.19	-1.24	P526(新)		
5-14	P549	13H12	V	上層	古代	0.38	-1.49			
5-13	P550	12H6	V	上層	古代	0.26	-1.45	P289-291-449(新)		
5-13-14-16	P551	12H2-8	V	上層	古代	0.45	-1.55	SI240(II)	○	
5-14	P552	13G14	V	上層	古代	0.16	-1.33			
5-13	P553	11G23	V	上層	古代	0.26	-1.61			
5-13	P554	12G3	V	上層	古代	0.29	-1.53			
5-13	P555	12G8	V	上層	古代	0.33	-1.57			
5-14	P556	13G15	V	上層	古代	0.33	-1.44			
5-13-14	P557	13G2	V	上層	古代	0.46	-1.86			
5-13-14	P558	13G2	V	上層	古代	0.42	-1.62			
5-13-14-15-16	P559	13G8	V	上層	古代	0.34	-1.54	SI605(II)		
5-13-14-15-16	P560	13G17	V	上層	古代	0.35	-1.52			
5-13	P561	12G14	V	上層	古代	0.09	-1.45	SI541(新)		
5-13-14-15	P562	13G1	V	上層	古代	0.18	-1.41			
5-13	P566	11G18	V	上層	古代	0.48	-1.74	SI481(新)		
5-14	P568	14G19	V	上層	古代	0.48	-1.55			
5-14	P569	14G9	V	上層	古代	0.28	-1.38			
5-14	P570	13G22	V	上層	古代	0.17	-1.29			
5-13-14-15	P571	13G21	V	上層	古代	0.33	-1.57			
5-13-14-15	P572	13G21	V	上層	古代	0.36	-1.59			
5-14	P573	14G4	V	上層	古代	0.27	-1.34			
5-14	P576	13G23	V	上層	古代	0.23	-1.35			
5-13-14	P577	12H17	V	上層	古代	0.26	-1.38			
5-13-14	P578	12H18	V	上層	古代	0.59	-1.70			
5-14	P579	13G17-22	V	上層	古代	0.31	-1.45	P704(II)		
5-14-15	P580	13G17-22	V	上層	古代	0.22	-1.46	P704-705(II)	○	
5-13	P581	14G5	V	上層	古代	0.20	-1.24			
5-14	P582	13G24	V	上層	古代	0.36	-1.44			
5-13-14-15	P584	12G19	V	上層	古代	0.28	-1.62			
5-13-14	P585	12H2	V	上層	古代	0.13	-1.59			
5-13	P586	12G3	V	上層	古代	0.10	-1.60			
5-14-15	P587	13P20	V	上層	古代	0.12	-1.29			
5-14-15	P588	13P20, 13G16	V	上層	古代	0.15	-1.31			
5-14-15	P589	13P15	V	上層	古代	0.17	-1.34			
5-14-15	P590	13P15	V	上層	古代	0.26	-1.45			
5-13-14	P591	12H23	V	上層	古代	0.20	-1.60			
5-14	P592	14G9	V	上層	古代	0.29	-1.36			
5-14	P593	14G6	V	上層	古代	0.16	-1.26			

固形物%	通称名	グリッド	構造面	時代	深度	底面標高	切り合い・間隔	出土・遺物	遺物回収率%	備考
5-13-14-15	P594	12P25	V	上層	古代	0.39	-1.65			
5-14-15	P595	12P20	V	上層	古代	0.22	-1.37			
5-13-14-15	P596	12P20	V	上層	古代	0.21	-1.55			
5-13-14-15	P597	12P14-19	V	上層	古代	0.19	-1.53			
5-13-14-15	P598	12P24	V	上層	古代	0.35	-1.59			
5-14-15	P601	13P15, 13G31	V	上層	古代	0.27	-1.47			
5-14-15	P602	13P15	V	上層	古代	0.20	-1.38			
5-14-15	P603	13P15	V	上層	古代	0.19	-1.42			
5-14	P608	13G24	V	上層	古代	0.13	-1.36			
5-13-14-15	P609	12P24	V	上層	古代	0.19	-1.28			
5-13-14-15	P610	12P16	V	上層	古代	0.24	-1.70	P609(II)		
5-14-15	P611	13P14	V	上層	古代	0.14	-1.38			
5-14-15	P612	13P9-1	V	上層	古代	0.18	-1.43			
5-13-14-15	P613	13P9-2	V	上層	古代	0.19	-1.45			
5-13-14-15	P614	12P20-25	V	上層	古代	0.27	-1.56			○
5-13-14-15	P615	12P15	V	上層	古代	0.19	-1.48			
5-13-14-15	P616	12P14-15	V	上層	古代	0.13	-1.49			
5-13-14-15	P617	12P12-13	V	上層	古代	0.13	-1.61			
5-13-14-15	P618	12P12-17	V	上層	古代	0.14	-1.59			
5-14	P619	13G10-19	V	上層	古代	0.25	-1.45			
5-13	P620	11G18	V	上層	古代	0.46	-1.73	SK481(新)		
5-14-15	P621	13P8	V	上層	古代	0.14	-1.43			
5-13-14-15	P623	13P2	V	上層	古代	0.26	-1.61	SK622(新)		
5-13-14-15	P624	13P9	V	上層	古代	0.37	-1.59			
5-13-14-15	P625	12P9-10	V	上層	古代	0.33	-1.55			
5-13-14	P626	12P15	V	上層	古代	0.27	-1.62			
5-13-14-15	P627	12P14-19	V	上層	古代	0.31	-1.68			
5-13-14-15	P628	12P10	V	上層	古代	0.30	-1.65			
5-13-14-15	P629	12P1-29	V	上層	古代	0.25	-1.63			
5-13-14-15	P630	12P19-24	V	上層	古代	0.29	-1.63			
5-13	P631	11H24	V	上層	古代	0.16	-1.22	P608-861(II)		
5-13	P632	11H24-25	V	上層	古代	0.14	-1.29			
5-13	P633	11H25	V	上層	古代	0.24	-1.28			
5-13	P634	11H25, 12H5	V	上層	古代	0.23	-1.28			
5-13	P635	12H5	V	上層	古代	0.22	-1.26			
5-13-17	P636	10H6-11	V	上層	古代	0.47	-1.60	SK307(新)	○	
5-13	P637	11H24	V	上層	古代	0.26	-1.32	P699(II)		
5-13	P638	11H20	V	上層	古代	0.13	-1.22			
5-13	P640	11H21	V	上層	古代	0.23	-1.28			
5-13-14-27	P641	13H16	V	上層	古代	0.19	-1.29	SK641(新)		
5-12-13	P645	10H17-22	V	上層	古代	0.40	-1.48	SK326(新)		
5-13	P646	11H2-3	V	上層	古代	-	-			
5-13	P647	11H14-15	V	上層	古代	0.27	-1.42	P629(II)		
5-13	P648	11H14-15-16	V	上層	古代	0.21	-1.39	P607(新)		
5-14	P653	14G13-18	V	上層	古代	0.27	-1.31			
5-14	P654	14G16-19	V	上層	古代	0.30	-1.38	P655(II), P651(新)		
5-14	P655	14G14	V	上層	古代	0.17	-1.24	P651-654-656(新)		
5-14	P656	14G14	V	上層	古代	0.15	-1.22	P655(II)		
5-13-14-15	P657	13P2	V	上層	古代	0.34	-1.79	P658(新)		
5-13-14-15	P658	13P2	V	上層	古代	0.15	-1.52	P657-659(II)		
5-13-14-15	P659	13P2	V	上層	古代	0.29	-1.65	P658(新)		
5-13-14-15	P660	12P22	V	上層	古代	0.17	-1.56			
5-14	P661	14G18	V	上層	古代	0.19	-1.29			
5-14-15	P662	13G16	V	上層	古代	0.21	-1.36			
5-14	P663	13P10-10	V	上層	古代	0.30	-1.63			

固有番	通称名	グリッド	標識面	時代	深度	底面標高	切り合い・間隔	出土品・遺物	遺物回収率%	備考
5-13-14-15	P664	13P9	V 上	古代	0.26	-1.49				
5-14-15	P665	13P10-12-17	V 上	古代	0.25	-1.39				
5-14-15	P666	13P11	V 上	古代	0.22	-1.63				
5-13-15	P667	13P12	V 上	古代	0.25	-1.08				
5-13	P668	13P12	V 上	古代	0.18	-1.58				
5-13	P669	13P14-15	V 上	古代	0.13	-1.54				
5-13	P670	13P15	V 上	古代	0.13	-1.52				
5-13-14-15	P671	13P20	V 上	古代	0.14	-1.48				
5-13-14-15	P672	13P19	V 上	古代	0.17	-1.61				
5-13-14-15	P673	13P24	V 上	古代	0.25	-1.59				
5-14	P674	14G16-17	V 上	古代	0.23	-1.23	○			
5-13-14-15	P675	13P23	V 上	古代	0.22	-1.55				
5-14-15	P676	14P10-15	V 上	古代	0.29	-1.28	○			
5-14-15	P677	14P14	V 上	古代	0.21	-1.24				
5-14-15	P678	14G11-16	V 上	古代	0.28	-1.45				
5-14-15	P679	14G16	V 上	古代	0.36	-1.34	P704(II)			
5-14-15	P680	14G11	V 上	古代	0.29	-1.27				
5-14-15	P681	14P15, 14G1	V 上	古代	0.32	-1.25				
5-14-15	P682	14P9-10	V 上	古代	0.22	-1.35				
5-14-15	P683	13G9	V 上	古代	0.22	-1.65	SX573(新), SX597(既)			
5-14-15	P684	14G1	V 上	古代	0.22	-1.29				
5-14-15	P685	14P4	V 上	古代	0.14	-1.26				
5-14-15	P686	13P25	V 上	古代	0.25	-1.36				
5-14-15	P687	13P20, 13G16	V 上	古代	0.24	-1.38				
5-14-15	P688	13P20	V 上	古代	0.27	-1.39				
5-14	P689	13G14	V 上	古代	0.31	-1.59	SX573(新)			
5-14-15	P691	14P9	V 上	古代	0.08	-1.14	P692(II)			
5-14-15	P692	14P9	V 上	古代	0.29	-1.36	P691(新)			
5-14-15	P693	14P9	V 上	古代	0.13	-1.20				
5-14	P694	14G2	V 上	古代	0.22	-1.25				
5-14	P695	14G7	V 上	古代	0.14	-1.16				
5-14-15	P696	14P11, 14P15	V 上	古代	0.24	-1.27				
5-15	P697	13P25	V 上	古代	0.16	-1.72				
5-14	P698	13P17	V 上	古代	0.35	-1.61				
5-14-15	P699	13P19-20	V 上	古代	0.29	-1.43				
5-14-15	P700	13P18	V 上	古代	0.28	-1.46				
5-14-15	P701	13P13	V 上	古代	0.29	-1.50	P703(II)			
5-14-15	P702	13P18-23	V 上	古代	0.19	-1.38				
5-14-15	P703	13P13	V 上	古代	0.29	-1.50	P701(新)			
5-14	P704	13G18-22	V 上	古代	0.32	-1.45	P570-580-670(新)			
5-14-15	P705	13G21	V 上	古代	0.20	-1.43	P580(新)			
5-14	P706	13G9	V 上	古代	0.15	-1.40				
5-14-15	P707	13P18	V 上	古代	0.38	-1.58				
5-14-15	P708	14P2	V 上	古代	0.17	-1.22				
5-14-15	P709	14P5	V 上	古代	0.20	-1.40				
5-14-15	P710	14P7	V 上	古代	0.18	-1.29				
5-14-15	P711	13P22	V 上	古代	0.26	-1.74				
5-14-15	P712	13P22	V 上	古代	0.21	-1.40				
5-14-15	P713	13P17	V 上	古代	0.16	-1.39				
5-14-15	P714	13P7-8	V 上	古代	0.21	-1.54				
5-14-15	P715	13P7-9-12-13	V 上	古代	0.30	-1.59				
5-14-15	P716	13P7-12	V 上	古代	0.15	-1.45				
5-14-15	P717	13P13	V 上	古代	0.14	-1.39				
5-14-15	P718	13P13	V 上	古代	0.13	-1.41				
5-14-15	P719	13P18	V 上	古代	0.12	-1.23				
5-14-15	P720	14P14	V 上	古代	0.23	-1.25				
5-14-15	P721	14P14	V 上	古代	0.27	-1.46				
5-14-15	P722	13P18	V 上	古代	0.35	-1.52				

固有番	通称名	グリッド	標識面	時代	深度	底面標高	切り合い・間隔	出土品・遺物	遺物回収率%	備考
5-14-15	P724	13P18	V 上	古代	0.09	-1.32				
5-14-15	P725	14P7	V 上	古代	0.38	-1.34	○ 48			
5-14-15	P726	13P17	V 上	古代	0.27	-1.53				
5-14-15	P727	13P22	V 上	古代	0.18	-1.40				
5-14-15	P728	13P22	V 上	古代	0.14	-1.36				
5-14-15	P729	13P22	V 上	古代	0.23	-1.42				
5-14-15	P730	13P18	V 上	古代	0.23	-1.42				
5-14-15	P731	14P7	V 上	古代	0.19	-1.33				
5-14-15	P732	14P22, 15P2	V 上	古代	0.26	-1.25	P743(II)			
5-15	P733	13P16	V 上	古代	0.08	-1.36				
5-15	P734	13P16-17	V 上	古代	0.22	-1.48				
5-14-15	P735	14G21	V 上	古代	0.19	-1.15				
5-14	P736	14G22	V 上	古代	0.27	-1.25				
5-14-15	P737	15G1	V 上	古代	0.29	-1.29				
5-14	P738	15G1-2-6-7	V 上	古代	0.43	-1.35				
5-14-15	P739	15G1	V 上	古代	0.14	-1.38				
5-14-15	P740	15P14-15	V 上	古代	0.26	-1.11				
5-14-15	P741	15P10-15	V 上	古代	0.19	-1.16	SK825(II)			
5-14-15	P742	15P13	V 上	古代	0.38	-1.28				
5-14-15	P743	15P2	V 上	古代	0.24	-1.23	P732(II)			
5-14	P745	15G7	V 上	古代	0.17	-1.57	SK665(既)			
5-13-14	P746	15G6	V 上	古代	0.11	-1.55	SK665(新) ○			
5-15	P748	13P21	V 上	古代	0.15	-1.41				
5-15	P749	13G20	V 上	古代	0.17	-1.52				
5-15	P750	15G3	V 上	古代	0.28	-1.31				
5-15	P751	14G20	V 上	古代	0.18	-1.31				
5-15	P752	14G20	V 上	古代	0.16	-1.30				
5-15	P753	14G25	V 上	古代	0.20	-1.33				
5-15	P754	13P21	V 上	古代	0.15	-1.41				
5-15	P755	13P21	V 上	古代	0.12	-1.37				
5-15	P756	14P1	V 上	古代	0.12	-1.35				
5-14-15	P757	15P1	V 上	古代	0.37	-1.39	P744(II), P800(新)			
5-14-15	P758	15P18	V 上	古代	0.34	-1.29				
5-15	P759	15P13	V 上	古代	0.15	-1.27				
5-15	P760	14P1	V 上	古代	0.08	-1.06	P1037(II)			
5-15	P761	15P18-9	V 上	古代	0.30	-1.56				
5-15	P762	14P14	V 上	古代	0.30	-1.56				
5-14-15	P763	14P19	V 上	古代	0.14	-1.15	P765(既)			
5-14-15	P764	14P19	V 上	古代	0.08	-1.10	P764(II)			
5-15	P765	15G10, 15P8	V 上	古代	0.12	-1.21	P767(II)			
5-15	P767	15G10, 15P8	V 上	古代	0.17	-1.25	P766(既)			
5-15	P768	15S13	V 上	古代	0.18	-1.27				
5-15	P769	15S13	V 上	古代	0.16	-1.46				
5-15	P770	13S25	V 上	古代	0.19	-1.53				
5-15	P771	13S20-25	V 上	古代	0.25	-1.58				
5-15	P772	13S4-19	V 上	古代	0.12	-1.41				
5-15	P773	13S10	V 上	古代	0.19	-1.65				
5-15	P774	13S19	V 上	古代	0.18	-1.69				
5-15	P775	13S14	V 上	古代	0.11	-1.51				
5-15	P776	13S13	V 上	古代	0.07	-1.57				
5-15	P777	13S23-24	V 上	古代	0.16	-1.56				
5-15	P778	13S24	V 上	古代	0.19	-1.51				
5-15	P779	13S24	V 上	古代	0.18	-1.49				
5-15	P780	13S25, 14R5	V 上	古代	0.21	-1.52				
5-15	P781	14G3-4	V 上	古代	0.18	-1.55				
5-15	P782	14E4	V 上	古代	0.20	-1.55	○			
5-15	P783	14G3-4	V 上	古代	0.20	-1.55	○			
5-15	P784	14G3	V 上	古代	0.22	-1.61	○			

固有名	通称名	グリッド	標達地	時代	深度	底面標高	切り合い・間隔	出土・遺物	出土・遺物回収率	備考
5-13	P785	IIG11	V 上層	古代	0.22	-1.68				
5-14-15	P786	IIG12	V 上層	古代	0.17	-1.87				
5-15	P787	I4F11	V 上層	古代	0.14	-2.39				
5-15	P788	I4F11	V 上層	古代	0.24	-1.41				
5-15	P789	I4F20	V 上層	古代	0.10	-1.97				
5-15	P790	I4G16	V 上層	古代	0.21	-1.31				
5-15	P791	I4E25	V 上層	古代	0.18	-1.31	P792(新)			
5-15	P792	I4E25	V 上層	古代	0.17	-1.28	P791(新)			
5-15	P793	I4F21	V 上層	古代	0.17	-1.95				
5-15	P794	I4F21	V 上層	古代	0.12	-1.17				
5-14-15	P795	I4F22	V 上層	古代	0.10	-1.12				
5-14	P796	I5F19	V 上層	古代	0.21	-1.18	SKR25(II)			
5-15-16	P797	I5F17	V 上層	古代	0.19	-1.18				
5-15	P798	I5F11-12	V 上層	古代	0.27	-1.32	P799(新)			
5-15	P799	I5F11	V 上層	古代	0.29	-1.34	P798(II)			
5-15	P800	I5F11-16	V 上層	古代	0.20	-1.27	P804(II)			
5-15	P801	I6F11	V 上層	古代	0.19	-1.09				
5-15	P802	I5H11-11F15	V 上層	古代	0.19	-1.68				
5-15	P803	I5H1-7	V 上層	古代	0.28	-1.30	P787(II)			
5-15	P804	I5H11	V 上層	古代	0.26	-1.23	P800(新)			
5-15	P805	I5A3	V 上層	古代	0.13	-1.35				
5-15	P806	I4H6	V 上層	古代	0.14	-1.54				
5-15	P807	I4E7	V 上層	古代	0.18	-1.57				
5-15	P808	I4E7-12	V 上層	古代	0.16	-1.54				
5-15	P809	I4E7-8	V 上層	古代	0.16	-1.48				
5-15	P810	I4E7-12	V 上層	古代	0.16	-1.48				
5-15	P811	I4E13	V 上層	古代	0.15	-1.42				
5-15	P812	I4E14	V 上層	古代	0.28	-1.50				
5-15	P813	I4E18	V 上層	古代	0.29	-1.49				
5-14-24	P814	I5G3	V 上層	古代	0.24	-1.23	SKR25(II)			
5-15	P816	I5E10	V 上層	古代	0.28	-1.40	P817(II)			
5-15	P817	I5E10	V 上層	古代	0.28	-1.39	P816(II)			
5-15	P818	I4E21	V 上層	古代	0.16	-1.42				
5-15	P819	I4E21	V 上層	古代	0.22	-1.47				
5-14	P820	I4E16	V 上層	古代	0.17	-1.45				
5-15	P821	I4O15	V 上層	古代	0.12	-1.59				
5-15	P822	I4O20	V 上層	古代	0.27	-1.69				
5-15	P823	I4O20	V 上層	古代	0.14	-1.57				
5-15	P824	I4H9	V 上層	古代	0.27	-1.58				
5-13	P829	I3D-11	V 上層	古代	0.30	-1.62	SD307(新)			
5-13	P830	I0H10	V 上層	古代	0.17	-1.53	SD307(新)			
5-14	P831	I5G3	V 上層	古代	0.26	-1.43	SKR25(II)			
5-13	P833	I1H15	V 上層	古代	0.46	-1.46				
5-13	P839	I1J11	V 上層	古代	0.40	-1.43	P887(新)			
5-13	P840	I1H14	V 上層	古代	0.38	-1.33				
5-13	P841	I1H10	V 上層	古代	0.27	-1.37				
5-13	P842	I1H14	V 上層	古代	0.38	-1.37	SKR400(新), P970(II), P818(新)			
5-12-26	P843	I1H23, I2H13	V 上層	古代	0.33	-1.37	SKR19-1009(II)			
5-13	P844	I2H8	V 上層	古代	0.25	-1.27				
5-13	P845	I1H19	V 上層	古代	0.62	-1.59	SD64(新), SK1316(新)			
5-13	P846	I1H22	V 上層	古代	0.65	-1.65				
5-13	P847	I2D3	V 上層	古代	0.38	-1.40	P852(新)			
5-13	P848	I2H1-6	V 上層	古代	0.26	-1.32	SK112(新)			
5-13	P849	I2H12	V 上層	古代	0.47	-1.49				
5-13	P850	I1H21	V 上層	古代	0.51	-1.57				
5-13	P851	I2H10	V 上層	古代	0.27	-1.31				
5-13	P852	I2H10	V 上層	古代	0.25	-1.32				

固有名	通称名	グリッド	標達地	時代	深度	底面標高	切り合い・間隔	出土・遺物	出土・遺物回収率	備考
5-13	P853	I3H14	V 上層	古代	0.27	-1.25				
5-13	P854	I1H10	V 上層	古代	0.32	-1.25				○
5-13-21	P855	I0H18-23	V 上層	古代	0.29	-1.46	P802(II)			
5-13	P857	I2H7	V 上層	古代	0.25	-1.24				
5-13-23	P858	I1G15-20	V 上層	古代	0.24	-1.45	P230(新)			
5-13-14-23	P859	I5G20	V 上層	古代	0.20	-1.43	P230(新)			
5-13-14-23	P860	I1H16	V 上層	古代	0.35	-1.53	P866(II), P833(新)			
5-12-13	P861	I9K21	V 上層	古代	0.31	-1.50				
5-12	P862	I9K18	V 上層	古代	0.37	-1.66				
5-11	P863	8L17	V 上層	古代	0.13	-1.50				
5-11-12	P864	I9K13-18	V 上層	古代	0.48	-1.75	P44(新)			
5-12-13	P865	I9J20	V 上層	古代	0.25	-1.46	SD307(新)			
5-13	P866	I0J11	V 上層	古代	0.15	-1.28	P204(新)			
5-12-13	P867	I0J20	V 上層	古代	0.33	-1.45	P204(新)			
5-13	P873	I0J9	V 上層	古代	0.21	-1.33	P775(新)			
5-13	P874	I0J9	V 上層	古代	0.18	-1.28	P773(II)			
5-12-13	P875	I0J12	V 上層	古代	0.23	-1.29				
5-13	P876	I0J14	V 上層	古代	0.13	-1.29				
5-12-13	P877	I0J16	V 上層	古代	0.16	-1.47				
5-13	P878	I1N9	V 上層	古代	0.34	-1.38				
5-13	P879	I0H16	V 上層	古代	0.41	-1.69	P179-180(新)			
5-13	P880	I1H24	V 上層	古代	0.31	-1.36	P540-631(新)			
5-13	P881	I1H22	V 上層	古代	0.21	-1.27	P631(新)			
5-13	P882	I0H16	V 上層	古代	0.27	-1.42				
5-13	P883	I0H17	V 上層	古代	0.23	-1.39				
5-13	P884	I1H15	V 上層	古代	0.17	-1.25				
5-13	P885	I0H15	V 上層	古代	0.19	-1.39	P79(新)			
5-13	P886	I0H15	V 上層	古代	0.23	-1.46	P195(新)			
5-13	P887	I1H11	V 上層	古代	0.14	-1.25				
5-13	P888	I3H17-18	V 上層	古代	0.31	-1.54				
5-13	P889	I0H6	V 上層	古代	0.16	-1.58	SD307(新)			
5-13-14-20	P890	I0H15	V 上層	古代	0.17	-1.55	SD307(新)			
5-13-13	P891	I0H10	V 上層	古代	0.15	-1.55	P807(新)			
5-13-13	P892	I0H10	V 上層	古代	0.18	-1.55	SD307(新)			
5-12-13	P893	I0H9	V 上層	古代	0.13	-1.58	SD307(新), P810(新)			
5-13-17	P894	I0H14	V 上層	古代	0.12	-1.59	SD307(新)			
5-13-17	P895	I0H19	V 上層	古代	0.12	-1.53	SD307(新)			
5-13	P897	I1H10	V 上層	古代	0.38	-1.47	SN71(新)			
5-13	P898	I1H23	V 上層	古代	0.17	-1.27				
5-13	P899	I1H23	V 上層	古代	0.28	-1.37				
5-13	P900	I1H19	V 上層	古代	0.16	-1.26				
5-13	P902	I1H18	V 上層	古代	0.21	-1.31				
5-12-13	P903	I0H16	V 上層	古代	0.22	-1.54	P941(II)			
5-13	P904	I0H16-21	V 上層	古代	0.49	-1.79				
5-13	P906	I0H16	V 上層	古代	0.10	-1.59	SD307(新)			
5-13	P907	I0H16	V 上層	古代	0.11	-1.60	SD307(新)			
5-13	P909	I0H12	V 上層	古代	0.49	-1.65	P155(新)			
5-13	P910	I0H17	V 上層	古代	0.54	-1.69				
5-13	P911	I0H12	V 上層	古代	0.14	-1.22				
5-13	P913	I1H13	V 上層	古代	0.20	-1.31	P207(新)			
5-13	P914	I0H25	V 上層	古代	0.19	-1.35				
5-13	P915	I1H12	V 上層	古代	0.16	-1.32	P44(II)			
5-13	P916	I1H17-12	V 上層	古代	0.20	-1.39	P298(新)			
5-13	P917	I0H24	V 上層	古代	0.39	-1.53	P931(II)			
5-13	P920	I0H13	V 上層	古代	0.36	-1.42				
5-13	P924	I1H3	V 上層	古代	0.14	-1.28				
5-13	P927	I1H4	V 上層	古代	0.13	-1.26				
5-13	P928	I1H3	V 上層	古代	0.25	-1.37				

回収年	通称名	グリッド	標識番	時代	深度	底面標高	切り合い・隔壁	出土・遺物回収 遺物	備考
5-13	P929	11H5	V 上層	古代	0.47	-1.61	P947(新)		
5-13	P930	11H5	V 上層	古代	0.32	-1.49			
5-13	P931	11H5	V 上層	古代	0.29	-1.46	P917(新)		
5-13	P932	11H4	V 上層	古代	0.17	-1.32			
5-12-13	P934	10H3	V 上層	古代	0.23	-1.42			
5-12-13	P938	9K13	V 上層	古代	0.26	-1.50	○		
5-12	P941	9K16	V 上層	古代	0.10	-1.49	P903(新)		
5-12-13	P943	9J22	V 上層	古代	0.28	-1.60	○		
5-13	P944	10J23-24	V 上層	古代	0.20	-1.27	P945(新)		
5-13-30	P945	10J23-11J3	V 上層	古代	0.19	-1.29			
5-12	P949	10K2	V 上層	古代	0.17	-1.42	○		
5-12	P951	9K12	V 上層	古代	0.30	-1.62	○		
5-12	P952	9K18	V 上層	古代	0.15	-1.47			
5-12	P955	9K18	V 上層	古代	0.18	-1.47			
5-11-12	P956	8K13	V 上層	古代	0.35	-1.87	SN867(新)		
5-12	P957	9K17	V 上層	古代					
5-12	P958	9K12	V 上層	古代	0.25	-1.69	P947(新)	○	
5-13	P966	11J24	V 上層	古代	0.67	-1.74			
5-13	P967	11H9-14	V 上層	古代	0.29	-1.43	SN71(新)		
5-11-12	P968	8K25	V 上層	古代	0.30	-1.70			
5-13	P971	11H9	V 上層	古代	0.43	-1.55	SN71(新)	○	
5-13	P972	11J18	V 上層	古代	0.20	-1.49			
5-13	P973	12J4	V 上層	古代	0.15	-1.35			
5-13	P975	11J3-8	V 上層	古代	0.20	-1.44			
5-13	P976	11J14	V 上層	古代	0.19	-1.39	P978(日)		
5-12	P977	9J8	V 上層	古代	0.21	-1.56			
5-13	P978	11J14	V 上層	古代	0.17	-1.36	SD64(新), P978(新)		
5-13	P980	11J2	V 上層	古代	0.50	-1.77	P183(新)		
5-13	P981	11J2	V 上層	古代	0.30	-1.46	○		
5-13	P983	11J23	V 上層	古代	0.41	-1.62	P522(新)		
5-13	P985	10H25	V 上層	古代	0.48	-1.74			
5-13	P986	10H25	V 上層	古代	0.30	-1.49			
5-13	P987	12J3	V 上層	古代	0.15	-1.29	P522(新)	○	
5-13	P988	11J13	V 上層	古代	0.51	-1.78			
5-12-13	P989	9J25	V 上層	古代	0.20	-1.66			
5-13	P990	12H5	V 上層	古代	0.28	-1.87			
5-13	P991	11H19	V 上層	古代	0.37	-1.61	P937(新)		

回収年	通称名	グリッド	標識番	時代	深度	底面標高	切り合い・隔壁	出土・遺物回収 遺物	備考
5-13	P992	10E22	V 上層	古代	0.46	-1.75	P178-406(新)		
5-13	P993	10E24	V 上層	古代	0.34	-1.61	P937(新)	○	
5-13	P994	10E26	V 上層	古代	0.27	-1.36			○
5-13	P995	12H6	V 上層	古代	0.64	-1.72			
5-13	P996	12H6	V 上層	古代	0.35	-1.42			
5-13	P997	11H15	V 上層	古代	0.32	-1.63			
5-13	P998	11J9	V 上層	古代	0.22	-1.56	SD64(新)	○	
5-13	P1001	11J14	V 上層	古代	0.26	-1.49			
5-13	P1002	12J20	V 上層	古代	0.53	-1.66			○
5-14	P1003	12J20	V 上層	古代	0.47	-1.59			○
5-13	P1010	10J5	V 上層	古代	0.35	-1.48			○
5-13	P1011	12J11	V 上層	古代	0.46	-1.78			
5-13	P1013	11J4	V 上層	古代	0.27	-1.58			
5-13	P1014	11J18	V 上層	古代	0.61	-1.77			
5-13	P1015	11J3-8	V 上層	古代	0.32	-1.47			
5-13	P1016	11J18	V 上層	古代	0.23	-1.66	SN71(新)		
5-13	P1017	11J18-8	V 上層	古代	0.25	-1.58	PS99(新)		
5-13	P1024	11J7	V 上層	古代	0.30	-1.42			
5-13	P1025	12J9	V 上層	古代	0.56	-1.64			
5-13-14	P1027	12H13	V 上層	古代	0.25	-1.80			
5-13-14	P1028	12H13	V 上層	古代	0.23	-1.70	SD66(新)		
5-13-14	P1029	12H13	V 上層	古代	—	—	SD66(新)		
5-13-14	P1030	12H13	V 上層	古代	0.13	-1.52	SD66(新)		
5-13-14	P1032	12H24	V 上層	古代	0.21	-1.62	P1033(新)	○	
5-13-14	P1033	12H24	V 上層	古代	0.18	-1.60	P1032(日)		
5-14-15	P1034	15G1	V 上層	古代	0.22	-1.54			
5-14-15-28	P1035	15G1	V 上層	古代	0.21	-1.54	SK825(新)	○	
5-14-15	P1036	15F5	V 上層	古代	0.09	-1.49	SK825(新)		
5-14-15	P1037	15F9	V 上層	古代	0.20	-1.51	P761(新)		
5-13-14	P1039	12D25	V 上層	古代	0.27	-1.74			
5-13-14	P1040	12H24-25	V 上層	古代	0.45	-1.90			○
5-13-14	P1041	12H24-25	V 上層	古代	0.20	-1.74	P1043(日)		
5-14-15	P1043	15F15	V 上層	古代	0.20	-1.16	P1042(日)		
5-13	P1045	12G3	V 上層	古代	0.24	-1.81			
5-13	P1046	10J3	V 上層	古代	0.36	-1.65			
5-13-14	P1047	12G25	V 上層	古代	0.21	-1.39			
5-13-14	P1048	12H15	V 上層	古代	0.01	-1.52			

その他の遺構一覧表（下層）

回収年	通称名	グリッド	標識番	時代	深度	底面標高	切り合い・隔壁	出土・遺物回収 遺物	備考
6-35	P933	10J5, 10K1	V1 下層	古墳	0.99	-1.42	SN940(新)	○	52
6-34	P965	8H12	V1 下層	古墳	0.28	-1.82	SD111(新)		
6-34	P970	8K17-17	V1 下層	古墳	0.30	-1.88			
6-35	P1004	10J13	V1 下層	古墳	0.17	-1.48	SD925(新)		
6-35	P1005	10J13	V1 下層	古墳	0.23	-1.42	SD925(新)		
6-35	P1017	10J17-18	V1 下層	古墳	0.07	-1.49	SD925(新)		
6-37	P1031	12J7-12	V1 下層	古墳	0.30	-1.63	SD1000(新)		
6-35-37	P1050	10J19	V1 下層	古墳	0.57	-1.72	SD108(新)	○	52
6-39-42	P1053	11J9-14	V1 下層	古墳	0.21	-1.70	SD984(新)		

別表2 土器觀察表

- 凡・例

 - 1. 紫の上記は通名・グリーフ名を示す。
 - 2. 緑色の上記は、既存の開拓地としているものについて、その位置を示した。既存開拓地のものは通名。既存開拓地のものはグリーフ名を示す。
 - 3. 青の上記は、古代の開拓地で、現在は既存地であるもの。第1回に記した。
 - 4. 白の上記は、既存の開拓地で、既存地のものである。
 - 5. 赤の上記は、これまで開拓地、小町について記した。「石は長谷石」と「瓦は長谷瓦」は企画あるいは黒面では、「チ」と「チャト」(赤)は白井原の通称(北海道開拓団員)を表す。
 - 6. 黄色の上記は、既存の開拓地で、既存開拓地のものについては上記を行っており、分類別名については本文第1回中に記した。

6 色　同「新潟標準色盤」小山・竹原1967の記号を用いた。

6. 色 濃 「新説地質学」(小山・竹原 1967)の記述を用いた。

7. 塩・酸化物：硫酸共通の区画に記載。通常では酸化したものは青色あるいは緑色の色調であるものを指す。白色や青色のものはない。)

8. 製作・貯蔵：本邦では、製造者と貯蔵者は同一の者を指す。したがって、本邦の新規登録後は、貯蔵場所の表示を「(社)日本薬局方」または「(社)日本薬学会」等にする。海外では、本邦は「日本」、他の国は「(社)日本薬局方」等の表記である。貯蔵場所が記されていないものは、貯蔵部を省略する。

9. 進・出庫率：百分率で示す。また付いた表には、実測値と明らかに同一値と思われるものを加えての進・出庫率を示す。

10. 薬物-使用歴等 二次的な粗跡について確認できるものを記した。部位については「脚作成・文様等」に同じ。

測定番号 No.	測定位置 部位名 No.	組合せ番号 グリッド 部位	種類	組成			高さ(cm)	色調	形状	製作年 内面	文様等 外面	適合率 適合部位 内面 外面	付着物-使用経年等 備考		
				固形物 分類	有機物 分類	分解 分類									
45	24	SII2005_11H1-12-16- F118	I	P93-1,断.93(15.9)J14-21, 1064.1019-23,1031-2, 22,1111-12-14-17	土壌層(古代) 長縫	B1 灰・石・赤	18.6	-	31.9 C4-A-暗 (7.5YR7/4)	鱗化 ハケヌ	(1)ヨコナデ 体・カキメ・ハケヌ	口～体	4/36		
45	25	SII2005_11H2-23 F522	I	土壌層(古代) 小縫	A 灰・黒	12.6	-	C4-A-暗 (7.5YR7/4)	鱗化 ヨコナデ	(1)ヨコナデ 体・ハケヌ	口～体	6/36	変色(緑色)?		
45	26	SII2005_11H2-23 F522	2-4	土壌層(古代) 長縫	A2 灰	21.0	-	C4-A-暗 (7.5YR7/4)	鱗化 ハケヌ	ハケヌ	口～体	2/36	X.X.		
45	27	SII2005_11H10-15 F224	2-4	SK185-1層, 11H15	土壌層(古跡) 有台桿	A 灰	-	9.7 K(Nb1)	還元 ヨロナデ	体・ヨロナデ 底・ナガキ	底・真	36/36	底:無色		
45	28	SII2005_11H1-18 F836	1	土壌層(古跡) 無台桿	B1 灰・チ・赤	9.2	-	C4-A-暗 (7.5YR8/4)	鱗化 ミガキ	(1)ヨコナデ 体・チナデ	口～受体	8/36			
45	29	SII2006_11G15.11H01 F49	1	11J7	土壌層(古跡) 無台桿	A 灰	-	C4-A-暗 (7.5YR5/3)	鱗化 ハケヌ・ナデ	ハケヌ・ナデ	把手				
45	30	SII2009_11H4-19 F792	1	11H6	土壌層(古跡) 小縫	A 灰・赤	12.8	-	C4-A-暗 (7.5YR7/4)	鱗化 (1)ヨロナデ	口～体	7/36	(1)固化物 X.X.		
45	31	SK183_11H2-3 111B	I	SK185-1層, 1093-22-23	土壌層(古跡) 有台桿	A 灰	13.4	8.2 3.7 K(Nb1)	還元 ヨロナデ	(1)ヨロナデ 底・ハケヌ	口～底	14/36	26/36		
45	32	SK185_11H2 1-3	11H22,11H2	土壌層(古跡) 無台桿	B1 灰	12.8	9.8	3.6 K(Nb1/5/1)	還元 ヨロナデ	ヨロナデ 底・ハケヌ	口～底	15/36	29/36		
45	33	SK185_11H2	I	11H2	土壌層(古跡) 有台桿	B1 灰	13.6	9.7	3.8 K(Nb1/5Y7/1)	還元 ヨロナデ	ヨロナデ 底・ナガキ	口～底	15/36	23/36	
45	34	SK185_11H2	I	11H2	土壌層(古跡) 無台桿	B1 灰	14.2	10.6	3.8 オリーブ(2K (2.5G7Y5/1)	還元 ヨロナデ	ヨロナデ 底・ナガキ	口～底	13/36	28/36(底:板状)	
45	35	SK185_11H2	I	10912-21-22,11H2,SD61	土壌層(古跡) 有台桿	B 灰	14.4	-	3.1 K(Nb1)	還元 ヨロナデ	ヨロナデ	口	つまみ~		
46	36	SK243_12H20,12H16 2		土壌層(古跡) 有台桿	B1 灰	13.4	10.4	3.2 オリーブ(2K (2.5G7Y6/1)	還元 ヨロナデ	ヨロナデ 底・ハケヌ	口～底	31/36	36/36 底:無色・斜 底:無色		
46	37	SK243_12H20,12H16 2-20-24-25,15P10, 底端33/1231),試験83T 13H4-5		土壌層(古跡) 無台桿	B	11.3	-	25.1 黄灰(2.5Y5/1)	黄灰(2.5Y5/1)	還元 当面部・ヨロナデ	タキヌ・ヨロナデ	口～底	11/36	自然物 表面面積	
46	38	SK23_9J18	9J16-18-19,10K1	土壌層(古跡) 無台桿	赤 底C チ	-	5.0	-	黄灰 (10YR5/2)	鱗化 ハケヌ	ミガキ 小赤	体～底	14/36		
46	39	SK23_10P10	I	10K16	土壌層(古跡) 有台桿	A 灰	13.2	7.8	3.8 黄灰(2.5Y6/1)	黄灰 (10BG4/1)	還元 ヨロナデ	ヨロナデ 底・ナガキ	口～底	34/36	36/36 底:無色
46	40	SK23_10P10	I	10K16	土壌層(古跡) 無台桿	A 灰・チ・赤	14.7	9.2	4.6 C4-A-暗 (7.5YR6/1)	還元 (7.5YR6/1)	ヨロナデ チ・ナガキ	ヨロナデ 底・ナガキ	口～底	15/36	18/36 底:無色
46	41	SK225_10P10	10P2-10	土壌層(古跡) 有台桿	B 灰	14.8	-	2.4 浅黄(2.5Y7/3)	浅黄(2.5Y7/3)	還元 ヨロナデ	ヨロナデ	天～口	20/36		
46	42	SK225_15G1	I	14G20,15G1	土壌層(古跡) 無台桿	B1 灰	7.6	6.0	2.7 (10YR7/3)	C4-A-暗 (10YR5/2)	鱗化 ナダ	ヨロナデ	口～底	21/36	25/36(1)固化物
46	43	SK225_15P5	I	15P5,15G1	土壌層(古跡) 無台桿	B1 灰	9.2	6.2	2.5 (10YR5/3)	C4-A-暗 (10YR5/4)	鱗化 ナダ	ヨロナデ 底・ナガキ	口～底	18/36	29/36(底:無色)
46	44	SK225_15G1	I	15G1	土壌層(古跡) 無台桿	B1	8.6	6.2	2.5 (10YR5/4)	C4-A-暗 (10YR5/4)	鱗化 ミガキ	(1)ヨコナデ 体・底・カエリ	口～底	5/36	21/36(底: カエリ)
46	45	SK225_15P5	I	14P25,15P5,15G1	土壌層(古跡) 無台桿	A 灰・赤	9.4	4.6	3.8 (10YR5/2)	黄灰 (10YR5/2)	鱗化 ナダ	ヨロナデ	口～底	20/36	36/36(1)固化物
46	46	SK225_15P5	14G21,15P5	黑色土基(古跡) 無台桿	B2 灰・黒	10.2	6.0	3.6 黄灰(2.5Y5/3)	C4-A-暗 (10YR6/3)	鱗化 黒色地質	ミガキ ナダ	ヨロナデ 底・ナガキ	口～底	3/36	20/36(底:無色)
46	47	SK650_10J23	10J23	土壌層(古跡) 小縫	B	-	14.2	5.6	14.9 (10YR7/4)	にべ・黄灰 (10YR7/4)	鱗化 (1)ヨロナデ	ヨロナデ チ・ナガキ	口～底	34/36	33/36(1)固化物 (1):スル 体:スル
46	48	SK71_11H10		土壌層(古跡) 有台桿	B 灰	A	10.9	5.7	4.5 K(Nb1)	K(Nb1)	還元 ヨロナデ	ヨロナデ チ・ナガキ	口～底	2/36	14/36
46	49	SK71_11H10	11H10	土壌層(古跡) 表面・知園 型	A	9.4	-	3.1 K(H16/2)	C4-A-暗 (7.5Y7/1)	還元 ヨロナデ	ヨロナデ	口	つまみ~	28/36	
46	50	SK71_11H10	11H9-10	土壌層(古跡) 知園	A	7.1	4.9	9.5 K(H16/2)	C4-A-暗 (7.5Y6/1)	還元 ヨロナデ	ヨロナデ	口～底	33/36	36/36 49H・接触部あり	
46	51	SK71_11H4-9	11H8-9-10	土壌層(古跡) 長縫層	A	(9.7)	-	9.7 (7.5YR6/1)	C4-A-暗 (7.5YR5/1)	還元 ヨロナデ	ヨロナデ	口～底	2/36	高圧軸部分調 整	
46	52	SK71_11H3-4	11H3-4	土壌層(古跡) 長縫	B1 灰・赤・ 灰	-	22.5	-	禮(7.5YR6/6)	鱗化 (1)ヨロナデ	ヨロナデ 体・カキメ・ハケヌ	口～体	17/36		
47	53	SK71_11H14	11H14	漆生土基 漆	B 灰・赤	B1 灰・赤	17.1	-	-(10YR7/3)	鱗化 (10YR7/3)	ヨロナデ チ・ナガキ	ヨロナデ	口～底	9/36	

固形 割合 %	位置 名 通称名 %	結合箇所 部位	種類	加熱 時間 分			加热 条件 分			温度 度(cm)			色調			内面	外面	製造年 月	付物・性質 内面 外面	備考		
				内 部 高 度	底 部 高 度	内 部 温 度	内 部 温 度	内 部 温 度	内 部 温 度	内 部 温 度	内 部 温 度	内 部 温 度	内 部 温 度	内 部 温 度	内 部 温 度							
47	54 SX71 11H10	11H10	獨立土器	深鉢	石・陶	-	-	-	-	高灰 度	100(B6/1) (100W6/2)	100(B6/1) (100W6/2)	白色	米白色	米白色	平打凹輪天・ミガキ	体	通称番号	11H10	付物・性質 内面 外面	備考	
47	55 SX100 10H22, 11H2	10H7	土器部(古代)	長甕	A1 石・灰・手・ 陶	24.5	-	24.3	-	高灰 度	100(B6/1) (100W6/2)	100(B6/1) (100W6/2)	白色	米白色	米白色	口～底 10YR8/6 (5YR8/6)	5/36	付物・性質 内面 外面	10H22, 11H2	付物・性質 内面 外面	変色(被熱)	
47	56 SX100 11H2	10H22	土器部(古代)	長甕	A2a 石・陶	-	9.9	-	-	高灰 度	100(B6/1) (100W6/2)	100(B6/1) (100W6/2)	白色	米白色	米白色	ハケメーチテ 10YR8/4 (5YR8/4)	19/36	付物・性質 内面 外面	11H2	付物・性質 内面 外面	火炎	
47	57 SX100 10H22, 11H2-3	10H22	P10-0-無, 10H22, 10G19, 10H13-1-9+14-18+21-22- 23-24, 11H1-3-7-8- 13, 14E2	土器部(古代)	長甕	B1 石・灰・手・ 陶	-	-	-	高灰 度	100(B6/1) (100W6/2)	100(B6/1) (100W6/2)	白色	米白色	米白色	ハケメ・カヌメ 10YR7/4 (5YR7/4)	10YR8/6 (5YR8/6)	付物・性質 内面 外面	10H22, 11H2-3	付物・性質 内面 外面	火炎	
47	58 SX573 13G13	13G13	葉巻部(古代)	無柄杯	BII 瓦	A	13.0	8.7	3.3	青白 度	100(B6/1) (100W6/1)	100(B6/1) (100W6/1)	浅青白 度	淡青白 度	淡青白 度	透光 10YR8/3 (5YR8/3)	10YR8/3 (5YR8/3)	付物・性質 内面 外面	13G13	付物・性質 内面 外面	火炎	
47	59 SX573 13G13	1	土器部(古代)	小瓶	A 石・手・ 陶	-	7.1	-	-	浅青白 度	100(B6/1) (100W6/1)	100(B6/1) (100W6/1)	白色	米白色	米白色	透光 10YR8/4 (5YR8/4)	10YR8/4 (5YR8/4)	付物・性質 内面 外面	13G13	付物・性質 内面 外面	火炎	
47	60 SX573 13G8	13G8	1 12G18-19, 13G9-14-15	土器部(古代)	罐	A 瓦	-	11.6	-	-	浅青白 度	100(B6/1) (100W6/1)	100(B6/1) (100W6/1)	白色	米白色	米白色	透光 10YR8/4 (5YR8/4)	10YR8/4 (5YR8/4)	付物・性質 内面 外面	13G8	付物・性質 内面 外面	火炎
47	61 SX573 13G13-14	1-2	13G15	土器部(古代)	短脚罐	瓦・手・ 陶	-	8.4	-	-	浅青白 度	100(B6/1) (100W6/1)	100(B6/1) (100W6/1)	白色	米白色	米白色	透光 10YR8/3 (5YR8/3)	10YR8/3 (5YR8/3)	付物・性質 内面 外面	13G13-14	付物・性質 内面 外面	火炎
47	62 SX573 13G13	1-2	13G15	土器部(古代)	罐	BII 瓦・手・ 陶	-	18.0	-	-	浅青白 度	100(B6/1) (100W6/1)	100(B6/1) (100W6/1)	白色	米白色	米白色	透光 10YR8/2 (5YR8/2)	10YR8/2 (5YR8/2)	付物・性質 内面 外面	13G13	付物・性質 内面 外面	火炎
47	63 SX606 13G6	13G6	土器部(古器)	罐	A 瓦	G	-	7.5	-	-	浅青白 度	100(B6/1) (100W6/1)	100(B6/1) (100W6/1)	白色	米白色	米白色	透光 10YR8/2 (5YR8/2)	10YR8/2 (5YR8/2)	付物・性質 内面 外面	13G6	付物・性質 内面 外面	火炎
47	64 SX867 8K13-14	8K13-14	葉巻部(古器)	瓶	7 瓦	A	-	-	-	高灰 度	100(B5/1) (100W5/1)	100(B5/1) (100W5/1)	黑色	深黑色	深黑色	透光 10YR5/1 (5YR5/1)	10YR5/1 (5YR5/1)	付物・性質 内面 外面	8K13-14	付物・性質 内面 外面	火炎	
47	65 SX867 8K14	8K14	葉巻部(古器)	瓶	8K14 瓶	A 瓦	-	15.8	-	-	高灰 度	100(B5/1) (100W5/1)	100(B5/1) (100W5/1)	黑色	深黑色	深黑色	透光 10YR5/1 (5YR5/1)	10YR5/1 (5YR5/1)	付物・性質 内面 外面	8K14	付物・性質 内面 外面	火炎
48	66 SX867 8K13	8K13	葉巻部(古器)	瓶	8K13 瓶	A 瓦	D	15.4	-	-	高灰 度	100(B5/1) (100W5/1)	100(B5/1) (100W5/1)	黑色	深黑色	深黑色	透光 10YR5/1 (5YR5/1)	10YR5/1 (5YR5/1)	付物・性質 内面 外面	8K13	付物・性質 内面 外面	火炎
48	67 SX867 8K13	8K13	土器部(古器)	瓶	BII 瓦	G	(16.5)	-	-	高灰 度	100(B5/1) (100W5/1)	100(B5/1) (100W5/1)	黑色	深黑色	深黑色	透光 10YR5/1 (5YR5/1)	10YR5/1 (5YR5/1)	付物・性質 内面 外面	8K13	付物・性質 内面 外面	火炎	
48	68 P21 8K25, 9K5	8K25, 9K5	土器部(古器)	無柄杯	A II 瓦・手・ 陶	12.5 瓦	4.6	4.6	-	高灰 度	100(B5/1) (100W5/1)	100(B5/1) (100W5/1)	黑色	深黑色	深黑色	透光 10YR5/1 (5YR5/1)	10YR5/1 (5YR5/1)	付物・性質 内面 外面	8K25, 9K5	付物・性質 内面 外面	火炎	
48	69 P21 8K25, 9K5	9K5	土器部(古器)	無柄杯	A II 瓦・手・ 陶	11.8	4.5	3.9	-	高灰 度	100(B5/1) (100W5/1)	100(B5/1) (100W5/1)	黑色	深黑色	深黑色	透光 10YR5/1 (5YR5/1)	10YR5/1 (5YR5/1)	付物・性質 内面 外面	8K25, 9K5	付物・性質 内面 外面	火炎	
48	70 P21 8K25, 9K5	9K5	土器部(古器)	壺	I	(9.0)	-	-	-	明赤 度	100(B5/1) (100W5/1)	100(B5/1) (100W5/1)	黑色	深黑色	深黑色	透光 10YR5/1 (5YR5/1)	10YR5/1 (5YR5/1)	付物・性質 内面 外面	8K25, 9K5	付物・性質 内面 外面	火炎	
48	71 P21 9K5	9K5	土器部(古器)	壺	G 瓦・手・ 陶	(13.3)	-	-	-	高灰 度	100(B5/1) (100W5/1)	100(B5/1) (100W5/1)	黑色	深黑色	深黑色	透光 10YR5/1 (5YR5/1)	10YR5/1 (5YR5/1)	付物・性質 内面 外面	9K5	付物・性質 内面 外面	火炎	
48	72 P104 11H17-18	1-2	11G21, 10H23-24, 11G15, 11H14-5-16, 11H13-16-18	土器部(古器)	長甕	A II 瓦・手・ 陶	21.8	-	-	高灰 度	100(B5/1) (100W5/1)	100(B5/1) (100W5/1)	黑色	深黑色	深黑色	透光 10YR5/1 (5YR5/1)	10YR5/1 (5YR5/1)	付物・性質 内面 外面	11H17-18	付物・性質 内面 外面	火炎	
48	73 P104 11H18	11H18	土器部(古器)	長甕	A II 瓦・手・ 陶	-	-	-	-	高灰 度	100(B5/1) (100W5/1)	100(B5/1) (100W5/1)	黑色	深黑色	深黑色	透光 10YR5/1 (5YR5/1)	10YR5/1 (5YR5/1)	付物・性質 内面 外面	11H18	付物・性質 内面 外面	火炎	
48	74 P126 11H17-18	1 11H15	獨立土器	深鉢	瓦	-	-	-	-	高灰 度	100(B5/1) (100W5/1)	100(B5/1) (100W5/1)	黑色	深黑色	深黑色	透光 10YR5/1 (5YR5/1)	10YR5/1 (5YR5/1)	付物・性質 内面 外面	11H17-18	付物・性質 内面 外面	火炎	
48	75 P153 9J24-25, 10J4- 5	10J4-9-10-11-19, 12H17-20-24, 12H16-17	土器部(古器)	長甕	BII 瓦・手・ 陶	-	-	-	-	高灰 度	100(B5/1) (100W5/1)	100(B5/1) (100W5/1)	黑色	深黑色	深黑色	透光 10YR5/1 (5YR5/1)	10YR5/1 (5YR5/1)	付物・性質 内面 外面	9J24-25, 10J4-5	付物・性質 内面 外面	火炎	
48	76 P200 10H20	10H20	P189, 10H13-16-17-18	葉巻部(古器)	瓶	B 瓦	A	15.4	-	-	高灰 度	100(N6/1) (100W6/1)	100(N6/1) (100W6/1)	黑色	深黑色	深黑色	透光 10YR6/1 (5YR6/1)	10YR6/1 (5YR6/1)	付物・性質 内面 外面	10H20	付物・性質 内面 外面	火炎
48	77 P332 12H25	12H25	1 12H25	土器部(古器)	壺	C1 瓦・手・ 陶	(16.8)	-	-	高灰 度	100(B5/1) (100W5/1)	100(B5/1) (100W5/1)	黑色	深黑色	深黑色	透光 10YR7/3 (5YR7/3)	10YR7/3 (5YR7/3)	付物・性質 内面 外面	12H25	付物・性質 内面 外面	火炎	
48	78 P402 10H25, 11H5-8	10H25, 11H5-8	葉巻部(古器)	無柄杯	B II 瓦	A	10.2	4.6	4.1	青灰 度	100(B5/1) (100W5/1)	100(B5/1) (100W5/1)	黑色	深黑色	深黑色	透光 10YR7/6 (5YR7/6)	10YR7/6 (5YR7/6)	付物・性質 内面 外面	10H25, 11H5-8	付物・性質 内面 外面	火炎	
48	79 P440 12G20	12G20, 12H16	葉巻部(古器)	無柄杯	A 瓦	G	13.7	8.6	3.9	集灰 度	100(B5/1) (100W5/1)	100(B5/1) (100W5/1)	黑色	深黑色	深黑色	透光 10YR7/6 (5YR7/6)	10YR7/6 (5YR7/6)	付物・性質 内面 外面	12G20, 12H16	付物・性質 内面 外面	火炎	
48	80 P908 11H5	3-6 10H17, 11H5-25, 11H1-6	土器部(古器)	小瓶	B 瓦・手・ 陶	-	7.7	-	-	高灰 度	100(B5/1) (100W5/1)	100(B5/1) (100W5/1)	黑色	深黑色	深黑色	透光 10YR7/4 (5YR7/4)	10YR7/4 (5YR7/4)	付物・性質 内面 外面	11H5	付物・性質 内面 外面	火炎	
48	81 P725 14P19	3 14P19	獨立土器	深鉢	石・手・ 陶	20.0	-	-	-	高灰 度	100(Y4/3) (100W4/3)	100(Y4/3) (100W4/3)	黑色	深黑色	深黑色	透光 10YR7/4 (5YR7/4)	10YR7/4 (5YR7/4)	付物・性質 内面 外面	14P19	付物・性質 内面 外面	火炎	
48	82 P725 14P19	3 14P19	獨立土器	深鉢	石・手・ 陶	-	-	-	-	高灰 度	100(Y4/3) (100W4/3)	100(Y4/3) (100W4/3)	黑色	深黑色	深黑色	透光 10YR7/4 (5YR7/4)	10YR7/4 (5YR7/4)	付物・性質 内面 外面	14P19	付物・性質 内面 外面	火炎	
48	83 P725 14P19	3 14P19	獨立土器	深鉢	石・手・ 陶	-	6.1	-	-	高灰 度	100(Y4/3) (100W4/3)	100(Y4/3) (100W4/3)	黑色	深黑色	深黑色	透光 10YR7/3 (5YR7/3)	10YR7/3 (5YR7/3)	付物・性質 内面 外面	14P19	付物・性質 内面 外面	火炎	
48	84 SK20 12P18	12P18	土器部(古器)	壺	不開	G 瓦	-	-	-	高灰 度	100(Y4/3) (100W4/3)	100(Y4/3) (100W4/3)	黑色	深黑色	深黑色	透光 10YR7/3 (5YR7/3)	10YR7/3 (5YR7/3)	付物・性質 内面 外面	12P18	付物・性質 内面 外面	火炎	
48	85 SK20 12P18	12P18	土器部(古器)	壺	A 瓦	-	6.0	-	-	高灰 度	100(Y4/3) (100W4/3)	100(Y4/3) (100W4/3)	黑色	深黑色	深黑色	透光 10YR7/3 (5YR7/3)	10YR7/3 (5YR7/3)	付物・性質 内面 外面	12P18	付物・性質 内面 外面	火炎	

品番 No.	規格 No.	出力位置 遮断名 グリッド	組合開閉	種類	基準			基準 内面 外物	基準 内面 外物	基準 内面 外物	基準 内面 外物	基準 内面 外物				
					遮断名	分類	内物									
49	86	SK210	12F17	上端部(古端)	黒	D ₁ -G ₁ -赤	20.8	-	灰端	(D ₁)V84(2) (7.5V84(2))	化物	(D ₁)V84 (7.5V84)ナ	ハゲメ	(D ₁)体 3/36		
49	87	SK689	12F23	1-2	上端部(古端)	黒	B1-G ₁ -赤	20.0	4.0	灰端	(D ₁)V84(2) (7.5V84(2))	化物	(D ₁)V84 (7.5V84)ナ	ハゲメ	(D ₁)体 35/36	
49	88	SK936	9K2-7	上端部(古端)	黒白	黒B	-	(12.4)	-	灰端	(D ₁)V87(3) (7.5V87(3))	化物	(D ₁)コナデ	ナガ	(D ₁)受体 3/36	
49	89	SK936	9K2-7	4	上端部(古端)	黒白	黒A	-	(16.8)	-	灰端	(D ₁)V87(3) (7.5V87(3))	化物	(D ₁)コナデ	ナガ	(D ₁)受体 3/36
49	90	SK936	9K2-7	5	上端部(古端)	黒	黒	-	-	-	(D ₁)V87(3)	化物	(D ₁)ガキ	ナガ	体	
49	91	SK936	9K2-7	上端部(古端)	黒	J-G	12.8	-	灰端	(D ₁)V85(2) (7.5V85(2))	化物	(D ₁)ガキ	ナガ	(D ₁)受体 4/36		
49	92	SK936	9K2-7	上端部(古端)	黒	L	(7.8)	-	灰端	(D ₁)V85(3) (7.5V85(3))	化物	(D ₁)コナデ	ナガ	(D ₁)受体 3/36		
49	93	SK936	9K2-7	I	上端部(古端)	黒	J-G	-	-	灰端	(D ₁)V85(3) (7.5V85(3))	化物	(D ₁)ガキ+ナガ	ナガ	体	
49	94	SK936	9K2-7	BJ15-20.9K	上端部(古端)	黒	D-G ₁ -赤	18.0	-	灰端	(D ₁)V87(4) (7.5V87(4))	化物	(D ₁)ガキ	ナガ	(D ₁)体 14/36	
49	95	SK936	9K2-7	BJ15-19-20-25	上端部(古端)	黒	黒A-G ₁ -赤	-	0.5	-	灰端	(D ₁)V87(4) (7.5V87(4))	化物	(D ₁)ガキ	ナガ	(D ₁)受体 36/36
49	96	SK936	9K2-7	上端部(古端)	黒	不明	G ₁ -赤	12.0	-	灰端	(D ₁)V85(4) (7.5V85(4))	化物	(D ₁)コナデ	ナガ	体	
49	97	SK936	9K2-7	II	上端部(古端)	黒	B1-G ₁	(15.6)	-	灰端	(D ₁)V85(2) (7.5V85(2))	化物	(D ₁)コナデ	ナガ	(D ₁)受体 4/36	
49	98	SK936	9K2-7	5	上端部(古端)	黒	B1-J-G ₁	(18.7)	-	灰端	(D ₁)V85(1) (7.5V85(1))	化物	(D ₁)コナデ	ナガ	体	
49	99	SK936	9K2-7	上端部(古端)	黒	B1-長	(21.8)	-	灰端	(D ₁)V85(4) (7.5V85(4))	化物	(D ₁)コナデ	ナガ	(D ₁)受体 1/36		
49	100	SK936	9K2-7	上端部(古端)	黒	B1-G ₁	(20.8)	-	灰端	(D ₁)V85(3) (7.5V85(3))	化物	(D ₁)コナデ	ナガ	(D ₁)受体 2/36		
49	101	SK936	9K2-7	上端部(古端)	黒	B2	(19.6)	-	灰端	(D ₁)V85(3) (7.5V85(3))	化物	(D ₁)コナデ	ナガ	(D ₁)受体 1/36		
50	102	SK942	9K14	上端部(古端)	黒	L	(7.7)	-	灰端	(D ₁)V85(2) (7.5V85(2))	化物	(D ₁)ガキ	ナガ	(D ₁)受体 2/36		
50	103	SK942	9K14	上端部(古端)	黒	不明	H ₁ -G ₁ -赤	-	2.8	-	(D ₁)V85(3) (7.5V85(3))	化物	ケヌリ	体~底	36/36	
50	104	SK942	9K14	上端部(古端)	黒	B1	(19.4)	-	-	(D ₁)V85(2) (7.5V85(2))	化物	(D ₁)コナデ	ナガ	(D ₁)受体 1/36		
50	105	SK942	9K14	上端部(古端)	黒	B2	(18.9)	-	-	(D ₁)V85(3) (7.5V85(3))	化物	(D ₁)コナデ	ナガ	(D ₁)受体 1/36		
50	106	SD109	11L3	11L3	上端部(古端)	黒	B1-G ₁ -黒	13.3	-	灰端	(D ₁)V86(4) (7.5V86(4))	化物	(D ₁)ガキ	ナガ	(D ₁)受体 6/36	
50	107	SD108	11L7	上端部(古端)	黒	B2-R ₁ -黒	(17.5)	-	灰端	(D ₁)V85(3) (7.5V85(3))	化物	(D ₁)コナデ	ナガ	(D ₁)受体 3/36		
50	108	SD108	10J19	P1050-1周	上端部(古端)	黒	D ₁ -R ₁ -黒	19.9	-	灰端	(D ₁)V85(4) (7.5V85(4))	化物	(D ₁)コナデ	ナガ	(D ₁)受体 5/36	
50	109	SD108	10J22	上端部(古端)	手握ね上げ	黒-雲	(8.0)	-	-	(D ₁)V85(3) (7.5V85(3))	化物	ナガ	ナガ	(D ₁)受体 3/36		
50	110	SD109	9L1	上端部(古端)	黒白	B4	(10.8)	-	-	(D ₁)V86(3) (7.5V86(3))	化物	(D ₁)ガキ	ナガ	(D ₁)受体 1/36		
50	111	SD109	8L21	上端部(古端)	黒白	H5-G ₁	(13.7)	-	-	(D ₁)V86(6) (7.5V86(6))	化物	(D ₁)ガキ	ナガ	(D ₁)受体 3/36		
50	112	SD109	10E25	上端部(古端)	黒白	G ₁ -チ-赤	-	-	-	(D ₁)V85(8/2) (7.5V85(8/2))	化物	受底+モガキ	モガキ	受底+モ		
50	113	SD109	10E12	上端部(古端)	黒白	黒B	-	(10.2)	-	灰端	(D ₁)V86(2) (7.5V86(2))	化物	モガキ	モガキ	2/36	
50	114	SD109	9K8	8L13	上端部(古端)	黒	D-G ₁ -チ-赤	16.5	-	灰端	(D ₁)V86(3) (7.5V86(3))	化物	モガキ	モガキ	(D ₁)受体 1/36	
50	115	SD109	9K5	8K18-9K4-9	上端部(古端)	赤	A1-R ₁ -黒	-	-	灰端	(D ₁)V86(4) (7.5V86(4))	化物	モガキ	モガキ	体内面直通	
50	116	SD109	9-15F-L	1	上端部(古端)	不明	R ₁	-	-	(D ₁)V85(3) (7.5V85(3))	化物	モガキ	ナガ	(D ₁)受体 1/36		
50	117	SD109	9K8	上端部(古端)	黒	R2-G ₁	(19.9)	-	-	(D ₁)V86(4) (7.5V86(4))	化物	(D ₁)コナデ	モガキ	(D ₁)受体 2/36		

品目 規格 No.	通称名 通称名 グリッド 網目	組合開張	種類	組合 開張名 分類				組合物 分類		組合 底材		組合 高さ		組合 幅		色調		成形		製作機・文様等		通称番号		付着物・使用経緯等		備考		
				内面	外面	内面	外面	内面	外面	内面	外面	内面	外面	内面	外面	内面	外面	内面	外面	内面	外面	内面	外面	内面	外面			
50_118	SD109_9K5		上漿器(古樽)	漆	B1	-	-	-	-	にべる・高強	にべる・高強	(10YR6/3)	(10YR6/3)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
50_119	SD109_9K5,9K1		上漬器(古樽)	漆	B1	長	-	17.3	-	にべる・高強	にべる・高強	(2.5YR4/1)	(2.5YR4/1)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
50_120	SD109_10J12		上漬器(古樽)	漆	B2	底・G・高	(16.8)	-	-	にべる・高強	にべる・高強	(10YR4/2)	(10YR4/2)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
50_121	SD109_9K5		上漬器(古樽)	漆	B2	底・G・高	(16.4)	-	-	にべる・高強	にべる・高強	(10YR4/1)	(10YR4/1)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
50_122	SD109_8J21,9K5		上漬器(古樽)	漆	L	-	-	4.5	-	にべる・高強	にべる・高強	(10YR4/2)	(10YR4/2)	無	無	ケタツリ	ケタツリ	ケタツリ	ケタツリ	ケタツリ	ケタツリ	ケタツリ	ケタツリ	ケタツリ	ケタツリ	ケタツリ	ケタツリ	ケタツリ
50_123	SD109_10J4		上漬器(古樽)	漆	不明	底・G・高	-	4.0	-	にべる・高強	にべる・高強	(10YR7/3)	(10YR7/3)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
50_124	SD109_11H11	P118-1脚-R03,10J8, 11H11-16	生水土器	漆	底・G	-	33.5	-	-	にべる・高強	にべる・高強	(10YR6/3)	(7.5YR6/2)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
50_125	SD109_13G10,10 13G10-12		醸造土器	漆器	G+ナ	15.4	5.0	14.9	-	にべる・高強	にべる・高強	(10YR6/3)	(10YR6/3)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
51_126	SD110_9J19		上漬器(古樽)	高杯	A?	底・露	(11.8)	-	-	にべる・高強	にべる・高強	(10YR6/4)	(10YR6/4)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
51_127	SD110_10J1		上漬器(古樽)	高杯	露	長	-	13.2	-	にべる・高強	にべる・高強	(10YR6/4)	(10YR6/4)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
51_128	SD110_9J19		上漬器(古樽)	露	切口	底・G・海	-	11.5	-	にべる・高強	にべる・高強	(10YR6/3)	(10YR6/3)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
51_129	SD110_9J19	J12-18	上漬器(古樽)	露	A	底・G	-	9.2	-	にべる・高強	にべる・高強	(2.5YR6/4)	(2.5YR6/4)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
51_130	SD110_9J18		上漬器(古樽)	漆	H1	88	-	(21.0)	-	にべる・高強	にべる・高強	(2.5YR7/2)	(2.5YR7/2)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
51_131	SD110_13G11	13G11	上漬器(古樽)	漆	B2	-	18.0	-	-	にべる・高強	にべる・高強	(7.5YR4/3)	(7.5YR4/2)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
51_132	SD110_9J19		上漬器(古樽)	漆	B2	底	(16.6)	-	-	にべる・高強	にべる・高強	(10YR6/3)	(10YR6/3)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
51_133	SD111_8K8		上漬器(古樽)	漆	N	底	-	-	-	にべる・高強	にべる・高強	(2.5YR6/4)	(2.5YR6/4)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
51_134	SD111_8K11		上漬器(古樽)	漆	G	底・露	(13.6)	22.9	-	にべる・高強	にべる・高強	(10YR6/4)	(10YR6/4)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
51_135	SD068_10K3		上漬器(古樽)	漆	I	(9.9)	-	-	-	にべる・高強	にべる・高強	(2.5YR5/4)	(2.5YR5/4)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
51_136	SD025_11H		土器	上漬器(古樽)	高杯	脚	H	-	-	浅高強	浅高強	(10YR8/3)	(10YR8/3)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
51_137	SD025_10J12		上漬器(古樽)	脚	D	底	14.0	-	10.5	にべる・高強	にべる・高強	(10YR8/4)	(10YR8/4)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
51_138	SD094_13G1		上漬器(古樽)	脚	A	底	-	-	-	にべる・高強	にべる・高強	(10YR7/2)	(10YR7/2)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
51_139	SD094_12G17-22		上漬器(古樽)	漆	G	底・G+ナ	16.6	-	-	にべる・高強	にべる・高強	(10YR6/3)	(10YR6/2)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
51_140	SD094_12G22-23		上漬器(古樽)	漆	G7	底・海	-	-	-	にべる・高強	にべる・高強	(10YR6/3)	(10YR6/2)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
51_141	SD094_12G22-23		上漬器(古樽)	漆	G	底・海	14.8	-	-	にべる・高強	にべる・高強	(10YR6/2)	(10YR7/1)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
51_142	SD094_10H12	SD109-(10J12)	上漬器(古樽)	漆	C1	底・G+ナ	(17.2)	-	-	にべる・高強	にべる・高強	(10YR7/4)	(10YR7/4)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
51_143	SSX97_8L11		上漬器(古樽)	高杯	H	底	14.0	8.6	13.9	にべる・高強	にべる・高強	(10YR6/3)	(10YR6/2)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
51_144	SSX97_8L11		上漬器(古樽)	漆	B1	G	17.8	-	23.7	にべる・高強	にべる・高強	(10YR4/2)	(10YR4/2)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
51_145	SSX97_8L11	8L12,赤崩14(B10)	上漬器(古樽)	漆	B2	底・G+海	27.4	-	-	にべる・高強	にべる・高強	(7.5YR6/4)	(7.5YR6/4)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
51_146	SSX97_8L11		上漬器(古樽)	漆	B2	海	(16.9)	-	-	にべる・高強	にべる・高強	(10YR6/3)	(10YR6/2)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
51_147	SSX97_8L11		上漬器(古樽)	漆	C1	底・ナ	(16.0)	-	-	にべる・高強	にべる・高強	(10YR6/3)	(10YR6/2)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
51_148	SSX97_8L11		上漬器(古樽)	脚台	B1	底	-	-	-	にべる・高強	にべる・高強	(10YR7/3)	(10YR7/2)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ
51_149	SSX96_10K3		SD110-(0J19),9J17,	上漬器(古樽)	漆	H	底・ナ	-	-	赤	赤	(10YR6/6)	(10YR6/6)	無	無	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ

測定番号 No.	測定名 Name	出力位置 Output Position	総合開度 Overall Degree	種類 Type	細分種名 Sub-type	細分物質 Substance	測定上部 Upper part	測定下部 Lower part	測定範囲(cm) Measurement range (cm)	色調 Color	製作機・文機等 Manufacturing machine		運行率 Run rate	付着物・使用経年等 Adhesive material / Use history	備考 Remarks		
											内面 Inner surface	外面 Outer surface					
52	150-SX946	9225, 9321, 1034, 5-9-10, 1031	上端部(古側)	樹脂	L	板	(7.5)	-	-	明赤系 (SYR5-6)	樹化	ミガキ	口	2/36			
52	151-SX946	1081	上端部(古側)	樹脂	H2	-	18.0	-	-	明赤系 (SYR5-6)	樹化	ミカナデ 体・ハラメ	口・体	2/36			
52	152-SX946	1081	上端部(古側)	樹脂	-	不明	板・G	-	4.0	黒(10YR7-1)	樹化	ミカナデ 体・ハラメ	口・体	38/36	底物化物	X,X,	
52	153-P933	1035, 1081	上端部(古側)	樹脂	-	透明	板・G	-	-	黒(10YR7-1)	樹化	ミカキ	口	1/36			
52	154-P933	1035, 1081	I	上端部(古側)	樹脂	B1	板・G・赤・ 白	13.5	-	黒(10YR8-3)	樹化	ミカナデ 体・ナゲ	口・ミカナデ 体・ナゲ	35/36		X,X,	
52	155-P933	1035, 1081	I	上端部(古側)	樹脂	G	板	(13.8)	-	黒(10YR7-4)	樹化	ミカナデ	ミカナデ	3/368			
52	156-P933	1035, 1081	I	上端部(古側)	樹脂	B2	#・海	(20.0)	-	黒(10YR7-2)	樹化	ミカナデ	ミカナデ	1/36		X,X,	
52	157-P1050	10319	I	上端部(古側)	樹脂	L	#	(8.4)	-	黒(10YR8-4)	樹化	ミカナデ	ミカナデ・ミカナデ	口	2/36		
52	158 -	1001-17-23- 22, 1132	V	側面部(古汽)	樹脂	A	板・G・白	B	-	黒(10YR7-2)	樹化	ロクロナデ 底・ヘリナデ	ロクロナデ 底・ヘリナデ	31/36	底・底面		
52	159 -	10017-21-22	V	側面部(古汽)	樹脂	B1	板	A	13.8	10.1	3.8 (K(7.5Y6-1))	樹化	ロクロナデ 底・ヘリナデ	ロクロナデ 底・ヘリナデ	3/36	33/36	底・底面
52	160 -	1364-5-10- 13931	V	側面部(古汽)	樹脂	B1	板・#	B	13.8	9.5	3.5 (K(10Y7-1))	樹化	ロクロナデ 底・ヘリナデ	ロクロナデ 底・ヘリナデ	11/368	24/36	
52	161 -	13932	V	側面部(古汽)	樹脂	B1	板・#	A	13.6	9.6	3.3	透明	ロクロナデ 底・ヘリナデ	ロクロナデ 底・ヘリナデ	2/36	16/36	
52	162 -	13930	V	側面部(古汽)	樹脂	B1	-	A	13.8	9.7	3.5 (K(10YR7-2))	樹化	ロクロナデ 底・ヘリナデ	ロクロナデ 底・ヘリナデ	6/36	15/36	
52	163 -	13932-12	V	側面部(古汽)	樹脂	B1	板	A	13.3	8.2	3.4	透明	ロクロナデ 底・ヘリナデ	ロクロナデ 底・ヘリナデ	1/36	12/36	底・底面
52	164 -	982	V	側面部(古汽)	樹脂	B1	板	B	12.8	7.6	3.5 (K(12.5YH1-1))	樹化	ロクロナデ 底・ヘリナデ	ロクロナデ 底・ヘリナデ	9/36	13/36	底・底物化物
52	165 -	13937	V	側面部(古汽)	樹脂	B1	板	D	-	7.6	(K(10Y7-1))	樹化	ロクロナデ 底・ヘリナデ	ロクロナデ 底・ヘリナデ	2/36	32/36	
52	166 -	13625, 12H21, 13G5	V	側面部(古汽)	樹脂	D	G	E	(14.0)	(6.0)	(4.1) (K(NH4-1))	樹化	ロクロナデ 底・底面	ロクロナデ 底・底面	2/36	15/368	
52	167 -	10317	V	側面部(古汽)	樹脂	C	白	C	13.3	-	(K(7.5Y6-1))	樹化	ロクロナデ 底・ヘリナデ	ロクロナデ 底・ヘリナデ	3/36	6/36	
52	168 -	12H24	V	側面部(古汽)	樹脂	C	白	C	12.4	7.5	3.1 (K(5Y7-1))	樹化	ロクロナデ 底・ヘリナデ	ロクロナデ 底・ヘリナデ	20/36	31/36	摩耗 (工具研)
53	169 -	13620, 13H16	V	側面部(古汽)	樹脂	C	板	C	11.8	6.6	3.0 (K(NH6-1))	樹化	ロクロナデ 底・ヘリナデ	ロクロナデ 底・ヘリナデ	7/36	15/36	(D)・底物化物
53	170 -	108-9, 10221	V	側面部(古汽)	樹脂	C	#・海	C	11.8	7.0	3.1 (K(NH4-1))	樹化	ロクロナデ 底・ヘリナデ	ロクロナデ 底・ヘリナデ	6/36	22/36	
53	171 -	7123	V	側面部(古汽)	樹脂	C	板	C	12.6	7.4	3.3 (K(NH5-1))	樹化	ロクロナデ 底・ヘリナデ	ロクロナデ 底・ヘリナデ	7/36	18/36	底・底物化物
53	172 -	9318, 1085-9- 10, 16318	V	側面部(古汽)	樹脂	C	板	C	12.8	7.6	3.3 (K(NH7-1))	樹化	ロクロナデ 底・ヘリナデ	ロクロナデ 底・ヘリナデ	21/368	9/36	X,X,
53	173 -	13976-17	V	側面部(古汽)	樹脂	A	板・#	B	14.2	11.0	4.4	透明	ロクロナデ 底・ヘリナデ	ロクロナデ 底・ヘリナデ	9/36	34/36	摩耗 (工具研)
53	174 -	9324, 10215	V	側面部(古汽)	樹脂	A	板	D	-	10.0	-	透明	ロクロナデ 底・ヘリナデ	ロクロナデ 底・ヘリナデ	15/36		
53	175 -	1464	V	側面部(古汽)	樹脂	A	#・G	B	13.4	8.7	3.8 (K(NH5-1))	樹化	ロクロナデ 底・ヘリナデ	ロクロナデ 底・ヘリナデ	1/36	11/36	
53	176 -	14974-15-18	V	側面部(古汽)	樹脂	A	板・G・#	A	13.0	8.0	4.1 (K(5YH7-6))	樹化	ロクロナデ 底・ヘリナデ	ロクロナデ 底・ヘリナデ	2/36	9/36	
53	177 -	12GSD-25	V	側面部(古汽)	樹脂	B?	B	-	7.0	-	(K(NH6-1))	樹化	ロクロナデ 底・ヘリナデ	ロクロナデ 底・ヘリナデ	33/36		
53	178 -	11H35-10	V	側面部(古汽)	樹脂	B	板	A	9.4	4.9	4.4 (K(NH1-1))	樹化	ロクロナデ 底・ヘリナデ	ロクロナデ 底・ヘリナデ	5/36	36/36	
53	179 -	12011	V	側面部(古汽)	樹脂	C	板	D	15.8	-	2.9	透明	ロクロナデ 底・ヘリナデ	ロクロナデ 底・ヘリナデ	4/36		
53	180 -	10H18-23, 11H22	V	側面部(古汽)	樹脂	C	板	A	15.2	-	3.0 (K(NH6-1))	樹化	ロクロナデ 底・ヘリナデ	ロクロナデ 底・ヘリナデ	2/36		自然剥
53	181 -	14975	V	側面部(古汽)	樹脂	? #	板	B	-	-	黒(2.5Y6-1)	樹化	ロクロナデ 底・ヘリナデ	ロクロナデ 底・ヘリナデ	2/36		自然剥
53	182 -	10115	V	側面部(古汽)	樹脂	B	板	A	14.8	-	3.1 (K(0Y4-1))	樹化	ロクロナデ 底・ヘリナデ	ロクロナデ 底・ヘリナデ	16/36	無効・擦耗	
53	183 -	13H25	V	側面部(古汽)	樹脂	C	板	C	14.4	-	2.2 (K(NH5-1))	樹化	ロクロナデ 底・ヘリナデ	ロクロナデ 底・ヘリナデ	1/36	無効・擦耗	

地名 都道府 県 市町村 通称名 登録番号	出土地位置 グリッド 座標	縦合開傾	種類	地盤			高さ(cm)	色調	成因	製作年 内面	外面	保存率 遺存部位 内面 外面	付帯物・使用跡等 備考
				地盤名	分類	有物名							
53 184 - 140311 V			重複跡(古代) 高床	土	C -	-	灰(N4/E)	灰(N4/E)	還元	クロロナヂ	ロクロナヂ		新茶-脂質の欠損 問題?
53 185 - 109712 V			重複跡(古代) 跡	土	B 33.8 -	14.8	灰(SY5/E)	灰(SY5/E)	還元体・ヨウナヂ・カキメ 底・ウツリ	口-体:クロロナヂ 底:ウツリ	口-底	15/36#	15/36#
53 186 - 13042 V			重複跡(古代) 長脚壇	土	C -	-	灰(N5/E)	灰(N4/E)	還元	クロロナヂ	ロクロナヂ		
53 187 - 100401(4G15) V			重複跡(古代) 長脚壇	土	C -	13.9 -	灰(N5/E)	灰(N5/E)	還元	クロロナヂ	ロクロナヂ	底-底	5/36底:自然転 化
54 188 - 104365(13H14) V			重複跡(古代) 長脚壇	土	C -	-	灰(N5/E)	灰(N5/E)	還元	クロロナヂ	ロクロナヂ	底-底	高台斜行部分夷 地
54 189 - 136209 V			重複跡(古代) 長脚壇	土	A -	-	灰(2.5Y4/1)	灰(2.5Y4/1)	還元	クロロナヂ	ロクロナヂ	底-底	
54 190 - 136209 V			重複跡(古代) 長脚壇	土	C -	8.4 -	灰(N5/E)	灰(N5/E)	還元	クロロナヂ	ロクロナヂ	底-底	
54 191 - 13H4-15-18- 10-20-11118 V			重複跡(古代) 垂窓	土	B 15.2 -	5.1	灰(N5/E)	灰(N5/E)	還元	クロロナヂ	ロクロナヂ	底-底	4/36底:自然転 化
54 192 - 30K16.12398 V			重複跡(古代) 短脚壇	土	B -	11.5 -	灰(2.5Y6/1)	灰(2.5Y6/1)	還元	体・クロロナヂ	タタキ・ナヂ	底-底	自然転 化
54 193 - 106255 V			重複跡(古代) 短脚壇	土	A 13.8 -	-	灰(SY6/E)	灰(SY6/E)	還元	クロロナヂ	ロクロナヂ	底-口	13/36
54 194 - 106255,K19 V			重複跡(古代) 短脚壇	土	A 11.1 9.1	15.8	灰(N6/E)	灰(SY5/E)	還元	クロロナヂ	ロクロナヂ	底-底	3/36底:自然転 化
54 195 - 78K18-23-24- 919 V			重複跡(古代) 短脚壇	土	A 36.9 -	-	灰(N6/E)	灰(N6/E)	還元	当面其底	タタキメ	口-底	32/36 29/36
54 196 - 13P15 V			重複跡(古代) 短脚壇	土	A 35.0 -	-	灰(N6/E)	灰(N6/E)	還元	クロロナヂ	ロクロナヂ	口	3/36
54 197 - 9025,9718-19,- 20,919 V			重複跡(古代) 短脚壇	土	B (25.3) -	-	才-中-底 灰(2.5Y6/1)- (2.5Y6/1)	灰(2.5Y6/1)	還元	当面其底	タタキメ	口-体	1/36
55 198 - 14G16 V			重複跡(古代) 短脚壇	土	A 36.0 -	-	灰(N6/E)	灰(2.5Y5/1)	還元	当面其底	タタキメ	口-体	4/36
55 199 - 11H16,11J3, 12G15.1,12H2L, 13G5,13H1 V			重複跡(古代) 便	B	24.5 -	-	灰(N6/E)	灰(N7/E)	還元	当面其底	タタキメ	口-体	5/36
55 200 - 15G1 V			上塙跡(古代) 無柱桿	A	6.3 -	-	黑(N1.5/E)	灰(1.5Y6/3)	燒化	ナヂ	相羽88	口-体	9/36
55 201 - 14P16 V			溝土跡(古代) 無柱桿	A 13-石-面	-	3.5 -	黑(N1.5/E)	灰(1.5Y6/2)	燒化	ミガキ 底-中燒	体-ナヂ	体-底	36/36
55 202 - 14G21,15G1 V			上塙跡(古代) 無柱桿	A 13 -	7.0 4.0	3.2	灰(4.5-7) (7.5Y5/4)	灰(7.5Y5/6)	燒化	ミガキ	口-ナヂ 体-底-ナヂ	口-底	10/36 33/36
55 203 - 14P25,14G21 V			溝土跡(古代) 無柱桿	B2 G-裏	7.6 5.2	3.5	黑(N1.5/E)	灰(1.5Y6/5)	燒化	ミガキ 底-中燒	ナヂ	口-底	2/36 29/36
55 204 - 14Z25 V			溝土跡(古代) 無柱桿	B2 土	8.1 -	5.0 3.4	黑(N1.5/E)	黑(N2/2)	燒化	ミガキ 黑色燒化	ナヂ	口-底	3/36 15/36
55 205 - 15H5,15G1 V			上塙跡(古代) 無柱桿	B2 G-チ	8.8 5.6	3.7	灰(4.5-7) (2.5Y6/3)	灰(2.5Y6/2)	燒化	ミガキ 底-中燒	口-底	5/36 35/36	
55 206 - 14G21,15G1 V			溝土跡(古代) 無柱桿	B2 土-裏	8.2 5.8	3.6	黑(N1.5/E)	灰(1.5Y6/5)	燒化	ミガキ 底-中燒	ナヂ	口-底	12/36 32/36
55 207 - 14G13 V			溝土跡(古代) 無柱桿	B2 土	9.0 5.8	3.3	黑(N1.5/E)	灰(1.5Y6/2)	燒化	ミガキ 底-中燒	ナヂ	口-底	31/36 36/36
55 208 - 14G25,14G21, 15G1 V			溝土跡(古代) 無柱桿	B2 土-云	8.8 6.2	3.0	黑(N1.5/E)	黑(N1.5/E)	燒化	ミガキ 黑色燒化	ナヂ	口-底	4/36 35/36
55 209 - 15F4-5,15G1 V			上塙跡(古代) 無柱桿	B2 土	8.8 0.1	3.2	灰(1.5Y6/4)	灰(1.5Y6/3)	燒化	ミガキ 底-中燒	ナヂ	口-底	9/36 33/36
55 210 - 80G2-4 V			上塙跡(古代) 無柱桿	C 13-G-面	10.3 5.8	5.8	灰(2.5Y6/3)	灰(2.5Y6/3)	燒化	ミガキ 底-体-ハナ	ナヂ	口-底	14/36 32/36
55 211 - 10H3,19 V			上塙跡(古代) 無柱桿	A1B 土-面	13.3 5.7	3.9	灰(4.5-7) (10Y6E/3)	灰(10Y6E/4)	燒化	ミガキ 底-中燒	口-底	2/36 14/36	
55 212 - 80Z23,8L2 V			上塙跡(古代) 無柱桿	A2 土-面	12.0 4.6	4.1	灰(4.5-7) (2.5Y6/4)	灰(2.5Y6/3)	燒化	ミガキ 底-中燒	ロクロナヂ 底-ウツリ	口-底	5/36 27/36
55 213 - 10B15(8L18) V			上塙跡(古代) 無柱桿	B 土-G-面	11.8 -	-	灰(4.5-7) (2.5Y6/4)	灰(2.5Y6/3)	燒化	ミガキ 底-中燒	ロクロナヂ	口-体	8/36
55 214 - 8K10 V			上塙跡(古代) 無柱桿	A2B 土-G-面	11.6 4.2	4.1	灰(4.5-7) (10Y6E/3)	灰(10Y6E/4)	焼	ロクロナヂ 底-ウツリ	ロクロナヂ 底-ウツリ	口-底	20/36 36/36
55 215 - 8L8-17 10B15(8L18) V			上塙跡(古代) 無柱桿	A2B 土-G	12.5 5.2	4.1	灰(4.5-7) (2.5Y6/4)	灰(2.5Y6/3)	焼	ロクロナヂ 底-ウツリ	ロクロナヂ 底-ウツリ	口-底	4/36 15/36
55 216 - 8L3 V			上塙跡(古代) 無柱桿	A2B 土-面	11.8 4.4	4.4	灰(4.5-7) (2.5Y6/4)	灰(2.5Y6/3)	焼	ロクロナヂ 底-ウツリ	ロクロナヂ 底-ウツリ	口-底	4/36 31/36
55 217 - 8L2 V			上塙跡(古代) 無柱桿	A2B G-面	12.3 5.4	4.1	灰(4.5-7) (10Y6E/3)	灰(10Y6E/4)	焼	ロクロナヂ 底-ウツリ	ロクロナヂ 底-ウツリ	口-底	27/36 36/36

標名 通名 通名 通名	出土地点 位置 グリッド 網目	縦合開張	種類	地層 層名 分類			測定 方法	高さ(cm)	色調	風成	内面	外面	製作地・文等	通存率	付物・使用跡等	備考
				古生物	有機物	分類										
56 218 - 8112-13-17 V	土塚原(古代) 無台樹 A2B Ⅲ-4	12.6	5.0	4.2	灰褐色	(10YR6/3)(10YR6/4)	粘土質	12.6	灰褐色	風化	クロコナデ	ロクロコナデ 底:ホリ	△～底	9/36 96/36	(△:3.5. △:3.5.)	
56 219 - 11118-19 V	土塚原(古代) 無台樹 A2B Ⅲ-4-1	12.8	5.6	4.5	灰褐色	(10YR6/3)(10YR6/4)	粘土質	12.8	灰褐色	風化	クロコナデ	ロクロコナデ 底:ホリ	△～底	14/36 34/36	(△:炭化物 △:鉛鉱)	
56 220 - 10515.19G5 V	土塚原(古代) 無台樹 A2B Ⅲ-4	13.2	5.7	4.5	灰褐色	(10YR7/3)(10YR7/4)	粘土質	13.2	灰褐色	風化	クロコナデ	ロクロコナデ 底:ホリ	△～底	32/36 36/36		
56 221 - 8K24 V	土塚原(古代) 無台樹 B Ⅲ-4	12.6	-	-	灰褐色	(10YR6/3)(10YR6/4)	粘土質	12.6	灰褐色	風化	クロコナデ	ミタガ	△～体	5/36		
56 222 - 13H17 V	土塚原(古代) 無台樹 A 1 Ⅲ-4-1	20.8	-	-	灰褐色	(10YR6/3)	粘土質	20.8	灰褐色	風化	ナダ	ロクロコナデ	△～体	7/36	(△:2.5. △:2.5.)	
56 223 - 10636(13H14) V	土塚原(古代) 無台樹 A 1 Ⅲ-4	-	8.5	-	-	-	粘土質	-	-	風化	ロクロコナデ	ロクロコナデ 底:ホリ	△～底	8/36	(△:スヌ. △:スヌ.)	
56 224 - 13H27 V	土塚原(古代) 無台樹 A 1 Ⅲ-4-1	-	10.0	-	灰褐色	(10YR6/3)(10YR6/2)	粘土質	-	灰褐色	風化	ナダ	ロクロコナデ 底:ホリ	△～底	13/36	(△:スヌ. △:スヌ.)	
56 225 - 30115-13 40615(8L16) V	藻色土(古代) 無台樹 A 1 Ⅲ-4	-	7.2	-	黒(N1/2)	(7.5YR6/4)	粘土質	-	黒	風化	ナダ	ミタガ 黒色地埋 底:ホリ	△～底	22/36	(△:鉛鉱)	
56 226 - 10627(11J11) V	藻色土(古代) 無台樹 A II	14.3	4.8	4.9	黒(N1/5)	(7.5YR5/4)	粘土質	14.3	灰褐色	風化	ミタガ	ミタガ	△～底	10/36 5/36		
56 227 - 8L16 V	藻色土(古代) 無台樹 A II	13.8	-	-	黒(N2/2)	(7.5YR6/2)	粘土質	13.8	灰褐色	風化	ミタガ	ミタガ	△～底	1/36		
56 228 - 12H1 V	土塚原(古代) 藻	6.5	-	-	灰	(13.7)	明暗	6.5	灰褐色	風化	ミタガ	ミタガ	△～体	1/36		
56 229 - 10625.11G9 V	土塚原(古代) 藻	15.9	9.0	3.2	明暗	(7.5YR6/6)	明暗	15.9	灰褐色	風化	ミタガ	ミタガ	△～底	7/36 10/36		
56 230 - 8L6-8 V	土塚原(古代) 有白斑小桿	12.6	5.8	3.4	灰褐色	(10YR6/3)(10YR6/4)	粘土質	12.6	灰褐色	風化	ミタガ	ミタガ	△～底	24/36 29/36	(△:炭化物 (△:3.5. △:3.5.)	
56 231 - 8K15 V	土塚原(古代) 有白斑小桿	-	5.6	-	灰褐色	(2.5YR6/4)	粘土質	-	灰褐色	風化	ミタガ	ミタガ	高台	9/36		
56 232 - 11G23,12G2- V	藻色土(古代) 高杯	12.6	5.8	3.4	灰褐色	(10YR6/3)(10YR6/4)	粘土質	12.6	灰褐色	風化	ミタガ	ミタガ	△～底	22/36		
56 233 - 10H10.10H14- 12H24 V	土塚原(古代) 高杯	-	7.2	-	黒(N1/5)	(7.5YR6/4)	粘土質	-	黒	風化	ミタガ	ミタガ	△～底	1/36		
56 234 - 396.10/9-13- 14- V	土塚原(古代) 跡	B Ⅲ-4	(13.0)	-	灰褐色	(7.5YR6/4)	明暗	B Ⅲ-4	灰褐色	風化	ミタガ	ミタガ カズレ	△～体	5/36		
56 235 - 11H22,11J22 V	土塚原(古代) 跡	C7 Ⅲ-4	-	10.5	-	-	-	-	-	風化	ロクロコナデ	ロクロコナデ 底:ホリ	△～底	7/36		
57 236 - 13G2 V	土塚原(古代) 小桿	A Ⅲ-4-1	12.8	-	灰褐色	(7.5YR5/4)	粘土質	A Ⅲ-4-1	灰褐色	風化	ロクロコナデ	ロクロコナデ 底:ホリ	△～体	8/36	(△:炭化物 △:3.5.)	
57 237 - 13G3 V	土塚原(古代) 小桿	A Ⅲ-4	14.8	-	灰褐色	(7.5YR6/2)	粘土質	A Ⅲ-4	灰褐色	風化	ロクロコナデ	ロクロコナデ 底:ホリ	△～体	8/36	(△:炭化物 △:3.5.)	
57 238 - 9H25.9H21-24 V	土塚原(古代) 小桿	A Ⅲ-4	13.5	-	明暗	(10YR7/6)	粘土質	A Ⅲ-4	明暗	風化	ミタガ	ミタガ	△～体	5/36	(△:炭化物)	
57 239 - 10H15.11G8 V	土塚原(古代) 小桿	A Ⅲ-4-1	15.5	-	灰褐色	(10YR6/3)	粘土質	A Ⅲ-4-1	灰褐色	風化	ミタガ	ミタガ	△～体	13/36	(△:炭化物)	
57 240 - 7K19-23,8K3 V	土塚原(古代) 小桿	A Ⅲ-4	14.4	7.0	17.1	(10YR6/3)(10YR6/4)	粘土質	A Ⅲ-4	灰褐色	風化	ミタガ	ミタガ	△～底	7/36 38/36	(△:3.5. △:3.5.)	
57 241 - 8J14 V	土塚原(古代) 小桿	B Ⅲ-4	(15.3)	-	灰褐色	(10YR7/6)	粘土質	B Ⅲ-4	灰褐色	風化	ロクロコナデ	ロクロコナデ 底:ホリ	△～体	1/36		
57 242 - 10H25.11H5 V	土塚原(古代) 小桿	B Ⅲ-4-1	14.6	-	浅黃褐色	(7.5YR6/4)	粘土質	B Ⅲ-4-1	浅黃褐色	風化	ロクロコナデ	ロクロコナデ 底:ホリ	△～体	20/36	(△:炭化物)	
57 243 - 12G20-24-25 V	土塚原(古代) 小桿	B Ⅲ-4-1	-	7.6	-	(10YR5/3)	粘土質	B Ⅲ-4-1	灰褐色	風化	ロクロコナデ	ロクロコナデ 底:ホリ	△～底	21/36	体:炭化物 (△:3.5.)	
57 244 - 9J11 V	土塚原(古代) 小桿	B Ⅲ-4-1	-	7.3	-	(7.5YR6/4)	粘土質	B Ⅲ-4-1	灰褐色	風化	ロクロコナデ	ロクロコナデ 底:ホリ	△～底	33/36		
57 245 - 12G22 V	土塚原(古代) 小桿	B Ⅲ-4	-	18.0	-	(10YR2/1)	粘土質	B Ⅲ-4	灰褐色	風化	ロクロコナデ	ロクロコナデ 底:ホリ	△～体	3/36	(△:炭化物 △:3.5.)	
57 246 - 10G10-15- 10H6 V	土塚原(古代) 長桿	A2a Ⅲ-4-1	18.0	10.0	28.7	(10YR7/3)	粘土質	A2a Ⅲ-4-1	灰褐色	風化	ロクロコナデ	ロクロコナデ 底:ホリ	△～底	11/36 36/36	(△:3.5. △:3.5.)	
57 247 - 13H9 V	土塚原(古代) 長桿	A2 Ⅲ-4	21.6	-	灰褐色	(10YR5/2)	粘土質	A2 Ⅲ-4	灰褐色	風化	ロクロコナデ	ロクロコナデ 底:ホリ	△～体	2/36		
57 248 - 9K15 V	土塚原(古代) 長桿	A2 Ⅲ-4-1	19.0	-	明暗	(7.5YR6/3)	粘土質	A2 Ⅲ-4-1	明暗	風化	ロクロコナデ	ロクロコナデ 底:ホリ	△～体	5/36		

品目 番号 No. No.	出力位置 通路名 Gリード	総合開帳	種類	加熱			油量(cm)	色調	状況	製作所/文庫等	運行率 運行率 内面 外面	付帯物/使用経年等 内面 外面	備考	
				開閉名	分類	荷物								
57 249	- RLT-7-9518 10HD-7	V	上部扉(古代)	長扉	B1	G+/-	22.6	-	煙(2.5YR6/8) (7.5YR7/6)	物化	(1)ロクロナデ (2)カタメハケメ	(1)ロクロナデ (2)カタメハケメ	(1)~体	6/36
57 250	- 10HD-12	V	上部扉(古代)	長扉	B1	G+/-	23.0	-	△4F+壁 (5YR6/4)	物化	(1)ロクロナデ (2)カタメハケメ	(1)ロクロナデ (2)カタメハケメ	(1)~体	3/36
57 251	- 10D11-16	V	上部扉(古代)	長扉	B2	G+/-	18.4	-	△4F+壁 (5YR6/4)	物化	(1)ロクロナデ (2)カタメハケメ	(1)ロクロナデ (2)カタメハケメ	(1)~体	14/368
57 252	- 10D24	V	上部扉(古代)	扉	直渡 直渡	△4F+壁 (5YR6/4)	23.1	-	△4F+壁 (7.5YR6/2)	物化	ハケメ	ナデ ハケメ	(1)~体	4/36
56 253	- 14P7	V	上部扉(古代)	扉	直渡 直渡	△4F+壁 (5YR6/4)	25.8	-	△4F+壁 (10YR7/2)	物化	ナデ	ナデ	(1)~底	6/36
56 254	- 15P9	V	上部扉(古代)	扉	A	△+/-	-	10.0	△4F+直渡 (10YR4/2)	物化	ナデ	ナデ	(1)~底	15/36
56 255	- 13P15,13G11	V	上部扉(古代)	長扉	A	△	-	8.8	△4F+直渡 (10YR5/3)	物化	ハケメ	ナデ	(1)~底	19/36
56 256	- 11G23	V	上部扉(古代)	長扉	A	G+/-	-	8.8	△4F+直渡 (7.5YR5/4)	物化	ハケメ	ナデ	(1)~底	17/36
56 257	- 12G24,12H16	V	上部扉(古代)	長扉	A	△	-	7.0	△4F+直渡 (7.5YR5/2)	物化	ハケメ	ナデ	(1)~底	33/36
56 258	- 7H23-24	V	上部扉(古代)	長扉	A	G+/-	-	9.8	△4F+直渡 (10YR7/2)	物化	ナデ	ナデ	(1)~底	30/36
56 259	- 10H5, 11H4-5-6	V	上部扉(古代)	長扉	A2a	△+/-	-	7.4	△4F+直渡 (5YR6/3)	物化	ハケメ	ナデ	(1)~底	23/36
56 260	- 11H16-17, R0426(1,17)	V	上部扉(古代)	長扉	A2a	G+/-	-	8.9	△4F+直渡 (10YR7/4)	物化	ハケメ	ナデ	(1)~底	34/36
56 261	- 11H2	V	上部扉(古代)	長扉	A	G+/-	-	7.0	△4F+直渡 (10YR8/3)	物化	ナデ	ナデ ハケメ	(1)~底	36/36
56 262	- 10H2-21, 10H1,10J5, 13P11,13H11- 16,三上端点点明	V	上部扉(古代)	長扉	A2B	G+/-	-	5.6	△4F+直渡 (10YR8/2)	物化	ハケメ	ナデ	(1)~底	30/36
56 263	- 11H18,11H16, 11H2-6	V	上部扉(古代)	長扉	B2	△+/-	-	-	△4F+直渡 (7.5YR6/3)	物化	当面底	タキメ	(1)~底	20/36
56 264	- 12H20.3,12H16	V	上部扉(古代)	長扉	B2	△+/-	-	-	△4F+直渡 (7.5YR6/2)	物化	タキメ	タキメ	(1)~底	36/36
56 265	- 11H8-12	V	上部扉(古代)	扉	A	G+/-	35.4	-	△4F+直渡 (3.5YR8/3)	物化	(1)ロクロナデ (2)ハケメ	(1)ロクロナデ (2)ハケメ	(1)~体	9/36
56 266	- R0420-2 9K23,10K2-6)	V	上部扉(古代)	扉	B	△+/-	(36.2)	-	△4F+直渡 (2.5YR8/3)	物化	ロクロナデ	ロクロナデ	(1)~体	2/36
56 267	- R0420(1,4H5)	V	上部扉(古代)	扉	B	G+/-	(35.4)	-	△4F+直渡 (10YR7/3)	物化	ロクロナデ	ロクロナデ	(1)~体	3/36
56 268	- 9K20-25, 9K21,10L2-6- 11,10K3	V	上部扉(古代)	扉	B	G+/-	40.6	-	△4F+直渡 (10YR6/3)	物化	ロクロナデ	ロクロナデ	(1)~体	5/36
56 269	- 10H12	V	上部扉(古代)	扉	C	△+/-	26.2	-	△4F+直渡 (10YR6/4)	物化	ナデ	ナデ	(1)~体	9/36
56 270	- 10H12-22	V	上部扉(古代)	扉	C	△+/-	(7.5)	-	△4F+直渡 (5YR6/4)	物化	ナデ	ナデ	(1)~底	3/36
56 271	- 14G8,14H3	V	裏扉(古代)	扉	C	△	11.8	7.5	2.9 (5YR6/1)	物化	ロクロナデ	ロクロナデ	(1)~底	23/36
56 272	- 11H15	V	裏扉(古代)	扉	C	△	12.8	8.0	2.8 (5YR5/1)	物化	ロクロナデ	ロクロナデ	(1)~底	17/36
56 273	- 10J18	V	裏扉(古代)	扉	C	△	12.4	6.8	3.1 (2.5YR6/1)	オーリーブ	ロクロナデ	ロクロナデ	(1)~底	36/36
56 274	- 13G17-22	V	裏扉(古代)	扉	C	△	12.8	7.6	2.8 (5YR5/1)	オーリーブ	ロクロナデ	ロクロナデ	(1)~底	15/36
56 275	- 14P15	V	裏扉(古代)	扉	C	△	-	-	△4F+直渡 (10YR6/4)	物化	ナデ	ナデ	(1)~底	9/36
56 276	- 14G21	V	上部扉(古代)	扉	A II	△+/-	-	6.0	△4F+直渡 (10YR6/4)	物化	ロクロナデ	ロクロナデ	(1)~底	9/36
56 277	- 13G19	V	上部扉(古代)	扉	A II	△+/-	-	6.0	△4F+直渡 (2.5YR6/2)	物化	ロクロナデ	ロクロナデ	(1)~底	6/36
56 278	- 13G20	V	上部扉(古代)	扉	A II	G+/-	-	5.0	△4F+直渡 (5YR6/3)	物化	ロクロナデ	ロクロナデ	(1)~底	8/36
56 279	- 11J6	V	上部扉(古代)	扉	A II	G+/-	-	5.0	△4F+直渡 (10YR6/2)	物化	ロクロナデ	ロクロナデ	(1)~底	7/36

品種名 No.	登録年 No.	出土地位置 登録名 グリッド	総合開墾	種類	地盤			高さ(cm)	色調	成形	製作所・文様等	通存率 内面 外面	付与物・使用耕野等 内面 外面	備考	
					頭骨名	分類	古生物								
59 280	-	11H20-25	V	土師器(古代) 無柄陶	AII	灰-G-赤	12.6	5.2	4.3	浅黄 (2.5V87/3) (10V86/3)	陶化	クロロナデ ロクロナデ ホトリ	(3) 瓶 2/36	灰-墨青	
59 281	-	9H9-10	V	土師器(古代) 無柄陶	A II	灰-G-赤	13.4	-	-	灰-墨青 (2.5V87/3) (10V86/3)	陶化	クロロナデ ロクロロナデ	(3) 体 5/36	灰-炭化物 (1) 古生物 体-墨青	
59 282	-	8H14(HLB)	V	土師器(古代) 無柄陶	A II	灰-赤	12.8	-	-	灰-墨青 (10V86/2) (10V87/2)	陶化	クロロナデ ロクロロナデ	(3) 体 2/36	灰-墨青	
59 283	-	8H17	V	土師器(古代) 無柄陶	A II	灰-G-赤	(14.3)	-	-	灰-灰-墨青 (2.5V87/3) (10V86/2)	陶化	クロロナデ ロクロロナデ	(3) 体 2/36	灰-墨青	
60 284	-	9H14-18-20, 9H4-11	V	土師器(古代) 無柄陶	A	灰-赤-墨	21.7	-	-	灰-墨青 (2.5V86/4)	陶化	ミガキ ミガキ	66	12/36	
60 285	-	9H2	V	土師器(古墳) 高柄	A	赤	(17.7)	-	-	灰-灰-墨青 (2.5V85/6)	陶化	ミガキ ミガキ	66	1/36	
60 286	-	8H11	V	土師器(古墳) 高柄	A	灰-G-赤	22.0	-	-	灰-灰-墨青 (10V85/4) (10V85/3)	陶化	ミガキ ミガキ	66	5/36	
60 287	-	8H17-21-23, 9H2-7	V	土師器(古墳) 高柄	A	灰-G	-	-	-	灰-灰-墨青 (2.5V85/6) (2.5V85/5)	陶化	ミガキ ミガキ	66	1/36	
60 288	-	9H16-21	V	土師器(古墳) 高柄	A	灰-赤-曲	-	-	-	灰-灰-墨青 (7.5V85/3)	陶化	ミガキ ミガキ	66		
60 289	-	9H3	V	土師器(古墳) 高柄	B	灰	-	-	-	灰-灰-墨青 (10V85/4) (7.5V86/4)	陶化	ミガキ ミガキ	66		
60 290	-	8H12	V	土師器(古墳) 高柄	C	灰-G-赤	14.8	-	-	灰-灰-墨青 (2.5V85/3) (2.5V85/2)	陶化	ミガキ ミガキ	66	13/36	
60 291	-	8H7-8	V	土師器(古墳) 高柄	C	灰-G-赤	15.4	-	-	灰-灰-墨青 (5V85/4)	陶化	ミガキ ミガキ	66	9/36	
60 292	-	8H11-12-13- 17	V	土師器(古墳) 高柄	D II	灰-G-赤	30.4	20.0	21.1	灰-灰-墨青 (10V85/3) (10V85/2)	陶化	ミガキ ミガキ	66	5/36	20/36
60 293	-	8H7-12, 18 I	V	土師器(古墳) 高柄	D II	灰-赤	16.5	12.2	12.3	灰-灰-墨青 (10V85/3) (10V85/2)	陶化	ミガキ ミガキ	66	9/36	18/36
60 294	-	7L25, 8L8	V	土師器(古墳) 高柄	D II	灰-G-赤-曲	19.8	-	-	灰-灰-墨青 (7.5V86/4)	陶化	ミガキ ミガキ	66	4/36	
60 295	-	7H15-18-19- 24-25	V	土師器(古墳) 高柄	D II	灰-赤	-	-	-	灰-灰-墨青 (7.5V85/3)	陶化	ミガキ ミガキ	66	1/36	
60 296	-	11H14-20, 11H7	V	土師器(古墳) 高柄	D II	灰-G-赤-曲	-	12.6	-	灰-灰-墨青 (7.5V86/3)	陶化 陶化・カズレ カズレ	ミガキ ミガキ	66	15/36	
60 297	-	8H7	V	土師器(古墳) 高柄	A	灰	-	12.6	-	灰-灰-墨青 (10V85/4) (2.5V86/4)	陶化	ミガキ ミガキ	66	17/36	
60 298	-	8H11	V	土師器(古墳) 高柄	A	灰	-	-	-	灰-灰-墨青 (10V85/2) (10V84/1)	陶化	ミガキ ミガキ	66		
60 299	-	9H13-15-20- 25	V	土師器(古墳) 高柄	A	灰-曲	-	11.6	-	黑-(10V82/1) (10V82/2)	灰-灰-墨青 (10V82/1) (10V82/2)	ミガキ ミガキ	66	8/36	
60 300	-	8H6	V	土師器(古墳) 高柄	B	灰-G	-	-	-	灰-灰-墨青 (10V85/2)	陶化	ミガキ ミガキ	66		
61 301	-	8H11, 9H13	V	土師器(古墳) 高柄	B	灰-G-赤-曲	-	14.2	-	白-(7.5V84/3) (7.5V85/3)	陶化	ミガキ ミガキ	66	9/36	
61 302	-	7M12	V	土師器(古墳) 高柄	B	灰-G-赤-曲	-	12.7	-	灰-灰-墨青 (7.5V86/4) (7.5V86/3)	陶化	ミガキ ミガキ	66	13/36	
61 303	-	7L25 d5H70F	V	土師器(古墳) 高柄	B	灰-赤	-	-	-	白-(7.5V87/6) (7.5V87/5)	陶化	ミガキ ミガキ	66		
61 304	-	8H6-7-11-13	V	土師器(古墳) 高柄	B	灰-赤	-	-	-	灰-灰-墨青 (7.5V85/4) (2.5V86/4)	陶化	ミガキ ミガキ	66		X.X.
61 305	-	9H4-9	V	土師器(古墳) 腰台	B	赤	9.6	-	-	灰-灰-墨青 (10V85/4) (10V85/3)	陶化	ミガキ-赤跡 ミガキ	受	8/36	
61 306	-	8K19-24, 9H5	V	土師器(古墳) 腰台	B	赤-赤	8.6	-	-	灰-灰-墨青 (7.5V85/4) (7.5V85/3)	陶化	ミガキ ミガキ	受-脚 受-脚	20/36	
61 307	-	8H8-9	V	土師器(古墳) 腰台	B2	赤-G-赤	8.5	-	-	灰-灰-墨青 (10V85/4) (10V85/3)	陶化	ミガキ ミガキ	受-脚 受-脚	3/36	(1) 炭化物 (1) X.X.
61 308	-	8H8	V	土師器(古墳) 腰台	B2	赤-赤	10.0	-	-	オーリップ (2.5V86/4)	陶化	ミガキ ミガキ	受-脚 受-脚	23/36	
61 309	-	8M14-19	V	土師器(古墳) 腰台	B3	赤-G	9.7	-	-	灰-灰-墨青 (7.5V86/4) (7.5V86/3)	陶化	ミガキ ミガキ	受-脚 受-脚	13/36	
61 310	-	8H6	V	土師器(古墳) 腰台	B3	赤-赤	6.9	-	-	灰-灰-墨青 (2.5V85/4) (2.5V85/3)	陶化	ミガキ ミガキ	受-脚 受-脚	4/36	
61 311	-	8H4	V	土師器(古墳) 腰台	B3?	赤-G-赤	-	-	-	灰-灰-墨青 (10V86/4) (10V86/3)	陶化	ミガキ ミガキ	受-脚 受-脚	2/36	

品種名	出土位置	縦合開張	種類	種 種			第 一		第 二		色 調	肉	製作物・文様等	通草率	付着物・使用跡等	備考	
				頭神名	分類	含有物	分類	日付	成績	露高							
61 312	- 7M16	VI	上縫部(古墳)	腰台	B2	尾	9.5	-	に古ハ・直輪 (7.5YR5/3)	に古ハ・直輪 (7.5YR5/3)	化粧	ミガキ	ミガキ	受	18/368		
61 313	- 18212	VI	上縫部(古墳)	腰台	B4	長・直	8.9	11.0	7.5	に古ハ・直輪 (7.5YR5/3)	に古ハ・直輪 (7.5YR5/3)	化粧	ミガキ	ミガキ	受~顎	4/36	34/36
61 314	- 9K9-13	VI	上縫部(古墳)	腰台	A4	長・直	-	13.0	-	に古ハ・直輪 (7.5YR5/3)	に古ハ・直輪 (7.5YR5/3)	化粧	ナゲ	ミガキ	留	2/36	
61 315	- AJ16.936	VI	上縫部(古墳)	腰台	A4	長	-	-	に古ハ・直輪 (7.5YR5/3)	に古ハ・直輪 (7.5YR5/3)	化粧	ナゲ	ミガキ	留			
61 316	- BM15.8L16-17	VI	上縫部(古墳)	腰台	留	直	-	-	に古ハ・直輪 (7.5YR5/3)	に古ハ・直輪 (7.5YR5/3)	化粧	ナゲ	ミガキ	留			
61 317	- TM12-16	VI	上縫部(古墳)	腰台	B4	長・直	-	-	に古ハ・直輪 (10YR4/3)	に古ハ・直輪 (10YR4/3)	化粧	ナゲ	ミガキ	留			
61 318	- 7K19-24.8K7	VI	上縫部(古墳)	腰台	留C	長・ナ・直	-	10.5	-	に古ハ・直輪 (7.5YR5/3)	に古ハ・直輪 (7.5YR5/3)	化粧	留・ナゲ・ハゲメ	ミガキ	留	31/36	
61 319	- 11H2-3	VI	上縫部(古墳)	腰台	留C	長・ナ・直	-	13.3	-	に古ハ・直輪 (7.5YR5/3)	に古ハ・直輪 (7.5YR5/3)	化粧	ナゲ	ミガキ	留	14/368	
61 320	- 10H5	VI	上縫部(古墳)	腰台	留D	直	-	7.8	-	に古ハ・直輪 (7.5YR5/3)	に古ハ・直輪 (7.5YR5/3)	化粧	ヨコナゲ	ヨコナゲ	留	4/36	
61 321	- 9K24	VI	上縫部(古墳)	腰	A	尾	16.4	-	に古ハ・直輪 (7.5YR5/3)	に古ハ・直輪 (7.5YR5/3)	化粧	ナゲ	ミガキ	口~体	7/368		
61 322	- 1223	VI	上縫部(古墳)	腰	B1	長・直・海	13.8	-	に古(7.5YR4/3)	に古(7.5YR4/3)	化粧	ヨコナゲ	ヨコナゲ	口~体	1/36		
61 323	- 7L12-25	VI	上縫部(古墳)	腰	C	長・ナ・直	13.8	9.2	10.7	に古(7.5YR4/3)	に古(7.5YR4/3)	化粧	ヨコナゲ	ヨコナゲ	口~直	3/36	11/36
61 324	- 9K5	VI	上縫部(古墳)	腰	C	直	11.8	-	に古ハ・直輪 (7.5YR5/4)	に古ハ・直輪 (7.5YR5/4)	化粧	ナゲ	ミガキ	口~体	2/36		
61 325	- 9K4	VI	上縫部(古墳)	腰	D	直・直・直	-	3.8	-	に古(7.5YR5/4)	に古(7.5YR5/4)	化粧	ハゲメ	ハゲメ	体~底	36/36	
61 326	- 8K29	VI	上縫部(古墳)	腰	D	直	-	4.8	-	に古ハ・直輪 (7.5YR5/3)	に古ハ・直輪 (7.5YR5/3)	化粧	ナゲ・ナゲ	ナゲ	体~底	7/36	液化物
61 327	- 9K15	VI	上縫部(古墳)	腰	D	直・直	-	2.0	-	に古ハ・直輪 (7.5YR5/3)	に古ハ・直輪 (7.5YR5/3)	化粧	ナゲ	ミガキ・ミガキ	体~机	22/36	
61 328	- 8L8	VI	上縫部(古墳)	腰	E	直・直	17.8	-	黒	黒	化粧	口・ナゲ	ハゲメ	口~体	11/368		
61 329	- 9Z25	VI	上縫部(古墳)	腰	-	ナ・直	-	-	に古(7.5YR6/6)	に古(7.5YR6/6)	化粧	ミガキ	ミガキ	口・ミルク~ 天		△東山8H3.2cm △北山8H30.36	
61 330	- 9K22	VI	上縫部(古墳)	腰	A1	直	16.4	-	に古(7.5YR6/6)	に古(7.5YR6/6)	化粧	ミガキ	ミガキ	口~直	12/36		
62 331	- 10H6	VI	上縫部(古墳)	腰	A1	直・直・直	22.0	-	に古ハ・直輪 (7.5YR6/4)	に古ハ・直輪 (7.5YR6/4)	化粧	ミガキ	ミガキ	口	4/36		
62 332	- 10H12	VI	上縫部(古墳)	腰	A2	直・直	18.2	-	黒	黒	化粧	ミガキ	ミガキ	口	6/36		
62 333	- 8K15-20, 8L16	VI	上縫部(古墳)	腰	B1	直・直・直	21.6	-	に古ハ・直輪 (7.5YR5/3)	に古ハ・直輪 (7.5YR5/3)	化粧	ヨコナゲ	ヨコナゲ	口~直	13/368		
62 334	- 10G15.10H11	VI	上縫部(古墳)	腰	B2	直・直・直	21.4	-	に古(7.5YR6/4)	に古(7.5YR6/4)	化粧	ミガキ	ミガキ	口~直	30/36	体部内部用	
62 335	- 8K5-9-10	VI	上縫部(古墳)	腰	B2	直・直・直	14.6	-	に古(7.5YR6/4)	に古(7.5YR6/4)	化粧	ミガキ	ミガキ	口~直	28/36		
62 336	- 9K21	VI	上縫部(古墳)	腰	B2	直	14.8	-	黒	黒	化粧	ミガキ	ミガキ	口~直	11/368		
62 337	- 9K4	VI	上縫部(古墳)	腰	C	直・直	-	-	に古ハ・直輪 (7.5YR5/3)	に古ハ・直輪 (7.5YR5/3)	化粧	ナゲ	ヨコナゲ	口			
62 338	- 8K1-2	VI	上縫部(古墳)	腰	C	直・直・直	-	-	に古(7.5YR5/3)	に古(7.5YR5/3)	化粧	ナゲ	ヨコナゲ	口~顎		口液化物	
62 339	- 9J14	VI	上縫部(古墳)	腰	D	直・直	16.8	-	に古ハ・直輪 (7.5YR6/4)	に古ハ・直輪 (7.5YR6/4)	化粧	ヨコナゲ	ヨコナゲ	口	13/368		
62 340	- 9J20	VI	上縫部(古墳)	腰	D	直・直	(19.5)	-	に古ハ・直輪 (7.5YR6/4)	に古ハ・直輪 (7.5YR6/4)	化粧	ミガキ	ミガキ	口	3/36		
62 341	- 10H3	VI	上縫部(古墳)	腰	E	直・直・直	21.8	-	に古(7.5YR5/4)	に古(7.5YR5/4)	化粧	ヨコナゲ・ハゲメ	ヨコナゲ	口	4/368		
62 342	- 8M15	VI	上縫部(古墳)	腰	F	直・直	15.0	-	に古(7.5YR5/3)	に古(7.5YR5/3)	化粧	ミガキ	ミガキ	口~直	1/36		
62 343	- 9H13	VI	上縫部(古墳)	腰	G	直・直・直	13.8	-	に古(7.5YR5/4)	に古(7.5YR5/4)	化粧	ミガキ	ミガキ	口~直	7/36		

品目 名	出立位置 No.	通路名 グリッド	総合開鎖	種 類	加 標			基 準	法 規(cm)	色 調	成 分	製造販 売業者	運行率 運行部	付 着物 内 面	付 着物 外 面	備 考		
					通 路 名	分 子 有 物	分 子 分 子											
62 344 -	新宿3(12113)	VI	上端部(古樹)	樹	G	底	-	13.5 -	-	に・S4-7 (7.5YR6/4)	に・S4-7 (7.5YR6/4)	無化	ミガキ	□	2/36			
62 345 -	8314	VI	上端部(古樹)	樹	G	底	-	10.3 -	-	に・S4-7 (7.5YR5/6)	無化	ナゲ	ハケヌメ	□	22/36W			
62 346 -	7M12	VI	上端部(古樹)	樹	N	底	-	-	-	に・S4-7 (7.5YR5/4)	無化	ミガキ-赤筋	ミガキ-赤筋			(深筋)		
62 347 -	AJ14	VI	上端部(古樹)	樹	不明	底/G	露	-	-	鷹(7.5YR4/4)	鷹(7.5YR4/4)	無化	ナゴメ	ミガキ		体		
62 348 -	10H6	VI	上端部(古樹)	樹	底A	底/石+チ	-	8.4 -	-	真鷹(2.5Y5/1)	真鷹(2.5Y5/1)	無化	ナゴメ	□:ハケヌメ 体:ナゴメ	体~底	36/36	内面良好	
62 349 -	9218	VI	上端部(古樹)	樹	底A	底/チ	-	5.8 -	-	黒鷹	に・S4-7 黒鷹	無化	ナゲ	ミガキ	体~底			
62 350 -	808	VI	上端部(古樹)	樹	底A	底/チ+チ 露	-	7.9 -	-	に・S4-7 (7.5YR5/3)	に・S4-7 (7.5YR5/3)	無化	ハケヌメ 底/ナゲ	ハケヌメ	体~底	28/36		
63 351 -	9K2-8-9-12	VI	上端部(古樹)	樹	底A	底/チ	-	7.0 -	-	に・S4-7 (7.5YR5/3)	に・S4-7 (7.5YR5/3)	無化	ナゴメ	ミガキ	体~底	28/36		
63 352 -	829	VI	上端部(古樹)	樹	底B	底/G	-	6.0 -	-	黒鷹	鷹(7.5YR5/2)	無化	ナゲ	体:ハケヌメ 底:ナゴメ	体~底	36/36	久	
63 353 -	9214	VI	上端部(古樹)	樹	底C	底/G	-	7.7 -	-	鷹(7.5YR5/2)	鷹(7.5YR5/2)	無化	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	95/95	
63 354 -	12H9	VI	上端部(古樹)	樹	底D	底/G	-	5.6 -	-	黒(10YR2/1)	黒(10YR2/1)	無化	ナゴメ	ケツリ	底	36/36		
63 355 -	15H14	VI	上端部(古樹)	樹	底D	底/チ+チ 露	-	4.0 -	-	に・S4-7 (10YR6/3)	に・S4-7 (10YR6/3)	無化	ナゴメ	ミガキ	体~底	36/36		
63 356 -	0486-9-14	VI	上端部(古樹)	樹	I	底/チ	-	11.5 -	5.5 18.3	に・S4-7 (7.5YR6/4)	に・S4-7 (7.5YR6/4)	無化	ミガキ 口:ミガキ ナゴメ	ミガキ	□:机	27/36	36/36	
63 357 -	812-8	VI	上端部(古樹)	樹	J	底	-	12.6 -	-	鷹(7.5YR4/3)	鷹(7.5YR4/3)	無化	ミガキ ミガキ	ミガキ	□:机	5/36		
63 358 -	8K22	VI	上端部(古樹)	樹	J	底	-	12.8 -	-	に・S4-7 (10YR5/6)	に・S4-7 (10YR5/6)	無化	ミガキ-赤筋	ミガキ-赤筋	□:机	1/36		
63 359 -	9219	VI	上端部(古樹)	樹	M	底	9.7 -	-	-	に・S4-7 (10YR6/3)	に・S4-7 (10YR6/3)	無化	ミガキ 口:ミガキ→ナゴメ	ミガキ ミガキ	□:机~ナゴメ 体:ハケヌメ→ナゴメ	口~机	5/36	
63 360 -	8112	VI	上端部(古樹)	樹	M	底	-	9.6 -	-	黒(10YR5/2)	黒(10YR5/2)	無化	ミガキ	ヨコナデ	□	16/36		
63 361 -	8K3-25	VI	上端部(古樹)	樹	K	底	-	11.8 -	-	に・S4-7 (10YR6/3)	に・S4-7 (10YR6/3)	無化	ミガキ	ミガキ	□:机	12/36		
63 362 -	8119-20	VI	上端部(古樹)	樹	M	底/チ	-	-	-	に・S4-7 (10YR6/3)	に・S4-7 (10YR6/3)	無化	ナゴメ ハケヌメ ナゴメ	ハケヌメ ナゴメ	体			
63 363 -	7K24	VI	上端部(古樹)	樹	I	底/チ	-	-	-	黒(10YR4/2)	黒(10YR4/2)	無化	ナゴメ	ミガキ	体			
63 364 -	9K8	VI	上端部(古樹)	樹	I	底/チ	-	3.0 -	-	に・S4-7 (7.5YR6/4)	に・S4-7 (7.5YR6/4)	無化	ミガキ	ナゴメ	体~底	36/36	久:スス	
63 365 -	8K7	VI	上端部(古樹)	樹	I	底/チ	-	1.0 -	-	に・S4-7 (10YR5/3)	に・S4-7 (10YR5/3)	無化	ミガキ	ミガキ	体~机	36/36		
63 366 -	7M6	VI	上端部(古樹)	樹	B2	手/チ	-	11.0 -	-	に・S4-7 (7.5YR6/3)	に・S4-7 (7.5YR6/3)	無化	ミガキ	ミガキ	□:机~ナゴメ 体:ハケヌメ	□:机	5/36	久:スス
63 367 -	8K2-6-7-17	VI	上端部(古樹)	樹	B2	底/チ	-	10.8 -	-	赤筋(10YR4/6)	赤筋(10YR4/6)	無化	ミガキ-赤筋	ミガキ-赤筋	□:机	5/36		
63 368 -	7M16	VI	上端部(古樹)	樹	L	底/チ+チ	-	-	-	に・S4-7 (7.5YR6/4)	に・S4-7 (7.5YR6/4)	無化	ミガキ	ミガキ	□:机 体:ハケヌメ 底:ナゴメ	□:机	36/36	
63 369 -	8K15	VI	上端部(古樹)	樹	L	チ	-	3.2 -	-	に・S4-7 (10YR5/3)	に・S4-7 (10YR5/3)	無化	ナゴメ	ミガキ	体~机	36/36		
63 370 -	10K5	VI	上端部(古樹)	樹	L	チ+チ	-	-	-	に・S4-7 (7.5YR7/6)	に・S4-7 (7.5YR7/6)	無化	ナゴメ	ナゴメ	体~底	36/36		
63 371 -	8K3-6-7-8-18	VI	上端部(古樹)	樹	A	底/チ+チ 露	-	28.3 -	-	に・S4-7 (7.5YR7/7)	に・S4-7 (7.5YR7/7)	無化	ミガキ	ミガキ	□:机 体:ハケヌメ 底:ナゴメ	□:机	5/36	
63 372 -	10H11-16	VI	上端部(古樹)	樹	B1	チ+チ	露	18.3 -	-	に・S4-7 (10YR5/3)	に・S4-7 (10YR5/3)	無化	ミガキ	ミガキ	□:机~ナゴメ 体:ハケヌメ	19/36	スス	
63 373 -	10H11-16	VI	上端部(古樹)	樹	B1	底	-	16.5 -	-	に・S4-7 (10YR5/4)	に・S4-7 (10YR5/4)	無化	ナゴメ	ミガキ	□:机~ナゴメ 体:ハケヌメ	30/36	スス	
63 374 -	8K4	VI	上端部(古樹)	樹	B1	底	-	16.8 -	-	に・S4-7 (10YR5/4)	に・S4-7 (10YR5/4)	無化	ミガキ	ミガキ	□:机~ナゴメ 体:ハケヌメ	6/36		
63 375 -	8K12-6-17	VI	上端部(古樹)	樹	B1	底/G	-	18.2 -	-	に・S4-7 (10YR6/3)	に・S4-7 (10YR6/3)	無化	ミガキ	ミガキ	□:机~ナゴメ 体:ハケヌメ	11/36	スス	

品目 別名 通称名	出力位置 機器名 グリッド	総合周波数	種類	基準			基準 距離(cm)	色調	形状	製作所・文庫等	通存率	付着物・使用経年等	備考		
				測定名	分類	内面									
64-376	-	試験用	VII	土壤(古墳)	黒	B2-Gr-赤	17.6	-	灰褐色 (7.5V84/2) (7.5V84/2)	楕化	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ	口~体 5/36	炭化物 大久	
64-377	-	8366	VII	土壤(古墳)	黒	B2-Gr-青	11.6	-	灰褐色 (7.5V84/3) (10V85/3)	楕化	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ケヤリ	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ハサメ	口~体 4/36B		
64-378	-	12112-13	VII	土壤(古墳)	黒	B2-赤	11.8	-	灰褐色 (7.5V86/4) (7.5V85/3)	楕化	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ケヤリ	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口~体 5/36B	炭化物 久久	
64-379	-	8M22-23	VII	土壤(古墳)	黒	B2-赤-赤	16.8	-	灰褐色 (7.5V86/3) (7.5V86/2)	楕化	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ	口~体 6/36		
64-380	-	8366	VII	土壤(古墳)	黒	B2-赤-赤	11.0	-	灰褐色 (7.5V87/3) (7.5V88/2)	楕化	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口~体 1/36		
64-381	-	8M14	VII	土壤(古墳)	黒	B2-赤-青	15.8	-	灰褐色 (10V86/3) (10V86/2)	楕化	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口~体 6/36B	久久	
64-382	-	1217	VII	土壤(古墳)	黒	B2-赤	11.1	-	灰褐色 (7.5V87/4) (7.5V86/4)	楕化	ハクメ	ハクメ	2/36		
64-383	-	11J2-3	VII	土壤(古墳)	黒	B2-赤-赤	13.8	-	灰褐色 (7.5V86/3) (7.5V86/2)	楕化	ヨコナデ (1)ヨコナデ	ヨコナデ (1)ヨコナデ	口~体 4/36		
64-384	-	8219	VII	土壤(古墳)	黒	B2-赤	17.6	-	灰褐色 (7.5V86/4) (7.5V86/3)	楕化	ヨコナデ (1)ヨコナデ	ヨコナデ (1)ヨコナデ	口~体 2/36		
64-385	-	8M25-2 (11J2-7-11)	VII	土壤(古墳)	黒	B2-赤-赤	21.9	-	黒 (10V81/7/1) (10V82/2)	楕化	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ケヤリ	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ケヤリ	口~体 3/36		
64-386	-	12112	VII	土壤(古墳)	黒	B2-赤-赤	16.8	-	灰褐色 (10V86/3) (2.5V84/2)	楕化	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ケヤリ	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ケヤリ	口~体 5/36		
64-387	-	12112	VII	土壤(古墳)	黒	B2-赤-赤	15.6	-	灰褐色 (10V88/4) (10V88/3)	楕化	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ケヤリ	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ハマメタチ	口~体 10/36		
64-388	-	7M8-3	VII	土壤(古墳)	黒	B2-赤	22.6	-	灰褐色 (10V85/2) (10V85/1)	楕化	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ハマメタチ	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ハマメタチ	口~体 5/36		
64-389	-	8K25.9K4	VII	土壤(古墳)	黒	B2-赤-赤	19.8	-	灰褐色 (10V86/3) (10V86/2)	楕化	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ケヤリ	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ケヤリ	口~体 6/36	体:炭化物 久久	
64-390	-	929-10-15	VII	土壤(古墳)	黒	B2-赤	29.8	-	灰褐色 (10V85/4) (7.5V86/4)	楕化	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口~体 12/36		
64-391	-	918	VII	土壤(古墳)	黒	B2-赤-青	17.6	-	灰褐色 (7.5V85/4) (7.5V86/3)	楕化	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口~体 15/36B		
65-392	-	9J2-12-13-18	VII	土壤(古墳)	黒	B2-赤-赤-青	20.8	-	灰褐色 (10V86/3) (10V86/2)	楕化	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口~体 8/36		
65-393	-	1217-12	VII	土壤(古墳)	黒	B2-赤-赤	15.5	-	灰褐色 (10V86/4) (10V87/4)	楕化	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口~体 18/36		
65-394	-	13H9-10	VII	土壤(古墳)	黒	B2-赤-赤	19.0	-	灰褐色 (10V85/2) (10V85/3)	楕化	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口~体 2/36		
65-395	-	8117	VII	土壤(古墳)	黒	B2-赤-赤	20.2	-	灰褐色 (10V86/3) (10V86/2)	楕化	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口~体 16/36		
65-396	-	10G20	VII	土壤(古墳)	黒	B2-赤-赤	15.3	-	灰褐色 (7.5V86/3) (7.5V86/4)	楕化	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口~体 9/36		
65-397	-	825	VII	土壤(古墳)	黒	B2-赤	13.0	-	灰褐色 (10V84/2) (10V84/1)	楕化	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口~体 8/36		
65-398	-	8K29	VII	土壤(古墳)	黒	B2-赤	20.6	-	灰褐色 (10V84/2) (10V84/2)	楕化	ハクメ	ハクメ	口:無調整 体:ハマメタチ	口~体 1/36	
65-399	-	12H14	VII	土壤(古墳)	黒	D1-赤	15.6	-	灰褐色 (10V86/3) (10V86/3)	楕化	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口~体 2/36		
65-400	-	9J20	VII	土壤(古墳)	黒	C2-赤	19.0	-	灰褐色 (10V87/3) (10V87/3)	楕化	ヨコナデ	ヨコナデ	3/36B		
65-401	-	12116	VII	土壤(古墳)	黒	C2-赤	19.0	-	灰褐色 (10V87/3) (10V87/2)	楕化	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口~体 3/36		
65-402	-	13H4	VII	土壤(古墳)	黒	C2-赤	19.2	-	灰褐色 (10V87/3) (10V87/3)	楕化	ヨコナデ	ヨコナデ	3/36		
65-403	-	8L12-17 (8M14-8L1D)	VII	土壤(古墳)	黒	C2-赤	19.4	-	灰褐色 (10V88/4) (10V88/4)	楕化	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口:ヨコナデ (1)ヨコナデ 体:ナマハセ	口~体 1/36		
65-404	-	9E21	VII	土壤(古墳)	黒	C2-赤-赤	15.2	-	灰褐色 (10V86/2) (10V86/2)	楕化	ヨコナデ	ヨコナデ	2/36		
65-405	-	8K24	VII	土壤(古墳)	黒	C2-赤-赤	17.0	-	灰褐色 (10V87/4) (10V87/4)	楕化	ヨコナデ	ヨコナデ	1/36		
65-406	-	8L4	VII	土壤(古墳)	黒	C2-赤	13.2	-	灰褐色 (7.5V86/4) (10V86/3)	楕化	ヨコナデ	ヨコナデ	2/36		
65-407	-	7L9	VII	土壤(古墳)	黒	C2-赤-赤	17.8	-	灰褐色 (10V88/2) (10V88/2)	楕化	ヨコナデ	ヨコナデ	2/36		

品目 規格 No.	出力位置 No.	組合開頭 通名	種類	組 墓			高さ(cm)	色 調	成形	製作所・文様等	通存率	付着物・使用経年等	備考	
				組名	分類	各部								
65 408	-	7125	VII	土塚墓(古墳)	側	C2 右-G・海	(15.4)	-	に好み・面開 (10YR6/1)	糊化	(1)ヨコナデ (ケヤリ)	(1)ヨコナデ (チ・ナラ)	(1)体 3/368	X.久
65 409	-	12812-16	VII	土塚墓(古墳)	側	C2 長-チ・赤	(15.3)	-	に好み・面開 (10YR7/3)	糊化	(ヨコナデ	(ヨコナデ	(1)体 1/36	X.久
65 410	-	9221	VII	土塚墓(古墳)	側	C2 G・黒	(15.5)	-	陶(7.5YR4/3)	糊化	(1)ヨコナデ (ケヤリ)	(1)ヨコナデ ハサ	(1)体 4/368	
66 411	-	928-12	VII	土塚墓(古墳)	側	C3 右-G	9.9	-	培(7.5YR6/6) (7.5YR6/6)	糊化	ヨコナデ	ヨコナデ	(1)体 17/36	
66 412	-	9215	VII	土塚墓(古墳)	側	D 長-G	-	-	に好み・面開 (10YR5/3)	糊化	ヨコナデ	ヨコナデ	(1)体 1/36	
66 413	-	武974F	VII	土塚墓(古墳)	側	D 長-海	-	-	陶(7.5YR5/2) (7.5YR5/2)	糊化	ヨコナデ ナガ	ヨコナデ ナガ	(1)体 1/36	
66 414	-	829-13	VII	土塚墓(古墳)	側	不明 右-チ	-	-	に好み・面開 (10YR6/3)	糊化	ケイソリ ナゲ	ケイソリ ナゲ	ハサメ ナゲ	体
66 415	-	7825	VII	土塚墓(古墳)	側	不明 G・チ・海	-	-	灰青緑	糊化	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	X.久
66 416	-	814E-21	VII	土塚墓(古墳)	側	不明 右-G	-	4.3	陶(7.5YR6/2) (7.5YR4/2)	糊化	ヨコナデ ナガ・ハセメ	ヨコナデ ナガ・ハセメ	(1)体 35/36	炭化物 X.久
66 417	-	武977T	VII	土塚墓(古墳)	側	不明 右-G	-	3.2	陶(7.5YR4/2) (7.5YR4/2)	糊化	ハゲヌ	ハゲヌ	(1)体 35/36	炭化物 X.久
66 418	-	8119-20,8821	VII	土塚墓(古墳)	側	不明 右-チ	-	5.6	に好み・面開 (10YR5/3) (10YR5/2)	糊化	ヨコナデ ナガ	ヨコナデ ナガ	(1)体 1/36	
66 419	-	捷士	VII	土塚墓(古墳)	ミニチュア 上蓋	長	6.0	-	浅(2.5YV7/3) (2.5YV7/4)	糊化	ナゲ	ナゲ	6/36	
66 420	-	10H5	VII	土塚墓(古墳)	ミニチュア 上蓋	長	-	3.6	に好み・面開 (10YR7/3) (10YR5/1)	糊化	ナゲ	ナゲ	35/36	
66 421	-	11H21	VII	圓文土器	脚踏	長	-	-	に好み・面開 (7.5YR6/4)	糊化	ヨコナデ	ヨコナデ	把手	
66 422	-	828-25	VII	圓文土器	脚踏	長	28.0	-	に好み・面開 (10YR6/4) (10YR6/3)	糊化	ヨコナデ	ヨコナデ	(1)体 2/36	
66 423	-	9219-25	VII	圓文土器	脚踏	長	-	-	に好み・面開 (10YR5/3) (10YR5/2)	糊化	ヨコナデ	ヨコナデ		
66 424	-	11H10	VII	圓文土器	脚踏*	長	-	-	脚踏(2.5YV4/1) (2.5YV4/1)	糊化	ヨコナデ	ヨコナデ	把手	
66 425	-	14H22	VII	圓文土器	脚踏*	長	-	-	灰青緑	糊化	ヨコナデ	ヨコナデ		
66 426	-	9H15	VII	圓文土器	脚踏	長	-	-	灰青緑(2.5Y7/2) (2.5Y7/2)	糊化	ヨコナデ	ヨコナデ		
66 427	-	14D14	VII	圓文土器	脚踏	長	-	-	に好み・面開 (10YR6/3) (7.5YR5/6)	糊化	ヨコナデ	ヨコナデ		
66 428	-	9H9	VII	圓文土器	脚踏	長	-	-	に好み・面開 (10YR5/3) (10YR5/2)	糊化	ヨコナデ	ヨコナデ		
66 429	-	9H15	VII	圓文土器	脚踏	長	-	-	脚踏(2.5YV6/5) (2.5YV6/5)	糊化	ヨコナデ	ヨコナデ		
66 430	-	10H15	VII	圓文土器	脚踏*	長	-	-	に好み・面開 (10YR5/2) (10YR5/2)	糊化	ヨコナデ	ヨコナデ		
66 431	-	10H10	VII	圓文土器	脚踏	中	-	-	灰青緑(2.5Y7/2) (2.5Y7/2)	糊化	ヨコナデ	ヨコナデ		
66 432	-	9H15	VII	圓文土器	脚踏*	中	-	-	に好み・面開 (10YR6/3) (7.5YR5/6)	糊化	ヨコナデ	ヨコナデ		
66 433	-	10H15	VII	圓文土器	脚踏	長	-	-	灰青緑(2.5YV6/2) (2.5YV6/2)	糊化	ヨコナデ	ヨコナデ		
66 434	-	9H15	VII	圓文土器	脚踏	G・チ	18.0	-	に好み・面開 (10YR6/3) (10YR6/3)	糊化	ヨコナデ	ヨコナデ	7/36	
66 435	-	10H15	VII	圓文土器	脚踏	G・海	-	-	灰青緑(2.5YV6/4) (2.5YV6/4)	糊化	ヨコナデ	ヨコナデ	(1)	
66 436	-	9H15	VII	圓文土器	脚踏	G・海	-	-	灰青緑(2.5YV6/4) (2.5YV6/4)	糊化	ヨコナデ	ヨコナデ		
66 437	-	12H24-25	VII	圓文土器	脚踏	中・海	-	-	に好み・面開 (10YR6/3) (10YR6/3)	糊化	ヨコナデ	ヨコナデ		
66 438	-	12H7	VII	圓文土器	脚踏	面	-	-	灰青緑(2.5YV6/2) (2.5YV6/2)	糊化	ヨコナデ	ヨコナデ		
66 439	-	11H10	VII	圓文土器	脚踏	中	-	-	に好み・面開 (10YR6/3) (10YR6/3)	糊化	ヨコナデ	ヨコナデ		

測定番号	測定部位	測定名	測定箇所	種類	断面			断面(cm)			色調			成因	製作年・文様等		保存率	付帯物・使用跡等		備考	
					測定名	分類	含有率	分類	寸法	底径	高さ	内面	外面	内面	外面	内面	外面	内面	外面		
66 440	-	12E16		織文土器	鉢	G	-	-	-	-	-	に好み・直線 底面	黒褐色 (10V8/1)	酸化	ミガキ	沈殿(鉄)内光沢鉄文	体				
67 441	-	12E16	V1	織文土器	鉢	G-海	19.3	3.6	8.2	-	-	に好み・直線 底面	黒褐色 (10V8/2)	酸化	ミガキ	平行(鉄)文 ミガキ	口～体	8/36	7/36		
67 442	-	14E20	V1	歩生土器	壺	直	-	-	-	-	-	に好み・直線 底面	黒褐色 (10V8/3)	酸化	ナゲ	伏流水(鉄)内光沢鉄文(10V8/3)	体				
67 443	-	11F9	V1	歩生土器	壺	底G-直	-	-	-	-	-	に好み・直線 底面	黒褐色 (10V8/4)	酸化	ミガキ	清流(鉄)文 斜め(10V8/4)	口				X,X.
67 444	-	11F9	V1	歩生土器	壺	底G-直	-	-	-	-	-	に好み・直線 底面	黒褐色 (10V8/5)	酸化	ミガキ	斜め(鉄)文 (10V8/5)	体				X,X.
67 445	-	9K9	V1	歩生土器	壺	G-直	-	-	-	-	-	に好み・直線 底面	黒褐色 (10V8/6)	酸化	ミガキ	口(鉄)文 ミガキ	口				
67 446	-	10D3	V1	織文土器	壺	直	-	-	-	-	-	に好み・直線 底面	黒褐色 (10V8/7)	酸化	ミガキ	無記(鉄)	体				
67 447	-	10E23	V1	織文土器	壺	直G-直	-	-	-	-	-	に好み・直線 底面	黒褐色 (10V8/8)	酸化	ミガキ	斜め(鉄)文 (10V8/8)	体				炭化物
67 448	-	9H5	V1	織文土器	壺	底G	-	-	-	-	-	に好み・直線 底面	黒褐色 (10V8/9)	酸化	ミガキ	斜め(鉄)文 (10V8/9)	体				
67 449	-	9H11	V1	織文土器	壺	底G	-	-	-	-	-	に好み・直線 底面	黒褐色 (10V8/10)	酸化	ミガキ	斜め(鉄)文 (10V8/10)	体				
67 450	-	12D14	V1	歩生土器	壺	直	-	-	(1.6)	-	-	に好み・直線 底面	黒褐色 (10V8/11)	酸化	ミガキ	口(ハサフ)工具による研磨 体(ハサフ)	口～体	8/36			
67 451	-	13E18	V1	壺	直G-直	-	-	-	-	-	-	に好み・直線 底面	黒褐色 (10V8/12)	酸化	ミガキ	斜め(鉄)					

表3 土製品・石器・石製品・金属製品・鍛冶関連遺物観察表

凡例 1. 出土位置・遺構名・グリッド名を記した。

2. 法 算 大きさ(縦横・厚さ)で示した。長さ・長さ・横幅・厚さは所面形の最大値である。()中の数値は、欠損していることを示す。

1 土製品観察表

測定番号	測定部位	測定名	測定箇所	種類	断面			重量(g)	保存状況	備考
					長(直角)	幅(直角)	厚さ			
67 452	-	12G15	V	土師陶器(古代)	11.5	5.0	4.7	209.5	一部欠損	
67 453	SKX919	11H23	V	土師陶器(古代)	8.3	8.2	1.25	144.5	ほぼ完形 孔径1.1cm	軽度孔
67 454	-	13H23	V	土師陶器(古代)	5.6	(3.0)	2.1	40.0	1/2欠損	孔径0.8cm
67 455	-	11H13	V1	土師陶器(文部)	(2.0)	1.7	1.6	3.5	欠損	
67 456	-	13H12	V1	土師陶器(文部)	(1.6)	1.75	1.6	5.0	欠損	
67 457	S3246	12H19	I	土師(古代)	3.7	3.3	3.4	47.5	ほぼ完形	孔径0.7cm
67 458	-	12H10	V	土師(古代)	3.8	3.5	3.3	49.0	ほぼ完形	孔径0.7cm

2 石器観察表

測定番号	測定部位	測定名	測定箇所	分類	断面			重量(g)	保存状況	G.M.	備考
					長さ	幅	厚さ				
67 459	S3025	9H7	石器	平基有茎	(1.8)	1.65	0.45	1.03	丸端・尖頭	鈍敲打	
67 460	-	12H12	V1	石器	平基有茎	(2.25)	1.5	0.65	1.60	尖頭	鈍石英
67 461	-	14E12	V1	石器	平基有茎	(2.0)	1.15	0.3	0.48	丸端・尖頭欠損	ミノウ
67 462	-	9H7	V1	石器	平基有茎	(1.8)	(1.3)	0.45	0.66	丸端・尖頭基底欠損	鈍石英真白
68 463	SH02004	10H18-19-20	石器	内基有茎	(2.3)	1.25	0.6	0.97	丸端削り尖頭	片質真白	
68 464	-	13H1	石器	内基有茎	2.8	1.25	0.65	1.40	ほぼ完形	片質真白	
68 465	-	12H12	V1	石器	内基有茎	(2.75)	1.3	0.4	0.77	尖頭	片質真白
68 466	-	6M23	V1	石器	内基有茎	(1.65)	(1.1)	0.35	0.39	基部欠損	菱疊石
68 467	-	8H11	V1	石器	内基有茎	3.0	1.45	0.5	1.47	ほぼ完形	鈍敲打
68 468	-	11G2	V1	石器	内基有茎	4.5	1.7	1.3	8.21	ほぼ完形	片質真白

3 石製品観察表

測定番号	測定名	出力位置	部位	種類	法線(cm)			重量(g)	進歩状況	石材	備考
					長さ	幅	厚さ				
68 470 51307	(玉手)古削				0.45	0.45	0.20	0.08	定期	黒色頁岩	
68 470 50205 11122-23, P522 1212-3	(玉手)古削				0.50	0.50	0.3	0.1	定期	黒色頁岩	
68 470 50205 11121-22,121	(玉手)古削				0.45	0.45	0.3	0.08	定期	黒色頁岩	
68 470 50205 11121-22,121	(玉手)古削				0.55	0.55	0.2	0.1	定期	黒色頁岩	
68 472 50217	E?				2.0	1.65	1.0	5.0	定期	玉露	
68 474 -	10.28	V 磨G			1.6	6.5	4.4	471.0	ほぼ定期	御风石	
68 475 -	9.21	V 磨G			(1.9)	(3.2)	6.2	923.0	定期	聖山石	
68 476 -	- 10.07.2022	V 磨G			(14.05)	7.5	3.6	402.0	定期	御风石	鉛熱?
68 477 -	8.17	V 磨G			(5.5)	3.6	2.8	57.0	定期	御风石	
68 478 50245	12.01.4	V 磨G			(8.0)	6.7	3.0	221.0	定期	聖山石	
68 479 -	8.22	V 磨石板製品			11.5	9.7	9.2	1510.0	定期	聖山石	
68 480 -	10.28	V 磨石板製品			8.0	4.2	4.2	412.0	定期	聖山石	
68 481 -	8.25	V 磨石板製品			(8.1)	11.85	5.9	805.5	定期	花崗岩	鉛熱?
68 482 -	9.21	V 磨石板製品			(5.4)	8.4	4.0	210.0	定期	花崗岩	鉛熱?
68 483 -	14.09	V 石牌			11.5	7.5	7.6	491.5	定期	御风石	
68 484 -	15.09	V 石牌			(14.0)	7.05	6.7	710.5	一部欠	私東山石	鉛熱?

4 金属製品観察表

測定番号	測定名	出力位置	部位	種類	部材	法線(cm)			重量(g)	進歩状況	備考
						長さ	幅	厚さ			
70 497 50271	11H14	帶金具 銀	頭			3.0	1.4	0.2	7.0	継手欠損 前面「金」元素検出	
70 498 50271	11H14	帶金具 銀	頭			3.0	4.0	0.2	7.5	継手欠損 前面「金」元素検出	
70 499 50271	11H14	帶金具 銀	頭			3.0	0.7	0.2	26.0	定期	透孔 約0.3cm 檻2.6cm
70 500 50271	11H14	帶金具 銀	頭			3.0	0.7	0.1	26.0	定期	前面「金」元素検出
70 501 50271	11H14	帶金具 銀	頭			3.0	0.7	0.1	15.0	定期	透孔 約0.3cm 檻2.7cm
70 502 50271	11H14	帶金具 銀	頭			3.0	0.7	0.1	26.0	定期	透孔 約0.3cm 檻2.7cm
70 503 50271	11H14	帶金具 銀	頭			3.0	0.8	0.2	26.0	定期	透孔 約0.3cm 檻2.7cm
70 504 50271	11H14	帶金具 銀	頭			3.0	0.8	0.2	26.0	定期	透孔 約0.3cm 檻2.7cm
70 505 50271	11H14	帶金具 銀	頭			3.0	0.8	0.2	26.0	定期	透孔 約0.3cm 檻2.7cm
70 506 50271	11H14	帶金具 銀	頭			3.0	0.8	0.2	26.0	定期	透孔 約0.3cm 檻2.7cm
70 507 50271	11H14	帶金具 銀	頭			3.0	0.8	0.2	26.0	定期	透孔 約0.3cm 檻2.7cm
70 508 50271	11H14	帶金具 銀	頭			3.0	0.8	0.2	26.0	定期	透孔 約0.3cm 檻2.7cm
70 509 50271	11H14	帶金具 銀	頭			3.0	0.8	0.2	26.0	定期	透孔 約0.3cm 檻2.7cm
70 510 50271	11H14	帶金具 銀	頭			3.0	0.8	0.2	26.0	定期	透孔 約0.3cm 檻2.7cm
70 511 50271	11H14	刀子金具 銀	頭			1.4	1.0	0.75	16.0	法2(定期)	透孔 約0.4cm 檻2.45cm 法3のうち2ヶ欠
70 512 50271	11H14	刀子金具 銀	頭			2.05	1.65	1.5	16.0	定期	透孔 約0.4cm 檻2.4cm 法3のうち2ヶ欠
70 513 50271	11H14	刀子金具 銀	頭			1.8	1.6	0.8	2.0	一部欠	
70 514 -	7L21	V 石牌	頭			-	-	-	-	透光	

別表4 木製品観察表

凡 例 1. 帯入位置 通称名、グリッド名を記した。

2. 法 量 口径×低幅×高さを示す。

3. 進 行 率 分別で36とし合数表示で記した。(体は低幅、底は底幅である。

測定番号	測定名	出力位置	部位	種類	法線(cm)			進行率	備考
					口径	底径	高さ		
69 495 -	- 15.06	II 带球	頭		-	7.0	-	16/36	内側由黒漆 象嵌みに竹花文?(赤漆)

5 鋼製間違遺物観察表

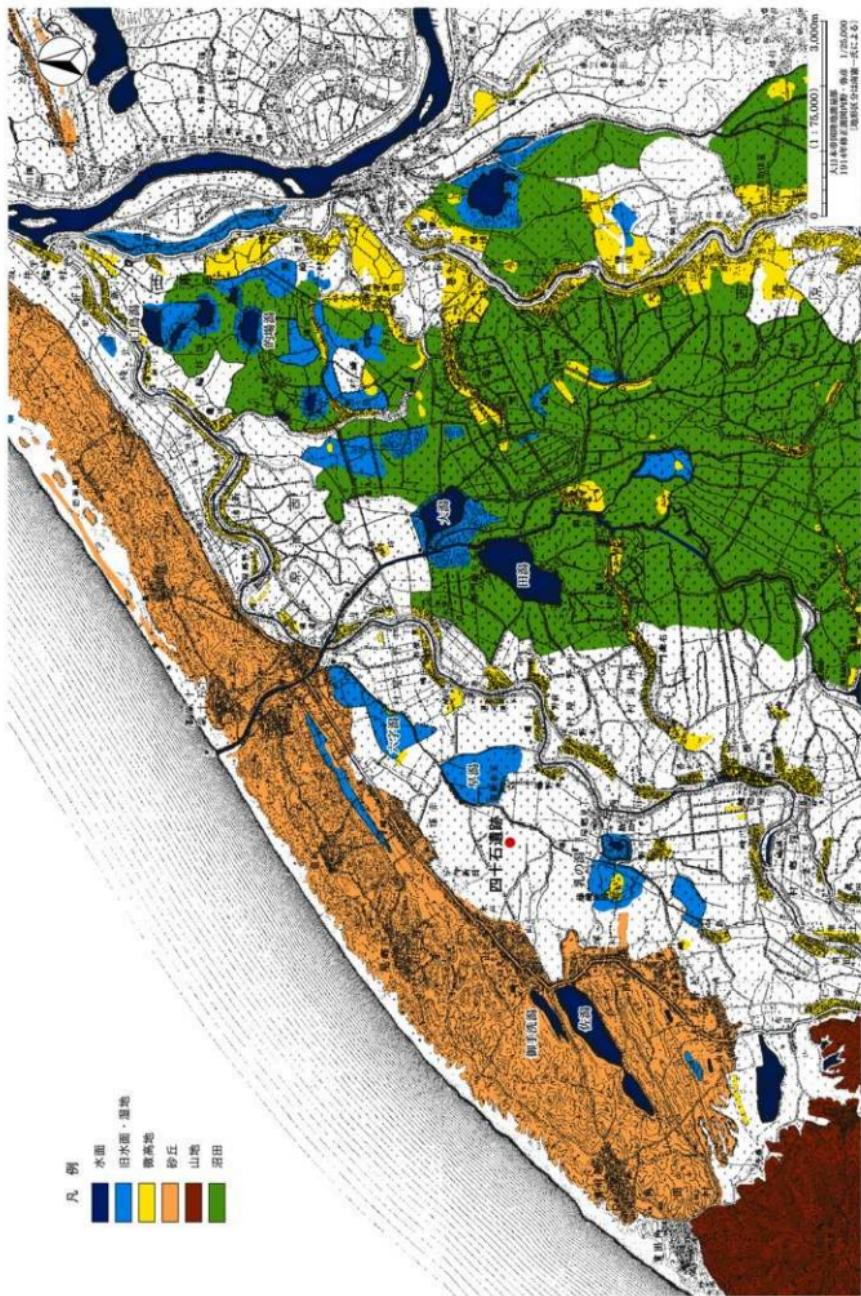
測定番号	測定名	出力位置	部位	種類	法線(cm)			重量(g)	備考
					長幅	短幅	厚さ		
69 485 -	東箱20(1418)	III	I		(5.0)	(6.5)	(2.0)	78.5	
69 486 -	P465	I	III		(4.4)	(6.3)	(2.7)	31.0	
69 487 -	- 12G14	V	III		(6.5)	(6.0)	(2.6)	54.5	
69 488 -	9223	V	III		(2.9)	(3.3)	(1.1)	10.0	
69 489 -	1068	V	III		(2.5)	(3.0)	(1.5)	9.5	幅6.0cm 高8.3cm
69 490 P908	11H15	V	III		(2.3)	(1.6)	(0.9)	2.5	鉛を削除した時
69 491 -	11H15	V	III		(2.8)	(1.7)	(1.1)	3.5	
69 492 S32027 P574	3 梅柄浮(熟)	V	III		(5.0)	(5.0)	(3.0)	110.0	
69 493 SK541	1 梅柄浮(熟)	V	III		(5.5)	(4.3)	(2.6)	71.5	
69 494 -	11H19	V	III		(5.5)	(3.6)	(1.6)	24.5	
69 495 51307	10L20	V	III		(5.0)	(3.8)	(2.5)	48.0	

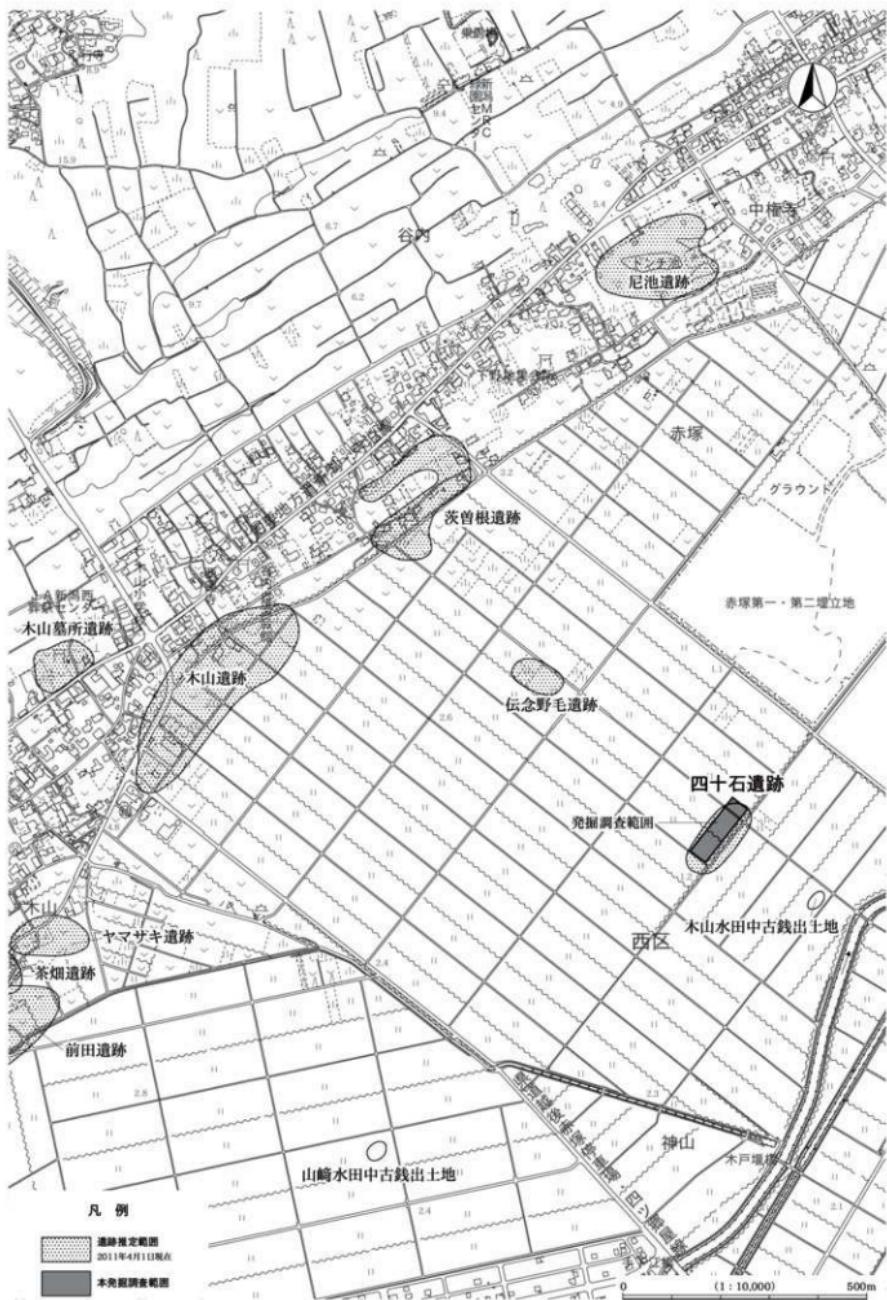
図 版



図版 2

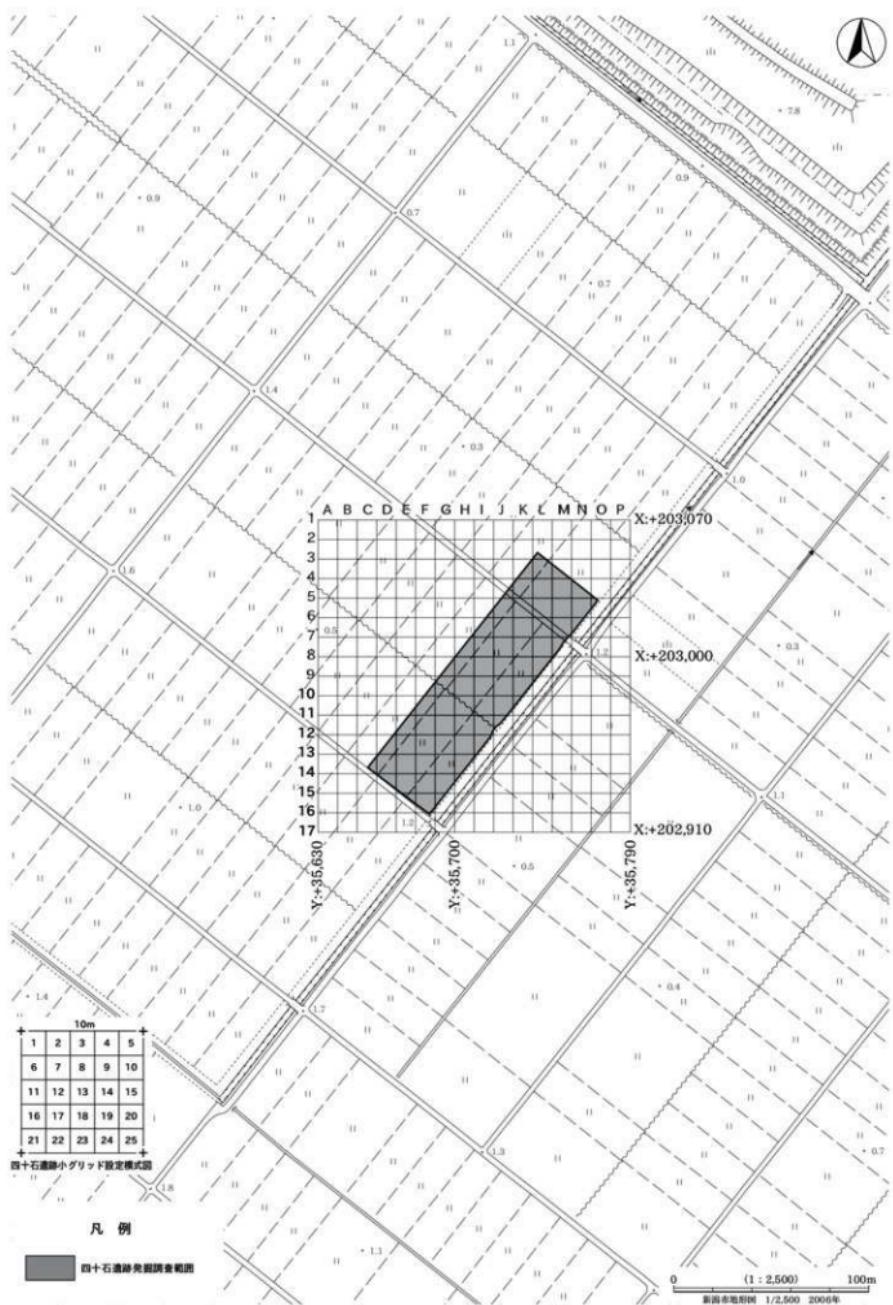
明治 44（1911）年の市域の地形



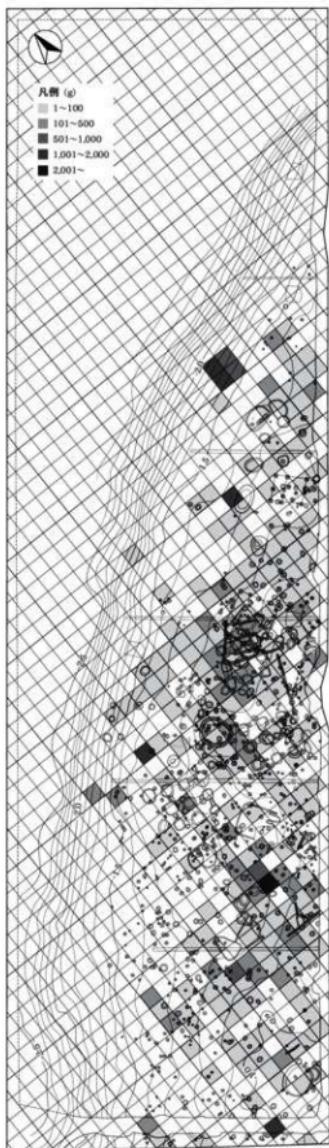


図版 4

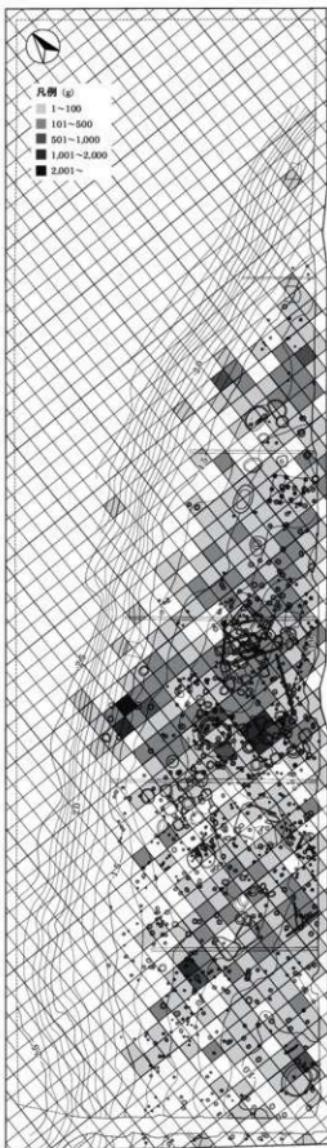
グリッド設定図 (1/2,500)



上層 古代須恵器

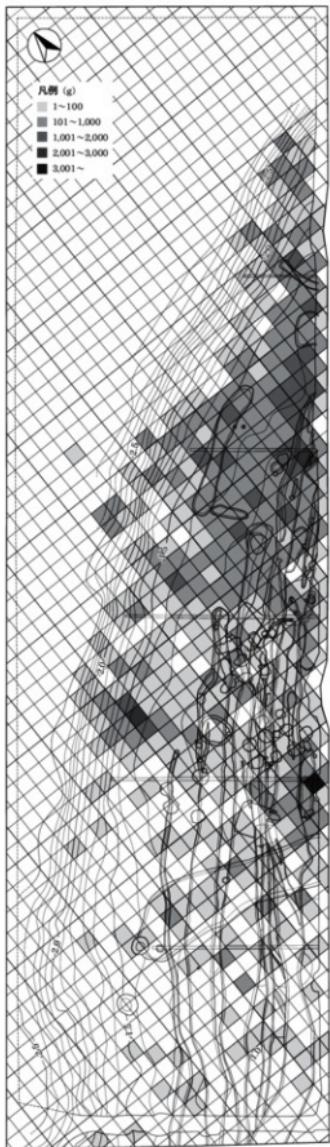


上層 古代土師器

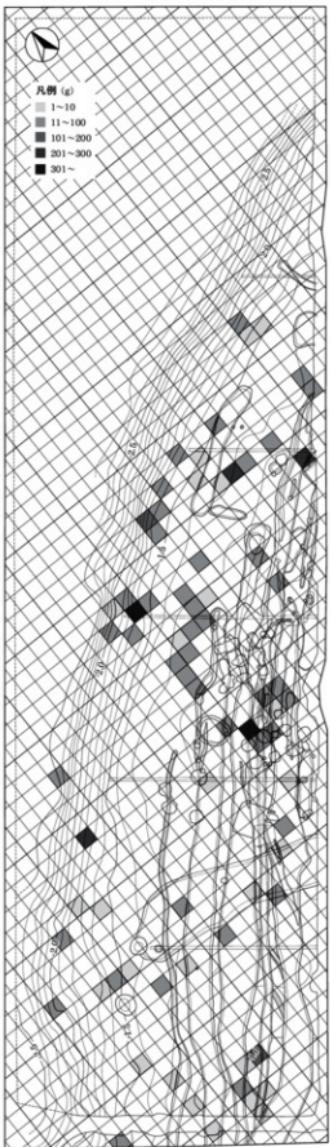


0 (1 : 600) 20m

下層 古墳土師器

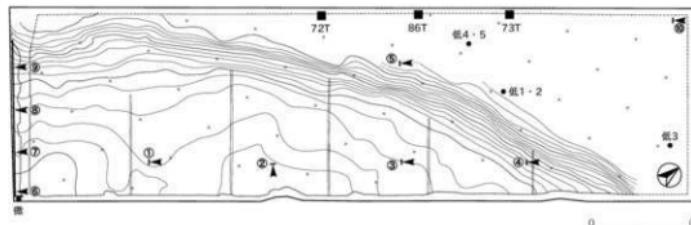
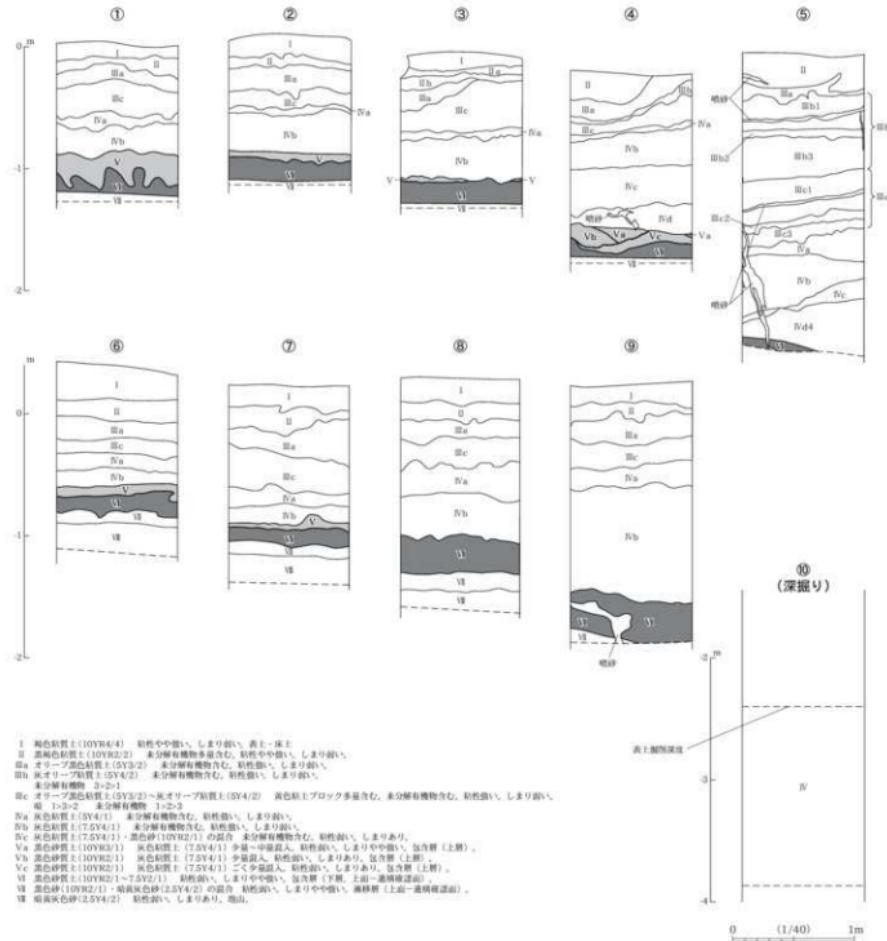


下層 縄文・弥生土器



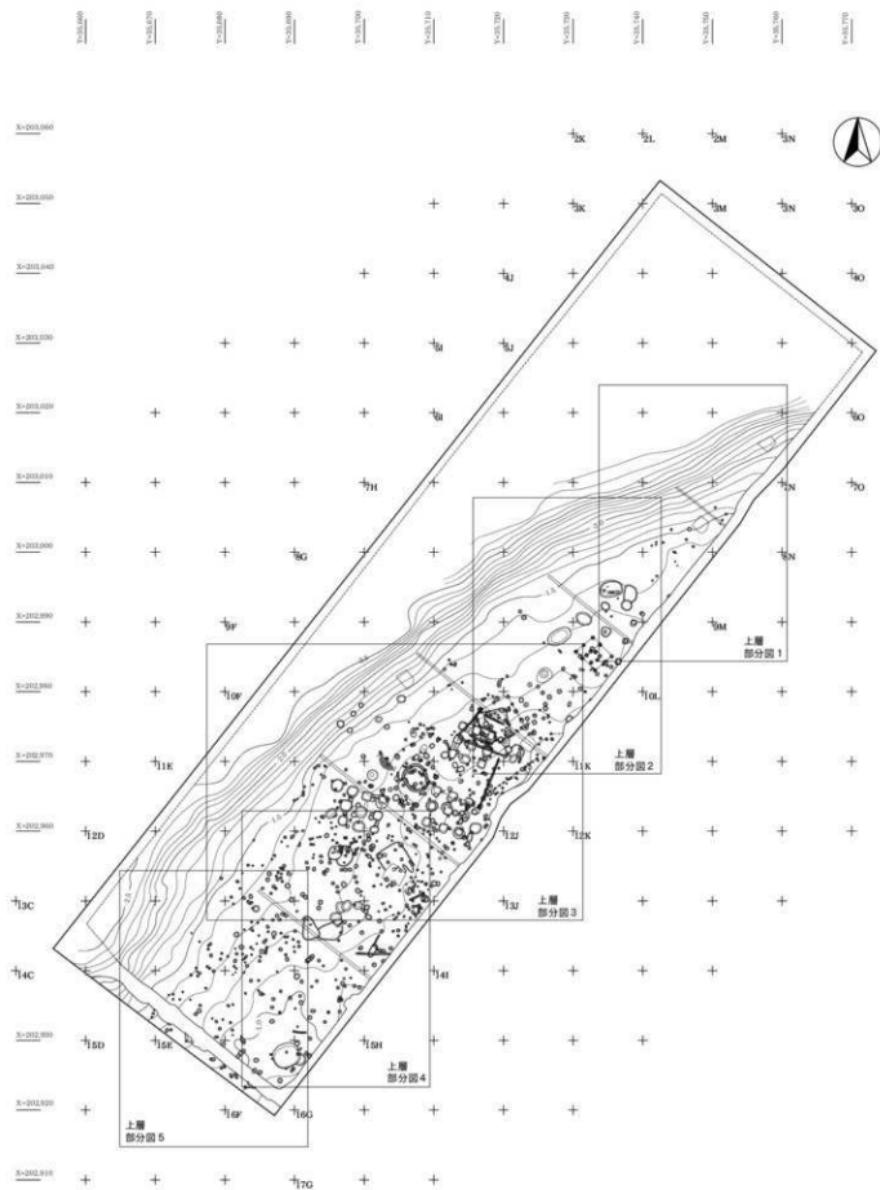
0 (1 : 600) 20m

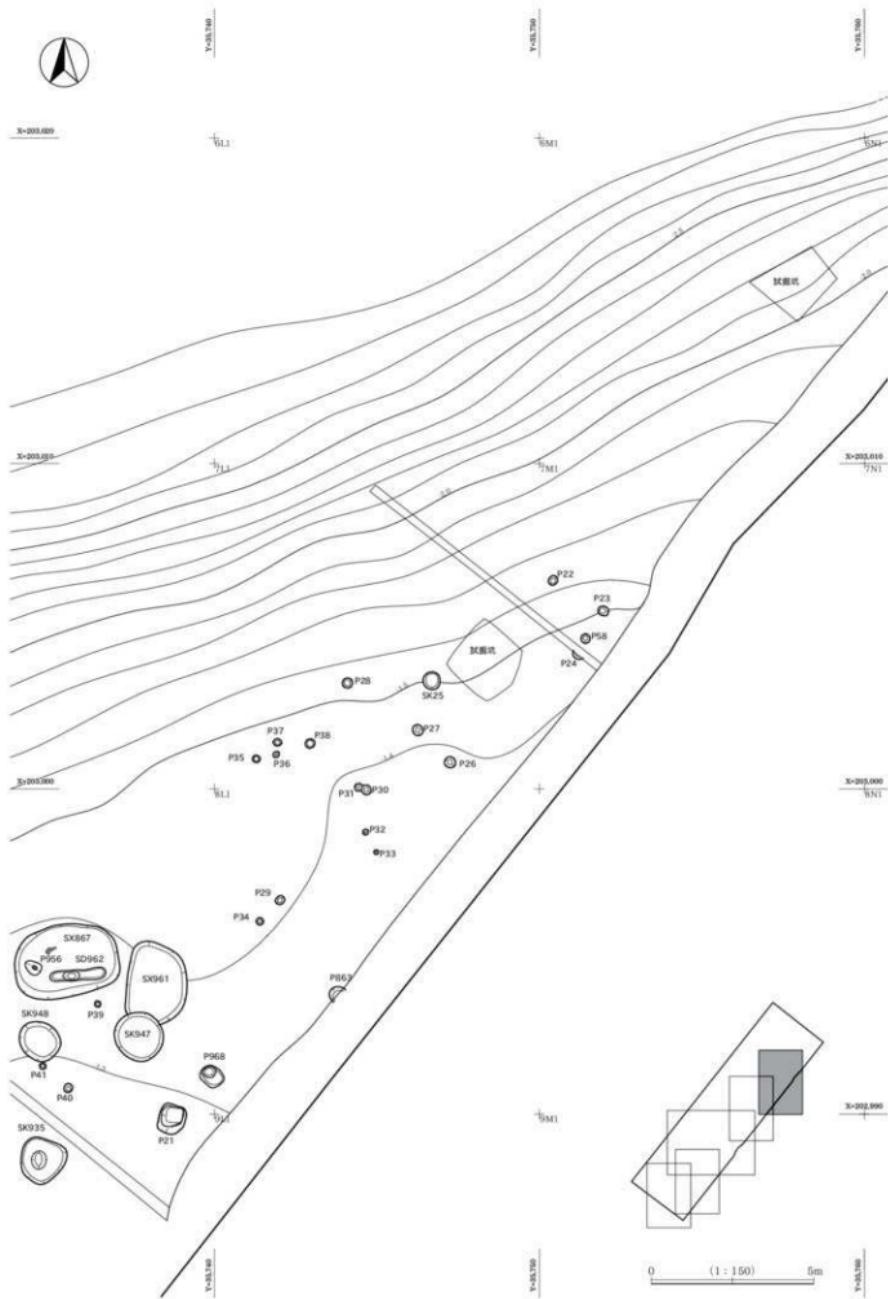
小グリッド別古墳土師器・縄文・弥生土器出土重量分布図

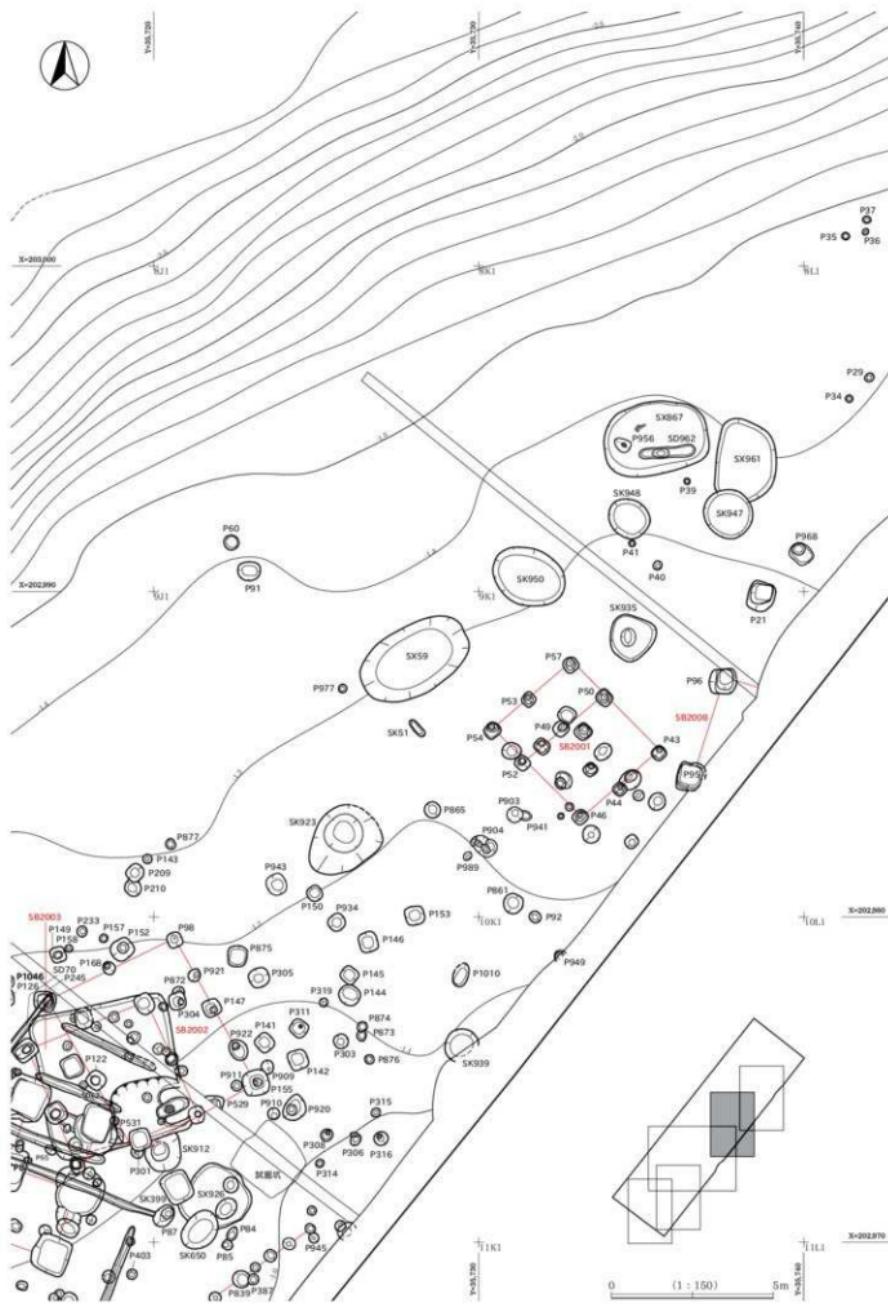


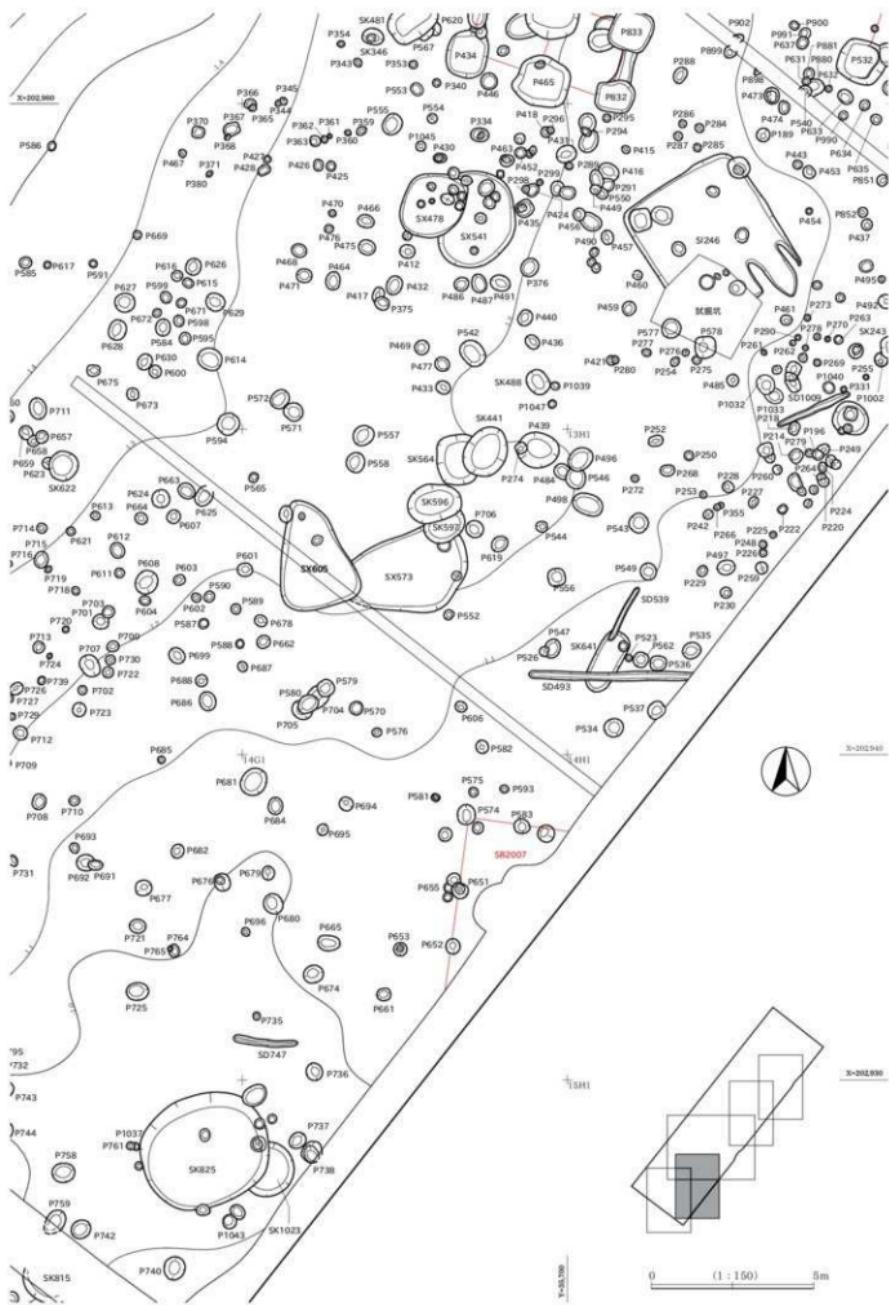
図版 10

上層遺構平面割付図 (1/700)



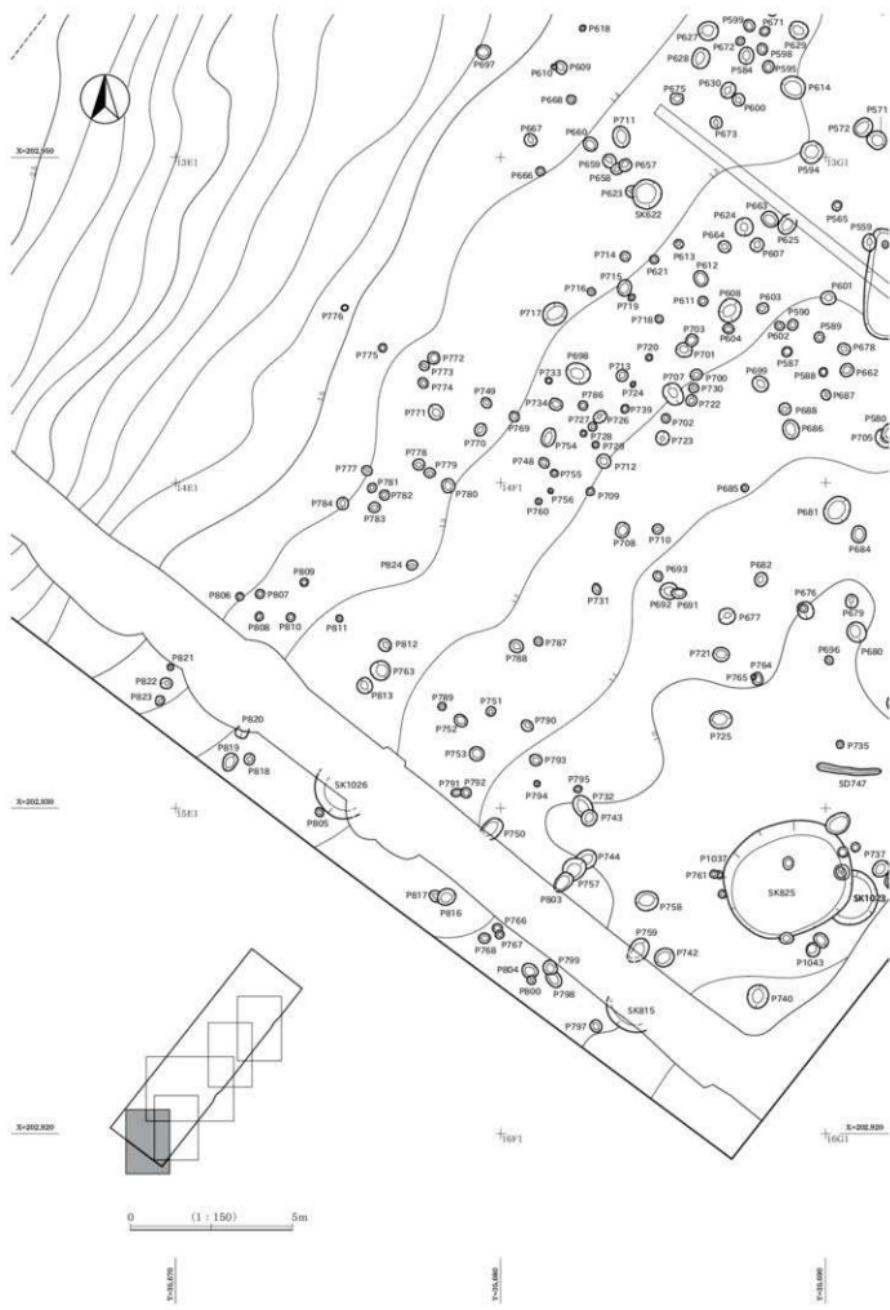




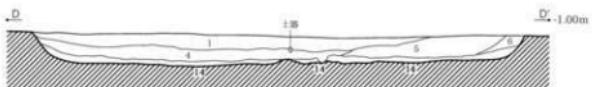
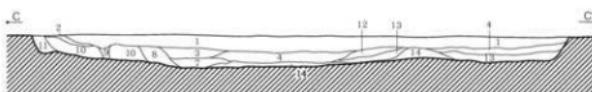
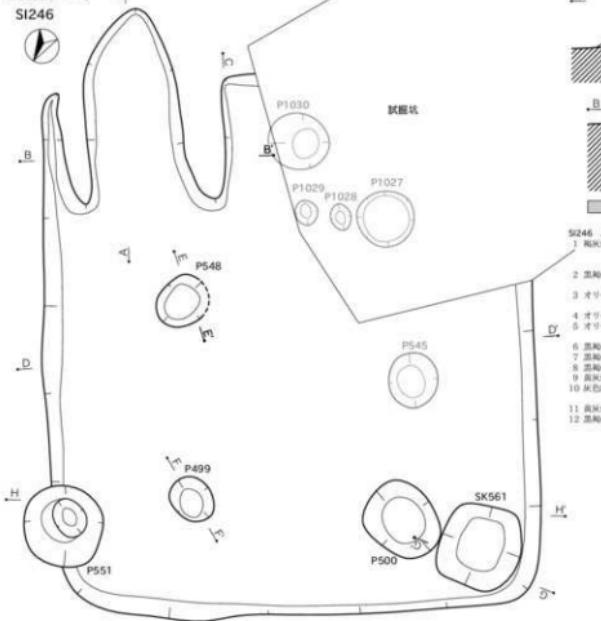


图版 15

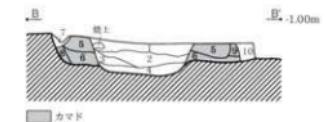
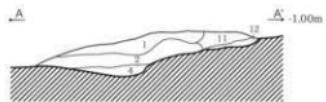
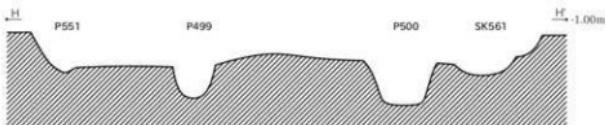
上層遺構配置図 5



(部分図3・4)



SI246
1 黒褐色砂質土 (10YR6/1) 厚化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりあり。
2 黒褐色砂質土 (10YR6/2) 厚化物を少量含む。粘性はとんどなし。しまりあり。
3 黒褐色砂質土 (10YR6/2) - 黑褐色砂質土 (10YR6/1) に少く薄い黒褐色砂質土 (10YR6/4) の混合。厚化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりあり。
4 黑褐色砂質土 (10YR6/2) - 黑褐色砂質土 (10YR6/1) の混合。厚化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりあり。
5 黑褐色砂質土 (10YR6/2) - 黑褐色砂質土 (10YR6/1) の混合。厚化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりあり。
6 黑褐色砂質土 (10YR6/2) 厚化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりあり。
7 黑褐色砂質土 (10YR6/2) - 黑褐色砂質土 (10YR6/1) の混合。厚化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりあり。
8 黑褐色砂質土 (10YR6/2) - 黑褐色砂質土 (10YR6/1) の混合。厚化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりあり。
9 黑褐色砂質土 (10YR6/2) - 黑褐色砂質土 (10YR6/1) の混合。厚化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりあり。
10 黑褐色砂質土 (10YR6/2) - 黑褐色砂質土 (10YR6/1) の混合。厚化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりあり。
11 黑褐色砂質土 (10YR6/2) - 黑褐色砂質土 (10YR6/1) の混合。厚化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりあり。
12 黑褐色砂質土 (10YR6/2) - 黑褐色砂質土 (10YR6/1) の混合。厚化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりあり。



SI246 A-A'・参考
1 黒褐色砂質土 (10YR6/1) - 黑褐色砂質土 (10YR6/1) の混合。厚化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりやや低い。
2 黑褐色砂質土 (10YR6/1) - 黑褐色砂質土 (10YR6/1) の混合。粘性はとんどなし。しまりやや高い。
3 オリーブ色砂質土 (10YR6/1) - 黑褐色砂質土 (10YR6/1) の混合。粘性はとんどなし。しまりやや高い。
4 オリーブ色砂質土 (10YR6/1) - 黑褐色砂質土 (10YR6/1) の混合。粘性はとんどなし。しまりやや高い。
5 オリーブ色砂質土 (10YR6/1) - 黑褐色砂質土 (10YR6/1) の混合。粘性はとんどなし。しまりやや高い。
6 黑褐色砂質土 (2.5Y3/2) 厚化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりやや高い。
7 黑褐色砂質土 (2.5Y3/2) 厚化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりやや高い。
8 黑褐色砂質土 (2.5Y3/2) 厚化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりやや高い。
9 黑褐色砂質土 (2.5Y4/1) 厚化物やや多い。しまりやや高い。
10 黑褐色砂質土 (2.5Y4/1) - 黑褐色砂質土 (2.5Y4/1) の混合。厚化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりやや高い。
11 黑褐色砂質土 (2.5Y4/1) - 黑褐色砂質土 (2.5Y4/1) の混合。厚化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりやや高い。
12 黑褐色砂質土 (2.5Y3/2) 厚化物はとんどなし。しまりやや高い。

SI246-P548



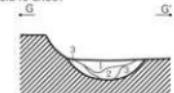
P548
1 黒褐色砂質シルト (2.5Y4/1) - オリーブ色砂質シルト (5Y3/1) の混合。厚化物を微量含む。粘性あり。
2 黑褐色砂質土 (2.5Y3/1) 粘性はとんどなし。しまりやや高い。

SI246-P499



P499
1 黑褐色砂質シルト (2.5Y4/1) - オリーブ色砂質シルト (5Y3/1) の混合。厚化物あり。しまりやや高い。
2 黑褐色砂質土 (2.5Y3/2) 粘性はとんどなし。しまりやや高い。

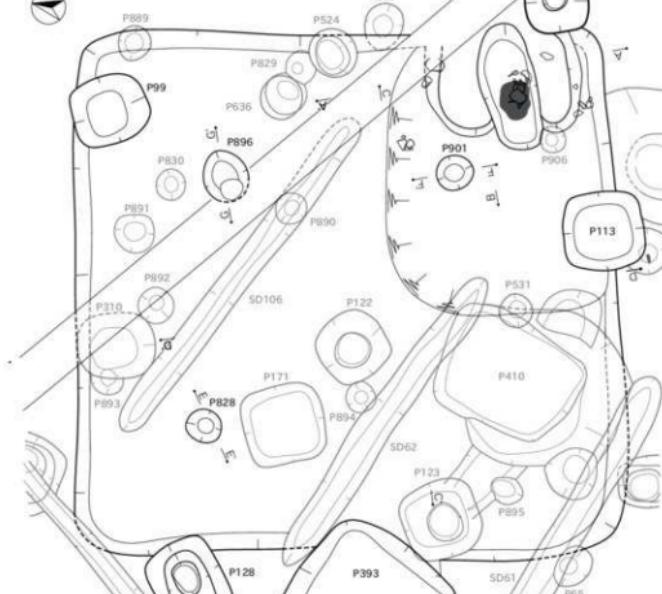
SI246-SK561



SK561
1 黑褐色砂質土 (10YR6/1) - 黑褐色砂質土 (10YR6/3) の混合。粘性はとんどなし。しまりやや高い。
2 オリーブ色砂質土 (10YR6/1) - 黑褐色砂質土 (10YR6/2) の混合。粘性はとんどなし。しまりやや高い。
3 黑褐色砂質土 (10YR6/2) - 黑褐色砂質土 (10YR6/1) の混合。粘性はとんどなし。しまりやや高い。

(部分図2・3)

SI307



SI307-P828

SI307-P828

1 黒色砂質土 (10YR2/1) 硬化物を中量含む。
粘性はほとんどなし。しまりやや低い。
2 黒色砂質土 (10YR1/7.1) 硬化物を少量含む。
粘性はほとんどなし。しまりやや高い。

SI307-P901

トレンチ



SI307-P901

1 黒色砂質土 (10YR2/1) 黄褐色砂質土 (7.5YR3/1) 濃黒斑点入。
粘性はほとんどなし。しまりやや高い。
2 黑色砂質土 (10YR2/1) 黄褐色砂質土 (5YR5/2) の混合
粘性はほとんどなし。しまりやや低い。

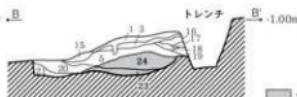
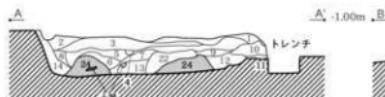
SI307-P896

トレンチ



SI307-P896

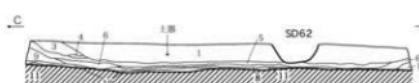
1 黒色砂質土 (10YR2/1) に夾む黄褐色砂質土 (10YR1/7) 少量混入。
粘性はほとんどなし。しまりやや高い。
2 黑色砂質土 (10YR2/1) 黄褐色砂質土 (5YR5/2) の混合
粘性はほとんどなし。しまりやや低い。



SI307カット A-A'・B-B'

- 1 黒色砂質土 (10YR2/1) 黄褐色砂質土 (5YR1/1) の混合、粘性は低い。(2.5Y4/1) オーバーブラック色粘質土
(2.5Y3/1) の混合、粘性は中等、硬化物を多量含む。しまりやや低い。
- 2 黑色砂質土 (2.5Y3/2)、暗褐色砂質土 (2.5Y4/2) の混合、しまりやや低い。
- 3 黑色砂質土 (2.5Y3/2)、オーバーブラック色粘質土 (5YR1/2) の混合、灰オーバーブラック色粘質土 (5YR2/2) の混合、粘性は低、しまりやや低い。
- 4 黑褐色砂質土 (2.5Y3/2)、オーバーブラック色粘質土 (5YR2/2) の混合、粘性は低、しまりやや低い。
- 5 黑色砂質土 (2.5Y4/1)、オーバーブラック色粘質土 (5YR3/1) の混合、硬化物を多量含む。粘性はほとんどなし。しまりやや低い。
- 6 黑色砂質土 (2.5Y4/1)、粘性は低、粘性は低い、しまりやや低い。
- 7 黑褐色砂質土 (2.5Y4/1)、黑褐色砂質土 (2.5Y3/1) の混合、粘性は低、しまりやや低い。
- 8 黑色砂質土 (2.5Y3/1)、黄褐色砂質土 (2.5Y3/3) の混合、粘性は低、しまりやや低い。
- 9 黑色砂質土 (2.5Y4/1)、オーバーブラック色粘質土 (5YR3/1) の混合、粘性は中等、しまりやや低い。
- 10 黑色砂質土 (2.5Y4/1)、黄褐色砂質土 (2.5Y3/3) の混合、粘性は低、しまりやや低い。
- 11 黑色砂質土 (10YR2/1)、黑褐色砂質土 (10YR1/7.1) の混合、しまりやや低い。
- 12 黑色砂質土 (10YR2/1) に夾む黄褐色砂質土 (10YR5/4)、黃褐色砂質土 (2.5Y4/1) 濃黒斑点入。

- 13 黄褐色砂質土 (2.5Y3/1)、黄褐色砂質土 (2.5Y4/1) の混合、粘性は中等、しまりやや低い。
- 14 黑色砂質土 (10YR2/1) 黄褐色砂質土 (10YR1/7) の混合、オーバーブラック色粘質土 (2.5Y3/1) の混合、粘性は中等、しまりやや低い。
- 15 黄褐色砂質土 (2.5Y3/1)、オーバーブラック色粘質土 (2.5Y3/1) の混合、粘性は低、しまりやや低い。
- 16 黄褐色砂質土 (10YR2/1)、黄褐色砂質土 (2.5Y3/1) の混合、粘性は低、しまりやや低い。
- 17 黄褐色砂質土 (2.5Y3/1)、黄褐色砂質土 (2.5Y3/1) の混合、粘性は低、しまりやや低い。
- 18 黄褐色砂質土 (2.5Y4/1)、灰黒色砂質土 (5YR4/1) の混合、粘性は低、しまりやや低い。
- 19 黑色砂質土 (2.5Y3/1)、しまりやや低い。
- 20 黑色砂質土 (2.5Y3/1)、黑色砂質土 (10YR2/1) の混合、粘性は中等、しまりやや低い。
- 21 黑色砂質土 (2.5Y3/1)、黄褐色砂質土 (2.5Y3/1) の混合、粘性は中等、しまりやや低い。
- 22 黑色砂質土 (2.5Y3/1)、黄褐色砂質土 (2.5Y4/1) の混合、粘性は中等、しまりやや低い。
- 23 黑色砂質土 (2.5Y3/1)、黄褐色砂質土 (2.5Y3/2) の混合、粘性は少量含む。しまりやや低い。
- 24 黑色砂質土 (5YR4/1)、オーバーブラック色粘質土 (5YR3/2) の混合、硬化物を少量含む。粘性はやや低い、しまりやや低い。



C-C' -1.00m



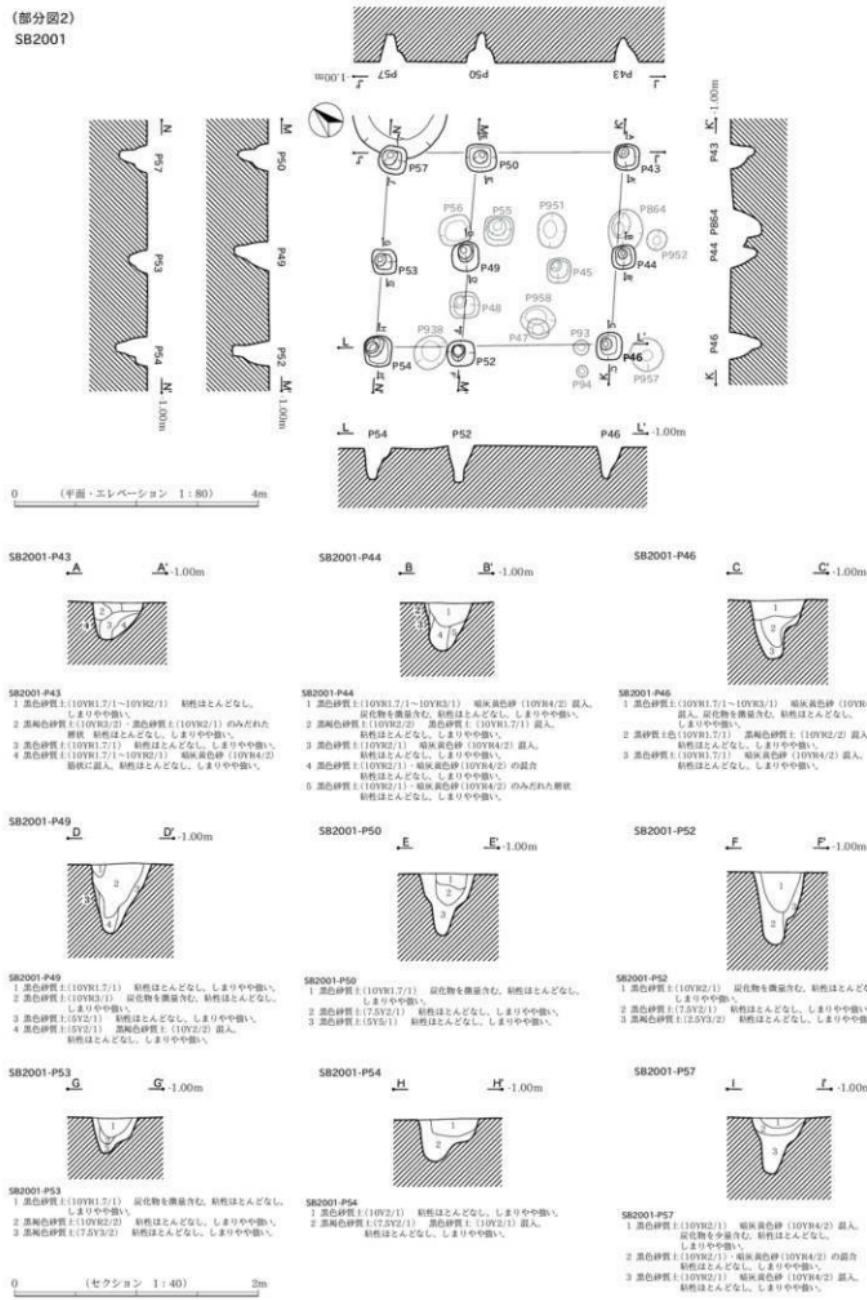
0 (1:40) 2m

SI307 C-C'・D-D'

- 1 黑色砂質土 (10YR2/1) 黄褐色砂質土 (2.5Y4/2) 濃黒斑点入。
硬化物を中量含む。しまりやや低い。
- 2 黑色砂質土 (10YR2/1) 黄褐色砂質土 (2.5Y4/2) 中量混入。
- 3 黑色砂質土 (2.5Y3/1) 从属砂質土 (10YR4/2) 少量混入。
硬化物を多量含む。しまりやや低い。
- 4 黑色砂質土 (2.5Y3/1) オーバーブラック色粘質土 (2.5Y3/4) 少量混入。
- 5 黑色砂質土 (2.5Y3/1) 黑褐色砂質土 (10YR2/2) の混合、灰黒色砂質土 (2.5Y4/2) 混入。
硬化物を少量含む。しまりやや低い。
- 6 黑色砂質土 (2.5Y3/1) 黑褐色砂質土 (2.5Y4/2) の混合、粘性は中等、しまりやや低い。
- 7 黑色砂質土 (10YR1/7.1) 从属砂質土 (10YR2/2) 濃黒斑点入。
- 8 黑色砂質土 (2.5Y3/1) 黑褐色砂質土 (2.5Y4/2) 黑褐色砂質土 (2.5Y4/1) の混合、灰黒色砂質土 (2.5Y4/2) 混入。
硬化物を少量含む。しまりやや低い。
- 9 黑色砂質土 (2.5Y2/1) 黑褐色砂質土 (2.5Y3/2) の混合、しまりやや低い。
- 10 黑色砂質土 (10YR1/7.1) 黑褐色砂質土 (10YR2/2) 黑褐色砂質土 (2.5Y4/1) の混合、灰黒色砂質土 (2.5Y4/2) 混入。
硬化物を少量含む。しまりやや低い。
- 11 黑色砂質土 (10YR2/1) 黄褐色砂質土 (2.5Y3/2) の混合、オーバーブラック色粘質土 (5YR4/1) 少量混入。硬化物を少量含む。しまりやや低い。

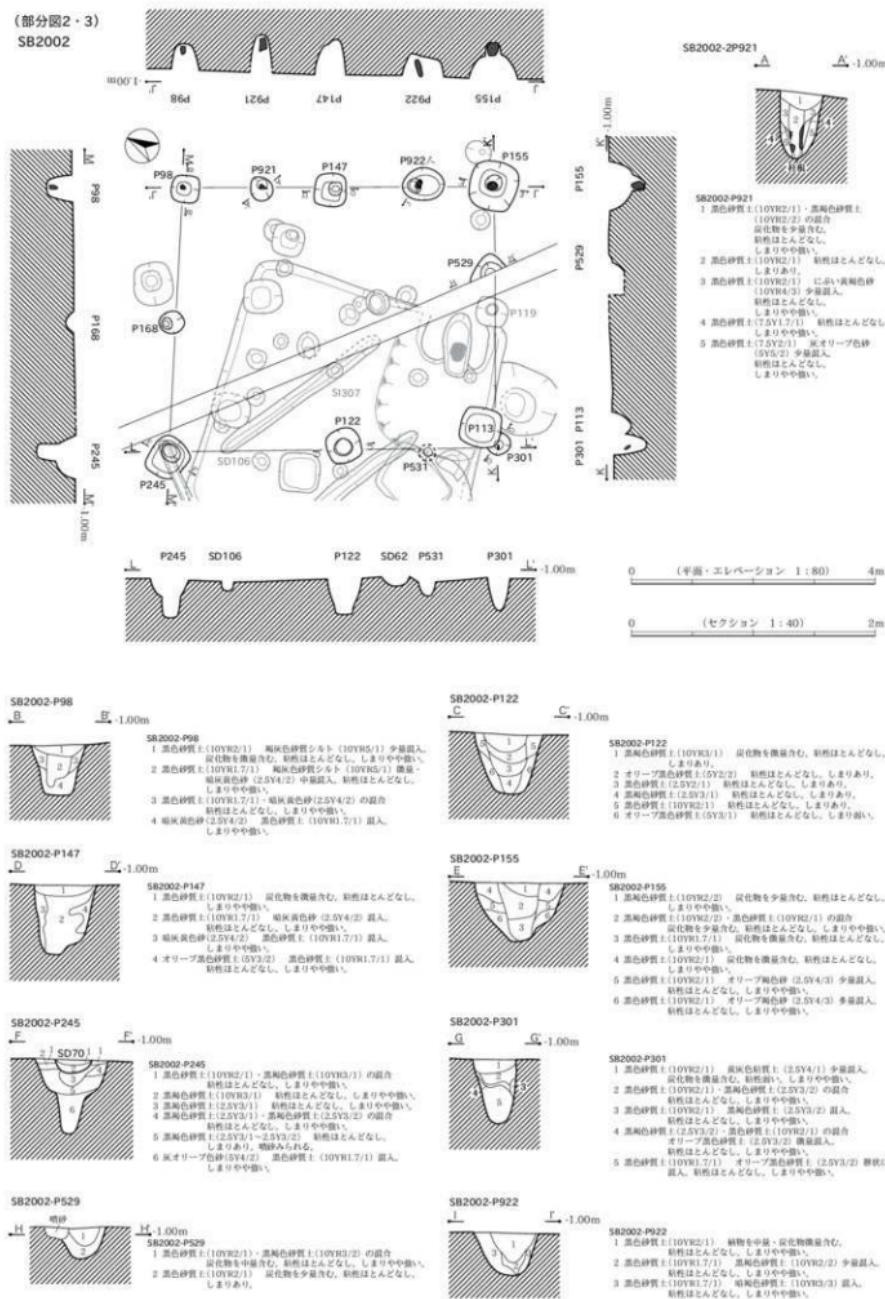
(部分圖2)

SB2001



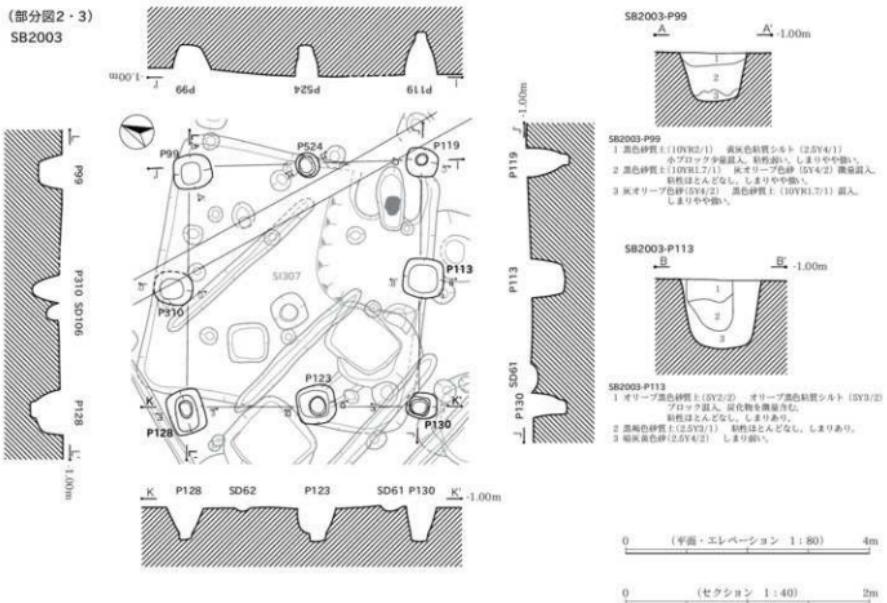
(部分図2・3)

SB2002

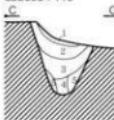


(部分)図2・3)

SB2003



SB2003-P119



SB2003-P119

- 1 黒色砂質土 (2SY3/1) 黒褐色砂質シルト (2SY4/1) 細粒。
- 2 黒色砂質土 (2SY3/1) 前述物を複合含む。粘性はとんどなし。しまりやや強い。
- 3 オリーブ色砂質土 (2SY3/1) 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
- 4 黑色砂質土 (2SY3/1) 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
- 5 オリーブ色砂質土 (2SY3/1) 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。

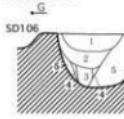
SB2003-P128



SB2003-P128

- 1 黒色砂質土 (2SY3/1) 黏化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
- 2 オリーブ色砂質土 (2SY3/1) 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
- 3 オリーブ色砂質土 (2SY3/1) 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
- 4 オリーブ色砂質土 (2SY3/1) 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
- 5 オリーブ色砂質土 (2SY3/1) 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
- 6 オリーブ色砂質土 (2SY3/1) 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
- 7 オリーブ色砂質土 (2SY3/1) 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。

SB2003-P310



SB2003-P310

- 1 黒色砂質土 (2SY3/1) 黒褐色砂質土 (2SY4/1) 少量細粒。前述物を複合含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
- 2 黑色砂質土 (10YR2/1) 黑褐色砂質土 (2SY3/2) の混合物。
- 3 黑色砂質土 (10YR2/1) 黑褐色砂質土 (2SY3/2) 細粒。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
- 4 黑色砂質土 (2SY3/2) 黑褐色砂質土 (10YR2/1) の混合物。
- 5 黑色砂質土 (10YR2/1) オリーブ色砂質土 (2SY3/2) 細粒。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。

SD106



SB2003-P524

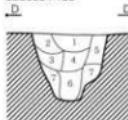


H



H

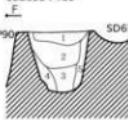
SB2003-P123



SB2003-P123

- 1 黑褐色砂質土 (2SY3/1) 黑褐色砂質シルト (2SY4/1) 少量粘粒を微量含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
- 2 黑褐色砂質土 (2SY3/1) 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
- 3 黑褐色砂質土 (2SY3/1) 黑褐色砂質土 (2SY3/2) の混合物。
- 4 オリーブ色砂質土 (2SY3/1) 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
- 5 オリーブ色砂質土 (2SY3/2) 黑褐色砂質土 (2SY3/1) の混合物。
- 6 黄色砂質土 (2SY3/1) 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
- 7 オリーブ色砂質土 (2SY3/2) オリーブ色砂質土 (2SY3/2) の混合物。

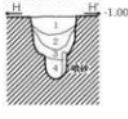
SB2003-P130



SB2003-P130

- 1 黑褐色砂質土 (2SY3/1) 黑褐色砂質土 (2SY4/2) の混合物。粘性を含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
- 2 黑褐色砂質土 (2SY3/1) 黑褐色砂質土 (2SY4/2) の混合物。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
- 3 黑褐色砂質土 (2SY3/1) 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
- 4 黑褐色砂質土 (2SY3/2) オリーブ色砂質土 (2SY4/2) の混合物。
- 5 黑褐色砂質土 (2SY3/2) オリーブ色砂質土 (2SY3/2) の混合物。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。

SB2003-P524

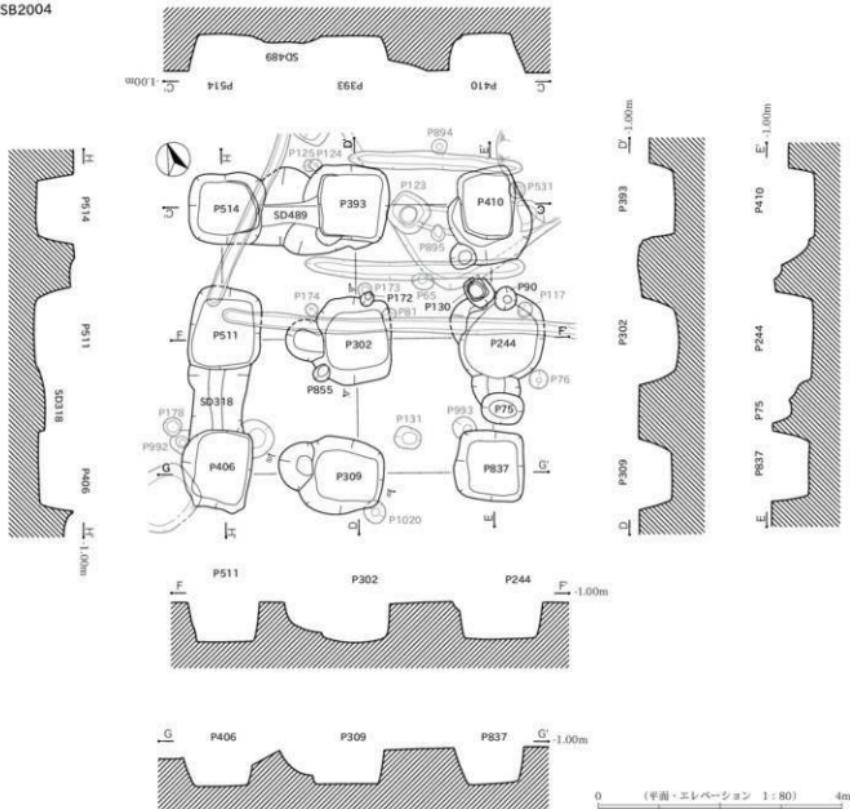


SB2003-P524

- 1 黑褐色砂質土 (10YR2/2) 黏化物を少暈含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
- 2 黑褐色砂質土 (10YR2/2) 黑褐色砂質土 (10YR2/1) の混合物。
- 3 黑褐色砂質土 (10YR2/2) 黑褐色砂質土 (10YR2/1) の混合物。
- 4 黑褐色砂質土 (10YR1.7/1) 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。

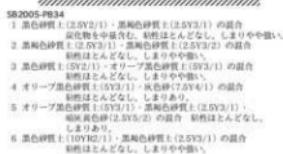
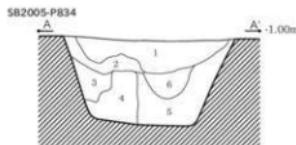
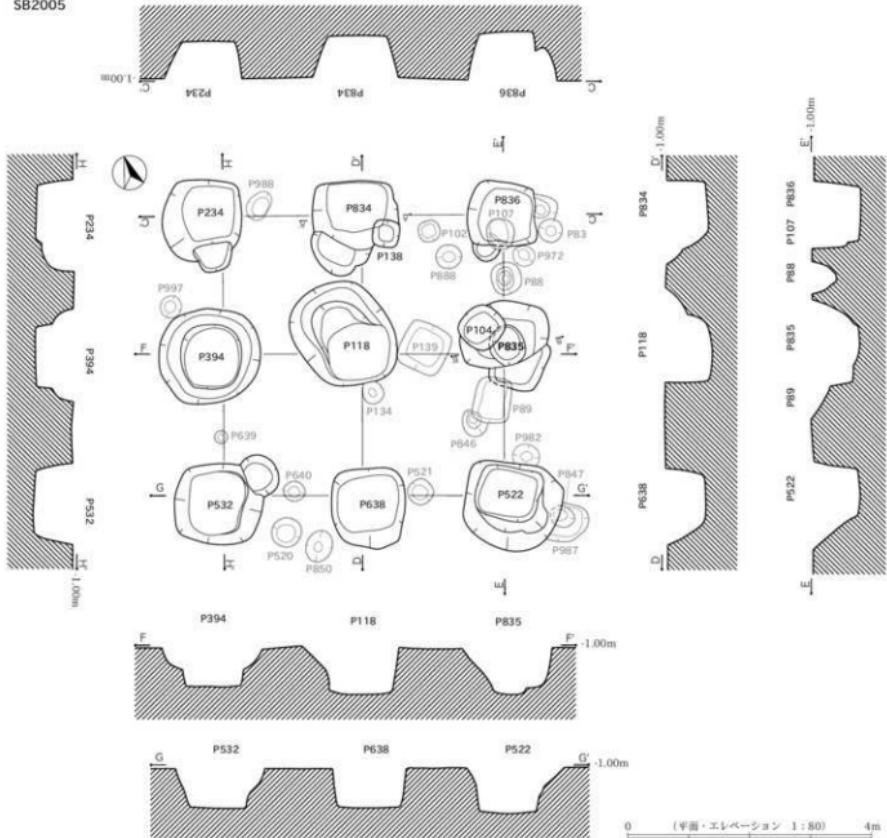
(部分図3)

SB2004



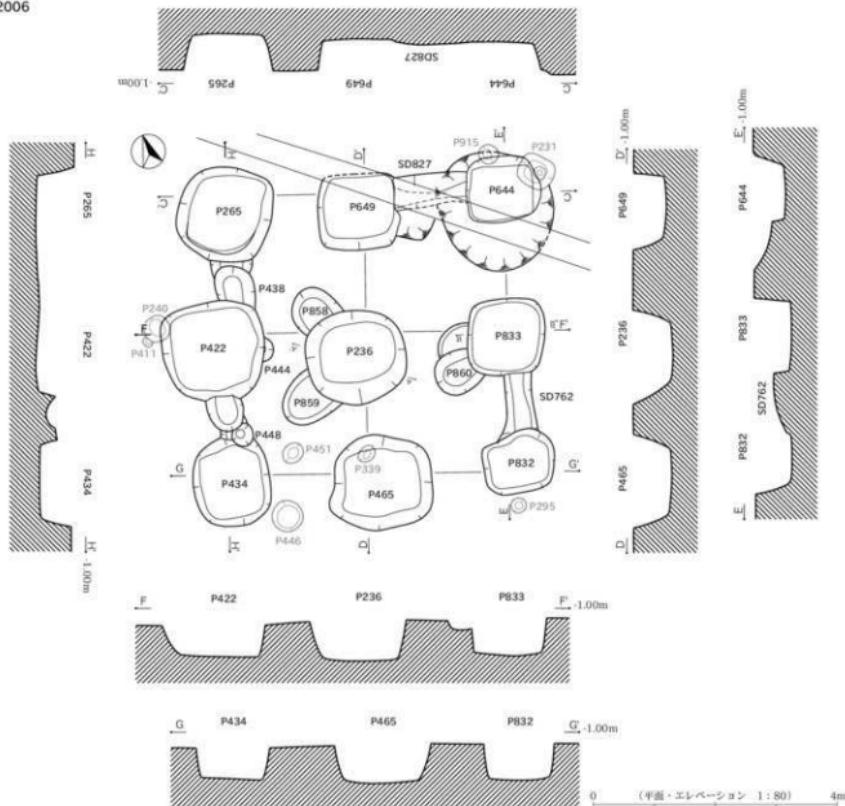
(部分図3)

SB2005



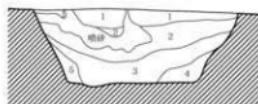
(部分図3)

SB2006



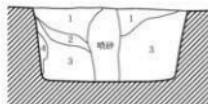
SB2006-P236

A A' -1.00m



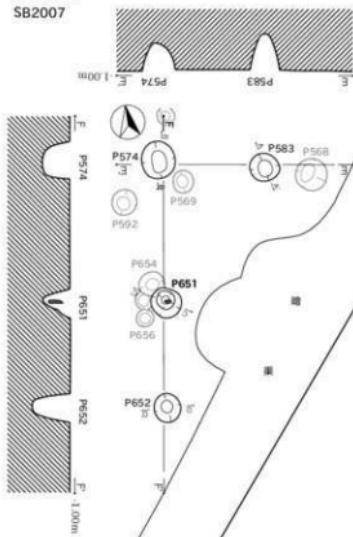
SB2006-P833

B B' -1.00m

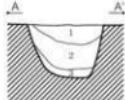


(部分図4)

SB2007



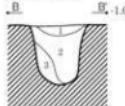
SB2007-P583



SB2007-P583

- 1 黒褐色砂質土 (2.SY3/2) 粘性はほとんどなし、しまりやや低い。
- 2 黒褐色砂質土 (2.SY3/1) 粘性はほとんどなし、しまりやや低い。
- 3 黑褐色砂質土 (10YR2/1) - 黃褐色砂質土 (SY4/2) の混合 粘性はほとんどなし、しまりやや低い。

SB2007-P574



SB2007-P574

- 1 黄褐色砂質土 (10YR2/2-10YR2/1) 粘性はほとんどなし、しまりやや低い。
- 2 黑褐色砂質土 (10YR3/1) - 基岩オーリーブ色砂 (SY3/3) の混合 粘性はほとんどなし、しまりやや低い。
- 3 基岩オーリーブ色砂 (2.SY3/3) - 基岩黄褐色土 (2.SY4/2) の混合 粘性はほとんどなし、しまりやや低い。

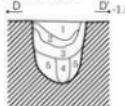
SB2007-P651



SB2007-P651

- 1 黑褐色砂質土 (10YR2/1) - 黄褐色砂質土 (10YR2/2) の混合 粘性はほとんどなし、しまりやや低い。
- 2 黑褐色砂質土 (10YR2/2-10YR2/1) - 基岩オーリーブ色砂 (SY4/2) の混合 粘性はほとんどなし、しまりやや低い。
- 3 黑褐色砂質土 (10YR2/1) - 黄褐色砂質土 (10YR3/2) の混合 粘性はほとんどなし、しまりやや低い。
- 4 黑褐色砂質土 (10YR2/1) - 黄褐色砂質土 (10YR3/1) - 基岩オーリーブ色砂 (SY4/2) 中量 基岩オーリーブ色砂 (SY4/2) 少量 粘性はほとんどなし、しまりやや低い。
- 5 黑褐色砂質土 (10YR1.7/1) - 基岩オーリーブ色砂 (SY4/2) 中量 粘性はほとんどなし、しまりやや低い。

SB2007-P652

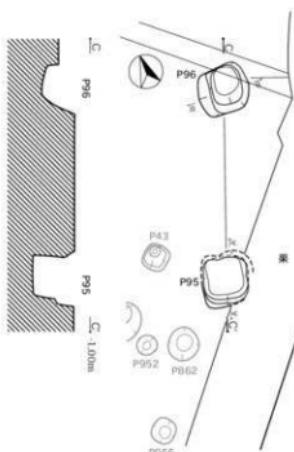


SB2007-P652

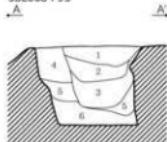
- 1 黄褐色砂質土 (10YR2/1) - オーリーブ色砂 (2.SY4/2) 少量混入 粘性はほとんどなし、しまりやや低い。
- 2 黑褐色砂質土 (10YR1.7/1) - オーリーブ色砂 (2.SY4/2) 多量混入 粘性はほとんどなし、しまりやや低い。
- 3 黑褐色砂質土 (10YR2/1) - 黄褐色砂質土 (10YR3/2) 中量混入 粘性はほとんどなし、しまりやや低い。
- 4 黑褐色砂質土 (10YR2/1) - 黄褐色砂質土 (10YR3/1) - 基岩オーリーブ色砂 (SY4/2) 中量 基岩オーリーブ色砂 (SY4/2) 少量 粘性はほとんどなし、しまりやや低い。
- 5 黑褐色砂質土 (10YR1.7/1) - 基岩オーリーブ色砂 (SY4/2) 中量 粘性はほとんどなし、しまりやや低い。

(部分図2)

SB2008



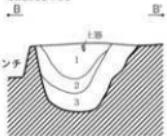
SB2008-P95



SB2008-P95

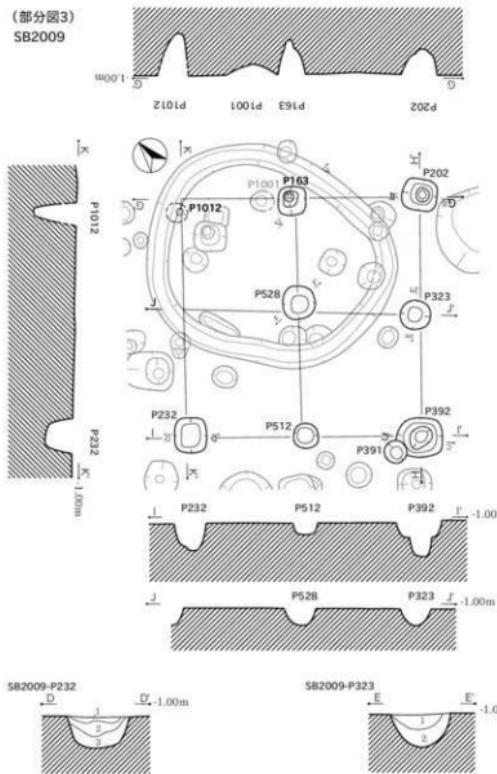
- 1 黑白色土 (7.SYH2/1) - 黄褐色砂質土 (10YR2/1) の混合 粘化物を少量含む。粘性はほとんどなし、しまりやや低い。
- 2 黑褐色砂質土 (10YR2/1) - 黄褐色砂質土 (SY4/2) 褐色 粘化物を少量含む。粘性はほとんどなし、しまりやや低い。
- 3 黑褐色砂質土 (10YR2/1) - 黄褐色砂質土 (SY4/2) 中量 粘化物を少量含む。粘性はほとんどなし、しまりやや低い。
- 4 基岩オーリーブ色砂 (SY4/2) - 基岩オーリーブ色砂 (SY4/4) 中量 基岩オーリーブ色砂 (SY4/2) 少量 粘化物を微量含む。粘性はほとんどなし、しまりやや低い。
- 5 黑褐色砂質土 (10YR2/1) - 黄褐色砂質土 (SY4/2) 中量混入 粘性はほとんどなし、しまりやや低い。
- 6 黄褐色砂質土 (SY5/2) - 基岩オーリーブ色砂 (SY4/2) 中量 粘化物を微量含む。粘性はほとんどなし、しまりやや低い。

SB2008-P96



SB2008-P96

- 1 黑褐色砂質土 (10YR2/1) - 基岩オーリーブ色砂質土 (SY4/2) 褐色 粘化物を少量含む。粘性はほとんどなし、しまりやや低い。
- 2 黑褐色砂質土 (10YR2/1) - 黄褐色砂質土 (SY4/2) 中量 粘化物を少量含む。粘性はほとんどなし、しまりやや低い。
- 3 黑褐色砂質土 (10YR2/1) - 黄褐色砂質土 (SY4/2) の反復 粘性はほとんどなし、しまりやや低い。

(部分図3)
SB2009

SB2009-P232



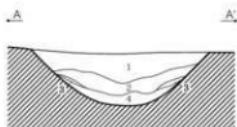
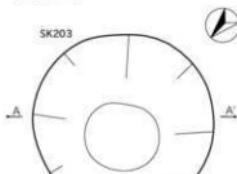
0 (平面・エレベーション 1:80) 4m

SB2009-P323

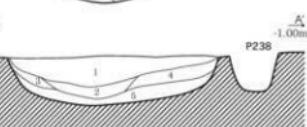
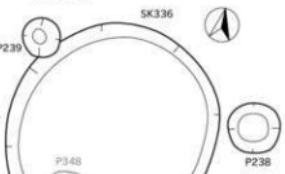


1. 黒色砂質土 (10YR2/1) 塵化物を少量含む。粘性はほとんどなし。
しまりやや低い。
2. 黒色砂質土 (10YR1.7/1) 塵化物を微量含む。粘性はほとんどなし。
3. 黒色砂質土 (10YR1.7/1) オリーブ色細砂 (2SY4/2) 少量混入。
粘性はほとんどなし。しまりやや低い。

(部分図3)



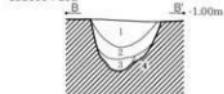
(部分図3)



SB2009-P163

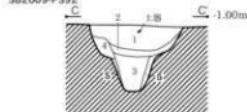
1. 黒色砂質土 (10YR2/1) 塵化物を微量含む。粘性はほとんどなし。
しまりやや低い。
2. 黒色砂質土 (10YR2/1) 塵化物を微量含む。粘性はほとんどなし。しまりやや低い。
3. 黒色砂質土 (10YR1.7/1) オリーブ色細砂 (2SY4/2) 少量混入。
粘性はほとんどなし。しまりやや低い。

SB2009-P202



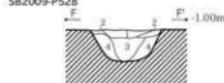
1. 黒褐色砂質土 (10YR2/2) 塵化物を少量含む。
粘性はほとんどなし。しまりやや低い。
2. 黑褐色砂質土 (10YR2/2) 塵化物を微量含む。
粘性はほとんどなし。しまりやや低い。
3. 黑褐色砂質土 (10YR1.7/2) 塵化物を微量含む。
粘性はほとんどなし。しまりやや低い。
4. 黑褐色砂質土 (10YR2/1) 黑褐色砂質土 (2SY4/2) の混合。
粘性はほとんどなし。しまりやや低い。

SB2009-P392



1. 黑褐色砂質土 (10YR2/1) 黑褐色砂質土 (10YR2/2) の混合。
粘性を少量含む。粘性はほとんどなし。しまりやや低い。
2. 黑褐色砂質土 (10YR2/2) 塵化物を微量含む。粘性はほとんどなし。
3. 黑褐色砂質土 (10YR1.7/1) 塘化物を微量含む。粘性はほとんどなし。
4. 黑褐色砂質土 (10YR2/1) オリーブ色細砂 (2SY4/2) 中量混入。
粘性はほとんどなし。しまりやや低い。
5. 黑褐色砂質土 (3SY4/2) 黑褐色砂質土 (10YR2/1) 中量混入。
粘性はほとんどなし。しまりやや低い。

SB2009-P528



1. 黑褐色砂質土 (10YR2/1) 黑褐色砂質土 (10YR2/2) の混合。
粘性を少量含む。粘性はほとんどなし。しまりやや低い。
2. 黑褐色砂質土 (10YR2/1) 黑褐色砂質土 (10YR2/2) 中量混入。
粘性を微量含む。粘性はほとんどなし。しまりあり。
3. 黑褐色砂質土 (10YR1.7/1) 塘化物を微量含む。粘性はほとんどなし。
4. 黑褐色砂質土 (10YR2/2) 黑褐色砂質土 (10YR2/1) 中量混入。
粘性を微量含む。粘性はほとんどなし。しまりあり。

SB2009-P238

1. 黑褐色砂質土 (10YR2/1) 塘化物を微量含む。粘性はほとんどなし。しまりあり。

SK203

1. 黑色砂質土 (10YR2/1) 塘化物を少量含む。粘性はほとんどなし。
2. 混褐色砂質土 (10YR3/1) 黑褐色砂質土 (10YR2/1) の混合。
黑褐色砂質土 (10YR5/1) 粘性ほとんどなし。しまりあり。
3. 黑褐色砂質土 (10YR1.7/1) 塘化物を微量含む。粘性はほとんどなし。
しまりあり。
4. 黑褐色砂質土 (10YR2/2) 塘化物を微量含む。粘性はほとんどなし。しまりやや低い。

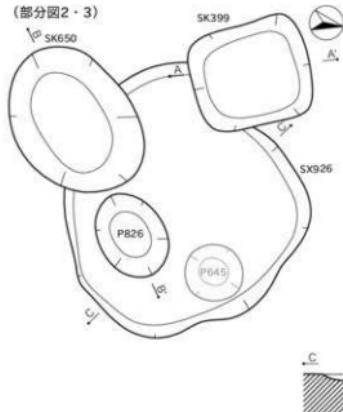
SK336

1. 黑色砂質土 (10YR2/2-10YR3/1) 塘化物を多量含む。
粘性はほとんどなし。しまり高い。
2. 混褐色砂質土 (2.5SY1/-2.5SY2) 塘化物を微量含む。
粘性はほとんどなし。しまり高い。
3. 黑褐色砂質土 (2.5SY2/1) 黑褐色砂質土 (2.5SY2/2) の混合。
粘性はほとんどなし。しまりやや低い。
4. オリーブ色細砂質土 (2SY4/2) 黑褐色砂質土 (2.5SY4/2) の混合。
5. オリーブ色細砂質土 (2SY4/2) 黑褐色砂質土 (2.5SY4/2) の混合。
粘性はほとんどなし。しまりやや低い。

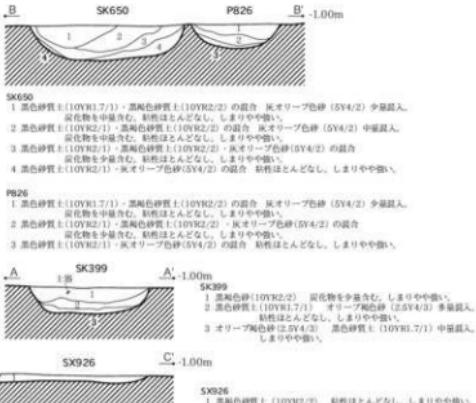
0 (セクション 1:40)

2m

(部分図2・3)



(部分図2・3)

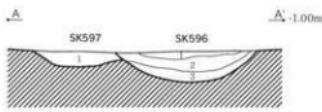


- 1 黒色砂質土 (10YR1.7/1) - 黑褐色砂質土 (10YR2/2) の混合 斜オーピー色砂 (SY4/2) 少量混入。腐化物を少量含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
- 2 黒色砂質土 (10YR2/1) - 黑褐色砂質土 (10YR2/2) の混合 斜オーピー色砂 (SY4/2) 中量混入。腐化物を少量含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
- 3 黑色砂質土 (10YR2/1) - 黑褐色砂質土 (10YR2/2) - 斜オーピー色砂 (SY4/2) の混合 腐化物を少量含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
- 4 黑色砂質土 (10YR2/1) - 斜オーピー色砂 (SY4/2) の混合 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。

- 1 黑色砂質土 (10YR1.7/1) - 黑褐色砂質土 (10YR2/2) の混合 斜オーピー色砂 (SY4/2) 少量混入。腐化物を少量含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
- 2 黑色砂質土 (10YR2/1) - 黑褐色砂質土 (10YR2/2) の混合 斜オーピー色砂 (SY4/2) 中量混入。腐化物を少量含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
- 3 黑色砂質土 (10YR2/1) - 黑褐色砂質土 (10YR2/2) - 斜オーピー色砂 (SY4/2) の混合 腐化物を少量含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。

- 1 黑色砂質土 (10YR1.7/1) - 黑褐色砂質土 (10YR2/2) の混合 斜オーピー色砂 (SY4/2) 少量混入。腐化物を少量含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。

- 1 黑色砂質土 (10YR2/2) - 腐化物を少量含む。しまりやや弱い。
- 2 黑色砂質土 (10YR2/1) - 斜オーピー色砂 (SY4/2) 中量混入。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
- 3 斜オーピー色砂 (SY4/2) - 黑色砂質土 (10YR1.7/1) 中量混入。しまりやや弱い。

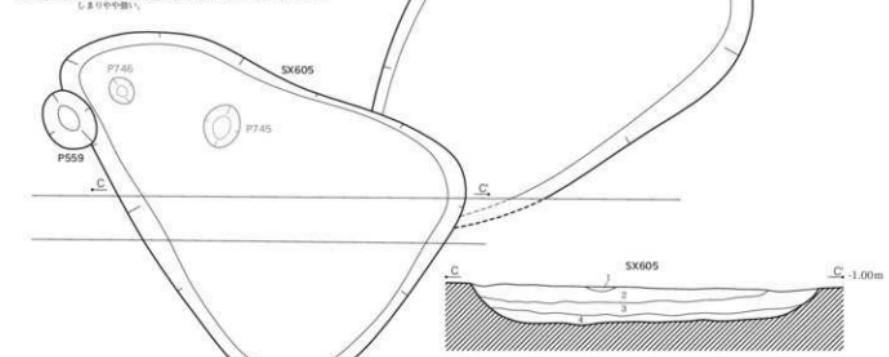


- SK597**
- 1 オーピー黒色砂質シルト (SY2/2) - オーピー黒色砂質土 (SY3/1) の混合 による黄褐色砂質土 (10YR5/5) プロック状混入。腐化物を少量含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。

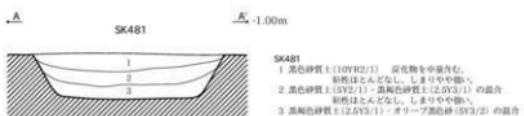
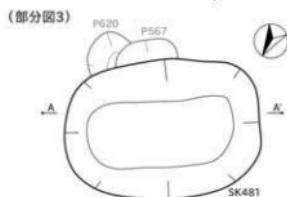
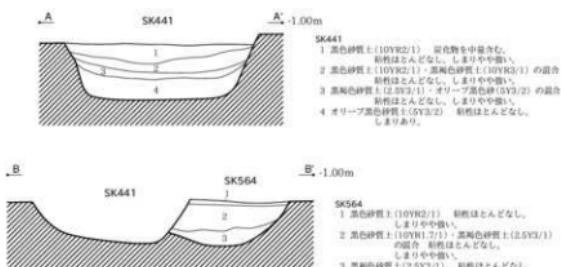
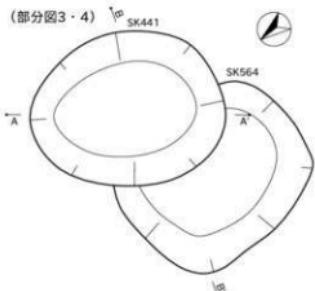
- SK596**
- 1 黑褐色砂質土 (2.5Y3/1) - オーピー黒色砂質土 (SY3/1) の混合 腐化物を少量含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
 - 2 黑褐色砂質土 (2.5Y3/1) - 黑色砂質土 (2.5Y4/1) の混合 ブロッケ状に混入。腐化物を中程度含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
 - 3 オーピー黒色砂質土 (SY3/2) - 斜オーピー黒色砂質土 (SY4/2) の混合 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。



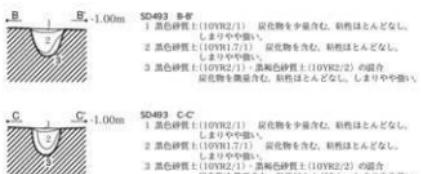
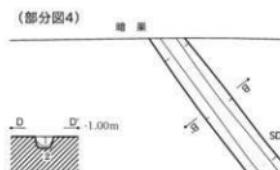
- SK573**
- 1 黑褐色砂質土 (10YR3/1) - オーピー黒色砂質土 (SY3/1) の混合 による黄褐色砂質土 (10YR5/5) プロック状混入。腐化物を多量含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
 - 2 黑褐色砂質土 (2.5Y3/1) - 黑褐色砂質土 (2.5Y4/2) の混合 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。



- SX605**
- 1 オーピー黒色砂質土 (SY3/2) - 粘性強い。しまり強い。
 - 2 黑褐色砂質土 (2.5Y3/1～10YR2/2) - 黑色砂質土 (SY4/1) ブロック状に混入。腐化物を少量含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
 - 3 黑色砂質土 (10YR2/1) - 黑褐色砂質土 (2.5Y3/1) の混合 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
 - 4 オーピー黒色砂質土 (SY3/1) - 斜オーピー黒色砂質土 (SY4/2) の混合 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。

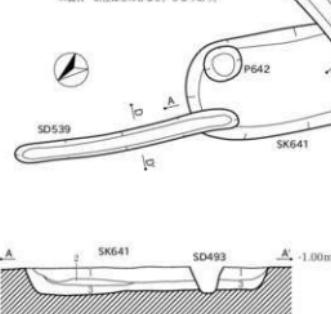


- 1 黒色砂質土 (10YR2/1) 塩化物を少量含む。粘性はほとんどなし。しまりやや低い。
- 2 黒色砂質土 (10YR1/2) 黄褐色砂質土 (10YR3/1) の混合層はほとんどなし。しまりやや低い。
- 3 黑褐色砂質土 (2.5Y3/1) オリーブ褐色砂質土 (5Y3/2) の混合層はほとんどなし。しまりやや低い。



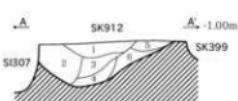
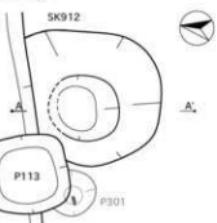
- 1 黒色砂質土 (10YR2/1) 塩化物を少量含む。粘性はほとんどなし。しまりやや低い。
- 2 黑褐色砂質土 (10YR1/2) 塩化物を含む。粘性はほとんどなし。しまりやや低い。
- 3 黑褐色砂質土 (10YR2/1) 黄褐色砂質土 (10YR2/2) の混合層はほとんどなし。しまりやや低い。

- SD539
1 黑褐色砂質土 (10YR2/1) 黄褐色砂質土 (10YR2/2)の混合層はほとんどなし。粘性はほとんどなし。しまりやや低い。
2 黑色砂質土 (10YR2/1) 黑褐色砂質土 (10YR2/2)の混合層はほとんどなし。しまりやや低い。



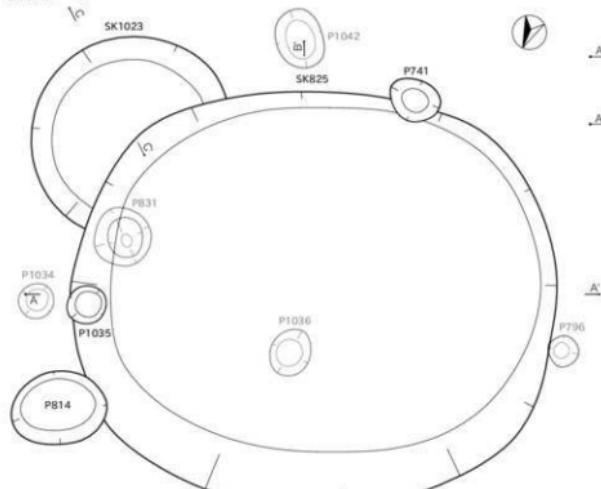
- SK641
1 黑褐色砂質土 (10YR1/2) 黄褐色砂質土 (10YR2/2)の混合層はほとんどなし。粘性はほとんどなし。しまりやや低い。
2 黑色砂質土 (10YR2/1) 黑褐色砂質土 (10YR2/2)の混合層はほとんどなし。粘性はほとんどなし。しまりやや低い。
3 黑褐色砂質土 (10YR2/2) 粘性はほとんどなし。しまりやや低い。

(部分図2・3)

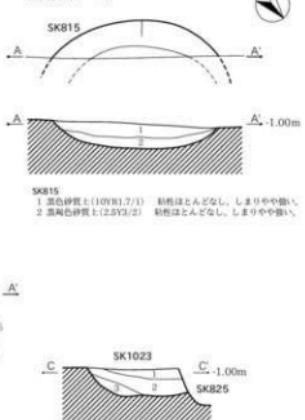


- 1 黑褐色砂質土 (10YR1/2) 塩化物を微量含む。粘性はほとんどなし。しまりやや低い。
- 2 黑色砂質土 (7.5YR2/1) 塩化物を微量含む。粘性はほとんどなし。しまりやや低い。
- 3 黑色砂質土 (10YR2/1) 黄褐色砂質土 (10YR2/2) の混合層はほとんどなし。しまりやや低い。
- 4 黑色砂質土 (7.5YR1/2) オリーブ褐色砂質土 (5Y5/2) の混合層はほとんどなし。しまりやや低い。
- 5 黑色砂質土 (7.5YR1/2) 黄褐色砂質土 (7.5Y3/2) の混合層はほとんどなし。しまりやや低い。
- 6 黑褐色砂質土 (10YR2/1) 黄褐色砂質土 (10YR2/2) の混合層はほとんどなし。しまりやや低い。

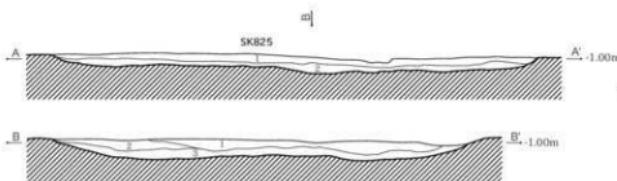
(部分図4・5)



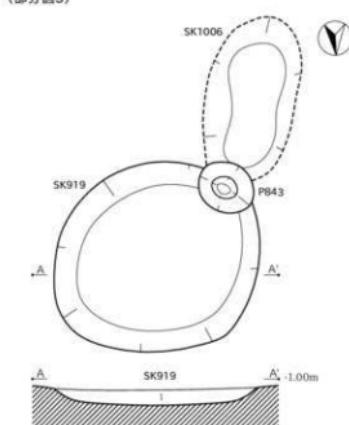
(部分図4・5)

SK1023
1 黒色砂質土(10YR2/1) 塗化物を中量含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。

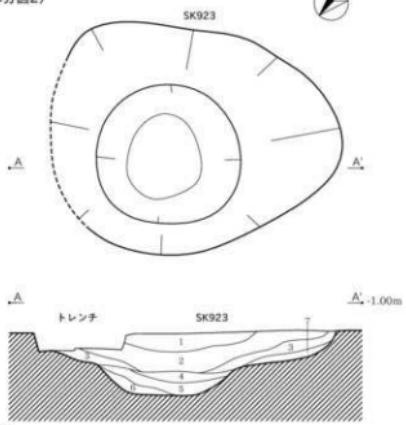
2 黒色砂質土(10YR2/1) 黄褐色砂質(2.5Y4/1) 少量混入。

3 黒褐色砂質土(10YR3/2) 反濁褐色砂(2.5Y4/2) の混合
粘性はとんどなし。しまり強い。

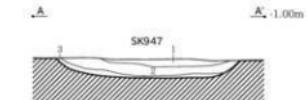
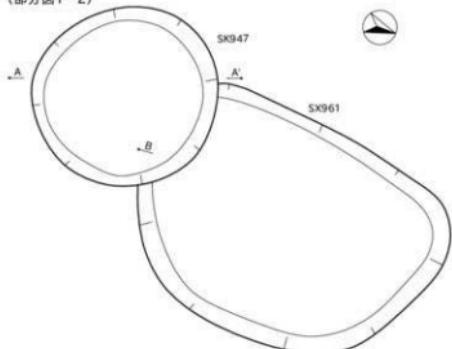
(部分図3)



(部分図2)

SK923
1 黒色砂質土(10YR2/1) 塗化物を少量含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
2 黑褐色砂質土(7.5YH1.7/1) 塗化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
3 黑褐色砂質土(10YR1.7/1) 黄褐色砂質土(10YK3/2) 少量混入。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
4 黑色砂質土(10YI1.7/1) 塗化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
5 黑褐色砂質土(10YR2/1) 塗化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
6 オリーブ色砂(5Y4/2) 黑色砂質土(10YR2/1) 少量混入。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
7 黑色砂質土(10YR2/1) に4-6 黑褐色砂(10YR4/3) 少量混入。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。

(部分図1・2)



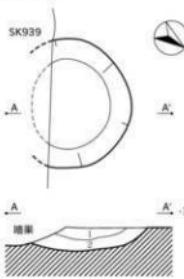
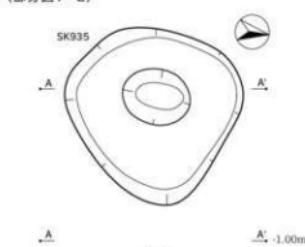
SK947
1 黒褐色砂質土(10YR2/2)・粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
2 黒褐色砂質土(10YR2/2)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
3 黑褐色砂質土(2.5Y3/2)・オリーブ色砂質土(5Y3/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。



SK961
1 黒褐色砂質土(10YR2/2)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
2 黑褐色砂質土(2.5Y3/2)・黒褐色砂質土(2.5Y4/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりあり。

(部分図2・3)

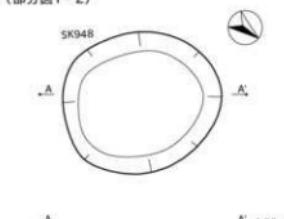
(部分図1・2)



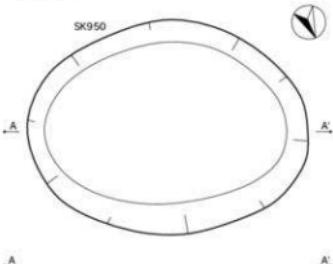
SK939
1 黒褐色砂質土(10YR2/2)・黑色砂質土(10YR2/1)の混合
炭化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりあり。
2 黑褐色砂質土(2.5Y3/2)・粘灰黑色土(2.5Y4/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりあり。

SK935
1 黒褐色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 粘性はとんどなし。
しまりやや弱い。
2 黑褐色砂質土(2.5Y3/2)・粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
3 黑褐色砂質土(2.5Y3/2)・粘灰黑色土(2.5Y4/2)の混合 粘性はとんどなし。
しまりやや弱い。
4 黑褐色砂質土(2.5Y3/2)・オリーブ色砂質土(5Y3/1)の混合 粘性はとんどなし。
5 黑褐色砂質土(2.5Y3/2)・粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
6 黑褐色砂質土(2.5Y4/2)・粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
7 黑褐色砂質土(2.5Y4/2)・粘オリーブ色土(5Y4/2)の混合 粘性はとんどなし。
しまりやや弱い。

(部分図1・2)



(部分図2)

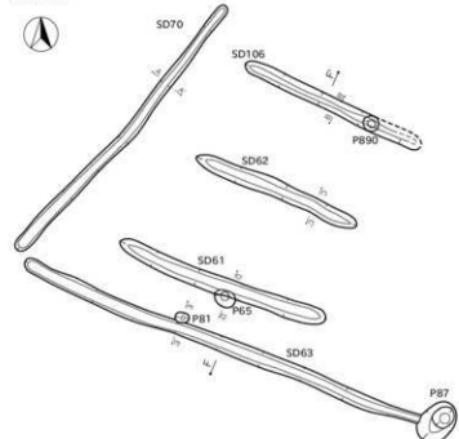


SK950
1 黒色砂質土(10YH1/7)・粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
2 黑色砂質土(10YH2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
3 黑色砂質土(10YH3/1)・黒褐色砂質土(2.5YH3/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
4 黑褐色砂質土(2.5YH3/2)・粘灰黑色土(2.5Y4/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。

SK948

1 黑色砂質土(10YH2/1)・粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
2 黑褐色砂質土(2.5Y3/1)・オリーブ色砂質土(5Y2/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
3 黑褐色砂質土(2.5Y3/2)・粘灰黑色土(2.5Y4/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。

(部分図3)



SD70 A-A'



SD106 B-B'



SD62 C-C'



SD61 D-D'



PB1 E-E'



SD64 F-F'



SD70 A-A'

1. 黒褐色砂質土 (10YR3/1) 塩化物を少量含む。粘性はとんどなし。しまりあり。

2. 黑褐色砂質土 (2SY2/1) 塩化物を少量含む。粘性はとんどなし。しまりや軽い。

SD106 B-B'

1. 黑褐色砂質土 (10YR3/1) 塩化物を少量含む。粘性はとんどなし。しまりあり。

2. 黑褐色砂質土 (2SY3/1) 塩性はとんどなし。しまりあり。

SD62 C-C'

1. 黑褐色砂質土 (10YR3/1) 塩化物を少量含む。粘性はとんどなし。しまりあり。 2. 黑褐色砂質土 (2SY3/1) 塩性はとんどなし。しまりあり。

SD61 D-D'

1. 黑褐色砂質土 (2SY2/1) 塩化物を多量含む。粘性はとんどなし。しまりあり。

2. 黑褐色砂質土 (2SY3/1) 填性はとんどなし。しまりあり。

P65 D-D'

1. 黑褐色砂質土 (2SY2/1) 塩化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりあり。

2. 黑褐色砂質土 (2SY3/1) 填性はとんどなし。しまりあり。

PB1 E-E'

1. 黑褐色砂質土 (10YR3/1) - 黑褐色砂質土 (10YR3/1) の混合
粘性はとんどなし。しまりや軽い。

2. 黑褐色砂質土 (10YR3/1) 粘性はとんどなし。しまりや軽い。

SD63 E-E'

1. 黑褐色砂質土 (10YR3/1) 塩化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりや軽い。

SD64 F-F'

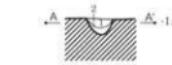
1. 黑褐色砂質土 (10YR3/1) 黑褐色砂質土 (10YR3/1) 少量混入。

2. 黑褐色砂質土 (10YR3/1) 塩化物を少量含む。粘性はとんどなし。しまりあり。

(部分図4・5)



SD747 A-A'



SD747 B-B'

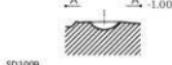
1. 黑褐色砂質土 (2SY3/1) 粘性はとんどなし。しまりや軽い。

2. 黑褐色砂質土 (2SY3/2) 粘性はとんどなし。しまりや軽い。

(部分図3・4)



SD1009 A-A'

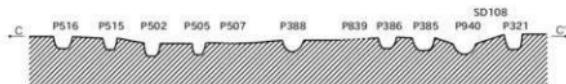
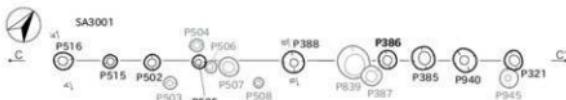


SD1009 B-B'

1. 黑褐色砂質土 (10YR2/1) - 黑褐色砂質土 (10YR2/2) の混合

2. 黑褐色砂質土 (10YR2/2) 塩化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりや軽い。

(部分図3)

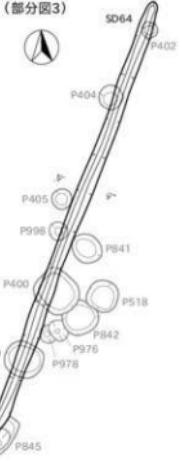


SD108 C-C'

0 (平面上エレベーション 1 : 80) 4m

0 (セクション 1 : 40) 2m

(部分図3)



SD64 A-A'



PB45 B-B'



SA3001-P516 C-C'



P516 D-D'

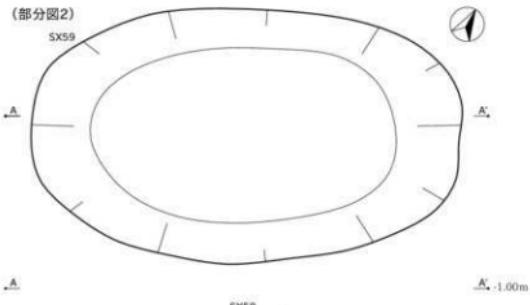


SA3001-P388 E-E'

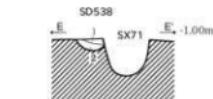


P388 F-F'

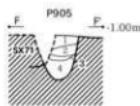




SX59
1 黒色砂質土 (10YR1.7/1) 塩化物を少含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
2 黒色砂質土 (10YR2.1) 塩化物を濃含む。粘性はとんどなし。しまりやや強い。
3 黒色砂質土 (10YR2.2) 粘性はとんどなし。しまりやや弱い。

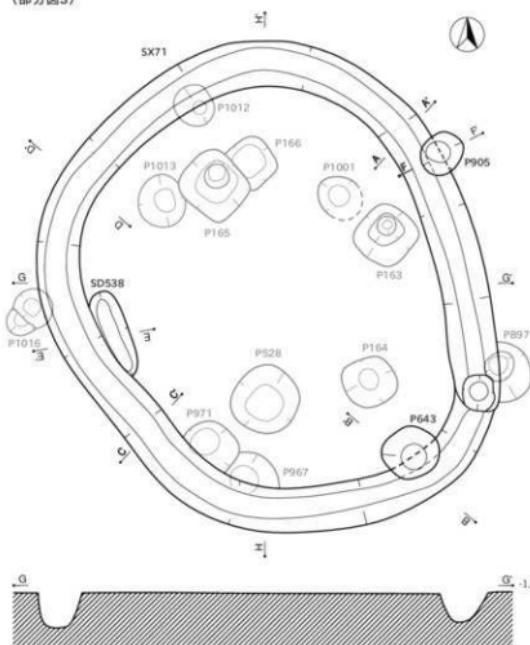


SD538
1 黒色砂質土 (10YR2.1) - 黒褐色砂質土 (10YR2.2) の混合。塩化物を多含む。粘性はとんどなし。しまりあり。
2 黒色砂質土 (10YR2.1) - 黑褐色砂質土 (10YR2.2) の混合。塩化物を少含む。粘性はとんどなし。しまりあり。



P905
1 黒色砂質土 (10YR2.1) - 黑褐色砂質土 (10YR2.2) の混合。塩化物を多含む。粘性はとんどなし。しまりあり。
2 黑褐色砂質土 (10YR2.1) 骨を多含む。
3 黑褐色砂質土 (10YR2.1) 粘性はとんどなし。しまりあり。
4 黑褐色砂質土 (10YR2.1) - 黑褐色砂質土 (10YR2.2) の混合。塩化物を少含む。粘性はとんどなし。しまりあり。

(部分図3)



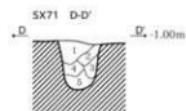
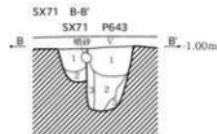
SX71 A-A'
1 黑色砂質土 (10YR2.1) - 黑褐色砂質土 (10YR2.2) の混合。塩化物を少含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
2 黑色砂質土 (10YR2.1) - 黑褐色砂質土 (10YR2.2) の混合。塩化物を少含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。

SX71 B-B'
1 黑色砂質土 (10YR2.1) - 黑褐色砂質土 (10YR2.2) の混合。塩化物を少含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
2 黑色砂質土 (10YR2.1) - 黑褐色砂質土 (10YR2.2) の混合。塩化物を少含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
3 黑色砂質土 (10YR2.1) - 黑褐色砂質土 (10YR2.2) の混合。塩化物を少含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。

横跡 オリーブ色砂 (3SY4/3) の混合。塩化物を少含む。

P643 B-B'
1 黑色砂質土 (10YR2.1) - 黑褐色砂質土 (10YR2.2) 少量混入。塩化物を少含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
2 黑色砂質土 (10YR1.7/1) - 黑褐色砂質土 (10YR2.2) 中量 - 横跡 �オリーブ色砂 (3SY4/2) 少量混入。塩化物を少含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。

3 黑色砂質土 (10YR2.1) - 横跡 オリーブ色砂 (3SY4/2) の混合。塩化物を少含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。

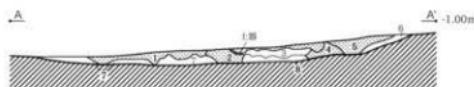
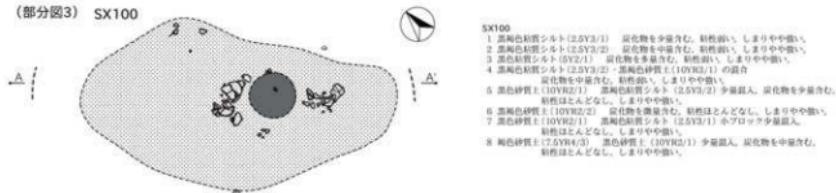


SX71 C-C'
1 黑色砂質土 (10YR2.1) 塩化物を少量含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
2 黑色砂質土 (10YR2.1) - 黑褐色砂質土 (10YR2.2) の混合。塩化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
3 黑色砂質土 (10YR2.1) - 黑褐色砂質土 (10YR2.2) の混合。塩化物を微量含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。

SX71 D-D'
1 黑色砂質土 (10YR2.1) 塩化物を中量含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。
2 黑色砂質土 (10YR2.1) - 黑褐色砂質土 (10YR2.2) の混合。塩化物を少含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。

3 黑色砂質土 (10YR2.1) - 黑褐色砂質土 (10YR2.2) の混合。塩化物を少含む。粘性はとんどなし。しまりやや弱い。

(部分図3) SX100



SX478
1 黒褐色砂質土(2.SY3/1) 岩化物を中含む。粘性はとんでもなし。しまりやや弱い。
2 黒褐色砂質土(10VR3/1) 粘性はとんでもなし。しまりやや弱い。
3 黑褐色砂質土(2.SY3/1)・黒褐色砂質土(2.SY3/2)の混合 粘性はとんでもなし。しまりやや弱い。

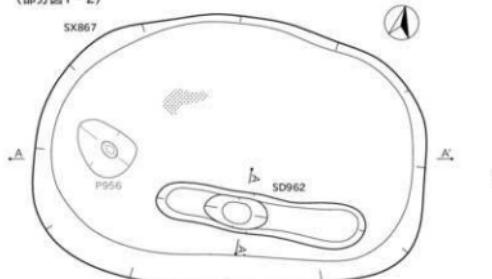
P479
1 黒褐色砂質土(2.SY3/1)・オリーブ黒色砂質土(5Y3/1)の混合 粘性弱い。しまりやや弱い。

SD962
A A' -1.00m



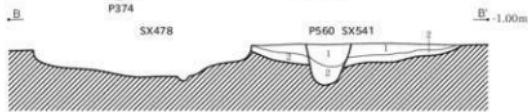
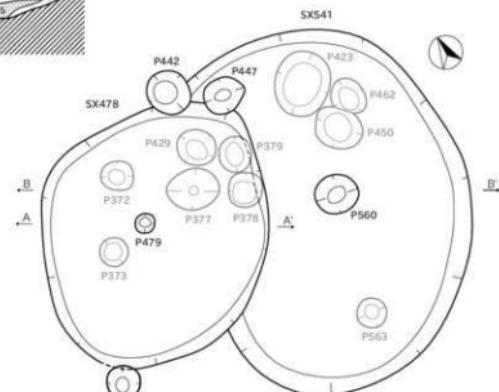
SD962
1 黒褐色砂質土(2.SY3/1)・10VR3/1) 粘性はとんでもなし。しまりやや弱い。
2 黑褐色砂質土(2.SY3/2)・オリーブ黒色砂質土(5Y3/1)の混合 粘性はとんでもなし。しまりやや弱い。

(部分図1・2)



SX100
1 黒褐色砂質土(2.SY3/1) 岩化物を少含む。粘性弱い。しまりやや弱い。
2 黑褐色砂質土(2.SY3/2) 岩化物を中含む。粘性弱い。しまりやや弱い。
3 黑褐色砂質土(2.SY3/3) 岩化物を多く含む。粘性弱い。しまりやや弱い。
4 黑褐色砂質土(2.SY3/4) 岩化物を多く含む。粘性弱い。しまりやや弱い。
5 黑褐色砂質土(2.SY3/5) 岩化物を多く含む。粘性弱い。しまりやや弱い。
6 黑褐色砂質土(10VR2/1) 黑褐色砂質土(2.SY3/1) の混合 岩化物を少含む。粘性弱い。しまりやや弱い。
7 黑褐色砂質土(10VR2/2) 岩化物を多含む。粘性はとんでもなし。しまりやや強い。
8 黑褐色砂質土(10VR2/3) 黑褐色砂質土(2.SY3/1) の混合 岩化物を中含む。粘性弱い。しまりやや弱い。

(部分図3・4)

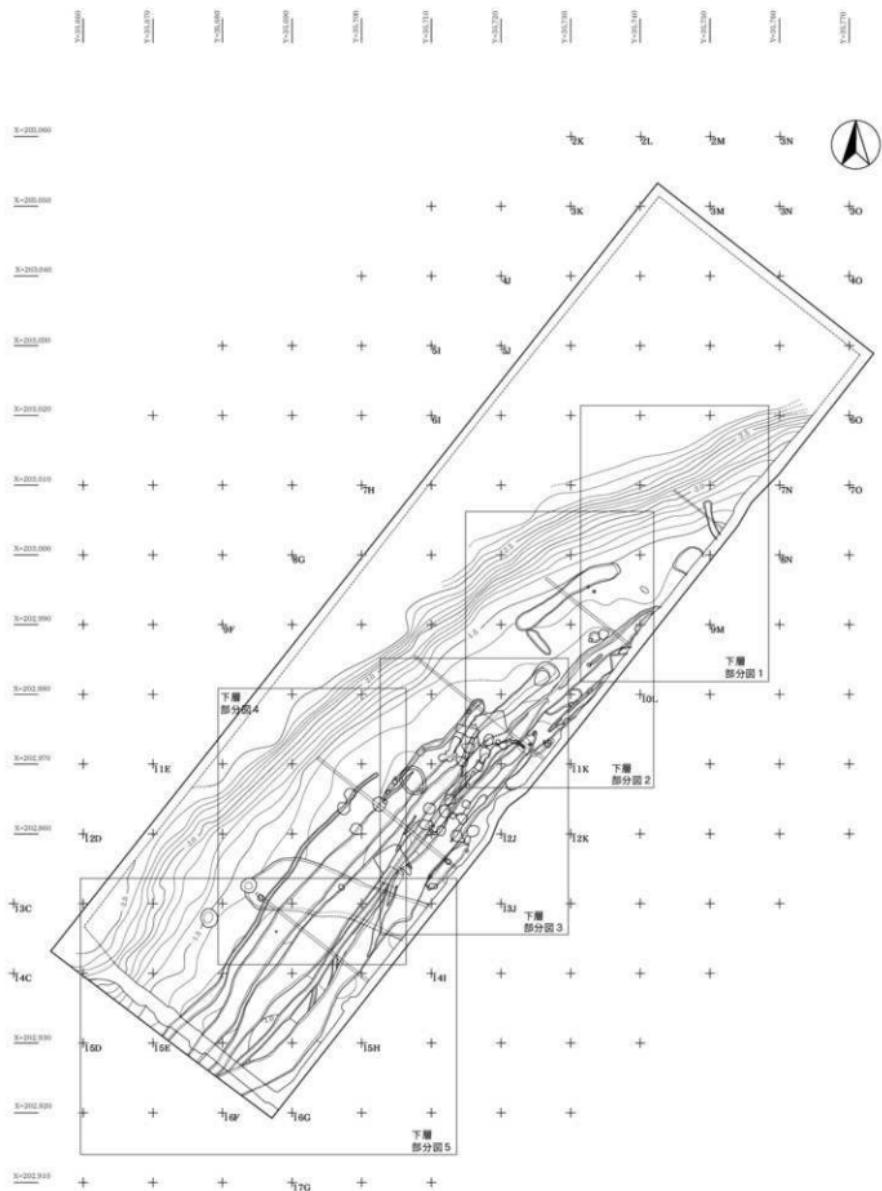


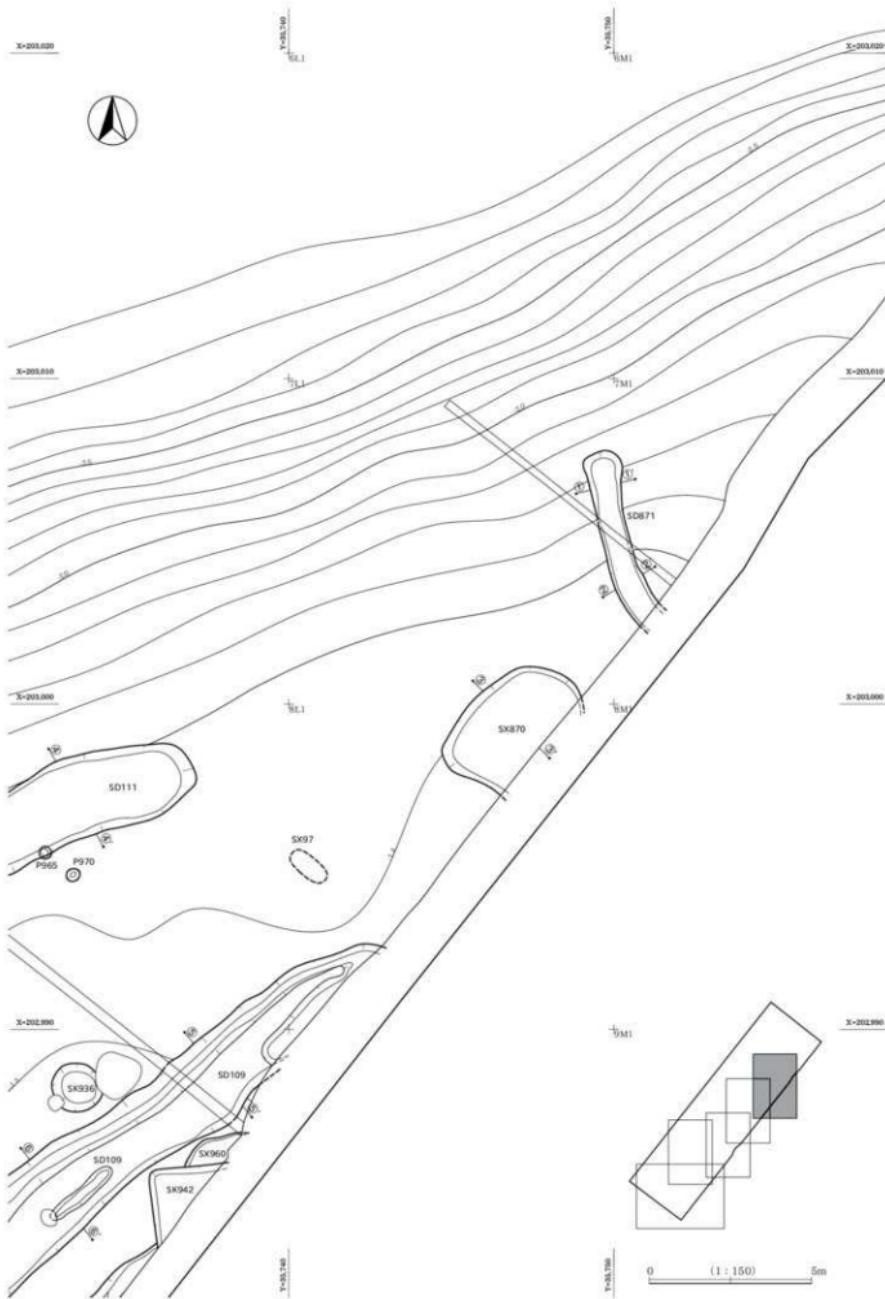
SX541
1 黑褐色砂質土(2.DV2/1)・黒褐色砂質土(10VR3/1)の混合 岩化物を多含む。粘性はとんでもなし。しまりやや弱い。
2 黑褐色砂質土(10VR3/1)・黒褐色砂質土(2.SY3/1)の混合 粘性はとんでもなし。しまりやや弱い。

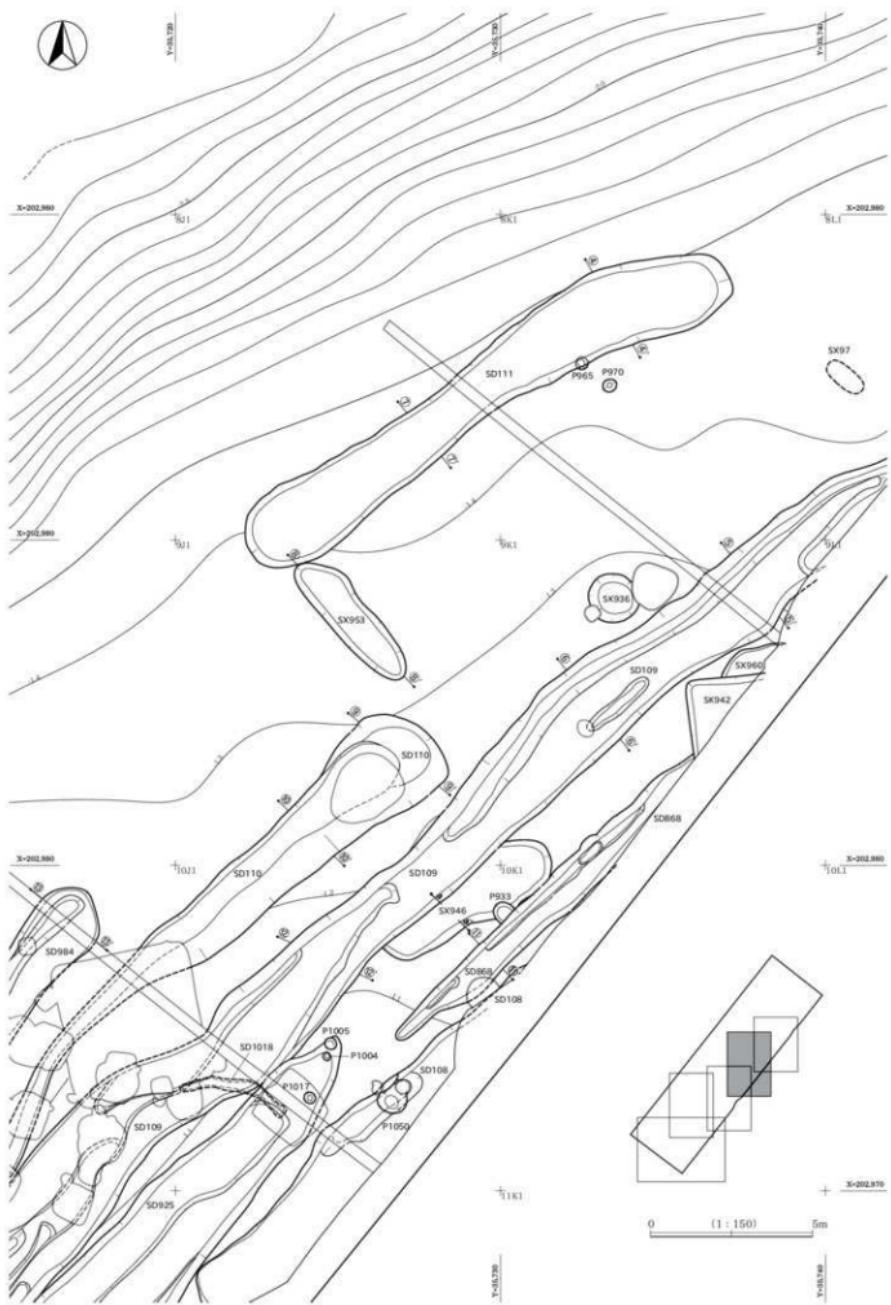
P560
1 黑褐色砂質土(10VR2/1)・黒褐色砂質土(2.SY3/1)の混合 岩化物を少含む。粘性はとんでもなし。しまりやや弱い。
2 オリーブ黒色砂質土(5Y3/1)・オリーブ色砂質土(5Y4/2)の混合 粘性はとんでもなし。しまりやや弱い。

SX867

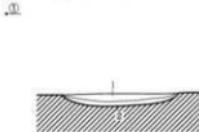
1 黑褐色砂質土(2.DV2/1) 岩化物を多含む。粘性はとんでもなし。しまりあり。
2 黑褐色砂質土(10VR3/1)・黒褐色砂質土(10VR2/2)の混合 岩化物を少含む。粘性はとんでもなし。しまりやや弱い。



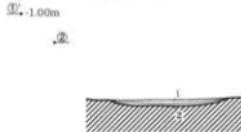




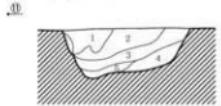
SD871 ①-⑦' (部分図1)



SD871 ②-②' (部分図1)



SD868 ④-④' (部分図2)



SD871 ①-⑦' (部分図2)

- 1 黒色砂質土 (2.5YR 2/1) 岩化物を少量含む。粘性はほとんどなし。しまりあり。
2 黒色砂質土 (2.5YR 2/1) 岩化物を微量含む。粘性はほとんどなし。しまりあり。

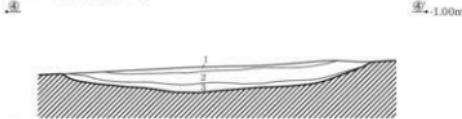
SX870 ③-③' (部分図1)



SX870 ③-③'

- 1 黒色砂質土 (2.5YR 2/1) 岩化物を少量含む。粘性はほとんどなし。しまりあり。
2 黒色砂質土 (10YR 2/1) - 黒褐色砂質土 (10YR 2/2) の混合 岩化物を少量含む。粘性はほとんどなし。しまりあり。
3 黑色砂質土 (2.5YR 2/1) - 黑褐色砂質土 (2.5YR 2/2) の混合 岩化物を微量含む。粘性はほとんどなし。しまりあり。

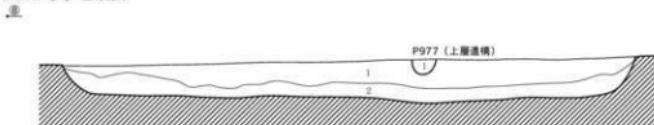
SD111 ④-④' (部分図1・2)



SD111 ④-④'

- 1 黑色砂質土 (10YR 1.7/1) 植被根茎付岩。岩化物を微量含む。粘性はほとんどなし。しまりやや強い。
2 黑色砂質土 (10YR 1.7/1) - 黑褐色砂質土 (10YR 2/2) の混合 岩化物根茎付岩。粘性はほとんどなし。しまりやや強い。
3 黑色砂質土 (10YR 1.7/1) - 岩灰黃色砂質土 (2.5Y 4/2) の混合 粘性はほとんどなし。しまりやや強い。

SX953 ⑥-⑥' (部分図2)



SX953 ⑥-⑥'

- 1 黑色砂質土 (10YR 2/1) - 黑色砂質土 (10YR 2/1) の混合 粘性はほとんどなし。しまりやや強い。
2 オリーブ色砂質土 (3Y 3/1) - 黑色砂 (3Y 4/1) の混合 粘性はほとんどなし。しまりやや強い。

P977

- 1 黑色砂質土 (10YR 2/1) 粘性はほとんどなし。しまりやや強い。

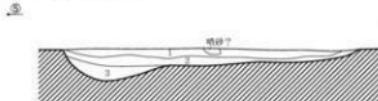
SD110 ③-③' (部分図2・3)



SD110 ③-③'

- 1 黑色砂質土 (10YR 2/1) 岩化物を少量含む。粘性はほとんどなし。しまりやや強い。
2 黑色砂質土 (10YR 2/1) - ない黒褐色 (10Y 4/3) 中量混入。粘性はほとんどなし。しまりやや強い。
3 黑色砂質土 (10YR 2/1) - ない黒褐色 (10Y 4/3) 多量混入。粘性はほとんどなし。しまりやや強い。

SD109 ⑤-⑤' (部分図1・2)

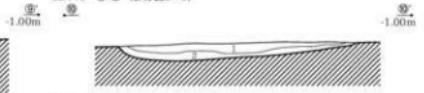


SD109 ⑤-⑤'

- 1 黑色砂質土 (10YR 2/1) - 黑褐色砂質土 (10YR 2/2) の混合 岩化物を微量含む。粘性はほとんどなし。しまりやや弱い。
2 黑色砂質土 (10YR 2/1) - 黑褐色砂質土 (10YR 2/2) の混合 ない黄褐色 (10Y 4/3) 少量混入。岩化物を微量含む。粘性はほとんどなし。しまりやや弱い。
3 黑色砂質土 (10YR 2/1) 粘性はほとんどなし。しまりあり。

(1: 40)

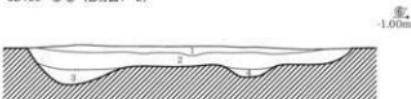
SD110 ⑥-⑥' (部分図2・3)



SD110 ⑥-⑥'

- 1 黑色砂質土 (7.5Y 2/1) - 黑褐色砂質土 (7.5Y 2/2) の混合 岩化物を中量含む。
2 黑色砂質土 (7.5Y 2/1) - 黑褐色砂質土 (7.5Y 2/2) の混合 ない黄褐色 (10Y 4/3) 混入。岩化物を微量含む。粘性はほとんどなし。しまりやや強い。

SD109 ⑥-⑥' (部分図1・2)



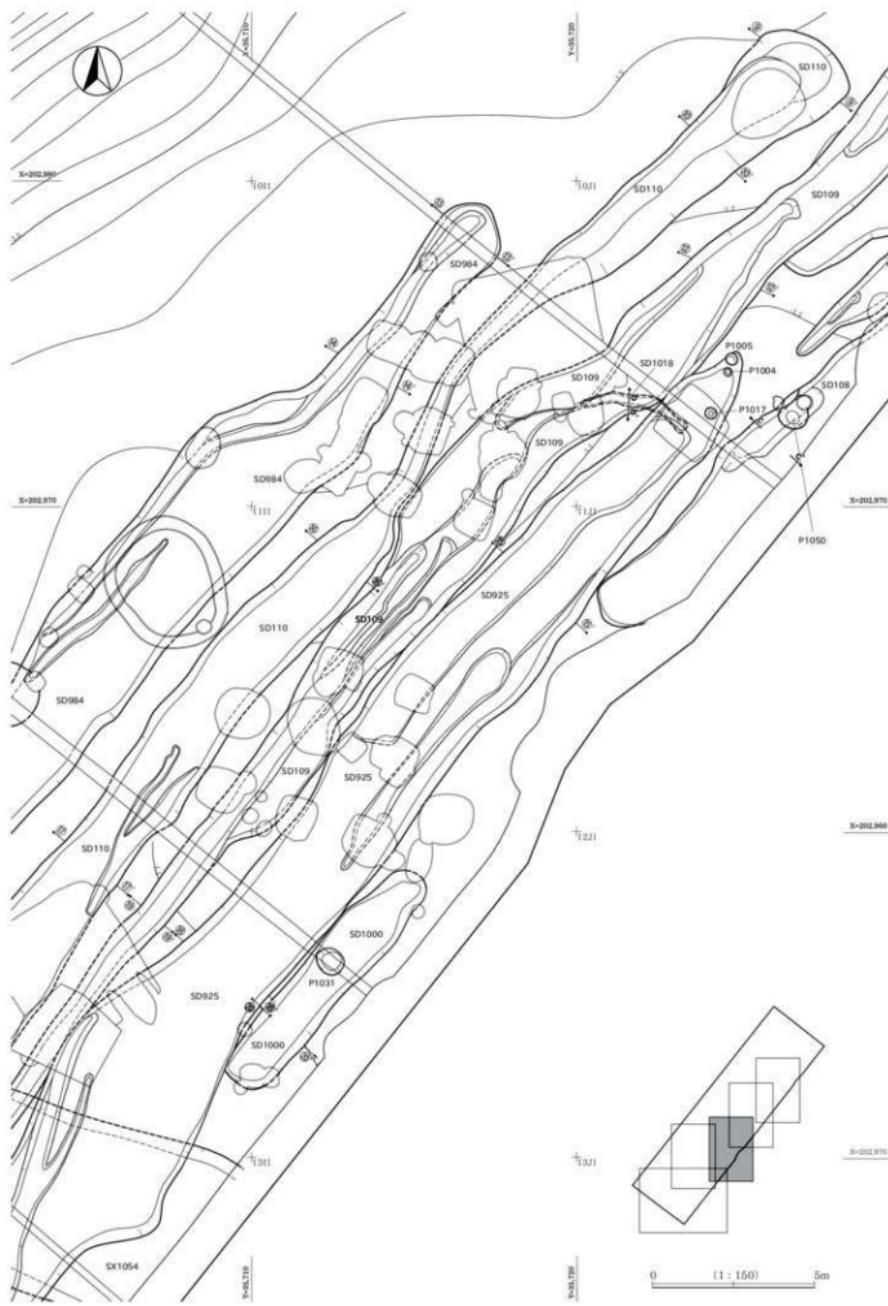
SD109 ⑥-⑥'

- 1 黑色砂質土 (10YR 2/1) - 黑褐色砂質土 (10YR 2/2) の混合 岩化物を微量含む。粘性はほとんどなし。しまりやや弱い。
2 黑色砂質土 (7.5Y 2/1) - 黑褐色砂質土 (7.5Y 2/2) の混合 ない黄褐色 (10Y 4/3) 少量混入。岩化物を微量含む。粘性はほとんどなし。しまりやや弱い。
3 黑色砂質土 (7.5Y 2/1) - 黑褐色砂質土 (7.5Y 2/2) の混合 ない黄褐色 (10Y 4/3) の混合 粘性はほとんどなし。しまりやや弱い。
4 黑褐色砂質土 (7.5Y 2/2) - ない黄褐色 (10Y 4/3) の混合 粘性はほとんどなし。しまりやや弱い。

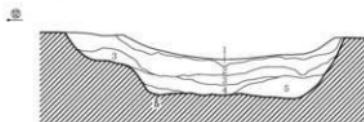
2m

圖版 37

下層遺構配置図 3



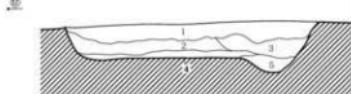
SD109 ⑩-⑪' (部分図2-3)



SD109 ⑩-⑪'

- 1 黒褐色砂質土(10YR2/2) 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 2 黄褐色砂質土(2.5Y4/2)・黄褐色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 3 黑褐色砂質土(10YR3/2)・黄褐色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 4 オリーブ色砂質土(3Y3/2)・黄褐色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 5 黄褐色砂質土(5Y3/2) 粘性はとんどなし。しまりやや低い。

SD110 ⑫-⑬' (部分図3)

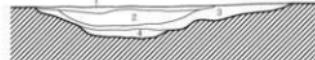


SD110 ⑫-⑬'

- 1 黒褐色砂質土(10YR2/2) 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 2 黄褐色砂質土(2.5Y4/2)・黄褐色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 3 黑褐色砂質土(10YR3/2)・黄褐色砂(10YR4/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 4 オリーブ色砂質土(3Y3/2)・黄褐色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 5 オリーブ色砂質土(5Y3/2)・黄褐色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや低い。

SD984 ⑭-⑮' (部分図2-3)

-1.00m

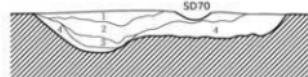


SD984 ⑭-⑮'

- 1 黒褐色砂質土(10YR2/2) 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 2 黄褐色砂質土(10YR3/2)・黄褐色砂(10YR3/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 3 黑褐色砂質土(2.5Y3/2)・黄褐色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 4 オリーブ色砂質土(5Y3/2)・黄褐色砂質土(2.5Y3/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや低い。

SD984 ⑯-⑰' (部分図3)

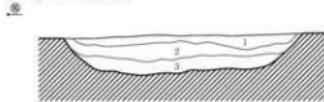
-1.00m



SD984 ⑯-⑰'

- 1 黒褐色砂質土(10YR2/2) 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 2 黄褐色砂質土(10YR3/2)・黄褐色砂(10YR3/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 3 黑褐色砂質土(2.5Y3/2)・黄褐色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 4 オリーブ色砂質土(5Y3/2)・黄褐色砂質土(2.5Y3/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや低い。

SD110 ⑩-⑪' (部分図3)

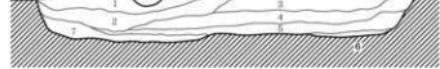


SD110 ⑩-⑪'

- 1 黒褐色砂質土(10YR2/2)・灰黃褐色砂(10YR4/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 2 灰黃褐色砂(2.5Y4/2)・オリーブ色砂(2.5Y4/2)の混合 しまりやや低い。
- 3 黄褐色砂(5Y4/2) しまりやや低い。

SD925 ⑩-⑪' (部分図3)

-1.00m

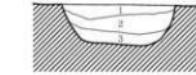


SD925 ⑩-⑪'

- 1 黑褐色砂質土(10YR2/2~10YR3/2) 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 2 黄褐色砂質土(10YR2/2~10YR3/2)・灰黃褐色砂(10YR4/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 3 黑褐色砂質土(10YR3/2)・灰黃褐色砂(10YR4/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 4 黑褐色砂質土(10YR4/2)・灰黃褐色砂(10YR4/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 5 黑褐色砂(2.5Y4/2)・オリーブ色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 6 灰黃褐色砂(2.5Y4/2) 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 7 灰黃褐色砂(2.5Y4/2)・オリーブ色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや低い。

SD109 ⑩-⑪' (部分図3)

-1.00m



SD109 ⑩-⑪'

- 1 黑褐色砂質土(10YR2/2~10YR3/2) 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 2 黄褐色砂質土(10YR3/2)・灰黃褐色砂(10YR4/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 3 灰黃褐色砂(2.5Y4/2) しまりやや低い。

SD925 ⑩-⑪' (部分図3)

-1.00m

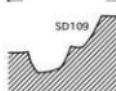


SD925 ⑩-⑪'

- 1 黑褐色砂質土(10YR2/2~10YR3/2) 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 2 黄褐色砂質土(10YR3/2)・灰黃褐色砂(10YR4/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 3 介在灰黃褐色砂(10YR3/2)・灰黃褐色砂(10YR4/2)の混合 黑褐色砂質土(10YR2/2) 中量混入。粘性はとんどなし。しまりやや低い。

SD108

-1.00m



SD108

-1.00m



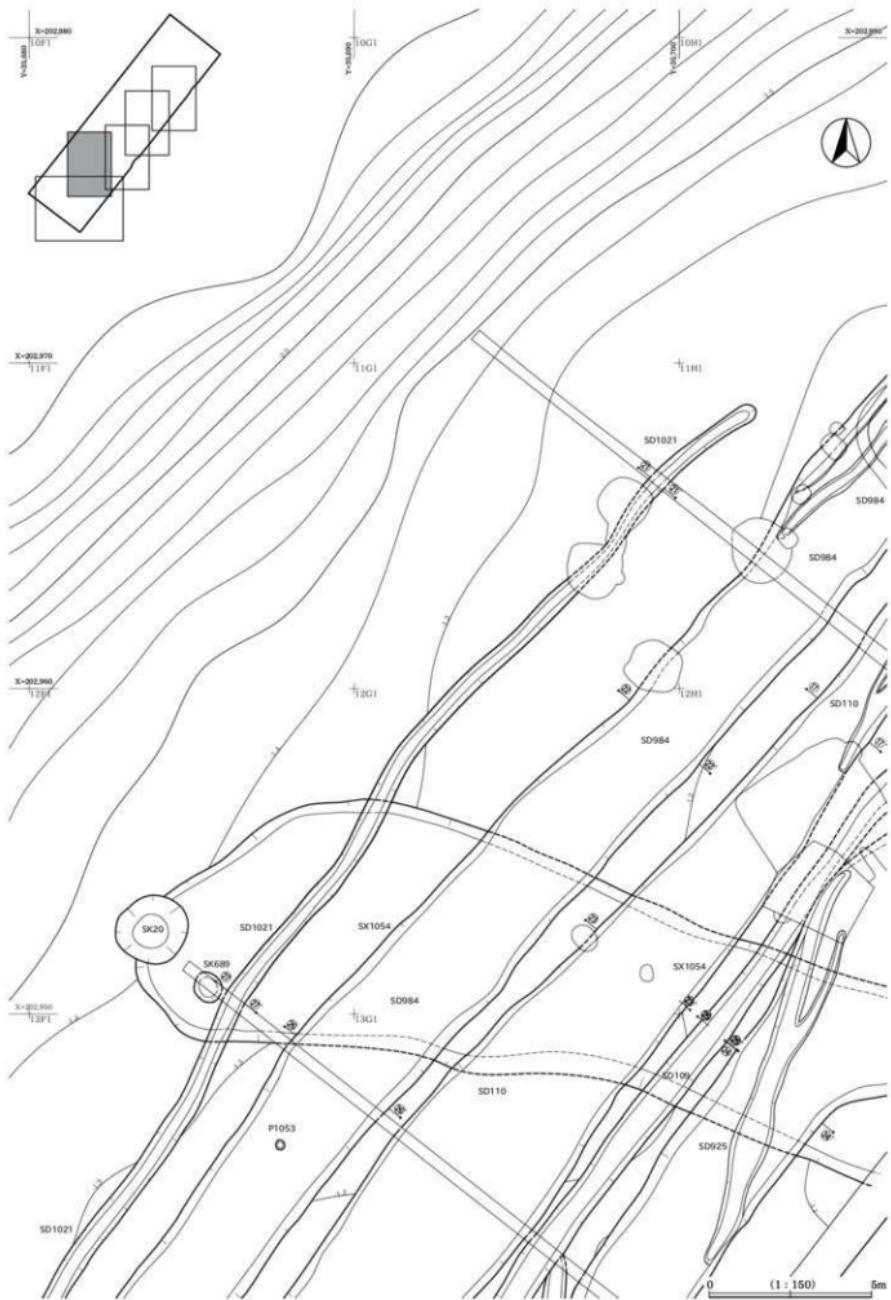
SD1000 ⑩-⑪' (部分図3)

-1.00m



SD1000 ⑩-⑪'

- 1 黑褐色砂質土(10YR2/2~10YR3/2)・灰黃褐色砂(10YR3/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 2 黑褐色砂質土(10YR3/2)・灰黃褐色砂(10YR4/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや低い。
- 3 黑褐色砂質土(2.5Y3/2)・灰黃褐色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性はとんどなし。しまりやや低い。



SD1021 ㉗-㉘ (部分図4)

基盤 -1.00m



SD1021 各-部

- 1 黒色砂質土 (10YR2/1) - 黒褐色砂質土 (10YR2/2) の混合 基盤部を薄着色。粘性はほとんどなし。しまりあり。
- 2 黒褐色砂質土 (10YR2/2) - 黑褐色砂質土 (10YR2/2) の混合 粘性はほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黑褐色砂質土 (10YR2/2) - 黑褐色砂質土 (10YR2/2) の混合 粘性はほとんどなし。しまりやや強い。
- 4 黑色砂質土 (10YR2/1) - 黄オーラー色砂 (5Y4/2) の混合 粘性はほとんどなし。しまりやや強い。
- 5 黄オーラー色砂 (5Y4/2) - 黑色砂質土 (10YR2/1) の混合 粘性はほとんどなし。しまりやや強い。

SD1021 ㉗-㉘ (部分図4・5)

基盤 -1.00m

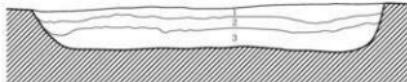


SD1021 各-部

- 1 黑色砂質土 (10YR1.7/1) 塩化物を薄着色。粘性はほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黑褐色砂質土 (10YR2/1) 塩化物を薄着色。粘性はほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黑褐色砂質土 (10YR1.7/1) 塩化リープ色砂 (5Y4/2) 少量混入。粘性はほとんどなし。しまりやや強い。

SD984 ㉗-㉘ (部分図4)

基盤 -1.00m

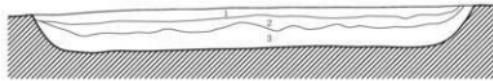


SD984 各-部

- 1 黑色砂質土 (10YR2/1) - 黑褐色砂質土 (10YR2/2) の混合 塩化物を薄着色。粘性はほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黑褐色砂質土 (10YR2/1) - 黑褐色砂質土 (10YR2/2) の混合 に赤い黄褐色砂 (10Y5/3) 多量混入。粘性はほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黄オーラー色砂 (5Y4/2) - に赤い黄褐色砂 (10Y5/3) の混合 黑色砂質土 (10YR2/1) 中量混入。粘性はほとんどなし。しまりやや強い。

SD984 ㉗-㉘ (部分図4・5)

基盤 -1.00m

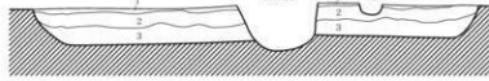


SD984 各-部

- 1 黑色砂質土 (10YR2/1) - 黑褐色砂質土 (10YR2/2) の混合 に赤い黄褐色砂 (10Y5/3) 墓塚混入。塩化物を少量含む。粘性はほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黑褐色砂質土 (10YR2/1) - 黑褐色砂質土 (10YR2/2) の混合 に赤い黄褐色砂 (10Y5/3) 中量混入。粘性はほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黄オーラー色砂 (5Y4/2) - に赤い黄褐色砂 (10Y5/3) の混合 黑色砂質土 (10YR2/1) 中量混入。粘性はほとんどなし。しまりやや強い。

SD110 ㉗-㉘ (部分図4・5)

基盤 -1.00m



SD110 各-部

- 1 黑褐色砂質土 (10YR3/2) - 黑褐色砂質土 (10YR2/2) の混合 粘性はほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黑褐色砂質土 (10YR3/2) - 黑褐色砂質土 (2.5Y3/2) の混合 粘性はほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 オーラー色砂質土 (5Y3/2) - 喀灰黃褐色砂 (2.5Y4/2) の混合 粘性はほとんどなし。しまりやや強い。

SK488 P1047

SD109 ㉗-㉘ (部分図4・5)

基盤 -1.00m



SD109 各-部

- 1 黑褐色砂質土 (10YR2/2) 粘性はほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黑褐色砂質土 (2.5Y3/2) - 黑褐色砂質土 (2.5Y3/2) の混合 粘性はほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黑褐色砂質土 (2.5Y3/2) - 喀灰黃褐色砂 (2.5Y4/2) の混合 粘性はほとんどなし。しまりやや強い。
- 4 黑褐色砂質土 (2.5Y3/2) - 喀灰黃褐色砂 (2.5Y4/2) の混合 粘性はほとんどなし。しまりやや強い。
- 5 黑褐色砂質土 (2.5Y3/2) - オーラー色砂質土 (5Y3/2) の混合 粘性はほとんどなし。しまりやや強い。

6 黃褐色土 (2.5Y4/2) - 喀灰黃褐色砂 (2.5Y4/2) の混合 粘性はほとんどなし。しまりやや強い。

7 オーラー色砂質土 (5Y3/2) 粘性はほとんどなし。しまりやや強い。

SD925 ㉗-㉘ (部分図4・5)

基盤 -1.00m



SD925 各-部

- 1 黑褐色砂質土 (10YR2/2~10YR3/1) 粘性はほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黑褐色砂質土 (10YR2/1) - 黑褐色砂質土 (10YR1.7/1) の混合 粘性はほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黑褐色砂質土 (10YR1.7/1) - 黑褐色砂質土 (10YR1.7/1) の混合 粘性はほとんどなし。しまりやや強い。
- 4 黑褐色砂質土 (2.5Y3/2~2.5Y3/2) - オーラー色砂質土 (2.5Y3/2) の混合 粘性はほとんどなし。しまりやや強い。
- 5 黑褐色土 (5Y4/1) 粘性はほとんどなし。しまりやや強い。

(1:40)
2m

図版 41

下層造構個別図 4 (1/40)

SD1021 ⑧-⑨' (部分図5)

⑧

-1.00m



SD1021 ⑧-⑨'

1 黒色砂質土 (10YR2/1)・灰オリーブ色砂 (SY4/2) の混合・粘性はとんどなし。しまりやや低い。

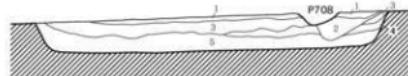
2 黒色砂質土 (10YR2/1)・灰オリーブ色砂 (SY4/2) の混合・粘性はとんどなし。しまりやや低い。

3 黑褐色砂質土 (10YR2/1)・灰褐色砂質シルト (10YR2/1) の混合・粘性はとんどなし。しまりやや低い。

SD1021 ⑩-⑪' (部分図5)

⑩

-1.00m



SD984 ⑩-⑪' (部分図5)

⑩

-1.00m



SD984 ⑩-⑪' (部分図5)

1 黒色砂質土 (10YR2/1)・黒褐色砂質土 (10YR2/2) の混合・粘性物を少々含む。粘性はとんどなし。しまりやや低い。

2 黒褐色砂質土 (10YR2/2)・褐褐色砂質シルト (10YR2/1) の混合・粘性はとんどなし。しまりやや低い。

3 黑褐色砂質土 (10YR2/1)・黑褐色砂質土 (10YR2/2) の混合・に少し黒褐色砂 (10Y5/3) 中量混入。粘性はとんどなし。しまりやや低い。

4 黑褐色砂質土 (10YR2/1)・に少し黒褐色砂 (10Y5/3)・灰オリーブ色砂 (SY4/2) の混合・粘性はとんどなし。しまりやや低い。

5 灰オリーブ色砂 (SY4/2)・に少し黒褐色砂 (10Y5/3) の混合・黑褐色砂質土 (10YR2/1) 中量混入。粘性はとんどなし。しまりやや低い。

SD110 ⑩-⑪' (部分図5)

⑩

-1.00m



SD110 ⑩-⑪'

1 黒色砂質土 (10YR2/1)・黒褐色砂質土 (10YR2/2) の混合・粘性物を少々含む。粘性はとんどなし。しまりやや低い。

2 黑褐色砂質土 (10YR2/1)・に少し黒褐色砂 (10Y5/3) 中量混入。粘性はとんどなし。しまりやや低い。

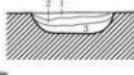
3 に少し黒褐色砂 (10Y5/3)・灰オリーブ色砂 (SY4/2) の混合・黑褐色砂質土 (10YR2/2) 中量混入。しまりやや低い。

4 黑褐色砂質土 (10YR1/2)・黑褐色砂質シルト (10YR5/1) 中量混入。粘性はとんどなし。しまりやや低い。

SD1052 ⑩-⑪' (部分図5)

⑩

-1.00m



SD1052 ⑩-⑪' (部分図5)

1 黑褐色砂質土 (10YR2/2)・粘性はとんどなし。しまりあり。

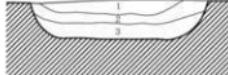
2 黑褐色砂質土 (2,5Y3/2)・灰オリーブ色砂 (2,5Y3/2) の混合・粘性はとんどなし。しまりあり。

3 布灰黒色砂 (2,5Y4/2)・粘性はとんどなし。しまりあり。

SD109 ⑩-⑪' (部分図5)

⑩

-1.00m



SD109 ⑩-⑪'

1 黑褐色砂質土 (10YR2/2~10YR3/2)・粘性はとんどなし。しまりやや低い。

2 黑褐色砂質土 (10YR3/2)・灰褐色砂質土 (10YR4/2) の混合・粘性はとんどなし。しまりやや低い。

3 布灰黒色砂 (2,5Y4/2)・しまりやや低い。

SD1051 ⑩-⑪' (部分図5)

⑩

-1.00m



SD1051 ⑩-⑪' (部分図5)

1 黑褐色砂質土 (10YR2/2~10YR3/2)・粘性はとんどなし。しまりあり。

2 黑褐色砂質土 (10YR3/2)・灰褐色砂質土 (10YR4/2) の混合・粘性はとんどなし。しまりあり。

3 布灰黒色砂 (2,5Y3/2)・布灰黒色砂 (2,5Y4/2) の混合・粘性はとんどなし。しまりあり。

SD925 ⑩-⑪' (部分図5)

⑩

-1.00m



SD925 ⑩-⑪'

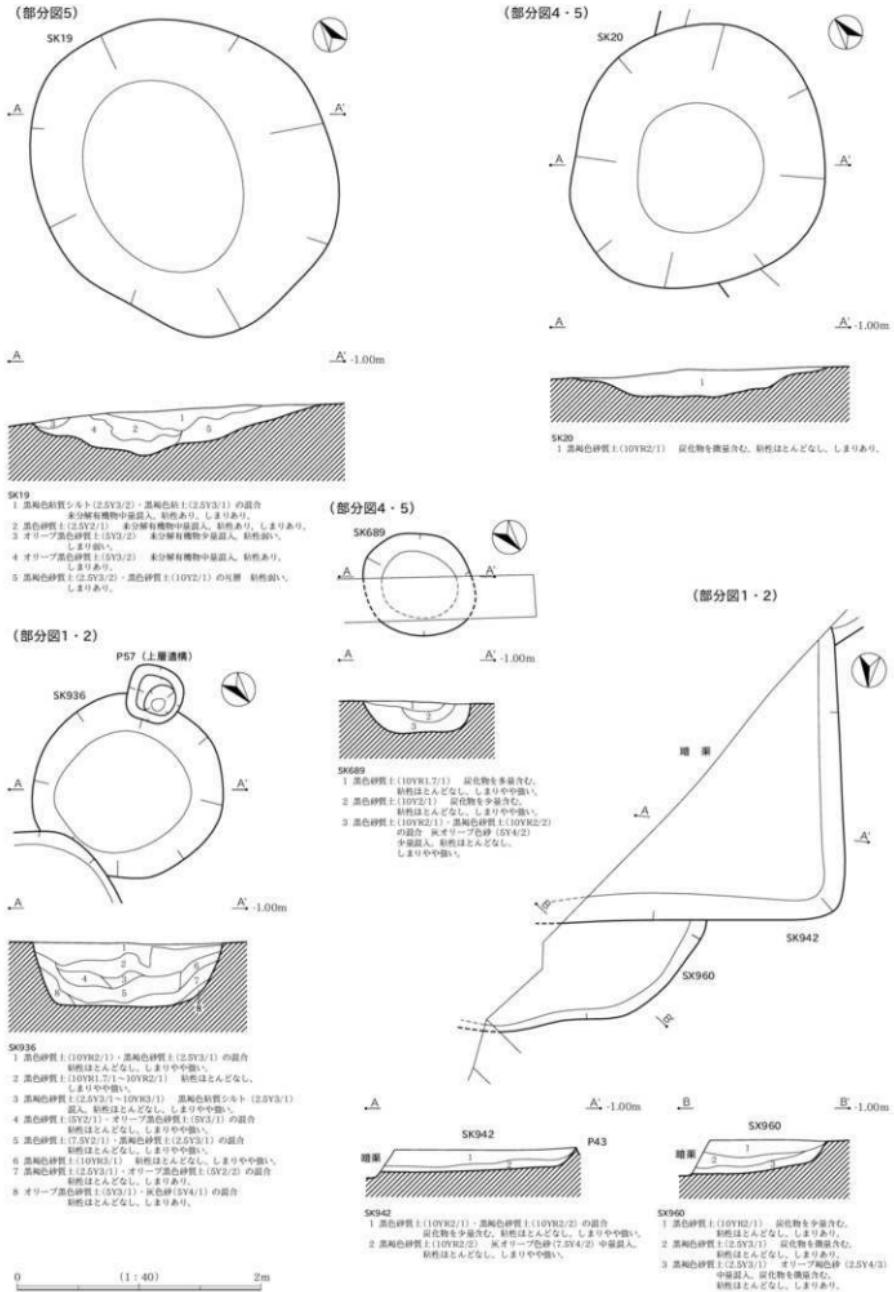
1 黑褐色砂質土 (10YR2/1)・黒褐色砂質土 (10YR2/2) の混合・粘性物を少々含む。粘性はとんどなし。しまりやや低い。

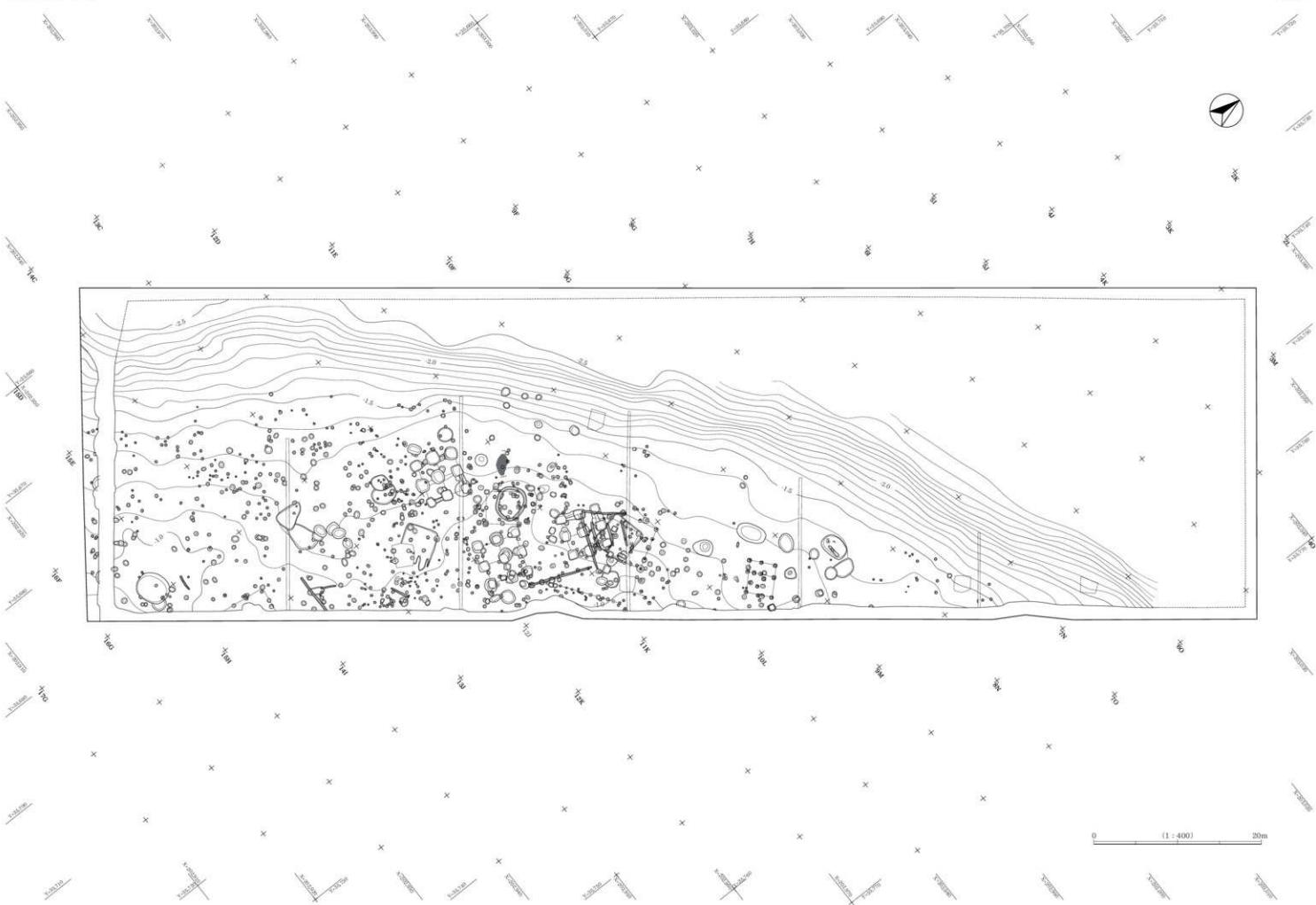
2 黑褐色砂質土 (10YR2/1)・黑褐色砂質土 (10YR2/2) の混合・に少し灰褐色砂 (10Y5/3) 中量混入。粘性はとんどなし。しまりやや低い。

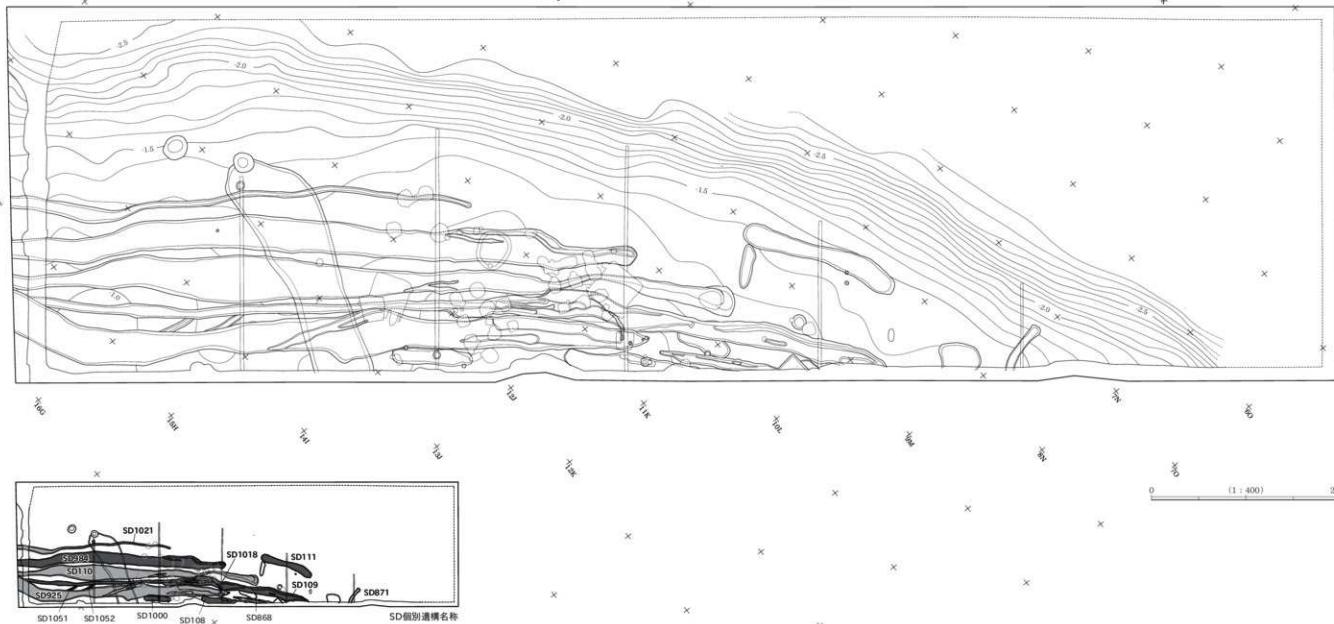
3 黑褐色砂質土 (10YR2/1)・灰褐色砂質土 (10YR3/2) の混合・粘性物を少々含む。粘性はとんどなし。しまりやや低い。

4 に少し灰褐色砂 (10YR3/2)・灰オリーブ色砂 (SY4/2) の混合・黑褐色砂質土 (10YR2/1) 中量混入。粘性はとんどなし。しまりやや低い。









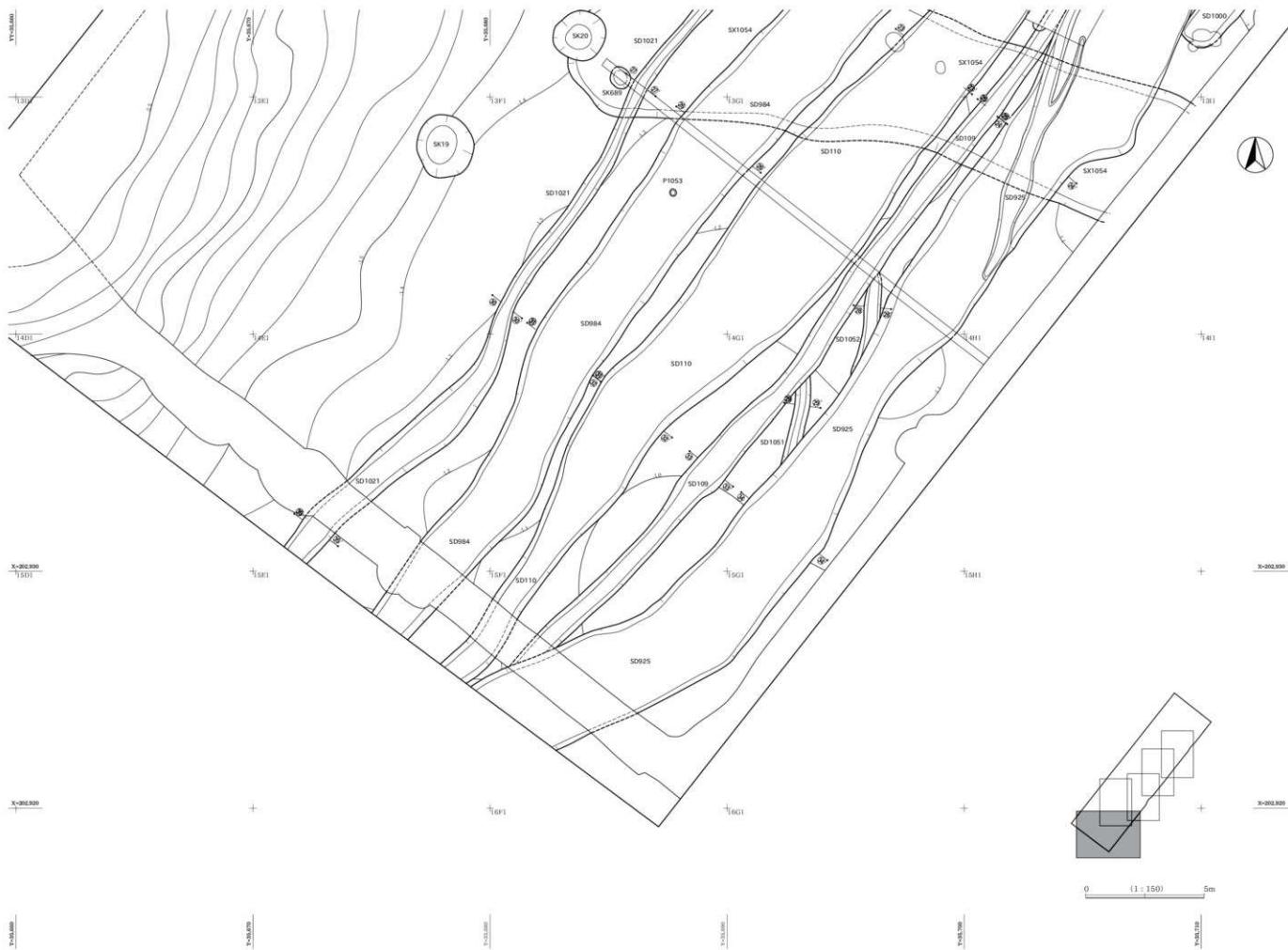
上層遺構配置図 3

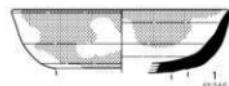
圖版 13



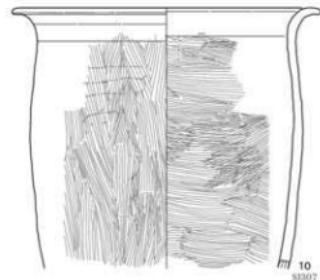
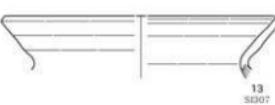
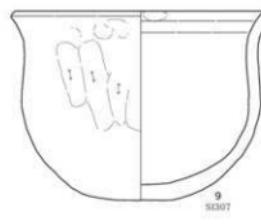
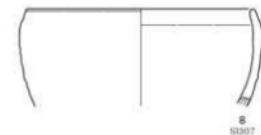
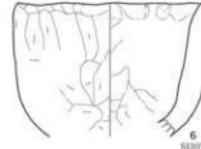
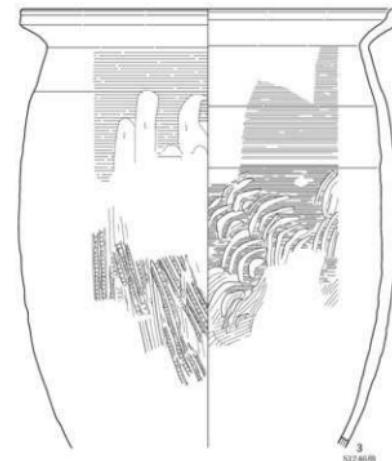
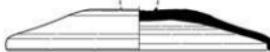
下層遺構配置図 5

図版 42

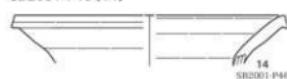


上層遺構出土土器
SI246(1~3)

SI307(4~13)



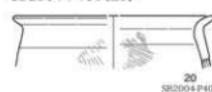
SB2001-P46 (14)



SB2004-P393(17~19)



SB2004-P406 (20)



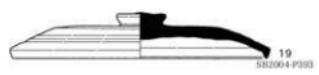
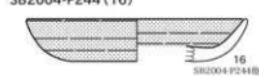
SB2003-P113 (15)



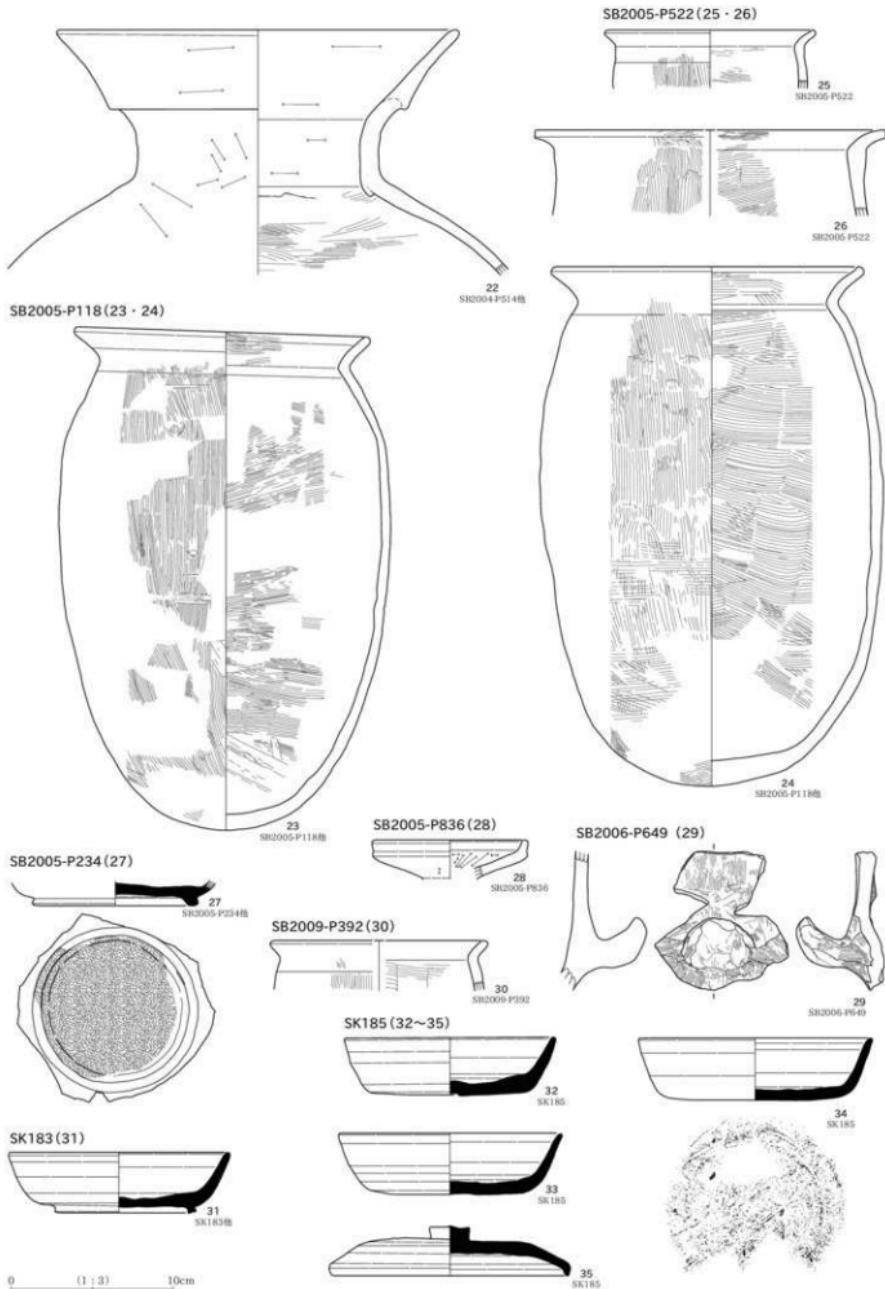
SB2004-P514 (21・22)



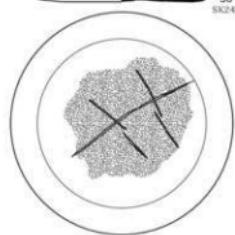
SB2004-P244 (16)



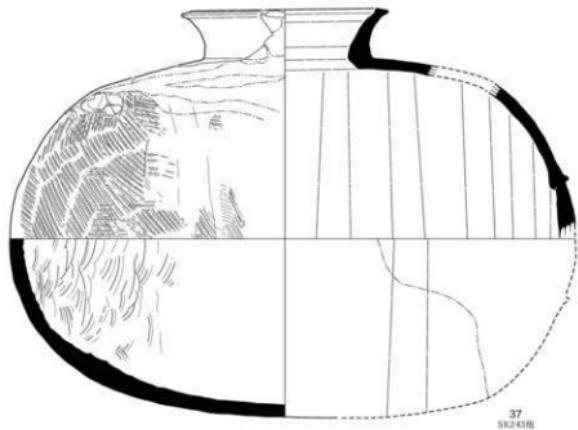
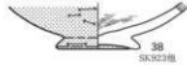
0 (1 : 3) 10cm



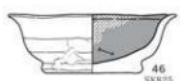
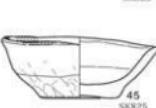
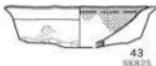
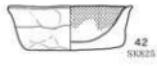
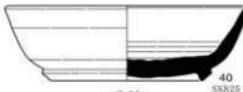
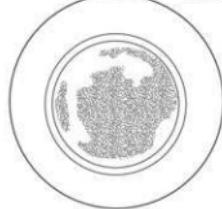
SK243 (36・37)



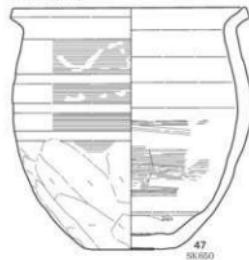
SK923 (38)



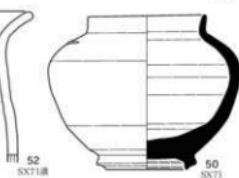
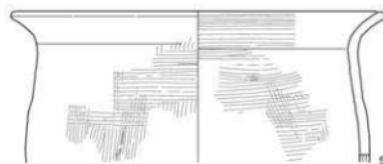
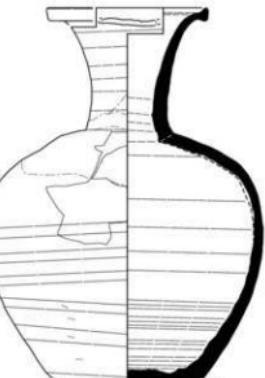
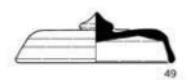
SK825 (39~46)



SK650 (47)

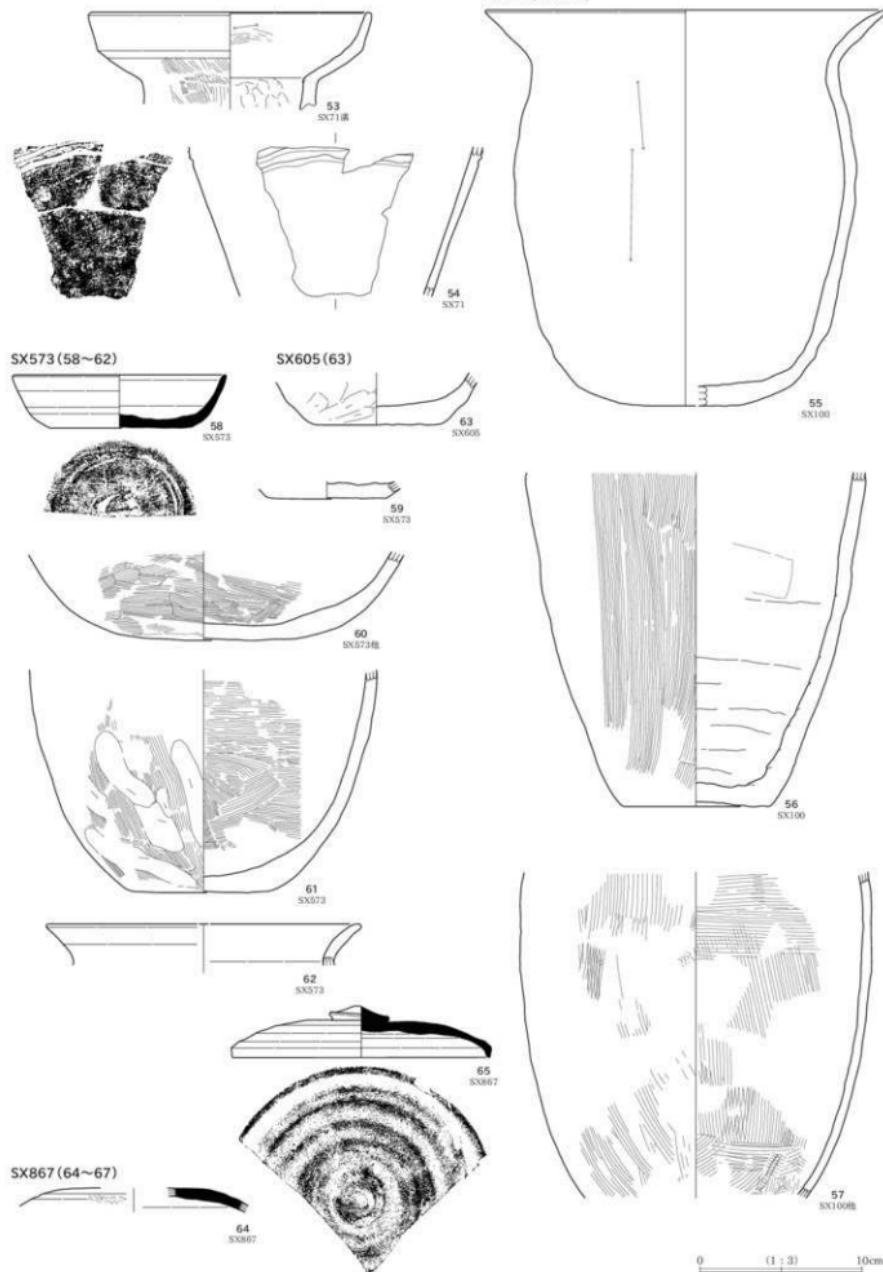


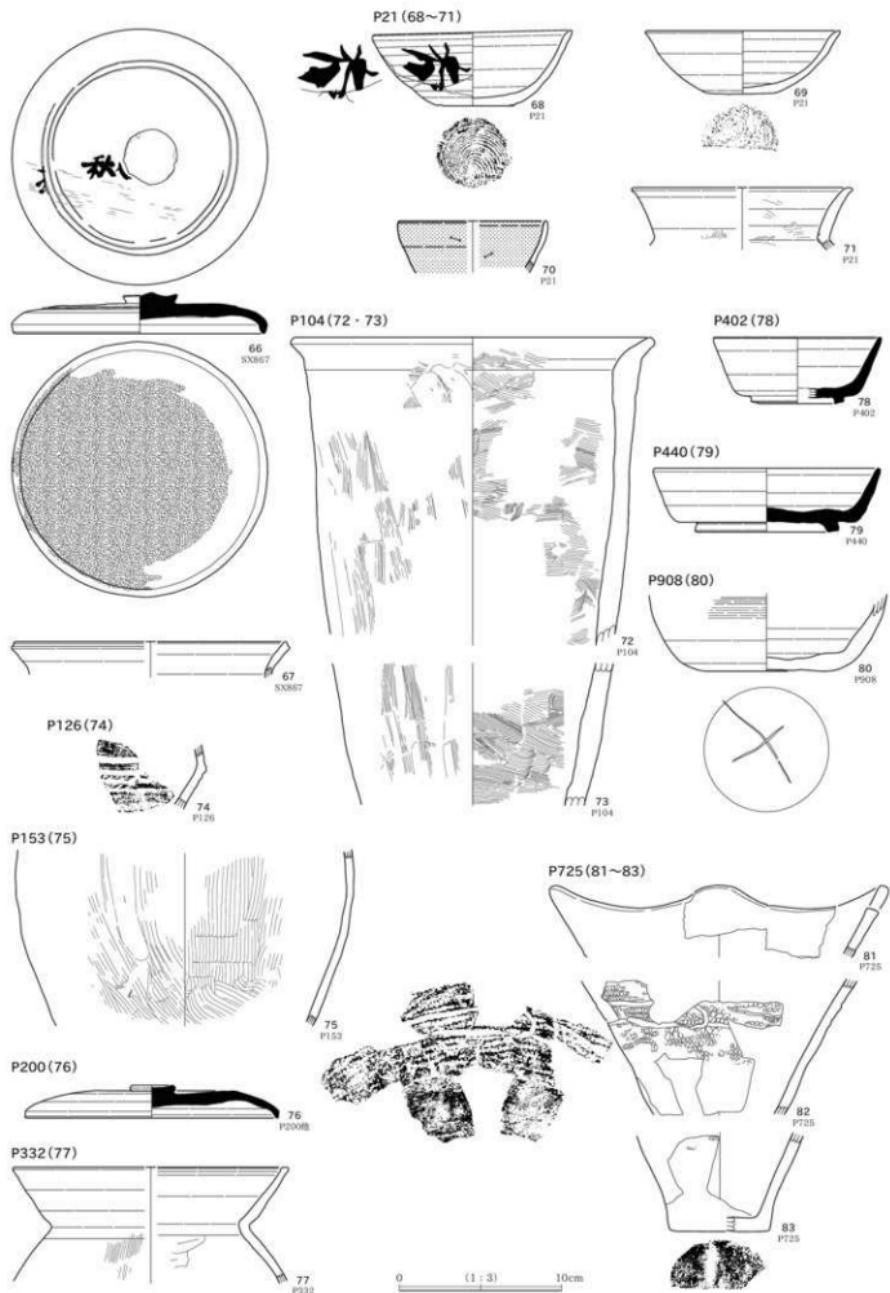
SX71 (48~54)

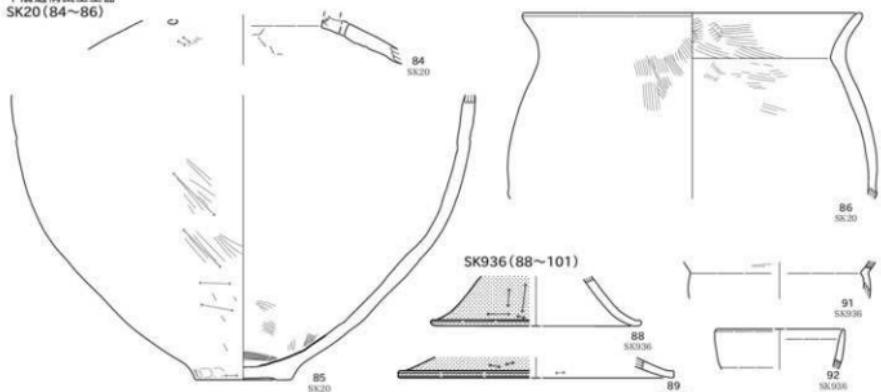


0 (1 : 3) 10cm

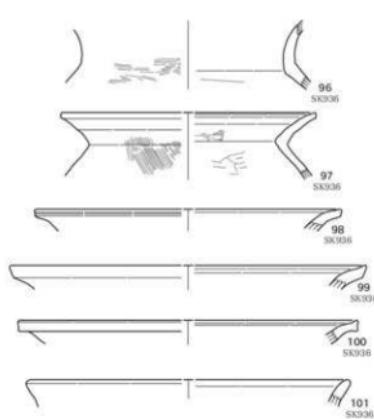
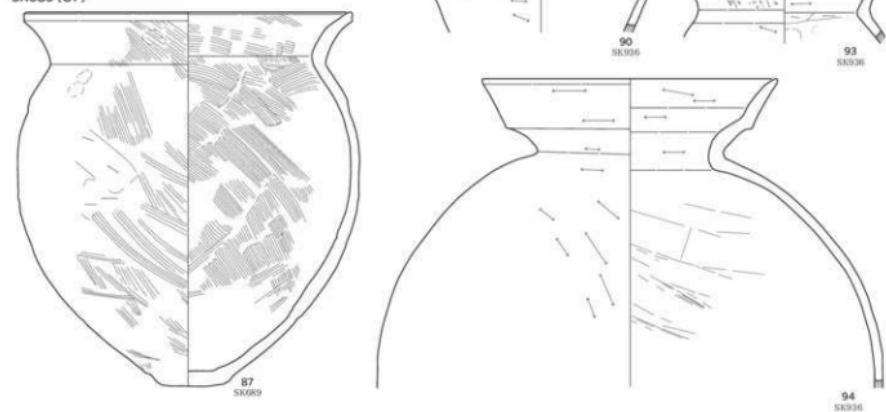
SX100(55~57)

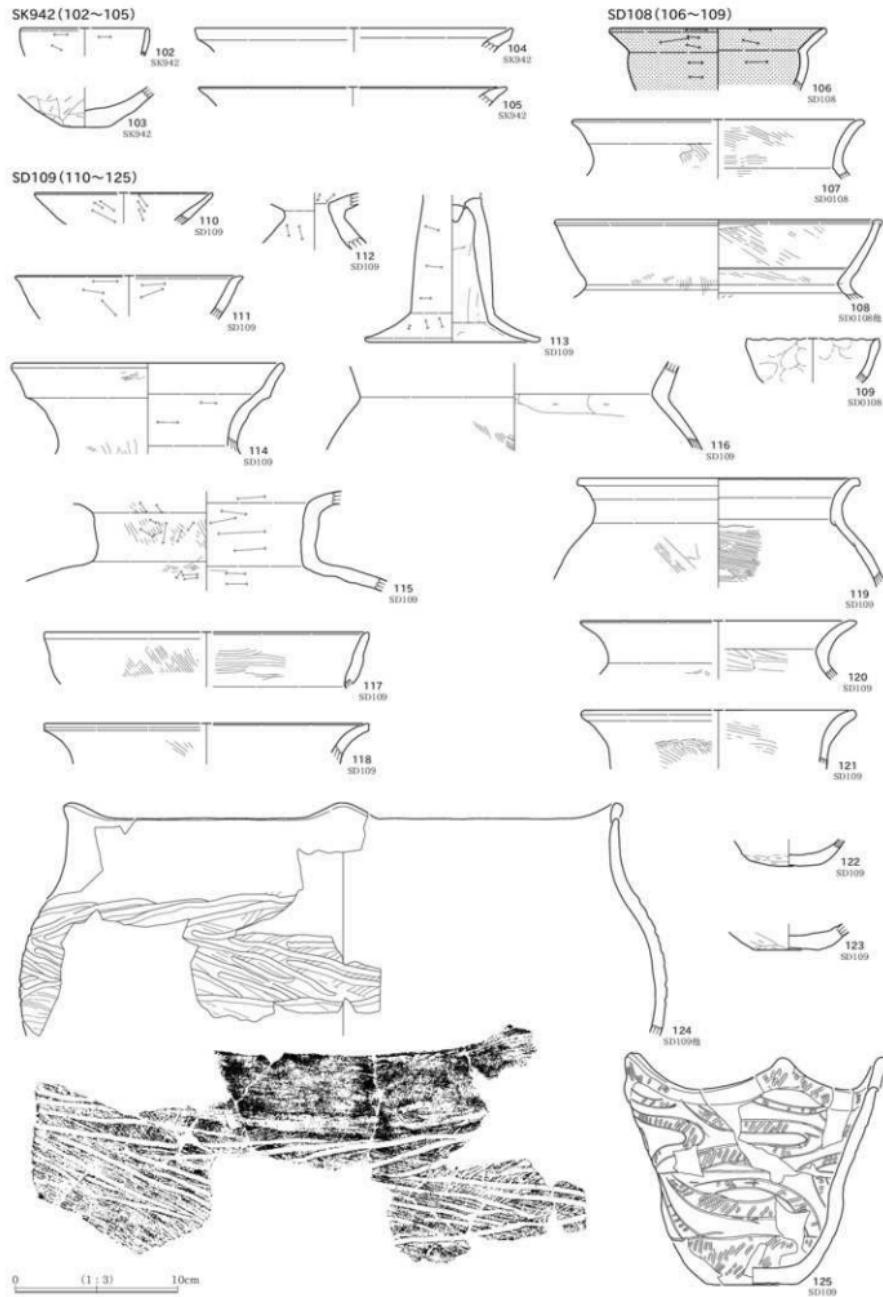


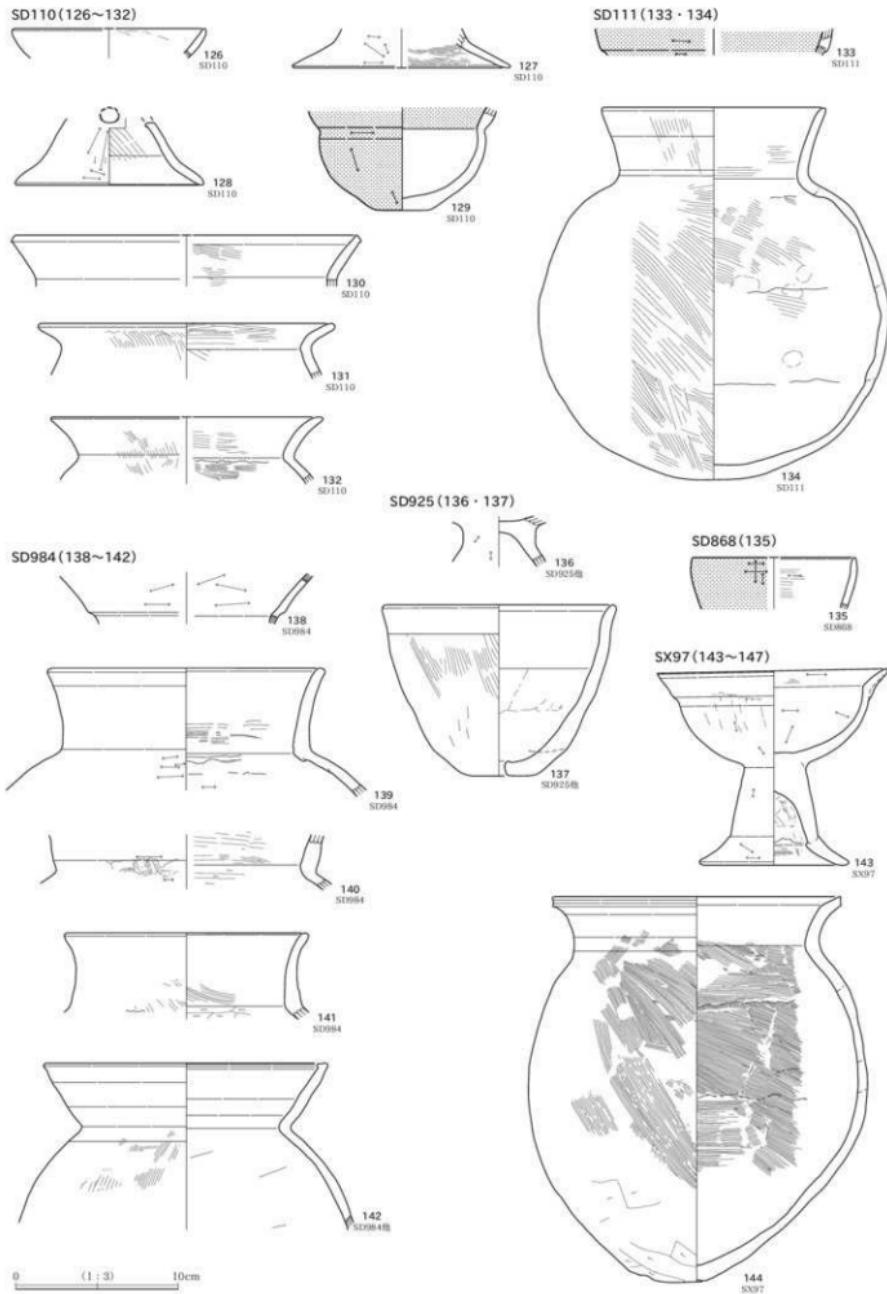


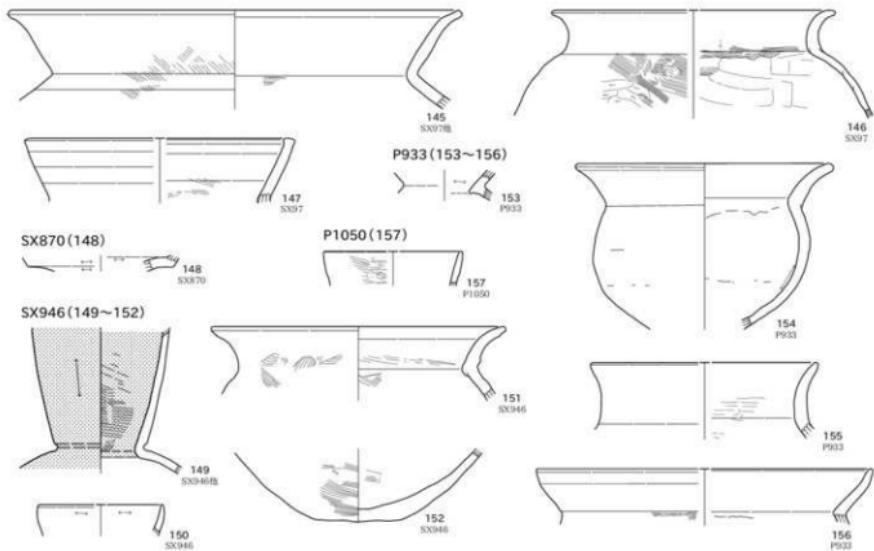
下層遺構出土土器
SK20(84~86)

SK689(87)

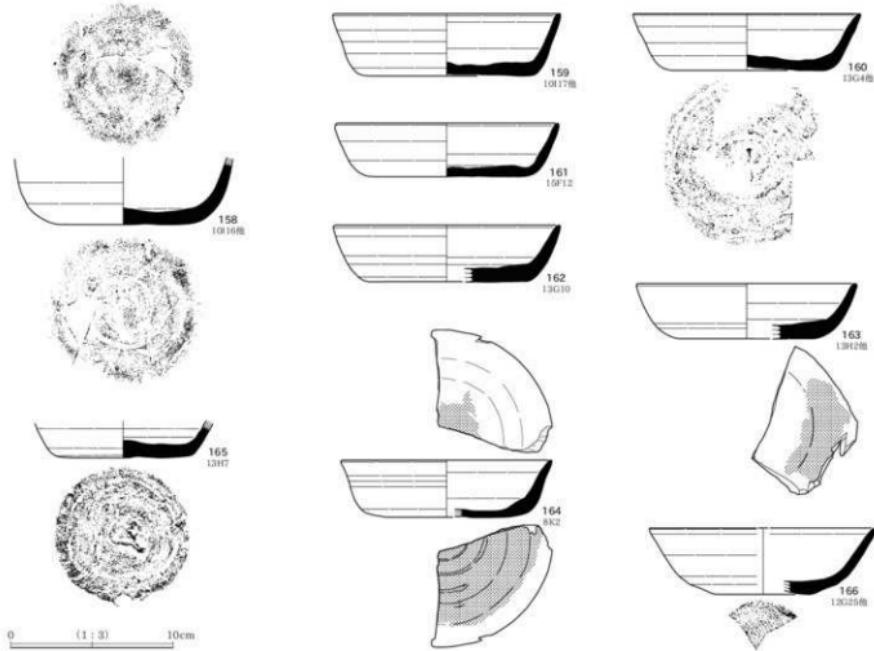




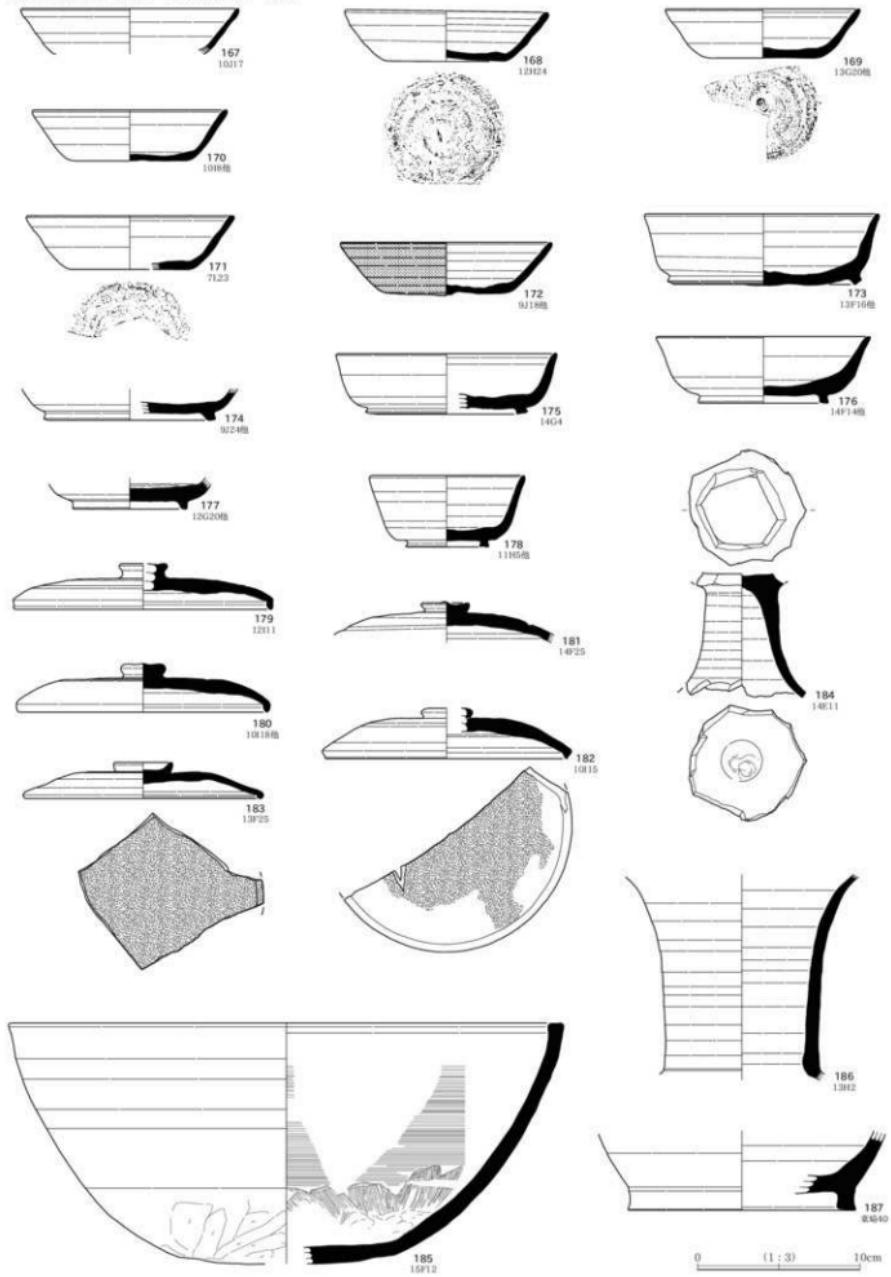




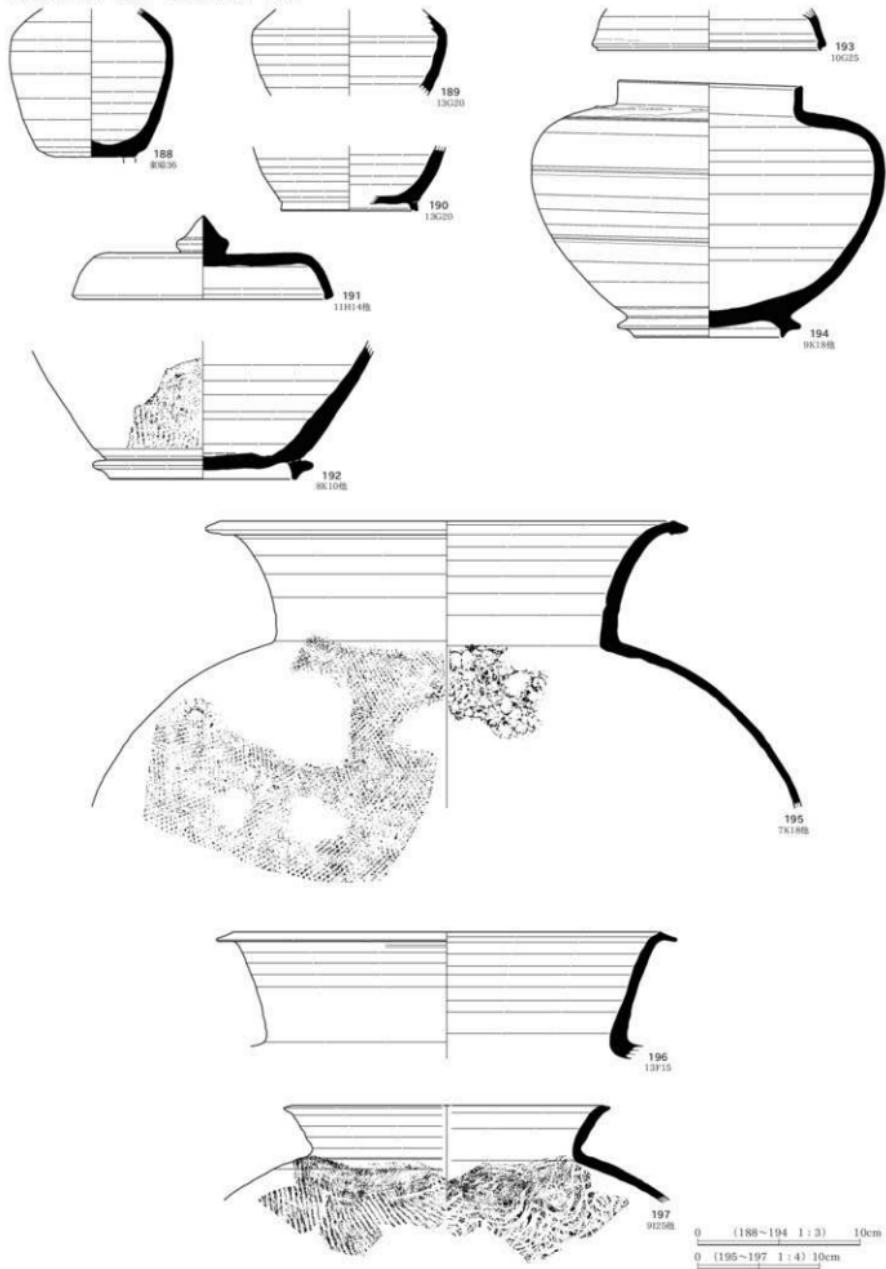
包含層出土土器 奈良・平安時代(158~166)



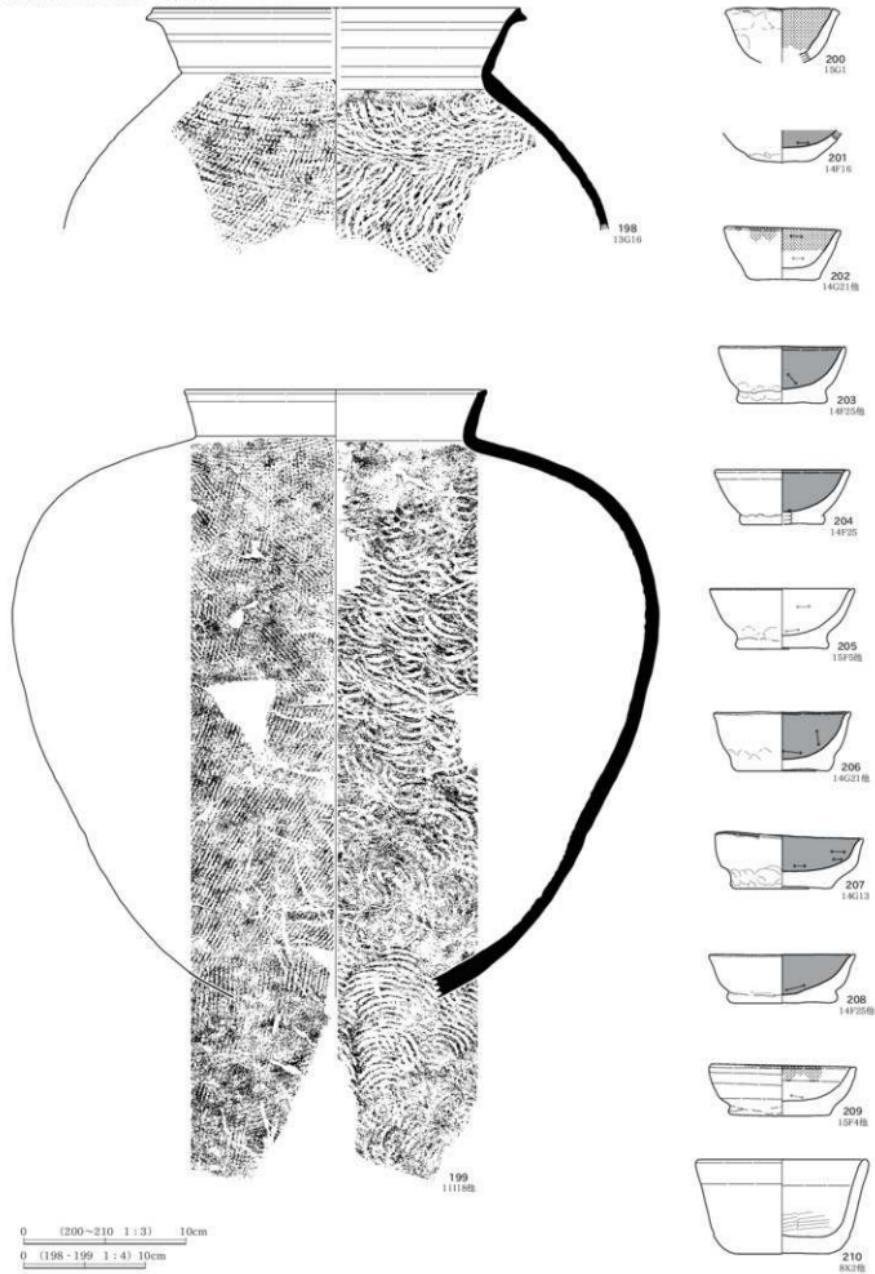
包含層出土土器 奈良・平安時代（167～187）



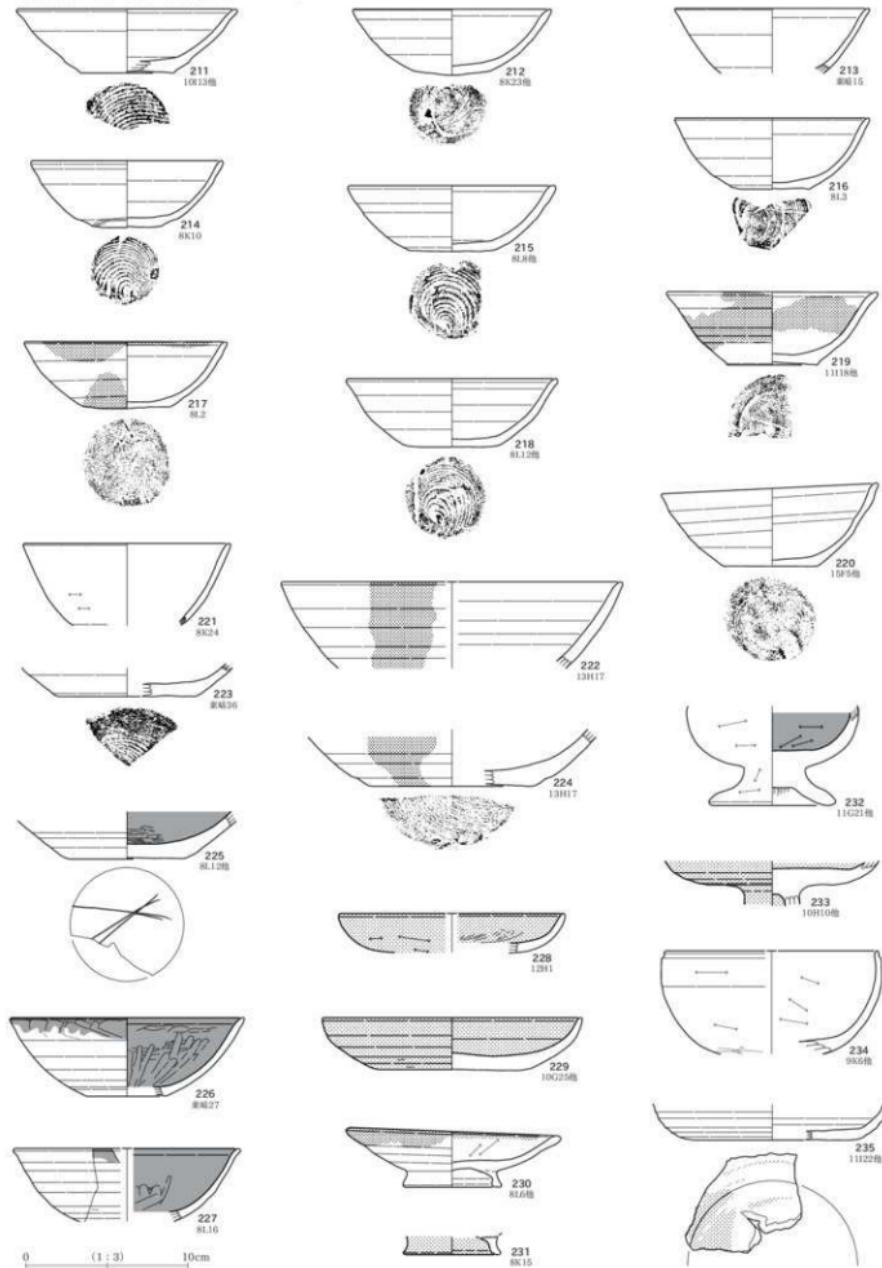
包含層出土土器 奈良・平安時代(188~197)



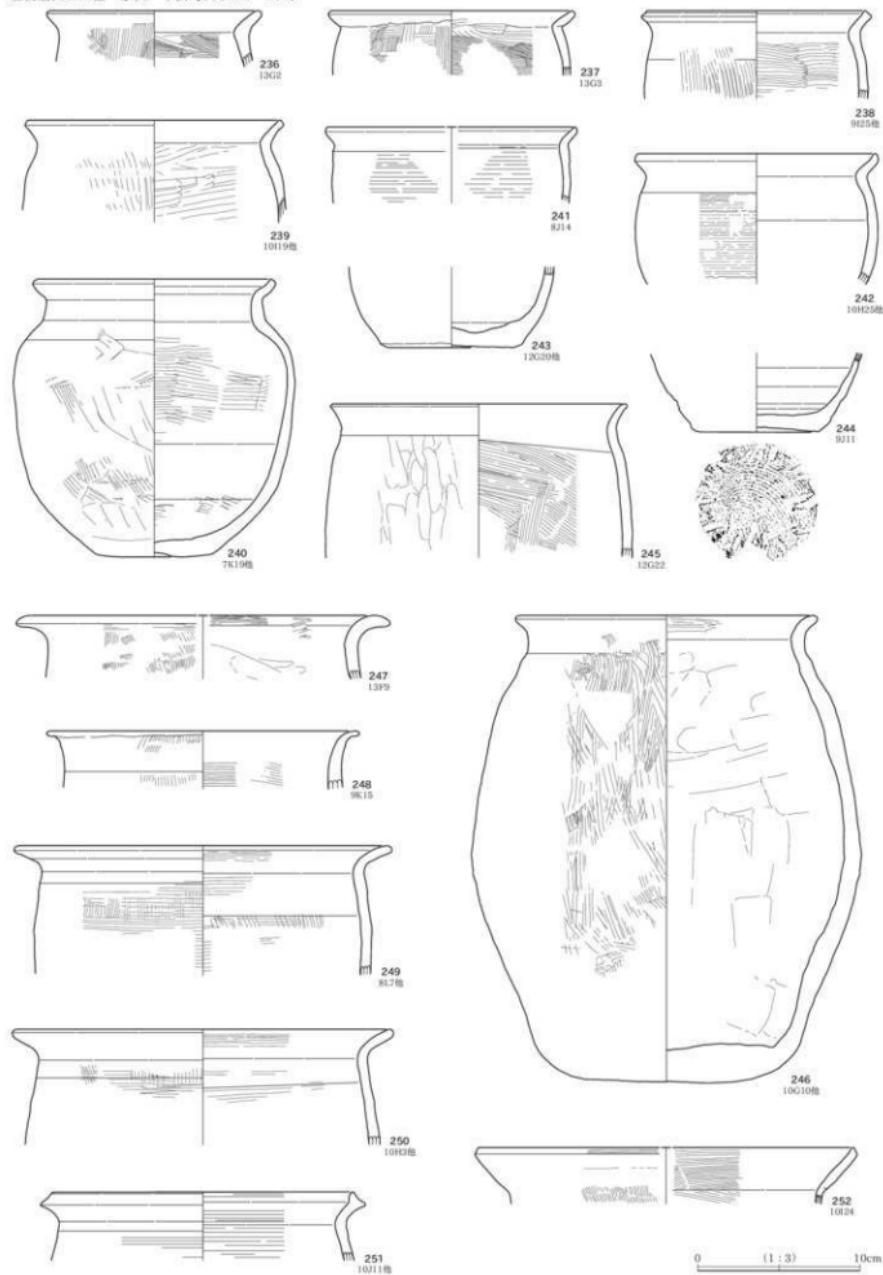
包含層出土土器 奈良・平安時代（198～210）



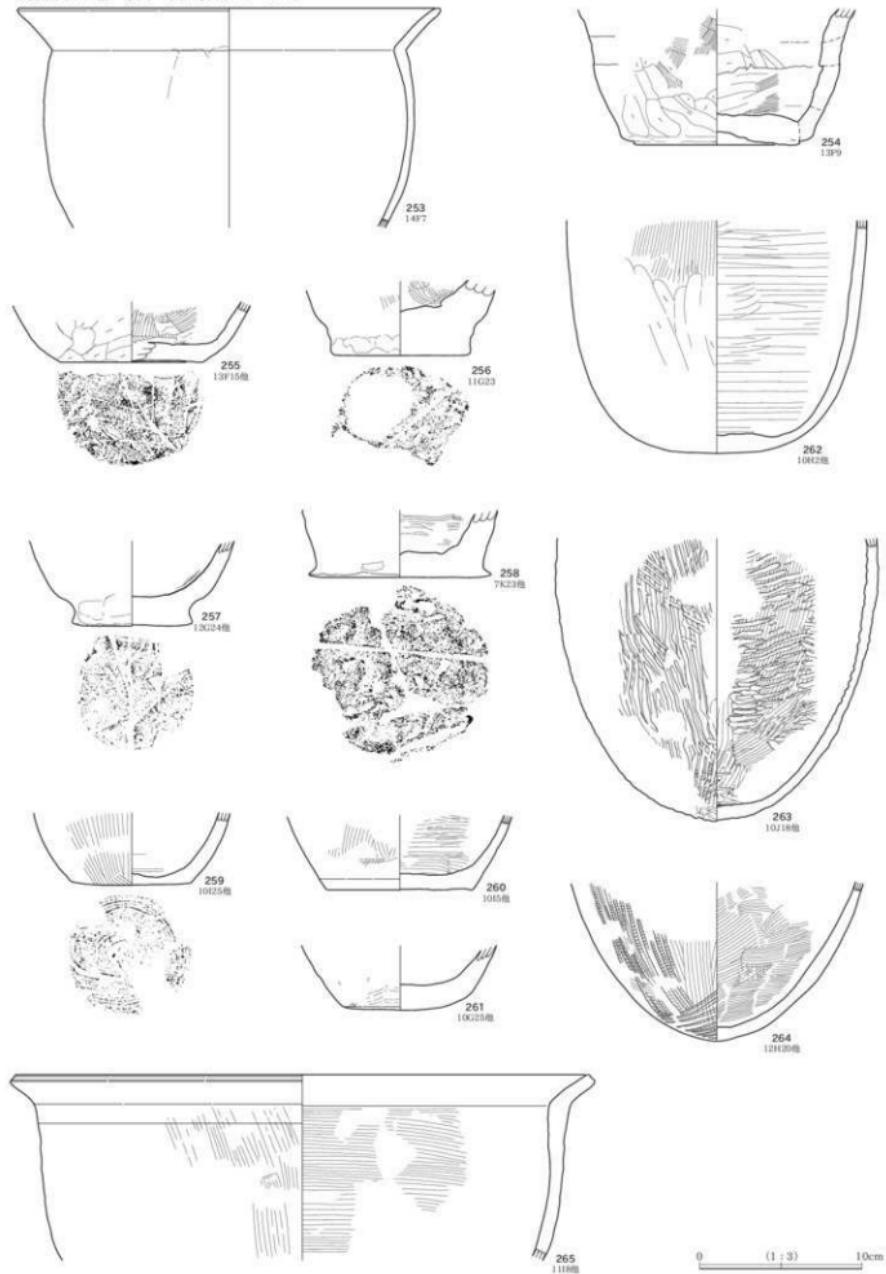
包含層出土土器 奈良・平安時代(211~235)



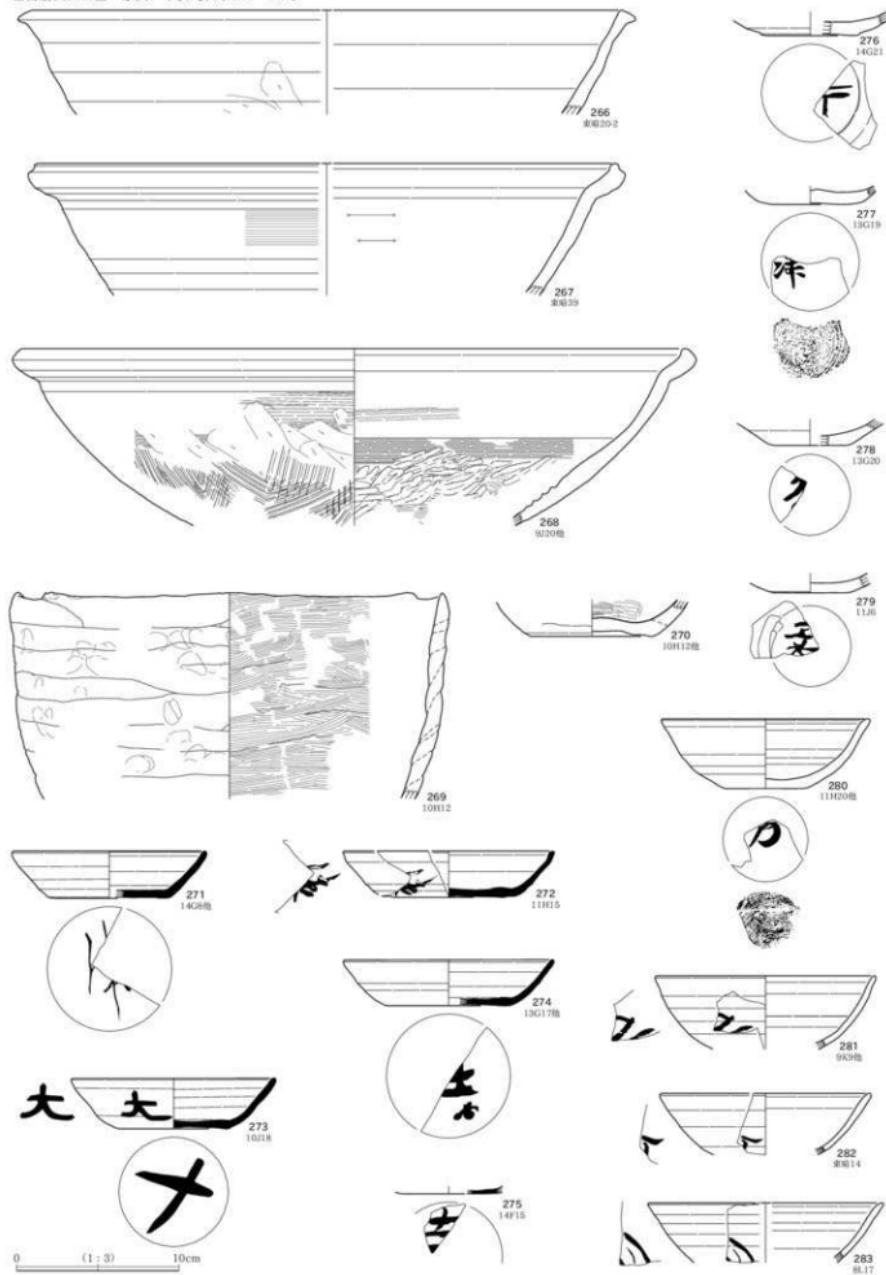
包含層出土土器 奈良・平安時代(236~252)



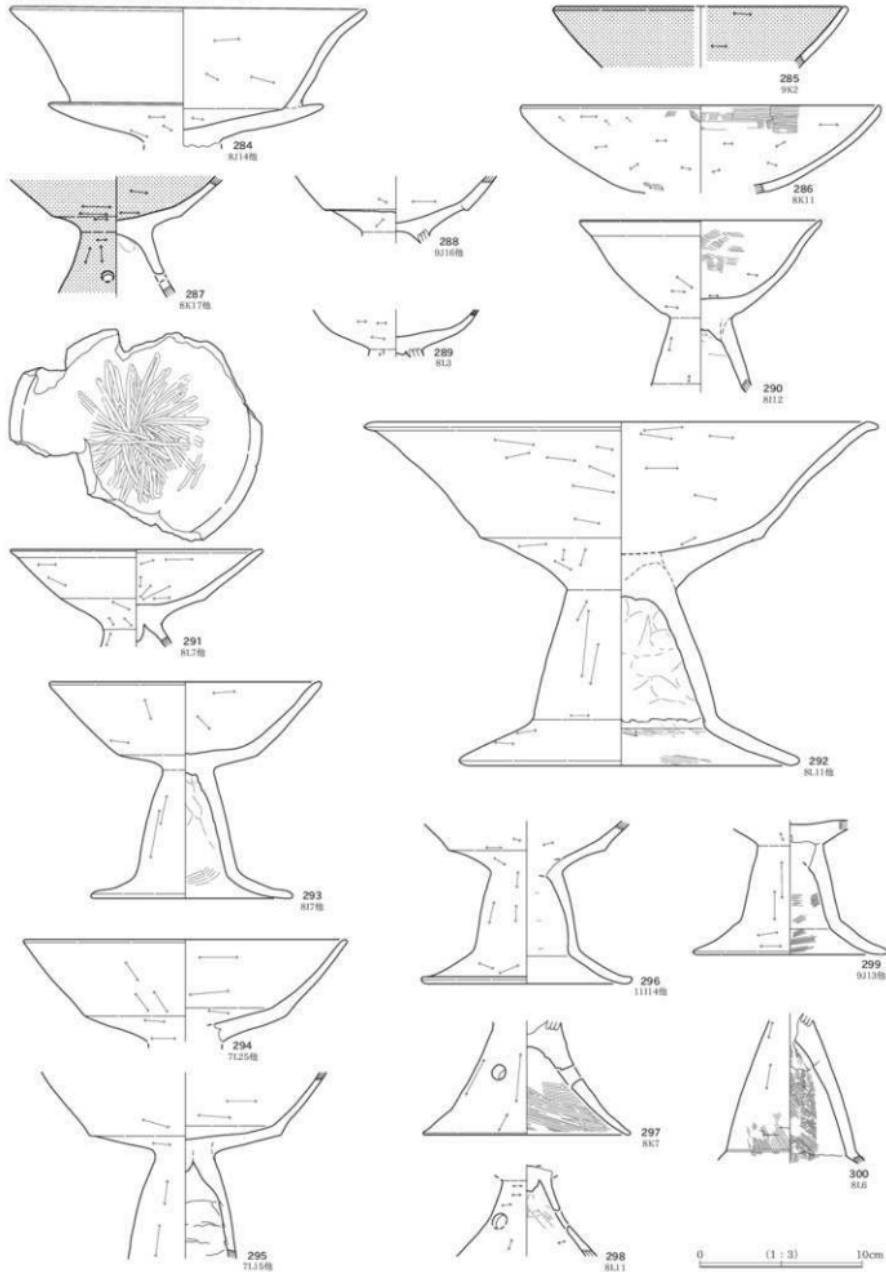
包含層出土土器 奈良・平安時代（253～265）



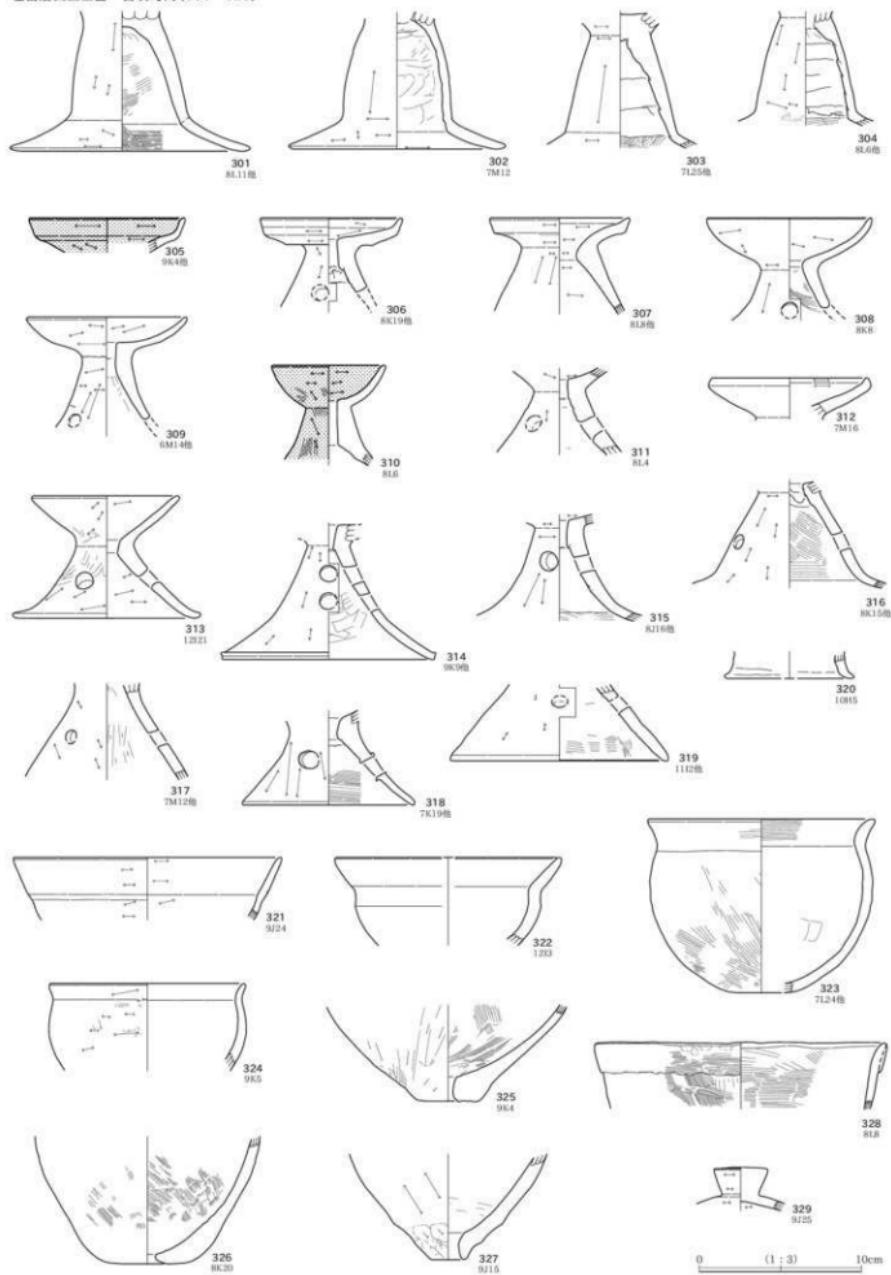
包含層出土土器 奈良・平安時代(266~283)



包含層出土土器 古墳時代(284~300)

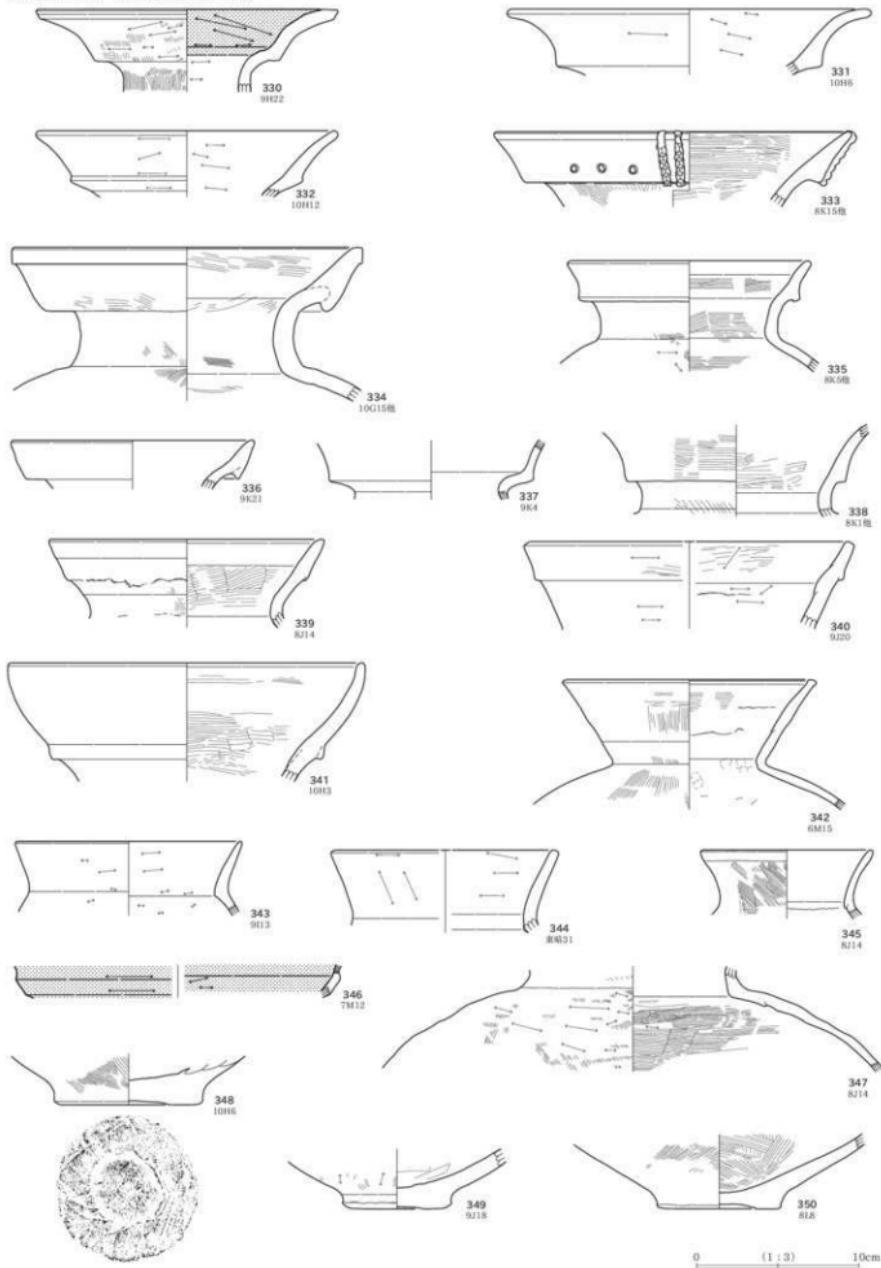


包含層出土土器 古墳時代（301～329）

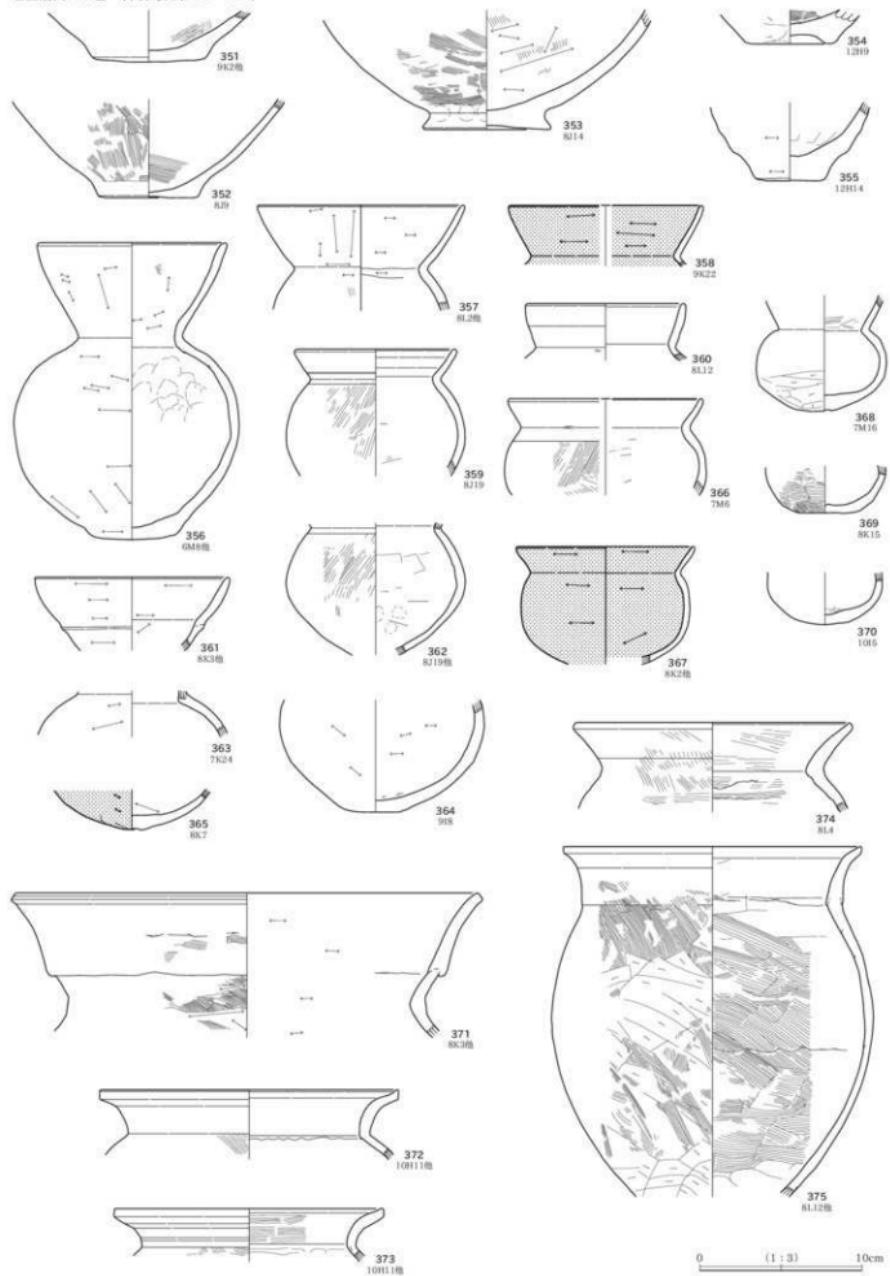


0 (1 : 3) 10cm

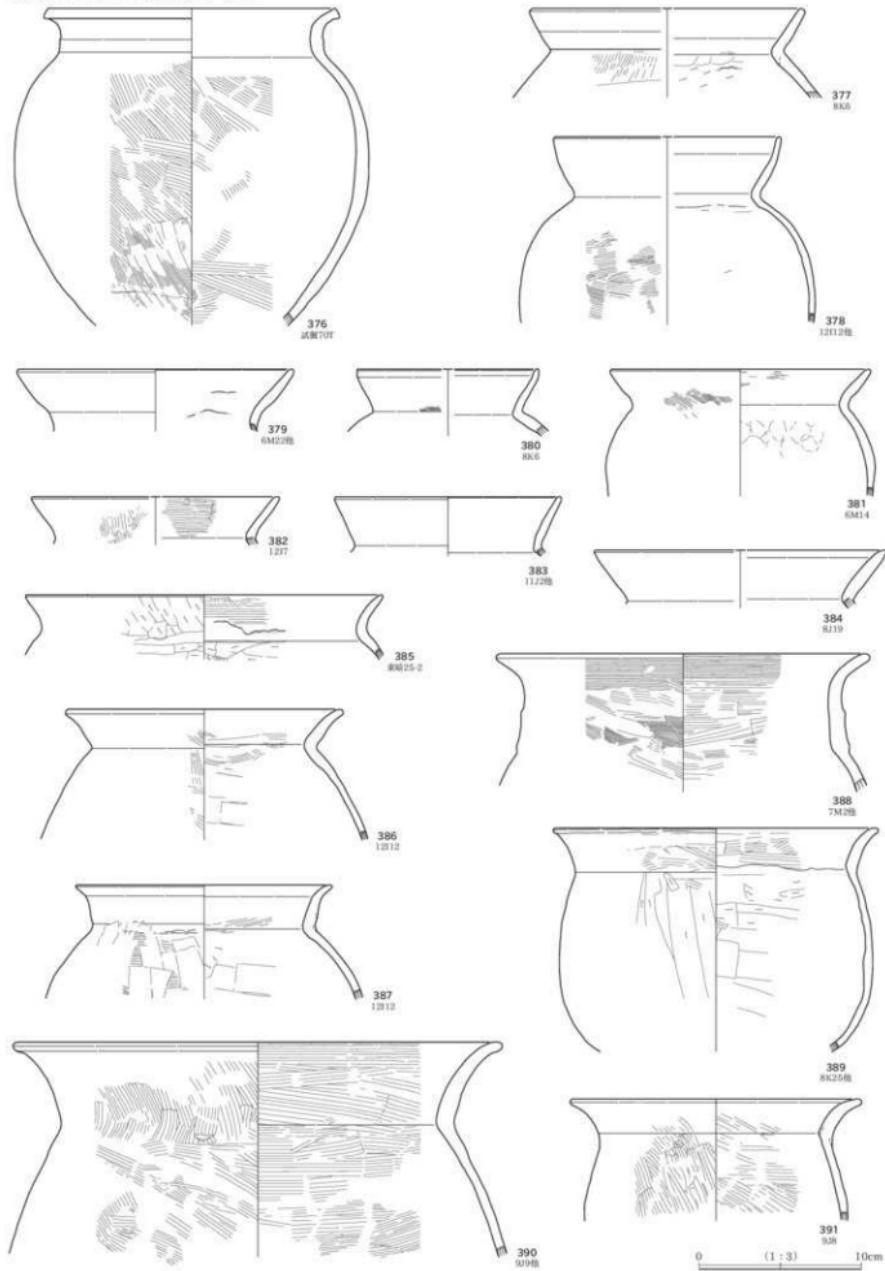
包含層出土器 古墳時代（330～350）



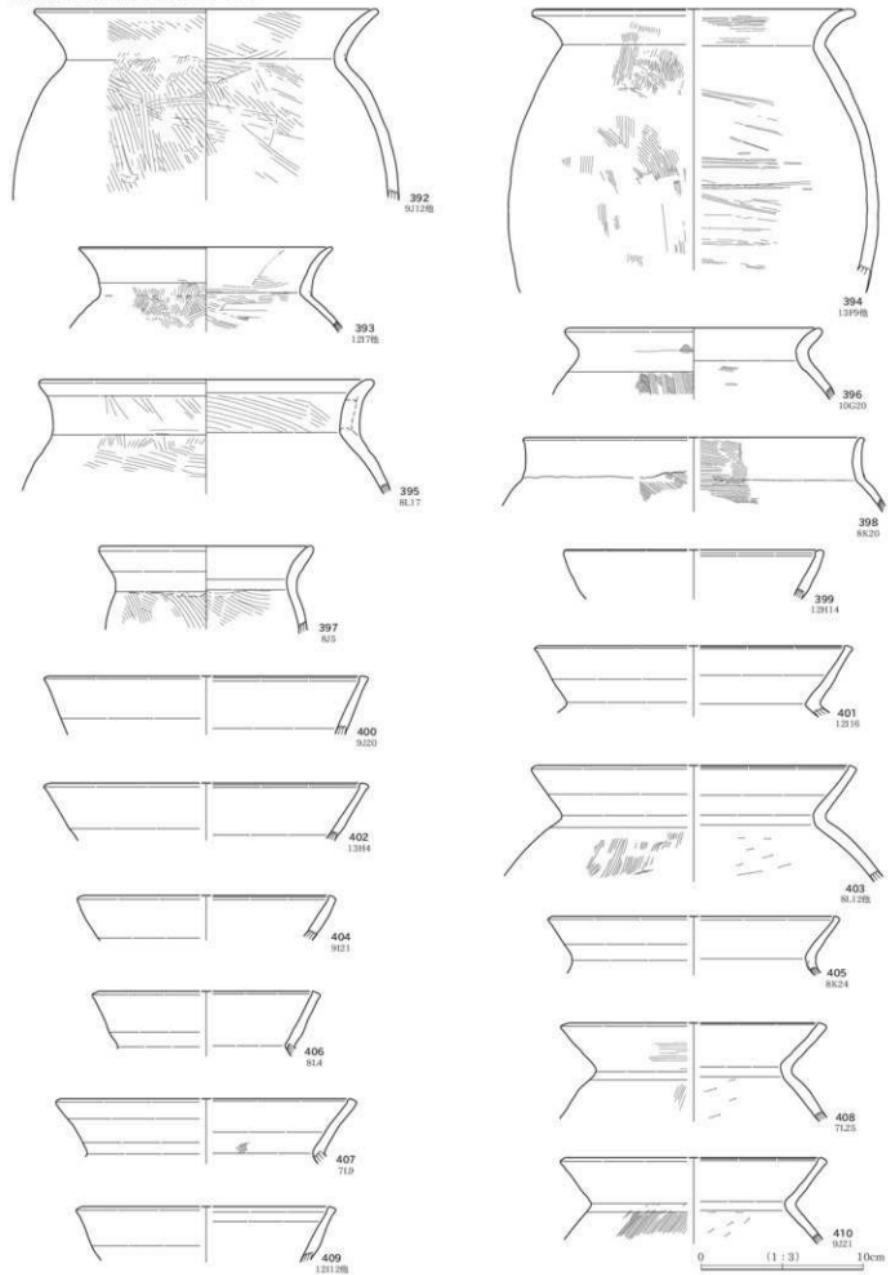
包含層出土土器 古墳時代(351~375)



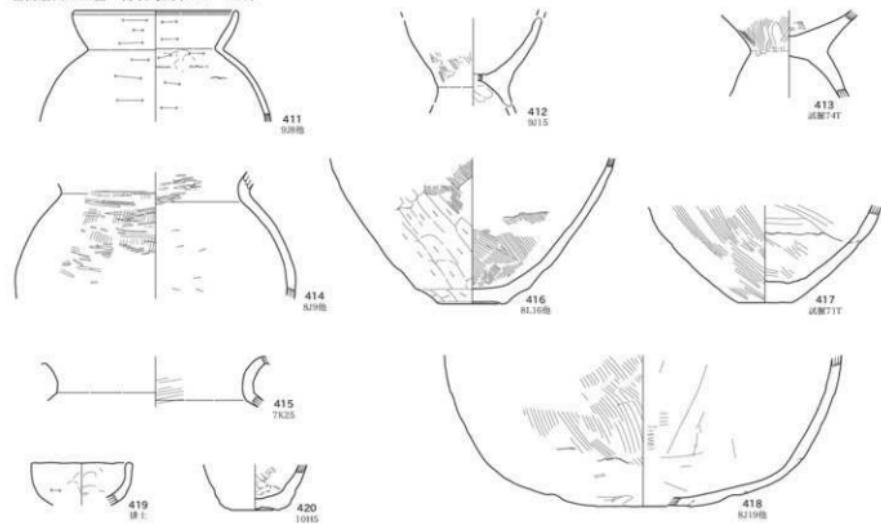
包含層出土土器 古墳時代（376～391）



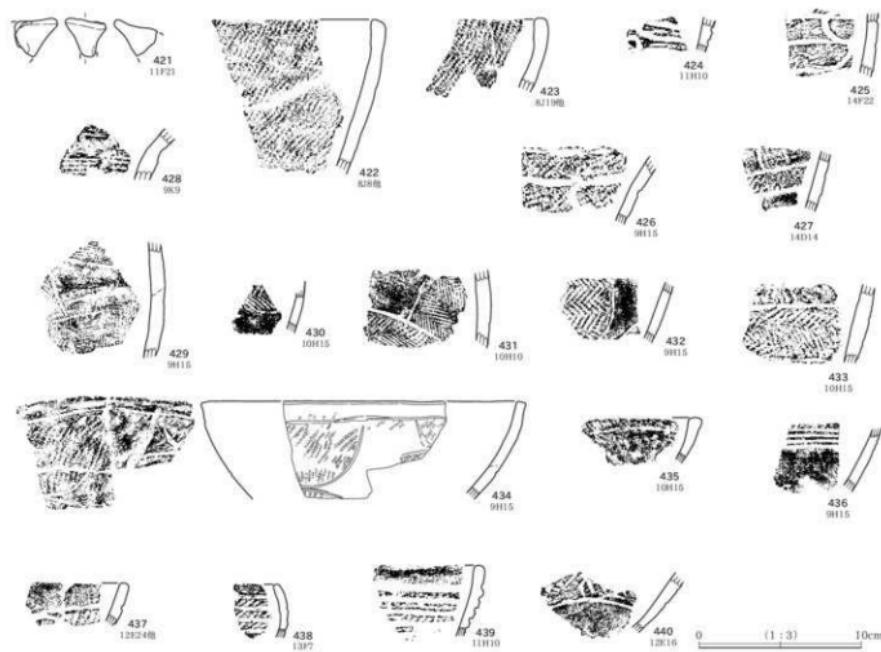
包含層出土土器 古墳時代(392~410)



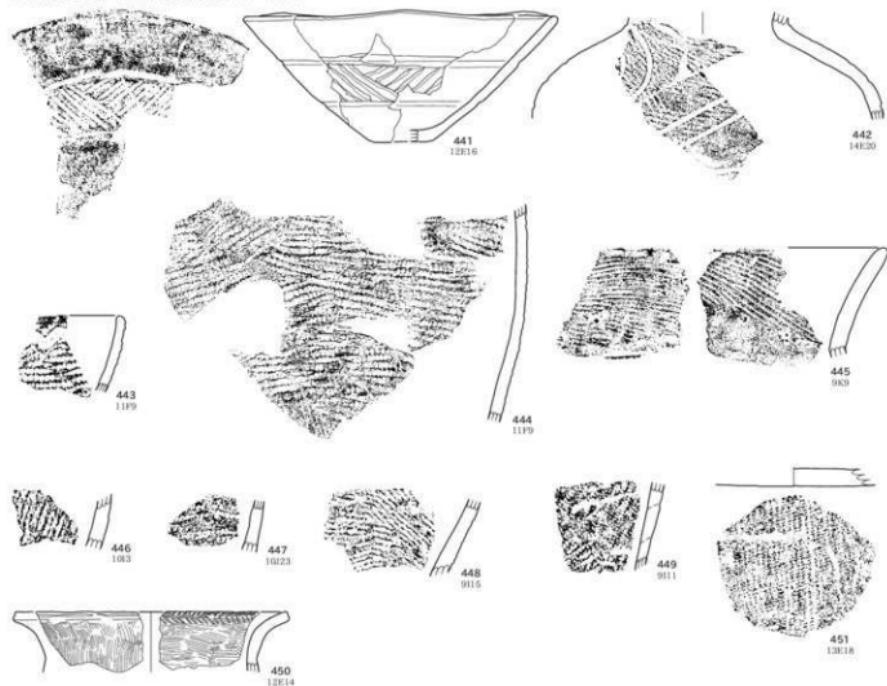
包含層出土土器 古墳時代(411~420)



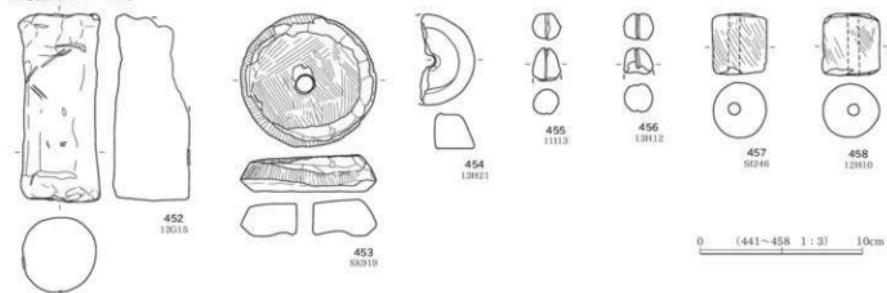
包含層出土土器 純文・弥生時代(421~440)



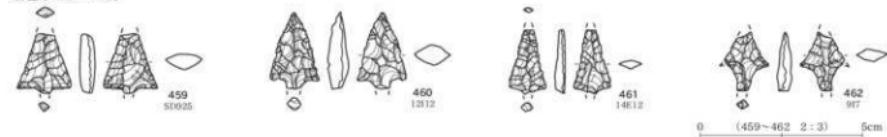
包含層出土土器 縄文・弥生時代(441~451)



土製品(452~458)



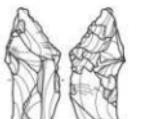
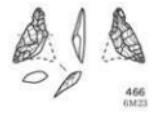
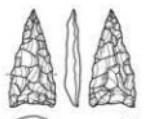
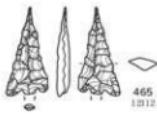
石器(459~462)



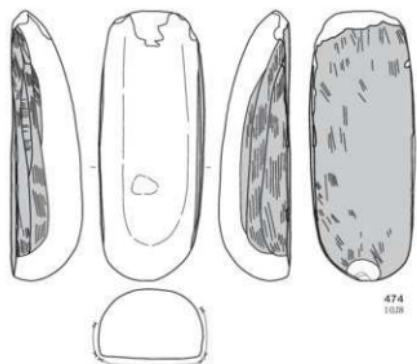
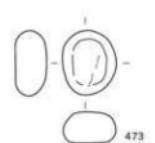
石器(463~468)



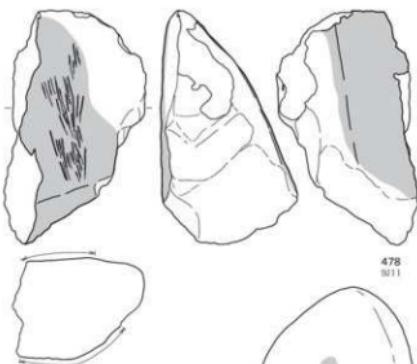
0 (463~473 2:3) 5cm



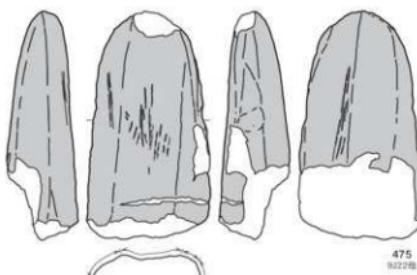
石制品(469~479)



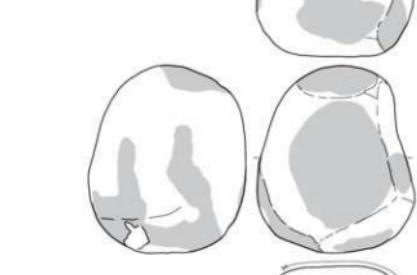
474
10.8



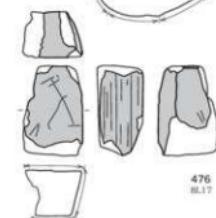
478
10.11



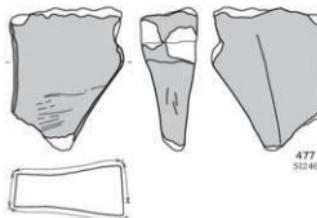
475
9.22



479
8.22



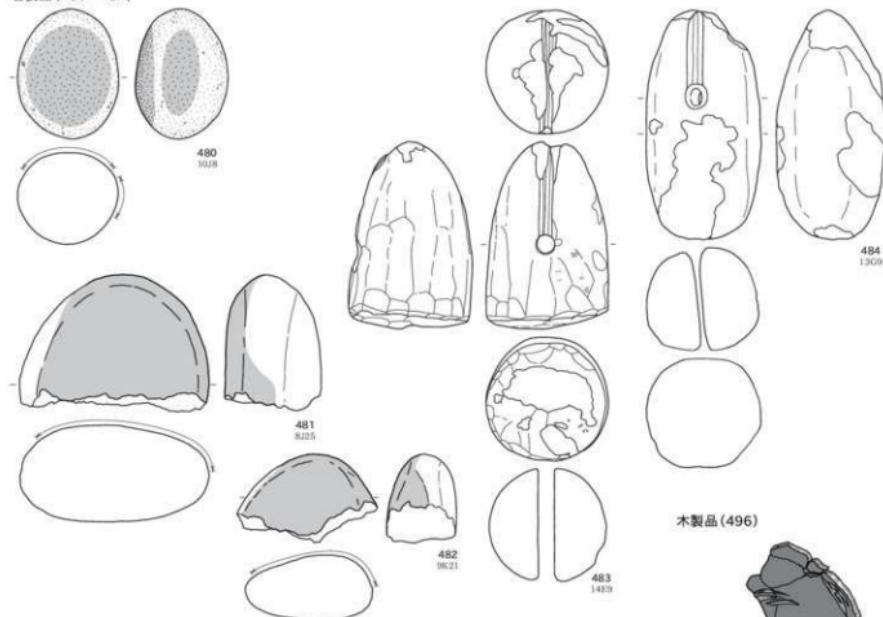
476
8.17



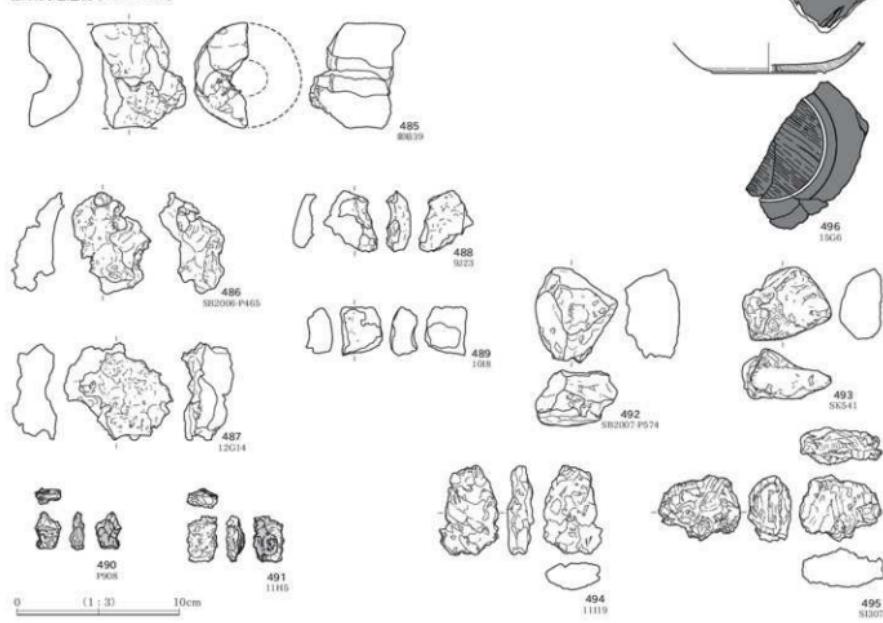
477
8.24

0 (474~479 1:3) 10cm

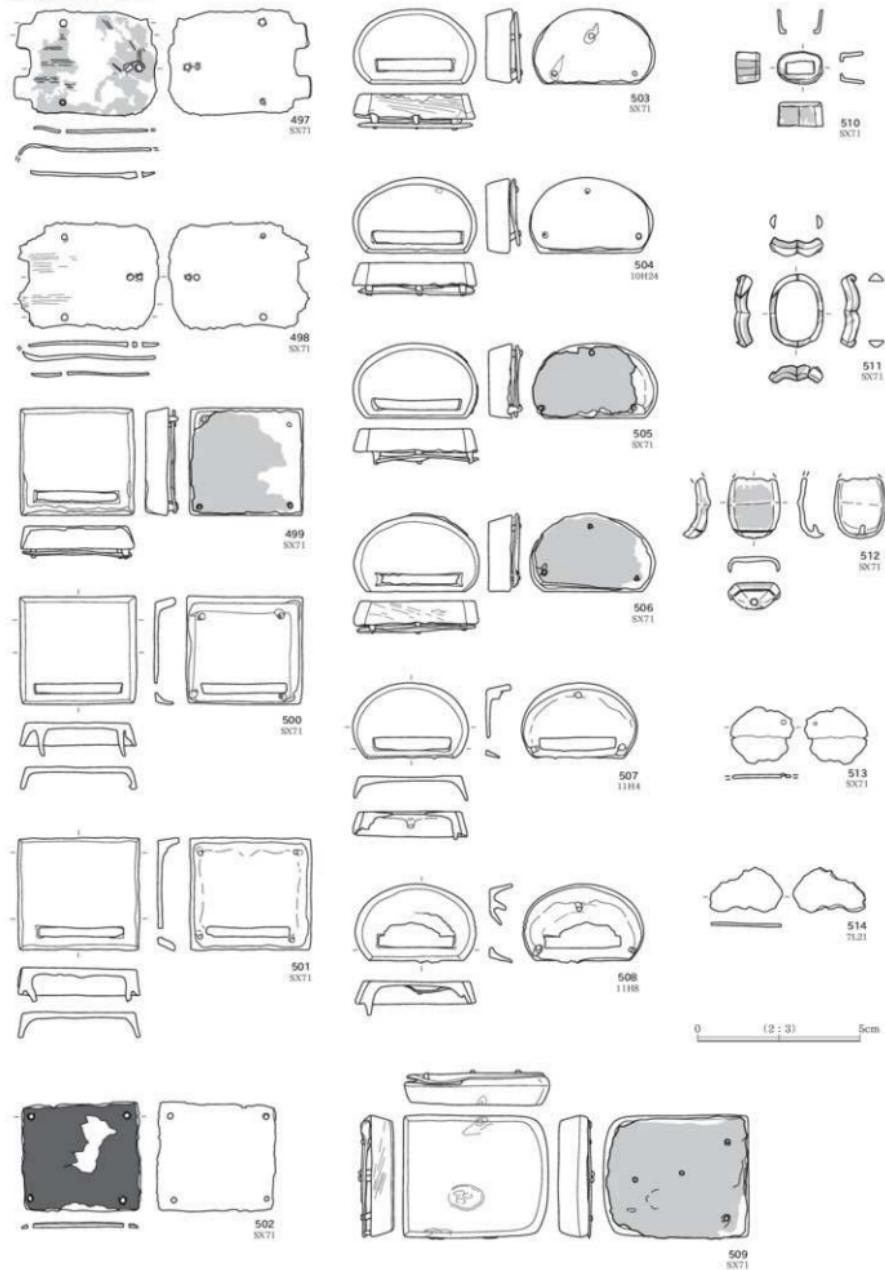
石製品(480~484)



鍛冶関連遺物(485~495)



金属製品(497~514)





四十石遺跡周辺空中写真 1 米軍撮影 1948 年



四十石遺跡周辺空中写真 2（北東から）



四十石遺跡周辺空中写真 3（南から）



調査区全景（南から）



上層遺構 検出状況（北西から）



SI246 完掘状況（北西から）



SI307 完掘状況（西から）



SB2004・SB2005 完掘状況（北北東から）



SB2006 完掘状況（北北東から）



SX71 完掘状況（北から）



SX71 出土遺物



SB2001 完掘状況（北東から）



下層遺構 空中写真（南西から）



下層遺構 完掘状況 1（北東から）



下層遺構 完掘状況 2（南西から）



基本層序調査区南壁（東から）



基本層序 A（北西から）



基本層序 B（南西から）



基本層序 C（南東から）



基本層序 D（北東から）



基本層序 E（北東から）



基本層序 F（北東から）



基本層序 G（西から）



SI246 プラン検出状況（南東から）



SI246 完掘状況（北西から）



SI246 土層断面 C-C'（北東から）



SI246 土層断面 D-D'（北西から）



SI246 カマド 土層断面 B-B'（北西から）



SI246 カマド 土層断面 A-A'（南西から）



SI246-P499 土層断面（北東から）



SI246-P499 完掘状況（北東から）



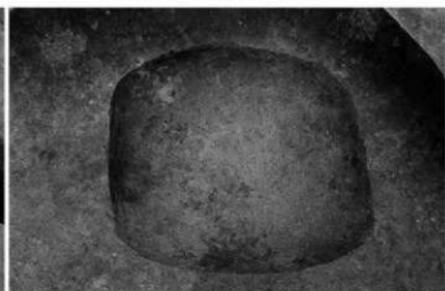
SI246-P548 土層断面（北東から）



SI246-P548 完掘状況（北東から）



SI246-SK561 土層断面（南から）



SI246-SK561 完掘状況（南から）



SI307・SB2002・SB2003 完掘状況（西から）



SI307 土層断面 D-D'（東から）



SI307 土層断面 C-C'（北から）



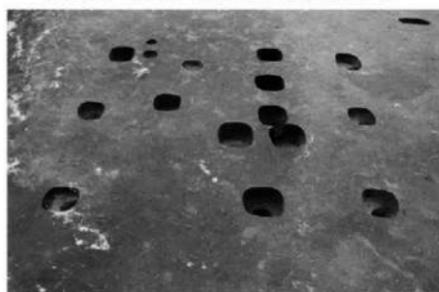
SI307-P828 土層断面（北西から）



SI307 カマド A-A' 周辺遺物出土状況（南西から）



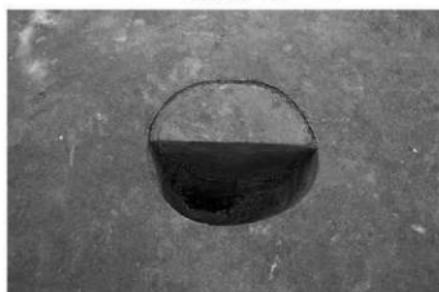
SI307 カマド A-A'（南西から）



SB2001 完掘状況（北東から）



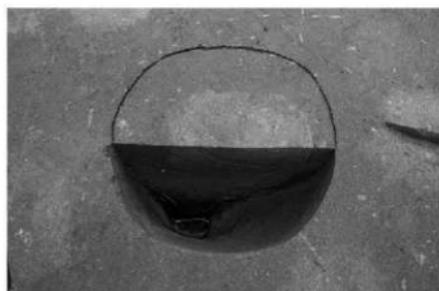
SB2001-P43 土層断面（北西から）



SB2001-P44 土層断面（北西から）



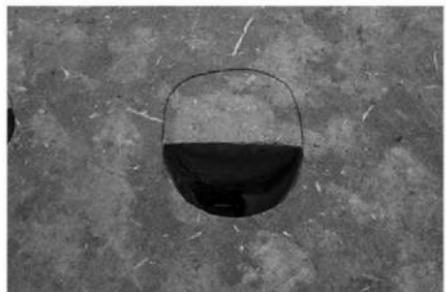
SB2001-P46 土層断面（北西から）



SB2001-P49 土層断面（北西から）



SB2001-P50 土層断面（北西から）



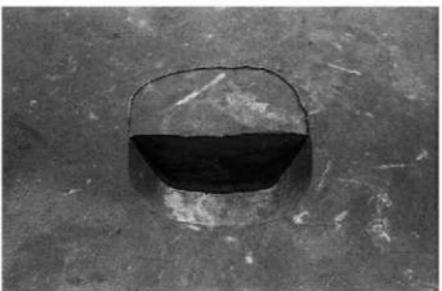
SB2001-P52 土層断面（北西から）



SB2001-P53 土層断面（北西から）



SB2001-P54 土層断面（北西から）



SB2001-P57 土層断面（北西から）



SB2002 完掘状況（北東から）



SB2002-P98 土層断面（北西から）



SB2002-P122 土層断面（北東から）



SB2002-P147 土層断面（北東から）



SB2002-P155 土層断面（北東から）



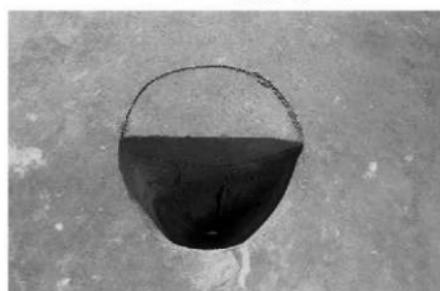
SB2002-P245 土層断面（南西から）



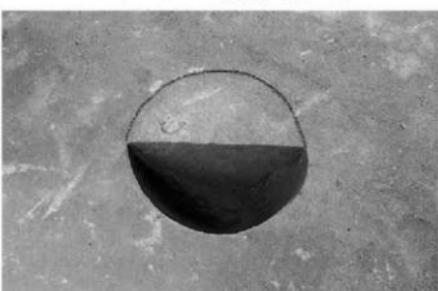
SB2002-P301 土層断面（北から）



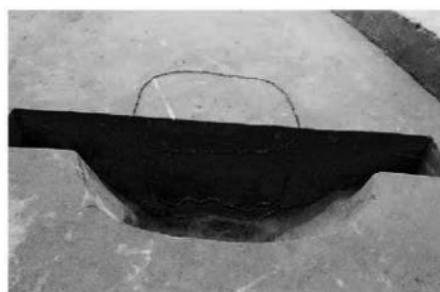
SB2002-P529 土層断面（南東から）



SB2002-P921 土層断面（北から）



SB2002-P922 土層断面（北から）



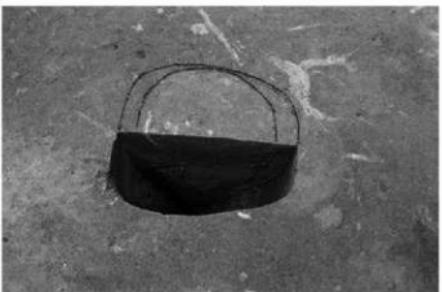
SB2003-P99 土層断面（北西から）



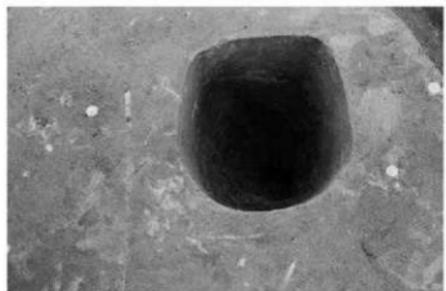
SB2003-P113 土層断面（南東から）



SB2003-P119 土層断面（南東から）



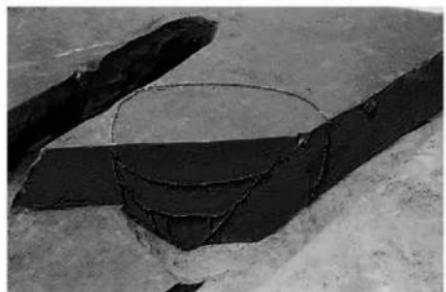
SB2003-P123 土層断面（南東から）



SB2003-P128 完掘状況（南東から）



SB2003-P130 土層断面（南東から）



SB2003-P310 土層断面（南東から）



SB2003-P524 土層断面（北から）



SB2004・SB2005・SB2006 完掘状況（東から）



SB2005・SB2006 完掘状況（北から）



SB2004-P309 土層断面（北東から）



SB2005-P834 土層断面（北から）



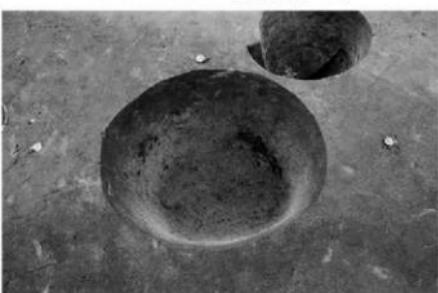
SB2005-P835 土層断面（北から）



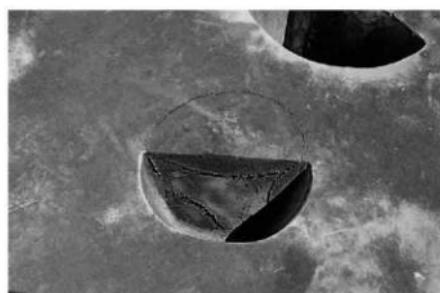
SB2006-P833 土層断面（北から）



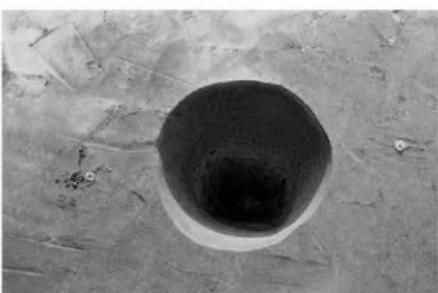
SB2007-P574 土層断面（北西から）



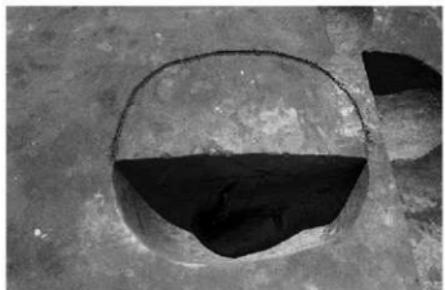
SB2007-P574 完掘状況（北西から）



SB2007-P583 土層断面（西から）



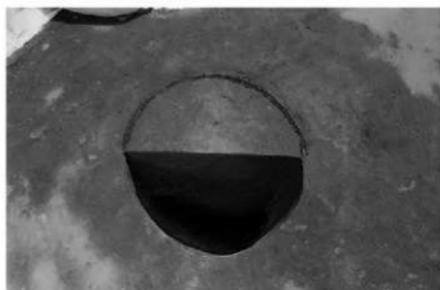
SB2007-P583 完掘状況（西から）



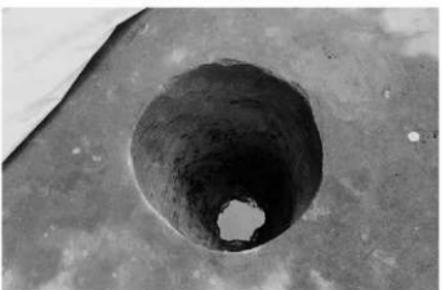
SB2007-P651 土層断面（北東から）



SB2007-P651 完掘状況（北東から）



SB2007-P652 土層断面（北から）



SB2007-P652 完掘状況（北から）



SB2008-P95 土層断面（東から）



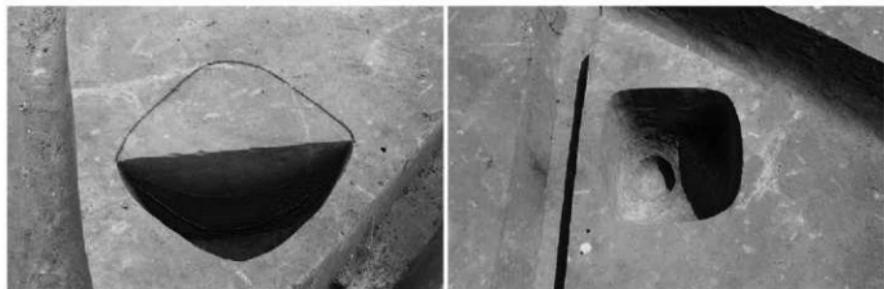
SB2008-P95 完掘状況（東から）



SB2008-P96 土層断面（北から）

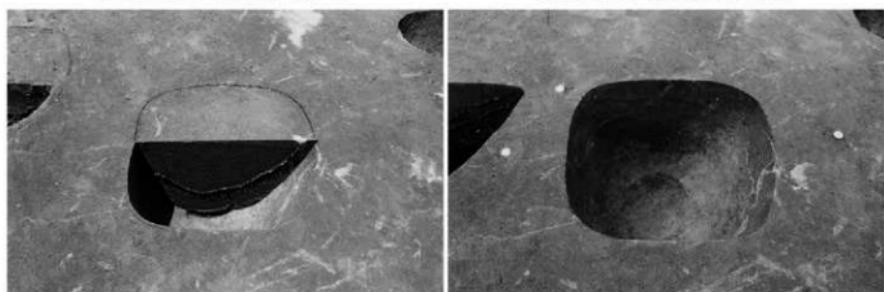


SB2008-P96 完掘状況（北から）



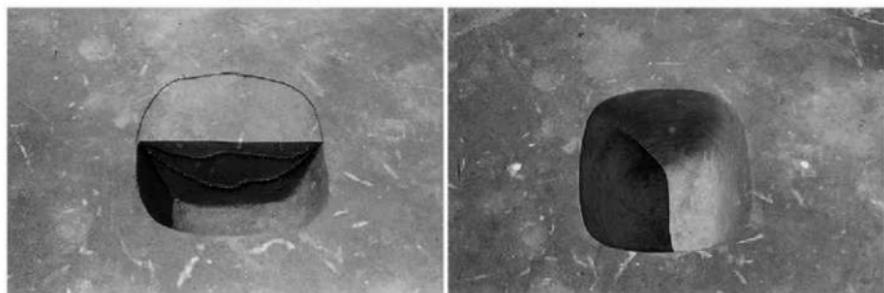
SB2009-P163 土層断面（北から）

SB2009-P163 完掘状況（南西から）



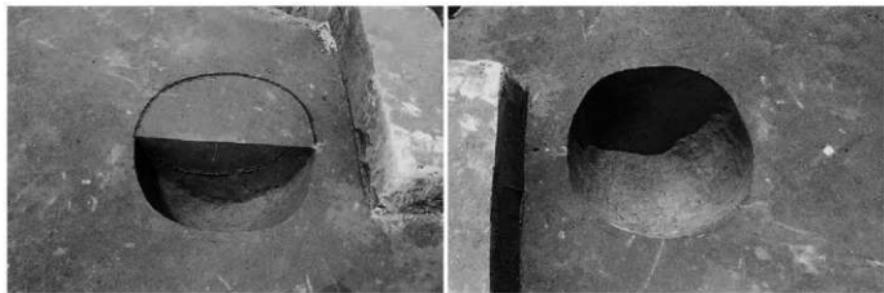
SB2009-P202 土層断面（北東から）

SB2009-P202 完掘状況（北東から）



SB2009-P232 土層断面（北東から）

SB2009-P232 完掘状況（北東から）



SB2009-P323 土層断面（南東から）

SB2009-P323 完掘状況（北西から）



SB2009-P392 土層断面（北東から）



SB2009-P392 完掘状況（北東から）



SB2009-P528 土層断面（南から）



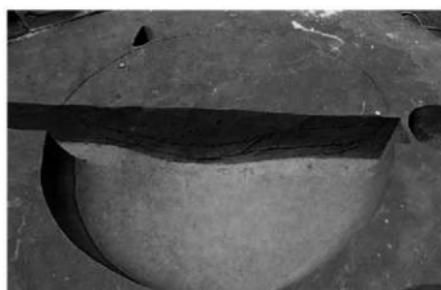
SB2009-P528 完掘状況（南から）



SK203 土層断面（北西から）



SK203 完掘状況（南東から）



SK336 土層断面（南から）



SK336 完掘状況（南から）



SK399 土層断面（東から）



SK399 完掘状況（東から）



SK441 土層断面（北西から）



SK441 完掘状況（北西から）



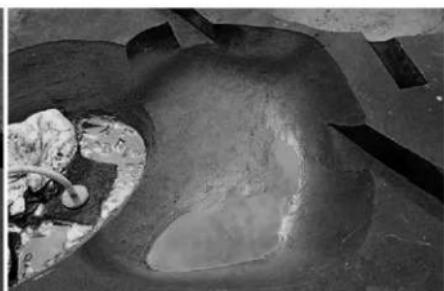
SK481 土層断面（北西から）



SK481 完掘状況（北西から）



SK564 土層断面（北西から）



SK564 完掘状況（北西から）



SK596・SK597 土層断面（東から）



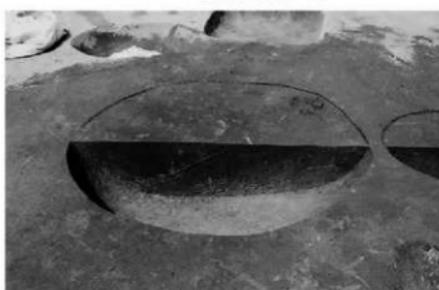
SK596・SK597 完掘状況（東から）



SK641 土層断面（北西から）



SK641 完掘状況（東から）



SK650 土層断面（南東から）



SK650 完掘状況（南東から）



SK815 土層断面（北東から）



SK815 完掘状況（北東から）



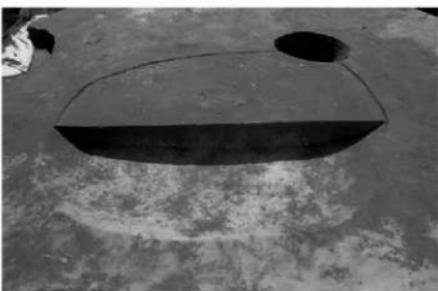
SK825 土層断面 B-B' (南から)



SK825 土層断面 A-A' (北から)



SK825 完掘状況 (南から)



SK919 土層断面 (北から)



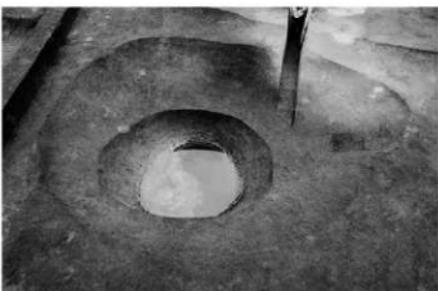
SK912 土層断面 (西から)



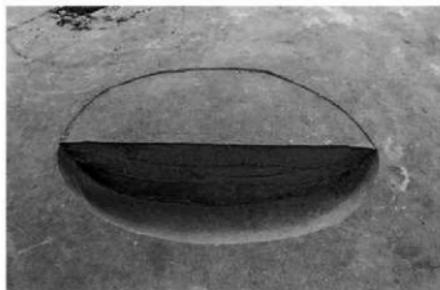
SK912 完掘状況 (西から)



SK923 土層断面 (北西から)



SK923 完掘状況 (北西から)



SK935 土層断面（上方）（東から）



SK935 完掘状況（東から）



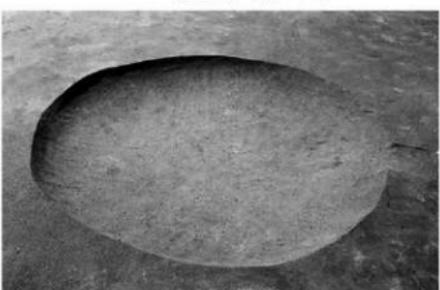
SK939 土層断面（北東から）



SK939 完掘状況（北東から）



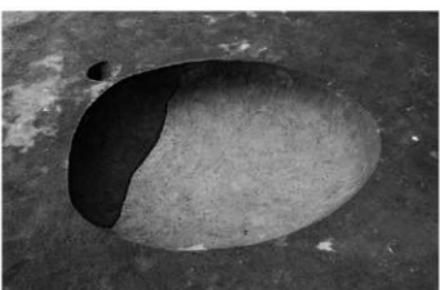
SK947 土層断面（北東から）



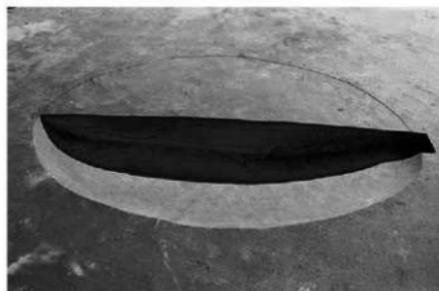
SK947 完掘状況（北東から）



SK948 土層断面（北東から）



SK948 完掘状況（北東から）



SK950 土層断面（北から）



SK950 完掘状況（北から）



SK1006 土層断面（西から）



SK1006 完掘状況（西から）



SK1023 土層断面（北東から）



SK1023 完掘状況（西から）



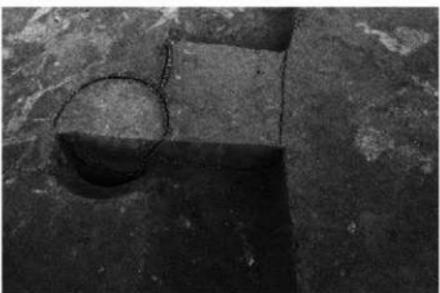
SD61・SD62・SD63・SD70・SD106 完掘状況（北西から）



SD61・P65 土層断面 D-D'（北西から）



SD62 土層断面 C-C' (北西から)



SD63・P81 土層断面 E-E' (北西から)



SD70 土層断面 A-A' (南西から)



SD106 土層断面 B-B' (南東から)



SD64 土層断面 (北から)



SD64 完掘状況 (北から)



SD493 土層断面 A-A' (東から)



SD493 土層断面 B-B' (東から)



SD493 完掘状況（東から）



SD1009 完掘状況（西から）



SD538 土層断面（北から）



SD538 完掘状況（北から）



SD539 土層断面（北東から）



SD539 完掘状況（北東から）



SD747 土層断面（西から）



SD747 完掘状況（西から）



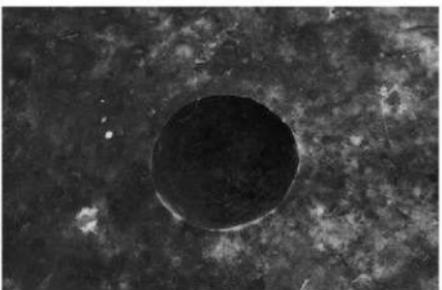
SD962 土層断面（西から）



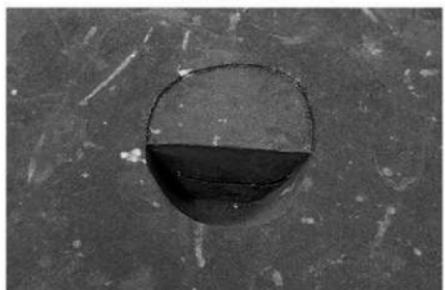
SD962 完掘状況（西から）



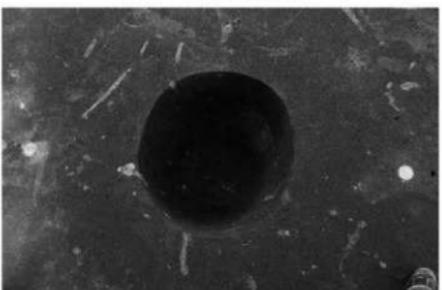
SA3001 完掘状況（北東から）



SA3001-P388 完掘状況（北から）



SA3001-P516 土層断面（北から）



SA3001-P516 完掘状況（北から）



SX59 土層断面（南から）



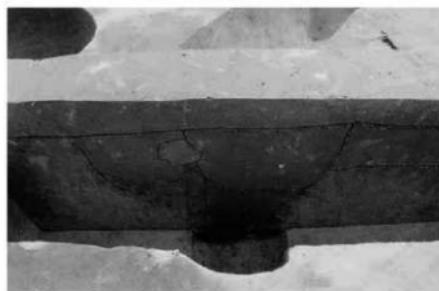
SX59 完掘状況（南から）



SX71 完掘状況（東から）



SX71 土層断面 A-A'（南東から）



SX71・P643 土層断面 B-B'（北東から）



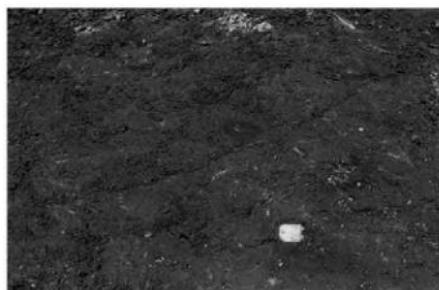
SX71 土層断面 C-C'（南東から）



SX71 土層断面 D-D'（北東から）



SX71 遺物出土状況（北から）



SX71 遺物出土状況（北から）



SX71 遺物出土状況（南東から）



SX100 土層断面（南西から）



SX100 遺物出土状況（南西から）



SX478 土層断面（南西から）



SX478 完掘状況（南西から）



SX541・P560 土層断面（南西から）



SX541・P560 完掘状況（南西から）



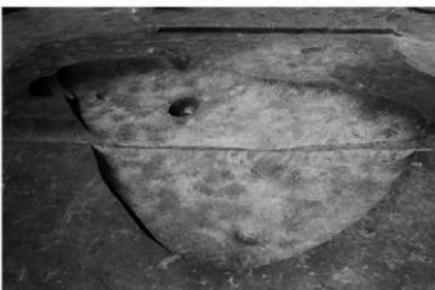
SX573 土層断面（南西から）



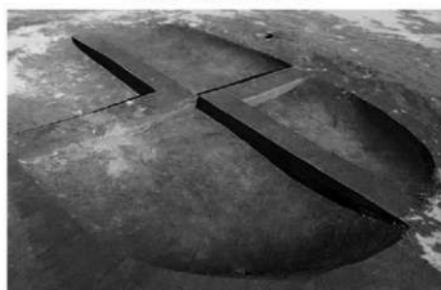
SX573 完掘状況（南西から）



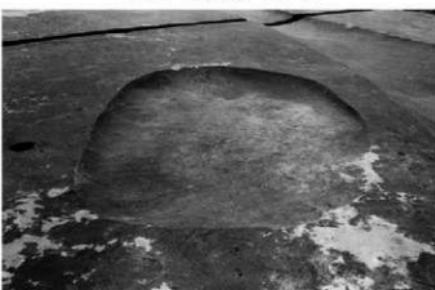
SX605 土層断面（南から）



SX605 完掘状況（南から）



SX867 土層断面（南から）



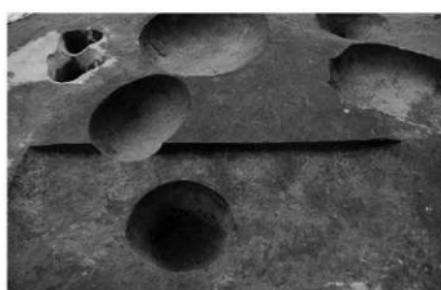
SX867 完掘状況（東から）



SX867 土層断面（北から）



SX867 完掘状況（東から）



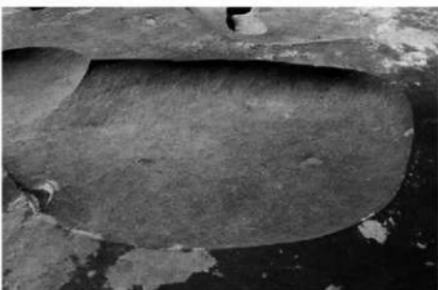
SX926 土層断面（北東から）



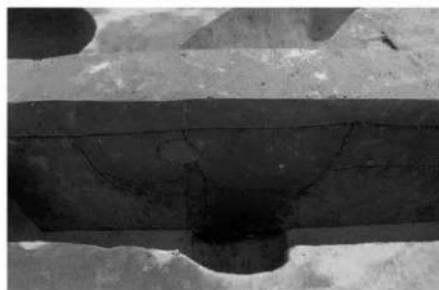
SX926 完掘状況（北東から）



SX961 土層断面（東から）



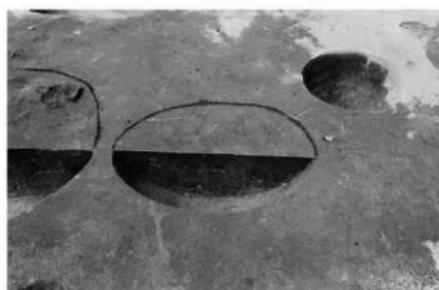
SX961 完掘状況（東から）



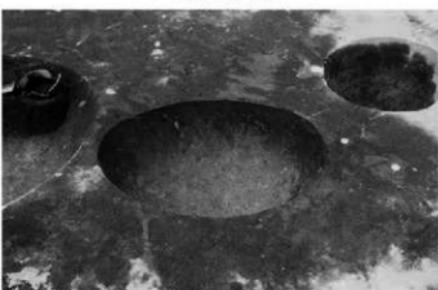
SX71・P643 土層断面 B-B'（北東から）



P643 完掘状況（北東から）



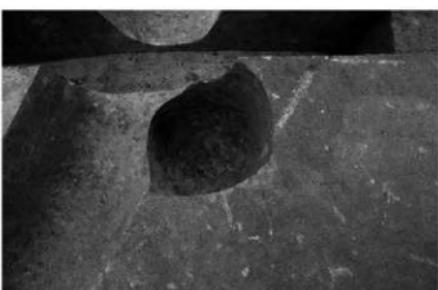
P826 土層断面（南東から）



P826 完掘状況（南東から）



P905 土層断面（南東から）



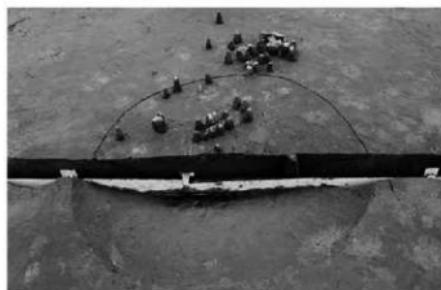
P905 完掘状況（南東から）



SK19 土層断面（南西から）



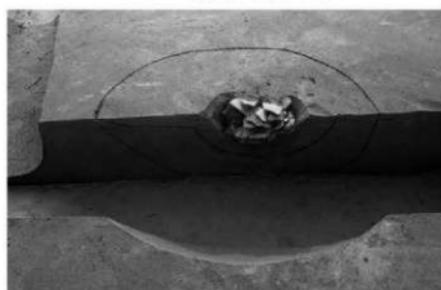
SK19 完掘状況（南西から）



SK20 土層断面（南西から）



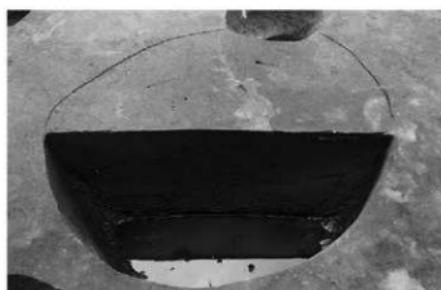
SK20 完掘状況（南西から）



SK689 土層断面（北東から）



SK689 完掘状況（北東から）



SK936 土層断面（北東から）



SK936 完掘状況（北東から）



SK942 土層断面 (北から)



SK942 完掘状況 (北から)



SD 全景 完掘状況 (北東から)



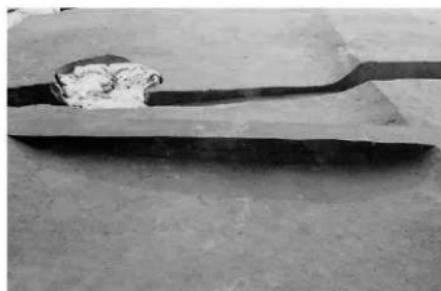
SD 全景 完掘状況 (北東から)



SD 全景 完掘状況 (北東から)



SD 全景 完掘状況 (南西から)



SD109 土層断面 A-A' (北東から)



SD109 土層断面 B-B' (北東から)



SD109 土層断面 C-C' (北東から)



SD109 土層断面 D-D' (北東から)



SD109 土層断面 E-E' (北東から)



SD109 土層断面 F-F' (北東から)



SD110 土層断面 A-A' (北東から)



SD110 土層断面 B-B' (北東から)



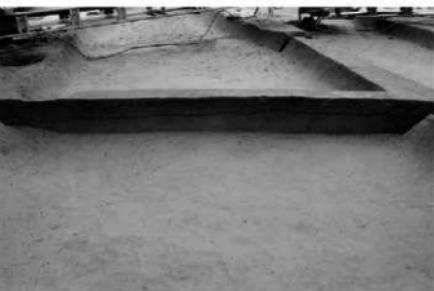
SD110 土層断面 C-C' (北東から)



SD110 土層断面 D-D' (北東から)



SD110 土層断面 E-E'（北東から）



SD110 土層断面 F-F'（北東から）



SD111 土層断面 B-B'（北東から）



SD111 完掘状況（北東から）



SD868 土層断面 A-A'（北東から）



SD871 完掘状況（西から）



SD871 土層断面 A-A'（北から）

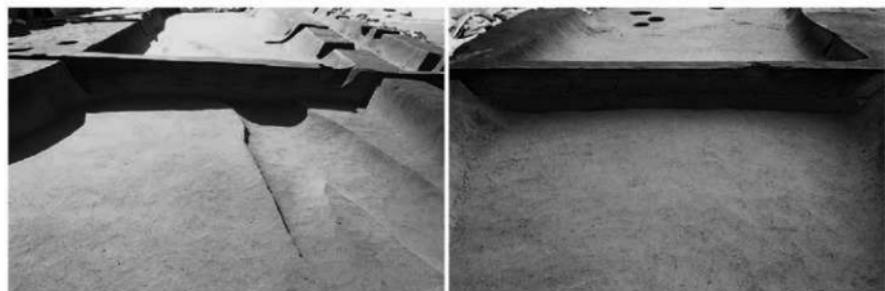


SD871 土層断面 B-B'（北から）



SD925 土層断面 A-A' (北東から)

SD925 土層断面 B-B' (北東から)



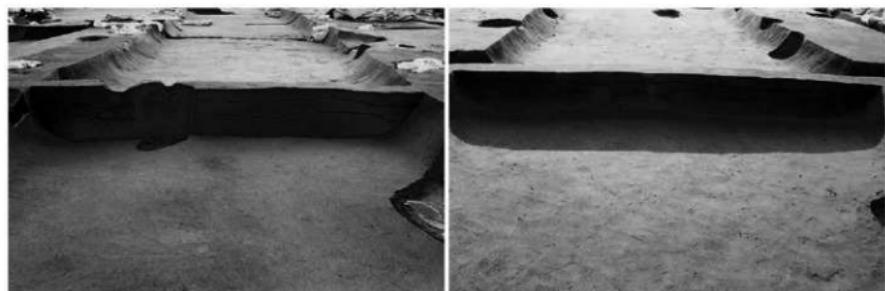
SD925 土層断面 C-C' (北東から)

SD925 土層断面 D-D' (北東から)



SD984 土層断面 A-A' (北東から)

SD984 土層断面 B-B' (北東から)



SD984 土層断面 C-C' (北東から)

SD984 土層断面 D-D' (北東から)



SD984 土層断面 E-E' (北東から)



SD1000 土層断面 A-A' (北東から)



SD1021 土層断面 A-A' (北東から)



SD1021 土層断面 B-B' (南西から)



SD1021 土層断面 C-C' (北東から)



SD1021 土層断面 D-D' (北東から)



SD1051 土層断面 (北から)



SD1052 土層断面 (北から)



SX97 遺物出土状況（南西から）



SX97 遺物出土状況（北東から）



SX870 土層断面（北東から）



SX870 完掘状況（北東から）



SX953 · P977 土層断面（北東から）



SX953 · P977 完掘状況（北東から）



SX960 土層断面（北東から）



SX960 完掘状況（北東から）



調査の経過 1 2009.2.13 (北東から)



調査の経過 2 2009.3.10 (北東から)



調査の経過 3 2009.5.13 (北東から)



調査の経過 4 2009.6.23 (北東から)



調査の経過 5 2009.9.2 (北東から)



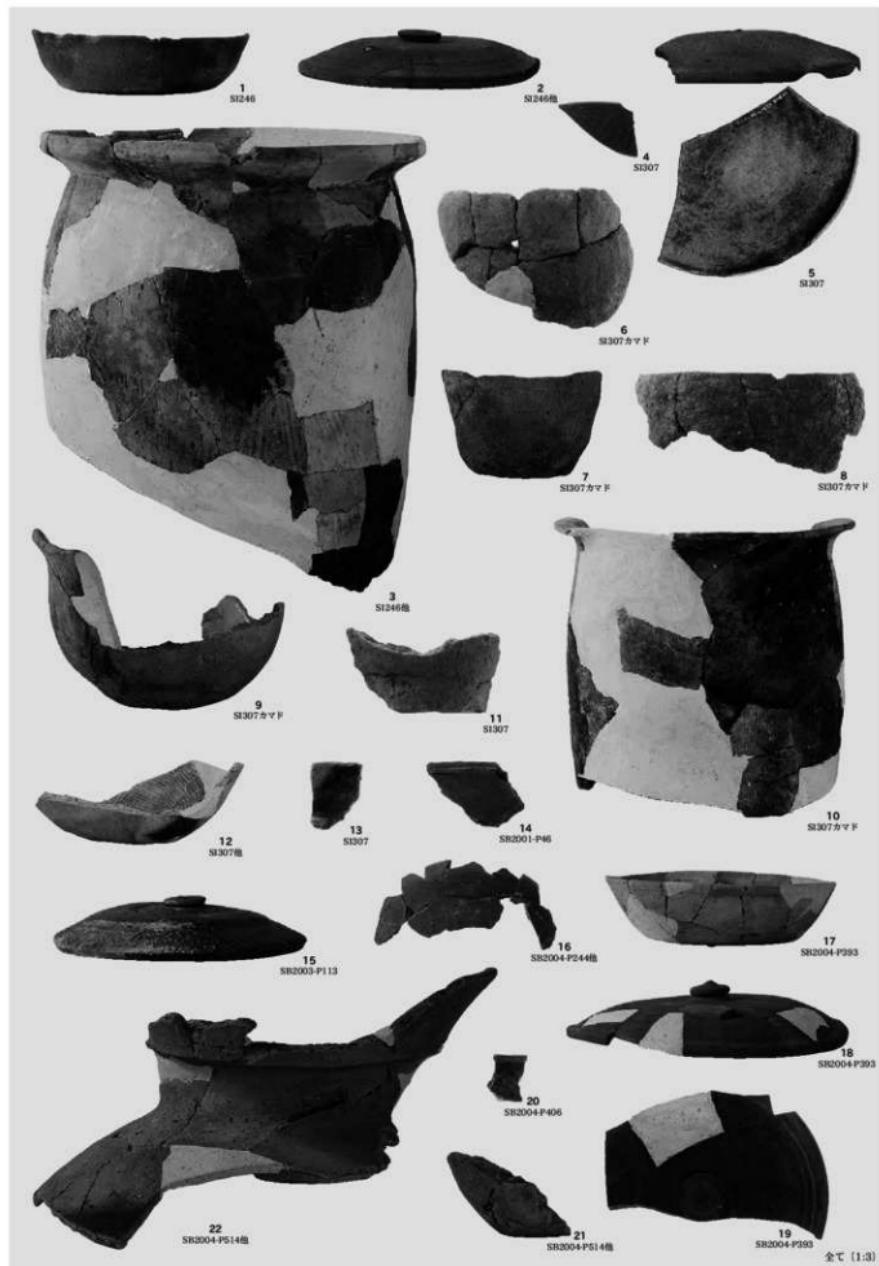
調査の経過 6 2009.12.2 (北東から)



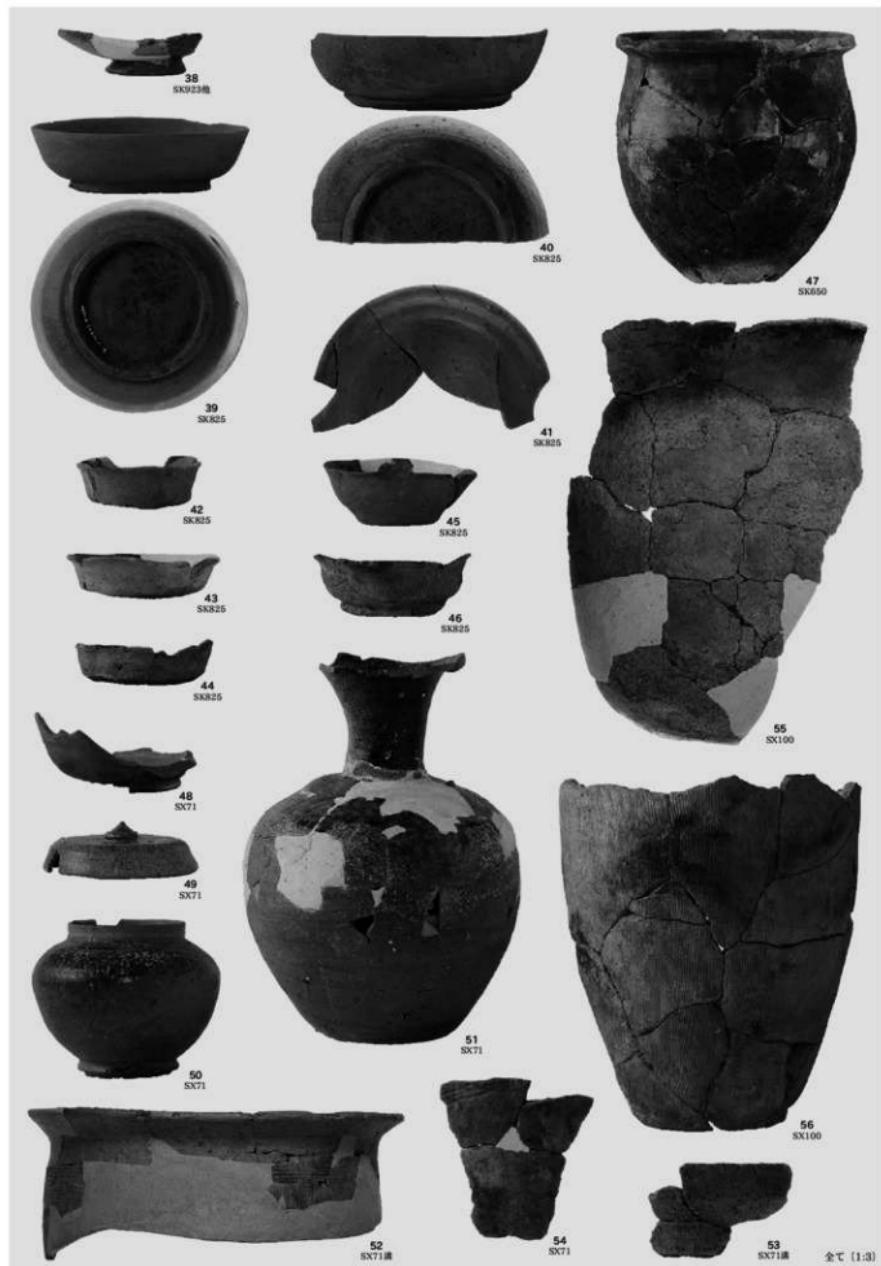
調査の経過 7 2009.12.8 (北東から)

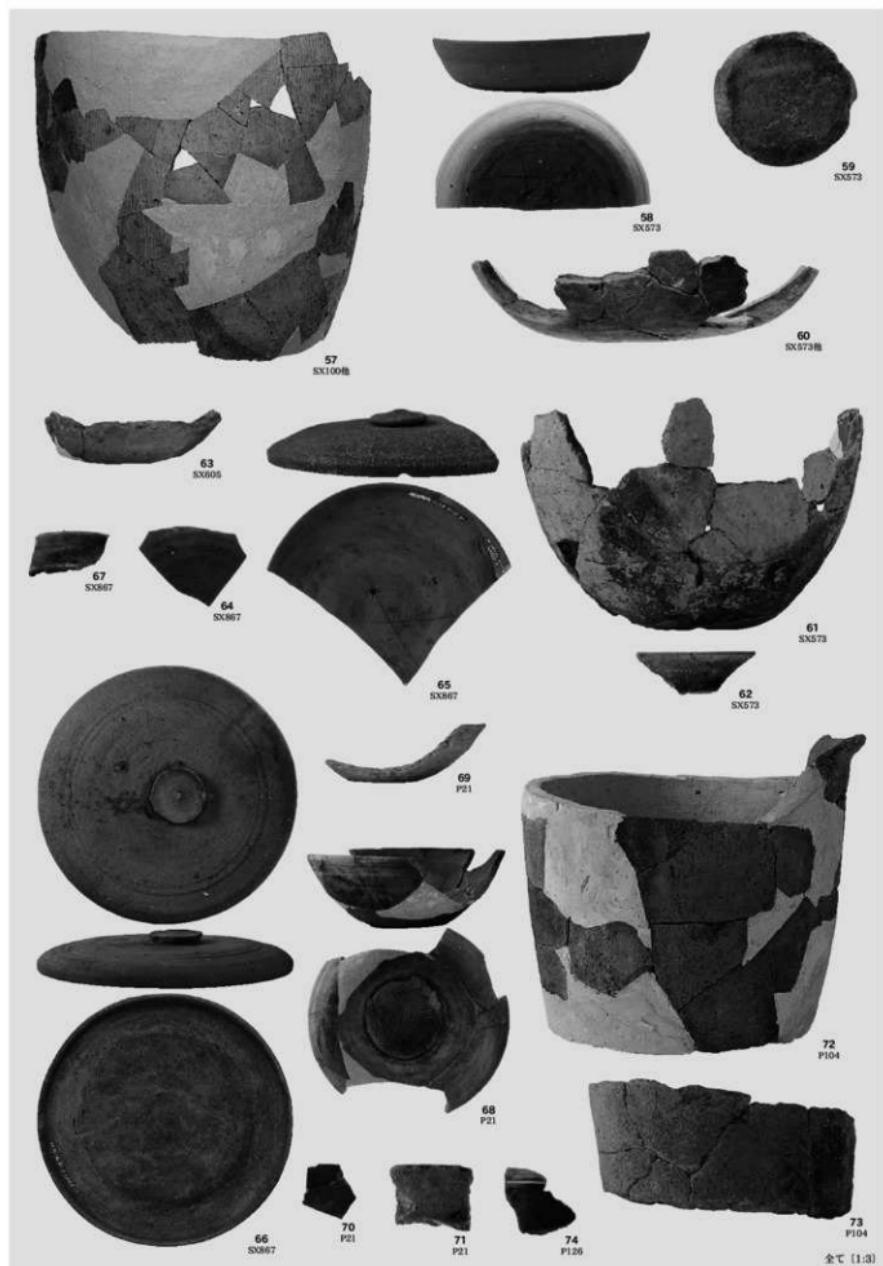


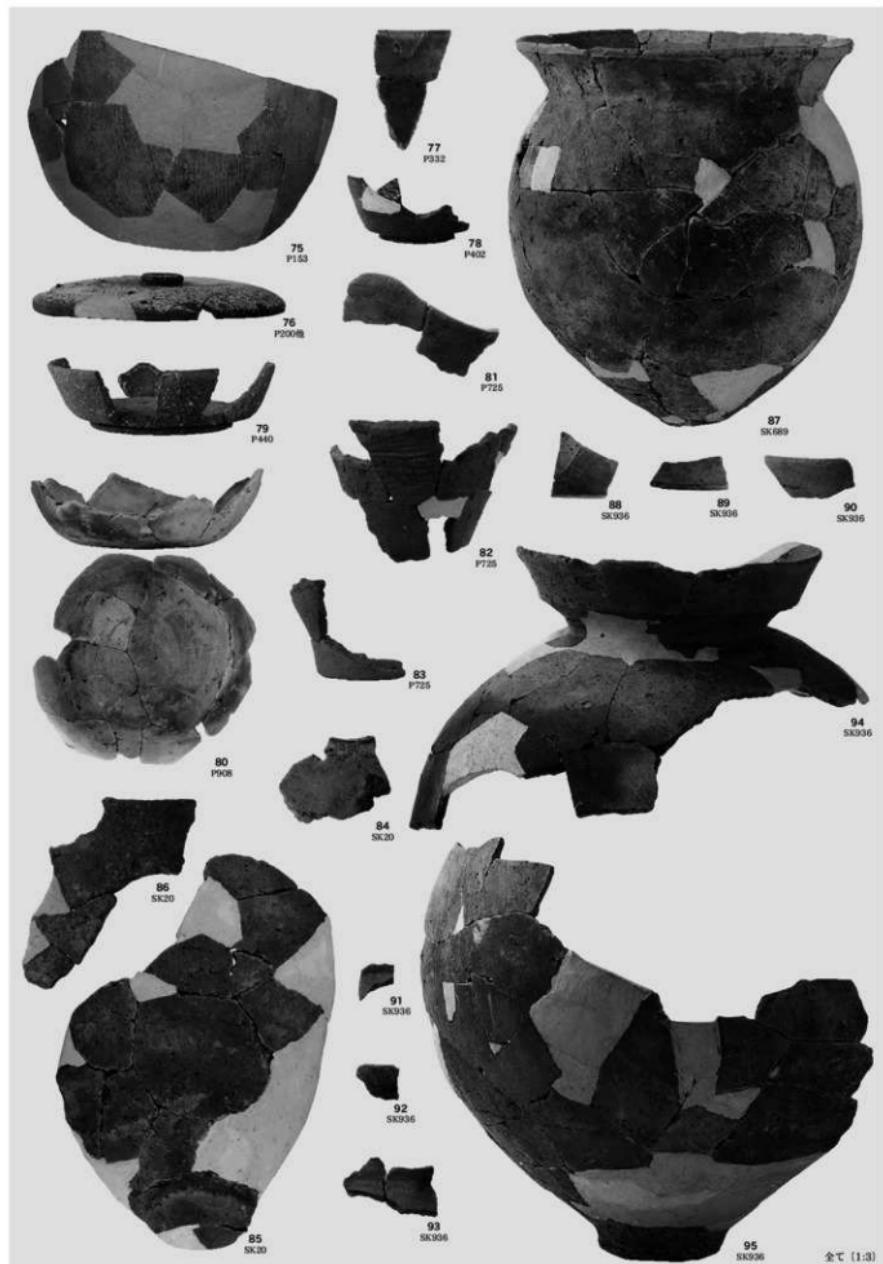
調査の経過 8 2010.2.16 (北東から)

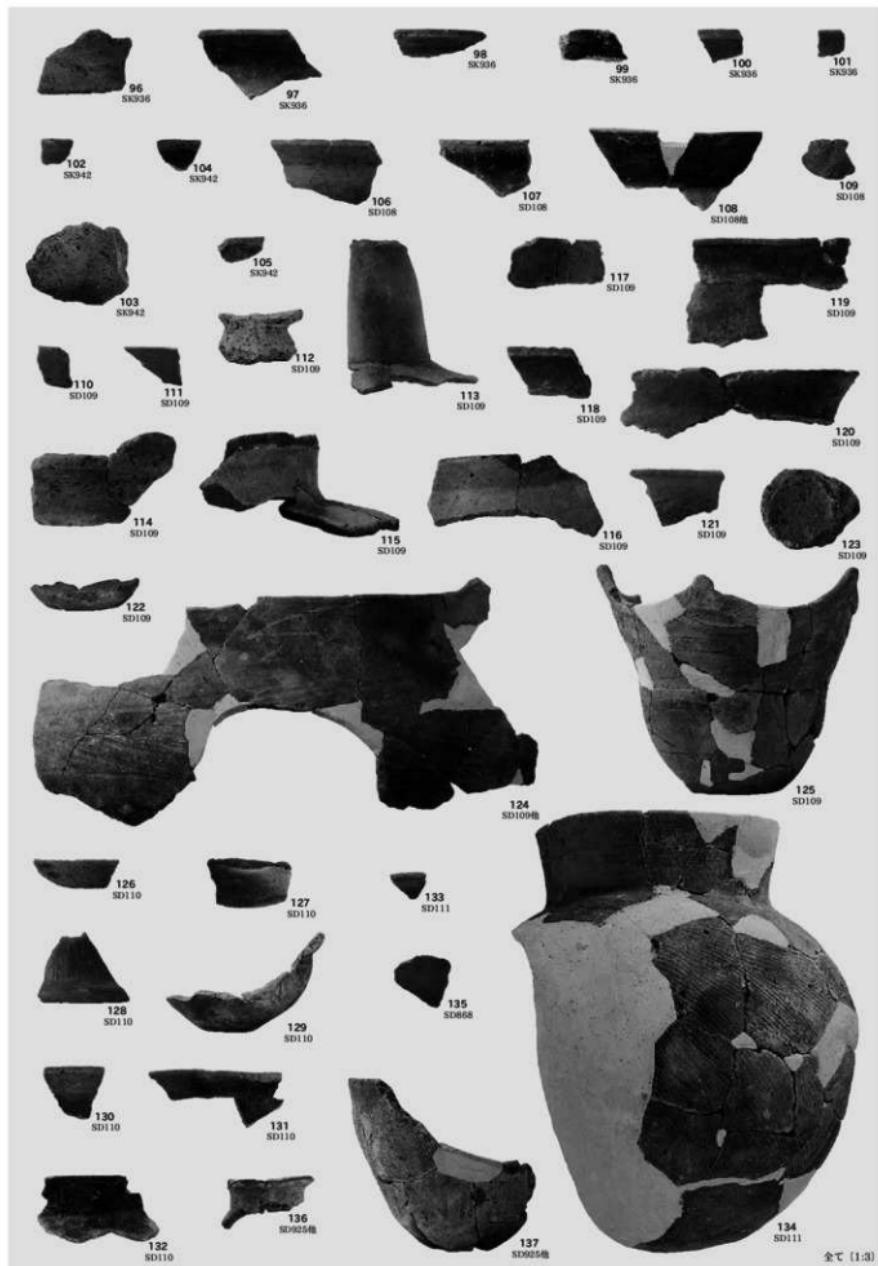


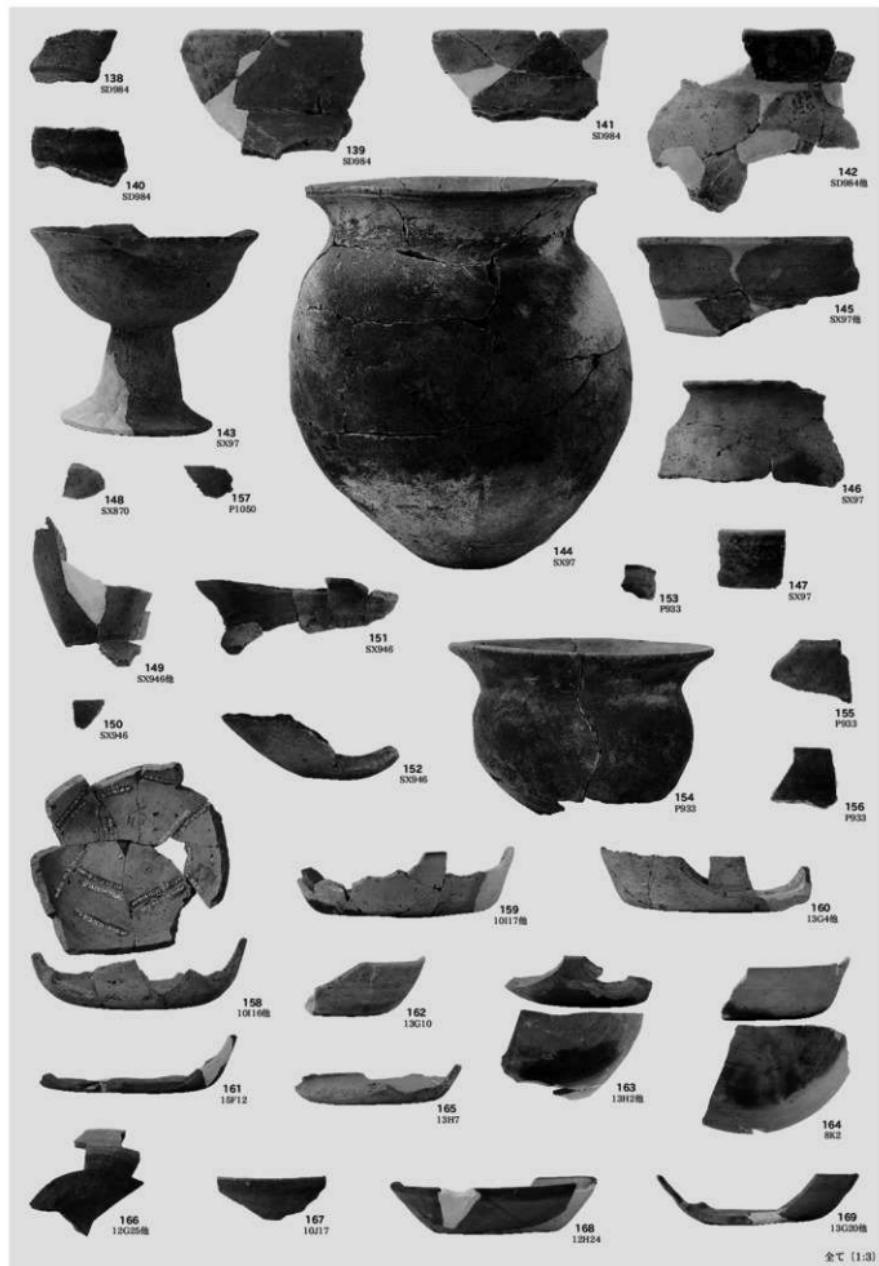








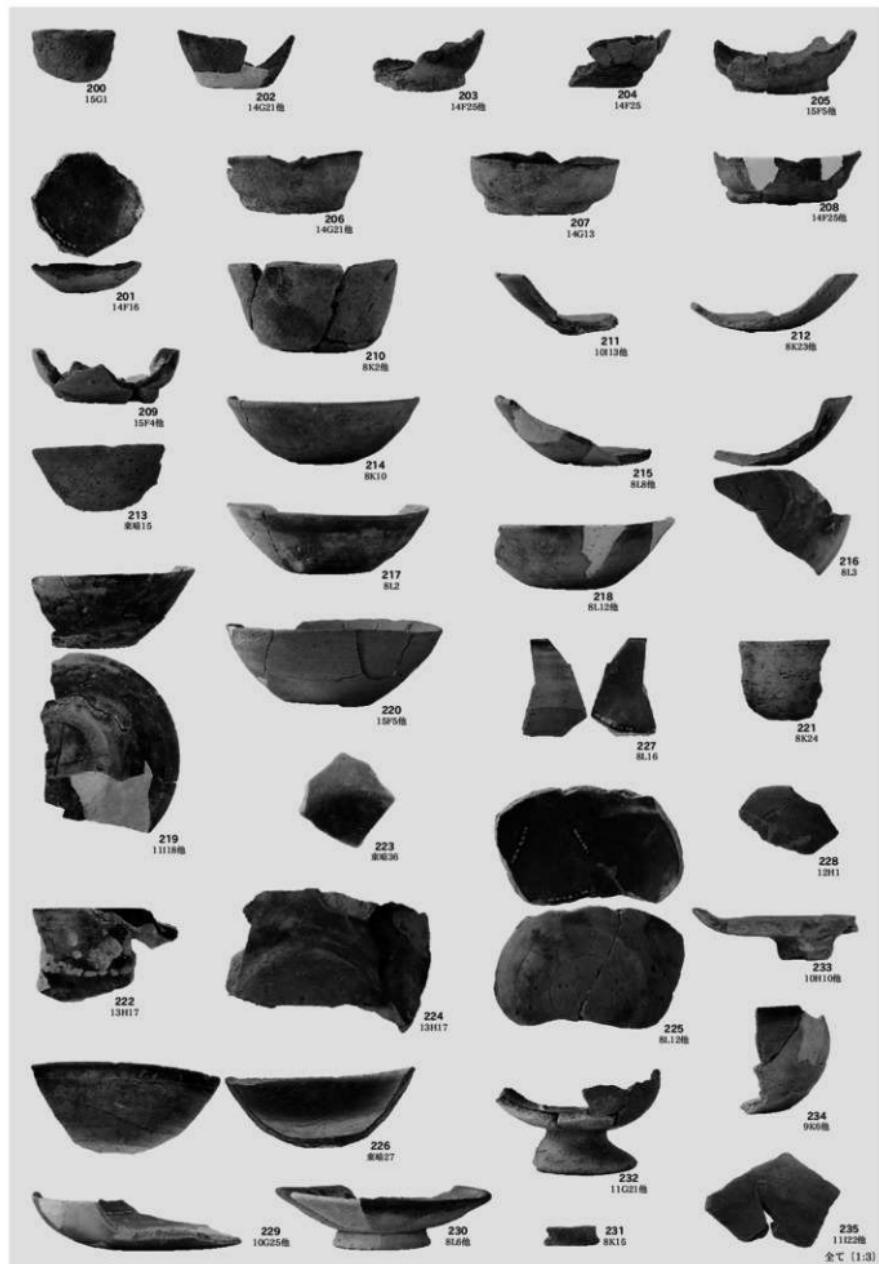


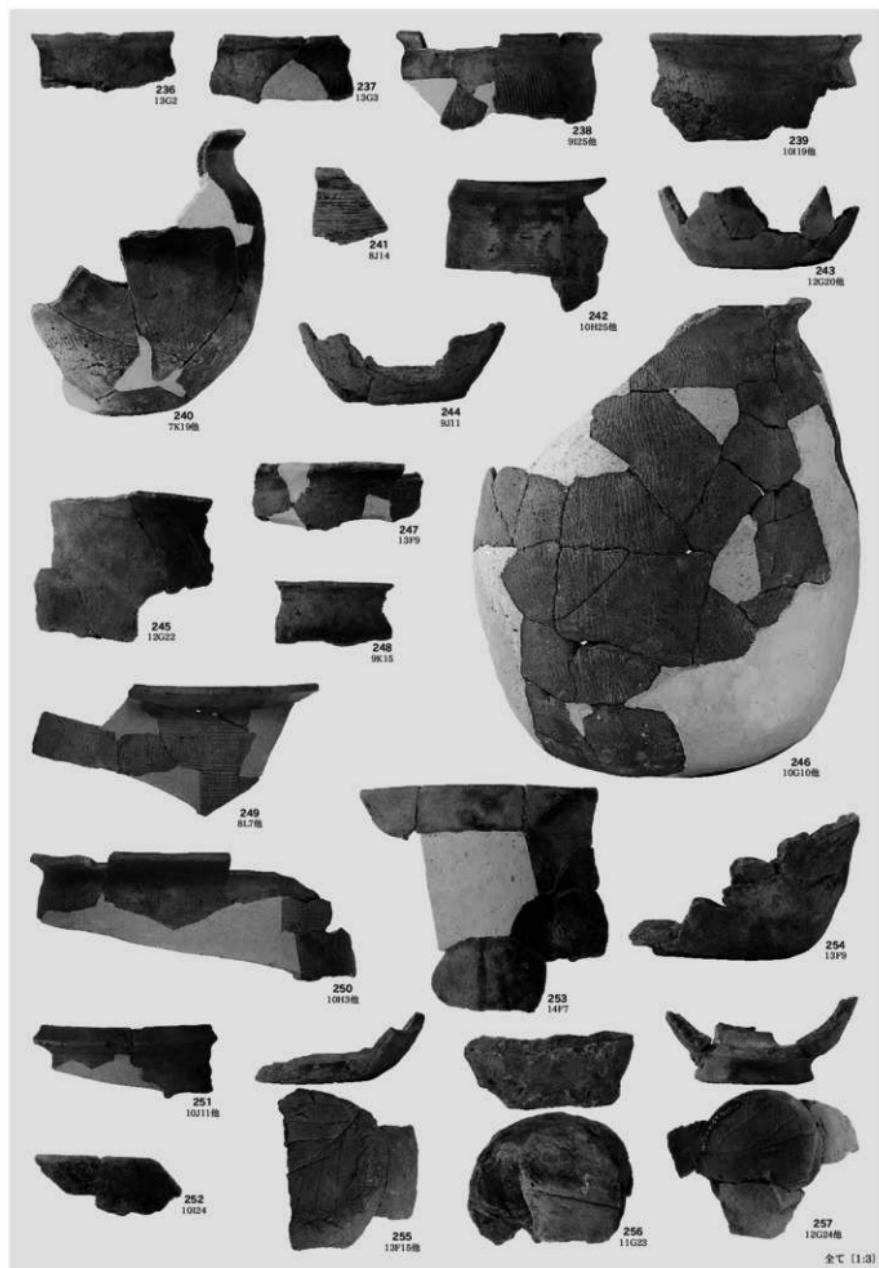


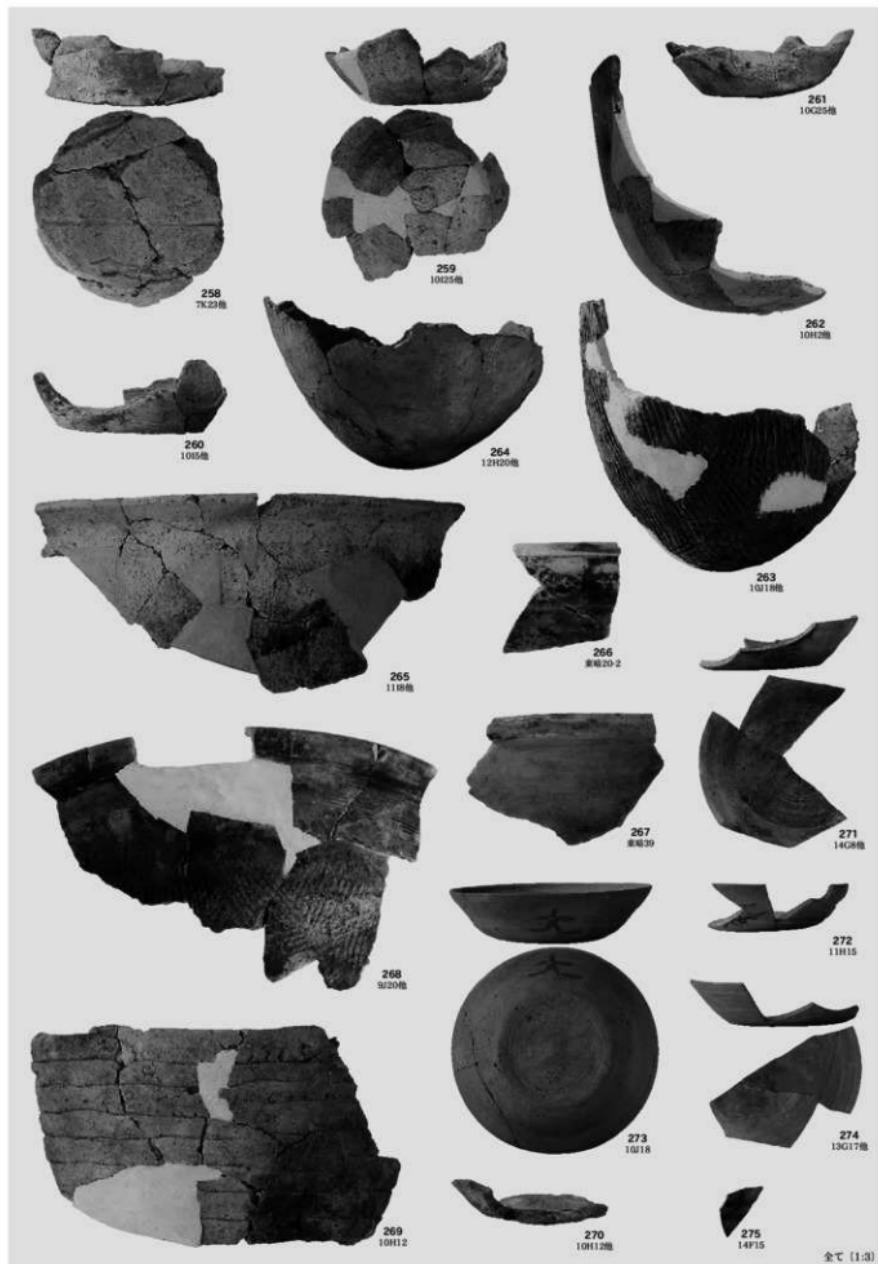


196
13F15195
7K15他196
13G16197
9125他199
13118他

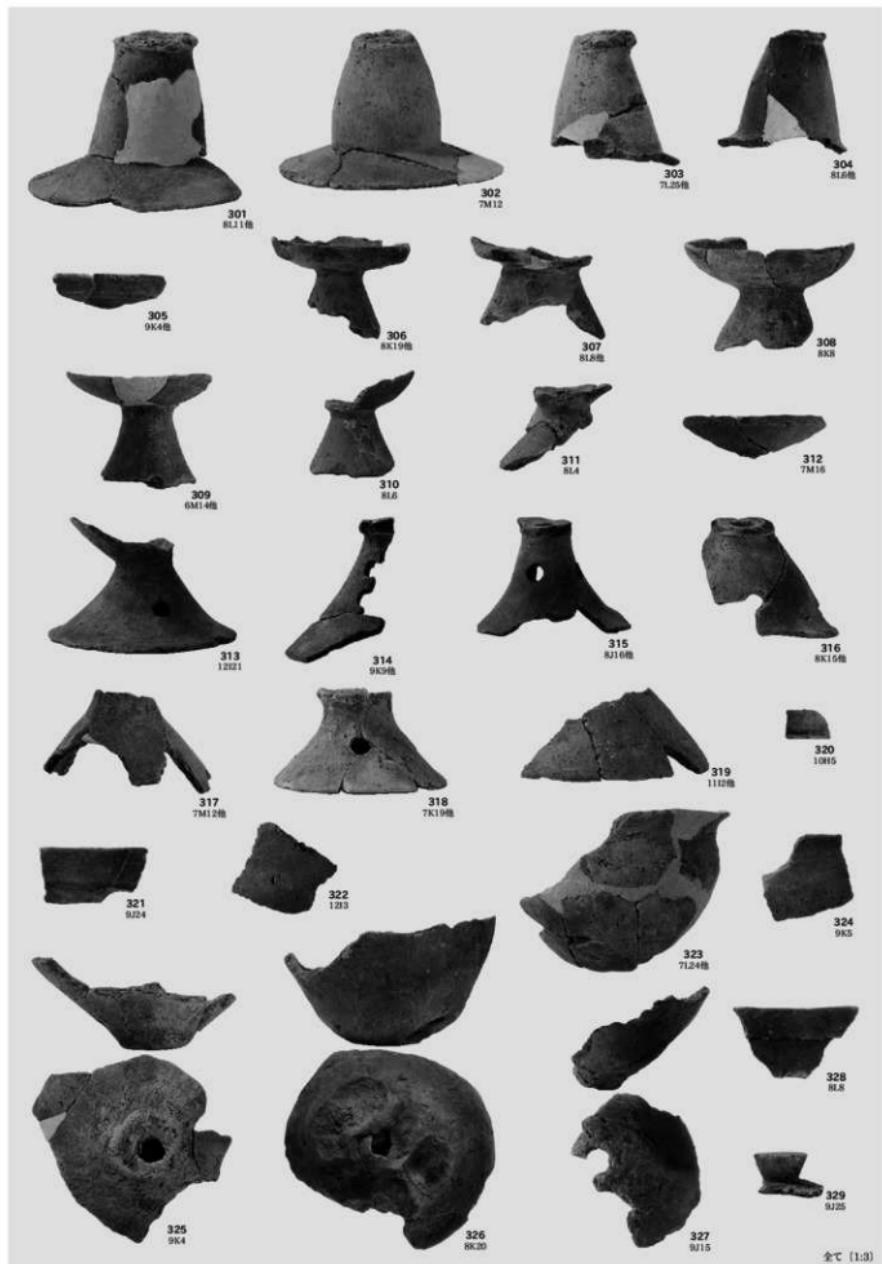
全て (1:4)

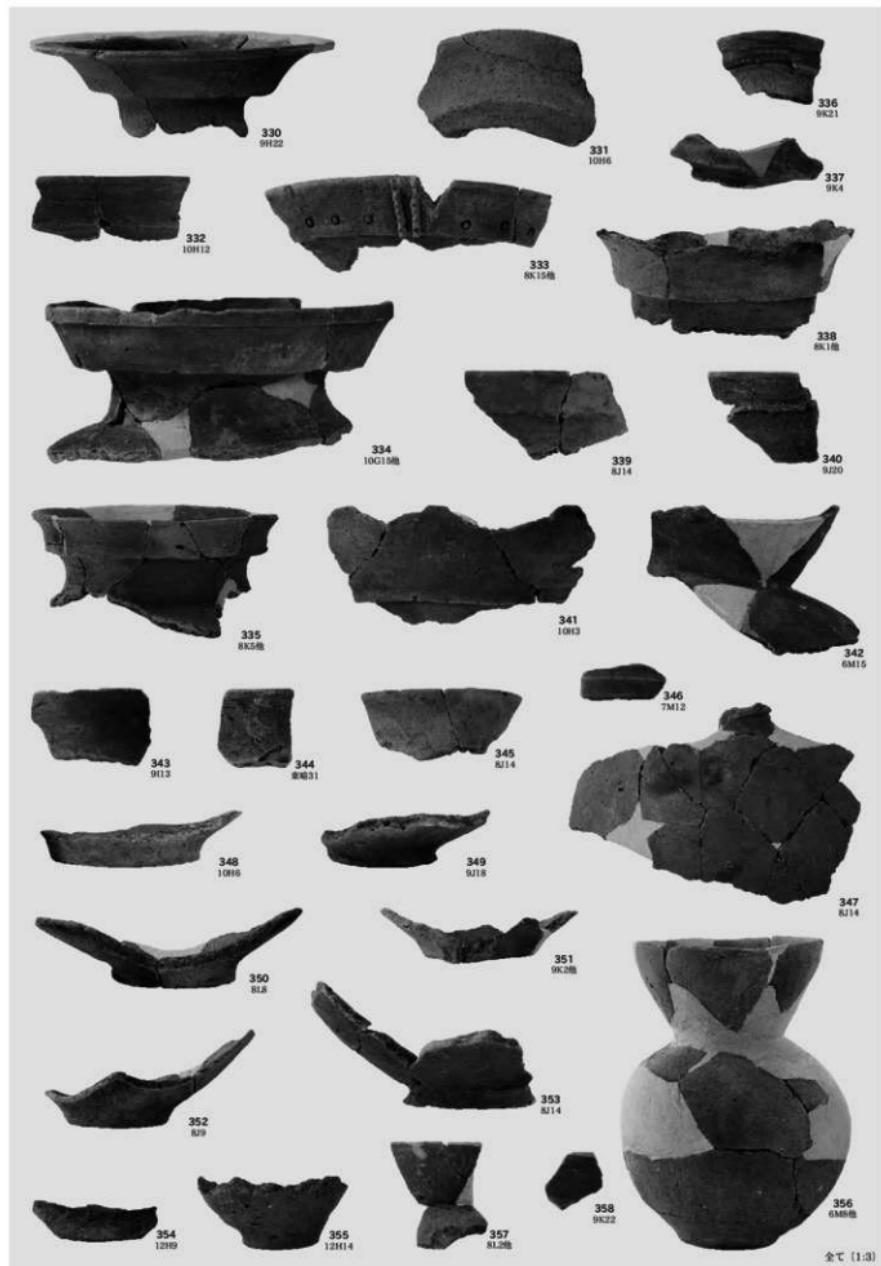


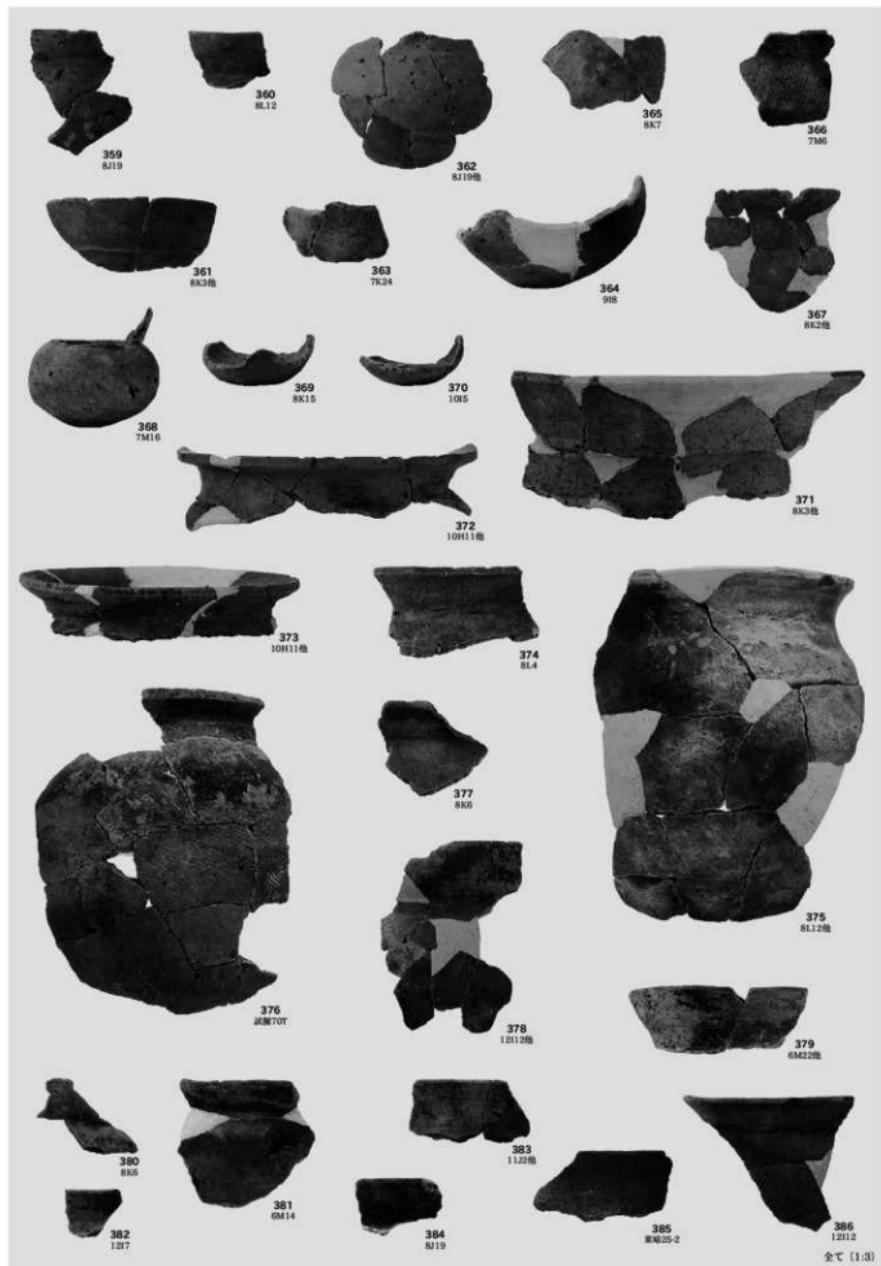


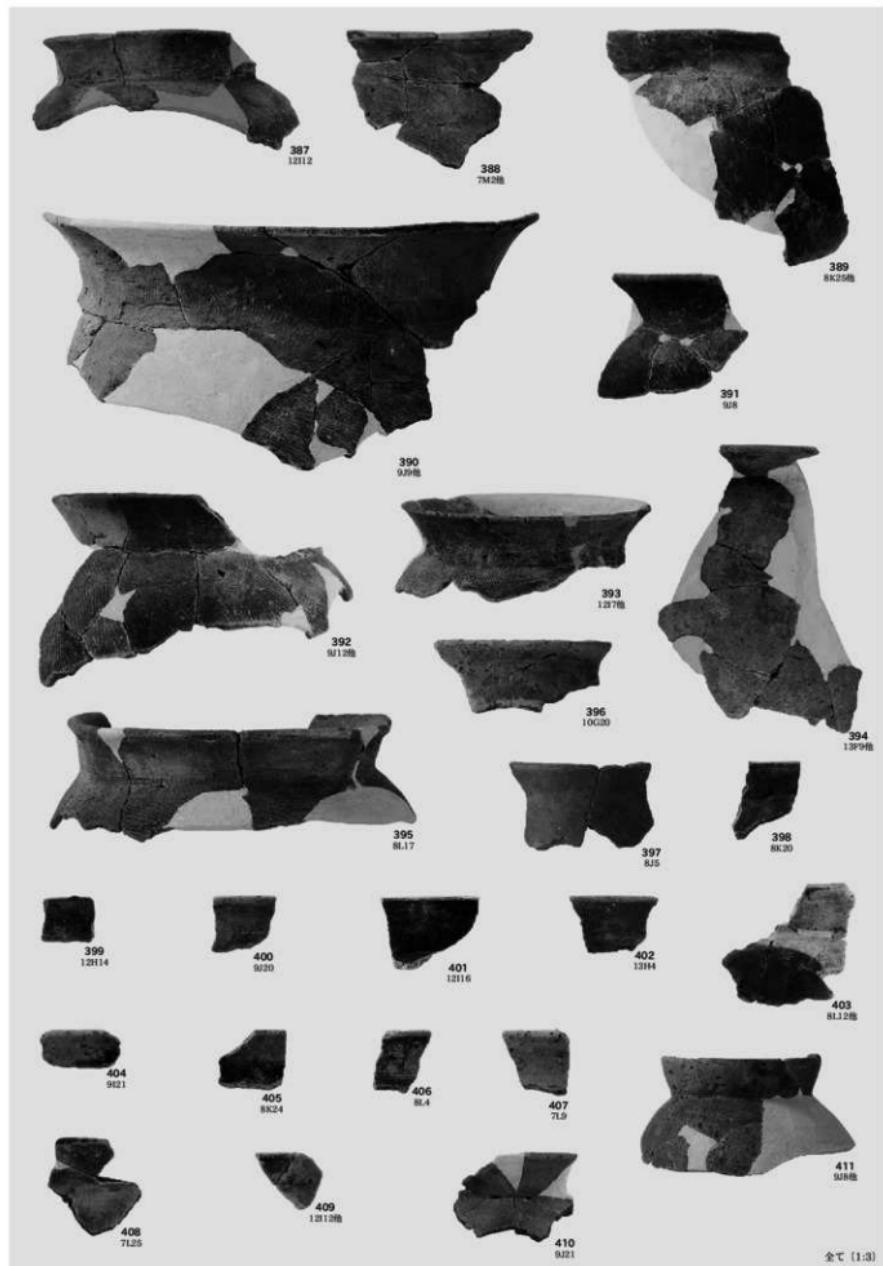


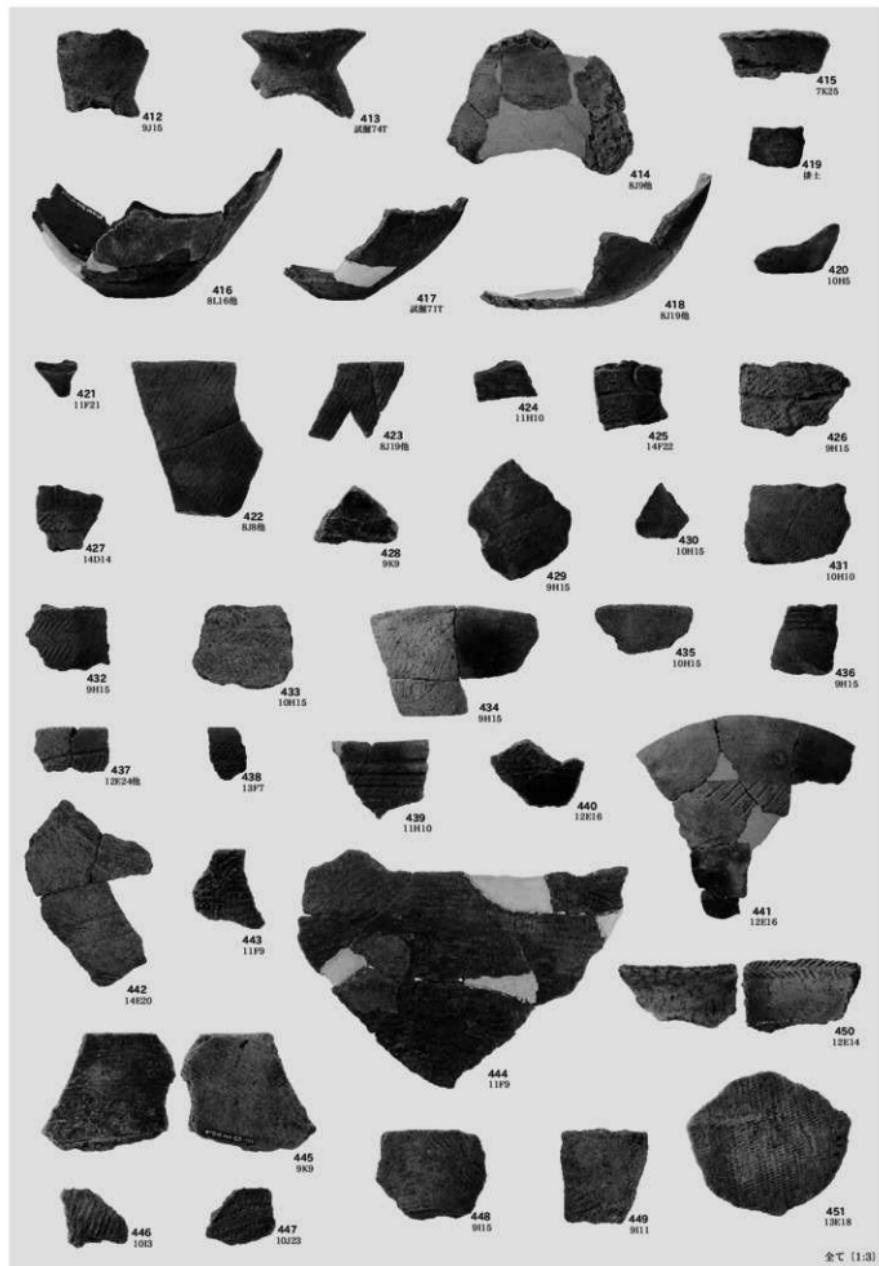


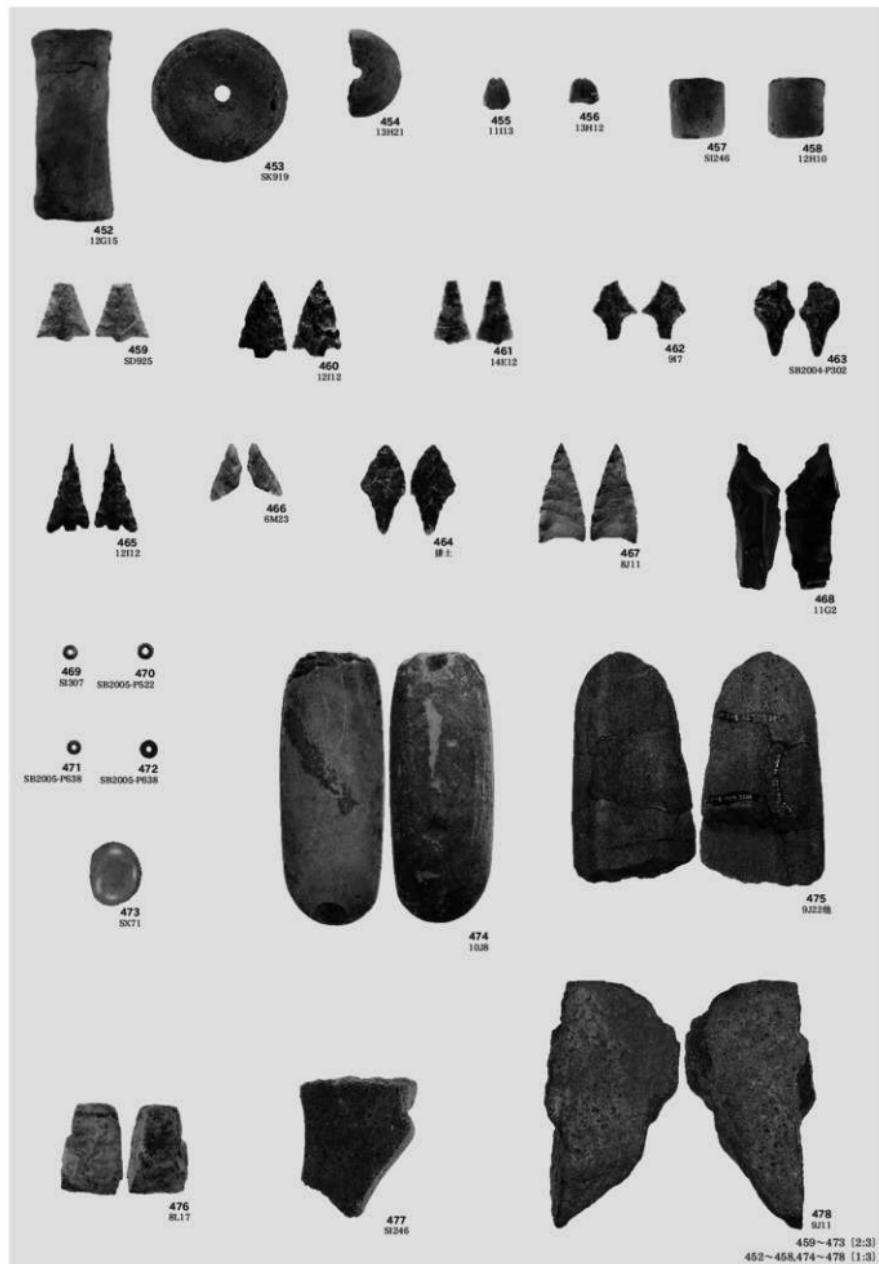


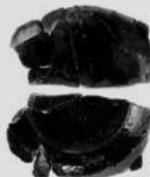
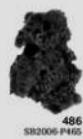




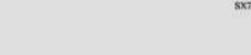
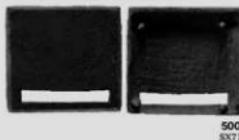
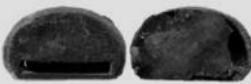
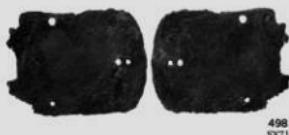








全て [1:3]



報告書抄録

ふりがな	しじっこくいせき　だいにじちょうさ						
書名	四十石遺跡 第2次調査						
副書名	(仮称)新赤堀理立処分地整備工事に伴う四十石遺跡第2次発掘調査報告書						
巻次							
シリーズ名	新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ番号							
編著者名	渡邊ますみ・奈良貴史						
編集機関	新潟市文化観光・スポーツ部文化財センター						
所在地	〒950-1122 新潟市新潟市西区木場 2748番地1 TEL 025-378-0480						
発行年月	西暦 2012年3月30日						
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経	調査期間	調査面積	調査原因
四十石遺跡	新潟県新潟市西区 東山字四十石 123番地1他	151076	737	37°49'42" 54'20"	138°54'20" ~	20090216 20091214	5540.1 m ² 埋立処分地整備 工事に伴う本発 掘調査
所取遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
四十石遺跡	集落遺跡	縄文時代（後期） 弥生時代（前・中・後期）		縄文土器・弥生土器・石器			
		古墳時代（前・中期）	土坑・溝状遺構・性格不明遺構・ピット	土師器（布留甕含む）・石製品（白玉含む）			
		奈良・平安時代（8世紀初頭～9世紀末）	堅穴住居・掘立柱建物・土坑・溝状遺構・埋葬遺構・性格不明遺構・ピット	須恵器・土師器（東北系土器・製塙土器・「津」墨書き土器含む）・黒色土器・土製品・石製品・金属製品（銅製腰帶具・刀子飾り金具）・鍛冶関連遺物（銅系滓含む）・焼人骨			
要約	四十石遺跡は、越後平野のほぼ中央、海岸寄りに位置しており、西方には弥彦山・角田山が控え、東方には西川が流れる。現標高-1.1m以下の埋没砂丘上に立地し、今回の調査で2つ文化層が確認された。上層は奈良・平安時代、下層は縄文時代・弥生時代・古墳時代と捉えられ、断続的ではあるが、内水面という水辺を活かした周辺地域の要所であったことが窺われる。特に、上層では、軸筋を描いた倉庫や焼人骨とともに帶金具がまとまって出土した埋葬施設が検出されており、東北系の土器・銅系滓、「津」墨書き土器の出土と合せて、本遺跡が政治的意図により与えられた機能をもっていた可能性を示唆する。越後平野に展開する原始・古代の様子をみせる遺跡として評価される。						

四十石遺跡 第2次調査

- (仮称)新赤堀理立処分地整備工事に伴う四十石遺跡第2次発掘調査報告書 -

2012年3月29日印刷

2012年3月30日発行

編集 新潟市文化財センター

〒950-1122 新潟市西区木場 2748番地1

TEL 025(378)0480

発行 新潟市教育委員会

〒951-8550 新潟市中央区学校町通一番町 602番地1

TEL 025(228)1000

印刷・製作 株式会社ハイングラフ

〒950-2022 新潟市西区小針1丁目11番8号